高岡市埋蔵文化財調査報告　第24冊

石名瀬A遺跡調査報告

――県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査――

2012年3月
高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査報告　第24冊

石名瀬Ａ遺跡調査報告

――県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査――

2012年3月
高岡市教育委員会

1．人面墨書土器（1821）

2．人面墨書土器（1821）

1．人面墨書土器（1821）

2．人面墨書土器（1822）

1．人面墨書土器（1822）

2．人面墨書土器（1822）

1．人面墨書土器（1823）

2．人面墨書土器（1823）

1．人面墨書土器（1823）

2．人面墨書土器（1824）

人面墨書土器（1824）

序

高岡市域においては、旧石器時代から近世までの341箇所もの遺跡が現在までのところ周知されています。これら多くの遺跡で醸成された文化は、ご先祖から脈々と受け継がれ、現在の高岡市の風土や郷土文化がかたちづくられました。

本市におきましては、長年にわたりこれらの保護を実施して参りました。このたび報告いたしますのは、平成17年度から屋外本発掘調査を実施しました、県道高岡環状線の道路工事にともなう石名瀬A遺跡の発掘調査成果です。

調査の結果、主に弥生時代中期後半から古墳時代前期と、古代の様相が重複する複合遺跡であることが判明しました。前者においては竪穴住居や方形周溝墓が確認され、後者では、掘立柱建物や人面墨書土器を出土した河川跡が検出されるなど、当該地の歴史を語る貴重な資料を得ることができました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

高岡市教育委員会
教育長　氷見　哲正

例　言

1．本書は、高岡市教育委員会が実施した石名瀬Ａ遺跡の本発掘調査の報告書である。
2．当調査は、富山県による県道高岡環状線の建設工事にともない実施したものである。
3．現地調査は平成17年度から20年度までに富山県より委託を受け高岡市が実施し、またこれと並行して室内整理調査を実施し、23年度に報告書の編集・作成作業を行った。
なお、屋外発掘調査と室内整理調査については、民間発掘調査会社へ業務委託契約を締結し実施した。
4．調査関係者は以下のとおりである（高岡市教育委員会文化財課）。

課　　長	笹島千恵子（17～19年度）　東保英則（20年度）　大巻宏治（21～22年度） 高田克宏（23年度）
総括専門員	大村友則（21年度）　高田克宏（22年度）
主　　幹	本林弘吉（17～19年度）　岡山哲朗（20年度）　中野由美子（22～23年度）
副 主 幹	山口辰一（17～21年度）
主　　査	根津明義（21～23年度）
主　　任	栗山雅夫（17～21年度）　※17年11月1日の市町村合併による。
事 務 員	田上和彦（23年度）
嘱託職員	田上和彦　道振弘明（22年度） 阿原智子　江口雅子　千田友子　宮野美重子（23年度）

5．屋外発掘調査のすべてと室内整理調査の多くは山口が担当し、同人の急逝により21年度末より担当を根津が引き継いだ。報告書の編集・作成については23年度において根津・田上の補佐のもと、阿原が主体的に実施した。
なお、22年度までは高岡市職員が監督員となり民間発掘調査会社に業務委託を実施した。23年度においては市直営にて報告書の編集及び作成を行った。
本書の執筆は根津・田上・阿原が行った。文責は下記のとおりである。
第１章・第２章・第４章は根津が執筆した。
第３章　第１～５節・第７節は主に阿原が執筆した。第３章　第６節・第８節・第９節は主に根津が執筆した。
各遺物の記述に関しては、弥生・土師器は阿原が、玉作関連遺物・石器は田上が、古代土師器・須恵器・その他の遺物、木製品は根津が執筆した。
6．発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会で一括保管している。

凡　例

1．遺構等の記号は以下のとおりである。
ＳＡ：柵址　ＳＢ：掘立柱建物址　ＳＤ：溝　ＳＩ：竪穴建物址　ＳＫ：土坑　Ｐ：ピット
ＳＵ：畝状遺構　ＳＺ：方形周溝墓　ＳＸ：その他の遺構（護岸施設・窪地）
2．遺物実測図の縮尺は1/3を基本とするが、異なるものはその縮尺を当該図周辺に付記した。
3．遺構図面の縮尺については、1/80を基本としながらも、遺構の規格により適宜縮尺を変更し同図に明記した。

高岡市埋蔵文化財調査報告　第24冊
石名瀬Ａ遺跡調査報告

目　　次

序　文
例　言
凡　例
目　次

第１章　周辺地域の概要等
第１節　周辺の環境 ……（根津）1
第２節　石名瀬Ａ遺跡の概要……（根津）1

第２章　調査にいたる経緯・経過……（根津）4

第３章　調査の成果
第１節　１区の遺構と遺物……（阿原）5
第２節　２区・２ｂ区・３区の遺構と遺物 ……（阿原）5
第３節　４区の遺構と遺物……（阿原・根津・田上）7
第４節　５区の遺構と遺物……（阿原・田上）15
第５節　６区の遺構と遺物……（阿原・根津・田上）18
第６節　７区・７ｂ区の遺構と遺物……（根津・阿原・田上）26
第７節　８区の遺構と遺物……（阿原・根津）29
第８節　９区・10区・11区の遺構と遺物 ……（根津・阿原）32
第９節　12区の遺構と遺物……（根津・阿原）40

第４章　まとめ ……（根津）42

巻頭図版目次

巻頭図版 01　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　１．人面墨書土器（1821）
　　２．人面墨書土器（1821）
巻頭図版 02　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　１．人面墨書土器（1821）
　　２．人面墨書土器（1822）
巻頭図版 03　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　１．人面墨書土器（1822）
　　２．人面墨書土器（1822）
巻頭図版 04　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　１．人面墨書土器（1823）
　　２．人面墨書土器（1823）
巻頭図版 05　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　１．人面墨書土器（1823）
　　２．人面墨書土器（1824）
巻頭図版 06　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　人面墨書土器（1824）

図面目次

図面 001　遺構実測図　１区～ 12区 遺構全体図（1 ／ 2000）
図面 002　遺構実測図　１区 遺構全体図（1 ／ 400）
図面 003　遺構実測図　１区 溝 SD001 実測図〔1〕（1 ／ 200、1 ／ 100）
図面 004　遺構実測図　１区 溝 SD001 実測図〔2〕（1 ／ 200、1 ／ 100）
図面 005　遺構実測図　１区 溝 SD002 実測図〔1〕（1 ／ 100）
図面 006　遺構実測図　１区 溝 SD002 実測図〔2〕（1 ／ 100）
図面 007　遺構実測図　２区・２ｂ区 遺構全体図（1 ／ 400）
図面 008　遺構実測図　２区 溝 SD001・SD002 実測図〔1〕（1 ／ 200、1 ／ 100）
図面 009　遺構実測図　２区 溝 SD001・SD002 実測図〔2〕（1 ／ 200、1 ／ 100）
図面 010　遺構実測図　２区 土坑 SK001 ～ SK010 実測図（1 ／ 80）
図面 011　遺構実測図　２区 土坑 SK011・SK012、溝 SD003 実測図（1 ／ 80、1 ／ 100）
図面 012　遺構実測図　２ｂ区 溝 SD001 実測図（1 ／ 20、1 ／ 100、1 ／ 200）
図面 013　遺構実測図　２ｂ区 溝 SD002 ～ SD004 実測図（1 ／ 80）
図面 014　遺構実測図　２ｂ区 溝 SD005 ～ SD007、土坑 SK001 ～ SK003 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 015　遺構実測図　１区・２区・２ｂ区 河川範囲変遷図（1 ／ 1500）
図面 016　遺構実測図　３区 遺構全体図（1 ／ 400）
図面 017　遺構実測図　３区 溝 SD001・SD002 実測図（1 ／ 80）
図面 018　遺構実測図　４区 上層遺構全体図（1 ／ 400）
図面 019　遺構実測図　４区 下層遺構北側全体図（1 ／ 400）
図面 020　遺構実測図　４区 下層遺構南側全体図（1 ／ 400）
図面 021　遺構実測図　４区 掘立柱建物址 SB001 実測図（1 ／ 80）
図面 022　遺構実測図　４区 掘立柱建物址 SB002・SB003 実測図（1 ／ 80）

図面 023　遺構実測図　4 区 掘立柱建物址 SB004 実測図（1 ／ 80）
図面 024　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI001 実測図（1 ／ 80）
図面 025　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI002 実測図（1 ／ 80）
図面 026　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI003 実測図（1 ／ 80）
図面 027　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI005 実測図（1 ／ 80）
図面 028　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI005・SI004 実測図（1 ／ 80）
図面 029　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI006 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 030　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI007 実測図（1 ／ 80）
図面 031　遺構実測図　4 区 竪穴建物址 SI007 溝断面図、炭化物範囲実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 032　遺構実測図　4 区 土坑 SK001・SK003・SK004 実測図（1 ／ 80）
図面 033　遺構実測図　4 区 土坑 SK013・SK029・SK080 実測図（1 ／ 80）
図面 034　遺構実測図　4 区 溝 SD004 実測図（1 ／ 100、1 ／ 200）
図面 035　遺構実測図　4 区 溝 SD004 遺物出土位置図〔1〕（1 ／ 10、1 ／ 100）
図面 036　遺構実測図　4 区 溝 SD004 遺物出土位置図〔2〕（1 ／ 10、1 ／ 100）
図面 037　遺構実測図　4 区 溝 SD009 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 038　遺構実測図　5 区 上層遺構全体図（1 ／ 400）
図面 039　遺構実測図　5 区 下層遺構全体図（1 ／ 400）
図面 040　遺構実測図　5 区 掘立柱建物址 SB001 実測図（1 ／ 80）
図面 041　遺構実測図　5 区 土坑 SK001・SK002・SK004・SK013・SK016 実測図（1 ／ 80）
図面 042　遺構実測図　5 区 溝 SD003 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 043　遺構実測図　6 区 上層遺構全体図（1 ／ 400）
図面 044　遺構実測図　6 区 下層遺構全体図（1 ／ 400）
図面 045　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB601 実測図（1 ／ 40）
図面 046　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB602・SB610 実測図（1 ／ 80）
図面 047　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB602・SB610 柱穴断面図（1 ／ 40）
図面 048　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB603・SB604 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 049　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB605・SB606 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 050　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB607・SB608 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 051　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB609 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 052　遺構実測図　6 区 掘立柱建物址 SB611 実測図（1 ／ 80）
図面 053　遺構実測図　6 区 周溝状遺構実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 054　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI701 実測図（1 ／ 80）
図面 055　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI701 断面図（1 ／ 40）
図面 056　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI702 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 057　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI703 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 058　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI706 実測図（1 ／ 100、1 ／ 40）
図面 059　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI706 断面図（1 ／ 40）
図面 060　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 実測図（1 ／ 160、1 ／ 40）
図面 061　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 断面図〔1〕（1 ／ 40）
図面 062　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 断面図〔2〕（1 ／ 40）
図面 063　遺構実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 断面図〔3〕（1 ／ 40）

図面 064　遺構実測図　6 区 土坑 SK307・SK308・SK345 実測図（1 ／ 40）
図面 065　遺構実測図　6 区 土坑 SK309・SK311 実測図（1 ／ 40）
図面 066　遺構実測図　6 区 土坑 SK314・SK315・SK318 実測図（1 ／ 40）
図面 067　遺構実測図　6 区 土坑 SK316・SK334 実測図（1 ／ 40）
図面 068　遺構実測図　4 区・5 区・6 区 上層畝状遺構全体図（1 ／ 1500）
図面 069　遺構実測図　7 区・7 b 区 遺構全体図（1 ／ 400）
図面 070　遺構実測図　7 区 土坑 SK310、溝 SD201 実測図（1 ／ 40、1 ／ 20、1 ／ 200）
図面 071　遺構実測図　7 b 区 掘立柱建物址 SB601・SB602 実測図（1 ／ 80）
図面 072　遺構実測図　8 区 遺構全体図（1 ／ 400）
図面 073　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ301 実測図（1 ／ 100、1 ／ 40、1 ／ 60）
図面 074　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ302 実測図（1 ／ 100）
図面 075　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ302 土器出土状況図（1 ／ 40、1 ／ 60）
図面 076　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ303 実測図（1 ／ 100）
図面 077　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ304・SZ305 実測図（1 ／ 100、1 ／ 60）
図面 078　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ306・SZ307 実測図（1 ／ 100、1 ／ 60）
図面 079　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ308・SZ309 実測図（1 ／ 100、1 ／ 60）
図面 080　遺構実測図　8 区 方形周溝墓 SZ310・SZ311 実測図（1 ／ 100、1 ／ 60、1 ／ 40）
図面 081　遺構実測図　9 区 遺構全体図（1 ／ 400）
図面 082　遺構実測図　9 区 溝 SD001・SD003・SD009 実測図（1 ／ 100）
図面 083　遺構実測図　9 区 溝 SD001・SD003・SD004、護岸施設 SX101 実測図（1 ／ 40、1 ／ 100）
図面 084　遺構実測図　10区 遺構全体図（1 ／ 600）
図面 085　遺構実測図　10区 柵址 SA001・P011 実測図（1 ／ 80、1 ／ 40）
図面 086　遺構実測図　10区 溝 SD010・SD011、窪地 SX001 実測図（1 ／ 500、1 ／ 100）
図面 087　遺構実測図　10区 溝 SD011、窪地 SX001 遺物分布図（1 ／ 200）
図面 088　遺構実測図　11区 遺構全体図（1 ／ 600）
図面 089　遺構実測図　11区 溝 SD011 遺物分布図（1 ／ 80）
図面 090　遺構実測図　11区 窪地 SX001 実測図（1 ／ 100、1 ／ 80）
図面 091　遺構実測図　12区 遺構全体図（1 ／ 600）
図面 092　遺構実測図　12区 溝 SD039 実測図（1 ／ 2000、1 ／ 200、1 ／ 60）
図面 093　遺物実測図　2 区・2 b 区 出土遺物（1 ／ 3）
図面 094　遺物実測図　2 b 区・3 区 出土遺物（1 ／ 3）
図面 095　遺物実測図　3 区・4 区 出土円盤状土製品（1 ／ 2）
図面 096　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI001 ～ SI003 出土遺物（1 ／ 3）
図面 097　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI003 ～ SI005 出土遺物（1 ／ 3）
図面 098　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI005 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 099　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI005 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 100　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI005・SI006 出土遺物（1 ／ 3）
図面 101　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI007 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 102　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI007 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 103　遺物実測図　4 区 竪穴建物址 SI007 出土遺物〔3〕（1 ／ 3）
図面 104　遺物実測図　4 区 土坑 SK001・SK002 出土遺物（1 ／ 3）

図面 105　遺物実測図　4 区 土坑 SK002・SK003 出土遺物（1 ／ 3）
図面 106　遺物実測図　4 区 土坑 SK004 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 107　遺物実測図　4 区 土坑 SK004 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 108　遺物実測図　4 区 土坑 SK005 ～ SK007 出土遺物（1 ／ 3）
図面 109　遺物実測図　4 区 土坑 SK008・SK009・SK011・SK013 出土遺物（1 ／ 3）
図面 110　遺物実測図　4 区 土坑 SK013・SK014 出土遺物（1 ／ 3）
図面 111　遺物実測図　4 区 土坑 SK014・SK016・SK017・SK022・SK023 出土遺物（1 ／ 3）
図面 112　遺物実測図　4 区 土坑 SK026 出土遺物（1 ／ 3）
図面 113　遺物実測図　4 区 土坑 SK027・SK030 出土遺物（1 ／ 3）
図面 114　遺物実測図　4 区 土坑 SK031・SK033・SK035 出土遺物（1 ／ 3）
図面 115　遺物実測図　4 区 土坑 SK035・SK036 出土遺物（1 ／ 3）
図面 116　遺物実測図　4 区 土坑 SK036 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 117　遺物実測図　4 区 土坑 SK036 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 118　遺物実測図　4 区 土坑 SK036・SK040 出土遺物（1 ／ 3）
図面 119　遺物実測図　4 区 土坑 SK040 出土遺物（1 ／ 3）
図面 120　遺物実測図　4 区 土坑 SK041 出土遺物（1 ／ 3）
図面 121　遺物実測図　4 区 土坑 SK041 ～ SK043 出土遺物（1 ／ 3）
図面 122　遺物実測図　4 区 土坑 SK044・SK047・SK048・SK050・SK051・SK053 出土遺物（1 ／ 3）
図面 123　遺物実測図　4 区 土坑 SK053・SK054 出土遺物（1 ／ 3）
図面 124　遺物実測図　4 区 土坑 SK057 ～ SK059 出土遺物（1 ／ 3）
図面 125　遺物実測図　4 区 土坑 SK060 ～ SK063・SK066 出土遺物（1 ／ 3）
図面 126　遺物実測図　4 区 土坑 SK067 ～ SK069 出土遺物（1 ／ 3）
図面 127　遺物実測図　4 区 土坑 SK072・SK075・SK079・SK080 出土遺物（1 ／ 3）
図面 128　遺物実測図　4 区 土坑 SK080・SK091・SK092・SK099 出土遺物（1 ／ 3）
図面 129　遺物実測図　4 区 溝 SD001 ～ SD003 出土遺物（1 ／ 3）
図面 130　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 131　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 132　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔3〕（1 ／ 3）
図面 133　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔4〕（1 ／ 3）
図面 134　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔5〕（1 ／ 3）
図面 135　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔6〕（1 ／ 3）
図面 136　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔7〕（1 ／ 3）
図面 137　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔8〕（1 ／ 3）
図面 138　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔9〕（1 ／ 3）
図面 139　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔10〕（1 ／ 3）
図面 140　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔11〕（1 ／ 3）
図面 141　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔12〕（1 ／ 3）
図面 142　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔13〕（1 ／ 3）
図面 143　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔14〕（1 ／ 3）
図面 144　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔15〕（1 ／ 3）
図面 145　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔16〕（1 ／ 3）

図面 146　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔17〕（1 ／ 3）
図面 147　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔18〕（1 ／ 3）
図面 148　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔19〕（1 ／ 3）
図面 149　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土遺物〔20〕（1 ／ 3）
図面 150　遺物実測図　4 区 溝 SD006・SD009 出土遺物（1 ／ 3）
図面 151　遺物実測図　4 区 溝 SD009 ～ SD011・SD015・SD017・SD018・SD021 出土遺物（1 ／ 3）
図面 152　遺物実測図　4 区 溝 SD021 出土遺物（1 ／ 3）
図面 153　遺物実測図　4 区 溝 SD023 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 154　遺物実測図　4 区 溝 SD023 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 155　遺物実測図　4 区 畝状遺構 SU 出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 156　遺物実測図　4 区 畝状遺構 SU 出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 157　遺物実測図　4 区 畝状遺構 SU 出土遺物〔3〕（1 ／ 3）
図面 158　遺物実測図　4 区 畝状遺構 SU 出土遺物〔4〕（1 ／ 3）
図面 159　遺物実測図　4 区 P 出土遺物（1 ／ 3）
図面 160　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 161　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 162　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔3〕（1 ／ 3）
図面 163　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔4〕（1 ／ 3）
図面 164　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔5〕（1 ／ 3）
図面 165　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔6〕（1 ／ 3）
図面 166　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔7〕（1 ／ 3）
図面 167　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔8〕（1 ／ 3）
図面 168　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔9〕（1 ／ 3）
図面 169　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔10〕（1 ／ 3）
図面 170　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔11〕（1 ／ 3）
図面 171　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔12〕（1 ／ 3）
図面 172　遺物実測図　4 区 遺構外出土遺物〔13〕（1 ／ 3）
図面 173　遺物実測図　4 区 玉作関連出土遺物〔1〕（2 ／ 3）
図面 174　遺物実測図　4 区 玉作関連出土遺物〔2〕（2 ／ 3、1 ／ 1）
図面 175　遺物実測図　4 区 玉作関連出土遺物、遺構内出土石器（1 ／ 1、1 ／ 2、1 ／ 3）
図面 176　遺物実測図　4 区 溝 SD004、遺構外出土石器（1 ／ 3）
図面 177　遺物実測図　4 区 溝 SD004 出土木製品（1 ／ 6）
図面 178　遺物実測図　5 区 土坑 SK008 ～ SK011、P573 出土遺物（1 ／ 3）
図面 179　遺物実測図　5 区 土坑 SK002・SK013・SK016・SK018、P574、溝 SD003 出土遺物（1 ／ 3）
図面 180　遺物実測図　5 区 溝 SD003 出土遺物（1 ／ 3）
図面 181　遺物実測図　5 区 畝状遺構 SU、遺構外出土遺物（1 ／ 3）
図面 182　遺物実測図　5 区 遺構外出土遺物（1 ／ 3）
図面 183　遺物実測図　5 区 玉作関連出土遺物、石器（1 ／ 3、2 ／ 3、1 ／ 1、1 ／ 2）
図面 184　遺物実測図　6 区 周溝状遺構出土遺物〔1〕（1 ／ 3）
図面 185　遺物実測図　6 区 周溝状遺構出土遺物〔2〕（1 ／ 3）
図面 186　遺物実測図　6 区 竪穴建物址 SI701 ～ SI703・SI706・SI707 出土遺物（1 ／ 3）

図面 187　遺物実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 周溝（SX406・SX407）出土遺物（1／3）
図面 188　遺物実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 周溝（SD231）出土遺物（1／3）
図面 189　遺物実測図　6 区 竪穴建物址 SI707 周溝(SD231･SD232)、掘立柱建物址 SB611 出土遺物(1／3)
図面 190　遺物実測図　6 区 土坑 SK308・SK309・SK311 出土遺物（1／3）
図面 191　遺物実測図　6 区 土坑 SK304・SK307・SK311・SK322・SK330・SK345、
溝 SD201・SD204、畝状遺構 SU 出土遺物（1／3）
図面 192　遺物実測図　6 区 畝状遺構 SU、遺構外出土土器、その他出土遺物（1／3、1／2、1／1）
図面 193　遺物実測図　7 区・7 b 区 出土遺物（1／3、1／2、1／1）
図面 194　遺物実測図　7 区 出土石器、8 区 方形周溝墓 SZ301・SZ302 出土遺物（1／3）
図面 195　遺物実測図　8 区 方形周溝墓 SZ302・SZ303・SZ311、遺構外出土遺物（1／3）
図面 196　遺物実測図　9 区 溝 SD001 出土遺物（1／3）
図面 197　遺物実測図　9 区 溝 SD001・SD003 出土遺物（1／3）
図面 198　遺物実測図　9 区・10 区・10b 区・11 区 出土人面墨書土器、9 区 出土石器（1／3）
図面 199　遺物実測図　10区 出土遺物（1／3）
図面 200　遺物実測図　10区・11区 出土遺物（1／3）
図面 201　遺物実測図　10区・11区・12区 出土遺物（1／3、1／6、1／1、1／2）

図　版　目　次

図版 001　遺構写真　1 区　1．調査地区全景（南東）
2．調査地区全景（真上）
図版 002　遺構写真　1 区　1．溝 SD001 土層断面 1（北）
2．溝 SD001 土層断面 2（北）
図版 003　遺構写真　2 区　1．調査地区全景（南）
2．調査地区全景（真上）
図版 004　遺構写真　2 区　1．土坑 SK001・SK002 完掘（北西）
2．土坑 SK003 完掘（北）
3．土坑 SK004 完掘（北）
図版 005　遺構写真　2 区　1．土坑 SK005 完掘（北）
2．土坑 SK006 完掘（北）
3．土坑 SK007 完掘（北）
図版 006　遺構写真　2 区　1．土坑 SK008 完掘（北）
2．土坑 SK011 完掘（北）
3．土坑 SK012 完掘（北）
図版 007　遺構写真　2 区　1．溝 SD003 検出状況（南東）
2．溝 SD003 遺物出土状況（北北西）
図版 008　遺構写真　2 区　1．土坑 SK008 検出時遺物出土状況
2．検出時遺物出土状況 1（南）
3．検出時遺物出土状況 2（北東）
図版 009　遺構写真　2 b 区　1．調査地区全景（南）

			2．調査地区全景（真上）
図版 010	遺構写真	2ｂ区	1．調査地区北側全景（南）
			2．土坑 SK001 完掘（西）
図版 011	遺構写真	2ｂ区	1．土坑 SK002 完掘（南）
			2．土坑 SK003 完掘（南）
図版 012	遺構写真	2ｂ区	1．溝 SD003 護岸施設（西）
			2．溝 SD003、土坑 SK002 完掘（南）
図版 013	遺構写真	2ｂ区	1．溝 SD004 完掘（南東）
			2．溝 SD001 トレンチ 2 遺物出土状況（北）
			3．溝 SD001 トレンチ 3 遺物出土状況（直上）
図版 014	遺構写真	3区	1．調査地区全景（真上）
			2．溝 SD001 完掘（北東）
図版 015	遺構写真	4区	1．調査地区全景（南）
			2．調査地区全景（真上）
図版 016	遺構写真	4区	1．掘立柱建物址 SB001 完掘（北東）
			2．掘立柱建物址 SB003 完掘（東北東）
			3．掘立柱建物址 SB004 完掘（西）
図版 017	遺構写真	4区	1．掘立柱建物址 SB004　P1-2 木柱（北）
			2．掘立柱建物址 SB004　P2-1 木柱（西）
			3．掘立柱建物址 SB004　P3-1 木柱（西）
図版 018	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI001 完掘（北）
			2．竪穴建物址 SI001 内土坑 SK001 完掘（南東）
			3．竪穴建物址 SI002 完掘（北）
図版 019	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI005 完掘（北）
			2．竪穴建物址 SI005 P-2 礎板出土状況（北東）
			3．竪穴建物址 SI005 P-4 礎板出土状況（北西）
図版 020	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI006 全景（真上）
			2．竪穴建物址 SI006 P-2 礎板出土状況（北）
			3．竪穴建物址 SI006 P-3 礎板出土状況（北東）
図版 021	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI001・SI002・SI005・SI006 完掘全景（真上）
			2．竪穴建物址 SI007 全景（真上）
図版 022	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI007 炭化物出土状況（南東）
			2．竪穴建物址 SI007 完掘（南西）
図版 023	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI007 南側溝遺物出土状況（南東）
			2．竪穴建物址 SI007 東側溝遺物出土状況（西）
			3．竪穴建物址 SI004 完掘（北西）
図版 024	遺構写真	4区	1．竪穴建物址 SI003 完掘（北）
			2．竪穴建物址 SI003 遺物出土状況 1（南）
			3．竪穴建物址 SI003 遺物出土状況 2（北東）
図版 025	遺構写真	4区	1．土坑 SK001 完掘（東）
			2．土坑 SK003 遺物出土状況（南）

			3．土坑 SK003 完掘（北東）
図版 026	遺構写真	4 区	1．土坑 SK002 完掘（東南東）
			2．土坑 SK004 遺物出土状況（東）
			3．土坑 SK004 完掘（南西）
図版 027	遺構写真	4 区	1．土坑 SK005 完掘（南東）
			2．土坑 SK006 完掘（東）
			3．土坑 SK008 完掘（北西）
図版 028	遺構写真	4 区	1．土坑 SK009 完掘（南東）
			2．土坑 SK010 完掘（西南西）
			3．土坑 SK011 完掘（南東）
図版 029	遺構写真	4 区	1．土坑 SK012 完掘（南西）
			2．土坑 SK014 遺物出土状況（南西）
			3．土坑 SK014 完掘（東）
図版 030	遺構写真	4 区	1．土坑 SK013 完掘（北西）
			2．土坑 SK017 完掘（北東）
			3．土坑 SK019 完掘（北東）
図版 031	遺構写真	4 区	1．土坑 SK021 完掘（南）
			2．土坑 SK023 遺物出土状況（北）
			3．土坑 SK023 完掘（北西）
図版 032	遺構写真	4 区	1．土坑 SK022 完掘（北西）
			2．土坑 SK024 完掘（西）
			3．土坑 SK025 完掘（南東）
図版 033	遺構写真	4 区	1．土坑 SK026 完掘（東）
			2．土坑 SK027 完掘（北北東）
			3．土坑 SK028 完掘（南東）
図版 034	遺構写真	4 区	1．土坑 SK029 完掘（南東）
			2．土坑 SK030 完掘（西）
			3．土坑 SK031 完掘（北西）
図版 035	遺構写真	4 区	1．土坑 SK032 完掘（南東）
			2．土坑 SK033 完掘（北西）
			3．土坑 SK034 完掘（南）
図版 036	遺構写真	4 区	1．土坑 SK035・SK036 完掘（北東）
			2．土坑 SK036 遺物出土状況（北）
			3．土坑 SK039 完掘（南）
図版 037	遺構写真	4 区	1．土坑 SK040 完掘（南）
			2．土坑 SK041 完掘（南西）
			3．土坑 SK042 完掘（東）
図版 038	遺構写真	4 区	1．土坑 SK043・SK044 完掘（南西）
			2．土坑 SK044 完掘（北）
			3．土坑 SK045 完掘（西）
図版 039	遺構写真	4 区	1．土坑 SK047・SK048 遺物出土状況（南東）

			2．土坑 SK047・SK048 完掘（南東）
			3．土坑 SK049 完掘（南）
図版 040	遺構写真	4 区	1．土坑 SK050 完掘（南東）
			2．土坑 SK051 遺物出土状況（南東）
			3．土坑 SK051 完掘（南）
図版 041	遺構写真	4 区	1．土坑 SK050・SK051 完掘（西）
			2．土坑 SK052 完掘（北）
			3．土坑 SK053 完掘（北）
図版 042	遺構写真	4 区	1．土坑 SK054 完掘（西）
			2．土坑 SK057・SK058 完掘（南）
			3．土坑 SK059 完掘（東）
図版 043	遺構写真	4 区	1．土坑 SK059 遺物出土状況（南東）
			2．土坑 SK065 完掘（北）
			3．土坑 SK066 完掘（北）
図版 044	遺構写真	4 区	1．土坑 SK066・SK067、溝 SD018 完掘（東）
			2．土坑 SK067 遺物出土状況（北東）
			3．土坑 SK067 遺物出土状況（北）
図版 045	遺構写真	4 区	1．土坑 SK068 完掘（北西）
			2．土坑 SK069 完掘（北東）
			3．土坑 SK075 完掘（南東）
図版 046	遺構写真	4 区	1．土坑 SK076 完掘（北東）
			2．土坑 SK077 完掘（北東）
			3．土坑 SK078 完掘（南）
図版 047	遺構写真	4 区	1．土坑 SK079 完掘（南東）
			2．土坑 SK080 土層断面 1（東）
			3．土坑 SK080 土層断面 2（東）
図版 048	遺構写真	4 区	1．土坑 SK080 完掘（南東）
			2．土坑 SK081・SK082 完掘（北）
			3．土坑 SK083 完掘（北西）
図版 049	遺構写真	4 区	1．土坑 SK084 完掘（西）
			2．土坑 SK087 完掘（北東）
			3．土坑 SK088 完掘（西）
図版 050	遺構写真	4 区	1．土坑 SK089 完掘（北東）
			2．土坑 SK090 完掘（北）
			3．土坑 SK091 完掘（北西）
図版 051	遺構写真	4 区	1．土坑 SK092 完掘（北東）
			2．土坑 SK095 完掘（西）
			3．土坑 SK096・SK097 完掘（東）
図版 052	遺構写真	4 区	1．土坑 SK098 完掘（東）
			2．土坑 SK099 完掘（北西）
			3．土坑 SK100・SK103 完掘（南東）

図版 053	遺構写真	4 区	1．土坑 SK101 完掘（東）
			2．土坑 SK102 完掘（北東）
			3．土坑 SK104 完掘（南）
図版 054	遺構写真	4 区	1．溝 SD001 完掘（北東）
			2．溝 SD002 完掘（西）
			3．溝 SD004 土層断面（南）
図版 055	遺構写真	4 区	1．溝 SD004 遺物出土状況 1（北西）
			2．溝 SD004 遺物出土状況 2（北東）
図版 056	遺構写真	4 区	1．溝 SD004 遺物出土状況 3（南西）
			2．溝 SD004 遺物出土状況 4（北北東）
			3．溝 SD004 遺物出土状況 5（北西）
図版 057	遺構写真	4 区	1．溝 SD004 遺物出土状況 6（南）
			2．溝 SD004 遺物出土状況 7（西）
			3．溝 SD004 遺物出土状況 8（東）
図版 058	遺構写真	4 区	1．溝 SD009 完掘（西）
			2．溝 SD009 遺物出土状況 1（北西）
			3．溝 SD009 遺物出土状況 2（北）
図版 059	遺構写真	4 区	1．溝 SD010 完掘（南西）
			2．溝 SD014 完掘（北西）
			3．溝 SD014 遺物出土状況（北）
図版 060	遺構写真	4 区	1．溝 SD015 完掘（南西）
			2．溝 SD016 完掘（北西）
			3．溝 SD019 完掘（北）
図版 061	遺構写真	4 区	1．上層畝状遺構全景（真上）
			2．上層畝状遺構全景（南）
図版 062	遺構写真	4 区	1．上層畝状遺構検出状況（北西）
			2．上層畝状遺構完掘全景（北）
図版 063	遺構写真	5 区	1．調査地区全景（南）
			2．調査地区全景（真上）
図版 064	遺構写真	5 区	1．掘立柱建物址 SB001 完掘（西）
			2．井戸 SE001 井戸枠出土状況
図版 065	遺構写真	5 区	1．土坑 SK001 完掘（南）
			2．土坑 SK002 完掘（南）
			3．土坑 SK013 遺物出土状況（南）
図版 066	遺構写真	5 区	1．土坑 SK016 土層断面（南）
			2．土坑 SK016 遺物出土状況（北西）
			3．土坑 SK016 完掘（北）
図版 067	遺構写真	5 区	1．溝 SD004・SD003 土層断面（南）
			2．溝 SD003 遺物出土状況（南）
			3．溝 SD004・SD003 完掘（南）
図版 068	遺構写真	6 区	1．調査地区全景（南）

			2．調査地区全景（真上）
図版 069	遺構写真	6 区	1．下層遺構完掘状況（北西）
			2．下層遺構完掘状況（南西）
図版 070	遺構写真	6 区	1．掘立柱建物址 SB601 完掘（南東）
			2．掘立柱建物址 SB601-P525 土層断面（南）
			3．掘立柱建物址 SB603 完掘（南西）
図版 071	遺構写真	6 区	1．掘立柱建物址 SB602 完掘（北東）
			2．掘立柱建物址 SB602-P585 柱材出土状況（南西）
			3．掘立柱建物址 SB604 完掘（北東）
図版 072	遺構写真	6 区	1．掘立柱建物址 SB605 完掘（南東）
			2．掘立柱建物址 SB605-P5084 土層断面（南）
			3．掘立柱建物址 SB605-P5140 柱材出土状況（北）
図版 073	遺構写真	6 区	1．掘立柱建物址 SB611 － SX402 ～ SX405 全景（西）
			2．掘立柱建物址 SB611 － SX403-P4 根巻石検出状況（南）
図版 074	遺構写真	6 区	1．竪穴建物址 SI701 完掘（南東）
			2．竪穴建物址 SI702 完掘（北）
			3．竪穴建物址 SI703 完掘（北西）
図版 075	遺構写真	6 区	1．竪穴建物址 SI706 完掘（東）
			2．竪穴建物址 SI706 炉址土層断面（東）
			3．竪穴建物址 SI706 周溝（SD228）内遺物出土状況（北東）
図版 076	遺構写真	6 区	1．竪穴建物址 SI707 完掘（西）
			2．竪穴建物址 SI707 炉址土層断面（東）
			3．竪穴建物址 SI707 周溝（SD231）内遺物出土状況（南西）
図版 077	遺構写真	6 区	1．周溝状遺構完掘（南東）
			2．周溝状遺構 SK303 遺物出土状況（南東）
			3．周溝状遺構 SD216・SD217 遺物出土状況（南）
図版 078	遺構写真	6 区	1．上層畝状遺構完掘（東）
			2．上層畝状遺構完掘（南西）
図版 079	遺構写真	7 区	1．調査地区全景（東）
			2．調査地区全景（真上）
図版 080	遺構写真	7 区	1．土坑 SK301 完掘（南）
			2．土坑 SK302 完掘（南）
			3．土坑 SK303 完掘（南）
図版 081	遺構写真	7 区	1．土坑 SK304 完掘（東）
			2．土坑 SK305 完掘（東）
			3．土坑 SK310 樹皮出土状況（南）
図版 082	遺構写真	7 区	1．溝 SD201 土層断面（南東）
			2．溝 SD201 遺物出土状況（南東）
			3．溝 SD202 土層断面（南）
図版 083	遺構写真	7 区	1．溝 SD203 土層断面（西）
			2．溝 SD203 遺物出土状況 1（東）

			3．溝 SD203 遺物出土状況 2（西）
図版 084	遺構写真	7 区	1．溝 SD205 土層断面（東）
			2．溝 SD206 土層断面（東）
			3．溝 SD207 土層断面（南西）
図版 085	遺構写真	7 区	1．畝状遺構土層断面（南東）
			2．畝状遺構完掘（南東）
図版 086	遺構写真	7 b 区	1．調査地区全景（東）
			2．調査地区全景（真上）
図版 087	遺構写真	7 b 区	1．SB601・SB602 完掘（北）
			2．遺構検出状況（東）
図版 088	遺構写真	8 区	1．調査地区全景（西）
			2．調査地区全景（真上）
図版 089	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ301 遺物出土状況（東）
			2．方形周溝墓 SZ301 完掘（北西）
図版 090	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ302 検出（北東）
			2．方形周溝墓 SZ302 周溝土層断面（北東）
図版 091	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ302 完掘（北西）
			2．方形周溝墓 SZ302 周溝土内遺物出土状況 1（南）
図版 092	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ302 周溝土内遺物出土状況 2（北東）
			2．方形周溝墓 SZ302 周溝土内遺物出土状況 3（北）
図版 093	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ303 検出（南）
			2．方形周溝墓 SZ303 完掘（南）
図版 094	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ303 周溝北部土層断面（東）
			2．方形周溝墓 SZ303 周溝南部土層断面（東）
			3．方形周溝墓 SZ303 周溝内遺物出土状況（東）
図版 095	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ305・SZ306 検出（東）
			2．方形周溝墓 SZ305 周溝土層断面（南）
			3．方形周溝墓 SZ306 周溝土層断面（北）
図版 096	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ303・SZ305・SZ306 完掘全景（真上）
			2．方形周溝墓 SZ304 完掘（南）
図版 097	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ307 検出（東）
			2．方形周溝墓 SZ307 周溝断面（南）
図版 098	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ307 完掘（南）
			2．方形周溝墓 SZ307 周溝内遺物出土状況（南東）
図版 099	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ308 周溝断面（南）
			2．方形周溝墓 SZ309 周溝断面（南西）
図版 100	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ310 周溝断面（西）
			2．方形周溝墓 SZ308 ～ SZ310 完掘（南東）
図版 101	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ311 周溝断面（南）
			2．方形周溝墓 SZ311 完掘（南）
図版 102	遺構写真	8 区	1．方形周溝墓 SZ311 周溝内遺物出土状況（東）

			2．方形周溝墓 SZ307 ～ SZ311 完掘全景（真上）
図版 103	遺構写真	8 区	1．土坑 SK201 完掘（北）
			2．土坑 SK202 完掘（南東）
			3．土坑 SK203 完掘（西）
図版 104	遺構写真	8 区	1．土坑 SK204 完掘（東）
			2．土坑 SK205 完掘（北西）
			3．土坑 SK206 完掘（北西）
図版 105	遺構写真	8 区	1．土坑 SK207 完掘（南西）
			2．溝 SD101 完掘（北）
			3．畝状遺構完掘（北）
図版 106	遺構写真	9 区	1．調査地区全景（北西）
			2．調査地区全景（真上）
図版 107	遺構写真	9 区	1．溝 SD001・SD003 トレンチ 3 土層断面（南）
			2．溝 SD001・SD003 護岸施設（北西）
			3．溝 SD001・SD003 完掘（南）
図版 108	遺構写真	10区	1．調査地区全景（東）
			2．調査地区全景（真上）
図版 109	遺構写真	10区	1．溝 SD001 遺物出土状況 1（南東）
			2．溝 SD011 遺物出土状況 2（南東）
図版 110	遺構写真	10区	1．溝 SD001 遺物出土状況 3（西）
			2．溝 SD011 遺物出土状況 4（西）
図版 111	遺構写真	10区	1．溝 SD001 遺物出土状況 5（東）
			2．溝 SD011 遺物出土状況 6（南）
			3．溝 SD001 遺物出土状況 7（南）
図版 112	遺構写真	10区	1．溝 SD011 遺物出土状況 8（東）
			2．溝 SD011 遺物出土状況 9（東）
			3．溝 SD011 遺物出土状況 10（西）
図版 113	遺構写真	10区	1．溝 SD011 遺物出土状況 11（南）
			2．溝 SD011 遺物出土状況 12（南）
			3．溝 SD011 遺物出土状況 13（北）
図版 114	遺構写真	10区	1．溝 SD002 全景（北西）
			2．溝 SD002 土層断面（南西）
図版 115	遺構写真	10区	1．柵址 SA001-P011 全景（東）
			2．柵址 SA001-P011 土層断面（東）
			3．遺物出土状況（南）
図版 116	遺構写真	11区	1．調査地区全景（南東）
			2．調査地区全景（真上）
図版 117	遺構写真	11区	1．溝 SD010・SD011・SD038 全景（南東）
			2．溝 SD011 全景（北西）
図版 118	遺構写真	11区	1．溝 SD011 遺物出土状況遠景（南東）
			2．溝 SD011 遺物出土状況近景（南東）

図版 119　遺構写真　11区　1．溝 SD011 遺物出土状況 1（南西）
2．溝 SD011 遺物出土状況 2（南）
図版 120　遺構写真　11区　1．溝 SD011 遺物出土状況 3（東）
2．溝 SD011 遺物出土状況 4（北）
3．溝 SD011 遺物出土状況 5（西）
図版 121　遺構写真　11区　1．溝 SD011 遺物出土状況 6（北）
2．溝 SD011 遺物出土状況 7（西）
3．溝 SD011 遺物出土状況 8（北）
図版 122　遺構写真　11区　1．区画 001・002 北東部全景（南西）
2．溝 SD010 全景（北西）
図版 123　遺構写真　11区　1．窪地 SX001 全景（東）
2．窪地 SX001 遺物出土状況（南）
3．窪地 SX001 検出時遺物出土状況（東）
図版 124　遺構写真　12区　1．調査地区全景（北）
2．調査地区全景（真上）
図版 125　遺構写真　12区　1．土坑 SK005 土層断面（西）
2．土坑 SK006 土層断面（西）
3．P026 土層断面（南）
図版 126　遺構写真　12区　1．溝 SD039 遺物出土状況 1（西）
2．溝 SD039 遺物出土状況 2（東）
3．溝 SD039 遺物出土状況 3（西）
図版 127　遺構写真　12区　1．溝 SD001 全景（西）
2．溝 SD001 土層断面（南東）

挿　図　目　次

第 1 図　庄川扇状地図と石名瀬Ａ遺跡 …… 2
第 2 図　周辺の遺跡 …… 3
第 3 図　石名瀬Ａ遺跡 各調査区位置図 …… 4

表　目　次

第 1 表　４区・５区畝状遺構　新旧条数表 …… 16
第 2 表　遺物観察表　弥生土器・土師器・土製品 …… 47
第 3 表　遺物観察表　玉作関連遺物 …… 101
第 4 表　遺物観察表　石器 …… 104
第 5 表　遺物観察表　木製品 …… 105
第 6 表　遺物観察表　古代土師器・須恵器・その他 …… 106

第１章　周辺地域の概要等

第１節　周辺の環境

石名瀬Ａ遺跡は、庄川水系により形成された扇状地と、東西を北流する千保川と祖父川により浸食・形成された標高約 10 ～ 20 ｍを呈する「佐野台地」に所在する。

同台地上には、石名瀬Ａ遺跡を含む複数の遺跡が密集し、その分布状況は「石塚遺跡群」と呼ぶべき一つの遺跡群を形成している。遺跡群における最古の歴史的様相は現状では縄文時代後期と目されるが、次代は弥生時代中期後半まで断絶するため、この最古の様相は単発的な存続を呈した可能性が高い。ちなみに、後続する弥生時代中期後半の様相とは土層的にも１層の中間層が存在する。

石塚遺跡群の歴史的様相が継続性を呈するようになるのは、畿内第３様式並行期の弥生時代中期後半以降であり、以後は各時代の様相が展開され今日に至り、空間的にも時間的にも周辺は独自の遺跡群を形成・維持していく。

なお、上述した弥生時代中期後半の様相をめぐっては、弥生時代前期が希薄な北陸地方にあって比較的早い段階での弥生文化の受容を意味する。また、古墳時代には小規模ながらも前方後方墳を含む古墳群が造営され（石塚遺跡）、古代においては官衙的機能が存在したほか、「布忍（師）郷」刻書なども検出されている（東木津遺跡・下佐野遺跡）。ちなみに同郷は『和名類聚抄』の布師郷のことをさすとみてよい。

第２節　石名瀬Ａ遺跡の概要

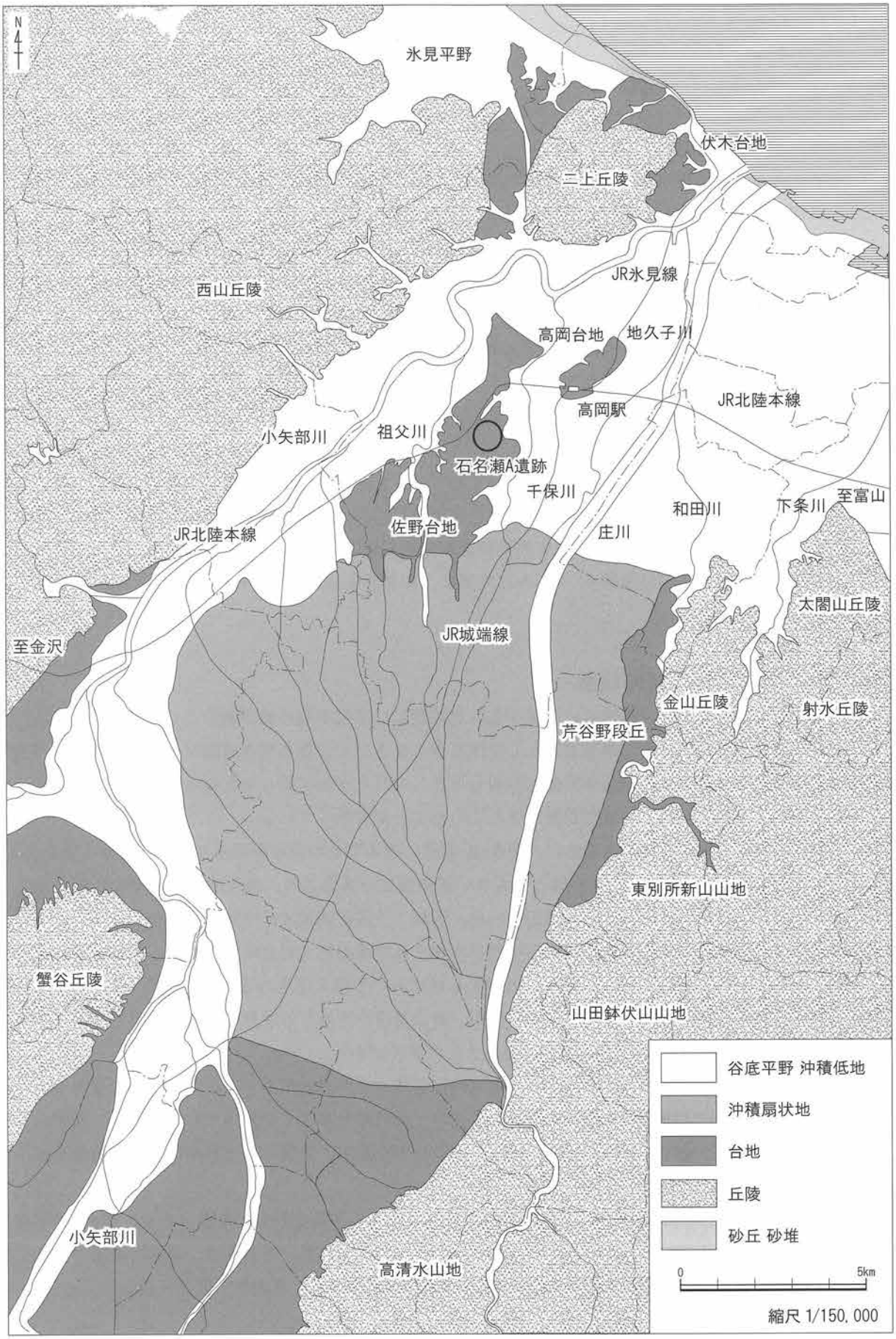
石名瀬Ａ遺跡は上述の佐野台地上に所在する。北西側には弥生中期の集落遺跡として名高い石塚遺跡が近接し、東側は弥生時代後期の集落遺跡として注目されてきた下佐野遺跡が隣接する。ちなみに、下佐野遺跡については９世紀後半代以降の官衙的様相も存在したことが近年明らかとなっているが、北接する東木津遺跡ではこの前代の官衙的様相が展開されていたことが判明している。

こうした環境下にある石名瀬Ａ遺跡は、昭和 40 年代に初めてその存在が確認され、当初は「寺野遺跡」と称した。同 57 年には周辺の圃場整備にともない試掘調査が実施され、弥生時代中後期の土器が出土したことにより、当該期の集落の存在が想定された。石塚・下佐野両遺跡の中間地点に位置する石名瀬Ａ遺跡におけるこの成果は、弥生時代中後期の様相が所在する範囲の拡大を意味した。

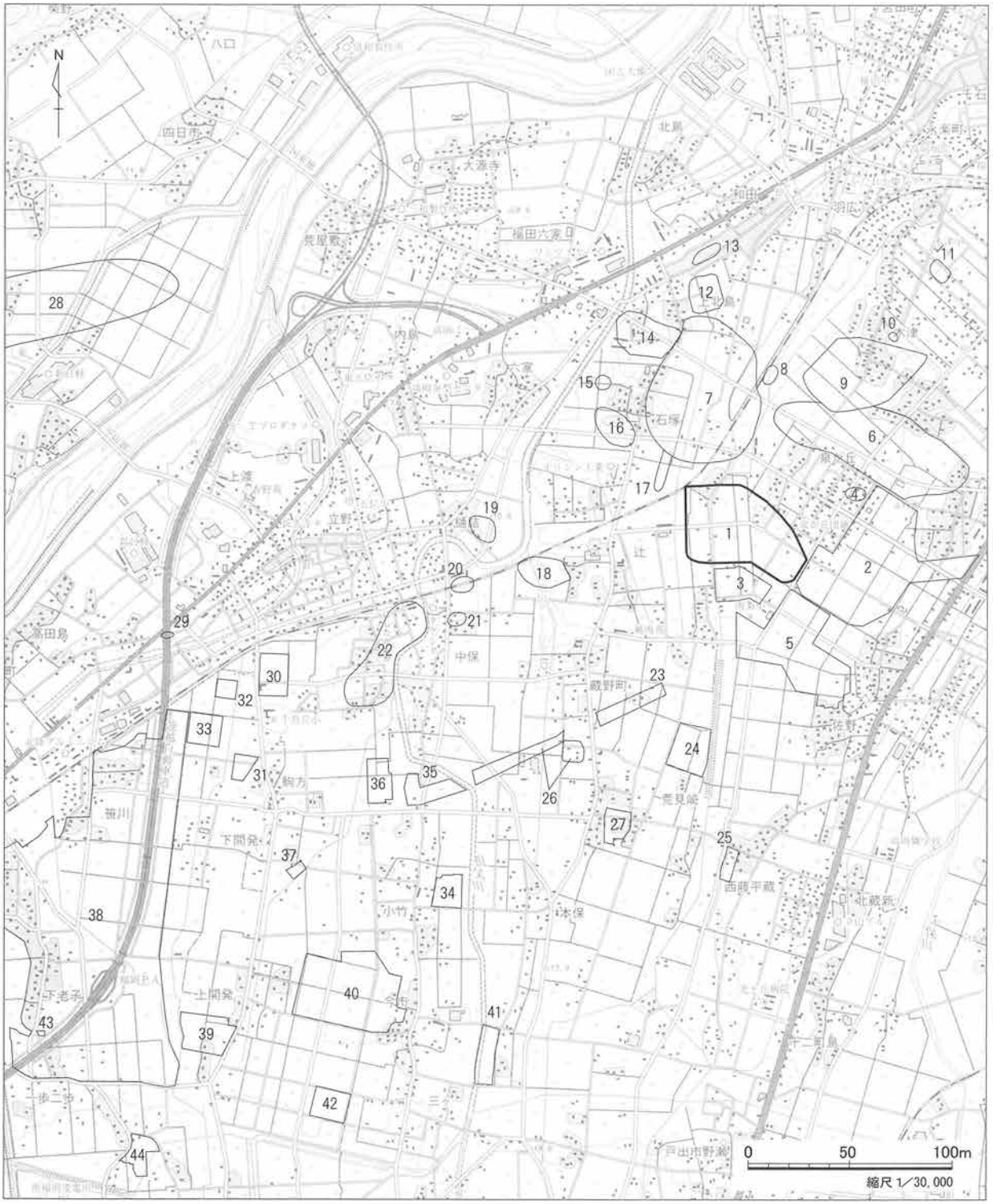
平成６年には、今回報告する４区南端と近接する地において個人住宅の建設にともなう約 700㎡の本発掘調査が実施された。その際、河川跡１条のほか、溝状遺構や土坑など多数の遺構を検出したが、この河川跡は今回報告する４区 SD001 と位置的に連結する可能性がある。

この河川跡からは、弥生時代中期後半から古墳時代前期までの土器類を中心とする多量の遺物が出土したほか、最上層からは古墳時代後期の須恵器や古代の土師器などもごく少量出土した。しかしながら、面積に比してのその出土量は過去の周辺遺跡の調査例でも類をみず、近隣には当該期における集落等が所在するものと予想された。

その後、小規模な試掘調査等をのぞき石名瀬Ａ遺跡はほとんど調査機会がなかったが、平成 17 年度には今回の高岡環状線建設工事にともなう大規模試掘調査が実施された。その結果、多数の遺構や遺物を検出した。また、包蔵地の範囲外とされた地にも広がることが判明し、包蔵地の範囲を現在の 196,138㎡に大きく拡大することとなった。



第1図　庄川扇状地図と石名瀬A遺跡



第2図　周辺の遺跡

1. 石名瀬A遺跡
2. 下佐野遺跡
3. 西佐野千代遺跡
4. 泉ヶ丘遺跡
5. 諏訪遺跡
6. 東木津遺跡
7. 石塚遺跡
8. 石名瀬B遺跡
9. 中木津遺跡
10. 西木津遺跡
11. 北木津遺跡
12. 上北島遺跡
13. 下北島住吉遺跡
14. 石塚江之戸遺跡
15. 石塚五俵田遺跡
16. 石塚蜻保遺跡
17. 石塚六方遺跡
18. 辻遺跡
19. 樋詰遺跡
20. 中保C遺跡
21. 中保A遺跡
22. 中保B遺跡
23. 蔵野町東遺跡
24. 荒見崎北遺跡
25. 西藤平蔵遺跡
26. 蔵野町遺跡
27. 荒見崎村内遺跡
28. 赤丸古村遺跡
29. 近世北陸道遺跡
30. 立野地頭田遺跡
31. 駒方遺跡
32. 高田新茅道遺跡
33. 高田新西後遺跡
34. 小竹A遺跡
35. 小竹B遺跡
36. 小竹C遺跡
37. 駒方南遺跡
38. 下老子笹川遺跡
39. 上開発遺跡
40. 今市遺跡
41. 本保遺跡
42. 三ケ遺跡
43. 土倉兵衛館跡
44. 二歩遺跡

第２章　調査にいたる経緯・経過

平成 15 年度、富山県高岡土木センターより県道高岡環状線の建設にかかる埋蔵文化財包蔵地の照会が高岡市教育委員会に打診され、協議の結果、まずは試掘調査を実施し地下における埋蔵文化財の有無や内容を確認し、そのうえで必要に応じて建設工事に合わせ随時本発掘調査を実施していくことで合意を得た。

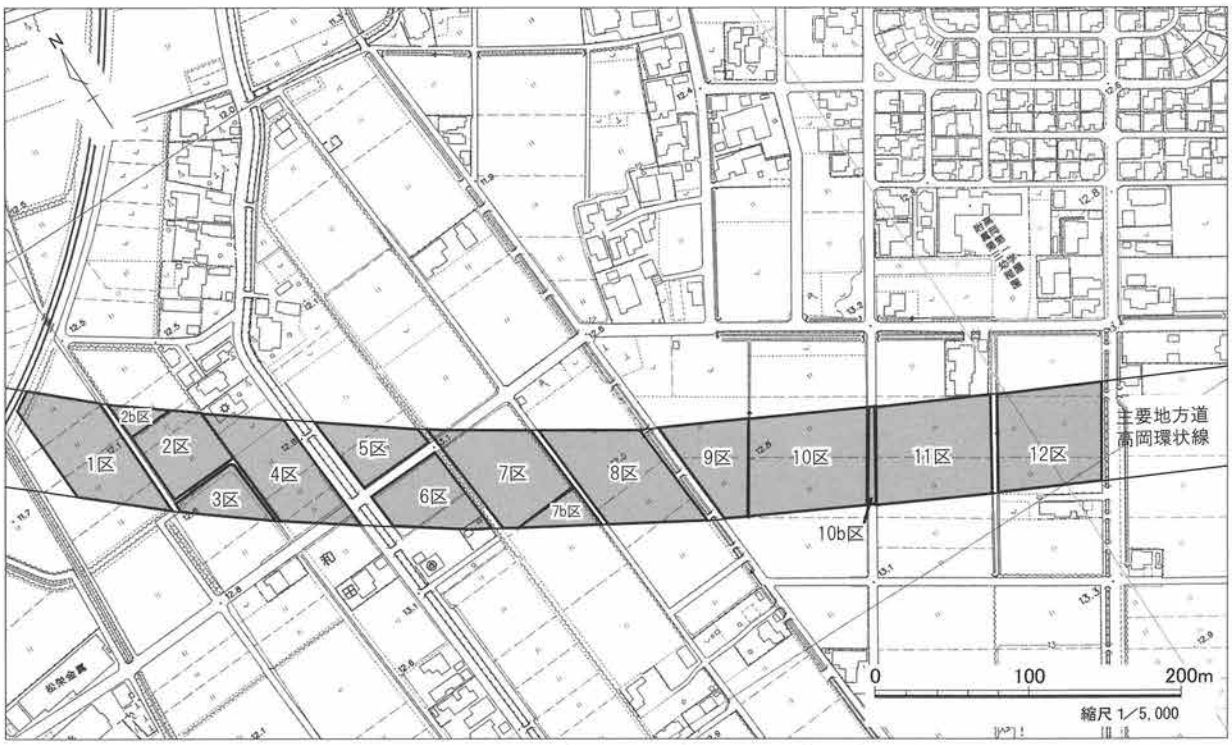
ちなみに、この工事計画は石名瀬 A 遺跡のほか複数の埋蔵文化財包蔵地を通過し、且つ東方から西方へと工事を進める工程であったため、当初は東端に位置する下佐野遺跡から試掘調査等が着手されることとなった。

一連の動向の中、石名瀬Ａ遺跡の発掘調査は、平成 15 年度に実施した小規模な試掘調査が端緒となった。調査の本格化は翌 16 年度からであり同年には大規模な試掘調査が実施され、17 年度からはこの結果をうけた本発掘調査が随時実施されていき、20 年度に冒頭の開発計画に係るすべての屋外発掘調査が終了した。

なお、室内整理調査については屋外発掘調査と並行して行い、22 年度までに基礎的なものを概ね終了した。そして翌 23 年度に報告書の編集・作成作業を経て全業務を終了し、今日に至る。

屋外発掘調査は開発側の工事工程に合わせて計 14 地区を 4 ヵ年度にわたり実施した。ただし、総対象面積が 39,102㎡と広大であるため、監督業務他を除き、業務の多くを民間発掘調査会社へ業務委託するかたちをとった。各年度の調査地区と面積については以下のとおりである。

平成 17 年度	1 区（3,900㎡）	2 区（2,025㎡）	3 区（1,012㎡）	4 区（3,250㎡）	
平成 18 年度	7 区（3,625㎡）	8 区（4,225㎡）			
平成 19 年度	5 区（1,760㎡）	9 区（2,405㎡）	10区（4,875㎡）		
平成 20 年度	2b 区（450㎡）	6 区（2,200㎡）	7b区（600㎡）	11区（4,550㎡）	12区（4,225㎡）



第３図　石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）　各調査区位置図

第３章　調査の成果

第１節　１区の遺構と遺物（図面 002 ～ 006）

検出遺構：溝３条 (SD001 ～ 003)

１区は調査地区北西側で北陸本線に面している。調査地区の北側は、全体に遺構検出面が大きく削平されている。中央には 2b 区に続く幅 22m、深さ 2m 以上の流路（SD001）が南西からやや弧を描きながら北東方向へと走り、その東側には２区から続く流路 (SD002) が南北方向に延びる。隣接する 2b 区の調査結果より、中央河川址は弥生から中世にかけて永続した流路であることが分かった。河川範囲は３時期 (弥生・古墳・古代そして中世) にかけて変遷する (図面 015)。

出土遺物は SD001 から、土器の破片 (弥生土器他) が少量のみ出土している。

第２節　２区・２ｂ区・３区の遺構と遺物　（図面 007 ～ 017・093 ～ 095）

検出遺構：　２区　土坑 12 基 (SK001 ～ SK012)、溝３条 (SD001 ～ SD003)
　　２ｂ区　土坑３基 (SK001 ～ SK003)、溝７条 (SD001 ～ SD007)、ピット４基 (P)
　　３区　溝２条 (SD001・SD002)

２区は中央に北東方に続く河川址 (SD001) があり、北側は小さな谷が走る窪地である。この窪地は中世までには堆積がなされたようである。調査区南東側には一部遺構面が残り、弥生時代の土坑 12 基、古墳時代初頭の溝が検出されている。土坑内より土師器や石器が出土している。SD001 は１区 SD002 から続き、４区 SD024 へ続く。SD002 は１区 SD002 より続く。SD003 からは土師器、土製品、石器が出土している。

2b 区は調査区大半を自然流路 (SD001) が占めるものの、北西側では弥生時代の遺構が残る面を確認できた。土坑３基は弥生時代の遺構と見られる。

３区は旧河川址で礫層が大部分をしめており、この礫層を刻む形で溝址が確認されている。SD001 は２区 SD003 から続く溝址である。

２区・２ｂ区・３区はともに遺構の分布が希薄であるが、比較的遺構面を残す２ｂ区で検出された主要遺構について記述することとする。

2b 区土坑

SK002（図面 014）

調査区北西端に位置し、長軸 1.4 m、短軸１m、深さ 0.5 m を測る。土坑内には被熱面が２面確認されており、第１次使用面は長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、厚さ 0.08 m を測る。被熱面は橙褐色で、その直下は粘質と砂質の土が確認された。２次使用面は、１次使用面のすぐ下で検出され長軸 0.5 m、短軸 0.3 m、厚さ 0.05 m を測る。被熱面の下は１次使用面と同様、粘質と砂質の土が確認された。１次使用面の上からは弥生時代の遺物がややまとまって出土している。

SK003（図面 014）

調査区西側中央に位置し、その大部分は削平を受けている。覆土には焼土層が確認できるものの、被熱面が無いことより、SK002 の焼土を廃棄した場所と考えられる。

2b 区溝（図面 012 ～ 014）

SD001 は 1 区 SD001 に続く流路である。長さ 22 m以上、幅約 30 mを測る。深さは湧水のため確認できなかった。出土遺物より弥生から中世にかけて流れていたとみられる。

SD002 ～ SD007 は弥生時代の溝である。SD002・SD003 は底面に板を差し込んだとみられる浅い溝が確認され、堀的な要素を持つと推測される。

SD005 は調査区北側で南西から北東へ緩やかに弧を描く溝で、長さ 4.3 m、幅 0.5 m、深さ 0.5 mを測る。SK002 を中心としたときに円を描くように掘られている。SK002 を炉と考えた場合、平地式住居となる可能性がある。石名瀬Ａ遺跡の居住域は 4・5・6 区周辺と考えられているが、SK002 － SD005 を平地式住居とした場合、1 区・2 区・2b 区で確認されている流路を挟んだ北側（2 b 区周辺）にも居住域が存在することとなり、集落の範囲が拡大する可能性がある。

2b 区ピット

検出された 4 基は調査区北側で散発的に広がって確認された。いずれも断面観察において柱痕は確認できなかった。

2 b区出土遺物

弥生土器・土師器（図面 093・094、第 2 表）

弥生土器は主に中期後半に属すると考えられるものが出土している。SK002 と SD001 から一定量出土している。SK002 出土弥生土器は甕・壷がやや多量に出土している。甕は口縁端部に刻みを施すもの (093 － 2・3・9)、口縁内面に羽状刺突文を施すもの（093 － 8)、斜行短線文を施すもの (093 － 4) がある。

弥生時代終末から古墳時代前期の土器は SD001 と SD002 から少量出土している。SD001 出土有段甕（094 － 13・14）は口縁部が長く外反するものである。くの字甕 (094 － 15) は、先端部が尖るものである。SD002 出土高杯 (094 － 18) は裾部で強く屈曲外反する畿内系の高杯である。

その他の遺物

SD001 からは須恵器や珠洲が出土している。須恵器は杯Ｂ身がほぼ完形で出土し、その他は甕片である。8 世紀後葉から 9 世紀前葉と推定される。珠洲は鉢等が出土している。14 世紀頃と推定される。

SD009 と SK002 からは弥生土器の他、玉の石材片が出土している。

3 区出土遺物

弥生土器・その他（図面 094・095、第 2 表）

遺構外より弥生土器と土錘、円盤状土製品が出土している。いずれも調査区北側で検出されている。

弥生土器は甕である（094-24)。口縁端部に刻み目が施され、器面調整は内外面ともにハケメ調整である。時期は中期後半に属すると考えられる。円盤状土製品（095-26）には直線文と簾状文が施されており、甕からの転用品と推測される。

第３節　４区の遺構と遺物（図面 018 ～ 037・095 ～ 177）

検出遺構：竪穴建物址７棟 (SI001 ～ SI007)、掘立柱建物址４棟 (SB001 ～ SB004)、
土坑 104 基 (SK001 ～ SK104)、溝 24 条 (SD001 ～ SD024)、畝状遺構 326 条 (SU)、ピット 203 基 (P)

第１遺構面から第４遺構面まで存在し、弥生時代から中近世に至る各時代の遺構・遺物が多く検出されている。第３遺構面では建物址が検出されており、本調査区が居住域であることが判明した。1・2・2ｂ区では河川址が確認されており、水利を容易に得られる場所に集落を営んでいることが分かる。

以下、主要遺構について記述する。

第１遺構面（中近世）

SD001（図面 018 ～ 020）

調査区の西側を南北に走る。幅約４ｍ、長さ 75 ｍにわたり検出され、さらに調査区外へと延びている。深さは約 0.5 ｍで南側は浅くなる。近世の陶磁器やキセルが出土しており、江戸時代後半期には埋まったものと考えられる。

第２遺構面（奈良平安）

畝状遺構 (SU1 群）（図面 018）

調査区北側から東側にかけて検出された。生産域の遍遷を考慮していくうえで、便宜的に４区の畝状遺構をSU1 群とする。SU1 群は大別新旧２時期に分けられ、新しい時期の遺構 (256 条) はおおむね南北に走る。北寄りでは、北北西～南南東方向に走り、南寄りでは真南北近く走る。古い時期の遺構 (70 条) はおおむね東西に走る。出土遺物は土器の細片が少量のみである。

覆土は地山とされる砂層やその上位に堆積する黒褐色土を母胎とし、黒褐色土が塊状または礫状に堆積する。覆土の花粉分析を行った結果ではイネ属の花粉は極微量しか確認されず、母胎となる黒褐色土から検出された量と差が認められなかった。このため畝状遺構が稲作に関連していると結論づけることは、現段階では難しい。ただし当時の耕作が溝を排水施設とし、溝から掘り上げた土を作土として利用していたとすると、調査結果より当時の耕作土は削平され残されていないことになる。用途については庄川扇状地の類例と併せて検討していく必要がある。

第３遺構面（古墳時代）・第４遺構面（弥生時代）（図面 019・020）

第３遺構面より竪穴建物址、掘立柱建物址、土坑、溝等が確認されている。時期は出土遺物より弥生時代終末から飛鳥時代までと推定される。この中で遺構・遺物とも中心は弥生時代終末から古墳時代初頭のものである。

当地から北へ 700m 離れた地点に古墳時代初頭の石塚古墳群が所在する。前方後方墳、方墳から成るこの古墳群を形成した人びとの集落が本調査区に該当する可能性があるといえる。なお石名瀬Ａ遺跡から東南東 700m 離れた下佐野遺跡でも同時期の竪穴建物址が確認されている。

第４遺構面からは土坑が確認されている。石塚遺跡の南端部と４区との間は 250m を測るに過ぎず、弥生中期遺跡について石塚遺跡と併せて考える必要があると思われる。

掘立柱建物址

SB001（図面 021）

調査区中央北寄りに位置する。南北棟の総柱建物である。桁行３間 (4.6 m) ×梁行２間 (4.3 m) を測る。柱穴は円形ないし楕円形を呈し、径約 0.34 m、深さ 0.08 ～ 0.22 mを測る。木柱が出土している。建物の方位はＮ － 2℃ － Ｗである。

SB002（図面 022）

調査区北部に位置する。建物の中央部を撹乱に、西側はSD001 に切られているが、東西棟の側柱建物であると推測される。東西に２間 (3.2 m) 確認されている。西側はさらに延びる可能性がある。南北は中央柱が撹乱のため不明だが、3.2 mを測る。柱穴は円形ないし楕円形を呈し、径約 0.42 m、深さ 0.08 ～ 0.17 mを測る。方位はＷ － 18℃ － Ｎである。

SB003（図面 022）

調査区北部西寄りに位置する。東側はSD001 に切られている。東西棟の側柱建物であると推測される。東西２間 (3.6 m以上) ×南北２間 (3.8 m) を測る。柱穴は円形ないし楕円形を呈し、径約 0.39 m、深さ 0.08 ～ 0.19 mを測る。建物の方位はＷ － 16℃ － Ｓである。

SB004（図面 023）

調査区中央南寄りに位置する。東西棟の側柱建物である。桁行２間 (3.7 m) ×梁行２間 (3.4 m) を測る。柱穴は円形を呈し、径約 0.33 m、深さ 0.41 ～ 0.70 mを測る。木柱が出土している。建物の方位はＷ － 16℃ － Ｓである。

竪穴建物址

SI001（図面 024）

調査区南端部に位置し、北側にあるSI006 の南角を小さく壊して構築されている。住居の南端部は調査区外となる。平面形は隅丸方形を呈する。規模は北西－南東 6.6 m、南西－北東 6.55 m、床面積 41.47㎡を測る。床面施設は柱穴５基、土坑１基、周壁溝が検出されている。柱穴は規則的に四方に配され、径 0.4 ～ 065 m、深さ 0.16 ～ 0.44 mを測る。周壁溝は幅 0.14 ～ 0.48 m、深さ 0.16 ～ 0.2 mを測る。床面の調査より、SI002 の拡張建て替え住居であることが確認された。

SI002（図面 025）

調査区南端部に位置する。床面のみ確認できる。平面形は隅丸方形を呈する。規模は北西－南東 6.26 m、南西－北東 5.8 m、床面積 35.11㎡を測る。床面施設は柱穴４基、炉１基、溝１条、周壁溝が検出されている。柱穴は不規則に配され、径約 0.32 m、深さ 0.12 ～ 0.44 mを測る。炉は建物のほぼ中心に位置し、楕円形を呈する。長軸 0.96、短軸 0.48 m、深さ 0.14 mを測る。周壁溝は幅 0.1 ～ 0.2 m、深さ 0.12 ～ 0.16 mを測る。

SI003（図面 026）

調査区北側に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。規模は北西－南東 4.75 m、南西－北東 4.36 m、床面積 20.03㎡を測る。床面施設は柱穴６基、炉１基、周壁溝が検出されている。柱穴 P01 ～ P04 は規則的に四方に配され、径 0.2 ～ 0.36 m、深さ 0.1 ～ 0.32 mを測る。炉は建物のほぼ中心に位置し、円形を呈する。径 0.44 m、深さ 0.12 mを測る。周壁溝の幅は 0.12 ～ 0.26 m、深さ 0.1 mを測る。南壁際東寄りからは、壷がほぼ完全な形で出土している。

SI004（図面 028）

調査区中央北寄りに位置する。床面のみ確認できる。平面形は隅丸方形と推測され、南西－北東 4.47 m、北西－南西 4.51 m、面積は 20.16㎡を測る。床面施設は炉１基、土坑１基を検出している。柱穴、周溝壁は確認されなかった。炉は建物の南寄りに位置し、長軸 1.02 m、短軸 0.72、深さ 0.08 mを測る。

SI005（図面 027・028）

調査区南部に位置する。南側は撹乱に切られている。平面形は隅丸方形で、規模は北西－南東 9.94 m、北東－南西は推定約 10.2 m、床面積約 100.16㎡を測る大型の住居である。床面施設は柱穴 10 基、周壁溝が検出されている。柱穴 P1・2・4・7 は四方に配され、径 0.56 ～ 0.96 m、深さ 0.4 ～ 0.44 mを測る。周壁溝の幅は 0.12 ～ 0.36 m、深さ 0.08 mを測る。P2、P4 からは礎板が出土している。また未成の石製品が出土していることより、工房跡の可能性がある。

SI006（図面 029）

調査区南部、SI001 と SI005 に挟まれるように位置している。床面のみ確認できる。平面形は隅丸方形を呈する。規模は北西－南東 5.64 m、南西－北東 5.88 m、床面積 32.13㎡を測る。床面施設は柱穴 4 基、周壁溝を検出している。柱穴は不規則に配され、径 0.4 ～ 0.84 m、深さ 0.28 ～ 0.32 mを測る。P2、P3 からは礎板が出土している。周壁溝の幅は 0.16 ～ 0.3 m、深さ 0.08 mを測る。外部施設として、北側には幅 0.5 ～ 0.7 mの溝 (SD014) を伴う。この溝が SI005 の床面を切っていることから、SI005 の破棄直後に構築されたと考えられる。

SI007（図面 030・031）

調査区中央東側に位置する。平面形は円形を呈する。検出規模は長径 4.85 m、短径 4.38 m、深さ 0.28 mを測る。床面規模は南北約 4.26 m、東西 4.1 m、面積 13.72㎡を測る。床面施設は柱穴 8 基、炉 1 基、周壁溝を検出している。柱穴は不規則に配され、径約 0.24 ～ 0.4 m、深さ約 0.2 ～ 0.32 mを測る。炉は建物のほぼ中心に位置し、径約 0.6 m、深さ 0.24 mを測る。周壁溝の幅は約 0.2 ～ 0.35 m、深さ約 0.1 mを測る。住居内には広範囲に炭化物が確認された。さらに炭化材も出土していることより、焼失住居であると考えられる。出土した炭化材による放射性炭素年代測定では、紀元前 4 世紀後半～紀元前 3 世紀前半であるという結果を得ている。また外部施設として、南側と東側に周溝を伴う。周溝の幅は約 0.48 ～ 2.2 m、深さ約 0.24 ～ 0.36 mを測る。

土坑（図面 032・033）

SK001、003、004、013 の覆土には多量の土器が混入しており、遺物廃棄土坑であると考えられる。

調査区北側に位置する SK080 は、長軸 3.94 m、短軸 3.88 m、深さ 0.57 mを測る円形を呈する土坑である。土坑内より土器や土製品のほか、多量の玉作関連遺物が出土している。管玉の未成品や石針未成品・成品が多く見られるため、玉製作遺構と考えられる。

溝

SD004（図面 034 ～ 036）

調査区の東端部を南北に走る。最大幅 11 m、深さ 0.8 mで、44.2 mにわたり検出され、さらに調査区外へ続く。埋土は大きく 3 層に分けられる。上層 (1 層) は黒褐色土層で古墳時代の土器が出土している。中層 (2 層) は褐色の植物遺体層で木製品が多数出土している。下層 (3 層) は灰色の砂礫層で、弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が多量に出土している。中層と下層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定からは、中層は 4 世紀末～ 6 世紀頃、下層は 3 世紀前半から 4 世紀前半という結果が得られている。1・2 層を対象とした珪藻分析結果からは、次第に流れの影響が少なくなり、沼沢湿地的な環境へと変化したことが指摘されている。これら自然科学分析の結果を参考にすると、SD004 は、3 ～ 4 世紀頃は流路として機能し、4 世紀以降に流路から沼沢湿地へと変化していったことが推測される。

SD009（図面 037）

調査区の中央から始まり北東方向へ走る。東端は SD004 に切られている。長さ 15.0 m、幅 1.0 m、深さ 0.44

mを測る。西端では掘方に整地し、底面を整形していることが確認された。覆土からはほぼ完形の壷(弥生時代終末)が口縁部を下に転げ落ちたような状態で出土している。

4区出土遺物

4区出土遺物は弥生土器、土師器、土製品、玉作関連遺物、石器、木製品など多岐にわたる。中でも弥生時代中期後半～古墳時代初頭にかけての土器が多量に確認されている。弥生土器・土師器については建物址出土土器、土坑出土土器、溝出土土器に分け、玉作関連遺物、石器、木製品については種別に記載することとする。

また細かな時期区分として、弥生土器は八日市地方編年（文36）に従い、土師器は下老子笹川編年（文9）に従い表記することとする。

以下、Ⅰ．弥生土器・土師器、Ⅱ．玉作関連遺物、Ⅲ．石器、Ⅳ．木製品として概要を述べる。個々の遺物の詳細については遺物観察表を参照されたい。

Ⅰ．弥生土器・土師器（図面096～172、第2表）

建物址出土土器（図面096～103）

SI001～006出土土器は、弥生時代終末から古墳時代初頭の様相を呈する。周溝や埋土からは弥生時代中期から後期の土器が混入している。弥生土器については主に八日市地方編年の9～10期に帰属するものである。

切り合い関係が見られる竪穴建物は、調査区南端に位置するSI001・002、005、006である。その中で古い様相を呈するものはSI005で、概ね下老子Ⅲ－2～Ⅲ－3の様相を呈する。甕、壷、高杯、器台、鉢、蓋が見られる。甕は有段口縁と、くの字口縁のものが多く出土している。有段口縁については擬凹線を施すものは少ない。壷は長頸壷(099－121)や体部に突帯がつく台付壷(099－124)、体部が下膨れになる東海系(099－122)が見られる。高杯は大型のものが多く、有段で伸展するものが目立つ。

SI006は下老子Ⅲ－3～下佐野式の様相を呈する。甕、高杯、鉢、蓋が見られる。有段甕(100－157)は内面の段がほどんど消滅している。高杯(100－158)は内外面ともミガキ調整、赤彩が施されている。蓋はつまみが付くものと、印籠蓋状で擬凹線がめぐらされるものが見られる。周溝から出土した高杯(100－163)は2孔1対の穿孔が見られ、脚部はハの字に開脚する形状である。

SI001・002は下老子Ⅲ－3～下佐野式の様相を呈する。甕、壷、高杯、器台、鉢が見られる。器面には密なミガキ調整がなされ、一部には赤彩が施される。SI006とSI001・002にはほとんど時期差が見られない。

調査区北側に位置するSI003は、主として下老子Ⅲ－2～Ⅲ－3式の様相を呈する。壁際から出土した壷(097－76)はほぼ完形である。有段口縁であるが、内面の段はほぼ消滅している。胴部最大径はやや上半に位置し、密なミガキ調整が施される。有段甕には擬凹線をめぐらすもの(096－68)と、無文のもの(096－66・69・71)が見られる。擬凹線をめぐらすものには口縁部内面に指頭圧痕が見られる。

調査区中央北寄りに位置するSI004は、下老子Ⅲ－2～下佐野式に比定される土器が出土している。貼床からくの字口縁甕（097－83）や高杯（097－86）が出土している。SK001からは、弥生時代中期後半の八日市地方10期に比定される甕が出土している（097－77・78・80）。

調査区中央東側に位置するSI007は建物址の中では最も古く、弥生時代中期後半の土器が出土している。甕、壷、鉢が見られる。甕は口縁外面に連続刻み目、内面には羽状刺突文、連続刺突文が施されているものが見られる。調整は斜め方向のハケメが主体であるが、体部の上位を縦方向のハケメで仕上げているも

のもある。広口壷は口縁外面に連続刻み目、内面には羽状刺突文、連続刺突文が施されている。長頸壷(102 － 182）は頸部に櫛描の斜格子文を加飾した突帯が付されている。無頸壷はハケメ調整後、ミガキ調整およびナデ調整で器面全体を仕上げている。口縁部外面に羽状刺突文を施すもの（102 － 185)、突帯を付するもの（102 － 186）が見られる。鉢は1孔1対の小型もの（102 － 191・192）と、木器の影響を受けた把手がつくもの（102 － 194）が見られる。時期は八日市地方の9期に帰属する。

土坑出土土器（図面 104 ～ 128）

土坑出土土器はほとんどが弥生時代中期後半、八日市地方9～10期に帰属する。土器が多量に出土したSK001は八日市地方の9期、SK003は10期、SK004は8～9期、SK013は10期に帰属する。

甕と壺の加飾表現については連続刻み目、羽状刺突文が主体である。古い様相としては指頭押圧による波状口縁のものが見られるが、9期の範疇であると考えられる。壺についても口縁部の加飾表現についてはほぼ同じであり、長頸壺の頸部には貼付突帯に連続刺突文や格子文が施される。鉢には木の目沈線文が見られ(110 － 318、116 － 416)、中期後半の新しい様相を呈す。底部については、ケズリ調整を残すものが多く、八日市地方9～10期の調整技法の特色を示している。SK002からはジョッキ形土器となる可能性がある土器(104 － 232)が出土している。類例としては、石塚遺跡きぼう地区SI002や上越市吹上遺跡などで出土している。SK013には体部に格子状に籠目がのこる籠目土器(110 － 317)が出土している。またSK062やSK066からは栗林式の模倣土器と考えられる壺(125 － 512、518)が出土している。

土坑出土土器は石塚遺跡の宮崎地区や、きぼう地区に近い様相を示している。他の時期の遺構はSK029が弥生時代後期、SK057、SK058が弥生時代終末期の下老子Ⅲ－3に帰属する。SK029からは有段脚部で、山陰系のS字スタンプ文が施された器台（113 － 367・369）が出土している。

溝出土土器（図面 129 ～ 154）

SD023は八日市地方9期、SD002、003、017、018、021、023は八日市地方9～10期に帰属する。SD009は下老子Ⅲ－2、SD011は下老子Ⅲ－3、SD015は弥生後期の法仏式段階頃に帰属すると考えられる。

SD004では多量の土器が出土している。弥生時代中期後半、弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が多く見られる。

弥生時代中期の土器は、甕、壺、鉢、高杯、ミニチュア土器が出土している。時期的には概ね八日市地方9～10期に帰属すると考えられる。ただ、甕、壺の口縁に円形浮文、三角刺突文などが見られるものもあるので、八日市地方8期に帰属する土器もあると考えられる。特色的ものとしては、栗林式の模倣土器（133 － 631・632・633）が出土している。コップ状の土器（133 － 625）は小竹管文、木の目沈線文で装飾されている。

弥生時代後期以降の土器については、概ね弥生時代終末から古墳時代初頭の下老子Ⅲ－2～下佐野式段階のものが目立つ。甕、壺、鉢、高杯、器台、蓋等が出土している。調整技法は甕を除き、概ねミガキ調整が主体で、赤彩を施すものが多い。壺、高杯、器台はバリエーションが多く、様々なタイプのものが見られる。器台の受部に透かしを持つもの（146 － 856・857）は、県内での出土例は射水市上野遺跡、HS－04遺跡、富山市清水堂南遺跡など数遺跡である。

SU・P・遺構外出土土器（図面 155 ～ 172）

弥生時代中期の土器としては八日市地方9～10期に帰属するものが多いが、一部8～9期のものも見られる。古い様相を示すものは、甕や壷の口縁に円形浮文や三角刺突文が施される。器種は甕、壷、鉢、高杯、ミニチュア土器が見られる。特色的な土器としては、栗林式の模倣土器（156 － 1026、165 －

1159)、栗林系の土器（166 － 1163）が見られる。八日市地方10期に帰属する高杯（166 － 1171）は、脚部上位に木の目沈線を3条、その下端部には裾部にかけて円形刺突文を配し、裾部には連続刺突文を加飾する。把手付鉢（166 － 1176）は、把手、形状ともに木器模倣の可能性が高い。外面と底面に記号文が刻まれている鉢（166 － 1177）も見られる。

弥生時代後期以降については、弥生時代終末から古墳時代前期の土器が多く見られる。甕、壷、鉢、高杯、器台、蓋等が出土している。ミガキ調整が主体で、赤彩を施すものが多い。壷、高杯、器台は様々な形式のものが見られる。

Ⅱ．玉作関連遺物（図面173～175、第3表）

管玉荒割工程品（図面173 － 1311～1314）

荒割工程品は自然面を残すものが多い。剥片の石核になっているもの（173 － 1311）は、側面に横長の柱状剥片を3～4枚剥離したと考えられる。石材は緑色凝灰岩である。それ以外は鉄石英であり、自然面を残すもの（173 － 1313）があるが、角柱状に整形している。

管玉形割工程品（図面173 － 1315～1330）

1点(173 － 1318)を除いて施溝分割の痕跡が確認される。複数の溝を使用し施溝分割を行った工程が観察される。石材は緑色凝灰岩（173 － 1318・1319・1325・1329・1330）と鉄石英（173 － 1320～1324、1326～1328）を確認している。

管玉研磨工程品（図面173 － 1331～1337）

ほぼすべてが研磨されているが、その中で施溝分割の痕跡を残すものがある（173 － 1331・1332・1335・1337)。石材はすべて鉄石英である。

管玉穿孔工程品（図面174 － 1338～1342）

四角柱状のもの（174 － 1338～1340)、円柱状に近いもの（174 － 1341・1342）がある。穿孔を行うが貫通していないものがある(174 － 1338･1342)。また､上面に穿孔しようとした痕跡が残るものもある(174 － 1341)。石材は緑色凝灰岩（174 － 1338～1340・1342)、鉄石英（174 － 1341）を確認している。

管玉完成品（図面174 － 1343～1347）

ほぼ円柱状に近く、丁寧に研磨されている。両面から穿孔されているもの（174 － 1346･1347）があり、孔の大きさには偏りがある。石材はすべて緑色凝灰岩である。

勾玉（図面174 － 1348）

長さ13.45㎜、幅8.86㎜、厚さ4.07㎜、重量0.91gを測り、C字形を呈している。裏面より穿孔されており円錐形になっている。表面にある窪みは欠損した部分を磨いたためにできた可能性がある。石材はネフライト（軟玉）である。

臼玉（図面174 － 1349～1364・1366～1368）

全体的に表面がでこぼことしたものが多い。表面に線状痕が確認できるものがある（174 － 1349・1356・1359・1361・1362・1364)。これらは紐を通した際の痕跡だと考えられる。石材はすべて緑色凝灰岩である。

ガラス玉（図面174 － 1365・1369・1370）

色調は青色を呈し透明である。ガラスが厚いもの（174 － 1365)、薄いもの（174 － 1369）や断面が丸みを帯びたもの（174 － 1370）がある。上記の臼玉と共有して使用されたものと考えられる。

石鋸（図面174 － 1371～1374）

いずれも破片である。板状の素材を使用し、全面に研磨を施している。玉製作における施溝分割に用いられたと考えられる。石材はすべて結晶片岩である。

石針未成品（図面 174 － 1375 ～ 1390、図面 175 － 1391 ～ 1397）

石針未成品は、管玉製作の工程を踏むと考えられる。4区に荒割工程の資料はない。形割工程は角柱状を呈しており、すべてに施溝分割の痕跡が確認される（174 － 1375 ～ 1387）。研磨工程は欠損しているものが多い。多角柱状を呈し、施溝分割の痕跡が認められるものがある（174 － 1389・1390、175 － 1391）。石材はすべて安山岩である。

石針完成品（図面 175 － 1398 ～ 1418）

石針の完成品の大きさは欠損部もあるが、5.2㎜～ 11.92㎜の幅で構成される。多角柱状に整形されている。回転痕を残すもの（175 － 1398 ～ 1409・1411 ～ 1416）があり、管玉穿孔段階で使用したと考えられる。使用したものについては先端が丸まっているか欠損しているものが多い。また、長さは短いが、上面には施溝分割の痕跡が確認される（175 － 1409）。石材はすべて安山岩である。

Ⅲ．石器（図面 175、176、第4表）

4区からは、磨製石斧、打製石斧、石鏃、石包丁、石剣が出土している。

石鏃（175 － 1419 ～ 1422）のうち、蛇紋岩製（175 － 1419）、チャート製（175 － 1421）の無茎石鏃は、全面研磨された磨製石鏃であり、先端部は鋭くなっている。チャート製の無茎石鏃（175 － 1420）は、左右とも均整のとれた形状である。下呂石製の有茎石鏃（175 － 1422）は、形状を整える段階で作業が停止した未成品である。

磨製石斧（175 － 1424 ～ 1427・1429、176 － 1434・1439・1442）のうち、チャート製の磨製石斧片は、刃部が残存しており片刃であるもの（175 － 1424）と、扁平な形状を呈するもの（175 － 1429）がある。前者は全面研磨されている。小型で玉作に関連する可能性がある。砂岩製の磨製石斧片（175 － 1426）は、中央部のみ残存している。ホルンフェルス製の磨製石斧（175 － 1425）は、刃部は両刃で研磨されている。一部欠損している。砂岩製の磨製石斧片（175 － 1427）は、上部のみ残存しており全面研磨されている。小型磨製石斧のうち、粘板岩製のもの（176 － 1434）は長さ 5.7cm、幅 1.2cm、厚さ 1.7cmを測る。刃部は片刃で、全面は丹念に研磨され滑らかである。透閃石岩製のもの（176 － 1439）は長さ 3.3cm、幅 2.4cm、厚さ 0.7cmを測る。刃部は片刃であり全面研磨されている。このような小型磨製石斧は、楔や鑿の役割を担っていたと考えられる。砂岩製の太型蛤刃石斧（176 － 1442）は長さ 11.4cm、幅 5.6cm、厚さ 3.9cmを測る。刃部は両刃であり、全面が滑らかに研磨されている。上部には敲打痕が確認される。太型蛤刃石斧は木材伐採に使用された可能性がある。

石包丁（175 － 1423・1428・1430、176 － 1441・1443）は5点を図化している。ホルンフェルス製のものは2点あり、板状の素材を利用しているものである。うち1点（175 － 1423）は紐孔の半分が欠損しているが、穿孔の際の回転痕は明瞭に残っている。下端部には研磨痕がみられる。もう1点（175 － 1428）は下端部に刃部が残存し、研磨痕が認められる。緑色凝灰岩製のもの（175 － 1430）は、表面に自然面を残す大型剥片を素材としている。裏面側から加工を施し刃部としている。裏面には使用痕が認められる。凝灰岩製のもの（176 － 1441）は風化と欠損が激しい。しかし、紐孔は残存し穿孔の際の回転痕は明瞭である。表面が自然面である砂岩製のもの（176 － 1443）は、原石を打ち欠いた際の大型剥片を素材としている。表面側から加工を施し刃部としている。また、表面の両側縁には研磨痕が残っている。

石剣（175 － 1431、176 － 1440）のうち、ホルンフェルス製のもの（175 － 1431）は、側縁に敲打痕が残存することや研磨が完全でないことから未成品である。砂岩製のもの（176 － 1440）は、両端は欠損しているが、残存部は滑らかに研磨されている。断面は楕円形を呈している。

敲石（176 － 1432）は、自然石を素材として下部に敲打痕を残す。打製石斧や石包丁の加工・調整に使用されたと考えられる。

砥石（176 － 1433・1435・1436）は、花崗岩製で板状を呈するもの（176 － 1433）、凝灰岩製で角柱状を呈するもの（176 － 1435・1436）が見られる。凝灰岩製のものは全面研磨痕を残す。

打製石斧（176 － 1437・1438）のうち、花崗岩製のもの（176 － 1437）は、長さ20.2cmを測る。表面に自然面を残し、側縁だけではなく下部にも加工を施し整形している。凝灰岩製のもの（176 － 1438）は風化が激しい。研磨痕が一部見られる。下半部は欠損している。

Ⅳ．木製品（図面177、第5表）

木製小型容器（図面177 － 1444）

四脚を有する浅型の木製容器である。容器の部分は平面形が長楕円形を呈し、全長12.0cm、幅10.1cmを呈する。容器外面の断面のラインは方形を呈するが、対する内面のそれは浅いU字形を呈し、このため口唇部付近は鋭角的な三角形を呈する。

脚部は容器部分と同一の素材から削り出し全長2cm程度を呈する。先端にむけてやや先を細くする。4区の溝状遺構SD004のⅡ層より出土した。年代は不明である。内外面に漆状のものが付着する。

木製鐙（図面177 － 1445）

壺鐙、または輪鐙とみられる木製品である。足を収納する部分とこれを吊るす部分とで構成される。本品を吊るす鐙革に相当するものは付属しない。また一隻のみの出土である。

足を収納する部分は正面左側と爪先部分とを欠損しており、輪鐙となる可能性を残す。全体的に爪先側にむけて下方へ傾斜するほか、横長の楕円形を呈する。外形の推定幅17cm程度、内幅は13cm程度である。高さも12.5cm程度、内高も入り口付近で7.5cm程度である。爪先の方向にいくにしたがい孔の横幅は小さくなる。

鐙を吊るす部分は二段構成となっており、先端付近には径2cmほどの孔が穿たれている。ただしこの孔は両外側にいくにしたがい径が大きくなる。

なお、本品については柄杓とする意見もあるかと思われるが、その場合は柄にあたる部分が二段構成となり手に持つ際に不便とみられることや、孔が存在することから相応しい形状とはならない可能性がある。4区の溝状遺構SD004のⅡ層より出土した。

弓（図面177 － 1446）

両端を欠損する全長33.7cmを呈する弓とみられる木製品である。他の弓と異なり断面はむしろ板状を呈するが、これが欠損によるものかは不明である。他の弓と同様に4区の溝状遺構SD004のⅢ層より出土した。年代は不明である。

弓（図面177 － 1447）

全長72.7cmを呈する木製の弓である。断面は弭の部分を除き円形を呈し、最大径は2.5cmをはかる。弭の部分は最大長1.8cm、幅0.7cmをはかり、断面は前方にむけてやや先を細くする。4区の溝状遺構SD004より出土した。年代は不明である。

弓（図面177 － 1448）

片側を欠損するものの全長44.8cmを呈する木製の弓である。断面は弭の部分を除き円形を呈し、最大径は2.5cmをはかる。弭の部分は最大長2.1cm、幅1.0cmをはかり、断面は前方にむけてやや先細りとなる。4区の溝状遺構SD004のⅡ層より出土した。年代は不明である。

棒状木製品（図面177 － 1449）

全長56.0cmを呈する棒状木製品である。両端付近は断面形がやや台形を呈するものの、それ以外の部位は断面形方形を呈する。全体的に表面が削平されている。年代・用途とも詳細は不明である。4区の溝状遺構SD004より出土した。

棒状木製品（図面 177 － 1450）

人工的な加工により先端を尖らせた棒状の木製品である。片側端部は細かな加工により先端を尖らせるのに対し、他方はそのような状況が見受けられず欠損をしているものとみられる。現状では全長 51.5cm、最大幅 9.5cmをはかる。断面形は不正形ながら一部に平坦部を有する。4 区の溝状遺構 SD004 より出土した。年代・用途とも詳細は不明である。

木針（図面 177 － 1451）

全長 31.1cm、幅 2.2cm、厚さ 1.5cmを呈する。片側を欠損するが残存する他方は人工的な加工により先端を鋭角に仕上げ、また付近に 7.5mm程度の不整形の孔が穿たれている。年代・用途とも詳細は不明である。4 区の溝状遺構 SD004 のⅢ層より出土した。

箆状木製品（図面 177 － 1452）

全長 36.7cmを呈する外形が箆状の木製品である。片側端部は細かな加工により箆状に成形されている。断面形は浅い半円形を呈する。年代・用途とも詳細は不明である。4 区の溝状遺構 SD004 のⅡ層より出土した。

不明木製品（図面 177 － 1453）

片側端部を欠損するが、最大長 14.3cm、最大幅 5.8cmを呈する。直径 9mmの穿孔が貫かれる。外面は全体的に火を受けている。年代・用途とも詳細は不明である。4 区の溝状遺構 SD004 のⅡ層より出土した。

不明木製品（図面 177 － 1454）

柄杓のような外形を呈する全長 25.4cmの木製品である。最大幅 10.2cm、最小幅は 3.3cmを呈する年代・用途とも詳細は不明である。4 区の溝状遺構 SD004 のⅡ層下位より出土した。

第 4 節　5 区の遺構と遺物（図面 038 ～ 042、178 ～ 183）

検出遺構：掘立柱建物址 1 棟（SB001）、土坑 25 基（SK001 ～ 025）、
溝 4 条（SD001 ～ 004）、畝状遺構 121 条（SU）、井戸 1 基（SE001）、ピット 100 基（P）

遺構面は 2 面存在する。第 1 遺構面は古代（奈良平安時代）頃の畝状遺構群、第 2 遺構面は弥生～古墳時代の建物址、土坑、溝等が検出されている。調査区西側の一部は、遺構検出面が礫層となっているが、この範囲からも多数遺構が検出されている。本調査区で確認された建物址は掘立柱建物址 1 棟のみであるが、玉作関連遺構を確認している。

以下、主要遺構について記述する。

第 1 遺構面

畝状遺構（SU2 群）（図面 038）

調査区東側で 121 条確認されている。5 区の畝状遺構を便宜上 SU2 群とする。これらは南接する 6 区へと続くものである。大別新旧 2 時期に分けられ、新しい時期（東西）が 115 条と多く、古い時期（南北）は 6 条と非常に少ない。4 区第 2 遺構面で検出された畝状遺構とは新旧で方向が逆転しており、耕作地において作物の作りわけを行っていた可能性がある。また畝の条数については新しい時代のものの方が多く、4・5 区両地区ともに生産が拡大されたことを窺わせる。

	古い時期		新しい時期	
4区	東西方向	70条	南北方向	256条
5区	南北方向	6条	東西方向	115条

第1表　4区・5区畝状遺構　新旧条数表

第2遺構面（図面039）

掘立柱建物址

SB001（図面040）

調査区南端西寄りで検出された掘立柱建物である。現状では12基の柱穴が確認されているが、後世の撹乱等により掘方や柱穴を一部消失した可能性がある。よって本来は総柱建物であった可能性のほか、間仕切りを有する側柱建物の可能性も考えられる。南接する6区でも外見の類似する掘立柱建物が検出されているが詳細は不明である。

柱穴からは出土遺物がなく存続年代を窺う資料は希少であるが、柱列が乱れる箇所がみられるほか、方位が正方位に近い等の特徴より、中世以降の可能性も考えられる。

土坑（図面041）

SK001

調査区東端北側に位置する。長軸1.3 m、短軸0.96 m、深さ0.3 mを測る円形の土坑である。この土坑内からは管玉の未成品や石針、破損品、石鋸の破片等が多量に出土している。玉製作遺構の規模としては小さいことより、工房内で不要になった物を廃棄するための遺構であると考えられる。

SK002

SK001のすぐ西隣に位置する。長軸1.4 m、短軸1.3 m、深さ0.3 mを測る不整円形の土坑である。この土坑内からはSK001と同様、玉作関連遺物が出土しており、玉製作際の廃棄遺構であったと考えられる。

SK004

調査区南側の礫層面で確認された。長軸1.8 m、短軸1.74 m、深さ0.51 mを測る円形の深い土坑である。形状はすり鉢状で、覆土から土師器が多数出土している。

SK013

調査区北側西寄りに位置する。長軸2.55 m、短軸1.82 m、深さ0.38 mを測る長円形の土坑である。土坑内からは廃棄されたと見られる土器がまとまって出土しており、甕や壺が主である。時代は弥生から古墳時代である。

SK016

調査区南側中央に位置する。長軸2.78 m、短軸1.91 m、深さ0.24 mを測る長円形の土坑である。土坑の東側には土器がまとまって廃棄されている。土坑が使用されなくなってから廃棄場所となったようである。土器は甕が主で、時代は弥生時代である。

溝

SD003（図面042）

調査区東側を南北に走る。長さ9.6 m、幅0.72 m、深さ0.29 mを測る。緩やかに弧を描く短い溝で、西隣に位置するSD004を切る。溝内からは木製品や土師器が多く出土している。木製品（細い角材等）は底面付近に北側と南側で確認されたが、製品（日用品）と言えるものはほとんどなかった。むしろ転用したものの使用不能で廃棄処分されたような物である。中央付近には土師器がまとまって出土している。

ピット（P）

調査区中央に集中して検出された。100基確認されたうち、柱痕を確認できるものが数基ある。

井戸

SE001

調査区東側南寄りに位置する。礫層を掘り込み、底部には円形の木枠を配して作られているが、深さは遺構検出面から0.5 mと浅いものである。

5区出土遺物

土坑･溝より出土した土器のほか、玉作関連遺物、石器を確認している。以下Ⅰ．弥生土器･土師器、Ⅱ．玉作関連遺物、Ⅲ．石器に分け概要を述べる。

Ⅰ．弥生土器・土師器（図面178～182、第2表）

土坑出土土器は、概ね八日市地方9～10期に比定される。甕は加飾が少なく、口縁部内面に羽状刺突文（178 － 1456）、斜行短線文（179 － 1479）を施すものが一部見られるのみである。壷は頸部に斜格子文が施されるもの（178 － 1457）、体部に籠目がのこるもの（178 － 1460）が見られる。

調査区南端近くに位置するSK018からは二重口縁壷や高杯脚部が出土しており、古墳時代初頭の様相を呈している。

溝出土土器は主にSD003から多量に出土している。古墳時代初頭の下佐野式に帰属する。壷（179 － 1483）、高杯（179 － 1480･1481）、器台（179 － 1482）は丁寧なミガキ調整がなされ、赤彩が施されている。甕はくの字口縁が多い。台付のもの（180 － 1492）も見られる。有段口縁の甕（180 － 1484）は山陰系のもので、口縁端部がやや肥厚している。

SU・遺構外出土土器については、弥生土器は中期後半の八日市地方9～10期に帰属する。甕の口縁部内面に羽状刺突文、斜行短線文が見られる。弥生時代後期以降の土器は下老子Ⅲ－3～下佐野式に帰属するものが多い。甕は有段口縁に擬凹線をめぐらすもの、無文もの、くの字口縁のものが見られる。壷、高杯、器台、蓋は丁寧なミガキ調整がなされ、赤彩が施されている。

Ⅱ．玉作関連遺物（図面183、第3表）

管玉荒割工程品（図面183 － 1534～1536）

サイコロ状を呈しており、全面が剥離面で構成される。形状を整える調整ではなく、石核として用いられたものがある（183 － 1534）。3点ともに施溝分割の痕跡は認められない。石材は緑色凝灰岩（183 － 1534）と、鉄石英（183 － 1535・1536）である。

管玉形割工程品（図面183 － 1537～1542・1544）

ほぼすべてが角柱状を呈しており、施溝分割の痕跡が認められる。石材は緑色凝灰岩（183 － 1538・1540・1541・1544）と鉄石英（183 － 1537・1539・1542）である。

管玉研磨工程品（図面183 － 1543・1545～1555）

管玉完成品に近い法量となっており、多角柱状を呈する。1点（183 － 1543）を除いて全面に研磨が施されており、その中でも研磨が進行し円柱状になるものがある（183 － 1549・1554・1555）。また、上面に施溝分割の痕跡が認められるものがある（183 － 1546・1547・1550）。石材は緑色凝灰岩が1点（183 － 1549）、それ以外は鉄石英である。

管玉完成品（図面 183 － 1556・1557）

上半を欠損するもの（183 － 1556）と両側穿孔が明瞭に確認されるもの（183 － 1557）がある。石材はどちらも緑色凝灰岩である。

石針未成品（図面 183 － 1574 ～ 1578）

荒割工程は、裏面に自然面に残す大型剥片を素材としている（183 － 1574）。形割工程は、角柱状を呈しており施溝分割の痕跡を残しているものがある（183 － 1575・1576・1578）。また、裏面に研磨痕を確認されるもの（183 － 1576）もある。石材はすべて安山岩である。

石針完成品（図面 183 － 1558 ～ 1573）

石針の完成品の大きさは欠損部もあるが、4.4㎜～ 17.27㎜の幅で構成される。回転痕を残すもの（183 － 1558 ～ 1569･1571 ～ 1572）があり、管玉穿孔段階で使用したと考えられる。使用したものについては先端が丸まっているか欠損しているものが多い。また、U 字状の窪みが施溝分割の痕跡と考えられるものがある（183 － 1563）。石材はすべて安山岩である。

石鋸（図面 183 － 1579）

流紋岩製である。板状の素材を利用し側縁が研磨されている。玉作りに関連すると考えられる。

Ⅲ．石器（図面 183 － 1579 ～ 1582、第 4 表）

5 区からは、石斧片、石包丁、石鏃が出土している。

石包丁（183 － 1580）は砂岩製である。全体の 1/3 を欠損しているが、紐孔は残存しており穿孔の際の回転痕も明瞭である。

石斧（183 － 1581）は透閃石岩製の磨製石斧片である。破片であるが、残存部は研磨されている。

石鏃（183 － 1582）は黒色頁岩製の有茎石鏃である。左部分がわずかに欠損している。

第 5 節　6 区の遺構と遺物（図面 043 ～ 067、184 ～ 192）

検出遺構：掘立柱建物址 11 棟（SB601 ～ SB611）、
周溝状遺構 1 基、竪穴建物址 5 棟（SI701 ～ 703、 706、707）、
土坑 55 基（SK301 ～ SK355）、溝 34 条（SD201 ～ SD234）、畝状遺構 199 条（SU）、ピット 249 基（P）

遺構面は 2 面存在する。第 1 遺構面は古代から中世の溝・畝状遺構群、第 2 遺構面は弥生時代中期後半～古墳時代前期の建物址、土坑群が検出されている。

第 2 遺構面で確認された掘立柱建物址は調査区全体に広がるが、弥生時代終末～古墳時代初頭の遺構と目される周溝を持つ竪穴建物址は、調査区東側に偏って検出されている。また確認された土坑のうち、土坑墓の可能性を持つもの (SK304・308 ～ 311・313 ～ 316・318・334) は調査区西側に偏って検出されている。

以下、主要遺構について記述する。

第 1 遺構面（図面 043）

畝状遺構（SU2・3 群）

調査区全域に広がる。東西方向、南北方向、北西－南東の 3 種の方向が確認できる。調査区西側に位置する SD201 を境に畝状遺構の方向が異なっており、SD201 が畑跡の用水路のような機能を持っていたと推測される。大別して SD201 より西のものを 5 区から続く SU2 群、東側のものを SU3 群とする。SU2 群

は3つに細分可能である。南北方向の畝状遺構のうち、東西方向の畝状遺構を切っているものは調査区の南西にまとまり、切られているものは北西にまとまっている。これらより、SU3群（A）、SD201西側に広がる東西方向（B）、北西に広がる南北方向（C）、南西に広がる南北方向（D）の4単位に分けられる。重複関係により耕作時期は、C→A・B→Dの3時期に分けられる。

上記の調査結果と4・5区の成果を踏まえて、上層で検出された畝状遺構（SU1群～3群）の変遷を推測することができる（図面068）。

溝

SD201

調査区東端付近に位置し、南北方向にはしる溝状遺構である。現状では全長28.2 m以上、幅1.0～1.8 m、最大深0.3 mを測る。

当調査区が後世の開発により上面を削平されている可能性を鑑みるならば、周辺に所在する溝状遺構や土坑なども本来は同一の溝状遺構を呈していた可能性があるかと思われる。ただし、この東方のSD214については若干方位が異なるうえに一部切り合いもみられる。

その他の遺構

調査区北西側で焼土が確認されている。上面は撹乱を受けており、底面のみ残存した炉状の遺構と推測される。平面形は角丸三角形、断面形は浅い孤状を呈する。掘方の規模は長軸1.12 m、短軸0.98 m、深さ0.12 mを測る。焼土範囲の規模は長軸0.72 m、短軸0.63 m、厚さ0.02 mから0.04 mを測る。畝状遺構の空白範囲に位置し、重複関係においてもほぼ同じ時期と推定されることから、畝状遺構に伴う遺構と推測される。

第2遺構面（図面044）

掘立柱建物址

SB601（図面045）

調査区北西端付近で検出した掘立柱建物である。片側が調査区外に所在するため一部を検出したにとどまる。

確認された範囲では3基の柱穴が検出され、1間以上×1間以上の掘立柱建物になるとみられる。上面は削平されており、現状で掘方の平面形は円形を呈する。覆土の土層には柱痕が観察される。遺物はP525から出土しているが、細片のため詳細は不明である。

SB602（図面046・047）

調査区西端中央付近より検出された桁行3間×梁行1間の側柱構造を呈する掘立柱建物である。桁行5.0 m、梁行3.9 mをはかる。

平面形が円形を呈する掘方は8基検出され、そのすべての土層で柱痕が確認されている。遺物はP517・P529・P540・P553・P585・P5011・P5012から出土しており、古墳時代前期と推測される甕が確認されている。SB610と切り合うが新旧関係は不明である。

SB603（図面048）

調査区中央からやや北西の地点で検出された掘立柱建物である。溝状遺構SD220と重複し掘方等が不明な部分もあるが、2間×1間の側柱建物とする一案があると思われる。

前者とする場合は桁行3.90 m、梁行3.70 mをはかる。平面形が円形を呈する5基の掘方ないし柱穴からは、いずれも柱根やその痕跡も検出されていない。遺物はP5042～5044・P5046・P5047から出土して

いるが、細片のため詳細は不明である。

SB604（図面048）

調査区中央付近で検出された桁行2間×梁行2間の側柱構造を呈する掘立柱建物である。桁行3.2 m、梁行3.15 mである。

掘方ないし柱穴は、平面形が円形を呈する計4基が検出されている。覆土は柱根やその痕跡は確認できていない。遺物はP5096・P5115から出土しているが、細片のため詳細は不明である。

SB605（図面049）

調査区北側中央付近で検出された桁行2間×梁行1間以上の側柱構造を呈する掘立柱建物である。全体としては桁行3.67 m、梁行3.18 mをはかる。

平面形が円形を呈する計6基の柱穴を確認しており、このうちの2基からは柱根が検出されている。重複関係ではP5133･P5140が竪穴建物址SI707の周溝（SD231）を切り、P5058･P5087は撹乱を受けている。

SB606（図面049）

調査区北東部で検出された掘立柱建物である。現状では5基の柱穴を確認するのみで、桁行2間×梁行1間の側柱構造を呈するとみられる。全体としては桁行3.29 m、梁行2.91 mをはかる。

柱穴の覆土からはとくに柱痕等は確認されていない。遺物はP5030･P5032･P5059から出土しているが、細片のため詳細は不明である。重複関係ではP508･P563が撹乱を受ける。調査中には確認できなかったが、西端の柱穴は周溝状遺構を切る形で重複すると想定している。

SB607（図面050）

調査区東端で一部を確認した、掘立柱建物もしくは柵の可能性をもつ構造物である。現状では3基の掘方が確認されるのみで全体の規格等は不明である。掘方の一つからは土層観察より柱痕が確認されている。遺物の出土がなく直接的に年代をはかる資料は得られていない。

SB608（図面050）

調査区北東部で検出された桁行2間×梁行2間の総柱構造を呈するとみられる掘立柱建物である。全体としては桁行2.87 m、梁行2.85 mをはかる。

掘方ないし柱穴は平面形が円形を呈する計8基が検出されている。覆土からは遺物の出土がなく直接的に年代をはかる資料は得られていない。また柱痕なども確認されていない。竪穴建物址SI707と重複するが本址の方が新しいとみられる。

SB609（図面051）

調査区中央付近で検出された桁行3間×梁行1間の側柱構造を呈する掘立柱建物である。全体としては桁行5.03 m、梁行3.61 mをはかる。

掘方ないし柱穴は平面形が円形を呈する計8基が検出されている。そのうち1基で土層観察より柱痕が確認されている。覆土からは遺物の出土がなく、直接的に年代をはかる資料は得られていない。竪穴建物址SI706と重複するが本址の方が新しいとみられる。

SB610（図面046・047）

調査区西端中央付近より検出された桁行2間×梁行2間の側柱構造を呈する掘立柱建物である。桁行2.48 m、梁行2.08 mをはかる。

平面形が円形を呈する掘方及び柱穴が8基検出されている。そのうち1基の土層からは柱痕が確認されている。遺物はP5020・P5022・P5023・P5024から出土しているが、細片のため詳細は不明である。SB602と切り合うが新旧関係は不明である。

SB611（図面052）

調査区の西側で検出された布掘構造を呈する建物である。布掘は桁行両側にそれぞれ2箇所ずつ計4箇

所施されている。また梁行方向で柱穴は検出されていない。全体としては桁行 7.10 m、梁行 4.56 mを呈する主軸北西－南東の側柱建物である。

布掘構造は長い溝 (SX402・SX405) と短い溝 (SX403・SX404) が交差するように配置され、一段掘り下げた中に柱穴を 2 ～ 3 基設ける。それぞれ南西端溝を SX402(長軸 4.2 m、短軸 0.8 ～ 0.87 m)、南東端溝を SX403(長軸 2.57 m、短軸 1.07 ～ 1.19 m)、北西端溝を SX404(長軸 2.52 m、短軸 0.88 ～ 0.97 m)、北東端溝を SX405(4.20 m、短軸 0.82 ～ 0.97 m) とした。SX402 には P1 ～ 3 の 3 基、SX403 には P4･5 の 2 基、SX404 には P6･7 の 2 基、SX405 には P8 ～ 10 の 3 基の柱穴を確認できる。P1 ～ 10 は長軸 0.82 ～ 1.21 m、短軸 0.8 ～ 1.19 mを測る。平面形は概ね角丸方形、断面形は深い逆台形状を呈する。柱穴内には拳大～人頭大の礫が重鎮され、根巻石 (P2・4・5・8)、根石 (P3) を確認した。また柱痕を確認し、柱は径 0.2 ～ 0.3 mと推定される。

周溝状遺構（図面 053）

調査区北西端に位置する。約半分は調査区外に広がっており、規模は南北 12.07 m、東西 9.25 mの範囲を検出している。周溝より内側は大きく撹乱を受けている。SD211 以外は撹乱下部より検出された。SD211・216・217・SK312・SX401 は周溝、SK303・P507・511・514 は内部施設に相当すると推測される。SD216・217・SK312・SX401 は重複して検出されている。重複関係は SD216 が SD217 と SK321 を切り、SD217 は SX401 を切る。遺物は各遺構から多量に出土している。周溝内側の撹乱内からも多量の遺物が出土しており、周溝状遺構に伴う遺物と推測される。SK303 周辺では撹乱を除去すると、方形状のくぼみとなる。竪穴建物の可能性もあるが、遺物が極多量に出土しており、SI701 ～ 703・SI706・SI707 とは様相が異なる。また内部施設が不明瞭であることから竪穴建物とは明確にせず、周溝状遺構とした。

竪穴建物址

5 棟検出された竪穴建物址のうち、SI701・SI702・SI706・SI707 は外部施設として周溝をもつ建物であることを確認している。そのうち SI701・SI706・SI707 は重複しており、周溝をもつ竪穴建物の変遷をたどることのできる良好な資料である。

SI701（図面 054・055）

調査区中央やや南寄りに位置する。平面形は方形で、北と南に L 字状の周溝 (SD229・225) を持つ竪穴建物である。内部施設は周壁溝が全周に巡り、柱穴は不規則に 5 基検出された。炉跡は検出されなかった。建物と周溝の間には周堤を確認できなかったが、ピットを 7 基検出している。

規模は北西－南東 3.86 m、南西－北東 3.94 m、床面積 14.66㎡を測る。床は中央部が標高 12.26 m、周壁溝付近が標高 12.20 mと中央部が高くなっている。掘方までの深さは検出面から 0.16 mで、掘方も周囲が低く中央部が高くなっている。柱穴の規模は径約 0.22 ～ 0.34 m、深さ約 0.12 ～ 0.4 mを測る。柱穴 P5 は底面に柱材を確認できる。柱材は径約 0.1 m、残存高は腐食土を合わせて 0.18 mを測る。周壁溝は幅 0.08 ～ 0.24 m、深さ 0.07 ～ 0.14 mを測る。周溝の断面は浅い弧状を呈し、幅 0.37 ～ 0.77 m、深さ 0.13 ～ 0.18 mを測る。建物と周溝の間は約 2 mの幅を持つ。覆土 2 層は床面もしくは床面下部と推測される。

重複関係では SD229 が SD222、SB604(P5) に切られ、SD228・232 を切る。上面が削られていることを考慮しても、建物と周溝の深さは他の竪穴建物より浅く、周溝は簡略化され、柱穴は小さく不規則なものとなっている。遺物は高杯・甕など少量出土している。

SI702（図面 056）

調査区南側に位置する。建物南側の大半は撹乱により消失している。残存しているのは周壁溝の北東端と周溝 (SD226・234) の一部で、周堤は確認できなかった。周壁溝と周溝の間にはピットが 4 基検出され

ている。残存部分から復元すると、平面形は方形で北東部分が開口する周溝をもつ竪穴建物である。

規模は周壁溝の幅 0.19 ～ 0.25 m、深さ 0.08 mを測る。周溝は幅 0.52 ～ 0.94 mを測る。ピットは径約 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.12 ～ 0.2 mを測る。建物と周溝の間は約 2.25 ～ 2.38 mの幅を持つ。重複関係では SD226 が SD227 を切る。出土遺物は少量である。SI701 と類似しているが、SI701 よりやや大きく、周溝の開口部は少ないものと推測される。

SI703（図面 057）

調査区中央やや東寄りに位置する。平面形は角丸方形で、周溝を持たない竪穴建物である。内部施設は周壁溝がほぼ全周に巡り、南東部分が一部開口する。柱穴は４基検出された。炉跡は検出されなかった。

規模は北西－南東 3.37 m、南西－北東 3.54 m、床面積 10.99㎡を測る。床は中央部が標高 12.24 m、周壁溝付近が 12.13 mと中央部が高くなっている。柱穴はほぼ規則的に四方に配されている。柱穴は掘方底面で検出されたので、規模は不明瞭である。周壁溝は幅 0.22 ～ 0.46 m、深さ 0.2 ～ 0.31 mを測る。覆土は 3･4 層が床面と推測される。5 ～ 7 層は互層になっており、5・7 層は中央部にのみみられ、炭化物が炭状に入る。

重複関係は SI707 周溝 (SX406) を切り、SI706 周溝 (SD228) に切られる。遺物は高杯・壷・甕などの土器と砥石などで、やや多量に出土している。

SI706（図面 058・059）

調査区中央やや北寄りに位置する。平面形は方形で、円形に近い隅丸方形の周溝を持つ竪穴建物である。外部施設は溝 (SD230)1 条、内部施設は柱穴５基、炉１基、土坑１基、周壁溝を検出している。

総規模は北西－南東 11.1 m、南西－北東 11.4 m、総面積 121.54㎡を測る。建物規模は北西－南東 5.75 m、南西－北東 5.6 m、面積 29.16㎡を測る。建物と周溝の間は約 2 ～ 2.25 mの幅を持つ。床は中央部が標高 12.20 m、周壁溝付近が標高 12.16 mと中央部が高くなっている。検出面から掘方までの深さは 0.1 ～ 0.15 mで、掘方も周囲が低く、中央部が高くなっている。柱穴は建物の四方に配置されている。円形を呈し径約 0.41 ～ 0.66 m、深さ 0.35 ～ 0.47 mを測る。柱穴には柱痕を確認でき、柱は径約 0.15 ～ 0.2 mと推定される。炉跡は建物のほぼ中央に位置する。円形を呈し径約 0.5 m、深さ 0.12 ～ 0.15 mを測る。覆土は炭化物を多量に含むが、被熱面は確認できなかった。土坑は周壁溝の開口部付近に位置する。円形を呈し径約 0.7 m、深さ 0.43 mを測る。覆土には多量に炭化物を含むが、機能は不明である。周壁溝は南東部分で開口する。幅 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.11 ～ 0.16 mを測る。周溝は建物の周囲を円形に巡り、南東部分で開口する。幅 0.3 ～ 0.6 m、深さ 0.18 ～ 0.3 mを測る。覆土は 16 層が床面と推測される。SD230 は建物と周溝の間にあり、建物の北西からのびＬ字状を呈する。幅 0.31 ～ 0.34 m、深さ 0.1 ～ 0.15 mを測る。

重複関係では P1・2 が SB609(P5145・5147) に、周溝が SD222・SI701 周溝 (SD229) に切られる。また、周溝が SI703・SI707 周溝 (SD231・232)・SI707 を切る。遺物は高杯・壷・甕など多量出土している。特に周溝南側に集中している。

SI707（図面 060 ～ 063）

調査区北側東寄りに位置する。平面形は方形で、連結土坑をもつ竪穴建物である。外部施設は周溝 (SD231・232・SK338・340 ～ 343・348 ～ 354・SX406・407)、SD233、ピット７基、内部施設は柱穴６基、炉１基、土坑２基、溝２条、周壁溝を検出している。

総規模は北西－南東 14.08 m、南西－北東 16.84 m、総面積 399㎡を測る。建物規模は北西－南東 7.28 m、南西－北東の残存部分 8.28 m、面積 57.65㎡を測る。建物と周溝の間は約 2 ～ 5 mの幅を持つ。床は中央が標高 12.24 m、周壁付近が 12.19 mと中央部が高くなっている。掘方までの深さは検出面から 0.1 ～ 0.3 mで、掘方も周囲が低く、中央部が高くなっている。柱穴は建物の四方 (P1 ～ 4) と P1 と P4 の間に P5・6 が配されている。四方のものは大型で、P5・6 は小型である。平面形は円形を呈し、大型は径約 0.6 ～

0.89 m、深さ 0.44 ～ 0.6 m、小型は径約 0.2 ～ 0.3 m、深さ約 0.3 mを測る。P2・3・4 では柱痕を確認でき、柱は径約 0.14 ～ 0.22 mと推定される。炉跡は建物のほぼ中央部に位置する。円形を呈し径約 0.8 m、深さ 0.2 mを測る。掘方には径約 0.08 mの杭の痕跡 (SI707B 第 15 層) を確認できる。覆土は炭化物を極多量に含んでいるが、被熱面は確認できなかった。土坑は建物の南西部 (SK1) と南東部 (SK2) の周壁溝付近に位置する。円形を呈し径約 0.7 ～ 1.1 m、深さ 0.36 ～ 0.48 mを測る。SK2 には 2 条の溝 (SD1・2) が連結し、炉跡方向に延びている。周壁溝は南西部分を SI706 に切られ、建物縁辺を 1 周巡るかは不明である。幅 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.12 ～ 0.16 mを測る。覆土は SI707A16 層・SI707B3 層が床面と推測される。SD233 は建物の北西から L 字状にのび、先端は SI701 周溝 (SD229) に切られている。幅 0.33 ～ 0.44 m、深さ 0.19 m を測る。

連結土坑は建物の周囲を円形に巡り、北西に SD231、南西に SD232、南に SX406 と土坑群 (SK348 ～ 354)、東に SX407、北東に土坑群 (SK338・340 ～ 343) を配し、建物の四隅に当たる東西南北と南東において開口する。SD231 は全長 15.4 m、幅 0.8 ～ 2.4 m、深さ 0.1 ～ 0.4 mを測る。SD232 は全長 8.14 m、幅 0.8 ～ 3.1 m、深さ約 0.2 ～ 0.3 mを測る。SX406 は長軸 5.19 m、短軸 3.58 m、深さ 0.2 ～ 0.34 mを測る。SX407 は角丸方形の平面形を呈し長軸 5.6 m、短軸 4.64 m、深さ 0.1 ～ 0.32 mを測る。

重複関係は SD201・SI701 周溝 (SD229)・SI706・SI706 周溝 (SD228)、SB605・608・609 に切られる。遺物は高杯・鉢・壷・甕など多量に出土している。特に SD231 では南西端と北東端に集中している。

SD233 と SK1・2 については SI706 の SD230 と SK1 と共通する施設であるが、機能等は不明である。

土坑

調査区西側で検出された土坑群の中には箱状に土層が堆積しているものを確認でき、木棺を納めた跡である可能性を持つ。

SK307（図面 064）

調査区北側西寄りに位置する。北側を撹乱に切られているが、平面形は楕円形になるものと推測される。断面形は階段状を呈し、西側が浅く東側が深くなっている。推定規模は長軸 1.08 m、短軸約 0.63 m、深さは浅い部分 0.06 m～ 0.18 m、深い部分 0.38 mを測る。出土遺物は上層から多量に出土し、下層には少量の遺物を含む程度である。

SK345（図面 064）

調査区中央南寄りに位置する。平面形は角丸方形である。断面形は箱状を呈し、掘方の半ばでは内傾する部分が一周巡る。規模は長短軸 1.35 m、深さ 0.58 mを測る。遺物は高杯・壷・甕等多量に出土している。3 層からは木片などの有機物が出土している。

SK308（図面 064）

調査区西側やや北寄りに位置する。平面形は角丸長方形で、断面形は階段状を呈する。規模は長軸 2.02 m、短軸 1.69 m、深さは 0.2 ～ 0.4 mを測る大型の土坑である。断面観察より、土坑縁辺の土層 (5 層) が垂直に堆積し、箱状を呈することが確認された。箱状部を復元すると長軸約 1.52 m、短軸約 1.4 mと推定される。遺物はやや多量出土している。

SK309（図面 065）

調査区西側南寄りに位置する。平面形は楕円形で、断面形は階段状を呈する。規模は長軸 2.41 m、短軸 2.28 m、深さ 0.14 ～ 0.46 mを測る大型の土坑である。断面観察より、3 ～ 7・9 層が箱状に堆積していることを確認できた。この箱状の位置は平面での深い部分と一致する。平面形は角丸長方形で、長軸約 1.6 m、短軸約 1.4 mを測る。遺物は甕などやや多量に出土している。

SK311（図面065）

調査区南西隅に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長軸2.62 m、短軸1.71 m、深さ0.31～0.37 mを測る大型の土坑である。断面観察より、7・8層を切るように1～6・9・10層が箱状に堆積していることを確認できた。箱状部を復元すると、平面形は長方形で長軸2.2 m、短軸1.2 mを測る。遺物は甕を中心に円盤状土製品・石鏃・鉄石英の石核など多量に出土している。7・8層には遺物はなく、箱状堆積土層の1～6・9・10層から出土している。特に6層で多量に出土している。

SK314（図面066）

調査区西側南端寄りに位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長軸0.95 m、短軸0.6 m、深さ0.24 mを測る小型の土坑である。断面観察より、1層が2層を切るように箱状に堆積していることを確認できた。遺物は少量出土している。

SK315（図面066）

調査区南西隅に位置し、約半分は調査区外である。残存部分から推定すると、平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈し中場を有する。規模は残存長0.97 m、短軸1 m、深さ0.46 mを測る中型の土坑である。断面観察より、6層を切るように1～5層が箱状に堆積していることを確認できた。箱状部を復元すると、平面形は長方形で残存長0.8 m、短軸0.7 mを測る。重複関係はSK311に切られる。遺物は少量出土している。

SK316（図面067）

調査区南西端西寄りに位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈し中場を有する。規模は長軸1.67 m、短軸1.46 m、深さ0.3～0.35 mを測る中型の土坑である。断面観察より、3層を切るように1・2・4～6層が箱状に堆積していることを確認できた。箱状部を復元すると、平面形は長方形で長軸1.3 m、短軸0.8 mを測る。遺物は少量出土している。

SK318（図面066）

調査区西側南西端寄りに位置する。平面形は楕円形で、断面形は階段状を呈する。規模は長軸1.16 m、短軸0.81 m、深さ0.11～0.3 mを測る小型の土坑である。断面観察より、3・4層が箱状の中に堆積していることを確認できた。箱状部は長方形で、長軸0.9 m、短軸0.7 mを測る。重複関係はSK314に切られる。遺物は少量出土している。

SK334（図面067）

調査区西側南寄りに位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長軸1.31 m、短軸1.27 m、深さ0.3～0.32 mを測る小型の土坑である。断面観察より、1層が3層を垂直に切るように箱状に堆積していることを確認できた。SK314と類似している。重複関係はSB611（SX404）に切られる。遺物は少量出土している。

6区出土遺物

6区では建物址・土坑から多量の土器が出土している。その他、少量の玉製品と石器が出土している。以下Ⅰ．弥生土器・土師器、Ⅱ．その他の遺物に分け概要を述べる。

Ⅰ．弥生土器・土師器（図面184～192、第2表）

周溝状遺構出土土器（図面184・185）

概ねⅢ－3～下佐野式段階に帰属する。甕、壷、高杯、器台、鉢、蓋が出土している。甕は有段口縁とくの字口縁が見られるが、後者のほうが目立つ。有段口縁のものに擬凹線をめぐらすものは少ない。壷、高杯、器台、鉢、蓋には丁寧なミガキ調整がなされ、赤彩を施すものも目立つ。

建物址出土土器（図面 186 ～ 189）

周溝を持つ竪穴建物であるSI707・SI706・SI701は、調査区中央で重複している。

まず、連結土坑状の周溝を持つSI707出土土器は、SX406、SX407、SD231、SD232から多量に検出されている。概ね下老子Ⅲ－２～Ⅲ－３式に帰属する。甕は有段口縁もの、有段口縁に擬凹線をめぐらすもの、くの字口縁のものが見られるが、くの字口縁甕は少ない。SX406とSD231は擬凹線の多用や刻み目、波状文など古い様相を呈す。一部下佐野式に帰属する器台(186 － 1633、187 － 1652)も見られる。SI707を切るSI706出土土器はⅢ－３～下佐野式に帰属すると思われる。甕、壷、高杯、鉢が見られる。甕はくの字口縁のものである。SI706を切るSI701出土土器は、Ⅲ－３～下佐野式に帰属すると思われる。甕は有段口縁とくの字口縁が見られ、やや古い様相を呈すが、小型器台(186 － 1615)は下佐野式段階以降見られるものである。

調査区南側に位置するSI702は、出土土器が少量で詳細は不明である。周溝より出土した甕（186 － 1619）はくの字口縁のもので、端部は丸縁である。

SI706の南東に位置し、SI706周溝（SD228）に切られるSI703出土土器は、Ⅲ－２～Ⅲ－３式に帰属すると思われる。甕（186 － 1620）はくの字口縁で端部は付加状のものである。器台脚部（186 － 1621）には擬凹線と刻み目が見られる。壷（186 － 1622・1623）には丁寧なミガキ調整と赤彩が施される。

調査区南西端に位置するSB611（布掘建物）出土土器は、SX402ではやや古相を呈するが、SX404・405出土土器は下老子Ⅲ－３～下佐野式に帰属すると考えられる。

土坑出土土器（図面 190・191）

SK308、SK309、SK311出土土器は、弥生時代中期後半の八日市地方９～10期に並行するものである。甕や壷の加飾表現は、櫛状工具による連続刺突文や羽状刺突文が主体であり、直線文や斜行短線文は見られない。器面調整はハケメ調整の後、体部下半にミガキ調整を施すものが多い。底部の調整については底面のケズリ調整が目立つ。

SK345は下老子Ⅲ－２～Ⅲ－３式に帰属する。壷、器台、鉢、蓋が見られる。壷と蓋は丁寧なミガキ調整が施されている。

SK304、307、322、330出土土器は下佐野式まで下ると考えられる。甕はくの字甕で平縁のもの（191 － 1704）、丸縁のもの（191 － 1703）が出土している。壷は二重口縁壷（191 － 1705）が出土している。

SU・遺構外出土土器（図面 191・192）

おもに下老子Ⅲ－２～下佐野式に帰属する土器がみられる。甕は有段口縁、有段口縁に擬凹線をめぐらすもの、くの字口縁のもの、受口状口縁のものが見られる。壷はフラスコ形の胴部のもの（192 － 1726）、口縁部に棒状浮文を貼付するもの（192 － 1737）が見られる。

Ⅱ．その他の遺物（図面 192 － 1746、第２～４表）

円盤状土製品、石鏃、ガラス玉が出土している。

石鏃（192 － 1744・1745）は、流紋岩製で茎部が欠損しているもの（192 － 1744）と、凝灰岩製の有茎石鏃（192 － 1745）である。

ガラス玉（192 － 1746）は、SI705から１点出土している。

第6節　7区・7b区の遺構と遺物（図面069～071、193・194）

検出遺構：7区　土坑6基(SK301～305・310)、溝7条(SD201～207)、畝状遺構10条(SU101～110)、ピット23基(P)

7b区　掘立柱建物2棟(SB601・602)、土坑1基(SK301)、溝8条(SD201～207・209)、畝状遺構3条(SU)

多数の遺構・遺物が検出された5・6区の東側に位置する調査区であるが、7区・7b区ともに遺構の分布は希薄であり、遺物の出土もほとんどなかった。しかし一方で、区画するように配された溝(SD202・203・205・206)が検出されており、その区画内には掘立柱建物址2棟を確認している。

以下、主要遺構について記述する。

7区畝状遺構(SU3群)（図面069）

調査区北西端付近に位置する畝状遺構である。6区SU3群から続くものである。SU101をはじめとする同一方位の小規模溝状遺構により構成される。遺構は最深部でも0.1m程度であり上面を削平されているものとみられる。出土遺物はとくに出土せず年代等は不明である。

7区土坑

SK310（図面070）

7区の北端付近に所在する土坑である。とくに遺構群の一角をなすことなく単独で検出されている。平面形は逆三角形にちかい不整円形を呈し、長径3.15m、短径2.65m、最大深0.85mを呈する。暗灰褐色土層の下に樹皮が敷かれているが、用途等は不明である。

7区溝

SD201（図面070）

調査区南西部においてやや弧を描きはしる溝状遺構である。北東端は調査区外へと達する。隣接する6区の溝状遺構SD206がこの延長部分の可能性があるかと思われる。一方の端部は調査区南端付近で終結するが、同様のライン上にある7b区SD202と本来は同一の溝状遺構であった可能性がある。

調査区外の延長部分をのぞき、現状では全長29.5m、幅0.6～1.5m、深さは0.15m程度である。中世土師器（193－1747）を出土した。

SD203

調査区南東部において検出された溝状遺構である。調査区南端の中央付近から北上した後に東方へ90度近く屈曲し、さらに東端付近でも90度近く屈曲し調査区外に達する。幅は0.4～1.8mと所により差異がある。深さは0.20～0.35m程度である。

覆土からは漆器が出土しており中世から近世の存続年代が想定される。同時に、本址を含む区画溝と掘立柱建物の年代も同様の時期が検討される。

7区・7b区土地区画

複数の溝状遺構をもって土地を方形に区画されている箇所をさす。ある程度正方位を意識して造営したとみられ、東西方向の溝の配置には規則性が窺えるものの、南北方向は外反傾向にある。各遺構の深度を

鑑みるに後世の開発により部分的に消失している可能性もあるが、7区及び7b区においては4箇所の区画が残存する。

上記のうち北端に位置する区画は、東方を7区SD203に、南方は同SD205と206で区画される。西方は同SD202の延長部分とみられる溝状遺構により区画されるが、北方には明確な溝等は検出されていない。区画内には土坑やピット数基が検出されている。

北から2番目に位置する土地区画は、東方と南方を7区SD203により形成され、北方は同SD205と206に、西方はSD202により区画される。北方及び西方には溝の途切れる部分がみられるが、これが有機性をもつか後世の削平によるものかは不明である。区画内部において遺構は検出されていない。

北から3番目にあたる区画は7区から7b区にわたり所在する。7b区SD207と同SD205により東方と南方が区画され、西方は両区にまたがる二重の溝により区画される。北方は7区SD203により区画されているかにみえるが、両調査区の境界付近に別の区画溝が所在する可能性もあるかと思われる。また東側は7区の部分で区画溝が検出されていない。区画内には掘立柱建物SB601のほか、ピット数基が検出されている。

南端に位置する土地区画は、東方と南方を7b区SD207に、北方は同SD205により区画される。西方については調査区外に達するため未確認であるが、SD204らによって区画されているものと思われる。区画内部には掘立柱建物SB602のほか、土坑SK301が検出されている。北方の区画溝には一部途切れる部分があり、2棟の掘立柱建物をほぼ最短距離でつなぐ状況にあるが、これが故意によるものかは不明である。ちなみに当該地付近の溝の深さは遺構確認面から0.08 mと非常に浅い。

7b区掘立柱建物

SB601（図面071）

7b区から検出された2間×2間の総柱構造を呈する掘立柱建物である。周囲を溝により区画され、その中央よりやや東方に選地されている。隣接するSB602も同様に周囲を溝により区画される。

規模は桁行3.8 m、梁行3.5 m、柱間は等間となる可能性がある。方位は正方位に対し若干西側にふれる程度である。

柱穴は平面形が円形を呈する計9基検出されているが、いずれも規模が大きくはないため、上面は後世の削平を受けているとみられる。覆土は9基すべてが単一層であり柱根の痕跡も検出されていない。西列中位の柱穴の位置がやや特異であるが、掘抜き穴を伴う可能性もあるかと思われる。

柱穴からは特に出土遺物はないが、周辺に位置する区画溝の7区SD203は漆器の出土により中世から近世の存続年代が想定されており、本址についても同時期の可能性がある。ちなみに柱穴と区画溝の覆土は類似する。

SB602（図面071）

7b区から検出された2間×2間の現状で側柱構造を呈する掘立柱建物である。上述のSB601と同様に周囲を溝により区画されるが、本建物は区画の中央付近に位置する。

規模は桁行4.0 m、梁行3.6 m、柱間は等間となる可能性がある。方位は正方位に近いがSB601よりもさらに西側にふれ同方位とはならない。

柱穴は平面形が円形を呈する計8基検出されているが、いずれも規模が大きくなく、深度も浅い。また、8基すべてが単一層であり柱根の痕跡も検出されていないことから上面は後世の削平により消失しているとみられる。またこれにより掘方や本来存在した柱穴も失われた可能性がありうる。

周辺に位置する区画溝の7区SD203は漆器の出土から中世から近世のものとみられ、また柱穴と区画溝の覆土が類似することから本址も同時期の可能性が考えられる。

7区・7b区出土遺物

7区・7b区からは古代以降の遺物が主である。少量ではあるが玉作関連遺物、石器も出土している。以下Ⅰ．弥生土器・土師器、Ⅱ．古代土師器・須恵器・その他、Ⅲ.玉作関連遺物、Ⅳ．石器と分け概要を述べる。

Ⅰ．弥生土器・土師器（図面 193 － 1750 ～ 1755・1766・1767、第2表）

甕、壷、高杯が見られるが、少量のうえ細片である。加飾としては口縁部外面に連続刺突文、内面に羽状刺突文を確認できる。

Ⅱ．古代土師器・須恵器・その他（図面 193、第6表）

古代土師器（図面 193 － 1748）

7区の溝状遺構 SD201 より出土の土師器の椀である。口径 13.0cm、器高 4.1cm、底径 5.0cmを呈する。焼成は良好で内外面に回転ナデを施す。

中世土師器（図面 193 － 1747・1756・1757）

1747 は、7区溝状遺構 SD201 より出土の土師器の皿である。口径 9.2cm、底部を欠くが現状では残存高 1.4cmを呈する。焼成は良好で内外面に赤彩を有する。

1756 は、7区のⅡ～Ⅲ層で検出した土師器の皿である。破片が小さく口径や器高等は不明である。残存する範囲では、内外面ともヨコナデがなされるが、焼成は良好で、外面では指頭痕もみられる。

1757 は、7区より検出した土師器の皿である。口径 12.0cm、器高 2.5cm、破片が小さく口径や器高等は不明である。残存する範囲では、内外面ともヨコナデがなされるが、焼成は良好で、外面では指頭痕もみられる。

古墳時代須恵器　杯蓋・杯身（図面 193 － 1758・1759）

1758 は、7区のⅡ～Ⅲ層にかけて検出された古墳時代の須恵器の蓋杯である。口径 12.0cm、器高 3.95cmを呈する。焼成は良好で内外面とも回転ナデがみられる。

1759 は、7区の遺構外より出土の古墳時代の須恵器の杯身である。口径 12.2cm、残存の器高 3.8cmを呈する。焼成は良好で内外面とも回転ナデが確認できる。

古代須恵器　壺（図面 193 － 1749）

7区の溝状遺構 SD202 より出土の須恵器の壺の口縁部である。口径 14.6cm、残存の器高 6.3cmを呈する。焼成は良好で内外面とも回転ナデ、外面には叩目がみられる。

灰釉陶器（図面 193 － 1769）

7b 区の遺構外より出土の灰釉陶器であり椀とみられる。底径は 6.4cmを呈する。底部はヘラ削りである。K 90 型式に該当すると思われる。

珠洲　壺・すり鉢（図面 193 － 1761・1762・1764・1765）

1761 は、7区のⅡ層から出土した珠洲の壺の口縁部である。破片が小さいため口径は不明である。口唇部及び口縁部外面に横描波文がみられる。

1762 は、7区遺構外より出土した珠洲のすり鉢である。一部の出土にとどまるため口径は不詳、残存高は 5.4cmを呈する。基本的には回転ナデにより調整され、12 条一組の擦目がみられる。

1764 は、7区遺構外より出土の珠洲のすり鉢である。一部の出土にとどまるため底径等は不詳である。外面はロクロナデ、内面には 11 条一組の擦目がみられる。底外面は糸切りか。

1765 は、7区遺構外より出土の珠洲のすり鉢である。一部の出土に留まるものの口径は 30.0cmを呈するとみられる。内外面とも回転ナデ、内面には擦目が確認できる。

陶器（図面 193 － 1763・1770）

1763 は、7 区の遺構外より出土の陶器のすり鉢である。高台付近を出土したにとどまるが底径は 17.2cm をはかる。外面はロクロナデ、底外面は糸切り、内面は擦目がみられる。

1770 は、7 区の遺構外より出土の肥前の皿とみられる。底径 7.4cmを呈し内外面ともロクロナデが確認できる。

Ⅲ．玉作関連遺物（図面 193、第 3 表）

荒割工程品（図面 193 － 1771・1772）

上面に自然面を残すもの（193 － 1771）と、一面に研磨を施されるもの（193 － 1772）がある。どちらも荒割の最終形を表していると考えられる。2 点とも施溝分割の痕跡は認められない。

管玉形割工程品（図面 193 － 1773）

角柱状剥片であり、表面には研磨痕が確認される。しかし、施溝分割の痕跡は確認できない。

石針完成品（図面 193 － 1775）

長さ 13.67㎜、幅 1.60㎜、厚さ 1.60㎜、重量 0.2g を測る。先端に回転痕が確認される。石材は安山岩である。

剥片（図面 193 － 1774）

メノウ製の剥片である。石材から実用の石器というよりも玉作りに関連すると考えられる。

Ⅳ．石器（図面 193・194、第 4 表）

打製石斧と石鏃が出土している。

無茎石鏃（193 － 1776）は安山岩製で、先端は欠損している。

打製石斧のうち、ホルンフェルス製の撥型石斧（194 － 1777）は、背面に自然面を残すが、両面からの加工によって整形されている。凝灰岩製の分銅型石斧（194 － 1778）は、背面に自然面を残すが、両面からの加工によって整形されている。下端には擦痕が見られ、使用痕の可能性も考えられる。いずれも表土中から出土している。

第 7 節　8 区の遺構と遺物（図面 072 ～ 080、194・195）

検出遺構：方形周溝墓 11 基 (SZ301 ～ 311)、土坑 7 基 (SK201 ～ 207)、溝 1 条 (SD101)、
畝状遺構 36 条 (SU401 ～ 436)

本調査区は大部分が礫層であるが、この礫層範囲からも方形周溝墓が検出されている。多数に及ぶ方形周溝墓の検出により、本調査区が弥生時代中期の墓域であることが判明した。しかし本調査区内では、これらの墓を造営したと考えられる人々の集落は確認されていない。

以下、主要遺構について記述する。

畝状遺構（SU4 群）（図面 072）

調査区の南西部と東端部で検出された畝状遺構である。便宜上 SU4 群とする。後世の開発等により上面を削平され現状はその残存部分のみが検出されているにすぎない可能性がある。南西部では主に南南西－北北東、東端部では北西－南東方向に走る。出土遺物はとくになく年代等は不明である。

方形周溝墓

11基の方形周溝墓を確認している。その配置は、調査区の南西隅から北西方向に向かって緩やかな弧を描いている。形態としては、単体で造営されるものと、隣同士で溝を共有するものに分けられる。またSZ301・302・304は砂層ないしシルト層の部分から検出され、他は礫層より検出されている。

SZ301（図面073）

調査区南西隅に位置する。南側の大部分が調査区外となるため、全体の規模は不明である。周溝の幅1.5～2.2 m、深さ0.3～0.54 mを測る。北側に陸橋を持つ。埋葬施設は確認できなかった。遺物は東溝から弥生土器が出土している。西溝からの出土遺物は確認できなかった。

SZ302（図面074・075）

調査区南端西寄りに位置する。主軸は北西－南東方向である。墳丘規模は長軸8.88 m、短軸7.27 mを測り、北西溝中央部が三角状にやや突出し、南角が陸橋部となる。周溝の幅は0.5～2.86 m、深さ0.28～0.56 mを測る。埋葬施設は確認できなかった。遺物は周溝全体から出土している。ほぼ完形の弥生土器は周溝両末端部に集中して確認されている。

覆土6層より採取された炭化物の放射性炭素年代測定結果からは、紀元前1世紀～1世紀前半に相当する結果を得ている。

SZ303（図面076）

調査区中央に位置する。礫層上で検出された最大のもので、主軸は真北よりやや西に傾く。墳丘規模は長軸11.9 m、短軸8.6 mを測る。周溝は東西南北の4条に分かれる。南溝がL字状を呈し、SZ306東溝と繋がっているが、新旧関係は不明である。周溝の規模はすべて異なり、西側のものが最大で全長10.8 m、最大幅2.5 m、検出面からの深さは0.65 mを測る。東側は全長9.8 m、最大幅1.38 m、深さ0.43、北側は全長5.1 m、最大幅1.56 m、深さ0.34 mを測る。南側は全長6.6 m、最大幅1.24 m、深さ0.3を測る。埋葬施設はSK205の可能性もあるが不明である。西側周溝と東側周溝から弥生土器が出土している。

SZ304（図面077）

調査区北側に位置する。主軸は北北西－南南東方向にやや傾く。南側では周溝は確認されず、周溝はコの字状を呈する。墳丘規模は南西－北東方向で4.56 mを測る。周溝の幅は0.2～0.62 m、深さ0.16～0.22 mを測る。埋葬施設、遺物は確認できなかった。

SZ305（図面077）

調査区中央南寄りに位置し、礫層より検出された。周溝は隅が切れるものである。主軸は真北よりやや東に傾く。墳丘規模は東西方向で4.1 mを測る。周溝は長軸2.26～3 m、最大幅1.1 m、深さ0.18 mを測る。北溝があるべき位置には比較的浅いSK206が検出されている。SZ305とSK206の関連性は不明である。埋葬施設、遺物は確認されなかった。

SZ306（図面078）

調査区中央SZ303とSZ305の間に位置し、礫層より検出された。西側と東側で溝を確認しているが、東側の周溝は北端でL字状に西方向に屈曲し北溝となる。この北溝は、北側に位置するSZ303と共有している。北溝と東溝は繋がっているが、切り合い関係は不明である。主軸はほぼ南北方向で、墳丘規模は東西5.52 mを測る。西溝と東溝は位置が少しずれ、大きさも異なる。西溝は長さ5.24 m、最大幅0.82 m、深さ0.14 m、東溝は長さ6.72 m、最大幅1.32 m、深さ0.16 mを測る。埋葬施設は確認できなかった。

SZ307（図面078）

調査区中央北端近くに位置し、礫層より検出された。周溝は隅が切れるものである。西側を除く3方向で周溝が確認された。主軸はほぼ南北方向である。墳丘規模は南北方向で6.8 mを測る。周溝は長さ3.02～3.75 m、最大幅0.92～1 m、検出面からの深さ0.2～0.28 mを測る。埋葬施設は確認できなかった。

東溝からは弥生土器が出土している。

SZ308（図面 079）

調査区中央北端近く、SZ307 の北西に位置し、礫層より検出された。北溝を除く 3 方向で周溝が確認された。主軸は真北よりやや西に傾く。墳丘規模は東西方向で 5.13 m を測る。東溝は北側と南側で二分され、形状もやや異なる。南側では L 字状に屈曲し、西方向に延びる。この部分では SZ308 が SZ310 の北溝を切って重複している。西溝は長さ 4.5 m、最大幅 0.88 m、深さ 0.38 m を測る。東溝北側は長さ 4.36 m、最大幅 1.5 m、深さ 0.34 m、南東溝は幅 0.32 ～ 0.82 m、深さ 0.2 m を測る。埋葬施設、遺物は確認できなかった。

SZ309（図面 079）

調査区北端、SZ308 の北西、SZ304 の東に位置し、礫層より検出された。西側を除く 3 方向で周溝が確認された。主軸は北北西－南南東に傾く。墳丘規模は南北方向で 6.2 m を測る。東溝は北端が L 字状に西方向へ屈曲し北溝を形成するが、北溝部分は 1.3 m と非常に短い。南溝は長さ 3.9 m、最大幅 0.9 m、深さ 0.16 m を測る。北東溝は幅 0.32 ～ 0.82 m、深さ 0.2 m を測る。埋葬施設、遺物は確認できなかった。

SZ310（図面 080）

調査区中央北寄り、SZ307 の西、SZ308 の南に位置し、礫層より検出された。北と東の 2 方向で周溝が確認された。主軸は北北東－南南西に傾く。墳丘規模は不明である。北溝は SZ308 に切られ重複している。長さ 2.06 m、最大幅 0.9 m、深さ 0.22 m を測る。

東溝は長さ 4.62 m、最大幅 0.86 m、深さ 0.26 m を測る。埋葬施設、遺物は確認できなかった。

SZ311（図面 080）

調査区北側、SZ308 の西、SZ304 の南に位置し、礫層より検出された。検出された溝の形状から、1 基以上の周溝墓が重複していると考えられるが判然としない。北北西から南南東に延び東に屈曲するライン を SZ311 とし、SZ308 の西溝が SZ311 と共有すると考えるなら、墳丘規模は東西方向で約 7.4 m を測る。南側に突出する部分は深さ 0.05 m と非常に浅い。埋葬施設は確認できなかった。北側の長さ 2.3 m、最大幅 1.22 m、深さ 0.32 m を測る掘り込みからは弥生土器が 1 個体出土している。

8 区出土遺物

遺物量は少ないが、方形周溝墓の溝内よりほぼ完形の弥生土器が出土している。

弥生土器（図面 194・195、第 2 表）

方形周溝墓からの出土のため少量ではあるが、主に弥生時代中期後半の八日市地方 9 期に帰属すると思われる。

SZ301 からは鉢が出土している。外傾する体部をもち、内外面ともハケメ調整がなされている。

SZ302 からは甕、壺、鉢が出土している。甕、壷の口縁内面には羽状刺突文が加飾されている。甕（195 － 1784）は外面全体に斜め方向のハケメ調整を施すが、頸部のみさらに横方向になされる。肩部の一部には櫛状工具による刺突文が見られる。壺は長胴で大型のもの 2 個体（194 － 1782、195 － 1783）と、小型のもの 1 個体（195 － 1785）が出土している。いずれも口縁下端部に連続刻み目が施される。器面はハケメ調整の後、ナデやミガキを施す。

SZ303 からは壷が出土している。口縁内面には羽状刺突文を施す。

SZ311 からは壺が出土している。外傾する口縁をもち端部に刻み目が施される。頸部に直線文、肩部には波状文が見られる。器面はハケメ調整の後、体部下半にはミガキを施す。八日市地方 10 期に帰属すると思われる。

古代須恵器　蓋（図面 195 － 1788、第6表）

8区の遺構外より出土の須恵器の蓋である。一部の出土にとどまり摘み及び天井部の一部を欠く。復元形は口径 11.4cm、器高 1.8cmを呈する。内外面に回転ナデが確認できる。

第8節　9区・10区・11区の遺構と遺物（図面 081 ～ 090、196 ～ 201）

検出遺構：　9区　溝9条（SD001 ～ 009）、護岸施設1基（SX101）
10区　溝5条（SD002・SD010 ～ 013）、ピット15基（P001 ～ 015）、窪地1（SX001）
11区　溝26条（SD010･SD011･SD015 ～ 38）、土坑3基（SK001 ～ 003）、ピット1基（P017）、窪地1（SX001）

SD002は9・10区にわたり検出され、SD010・011は10区・11区にわたり検出されている。窪地SX001も10区・11区にまたがり検出されている。また出土遺物についても時代や性格に共通項が見られることから、本書ではこれらをまとめて記述することとする。

9区 SD001（図面 082・083）

調査区西端で検出された南北方向にはしる溝状遺構である。辛うじて掘削は遺構底部まで達したものの、西側肩部は一部を検出したにとどまり、西接する8区でも延長部分は検出されていない。

確認される範囲では、全長70ｍ以上、幅17ｍ程度、最大深1.15ｍを測る。遺構断面は遠浅で皿状を呈する。遺構の北側では護岸施設SX101が検出されている。SD003や009と切り合うが新旧は不明である。ちなみに、古代の土師器椀（197 － 1795）や人面墨書土器（198 － 1821）は本址とSD003の双方から破片が出土し接合したものである。

上層では陶磁器片がみられるものの、下層では古代の遺物が多数出土しており、食膳具を主とする土師器や須恵器のほか、「西家」等の墨書土器、そして上記の人面墨書土器が出土している。この状況から長期にわたる存続期間が想定される。

9区 SD003（図面 082・083）

9区の中央やや西側に位置する溝状遺構である。SD001に付随するように南北方向に走り、南北両端は同遺構と接合する。

確認される範囲では全長45ｍ程度、幅2.8 ～ 4.3ｍ、最大深0.4ｍをはかる。出土遺物は古代の食膳具を主とする土師器や須恵器のほか、人面墨書土器の一部が検出されている。

9区護岸施設 SX101（図面 083）

9区の溝状遺構SD001の北側において検出された護岸施設と考えた遺構である。SD001と003の接合部付近に位置するが、土層断面等の状況からは前者を護岸しているものとみられる。現状ではごく狭い範囲で検出されたに過ぎないが、同様の施設が広範囲に所在したかは不明である。

川岸に板状の木製品を一列に打ち込むものであるが、部分的な検出にとどまり用途等は不明である。板材は全長45 ～ 73cm、幅20cm前後のものを主とする。地上側先端には破損がみられるが、他方は先端を尖らせ土中に打ち込み易いよう加工されている。

9区・10区 SD002

9区の東端、10区の西方で検出された南北方向にはしる大型の溝状遺構である。9区では大部分が後世の攪乱により消失している。双方を合算すると全長79.80 m、幅約28.80 m、最大深1.24 mを測る。

9区南方では同様の方位をとる溝状遺構SD004が検出されているが、覆土の内容や遺構深度を鑑みるに本来はSD002と同一のものであった可能性があるかと思われる。10区東側では小規模な溝状遺構SD012及び013と切り合う。またその南方では柵SA001が所在する。覆土からは珠洲の甕やすり鉢（199－1849～1851）が出土しており、埋没時期は概して中世以降と考えられる。

10・11区 SD010（図面086）

10区の東方で検出された溝状遺構である。10区北端から15 mほど南下した後、やや東方に屈曲し隣接する11区に達する。双方を合算すると全長92.5 m、最大幅7.5 m、最大深0.96 mをはかる。覆土からは中世の土師器(200－1875)が出土しており、埋没は中世以降と考えられる。溝状遺構SD011と切り合うが、土層分析や出土遺物の傾向から本址の方が新しいものと考えられる。

10・11区 SD011（図面086・087・089）

10区と11区の境界付近を南北方向にはしる溝状遺構である。一部に溝状を呈する窪地SX001と接するが出土遺物からは同時共存するものとみられる。

両区の成果を合計すると全長約71 m、幅約3.8 m、最大深0.39 mをはかり、一部に全長17 m程度、幅8 m程度、最大深0.95 mを呈する付属施設様の部分がある。

覆土中からは古代の土師器や須恵器のほか、人面墨書土器や木製祭祀具が検出されている。祭祀場であった可能性が窺える。個々の遺物の出土地点及び接合関係は図087及び089に示すとおりである。

10・11区窪地 SX001（図面086・087・090）

10区と11区を東西方向にひろがる窪地である。両区の成果を合算すると全長約26 m、最大幅約4.0 m、最大深0.39 mをはかる。溝状遺構SD011と接しているが同時期の遺構とみられる。

覆土中からは古代の土師器や須恵器のほか、人面墨書土器や木製祭祀具が検出されている。祭祀場であった可能性が窺える。個々の遺物の出土地点及び接合関係は図087に示すとおりである。

10区柵址 SA001（図面085）

10区の溝状遺構SD002の東岸に位置するL字形を呈する柵である。溝状遺構に面し並行するかたちで5間の長辺が、そしてこの南端で直角に屈曲し1間の短辺が残存する。

掘方ないし柱穴は平面が円形を呈し、径0.4 m程度を基本とする。深さは0.12～0.32 mである。P 011からは礎板のみが検出されている。出土遺物はない。

9区出土遺物

SD001・003より古代以降の土師器・須恵器が中心に出土している。その中で墨書土器や人面墨書土器が確認されている。また同遺構より石鏃が出土している。以下Ⅰ．古代土師器・須恵器・その他、Ⅱ．石器に分け記述する。

Ⅰ．古代土師器・須恵器・その他（図面196～198、第6表）

古代土師器　甕（図面 196）

SD001 から出土している。くの字口縁で内面に鋭い稜を持つ。調整は内外面とも荒いハケメが中心である。内面にはケズリを施すものもあるが、荒く粘土接合痕を残す。底部形は丸底と推測される。

古代須恵器　蓋（図面 197 － 1798・1815・1816）

1798 は、9 区溝状遺構 SD001 より出土の須恵器の蓋である。口径 16.4cm、器高 2.4cmを呈する。内外面に回転ナデを確認できる。

1815 及び 1816 は、9 区溝状遺構 SD003 より出土の須恵器の蓋である。摘み及び天井部の一部が出土したのみで口径や底径等は不明である。

古代須恵器　杯類（図面 197 － 1796・1797・1799 ～ 1801・1803 ～ 1814・1818・1819）

9 区からは、溝状遺構 SD001 と同 003 より須恵器の杯や椀が多数出土している。概して 9 世紀代を中心とし数量的には同中頃から後半代のものが多いとみられる。各個体の規格等は遺物観察表のとおりである。

古代須恵器　壺（図面 197 － 1802・1817）

1802 は、9 区の溝状遺構 SD001 より出土の須恵器の壺である。底部を欠くものの最下部はこの付近の部位になるとみられる。口径 12.0cm、残存する器高は 10.2cmをはかる。内外面とも回転ナデが確認できる。

1817 は、9 区溝状遺構 SD003 より出土の長頸壺である。一部の出土にとどまり頸部からくびれ部までを確認できる。内外面とも回転ナデを最終調整とし、自然釉またはその痕跡をみることができる。その形状から上述の杯類の年代に近いものとみられる。

墨書土器（図面 197 － 1794・1800・1814）

1794 は、9 区の溝状遺構 SD001 より出土の土師器の椀の口縁部に「西家」と墨書されたものである。石名瀬 A 遺跡の東方に位置する下佐野遺跡では県道高岡環状線建設工事にかかる C2 地区で「西大家」が、個人住宅の建設にかかる豊原地区で「西」墨書が検出されており関連性が検討される。ちなみに上記 2 地区からは別途「曹司」墨書も検出されている。口径 11.9cm、器高 4.25cm、4.8cmを呈する。内外面ともナデがなされているが、内面には一部ミガキが、外面にはケズリがみられる。

1800 は、9 区の溝状遺構 SD001 より出土の須恵器の杯 B の底外面に墨書がなされているものである。口縁部の上部を欠損しており口径は不明であるが、残存器高 3.1cm、底径 6.4cmを呈する。墨書の釈文は不明である。

1814 は、9 区の溝状遺構 SD003 より出土の須恵器の杯 B の底外面に墨書がなされているものである。口縁部の上部を欠損しており口径は不明であるが、残存器高 2.4cm、底径 6.0cmを呈する。墨書の釈文は不明である。

越中瀬戸　皿（図面 197 － 1820）

9 区遺構外から出土した。底部付近のみの出土にとどまり口径や器高は不明である。底径は 5.0cm、内外面とも回転ナデがみられる。

人面墨書土器（図面 198 － 1821）

9 区及び 10 区からは 4 個体の人面墨書土器が出土している。人面はいずれも土師器の甕や鉢の胴部に描かれており比較的多くみられる事例と共通する。人面については似顔絵とも疫病神とも解される傾向にあるが、本遺跡のものは確認されるかぎり険しい表情はむしろ少ないようである。また、1 個体につき複数の人面が描かれていることが特徴としてあげられるほか、底部を欠損する傾向にある。

1821 は、9 区の溝状遺構 SD001 及び 003 より破片を出土した人面墨書土器である。完形ではなく全容不明ながら 3 面を確認できる。図の左に掲載した人面は、左の眉と目のほか、鼻、髭、口の表現がみられる。図の中央にある人面は両目と両眉のみ確認でき、右端の人面は右の眉と目、そして鼻、髭、口の表現を確認できる。人面は 8 世紀後葉から 9 世紀初頭の土師器の甕の胴部に描かれている。土器としては口径

9.7cmを呈する。底部が未検出であるが、残存する器高は8.7cmをはかる。

Ⅱ．石器（図面198 － 1825・1826、第4表）

9区からは石鏃が出土している。

下呂石製の石鏃である。SD003から出土したもの(198 － 1825)は、有茎石鏃であり左右とも均整のとれた形状である。SD001から出土したもの（198 － 1826）は無茎石鏃である。

10区出土遺物

9区と同様古代以降の土師器・須恵器が中心に出土している。主にSD011と隣接するSX001より多量に出土しており、その中には人面墨書土器や木製祭祀具も確認される。

古代土師器・須恵器・その他（図面198～200、第6表）

古代土師器　椀（図面199 － 1827・1828）

1827は、10区溝状遺構SD011から出土した土師器の椀である。口径13.2cm、器高4.7cm、底径4.5cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられる。

1828は、10区の溝状遺構SD011より出土の土師器の椀である。口径12.8cm、器高4.6cm、底径5.8cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられる。

古代須恵器　蓋（図面199 － 1844～1846・200 － 1853・1854）

1844は、10区溝状遺構SD011より出土の須恵器の蓋である。端部を欠くが残存する器高は3.2cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられる。

1845は、10区溝状遺構SD011より出土の須恵器の蓋である。口径16.4cm、器高3.9cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられるが、外面の摘みの存在した付近には回転ヘラ切りがみられる。

1846は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の蓋である。摘み及び天井部の一部を欠く。口径16.6cm、残存器高2.6cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられるが、外面の摘みの存在した付近には回転ヘラ切りがみられる。

古代須恵器　杯・椀類（図面199 － 1831～1843、200 － 1855）

1836は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ａである。口径12.0cm、器高3.0cm、底径8.3cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられ、底外面には回転ヘラ切りがなされる。

1832は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ａである。口径11.6cm、器高3.5cm、底径8.0cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられるが、底外面には回転ヘラ切りがなされている。

1833は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ａである。底部の一部を欠くが口径12.0cm、器高3.5cm、底径7.7cmをはかるとみられる。内外面とも回転ナデがみられるが、底外面には回転ヘラ切りがなされている。口縁部がやや外反する。

1834は、10区溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ａである。口径120cm、器高3.2cm、底径7.8cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられ、底外面には回転ヘラ切りがなされる。口縁部内面に油煙が付着する。

1835は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ａである。口径12.0cm、器高3.2cm、底径6.8cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられる。底外面には回転ヘラ切りがなされている。

1836は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ａである。口径14.0cm、器高3.5cm、底径9.0cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられ、底外面には回転ヘラ切りがなされる。

1837は、10区溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Ｂである。口径10.2cm、器高4.15cm、底径7.7cmを

はかる。内外面とも回転ナデがみられる。また底外面には「×」字状のヘラ記号が刻まれている。

1838は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Bである。口径10.9cm、器高4.1cm、底径7.2cmを呈す。内外面とも回転ナデがみられ、底外面には回転ヘラ切りがなされている。

1839は、溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Bである。口径13.2cm、器高3.8cm、底径8.2cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられるが、底外面には回転ヘラ切りがなされている。

1840は、10区溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Bである。底部の中央付近を欠くが、口径11.6cm、器高3.7cm、底径7.1cmをはかる。内外面とも回転ナデが、底外面には回転ヘラ切りがみられる。

1841は、10区溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Bである。口径16.2cm、器高6.6cm、底径6.3cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられるが、底外面には回転ヘラ切りがなされている。

1842は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Bである。口径14.4cm、器高6.7cm、底径6.7cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられる。

1843は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の杯Bである。口径16.2cm、器高6.6cm、底径9.9cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられる。底外面には回転ヘラ切りがなされている。

古代須恵器　壺・鉢類（図面199 － 1847・1848）

1847は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の小型の鉢である。底部を一部欠くものの口径1.8cm、器高3.2cmをはかる。内外面とも回転ナデがみられる。

1848は、10区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の長頸壺である。頸部からくびれ部が残存する。内外面とも回転ナデがみられ、外面には自然釉が付着していた痕跡がある。

人面墨書土器（図面198 － 1822・1823・1824、199 － 1829・1830）

1822は、10区の溝状遺構SD011より出土の人面墨書土器である。完形ではなく全容は不明ながら人面は4面存在するものとみられる。図面の左端では辛うじて人面らしきものがみられ、目、耳、髭などを描いた可能性があるかと思われる。左から二番の人面は頭部から額の付近を欠くものの多くを知ることができる。顔の輪郭のほか、髷または烏帽子、左眉、両目、右耳、鼻、口などがみられるが、左耳が描かれていない可能性がある。左から3番目の人面はほぼ全容を知ることができるが、頭上の表現するものは不明である。他の人面に比してこの部分と耳の表現に特徴がある。図の右端の人面は破片の欠損のため顔の左半分が未確認である。頭部の表現が特徴的であるが烏帽子または僧侶をあらわすかは検討を要する。土器は口径13.8cm、器高11.7cm、底径7.3cmを呈する8世紀後葉から9世紀初頭の土師器の甕である。

1823は、10区の溝状遺構SD011より出土の人面墨書土器である。破片の欠損により人面の詳細が把握しづらいが、耳の位置関係から3面が存在するとみられる。内容が比較的顕著なのは図の右端に掲載したもので、両眉、両目、鼻、口、両耳、髭のほか、頭髪様の表現がみられる。土器は底部を欠くものの口径13.0cm、残存器高は最大で12.0cmをはかる8世紀後葉から9世紀初頭の土師器の甕である。

1824は、10区の溝状遺構SD011と別途発掘調査をした「10b区」のSD003より破片が出土した人面墨書土器であり、大小4面の人面が確認できる。図の左端に掲載した人面は、両眉、両目、左耳、そして鼻、口、髭などをあらわすかと思われる表現がある。頭部については破片の欠損のため確認できない。左から2番目の人面は他の3面に比して小さく描かれ、また描かれる位置もこの人面のところだけ狭い。両眉、両目、鼻、口のほか、両耳とおぼしき部分と顔の輪郭が描かれており、顔の全体を知ることのできる唯一の人面となる。頭部については頭髪や烏帽子などの表現がみられない。図の左から3番目の人面は、眉または額の皺などとみられる表現のほか、両目、鼻、髭、口、両耳、頬から顎までの輪郭、そして喉元の衣服の可能性をもつ表現がある。ただし頭部については何も描かれていない。図の右端の人面は、烏帽子または髷のほか、両眉、両目、鼻、両耳、そして一部を欠くものの顔の輪郭が描かれている。土器は8世紀後葉から9世紀初頭の土師器の鉢である。

1829は、10区の溝状遺構SD011より出土の人面墨書土器とみられるものである。口縁部から胴上半部までの出土にとどまるため人面の全容も不明である。土器としては口径13.0cm、残存器高6.3cmを呈する9世紀初頭の土師器の甕である。

1830は、10区の溝状遺構SD011より出土の人面墨書土器とられるものである。部分的な検出にとどまり人面の全容は不明であるが、類例から髭や口を表現するものとみられる。胴部の一部を出土したにとどまり型式等は不明であるが、土師器の甕の胴部に人面とみられる墨書がなされている。

珠洲　甕・すり鉢（図面199 － 1849 ～ 1852、200 － 1856・1857）

1849は、10区の溝状遺構SD002より出土の珠洲の甕である。細片のため口径等は不明であるが、口縁部から肩部の一部が確認できる。調整法は内面がナデ、外面は口縁部がナデ、肩部は叩目がみられる。

1850は、10区の溝状遺構SD002より出土の珠洲の甕のくびれ部付近である。細片のため口径等の規格は不明である。調整法は内面と外面のくびれ部より上位がナデ、外面の肩部には叩目がみられる。

1852は、10区遺構外より出土の珠洲の甕である。細片のためくびれ部から肩部を確認するのみである。内面と外面のくびれ部より上位がナデ、外面の肩部には叩目である。

1851は、10区の溝状遺構SD002から出土した珠洲のすり鉢である。口縁部付近の出土にとどまるため口径等規格は不明である。調整法は外面がナデ、内面にはナデのほかに擦目がみられる。

1856は、10区の第Ⅰ層から出土した珠洲の甕である。口縁部の細片が出土したのみであり口径等の規格は不明である。内外面ともに回転ナデがみられる。

1857は、10区の第Ⅰ層から出土した珠洲の甕である。口縁部から肩部が出土したのみであり規格等は不明である。調整法は内外面ともに回転ナデのほかに自然釉が確認され、また口唇部付近に研磨痕状の部分がみられる。

11区出土遺物

10区より続くSD010・011から古代以降の土師器、須恵器が中心に出土している。また10区と同様、SD011からは人面墨書土器や木製祭祀具が出土している。

古代土師器・須恵器・その他（図面200・201、第6表）

古代土師器　皿（図面200 － 1881）

11区の遺構外より出土している。高台を有し有段の口縁部が外反する。口径11.8cm、器高3.0cm、底径5.8cmを呈する。

中世土師器　皿（図面200 － 1875・1879・1880）

1875は、11区の溝状遺構SD010から出土した土師器の皿である。口径8.0cm、器高2.1cm、底径3.5cmを呈する。内外面とも回転ナデがみられるが、底部については内面がヨコナデ、外面は回転ヘラ切りである。口縁部の内外面に油煙が付着しており灯明皿として使用されたとみられる。

1879は、11区遺構外より出土の土師器の皿である。口径7.2cm、器高1.4cmを呈する。調整は内外面ともヨコナデである。

1880は、11区遺構外より出土の土師器の皿である。口径8.5cm、器高1.9cmを呈する。調整は内外面とも回転ナデで、底部外面には指頭痕がある。口縁部の内外面に油煙が付着しており灯明皿として使用されたとみられる。

古代須恵器　蓋・杯（図面200 － 1876・1877・1882 ～ 1888）

11区の溝状遺構SD011及び10区・11区遺構外からは多数の須恵器の杯や蓋が出土している。完形の

ものは少なく、多くは細片のみの出土にとどまるが、本書では実測可能なものを極力掲載した。概して8世紀後半代から9世紀前半を中心とするものがみられる。各個体の規格や調整法等は別途の遺物観察表のとおりである。

古代須恵器　甕・壺等（図面200 － 1872 ～ 1874・1889）

1872は、11区の溝状遺構SD011より出土した須恵器の甕である。口縁部から肩部にかけて接合が確認されているが、詳細な規格は不明である。現状では口径20.4cm、残存器高9.8cmを呈する。口縁部は内外面ともナデ、肩部は内面に叩目、外面には叩目のほかに若干のハケメがみられる。

1873は、11区の溝状遺構SD011より出土した須恵器の壺の胴部である。頸部より上方と底部付近を欠くため全容は不明である。胴部は「く」の字状に屈曲する。調整法は内外面とも回転ナデである。肩部外面に自然釉の剥落痕がみられる。

1889は、11区遺構外より出土の須恵器の甕または鉢である。調整法は内外面とも回転ナデである。口縁部の細片が出土したのみであり、器種や規格、年代等は不明である。

墨書土器（図面200 － 1858）

11区の溝状遺構SD011より出土の須恵器の底外面に「主」と書かれたものである。周辺の確たる出土事例にはないが、東木津遺跡出土の「庄」墨書を「主」と解する案がある。口縁部の上方を欠き口径等は不明であるが、残存器高2.0cm、底径6.4cmをはかる。

珠洲　蓋（図面200 － 1878）

窪地SX001より出土している。珠洲焼の浄瓶（水瓶）の蓋、もしくは押圧具（当て具）と考えられているものである。類例としては石川県珠洲市南黒丸遺跡、石川県珠洲市寺家5号窯、石川県珠洲市大畠2号窯、石川県珠洲市法住寺2・3号窯、富山県黒部市北堀切遺跡Ⅶ－1区が挙げられる。側面を面取りし、線刻による文様を持ち、つまみは引き出すようにつくられている。

瀬戸　おろし皿（図面200 － 1890）

11区遺構外より出土している。細片が出土したのみであり口径や底径等の規格、及び年代等は不明である。底外面には回転糸切りが、内面にはおろし目がみられる

皇宋通寶（図面201 － 1906）

11区の溝状遺構SD011より出土した北宋銭の皇宋通寶である。銭文の書体は篆書である。外縁部を一部欠き、全体的に磨耗及び腐食がみられる。輸入品であるか国産の模倣であるかは不明である。径2.4cm、厚さ0.1cmを呈する。

鉄滓（図面201 － 1907）

11区の溝状遺構SD011より出土した鉄滓である。最大長5.7cm、最大幅3.9cm、最大厚2.2cm、重量26.1 g、全体は不整形を呈する。遺跡全体の中でも鉄滓はこの1点のみの出土にとどまり、周辺に鉄生産や簡易的な鉄加工の存在を明確に示すとは言い難い。

10区・11区出土木製品（図面201、第5表）

人形（図面201 － 1895 ～ 1897）

1895は目及び烏帽子とみられる表現をもつ人形の頭部である。現状では全長9.2cm、最大幅3.0cm、厚さは0.3cm、一部欠損がみられるが断面は基本的に方形を呈したとみられる。10区のSD011より出土した。

1896は、頭部から胴部に該当する部分までを残存する人形である。現状では全長20.7cm、最大幅6.0cm、厚さは0.5cm、断面は磨耗や欠損が一部にみられるが方形を呈したとみられる。眉、目、口の表現がみられる。10区のSD011より出土した。

1897は、10区のSD011より出土した頭部や片足の約半分などを欠損する人形とみられる木製品である。

現状では最大長21.5cm、最大幅2.7cm、厚さは胸部または腹部で0.9cm、脚部で0.6cm。断面形いずれも方形を呈する。両足がつくり出されており人形と認識しうる。

斎串（図面201 － 1893・1898 ～ 1900）

1893は、10区窪地SX001より出土した斎串であり、全長15.1cm、最大幅2.1cm、厚さは最大0.5cm、断面はやや不整の方形を呈する。下方端部は片側から斜めに切り込まれ先端を鋭角に尖らせ、上方先端はこれよりもやや緩く尖らせる。左方2箇所に2つずつ計4箇所の切り込みがみられ、右方は1箇所に計3つの切り込みを有する。

1898は、10区窪地SX001より出土した斎串であり、全長15.7cm、残存する最大幅は下方の屈曲部で1.4cm、厚さ0.3cm、断面は方形を呈する。上下の両端部を鋭角に尖らせるが下方は上部よりもさらに鋭角をなす。上部の先端から下方の屈曲部までを欠損しており右方の一部は不明であるが、左方のやや上方では2つの切り込みがみられる。

1899は、11区の溝状遺構SD011より出土したほぼ完形の斎串である。全長16.2cm、最大幅1.5cm、厚さは0.3cm、断面は方形を呈する。上方先端は鈍角に下方は鋭角に尖らせる。上部に若干の加工がみられるものの他の斎串とは異なり切り込みはみられない。

1900は、10区窪地SX001より出土した斎串である。全体的に磨耗がみられ現状の断面は鋭角的な三角形を呈する。また上部右方や左方の切り込みも欠損しているものとみられる。現状では全長11.2cm、最大幅2.4cm、厚さは0.3cmを呈する。

人形または斎串（図面201 － 1891・1892・1894）

人形または斎串となる可能性をもつ木製品である。明確に一方に特定することを困難なため標記のように区分した。

1891は、10区の溝状遺構SD011のⅣ層のB地点より出土した、下部を欠損する人形もしくは斎串となる可能性をもつ木製品である。以下現状で全長13.8cm、最大幅2.7cm、厚さは0.5cm、断面は方形を呈する。他の斎串に比べ異質な点は大型であるほか、人形の頸部にも類似する部位が作り出されていること、切り込みが下方から上方に向けて入っており腕を表現する可能性を残すことが挙げられる。ただし、烏帽子を表現するような加工もなく、また目や口などを描くといった人形をあらわす明確な特徴もみられない。

1892は、10区の溝状遺構SD011より出土した、下部を欠損する人形もしくは斎串となる可能性をもつ木製品である。現状では全長11.8cm、最大幅1.9cm、厚さは0.5cm、断面は方形を呈する。人形の肩部に類似する部位が作り出されているほか、切り込みが下方から上方に向けて入っており上記同様に腕を表現する可能性を残す。ただし、目や口などは描かれておらず、また全体の規格も他の斎串と大きな差異はない。

1894は、10区の溝状遺構SD011より出土した木製品である。人形とするならば頭部に該当する部分のみが検出されたかたちである。現状では全長8.2cm、最大幅4.5cm、厚さは0.4cm、断面は方形を呈する。他の斎串に比して大型であるが目や口などが描かれておらず、明確に人形と解することもできない。

木簡様木製品（図面201 － 1901・1902）

石名瀬A遺跡からは木簡様を呈する木製品が2点検出されている。

このうち1901は、10区の溝状遺構SD011の砂層のB地点より出土の木簡様の木製品である。全長11.8、最大幅2.6cm、厚さ0.7cm、断面方形を呈する。片側の左右に切り込みがあり木簡に例えれば032型式に該当する。

1902は、10区の窪地SX001より出土の木簡様の木製品である。全長9.2cm、最大幅3.0cmを呈する。厚さは1.1cmと木簡とするならばやや厚く、断面は不整方形を呈する。片側の左右に切り込みを有し、他方は角を削るものの尖らせてはいない。

いずれも釈文及び墨痕はみられず本品をして木簡とは言えないが、本品を木簡として使用する意思が

あった可能性が考えられるほか、周辺にそうした活動を行う施設の存在した可能性が考えうる。

箸（図面 201 － 1903）

11区の溝状遺構SD011より出土した。先端部を欠損するが、残存長19.9cm、最大幅0.9cm、断面方形を呈する。

独楽形木製品（図面 201 － 1904）

10区の溝状遺構 SD011 の底直上より出土し、全長 11.7cmを呈する。全体的に細かな加工により整形されている。正面形はやや変形の逆 T 字形を呈する。仮に部位を 3 大別するならば基壇状の部分のほか、これより続き斜行する中間部分、さらにこの上位にある突出部からなる。

基壇状の部分は最大径 11.6cm、高さ平均 3.5cm程度の円柱状を呈する。中間部分は高さ平均 2cm程度を呈し、上位にある突出部は高さ 6cm程度、最大径 7.4cmを呈する。頂部には若干の欠損がみられるが、先端は鋭角的にはならず上部突出部の正面形は変形の五角形を呈する。

鋤先形木製品（図面 201 － 1905）

10区の溝状遺構 SD011 より出土している。全長 32.7cm、最大幅 17.9cm、最大厚 1.5cmを呈する。また柄の接合部分には縦 5.8cm、横 4.5cm程度の方形の孔が穿たれている。

全体的に磨耗がみられるが使用によるものかは不明である。また刃を取り付けるべき部分には若干の加工もみられる。使用するべき方向に対し正目が採用されている。

第9節　12区の遺構と遺物（図面 091・092、201）

検出遺構：土坑 7 基（SK004 ～ 010）、溝 58 条（SD015・023・039 ～ 094）、畝状遺構 38 条（SU）、ピット 11 基（P018 ～ 028）

石名瀬 A 遺跡（高岡環状線地区）の東端に位置する調査区であり、これより東方は一般道を隔て下佐野遺跡の包蔵地となる。

12区からは、隣接する 11 区の東方と同様に大小の溝状遺構を中心とする多数遺構が検出されている。しかし、複数の遺構が集結し有機性を発する遺構群などはなく、また西方の調査区と異なり遺物の出土量も少ない。

なお、年代的には古代を中心とするようであり、4 区等でみたような古墳時代の様相はみられず、むしろ調査区東端の畝状遺構にみられるように下佐野遺跡などを中心に展開される古代の様相が当地区にまで波及している可能性がある。

以下では、12区のうち主要遺構とみられるものについて解説するものとする。

畝状遺構（SU5 群）（図面 091）

12区の調査区東端付近で検出された畝状遺構である。調査区北東端に計 15 条からなる畝状遺構と、調査区南東端では計 23 条で構成される一群がみられる。便宜上 SU5 群とする。双方とも現状ではその西端部を主に検出しているものとみられるが、東接する下佐野遺跡でも同様の遺構が検出されており、この西限が検出された可能性がある。年代等のわかる出土遺物はなく、畝状遺構の存続年代は不詳である。

SD039（図面 092）

12区の東辺に並行するようにはしる溝状遺構である。北側端部は調査区外へと達し、南端も撹乱により切られるが、現状では全長約 66 m、最大幅 1.2 m、最大深 0.27 mを測る。

年代のわかる遺物が出土したほとんど唯一の遺構であるが、覆土からは須恵器の杯（201 － 1908・1909）のほか、土錘等が出土している。

12区出土遺物

須恵器・その他（図面201、第6表）

須恵器　蓋（図面201 － 1913）

遺構外より蓋1点が出土している。摘みの部分はなく、端部から天蓋部付近までの一部が出土したのみである。口径17.0cm、残存する器高は1.85cmをはかる。

須恵器　杯（図面201 － 1908 ～ 1912）

計5点の杯や椀が出土している。全体像が復元できるもの1点（201 － 1909）のほか、口縁部のみ1点（201 － 1908）、底部から口縁部にかけてものが3点（201 － 1910 ～ 1912）と、調査区の面積に比して希少な存在といえる。

1908及び1909のみが溝状遺構SD201の出土であり、同遺構の年代をはかる資料となる。個々の規格等は遺物観察表及び図面のとおりである。

陶器（図面201 － 1914・1915）

1914は、遺構外出土の陶器の椀である。口縁部の下位から高台までが残存する。高台部の径は4.0cm、口縁部側の残存最大径は9.4cmである。年代等は不明である。

1915は、遺構外出土の陶器の壺である。胴部下半から底部にかけて残存する。底部の径は5.4cmをはかる。年代等は不明である。

第４章　まとめ

今回、石名瀬Ａ遺跡を横断するかたちで対象面積約40,000㎡の発掘調査がなされた。道路建設工事にともなう今回の調査区は既設の道路部分なども含め全長約700ｍ・幅約65ｍに及ぶが、概して東側では古代の様相がひろがり、西側では弥生時代中期後半から古墳時代前葉までの様相がひろがる傾向がみてとれる。また東端は下佐野遺跡に近接するが、もっとも東に位置する12区では同遺跡でみられた畝状遺構が続くことが判明した。

以下では調査区の東西、すなわち弥生時代から古墳時代にわたる様相と、古代のそれについてそれぞれの概要をまとめることとする。

弥生時代から古墳時代の様相について

当該期については、４区から６区にかけて竪穴建物址12棟のほか、方形周溝墓、玉製作遺構、布掘構造の掘立柱建物址などといった遺構が確認された。また、出土遺物についても弥生時代中期後半から古墳時代前葉を中心とする多量の土器類が同区を中心に出土している。

従来的に、当該地域をめぐっては弥生時代中期の遺跡として石塚遺跡が注目され、同時代後期の遺跡として下佐野遺跡が知られていた。しかし、度重なる大小の発掘調査により徐々にその実像が明らかになりつつあり、その結果、周辺の遺跡を包括した遺跡群としての検討を要する状況となっている。そして、各時代の様相は石塚遺跡群の範囲において適宜中心地を移動する傾向にあることが明らかになりつつある。

今回発掘調査を実施した石名瀬Ａ遺跡は、平成６年に最初の小規模な本発掘調査がなされて以来、これまで本発掘調査がなされることはなかったが、この時多量の遺物を出土したことにより近隣に中心的な様相が所在するものと認識されていた。

今回、約40,000㎡もの発掘調査を実施し、上記の予想が正しく、上記２遺跡の中間に位置するこの地にも明確な集落が存在したことが確認されることとなった。また、多量に出土した遺物は、当該地域における土器編年研究への良好な資料となるとみられる。遺跡群としては未調査区がいまだ多数を占めており、今後も発掘調査を重ねていく必要はあるが、こうした地道な文化財保護活動により当該地域の歴史も明らかになっていくとみられる。

古代の様相について

石名瀬Ａ遺跡の周辺では、弥生時代から連綿と継続される歴史的様相があり、またこれは佐野台地の一角において独立的に形成されていく。弥生時代以降に根付いたおそらく農耕文化を主体とするこの様相は古墳時代になり首長層を生み、つづく古代では東木津遺跡において官衙的な様相が成立し周辺を統括する任務が継続される。

石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）における古代の歴史的様相については、人面墨書土器や木製祭祀具の出土が特筆され、且つそれは周辺にひろがる同年代の官衙的様相、ことに東木津遺跡や下佐野遺跡のそれとの関連が検討される。

東木津遺跡では、「布忍（師）郷」刻書をはじめ、同様な方位を呈する建物群、種子札などを含む各種木簡、円面硯や転用硯などの文具、「宅」「西家」「庄」などの墨書土器、その他帯金具などが出土し、概して官衙的な様相が検出されている。

なお、上記した東木津遺跡の官衙的様相は８世紀中頃から９世紀前半までにほぼ限定されるが、東木津

遺跡と南接する下佐野遺跡がこの機能を受け継いだとみられる。下佐野遺跡では東木津遺跡と入れ替わるように９世紀後半代から古代の様相が顕著となり、富山県埋蔵文化財センターで発掘調査した地区では庭園様との一案のある遺構群のほか、「西大家」「曹司」といった墨書、墨画土器（馬描土器）なども検出さている。

また、周辺に位置する豊原地区からは年代不確定ながら田租または賃租に関わる木簡も検出されたほか、ここでも「西」「曹司」といった墨書が検出されたほか、緑釉陶器の瓦塔水煙が検出されているなど、概して東木津遺跡に所在した勢力が９世紀後半代に下佐野遺跡の地に移動したことを窺わせる。

上述した環境の中、石名瀬Ａ遺跡の古代の様相はこれらと関連し存続を遂げたとみられる。

今回検出された主要遺構としては、河川跡 SD011 や窪地 SX001 などにみられる祭祀場が挙げられる。

なお、「西家」墨書のほか、掘立柱建物なども検出されているが、大型のものは存在せず、また「院」の構成や方位の統一性も窺えない。出土遺物においても官衙色が明確ではない。これらを鑑みるに、石名瀬Ａ遺跡（高岡環状線地区）は周辺地域における古代の中心地ではなかったとみられるが、人面墨書土器のほか、人形などをはじめとする木製祭祀具がまとまって出土した点、及び他地域ではこうした状況が顕著ではないことなどを鑑みるに、当該調査区は古代における石塚遺跡群の主要な祭祀場の一つとして機能したことが窺われよう。

引用・参考文献

1．青山晃　2008「下黒田遺跡」『平成20年度埋蔵文化財年報』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

2．石川県小松市教育委員会　2003　『八日市地方遺跡Ⅰ
―小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』

3．伊藤敏行　2005「宇津木向井原遺跡と関東の方形周溝墓」『方形周溝墓研究の今』雄山閣

4．射水市教育委員会　2007『本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(3)　―個人住宅建築に伴う埋蔵文化財調査―』

5．上野章　1967「高岡市下佐野遺跡」『大境』第3号　富山考古学会

6．越前慶祐　2009「古代の有力農民の屋敷地？―高岡市下佐野遺跡―」
『埋文とやま』106号　富山県埋蔵文化財センター

7．岡田一広　2005「富山平野における弥生墓制 ―中期から後期にかけて―」
『季刊考古学』第92号　雄山閣

8．岡本淳一郎・三島道子・町田賢一・上田尚美　1999「佐野台地における古墳出現期の土器について」
『富山考古学研究紀要』第2号　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

9．岡本淳一郎　2006「砺波平野北部の古墳出現期土器」『下老子笹川遺跡発掘調査報告―能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅴ―』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第31集
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

10．河合　忍　1996「北陸弥生土器様式の変革過程―器種・用途別の計量分析を中心として―」
『石川考古学研究会々誌』第39号

11．近畿弥生の会編　2007『墓制から弥生社会を考える』六一書房

12．楠　正勝　1996「弥生時代中期後葉から古墳時代前期前半の土器」『西念・南新保遺跡Ⅳ』
金沢市教育委員会

13．財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2006
『下老子笹川遺跡発掘調査報告―能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅴ―』
富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第31集

14．財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2009
『とやまの発掘だより ―平成21年度発掘調査速報―』

15．新湊市教育委員会　2003『富山県新湊市高島Ａ遺跡発掘調査概要 ―1999年度―』

16．椙山林繼ほか　2005『方形周溝墓研究の今』雄山閣

17．富山県教育委員会　1884『都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(2)
―南太閤山Ⅰ・Ⅱ遺跡―』

18．富山県埋蔵文化財センター　1993『富山県小杉町・大門町小杉流通団地内遺跡群
―第10・11次発掘調査報告概要―』

19．富山市教育委員会　2009『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉Ｂ遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書』

20．高岡市　1957『高岡市史 上』

21．高岡市教育委員会　1992『下佐野遺跡調査概報Ⅰ―平成2年度、明光電気地区の調査―』
高岡市埋蔵文化財調査概報第17冊

22．高岡市教育委員会　1992『市内遺跡調査概報Ⅰ―平成3年度、石塚遺跡、下佐野遺跡の調査―』
高岡市埋蔵文化財調査概報第18冊

23. 高岡市教育委員会　1993『市内遺跡調査概報Ⅱ—平成4年度、下佐野遺跡、間尽遺跡の調査—』
高岡市埋蔵文化財調査概報20冊
24. 高岡市教育委員会　1997『市内遺跡調査概報Ⅴ —東木津、石塚遺跡、下佐野遺跡の調査—』
高岡市埋蔵文化財調査概報35冊
25. 高岡市教育委員会　1999『市内遺跡調査概報Ⅳ —平成10年度、下佐野遺跡の調査ほか—』
高岡市埋蔵文化財調査概報第41冊
26. 高岡市教育委員会　2001『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告—都市計画道路下伏間江福田線築造に伴う
平成9・10年度の調査—』高岡市埋蔵文化財調査報告第7冊
27. 高岡市教育委員会　2003
『市内遺跡調査概報XⅢ —平成14年度　東木津遺跡・越中国府関連遺跡の発掘調査ほか—　』
高岡市埋蔵文化財調査概報第50冊
28. 高岡市教育委員会　2005『中曽根西遺跡調査報告 —県道姫野能町線改良事業に伴う発掘調査—』
高岡市埋蔵文化財調査報告第13冊
29. 高岡市教育委員会　2007『下佐野遺跡調査報告　—堀地所・有限会社広瀬エステート企画による
造成工事に伴う平成18年度の調査—　』高岡市埋蔵文化財調査報告第16冊
30. 高岡市教育委員会　2010『市内遺跡調査概報XⅣ—平成20年度、瑞龍寺・鎮守堂址の調査他—』
高岡市埋蔵文化財調査概報第68冊
31. 高瀬重雄ほか　1994『日本歴史地名大系第16巻 富山県の地名』平凡社
32. 高橋浩二　2000「古墳出現期における越中の土器様相—弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の
編年的一付け—」『庄内式土器土器研究—庄内式併行期の土器生産とその動き—』22
庄内式土器研究会
33. 高橋浩二　2005「北陸の弥生墳墓から古墳へ」『季刊考古学』第92号　雄山閣
34. 高橋真実　2010「ただいま、整理作業中 —高岡市下佐野遺跡—」
『埋文とやま』110号　富山県埋蔵文化財センター
35. 田嶋明人　1986「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
36. 福海貴子　2003「八日市地方遺跡出土土器の検討」『八日市地方遺跡Ⅰ—小松駅東土地区画整理事業
に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』石川県小松市教育委員会
37. 藤田富士夫　1975「富山市における古墳発生期の調査とその成果」『古代学研究』76　古代学研究会
38. 細辻真澄　2010「下佐野遺跡の古墳群について」『富山考古学研究 紀要』第13号
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
39. 細辻真澄　2010「下佐野遺跡の墳墓群」『埋文とやま』112号　富山県埋蔵文化財センター
40. 宮田進一　1997「越中国における土師器の編年」
『中・近世の北陸—考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会編　桂書房
41. 宮田進一　2007「下佐野遺跡現地研究会」『埋文とやま』101号　富山県埋蔵文化財センター
42. 宮田進一 2008「高岡市下佐野遺跡発掘調査」
『富山県埋蔵文化財センター年報 —平成19年度—』富山県埋蔵文化財センター
43. 山岸良三　2005「方形周溝墓研究40年」『方形周溝墓研究の今』雄山閣

遺物観察表

第2表　弥生土器・土師器・土製品

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面〇九三	2	壺	2b区	SK002	18.6	—	—	極粗粒砂少	並	灰褐 灰褐	ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁内刻み目
	3	壺	2b区	SK002	21.6	—	—	極粗粒砂少	良	明灰褐 明灰褐	ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁内刻み目
	4	壺	2b区	SK002	23.6	—	—	極粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ナデ ハケメ	口縁内斜行短線文、外刻み目
	5	壺	2b区	SK002	19.8	—	—	中粒砂少	良	淡褐 淡褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁外羽状刺突文
	6	壺	2b区	SK002	9.0	—	—	粗粒砂やや多	並	黒褐 暗褐	ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	7	甕	2b区	SK002	—	—	5.5	中粒砂少	並	灰褐 灰褐	ミガキ ハケメ、ナデ、底面ナデ	
	8	壺	2b区	SD001	19.7	—	—	粗粒砂多	並	暗褐 暗褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文　外面煤付着
	9	壺	2b区	SD001	17.0	—	—	粗粒砂多	良	明赤褐 明赤褐	— ハケメ	口縁外刻み目　内面摩滅
	10	底部	2b区	SD001	—	—	6.0	中粗粒砂多	並	暗灰褐 暗灰褐	ナデ ナデ	
	11	底部	2b区	SD001	—	—	6.8	粗粒砂多	良	明褐 明褐	ナデ、指圧痕 ハケメ、ヘラ、ナデ、底部ナデ	
	12	底部	2b区	SD001	—	—	9.0	粗粒砂多	良	黒 明褐	ナデ ハケメ、底面ナデ	
図面〇九四	13	壺	2b区	SD001	14.0	—	—	極粗粒砂やや多	並	灰褐 灰褐	ヨコナデ ヨコナデ	
	14	壺	2b区	SD001	15.0	—	—	極粗粒砂多	良	褐 褐	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ	
	15	壺	2b区	SD001	17.0	—	—	極粗粒砂やや多	並	暗灰褐 暗灰褐	ヨコナデ ヨコナデ	
	16	ミニチュア 鉢形土器	2b区	SD001	1.7	2.3	1.95	粗粒砂やや多	並	暗灰褐 暗灰褐	ナデ ナデ、指圧痕、底面ナデ	
	17	壺	2b区	SD002	23.0	—	—	極粗粒砂少	並	暗褐 暗褐	ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁内端刻み目　外面煤付着
	18	高杯	2b区	SD002	—	—	—	小粒砂少	並	暗灰褐 暗灰褐	指圧痕、ナデ、ヨコナデ ケズリ、ミガキ、ナデ	
	19	壺	2b区	SD003	18.7	—	—	粗粒砂多	並	灰褐 灰褐	ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文、外刻み目
	20	壺	2b区	SD004	23.0	—	—	極粗粒砂多	並	暗黄褐 暗灰褐	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁部小波状
	21	壺	2b区	SD004	25.0	—	—	粗粒砂少	並	灰褐 灰褐	ヨコナデ ヨコナデ	
	22	壺	2b区	遺構外	—	—	—	極粗粒砂多	良	明灰褐 明灰褐	ナデ ナデ	斜行短線文、櫛描文
	23	壺	2b区	遺構外 （T3土器集中区）	11.6	34.5	8.0	粗粒砂多	良	明褐 明褐	ナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ、底面ナデ	内面全体に摩滅
	24	壺	3区	遺構 （調査区北西端部）	22.7	25.0	—	粗粒砂多	並	にぶい黄橙 浅黄	ハケメ、ナデ ハケメ	口縁外端連続刻み目
	25	土錘	3区	遺構外 （調査区北舞）	5.0	3.4	—	粗粒砂多	良	淡黄 淡黄	ナデ —	
図面〇九五	26	土製円盤	3区	遺構外 （調査区北舞）	5.6	4.6	0.4	極粗粒砂少、砂礫少、海綿骨針	良	灰黄褐 にぶい黄橙	— —	直線文、簾状文、甕より転用
	27	土製円盤	4区	SI007	4.5	4.2	0.5	粗粒砂少、極粗粒砂微	並	灰白 浅黄橙	— —	重量 11.1g
	28	土製円盤	4区	SI007	4.8	2.9	0.6	中粒砂多、粗粒砂少、 極粗粒砂微	良	黄灰 灰黄	— —	重量 8.3g、孔径 0.4cm

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面〇九五	29	土製円盤	4区	SI007	4.1	3.9	0.7	中粒砂少、粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	— —	重量 12.9g、孔径 0.5cm
	30	土製円盤	4区	SK001	4.9	4.4	0.5	粗粒砂多、海綿骨針	並	橙 橙	— —	重量 11.3g、孔径 0.5cm
	31	土製円盤	4区	SK004	3.7	3.2	0.7	粗粒砂少、極粗粒砂少	並	浅黄橙 橙	— —	重量 10.1g
	32	土製円盤	4区	SK013	2.8	2.7	0.5	粗粒砂微、極粗粒砂少	並	浅黄橙 赤黒	— —	重量 3.5g、孔径 0.4cm
	33	土製円盤	4区	SK016	4.6	4.5	0.7	中粒砂多、粗粒砂少、 極粗粒砂やや多、砂礫微	良	橙 明赤褐～黒褐	— —	重量 15.0g
	34	土製円盤	4区	SK029	2.5	1.4	0.3	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～黒褐	— —	重量 1.5g、孔径 0.3cm
	35	土製円盤	4区	SK029	3.0	2.7	0.7	中粒砂多、粗粒砂少、 極粗粒砂微	良	灰 浅黄橙	— —	重量 7.0g、孔径 0.5cm
	36	土製円盤	4区	SK036	3.9	3.3	0.7	粗粒砂少、極粗粒砂微	並	浅黄橙 浅黄橙	— —	重量 8.9g
	37	土製円盤	4区	SK040	4.5	4.4	0.6	粗粒砂少、極粗粒砂少、海綿骨針、 赤色粒	良	灰黄 灰黄	— —	重量 13.3g、孔径 0.6cm、孔貫通せず
	38	土製円盤	4区	SK080	4.2	3.6	0.5	粗粒砂少、極粗粒砂少、細礫微	並	灰黄 灰黄褐	— —	重量 6.3g、孔径 0.3cm
	39	土製円盤	4区	SK080	4.9	45	0.5	粗粒砂少、極粗粒砂微	並	灰黄 黒褐～にぶい黄橙	— —	重量 12.4g
	40	土製円盤	4区	SD001	5.1	4.8	0.8	中粒砂少、粗粒砂微	良	にぶい黄褐 明黄褐	— —	重量 20.0g、未完成孔あり
	41	土製円盤	4区	SD004	4.0	3.9	0.5	粗粒砂少	並	浅黄 浅黄	— —	重量 8.5g
	42	土製円盤	4区	SD004	5.0	4.9	0.5	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂少、 海綿骨針、8mm大石 1 個	並	灰黄褐 にぶい黄橙	— —	重量 13.5g、孔径 0.5cm
	43	土製円盤	4区	SD021	3.6	3.2	0.6	極粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	— —	重量 8.4g
	44	土製円盤	4区	SD021	4.4	4.1	0.6	極粒砂微	並	灰黄 にぶい橙	— —	重量 12.1g
	45	土製円盤	4区	SD021	4.8	2.8	0.4	中粒砂多、粒砂多、海綿骨針	並	黄灰 灰黄褐	— —	重量 5.4g、孔径 0.5cm
	46	土製円盤	4区	遺構外	4.2	3.0	0.7	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	にぶい橙 にぶい橙	— —	重量 7.4g、孔径 0.4cm
	47	土製円盤	4区	遺構外	4.5	4.4	0.6	中粒砂多、粗粒砂多、 極粗粒砂微	良	灰黄 灰黄	— —	重量 15.5g
	48	土製円盤	4区	遺構外	5.1	4.1	0.7	粗粒砂多、極粗粒砂微、砂礫微	良	にぶい橙 にぶい黄橙	— —	重量 16.6g
	49	土製円盤	4区	遺構外	4.7	4.5	0.6	粗粒砂多	並	灰黄 にぶい黄橙	— —	重量 17.6g 孔径 0.5cm
	50	土製円盤	4区	遺構外	4.9	4.8	0.6	粗粒砂微、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 褐灰	— —	重量 18.8g、孔貫通せず
図面〇九六	51	甕	4区	SI001・002	19.8	—	—	極粗粒砂少、海綿骨針少	良	灰白 灰白	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	外面煤付着
	52	甕	4区	SI001・002	18.3	—	—	中粒砂多（白色粒多）、海綿骨針	良	浅黄橙～暗灰 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	外直線文　外面煤付着
	53	底部	4区	SI001・002	—	—	5.4	粗粒砂多、極粗粒砂やや多	良	褐灰 灰黄褐	ナデ ハケメ	
	54	底部	4区	SI001・002	—	—	4.7	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針、 赤色粒	良	淡橙 橙	ケズリ ハケメ、ナデ	
	55	甕	4区	SI001・002	16.5	—	—	海綿骨針、極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ 口縁ヨコナデ、頸部ハケメ後ヨコナデ	
	56	底部	4区	SI001・002	—	—	5.4	海綿骨針、中粒砂多、極粗粒砂多、 細礫やや多	良	灰 にぶい黄橙～灰黄褐	ナデ ハケメ後ナデ、底面ナデ	内面摩滅　底面一部黒斑
	57	壺	4区	SI001・002	8.2	—	—	中粒砂少、粗粒砂微	良	にぶい黄橙 明赤褐	ハケメ後ミガキ ミガキ	外面赤彩

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面〇九六	58	鉢	4区	SI001・002	13.2	—	—	粗粒砂多	良	明赤褐 明赤褐	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	内外面赤彩
	59	脚部	4区	SI001・002	—	—	7.9	粗粒砂極多、極粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	台部ハケメ ミガキか、裾部端部ヨコナデ	鉢部内面剥離により調整不明瞭、外面摩滅により調整不明瞭
	60	高杯	4区	SI001・002	—	—	—	中粒砂やや多、海綿骨針微	良	橙 赤褐	ナデ、ハケメ後ナデ、指圧痕 ミガキ	外面赤彩
	61	器台	4区	SI001・002	—	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	基部ナデ、裾部ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ	
	62	底部	4区	SI001・002	—	—	7.8	中粒砂少	並	褐灰～黒褐 にぶい橙	ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、底面ナデ	内面黒斑あり　外面摩滅により調整不明瞭
	63	壺	4区	SI001・002	—	—	5.6	海綿骨針多、粗粒砂微、極粗粒砂微	並	灰白～褐灰 灰白～褐灰	ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、底面ナデ、ケズリ、接合痕	
	64	壺	4区	SI001・002	—	—	3.3	粗粒砂多、海綿骨針少	良	灰白 灰白	体部ハケメ一部ナデ、底部ナデ ミガキ、底面ナデ、ミガキ	
	65	甕	4区	SI003	—	—	4.4	極粗粒砂やや多、粗粒砂多、海綿骨針少	並	黄灰 にぶい黄橙	ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ	外面摩滅、剥離
	66	甕	4区	SI003	14.9	—	—	極粗粒砂やや多、中礫微量	良	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	内面摩滅　外面煤付着
	67	壺	4区	SI003	—	—	6.1	赤色粒、極粗粒砂やや多	良	にぶい橙 褐灰	ナデ 胴部ハケメ後ミガキ、底部ナデ	内外底面全体に煤付着
	68	甕	4区	SI003	15.4	—	—	中粒砂多、粗粒砂少	良	浅黄橙、灰黄褐 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部ケズリ 口縁～頸部ナデ、ハケメ	口縁外擬凹線6条　外面一部煤付着
	69	甕	4区	SI003	16.5	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ハケメ後ヨコナデ ヨコナデ	
	70	甕	4区	SI003	13.0	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ミガキ ミガキ	内外面摩滅　外面煤付着
	71	甕	4区	SI003	18.1	—	—	粗粒砂やや多	良	灰褐 灰褐	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	72	壺	4区	SI003	12.4	—	—	粗粒砂少、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ ミガキか	外面摩滅により調整不明瞭
	73	脚部	4区	SI003	—	—	7.7	中粒砂微、海綿骨針多	良	灰白 灰白	鉢部ミガキ、台部ハケメ後ナデ、ミガキ ハケメ後ミガキか、摩滅	
	74	器台	4区	SI003	7.7	—	—	粗粒砂少	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	有段部外連続刻み目、擬凹線1条　内外面赤彩
	75	壺	4区	SI003	20.0	—	—	粗粒砂やや多	良	明赤褐 明赤褐	ヘラナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	
図面〇九七	76	壺	4区	SI003	12.4	20.0	4.7	粗粒砂少	良	灰褐 灰褐	ミガキ、ナデ、ヘラナデ ミガキ	
	77	甕	4区	SI004　SK001	22.3	—	—	極粗粒砂多、細礫やや多、赤色粒	良	浅黄橙～橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目
	78	甕	4区	SI004　SK001	17.0	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
	79	底部	4区	SI004	—	—	5.1	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	外面煤付着
	80	底部	4区	SI004　SK001	—	—	4.4	赤色粒、中粒砂やや多	良	にぶい黄橙 浅黄橙～橙	ナデ ハケメ	
	81	高坏	4区	SI004	26.8	—	—	赤色粒、細粒砂(白色粒)やや多	良	赤 赤	ミガキ ミガキ、底面ナデ	内外面赤彩
	82	高坏	4区	SI004	—	—	13.4	海綿骨針、細粒砂(白色粒)やや多	良	灰 赤褐	ナデ ミガキ	外面赤彩
	83	甕	4区	SI004	13.5	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ヨコナデ ミガキ	外面一部煤付着
	84	甕	4区	SI004	14.3	—	—	中粒砂少、粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	
	85	甕	4区	SI004	20.5	—	—	中粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ後ヨコナデ、連続した指圧痕 ヨコナデ	口縁外擬凹線10条
	86	高坏	4区	SI004	14.6	—	—	粗粒砂多	良	明赤褐、浅黄橙 橙	ミガキ ヨコナデ、ミガキ	内面摩滅　内外面赤彩

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面〇九七	87	壺	4区	SI005	16.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ミガキ、ナデ	口縁内極浅い押圧文　外端刻み目
	88	壺	4区	SI005	21.9	—	—	粗粒砂多、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内工具によるナデ
	89	壺	4区	SI005	30.2	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい橙～にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外刻み目
	90	壺	4区	SI005	—	—	—	0.5mmの中粒砂多、 0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ	頸部外面ハケ状具の角による押圧、連続刺突文 頸部最小径 11.2cm　内面摩滅により調整不明瞭
	91	壺	4区	SI005	—	—	7.8	中粒砂多、海綿骨針	良	黄灰 浅黄橙、にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、ナデ後ハケメ ナデ	底部何かの圧痕か、小円刺突状のものあり　外面摩滅
	92	壺	4区	SI005	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ ハケメ後ナデ、ナデ後ハケメ	口縁内小竹管(2個1対)による刺突文
	93	鉢・把手	4区	SI005	—	—	—	中粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ、ハケメ痕、ヨコナデ	楕円状の把手、2個1対のひも穴あり
	94	鉢	4区	SI005	18.0	—	—	0.5mm前後の中粒砂少、精良	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部楕円状の把手に2個1対のひも穴か
	95	鉢	4区	SI005	19.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、精良	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁下に穿孔2個1対のひも穴
図面〇九八	96	壺	4区	SI005	16.5	—	—	赤色粒、極粗粒砂多、細礫少	良	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	口縁外縁凹線4条
	97	器台	4区	SI005	17.0	—	—	海綿骨針、赤色粒、極粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	
	98	壺	4区	SI005	16.0	—	—	粗粒砂少	良	灰白 にぶい黄橙、暗灰	ヨコナデ ヨコナデ	
	99	壺	4区	SI005	17.0	—	—	極粗粒砂多	良	灰白 黒	口縁ヨコナデ、頸部ケズリ ヨコナデ	外面煤付着
	100	壺	4区	SI005	16.2	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ ヨコナデ、指圧痕	
	101	壺	4区	SI005	15.8	—	—	粗粒砂多	良	灰白 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ ヨコナデ	外面煤付着
	102	壺	4区	SI005	16.8	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 褐灰、黒褐	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ヨコナデ	外面煤付着　内面部分的に剥離
	103	壺	4区	SI005	16.8	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後板ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後板ナデか	
	104	壺	4区	SI005	14.4	—	—	粗粒砂多	良	橙、にぶい黄橙 にぶい黄橙、褐灰	口縁ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ	
	105	壺	4区	SI005	15.0	—	—	中粒砂少、粗粒砂少	良	灰黄褐 褐灰、黒	口縁ヨコナデ、胴部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、指圧痕	
	106	壺	4区	SI005	14.8	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂少	良	浅黄 浅黄	口縁ハケメ後ナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ	
	107	壺	4区	SI005	17.4	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙、黒褐	口縁ヨコナデ、頸～胴部ハケメ後ナデ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	
	108	壺	4区	SI005	14.7	—	—	極粗粒砂やや多	良	灰黄褐 褐灰	口縁ヨコナデ、胴部板ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、指圧痕	内外面うすく煤付着
	109	壺	4区	SI005	15.7	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ハケメ、胴部ナデ ハケメ後指圧痕	外面一部煤付着
	110	壺	4区	SI005	17.0	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂多、海綿骨針微	良	灰白 灰白、黒褐	口縁ハケメ後ヨコナデ、胴部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、指圧痕	外面煤付着
	111	壺	4区	SI005	17.0	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後指圧痕 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ	
	112	壺	4区	SI005	15.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ	外面剥離により調整不明瞭
	113	壺	4区	SI005	20.2	—	—	粗粒砂やや多	良	浅黄橙 にぶい橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後指圧痕 ヨコナデ	
	114	壺	4区	SI005	20.3	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 灰黄褐～黒褐	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後指圧痕	外面うすく炭化物付着
	115	壺	4区	SI005	17.2	—	—	極粗粒砂多	良	灰黄褐～褐灰 灰黄	口縁～頸部ハケメ後ナデ、胴部ナデ 口縁ハケメ後ナデ、指圧痕、胴部ハケメ	内面黒斑、口縁部一部煤付着

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面 / 下段外面)	調整 (上段内面 / 下段外面)	備考
図面〇九八	116	甕	4区	SI005	18.9	—	—	中粒砂やや多、極粗粒砂少	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部板ナデか 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	
	117	甕	4区	SI005	—	—	2.0	極粗粒砂多	良	灰黄 にぶい黄橙、黄灰	ナデ ハケメ、ケズリ	外面黒斑　内外面・底面剥離
	118	甕	4区	SI005	—	—	2.3	粗粒砂少、中粒砂多	良	灰黄褐 黒（煤の色）	ハケメ ハケメ後ナデ、底面ナデ	外面全体に煤付着
図面〇九九	119	壺	4区	SI005	3.9	—	5.0	中粒砂やや多、海綿骨針少	良	赤、にぶい橙 赤	ミガキ ミガキ	外擬凹線９条、連続刺み目　底部穿孔２個 内外面赤彩
	120	壺	4区	SI005	7.6	—	—	粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	口縁ミガキ、頸部ハケメ 外ミガキ	内外面赤彩
	121	壺	4区	SI005	—	—	—	中粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ、ナデ ミガキ	外面沈線１条　頸部最小径 5.1cm
	122	壺	4区	SI005	—	—	4.4	極粗粒砂多、海綿骨針多	良	黄橙～黄灰 にぶい黄橙～黒褐	口縁部ミガキ、胴部ハケメ、ナデ 口縁～肩部ミガキ、胴部ナデ	頸部径 8.8cm　胴部下半煤か不明（黒褐色）、外面一部に黒斑
	123	壺	4区	SI005	12.2	—	—	中粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ヨコナデ、ナデ ミガキ、ハケメ	外面・口縁部内面赤彩
	124	台付壺	4区	SI005	—	—	—	粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ナデ ミガキ	外面赤彩
	125	壺	4区	SI005	—	—	7.2	極粗粒砂多	並	灰黄～黄灰 浅黄橙	ハケメ後ナデ、底面ケズリ、ナデ ハケメ後ナデ、ミガキか	外面に一部煤付着
	126	底部	4区	SI005	—	—	7.0	極粗粒砂微、中粒砂多	並	にぶい橙 灰褐	ナデ、指圧痕、板状具によるナデか ハケメ後ナデ、底面ナデ	
	127	底部	4区	SI005	—	—	5.4	粗粒砂少、中粒砂多	良	浅黄 浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ、底面ナデ	内外面一部黒斑
	128	高杯	4区	SI005	10.1	—	—	中粒砂多、粗粒砂やや多	良	にぶい橙 橙	ミガキ ミガキ	
	129	高杯	4区	SI005・SD004	—	—	—	中粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	有段部外擬凹線２条　内面摩滅
	130	高杯	4区	SI005	19.5	—	—	粗粒砂やや多、海綿骨針微	良	橙 橙	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	
	131	高杯	4区	SI005	19.3	—	—	粗粒砂やや多	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	132	高杯	4区	SI005	18.2	—	—	中粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	133	高杯	4区	SI005	19.4	—	—	中粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ ミガキ	
	134	高杯	4区	SI005	8.65	8.0	12.6	粗粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ、ナデ、ハケメ、ナデ ミガキ	外面一部赤彩的な所あり
	135	高杯	4区	SI005	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	鉢部ミガキ、脚部絞り痕、ナデ 外ミガキ	内外面ともに摩滅
	136	脚部	4区	SI005	—	—	—	粗粒砂やや多	良	灰白 灰白、橙	底面ミガキ、ミガキ、台部基部ナデ ミガキ	内面黒色、外面赤彩
	137	高杯	4区	SI005	—	—	8.7	粗粒砂多、海綿骨針少	良	灰黄 灰黄	ミガキ 絞り痕、ハケメ、ナデ	穿孔数不明、穿孔径 1.0cm
	138	高杯	4区	SI005	—	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 橙	杯部ミガキ、脚部ナデ、スソ部ハケメ ミガキ	外面部分的に赤彩残る
	139	高杯	4区	SI005	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ミガキ ハケメ後ミガキ、スソ部端部ヨコナデ	
	140	高杯	4区	SI005	—	—	13.2	粗砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙、赤 赤	ハケメ後ナデ、上半ミガキか ミガキ	穿孔２個縦に１対３箇所、穿孔径 0.8cm　内面摩滅、部分的に赤彩痕、外面赤彩
	141	高杯	4区	SI005	—	—	16.3	中粒砂やや多、海綿骨針微	良	橙、にぶい黄橙 明赤褐	ハケメ、ナデ、ミガキ ミガキ	脚部に擬凹線１条　内外面に赤彩　内面全体に摩滅
図面一〇〇	142	器台	4区	SI005	—	—	—	中粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ミガキ、脚部ナデ、ミガキ ミガキ	内外面摩滅　外面剥離により調整不明瞭
	143	器台	4区	SI005	—	—	11.0	中粒砂やや多	良	明褐 明褐	ナデ、ハケメ、ヨコナデ ミガキ	
	144	器台	4区	SI005	—	—	9.2	中粒砂やや多、海綿骨針少	良	明赤褐、にぶい黄橙 赤	ミガキ ミガキ	穿孔数不明　内面摩滅、部分的に赤彩痕、外面赤彩

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面100	145	高杯	4区	SI005	10.1	—	—	中粒砂やや多	良	橙、浅黄橙 橙、灰白	ミガキ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	内外面赤彩
	146	鉢	4区	SI005	1.9	—	—	中粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい橙 浅黄橙、浅黄橙	ナデ ハケメ、ケズリ、後ナデ、底部ナデ	底部穿孔、穿孔径0.9cm
	147	鉢	4区	SI005	9.0	6.6	4.6	粗粒砂多	良	明灰褐 明灰褐	ヨコナデ、ハケメ ナデ	底部黒斑あり
	148	壺	4区	SI005	5.8	—	—	中粒砂少	良	にぶい黄橙 赤、浅黄橙	ヨコナデ ミガキ	外面赤彩
	149	壺	4区	SI005	—	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂少	良	橙、灰白 橙	ミガキ ミガキ	内面摩滅　内外面赤彩
	150	壺	4区	SI005	—	—	—	中粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい赤橙	ミガキ 頸部～体部ミガキ	内面赤彩痕残る、外面赤彩
	151	壺	4区	SI005	—	—	—	中粒砂少、粗粒砂微、海綿骨針少	良	明赤褐 明赤褐	ハケメ後ミガキ ツマミ天井部ケズリ後ミガキ、ミガキ	ツマミ径3.65cm　内外面赤彩
	152	壺	4区	SI005	7.6	3.45	—	中粒砂やや多	良	明赤褐 明赤褐	ミガキか ミガキか	内外面赤彩　内外面剥離により調整不明瞭
	153	甕	4区	SI006	21.5	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕	口唇部内外にハケ状具による押圧・刺突文
	154	壺	4区	SI006	—	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂微、海綿骨針微	良	灰白 にぶい黄橙	わずかにハケメ痕残る ハケメ後ナデ、ハケメ後工具によるナデ	頸部沈線3条、頸部最小径11.6cm　内面剥離により調整不明瞭
	155	甕	4区	SI006	21.6	—	—	海綿骨針、極粗粒砂多、細礫少	良	橙 橙	ハケメ後ナデ 口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
	156	鉢	4区	SI006	22.0	—	—	細粒砂多(白色粒多)、 極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙～橙 にぶい黄橙～橙	ヨコナデ、口縁端部ナデ、板ナデ ヨコナデ、口縁端部ナデ、板ナデ	口縁穿孔2個1対
	157	壺	4区	SI006	13.8	—	—	粗粒砂(赤色粒)極多、極粗粒砂多、 海綿骨針やや多	良	浅黄橙 灰黄	口縁ハケメ後ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁ヨコナデ、胴部ミガキ・ナデか	
	158	高杯	4区	SI006	13.9	—	—	中粒砂少	良	明赤褐 明赤褐、にぶい橙	ミガキ ミガキ	内外面全体赤彩
	159	高杯	4区	SI006	—	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂少	良	橙 にぶい黄橙	杯部ミガキ、裾部ハケメ ミガキ	穿孔径0.8cm、穿孔4箇所
	160	壺	4区	SI006	—	—	—	中粒砂少	良	赤褐 赤灰	— ミガキ	ツマミ径2.1cm　全体赤彩
	161	壺	4区	SI006・SK058	5.3	2.2	—	中粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ ミガキ	外面横凹線　内外面赤彩
	162	底部	4区	SI006 周溝（SD014）	—	—	7.2	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの 極粗粒砂多、海綿骨針多	良	黄灰 にぶい橙～黄灰	ナデ ハケメ、ナデ	内外面とも摩滅著しい
	163	高杯	4区	SI006 周溝（SD014）	—	—	13.5	粗粒砂多	良	褐灰 明赤褐～褐灰	ハケメ後ナデ、指圧痕 ミガキ	円形透孔単位3　外面に黒斑・赤彩
	164	高杯	4区	SI006 周溝（SD014）	13.8	—	—	粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	内外面赤彩
	165	脚部	4区	SI006 周溝（SD014）	—	—	11.0	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	台上半ケズリ、台裾部ヨコナデ 上半ハケメ、裾部ナデ、端部ヨコナデ	
図面101	166	甕	4区	SI007	17.5	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、口縁部ヨコナデ	外面全体に煤付着
	167	甕	4区	SI007	19.9	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙、黄灰 にぶい橙、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	外面煤付着
	168	甕	4区	SI007	17.7	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂少、 2mm～3mmの細礫多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　内外面共に摩滅著しく調整不明瞭
	169	甕	4区	SI007	18.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、指圧痕 ハケメ、指圧痕(外全体に煤付着)	口縁内羽状刺突文、端部凹線1条
	170	甕	4区	SI007	17.7	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内羽状刺突文3条、外刻み目　内面一部うすい黒斑
	171	甕	4区	SI007	19.2	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ	口縁内連続刺突文
	172	甕	4区	SI007	20.2	—	—	粗粒砂少、中粒砂多	並	灰黄 にぶい黄橙、黒褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁外刻み目　外面煤付着
	173	甕	4区	SI007	22.5	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙、黒 にぶい橙、黒褐	ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁外刻み目、外面胴部箒状文　内外面煤付着 外面部分的に剥離

図面番号	№	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面10-1	174	ミニチュア変形土器	4区	SI007	10.2	10.8	4.3	粗粒砂やや多	良	浅黄橙 灰白、黒	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ケズリ、ナデ	口縁内連続刺突文、外刻み目　外面煤付着、多面底部黒斑
	175	甕	4区	SI007	—	—	4.9	0.5mm～1.5mmの粗粒砂やや多	良	黄灰～暗灰 にぶい橙～灰	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、底面ナデ	外面全体に煤付着
	176	甕	4区	SI007	—	—	7.0	極粗粒砂微、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	内面のハケ２種類使用か(細)　内面底部一部黒斑、外面部分的に煤付着
	177	底部	4区	SI007	—	—	5.1	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ナデあげ ハケメ、ナデ	
	178	壺	4区	SI007	—	—	7.0	粗粒砂少、中粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕、摩滅 ハケメ後ナデ	内外面炭化物付着　摩滅、特に外面摩滅により調整不明瞭
図面10-11	179	壺	4区	SI007	9.4	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ	外面一部黒斑
	180	甕	4区	SI007	15.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ	
	181	壺	4区	SI007	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ナデ、ヨコナデ	口縁内羽状刺突文４条、外端刻み目　内面一部黒斑
	182	壺	4区	SI007	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	頸部貼付突帯に斜格子文
	183	壺	4区	SI007	18.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ハケメ後ヨコナデ、ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、竹管による円形刺突文、外端刻み目
	184	無頸壺	4区	SI007	12.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、指圧痕、口縁部ヨコナデ ミガキかナデ	胴部上方に極浅い凹線か？途中で消える　外面・口縁部内面赤彩　外面は全体に摩滅
	185	無頸壺	4区	SI007	8.4	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針	良	にぶい黄橙 橙、にぶい橙	ナデ ハケメ後ミガキ	口縁外羽状刺突文、沈線１条
	186	無頸壺	4区	SI007	9.7	14.15	4.8	粗粒砂多、海綿骨針少	良	黄灰 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、ハケメ ハケメ後工具によるナデか、ミガキ	口縁外突帯・剥離、剥離面ハケ調整　穿孔２個１対
	187	底部	4区	SI007	—	—	6.2	中礫１個、極粗粒砂少、粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～灰黄褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	外面底部一部黒斑、煤付着、内面一部黒斑
	188	鉢	4区	SI007	—	—	8.9	中粒砂多、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、強い指圧痕 ハケメ、ナデ、ケズリ	壺底部を転用
	189	底部	4区	SI007	—	—	6.8	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、ケズリ	
	190	底部	4区	SI007	—	—	7.4	粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内面底部一部黒斑
	191	鉢	4区	SI007	12.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ	口縁端部に穿孔１個
	192	鉢	4区	SI007	12.3	—	4.7	粗粒砂やや多、海綿骨針	良	灰白～浅黄橙 灰白～浅黄橙	ハケメ、ナデ、板ナデ ハケメ、ナデ、板ナデ	口縁穿孔対面に各１残、両側欠損の為２個対かは不明
	193	鉢	4区	SI007	14.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、口縁部ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、口縁部ヨコナデ	
	194	鉢	4区	SI007	24.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針	良	にぶい橙～灰黄褐 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕	口縁部に補修孔１個　把手の部分は欠損
	195	壺	4区	SI007	—	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ミガキ	外面摩滅
	196	底部	4区	SI007	—	—	6.7	粗粒砂多	良	灰	ハケメ、ナデ ハケメ、底面ナデ	外面煤付着
	197	底部	4区	SI007	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	黒灰 明灰褐	ナデ、ハケメ ハケメ、ミガキ、底面ナデ	
	198	底部	4区	SI007	—	—	8.05	粗粒砂多	良	黒灰 明褐	ハケメ、ナデ ハケメ	
図面10-11	199	甕	4区	SI007	16.3	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	200	甕	4区	SI007	20.1	—	—	極粗粒砂少	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ(口縁掻状具によるナデ)	外面煤厚く付着
	201	甕	4区	SI007	16.1	—	—	極粗粒砂少、細礫微	良	灰白 灰白	ナデ ハケメ、ナデ、接着痕	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　施文が雑、特に外の刻み目
	202	甕	4区	SI007	17.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針	良	褐灰～にぶい橙 褐灰～にぶい橙	ナデ ハケメ、ナデ、接着痕	口縁内羽状刺突文　外面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一〇三	203	甕	4区	SI007	20.5	—		粗粒砂多、赤色粒	並	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文
	204	甕	4区	SI007	22.9	—	—	極粗粒砂微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	205	甕	4区	SI007	22.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒微	良	灰白、黒 にぶい橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内面黒斑、外面煤付着
	206	甕	4区	SI007	23.8	—	—	細礫多	良	浅黄橙～褐灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	207	甕	4区	SI007	11.7	12.1	5.8	1㎜～1.5㎜の極粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ハケメ、胴部ハケメ、底部ナデ 口縁部ハケメ、胴部ハケメ、底面ケズリ	内面の底面に黒斑か、外面全体に煤強く付着
	208	甕	4区	SI007	11.6	15.6	4.5	極粗粒砂やや多、細礫やや多、海綿骨針	良	灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外煤付着、底部内一部黒斑
	209	甕	4区	SI007	—	—	7.9	粗粒砂多	良	黄灰 浅黄橙	— ハケメ後ナデか	内面剥離により調整不明瞭、外面磨耗
	210	甕	4区	SI007	—	—	7.5	細礫多、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ナデ、ハケメ	外面煤付着、内外面黒斑
	211	甕	4区	SI007	—	—	8.0	0.5㎜～1.5㎜の粗粒砂、極粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい橙 にぶい橙	底部ナデ、指圧痕 指圧痕、底面ケズリ、ナデ	内底面に黒斑　外面全体に赤彩痕、一部剥離面に顔料がしみ込んでいる
	212	壺	4区	SI007	17.2	—	—	極粗流砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　縦に粘土を重ねて成形
	213	底部	4区	SI007	—	—	8.0	中粒砂多(白色粒多)、粗粒砂多、赤色粒	良	暗灰	ナデ ハケメ、ナデ	内面剥離
	214	甕	4区	SI007	10.4	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、指圧痕 ハケメ、指圧痕	外面全体に煤付着
	215	甕	4区	SI007	—	—	—	粗粒砂やや多	良	明灰褐 明灰褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ	
図面一〇四	216	鉢	4区	SK001	17.7	—		極粗粒砂少	良	灰白 にぶい橙	ハケメ ナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　外煤付着
	217	甕	4区	SK001	19.2	—	—	極粗粒砂少、赤色粒	並	浅黄橙 にぶい褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外煤付着
	218	甕	4区	SK001	20.6	—	—	極粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ	口縁内羽状刺突文（3条か)、外連続刻み目
	219	甕	4区	SK001	15.3	—	—	極粗粒砂少微量	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文
	220	甕	4区	SK001	19.5	—	—	中粒砂多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰褐、褐灰	ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	外面煤付着
	221	底部	4区	SK001	—	—	4.3	中粒砂多(白色粒多)	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	222	底部	4区	SK001	—	—	5.2	中粒砂多（白色粒多)、粗粒砂少	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ、ナデ ハケメ	外面煤付着
	223	鉢	4区	SK001	—	—	6.0	中粒砂多(白色粒多)、細礫やや多、海綿骨針	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ	底部穿孔1個(径上0.9㎝下1㎝)
	224	壺	4区	SK001	15.2	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂多、海綿骨針少	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内面口縁部刻み目4個　内外面とも摩耗
	225	壺	4区	SK001	11.9	—	—	極粗粒砂やや多、細礫やや多、赤色粒、海綿骨針	並	黄灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ	口縁外連続刻み目
	226	壺	4区	SK001	—	—	7.2	極粗粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針	良	灰白～暗灰 橙～灰白	ハケメ、ナデ、板ナデ ハケメ、ナデ、板ナデ	肩部沈線による1条の波状文
	227	底部	4区	SK001	—	—	7.2	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	灰白 灰白～にぶい橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	外面～底部一部黒斑
	228	甕	4区	SK002	16.5	—	—	0.5㎜～1㎜の極粗粒砂多	良	灰黄褐 灰黄褐	口縁～胴部ハケメ、頸部に指圧痕 口縁部ハケメ後ナデ、胴部ハケメ	口縁外連続刻み目、外・口唇部に斜位の刻み目外面全体に煤付着
	229	甕	4区	SK002	16.1	—	—	極粗粒砂少、赤色粒	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ、ナデ ナデ、ハケメ、接着痕	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	230	甕	4区	SK002	15.4	—	—	粗粒砂多、海綿骨針微	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキか	口縁内小波状、外連続刺突文　口縁部外面煤付着
	231	底部	4区	SK002	—	—	8.4	中粒砂多	並	灰 浅黄橙	ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一〇四	232	鉢	4区	SK002	—	—	12.4	粗粒砂多、海綿骨針少	良	黒 にぶい黄橙	ナデ、ミガキ ナデ、ミガキ、指圧痕	外面底部・内面黒斑
図面一〇五	233	壺	4区	SK002	17.0	—	—	粗粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	ヨコハケメ ハケメ	口縁内斜行短線文、押引列点文、外直線文　外面・口縁部内面赤彩
	234	壺	4区	SK002	—	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ	外連続刺突文、櫛描直線文
	235	甕	4区	SK003	14.6	—	—	粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい黄橙、黒	ナデ、ハケメ ハケメ(綾杉状ハケメ目)、ナデ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	236	甕	4区	SK003	16.3	—	—	1mm～2mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ヨコナデ	口縁部小波状　外面全体に煤付着
	237	甕	4区	SK003	20.0	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 橙～にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	
	238	甕	4区	SK003	20.6	—	—	粗粒砂少、細礫少、赤色粒、海綿骨針	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	口縁部僅かに煤付着
	239	甕	4区	SK003	20.0	—	—	粗粒砂少、1/2mm～1mm赤色粒多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙～褐灰 にぶい橙	ナデ、横位ハケメ、指圧痕多 ナデ、縦位、横ハケメ、指圧痕多	外面煤付着
	240	甕	4区	SK003	21.4	—	—	細礫微、極粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 浅黄橙～にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、工具によるナデ ハケメ後ナデ	口縁外刻み目　外面部分的に煤付着、内面一部黒斑
	241	甕	4区	SK003	16.3	—	—	粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙～黒	ナデ、指圧痕、横～斜位ハケメ ナデ、指圧痕、ハケメ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　外面煤付着
	242	甕	4区	SK003	17.0	—	—	極粗粒砂少、0.4×0.6cmの細礫1個、赤色粒、白色粒少	良	浅黄橙 にぶい橙～黒	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　外面煤付着　切り返し有り、単位不明
	243	壺	4区	SK003	8.7	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少、赤色粒	並	浅黄橙 橙	ハケメ ハケメ	内外面ハケメ摩滅
	244	底部	4区	SK003	—	—	5.1	極粗粒砂少、細礫やや多、赤色粒、海綿骨針	良	黒(黒斑) にぶい黄橙	ナデ ハケメ	内面黒斑、外底面一部黒斑
図面一〇六	245	甕	4区	SK004	13.1	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	煤付着
	246	甕	4区	SK004	15.3	—	—	粗粒砂少	並	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ後所々ミガキか、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目
	247	甕	4区	SK004	17.0	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁部小波状　外面全体に煤付着
	248	壺	4区	SK004	19.7	—	—	極粗粒砂微、海綿骨針	良	にぶい黄橙 橙	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、竹管文、外連続刻み目
	249	甕	4区	SK004	21.3	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針、赤色粒	並	橙 浅黄橙、橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	250	甕	4区	SK004	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 橙	ハケメ ハケメ、ナデ、ヨコナデ	羽状刺突文、円形刺突文
	251	底部	4区	SK004	—	—	5.4	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	黒褐 橙、黒褐	ナデ、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	外面煤付着、内外面黒斑
	252	底部	4区	SK004	—	—	6.5	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙、黒	ナデ ハケメ後ナデ	外面黒斑
	253	甕	4区	SK004	—	—	7.4	粗粒砂多	並	にぶい橙、明黄褐 にぶい黄橙、褐灰	ハケメ、ナデ ハケメ	内外面とも摩耗し、特に外面は調整不明瞭　外面煤付着
	254	壺	4区	SK004	16.8	—	—	粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ ハケメ後ヨコナデ	口縁内羽状刺突文
	255	壺	4区	SK004	21.1	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文
	256	壺	4区	SK004	16.5	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針	並	浅黄橙、橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	257	壺	4区	SK004	—	—	—	極粗粒砂多、細礫微、海綿骨針、赤色粒	並	浅黄橙～橙 淡橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	外沈線、直線文、鋸状文、斜行短線文、円形刺突文　内面一部黒斑
	258	脚部	4区	SK004	—	—	13.0	極粗粒砂やや多、海綿骨針	良	にぶい黄橙 赤彩	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面脚部連続刻み目　外面赤彩
	259	底部	4区	SK004	—	—	7.2	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ	
図面一〇七	260	壺	4区	SK004	—	—	9.0	粗粒砂多	並	灰白 灰白	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	頸部径10.9cm　内外面とも摩滅　外面底部黒斑

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一〇七	261	無頸壺	4区	SK004	10.4	21.6	6.3	粗粒砂多、極粗粒砂多、細礫やや多、赤色粒、海綿骨針	並	にぶい黄橙 浅黄橙～橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	穿孔2個1対残　内外面底部に黒斑　口縁部外面摩滅不明
	262	高杯	4区	SK004	—	—	—	0.5mm前後の中粒砂少	良	にぶい橙～黄灰 にぶい橙	ハケメ、ミガキ ハケメ、ミガキ	ハケ状工具による連続刺突文
	263	ミニチュア甕形土器	4区	SK004	4.5	—	—	極粗粒砂微、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ナデ、ハケメ	小型土器、輪積み成型
	264	甕	4区	SK004	18.4	—	—	粗粒砂多、海綿骨針やや多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	内外面ともに調整摩滅著し
図面一〇八	265	壺	4区	SK005	8.2	—	—	粗粒砂やや多	良	明褐 明褐	ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁片口状
	266	底部	4区	SK005	—	—	8.0	中粒砂多、粗粒砂少	良	暗灰 にぶい橙	ナデ ハケメ後ナデ	内面黒斑か
	267	底部	4区	SK005	—	—	5.9	中粒砂多、極粗粒砂やや多、細礫少、海綿骨針、赤色粒	良	灰白 灰白	ナデ、指圧痕 板ナデ、ナデ	内外面黒斑あり
	268	壺	4区	SK005				中粒砂多(白色粒多)、赤色粒	並	浅黄橙 橙	— ナデ	把手部径2.0cm×1.8cm、厚さ0.9cm
	269	甕	4区	SK006	16.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、2mm前後の細礫少、海綿骨針多	良	にぶい黄橙～褐灰 にぶい黄橙～褐灰	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁部小波状
	270	甕	4区	SK006	23.6	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少	並	橙 橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目
	271	甕	4区	SK006	18.3	—	—	極粗粒砂やや多、細礫少	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	272	甕	4区	SK006	18.7	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多	良	浅黄橙 灰黄	ハケメ、ナデ 口縁部ハケメ、ナデ	口縁内三角刺突文、外端刻み目
	273	甕	4区	SK006	22.8	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂微	並	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文
	274	甕	4区	SK006	—	—	5.4	粗粒砂多、極粒砂少	並	黒、黄灰 にぶい黄橙	ハケメ後ケズリ、ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	内面黒斑か　内面全体磨耗不明、外面磨耗
	275	底部	4区	SK006	—	—	5.5	粗粒砂少、極粗粒砂微	並	褐灰 にぶい黄褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	276	底部	4区	SK006	—	—	5.3	中粒砂多(白色粒多)、極粗粒砂やや多、海綿骨針	良	橙～黄灰 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	
	277	底部	4区	SK006	—	—	5.7	極粗粒砂やや多、細礫やや多	良	浅黄橙 にぶい褐	ナデ ナデ、ハケメ	底面穿孔1(径最大0.7cm)
	278	底部	4区	SK006	—	—	5.2	粗粒砂多、中粒砂多、細礫やや多、海綿骨針	良	暗灰 灰黄褐	ナデ、指圧痕 板ナデ、ナデ	外面煤付着
	279	壺	4区	SK006	13.2	—		極粗粒砂やや多、赤色粒	並	灰白 灰白	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　内面接合痕残る
	280	無頸壺	4区	SK006	8.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～浅黄橙	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、ナデ	口縁外肥厚帯に羽状刺突文
	281	無頸壺	4区	SK006	10.0	—	—	粗粒砂やや多、海綿骨針	良	灰白 灰白	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ミガキ	穿孔1残
	282	壺	4区	SK006	—	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	頸部貼付突帯にハケ状具による刺突文、頸部径11.2cm
	283	底部	4区	SK006	—	—	9.8	極粗粒砂やや多、中粒砂多(白色粒多)、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	不明 ハケメ、ナデ	内面使用により剥離　黒斑あり
	284	壺	4区	SK006	—	—	7.1	粗粒砂やや多	良	灰白 灰白、底部黒	ナデ、ミガキ ハケメ後ミガキ	外面底部黒斑
	285	鉢	4区	SK006	9.4	—	—	赤色粒、海綿骨針	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁端、外連続刺突文
	286	鉢	4区	SK006	17.9	—	—	粗粒砂やや多、海綿骨針	良	にぶい黄橙～灰 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ハケメ、ナデ、ミガキ	
	287	器台	4区	SK006	—	—	7.55	中粒砂少	良	赤彩 赤彩	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	288	底部	4区	SK007	—	—	5.8	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	灰色 にぶい黄	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
図面一〇九	289	甕	4区	SK008	16.8	—	—	粗粒砂微	良	橙 橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	外面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図版一〇九	290	甕	4区	SK008	27.4	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	褐灰、灰白 浅黄橙、黒	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ、ハケメ後ナデ	外面煤付着
	291	甕	4区	SK008	18.1	—	—	極粗粒砂少、細礫微、赤色粒	良	にぶい橙 灰褐	ナデ ナデ	口縁内羽状刺突文
	292	壺	4区	SK008	14.4	—	—	粗粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ	
	293	甕	4区	SK009	22.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄褐 灰黄褐～にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ 口縁部ヨコナデ、口頸胴部ハケメ	頸部に工具痕　内面薄く煤付着、頸部外面煤付着
	294	鉢	4区	SK009	10.9	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、体部ナデ	
	295	底部	4区	SK011	—	—	6.7	粗粒砂少、極粗粒砂少	良	黄灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	296	高杯	4区	SK011	20.0	—	—	精良、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	297	甕	4区	SK013	14.0	—	—	極粗粒砂多、中粒砂多(白色粒多)	良	浅黄橙 にぶい黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁外連続刻み目
	298	甕	4区	SK013	17.2	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口唇部ヨコナデ、ハケメ	口縁部外端刻み目　外面煤付着　内面うすくヨゴレ
	299	甕	4区	SK013	17.7	—	—	極粗粒砂多	並	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　内面口縁端部までナデあげ
	300	甕	4区	SK013	19.4	—	—	極粗粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　外煤付着
	301	甕	4区	SK013	20.6	—	—	極粗粒砂多	並	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ、工具痕 ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目
	302	甕	4区	SK013	25.8	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕	口縁外端刻み目　口縁部外面にうすく煤(ヨゴレ)付着
	303	甕	4区	SK013	15.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	浅黄褐 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内斜行短線文(2条)、外刻み目　外面口縁部に煤付着
	304	甕	4区	SK013	16.3	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂少、海綿骨針含む	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁内羽状刺突文　口縁部外面に煤付着
	305	甕	4区	SK013	17.8	—	—	極粗粒砂やや多、細礫微量、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	306	甕	4区	SK013	19.2	—	—	1mm～2mmの粗粒砂、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、ヨコナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　口縁部・頸部に煤付着
	307	甕	4区	SK013	18.8	—	—	極粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外端斜格子文
図版一一〇	308	甕	4区	SK013	16.4	19.7	6.1	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	にぶい黄橙、褐灰 にぶい黄橙、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	外面煤付着
	309	甕	4区	SK013	17.7	—	—	粗粒砂多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ	外面煤付着
	310	底部	4区	SK013	—	—	5.0	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針含む	良	灰黄褐	ナデ、指圧痕 ハケメ、ケズリナデ、底面にハケメ、ナデ	内外底面に黒斑
	311	底部	4区	SK013	—	—	7.6	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針含む	良	褐灰～黒褐 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	内外面に黒斑、内面に炭化物付着
	312	壺	4区	SK013	16.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ミガキ	口縁外刻み目
	313	壺	4区	SK013	14.0	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂多、海綿骨針微	良	灰黄	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	
	314	壺	4区	SK013	16.2	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂やや多	良	橙～灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁内羽状刺突文
	315	壺	4区	SK013	—	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針多	良	橙～黄灰 橙～橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	頸部貼付突帯にハケ状工具による刺突文、頸部径11.0cm
	316	無頸壺	4区	SK013	8.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 一部かすかにハケメ痕	外面全体に摩滅
	317	壺	4区	SK013	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒含む	良	灰黄 にぶい黄橙～灰褐(煤の色)	ハケメ ハケメ	外面籠目、煤付着
	318	鉢	4区	SK013	17.3	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部外ハケ状工具による沈線1条、穿孔1残(2個1対か)

図面番号	№	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図版二〇	319	壺	4区	SK013	—	—	6.0	極粗粒砂少、粗粒砂多	並	灰白 灰白～浅黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ナデ、底面ナデ	内外面一部黒斑　外面摩滅により調整不明瞭
	320	壺	4区	SK014	16.0	—	—	0.5mmから1mmの粗粒砂多、赤色粒含む	良	灰 灰	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　内外面磨耗著し
	321	壺	4区	SK014	18.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄～黄灰 浅黄橙～褐灰	ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、円形浮文2個貼付
図版二一	322	甕	4区	SK014	17.5	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針	並	浅黄橙～灰 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　内面上部摩滅不明
	323	鉢	4区	SK014	13.6	—	—	粗粒砂少、海綿骨針、赤色粒	良	暗褐灰 明褐灰	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	穿孔（2個1対）のうち1個残（もう1個は端が僅かに残る）
	324	底部	4区	SK016	—	—	3.8	粗粒砂多、極粗粒砂やや多	良	灰褐 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、底面ナデ	
	325	甕	4区	SK016	13.8	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙、黒 灰褐、黒	口縁ヨコナデ、胴部ケズリ ヨコナデ	内外面煤付着
	326	壺	4区	SK016	—	—	2.7	中粒砂やや多、海綿骨針多	良	褐灰 褐灰、にぶい黄橙	ナデ ハケメ、底面ナデ、部分的にミガキ	
	327	甕	4区	SK017	17.8	—	—	粗粒砂少	並	灰白 灰白	ナデ、ハケメ、指圧痕 ハケメ後ナデ、ハケメ	口縁外刻み目　外面煤付着
	328	甕	4区	SK022	17.2	—	—	極粗粒砂少、中粒砂やや多（白粒砂やや多）、海綿骨針	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ、指圧痕 ナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	329	甕	4区	SK022	16.4	—	—	粗粒砂少、中粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁外刻み目　外面煤付着
	330	甕	4区	SK022	19.6	—	—	極粗粒砂、粗粒砂多	並	浅黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ後ナデ ナデ、ハケメ後ナデか	口縁外刻み目　磨耗により調整不明瞭
	331	甕	4区	SK022	21.6	—	—	粗粒砂微、極粗粒砂微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状
	332	壺	4区	SK022	14.0	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	並	浅黄 浅黄	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文　内面剥離
	333	甕	4区	SK022	18.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ナデ ヨコナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、円形浮文2個貼付、外端に刻み目
	334	甕	4区	SK022	—	—	5.4	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕、底面ナデ ハケメ、ナデ、ケズリ	内面黒斑、外胴部に煤付着　底部圧痕有り
	335	壺	4区	SK022	—	—	6.4	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ナデか、底面ナデ凹	外底部辺～底面に黒斑
	336	底部	4区	SK022	—	—	8.4	粗粒砂やや多	良	灰白 灰白	ナデ ハケメ、ナデ	底面一部黒斑
	337	高杯	4区	SK023	17.8	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂少、海綿骨針少	良	橙 橙、灰白、暗灰	ミガキ ミガキ	内外面赤彩　外面黒斑
	338	壺	4区	SK023	—	—	6.6	中粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針少	良	黄灰 灰黄	ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ	内面黒斑
図版二二	339	甕	4区	SK026	17.8	—	—	極粗粒砂多、細礫やや多、赤色粒、海綿骨針	並	浅黄橙～灰黄褐 浅黄橙～橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁部小波状　頸部に穿孔2個1対あり
	340	甕	4区	SK026	17.6	—	—	極粗粒砂やや多、海綿骨針	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	341	甕	4区	SK026	17.9	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	並	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文（縦列気味）、外連続刻み目
	342	甕	4区	SK026	18.3	—	—	中粒砂多、海綿骨針	良	浅黄橙、暗灰 暗灰	ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	343	甕	4区	SK026	19.4	—	—	粗粒砂少、海綿骨針	良	浅黄橙 にぶい褐	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	344	甕	4区	SK026	21.6	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、接着痕 ハケメ	口縁内羽状刺突文　外面煤付着
	345	甕	4区	SK026	23.8	—	—	粗粒砂多、赤色粒	良	浅黄橙 にぶい褐	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、垂線（単位不明）、外連続刻み目
	346	甕	4区	SK026	6.6	—	—	中粒砂多（白色粒多）、粗粒砂多、細礫やや多	並	にぶい黄橙～黒灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	内面煤付着
	347	底部	4区	SK026	—	—	5.5	極粗粒砂多	良	黒 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	内外全面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一二	348	底部	4区	SK026	5.9	—	—	中粒砂多(白色粒多)、極粗粒砂少	並	暗灰 淡桃	ナデ ハケメ、ナデ	
	349	壺	4区	SK026	12.3	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	並	灰 浅黄橙	ナデ、指圧痕 ナデ、ハケメ、指圧痕	口縁内羽状刺突文
	350	壺	4区	SK026	10.3	—	—	中粒砂多、細礫微	並	明褐灰 灰白	ナデ ナデ	口縁外羽状刺突文　内外摩滅
	351	壺	4区	SK026	13.4	—	—	中粒砂多(白色粒多)、粗粒砂少、海綿骨針	並	にぶい黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目
	352	壺	4区	SK026	17.3	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針、赤色粒	並	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、指圧痕 ナデ、指圧痕	貼付突帯に連続刺突文、直線文
	353	壺	4区	SK026	15.5	—	—	極粗粒砂多、赤色粒、細礫微量	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ ナデ	口縁外刻み目5個残(単位不明)　外面摩滅により調整不明瞭
	354	壺	4区	SK026	13.0	—	—	粗粒砂多、赤色粒	良	浅黄橙 黄橙	ナデ、ハケメ、指圧痕 ナデ、ハケメ	口縁端部連続刻み目
	355	壺	4区	SK026	—	—	—	極粗粒砂やや多	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	頸部擬凹線3条、頸部径11.1cm　外面一部黒斑
	356	壺	4区	SK026	—	—	—	粗粒砂多	良	褐灰 灰白	ナデ ハケメ、ナデ	頸部貼付突帯に斜格子文、頸部径13.1cm
	357	壺	4区	SK026	—	—	11.9	極粗粒砂やや多、細礫少	並	褐灰 橙	ハケメ、ナデ ナデ、ミガキ	頸部貼付突帯に斜格子文
	358	底部	4区	SK026	—	—	10.9	粗粒砂多、赤色粒、 海綿骨針	並	にぶい黄橙 浅黄橙	ナデ、ハケメ、接着痕 ナデ	底面黒斑
図面一三	359	底部	4区	SK027	—	—	5.9	極粗粒砂多、赤色粒、海綿骨針	並	灰 浅黄橙	ナデ、ハケメ ナデ	外面摩滅　一部黒斑あり
	360	壺	4区	SK029	16.0	—		極粗粒砂多、細礫やや多	良	浅黄橙～褐灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ、ケズリ ハケメ、ナデ	内面ケズリは斜位のち縦位　外面煤付着
	361	底部	4区	SK029	—	—	4.4	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	黄灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕、底面にナデ	外面に煤付着、底部～底部近黒斑
	362	壺	4区	SK029	15.7	—	—	赤色粒、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目
	363	壺	4区	SK029	16.2	—		海綿骨針、赤色粒、細礫微	良	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	
	364	壺	4区	SK029	—	—	5.6	海綿骨針、極粗粒砂やや多、細礫少	良	灰 浅黄橙	ハケメ 底面ナデ、ミガキ	外面黒斑あり
	365	高杯	4区	SK029	25.4	—	—	海綿骨針少、赤色粒、 中粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	366	高杯	4区	SK029	25.3	—	—	中粒砂多、赤色粒多、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ 口縁部ヨコナデ、体部ミガキ	口縁外擬凹線9条
	367	器台	4区	SK029	—	—	22.2	中粒砂やや多	良	黒褐 にぶい橙	ハケメ後ヨコナデ ミガキ	裾部外S字形スタンプ文、擬凹線1条　摩滅
	368	台付鉢	4区	SK029	—	—	10.1	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	黄灰、灰 灰黄、浅黄橙	杯部ハケメ、脚部ナデ、指圧痕 ハケメ後ミガキ	
	369	器台	4区	SK029	—	5.2	10.0	中粒砂やや多	良	赤褐 赤褐	ハケメ、ヨコナデ ヨコナデ	脚部外S字形スタンプ文、穿孔8箇所残存　表面剥離、磨滅　煤付着
	370	鉢	4区	SK030	16.0	—	—	細礫やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	371	底部	4区	SK030	—	—	6.3	粗粒砂多(白色粒多)、細礫微	並	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ナデ	外面一部黒斑あり
	372	壺	4区	SK030	—	—	7.0	極粗粒砂多、細礫多	良	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	内底面黒斑
図面一四	373	蓋	4区	SK031	—	—	—	粗粒砂多	良	灰白 灰白	— ミガキか	ツマミ径3.0cm　内外面とも摩滅し調整不明瞭
	374	壺	4区	SK033	—	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、橙	— ハケメ、ハケメ後ナデ	頸部径10.6cm　内面摩滅により調整不明瞭　多面下部剥離
	375	壺	4区	SK033	12.1	—	—	粗粒砂少、赤色粒多、海綿骨針少	並	にぶい黄橙～橙 にぶい黄橙	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、指圧痕	
	376	器台	4区	SK033	—	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	良	橙 淡橙～赤橙	ハケメ、ナデ ハケメ	外面赤彩痕　内外面とも摩滅、特に外面は全体に摩滅している

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一一四	377	甕	4区	SK035	17.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄橙 灰黄橙	ハケメ、ナデ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	頸部にヘラ状工具による横位の短い凹線を施す 内外面に煤付着
	378	甕	4区	SK035	19.6	—	—	粗粒砂、極粗粒砂多	並	浅黄橙 浅黄橙、褐灰	ハケメ ハケメ	外面一部煤付着、内面黒斑、ヨゴレか
	379	甕	4区	SK035	16.5	—	—	中粒砂少、赤色粒、海綿骨針	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文　外面煤付着
	380	甕	4区	SK035	12.6	—	—	中粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ケズリ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	381	甕	4区	SK035	16.0	—	—	極粗粒砂少、細礫少、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	382	甕	4区	SK035	15.6	—	—	粗粒砂少、細礫少、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	斜位のハケメ、ナデ 横位のナデ、ハケメ	口縁部小波状　内面摩滅　外面煤付着
	383	甕	4区	SK035	17.8	—	—	1mm～2mmの粗粒砂少、2mm～3mmの細礫少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状
	384	甕	4区	SK035	17.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、ハケメ	口縁部小波状
図面一一五	385	底部	4区	SK035	—	—	4.6	粗粒砂多	並	にぶい黄橙 黒、にぶい黄橙	ミガキかナデ ナデ	内面黒斑
	386	底部	4区	SK035	6.1	—	—	2mm～3.5mmの細礫多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底面ケズリ、ハケメ、ナデ	外面に煤付着　内外面一部に黒斑
	387	底部	4区	SK035	—	—	7.3	中粒砂多、極粗粒砂少	良	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ、板ナデ ハケメ	煤付着
	388	底部	4区	SK035	5.9	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	褐灰 にぶい黄褐	ナデ、指圧痕、一部ハケメ残る ハケメ、ナデ、底面ケズリ、ナデ	外面に少し煤付着
	389	甕	4区	SK035	—	—	5.0	極粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底面工具によるナデ	内面工具による縦位の幅約0.5mmの格状の痕あり
	390	壺	4区	SK035	16.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁部小波状　内外面磨耗著し
	391	壺	4区	SK035	12.6	—	—	極粗粒砂やや多	良	にぶい橙、明褐灰 にぶい橙、浅黄橙	ハケメ、ハケメ後ナデ 板ナデ後ハケメ、ハケメ後板ナデ	内面剥離
	392	壺	4区	SK035	12.0	—	—	粗粒砂少、細礫少、赤色粒、海綿骨針	良	にぶい橙～灰褐 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外2個一対の刻み目が9単位　内面剥離
	393	不明	4区	SK035	—	—	12.2	0.5mm以下の中粒砂多、0.5mmから1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 灰褐	ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	側面と底面に煤付着
	394	底部	4区	SK035	—	—	9.5	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂少、細礫微、海綿骨針	並	褐灰 にぶい橙	ナデ ハケメ、ナデ	
	395	底部	4区	SK035	—	—	6.1	極粗粒砂やや多、粗粒砂多、赤色粒、海綿骨針	良	灰白 灰白	ナデ(指ナデ) ナデ(板によるナデ)	内面一部黒斑あり
	396	壺	4区	SK035	13.4	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ後ミガキ 口縁～頸部ハケメ後ヘラミガキ	
	397	甕	4区	SK036	13.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい黄褐	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁部小波状
	398	甕	4区	SK036	19.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ ハケメ	口縁内羽状刺突文、外刻み目
	399	甕	4区	SK036	19.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙、黒褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁外刻み目　外面煤付着
	400	甕	4区	SK036	13.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、2mm～3mmの細礫少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ	内外面全体に煤ヨゴレ付着
	401	甕	4区	SK036	18.6	24.15	5.7	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁内円形刺突文、外連続刻み目
図面一一六	402	甕	4区	SK036	—	—	5.0	中粒砂多、極粗粒砂微、細礫1個	良	褐灰 にぶい橙～橙	ハケメ後ナデ、底部黒斑 ハケメ後ナデ、底部黒斑	外面煤付着
	403	底部	4区	SK036	—	—	6.0	粗粒砂多、極粗粒砂少	並	灰 浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ	内面全体的に黒斑、外面部分的に煤付着、底部部分的に黒斑
	404	底部	4区	SK036	—	—	4.8	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針微	良	黄灰 灰黄褐	ナデ、指圧痕、ハケメ痕 ハケメ、ナデ、底面ナデ	外面うすく煤付着
	405	底部	4区	SK036	—	—	5.3	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	褐灰～灰黄 灰黄褐	ナデ、ハケメ痕 ハケメ、ナデ、指圧痕、底面粒状圧痕	外面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一二六	406	底部	4区	SK036	—	—	9.0	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針微	良	灰黄 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	407	底部	4区	SK036	—	—	7.5	1mm～2mmの極粗粒砂多、2mm～4mmの細礫少、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、指圧痕、ハケメ ハケメ、底部ナデ	外面に煤付着
	408	底部	4区	SK036	—	—	8.6	極粗粒砂微、粗粒砂多、海綿骨針	良	灰白 灰白～にぶい黄	— ハケメ後ナデ	内面剥離、摩滅により調整不明瞭　底部外面内黒斑
	409	壺	4区	SK036	10.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ(一部にハケメ痕) ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ	頸部内面黒斑か　煤付着（外頸部うすく煤付着）
	410	壺	4区	SK036	12.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、ハケメ	
	411	壺	4区	SK036	12.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 赤橙～橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	内面摩滅剥離著しい　口縁部外面に赤彩痕
	412	壺	4区	SK036	14.8	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい橙 にぶい橙	ミガキ、ハケメ ミガキ、ハケメ	口縁～頸部に2個1対の穿孔
	413	壺	4区	SK036	15.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針多く含む	良	橙 橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁端部に刻み目(4個)、口縁部はゆるい波状となる、波頂の単位は12か
	414	壺	4区	SK036	18.0	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁外単位のある刻み目
	415	壺	4区	SK036	18.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ	頸部にハケ状具による沈線3条
	416	鉢	4区	SK036	17.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙～黄灰 浅黄橙～にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、ミガキ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ、ミガキ	口縁外、上端に刺突文、沈線3条
	417	底部	4区	SK036	—	—	8.0	0.5mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多	良	灰白 灰白	ナデ ハケメ、ナデ、底面ナデ	内面全体に摩滅　外底面一部に黒斑
	418	甕	4区	SK036	—	—	5.6	粗粒砂やや多	良	灰黄 橙、褐灰	ハケメ後ナデ、上部ハケメ ハケメ、下部ハケメ後ナデ、底部ケズリ	外面煤付着、内外面底部黒斑
図面一二七	419	壺	4区	SK036	12.3	—	—	極粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、ハケメ ハケメ、板ナデ、ミガキ、ナデ	口縁部小波状　黒斑あり
	420	壺	4区	SK036	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、精良	良	にぶい黄橙 橙～にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	頸部に三角刺突文　内面剥離著しい
	421	壺	4区	SK036	—	—	—	粗粒砂多、中粒砂多、海綿骨針微	良	灰黄 浅黄橙、灰黄	ハケメ後ナデ ハケメ後板ナデ、ナデ、ハケメ後ミガキ	頸部外2条の刻み目、頸部径12.5cm　内外面炭化物付着　内面摩滅、剥離により調整不明瞭
	422	壺	4区	SK036	—	—	10.2	粗粒砂多	並	灰白 灰白	ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	内面摩滅　外面黒斑
図面一二八	423	壺	4区	SK036	—	—	9.8	粗粒砂多	並	灰白 灰白、浅黄橙	— ハケメ後ナデ	内面剥離により調整不明瞭　接合痕多く残る　外面摩滅
	424	甕	4区	SK040	11.3	—	—	1mm～2.5mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁外端刻み目　内外面に煤付着
	425	甕	4区	SK040	17.5	—	—	0.5mm～1.5mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、指圧痕	口縁外刻み目　外面全体に煤付着
	426	甕	4区	SK040	19.7	—	—	中粒砂やや多	良	灰白 灰白	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	外面煤付着
	427	甕	4区	SK040	14.5	—	—	粗粒砂、極粗粒砂少、海綿骨針微	良	浅黄褐 浅黄褐	ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	頸部に穿孔あり、2個1対か
	428	甕	4区	SK040	17.1	—	—	極粗粒砂少	良	灰白 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外面煤付着
	429	甕	4区	SK040	16.4	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁部小波状　外面全体に煤付着
	430	甕	4区	SK040	17.7	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外面全体に強く煤付着
図面一二九	431	甕	4区	SK040	—	—	5.8	粗粒砂少、中粒砂多	良	灰黄 にぶい黄橙	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内外面使用によるものか磨耗(多面剥離)　内面黒斑、外面煤付着
	432	甕	4区	SK040	5.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、2mm～3mmの細礫多	良	黄灰 にぶい黄橙～灰黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	内外面一部摩耗　外面にうすく煤付着
	433	甕	4区	SK040	—	—	5.4	極粗粒砂少	並	黒褐 灰褐	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内面黒斑　外面煤付着
	434	壺	4区	SK040	19.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	内面一部に黒斑

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一一九	435	壺	4区	SK040	14.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　内面黒斑
	436	壺	4区	SK040	12.3	—	—	極粗粒砂多、海綿骨針、赤色粒	並	にぶい橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜行短線文5条・円形浮文2個・垂線、外連続刻み目
	437	壺	4区	SK040	18.2	—	—	中粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ、ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目
	438	壺	4区	SK040	14.3	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙、橙 橙、浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ、ミガキ、ナデ	口縁内羽状刺突文　内面磨耗
	439	無頸壺	4区	SK040	10.5	18.35	5.4	粗粒砂少、中粒砂多、赤色粒多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ、ナデ	2対の穿孔2ケ所　外面黒斑
	440	壺	4区	SK040	—	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂少	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、ミガキ	内外面全体に磨耗
	441	壺	4区	SK040	6.6	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	並	淡黄 灰白浅黄橙	ハケメ後ナデ ナデ、ハケメ後ナデ、ミガキ	
	442	無頸壺	4区	SK040	13.2	—	—	中粒砂少、海綿骨針、赤色粒	良	にぶい橙 浅黄橙～橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、ミガキ	穿孔の有無不明
	443	鉢	4区	SK040	20.4	—	—	粗粒砂多、海綿骨針、赤色粒	良	浅黄橙～灰 浅黄橙～橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、板ナデ	
図面二一〇	444	甕	4区	SK041	19.9	—	—	極粗粒砂やや多、中粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、板ナデ	外面煤付着
	445	甕	4区	SK041	20.0	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 浅黄橙、褐灰	ハケメ後板ナデ、指圧痕、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後板ナデ、ナデ	外面部分的に煤付着、内面部分的に黒斑
	446	甕	4区	SK041	15.1	—	—	極粗粒砂少、赤色粒、海綿骨針	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ナデ ナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目
	447	甕	4区	SK041	21.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁部小波状　内外面煤付着
	448	甕	4区	SK041	21.8	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状
	449	甕	4区	SK041	22.5	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	灰黄 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ、ナデ	口縁部小波状　口縁部外面に煤付着
	450	甕	4区	SK041	22.2	—	—	粗粒砂多	良	灰黄 灰黄	ハケメ後ナデ、ハケメ後ミガキかナデ ハケメ後ナデ、指圧痕、ハケメ	口縁部小波状　外面煤付着
	451	壺	4区	SK041	18.6	—	—	粗粒砂多(白色粒多)、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ ハケメ	口縁内羽状刺突文　内面摩滅により調整不明瞭
	452	甕	4区	SK041	20.0	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、赤色粒多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外端刻み目　口縁部外面煤付着　内面磨滅
	453	甕	4区	SK041	21.6	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜行短線文、外刻み目　口縁部外面に煤付着　内外面とも全体に摩滅
	454	甕	4区	SK041	23.1	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	黄灰～にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、竹管(2個1対)による刺突文　外面に煤付着
	455	甕	4区	SK041	21.0	—	—	極粗粒砂多、粗粒砂少、赤色粒多、海綿骨針極多	良	にぶい橙、灰黄 にぶい橙、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文、外刻み目
図面二一一	456	甕	4区	SK041	16.1	19.6	5.2	極粗粒砂多、細礫やや多、海綿骨針、赤色粒	良	淡橙～にぶい黄橙 にぶい橙～灰褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　底部内外に一部黒斑あり
	457	壺	4区	SK041	8.1	—	—	極粗粒砂多、赤色粒、海綿骨針	並	橙 橙	ハケメ ハケメ、指圧痕	頸部内面摩滅により調整不明瞭
	458	底部	4区	SK041	—	—	5.6	中粒砂多、極粗粒砂微	良	暗灰 にぶい橙、暗灰	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内面全体黒斑、外面底部黒斑
	459	底部	4区	SK041	—	—	6.0	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	褐灰、暗灰 暗灰、褐灰	ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	外面黒斑，内面全体黒斑か
	460	壺	4区	SK041	—	—	7.0	極粗粒砂やや多、赤色粒、海綿骨針	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	底面一部黒斑あり
	461	甕	4区	SK042	19.5	—	—	中粒砂少	並	灰白～橙 灰白～橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内に接合痕残る
	462	甕	4区	SK042	23.0	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	灰黄 灰黄	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁部小波状　外面にうすく煤付着
	463	甕	4区	SK042	23.3	—	—	0.5mm～1.5mmの粗粒砂多、赤色粒含む	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、指圧痕 ハケメ	内外面磨耗

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一二一	464	壺	4区	SK042	—	—	—	0.5mm 1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ後ミガキ	頸部外縁凹線1条、頸部径10.2cm
	465	壺	4区	SK042	—	—	10.4	粗粒砂多、1/2～1mm赤色粒多、海綿骨針少	並	灰黄 灰黄、黒褐	ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	内面摩滅により調整不明瞭　外面黒斑
	466	甕	4区	SK043	16.0	—	—	極粗粒砂少、砂礫少、赤色粒	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
	467	壺	4区	SK043	7.2	—	—	粗粒砂やや多、海綿骨針、赤色粒	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	468	甕	4区	SK043	17.7	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～黒	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文　外面煤付着
	469	甕	4区	SK043	21.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい褐	ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外刻み目　内面一部黒斑
	470	壺	4区	SK043	14.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ	
	471	壺	4区	SK043	11.6	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少、海綿骨針、赤色粒	良	灰白 灰白～浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、板状工具によるナデ	
図面一二二	472	壺	4区	SK044	10.8	—	—	中粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 橙～浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	内面一部に接合痕残る
	473	壺	4区	SK047・048	13.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、海綿骨針少、赤色粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、ミガキ 口縁頸部ヨコナデ、肩部ミガキ	外面1/2にうすく煤付着、内外面約1/2にうすく黒斑
	474	甕	4区	SK047・048	16.0	—	—	粗粒砂多、赤色粒（0.5mm～1mm）多、海綿骨針やや多	良	にぶい橙 にぶい橙、黒	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
	475	甕	4区	SK050・051	19.8	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	外面胴部櫛描直線文（8条）　外面煤付着
	476	甕	4区	SK050・051	18.6	—	—	極粗粒砂少、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外刻み目　外面煤付着
	477	底部	4区	SK050・051	—	—	6.2	極粗粒砂多、粗粒砂多	良	灰白、灰 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	内外面黒斑、外面煤付着
	478	壺	4区	SK050・051	15.6	—	—	粗粒砂多、海綿骨針多	良	浅黄、黒 浅黄	ハケメ後板ナデか、指圧痕 ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目　内面黒斑
	479	壺	4区	SK050・051	—	—	—	3.5mm～1.5mmの粗粒砂多	良	灰褐 にぶい橙	ナデ、ヨコナデ ミガキ	頸部貼付突帯に斜格子文
	480	甕	4区	SK053	19.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	褐灰 灰黄褐	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕、ナデ ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	内外面共に炭化物付着
	481	甕	4区	SK053	21.2	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙 橙	ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目
図面一二三	482	甕	4区	SK053	16.8	—	—	粗粒砂少、中粒砂少	良	橙～浅黄 にぶい褐、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ナデ	外面煤付着
	483	底部	4区	SK053	6.0	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂少	良	灰黄 にぶい黄橙、灰黄褐	ナデ、底部工具によるナデ ハケメ後ナデ	外面煤付着
	484	底部	4区	SK053	—	—	6.2	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針微、細礫2個	良	灰 灰白	ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	底部に一部黒斑あり
	485	無頸壺	4区	SK053	7.7	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙～浅黄橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ナデ	口縁部に2個1対の穿孔1
	486	壺	4区	SK053	15.0	—	—	中粒砂多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 橙	ハケメ後ナデ、指圧痕、ハケメ ハケメ後ナデ	口縁外沈線1条　外面全体赤彩
	487	壺	4区	SK053	15.6	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	灰黄 明赤褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、部分的にミガキか	口縁部小波状　外面赤彩、口縁部内面赤彩
	488	壺	4区	SK053	—	—	7.0	粗粒砂やや多、海綿骨針微	良	灰黄、暗灰 橙、明赤褐	ハケメ後ナデ、ナデ ハケメ後ナデ、ミガキか	外面全体赤彩　内面黒斑
	489	甕	4区	SK054	15.9	—	—	粗粒砂多	良	灰白 灰白、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁外刻み目　外面煤付着　口縁部内面部分的に炭痕
	490	底部	4区	SK054	—	—	7.9	海綿骨針少、極粗粒砂少、粗粒砂多	良	灰黄 浅黄橙～灰黄	ハケメ後ナデ 指圧痕、ハケメ後ナデ、ミガキか	内外底部一部黒斑
	491	高杯	4区	SK054	16.2	—	—	粗粒砂多、海綿骨針微	良	橙 赤	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	内外面共にハケメ明瞭　内外面赤彩
	492	器台	4区	SK054	9.5	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、赤色粒少	並	にぶい橙 にぶい橙	受部ミガキ、脚部ナデ 受部ミガキ、脚部ミガキ	脚部円形透孔単位3、孔径約0.9cm　受部内面うすく赤いが赤彩か不明

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面二二三	493	壺	4区	SK054	—	—	—	粗粒砂少	良	橙 明赤褐	ハケメ後ナデ ミガキ、ナデ	ツマミ径1.85cm　内外面赤彩
図面二二四	494	甕	4区	SK057	15.8	25.4	3.5	粗粒砂やや多	良	灰褐色 灰褐色	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	外面煤付着、内面コゲあり
	495	壺	4区	SK057	—	—	—	粗粒砂多	良	黄灰 黒褐	ハケメ ハケメ後荒いナデ、縁部上面ナデ	
	496	壺	4区	SK057	—	—	—	粗粒砂多、中礫1個、海綿骨針多	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	ナデ ハケメ後ナデ、ツマミナデ	ツマミ径4.7cm
	497	壺	4区	SK057	9.9	4.2	—	粗粒砂多	良	褐 褐	ヨコナデ、ケズリ、ヘラナデ ケズリ、ヨコナデ	外面煤付着
	498	甕	4区	SK058	13.5	—	—	極粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい橙～黄灰 にぶい黄橙	口頸部ハケメ、頸胴部ナデ ハケメ、一部ケズリ、ナデ	口縁端部一部に黒斑
	499	壺	4区	SK058	—	—	—	粗粒砂少、赤色粒少	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ハケメ ミガキ、一部ハケメ痕残る	口縁部端欠損、擬凹線3条
	500	甕	4区	SK059	17.3	—	—	0.5mm～1.5mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口唇部ヨコナデ、口頸部ハケメ、ナデ	口縁部外端ヘラ状具による刻み目
	501	甕	4区	SK059	22.3	—	—	極粗粒砂多、細礫やや多、海綿骨針、赤色粒	並	灰白～橙 灰白～橙	ハケメ ハケメ	口縁部小波状
	502	甕	4区	SK059	15.2	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	にぶい黄橙 黒褐	ナデ ナデ	外面煤付着
	503	甕	4区	SK059	17.1	—	—	極粗粒砂多、細礫やや多	並	浅黄 浅黄	ナデ ナデ、ハケメ	
	504	甕	4区	SK059	14.8	—	—	粗粒砂多	良	褐灰、にぶい黄橙 にぶい橙、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ、指圧痕	内外面煤付着
	505	壺	4区	SK059	13.4	—	—	極粗粒砂少	良	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内刻み目5以上、単位不明
	506	壺	4区	SK059	—	—	5.6	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針少	並	暗灰 浅黄橙	ケズリ後ナデ、ハケメ後ナデ ミガキ	外面摩滅により調整不明瞭
	507	器台	4区	SK059	9.6	8.2	11.5	粗粒砂少	良	灰褐 灰褐	ミガキ ミガキ	
図面二二五	508	甕	4区	SK060	19.6	—	—	極粗粒砂多、粗粒砂多、赤色粒多	良	橙、灰 浅黄橙、オリーブ黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁部小波状　外面煤付着
	509	甕	4区	SK060	—	—	5.8	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	褐灰～褐灰 橙～灰赤	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底部ナデ	内面全体に摩滅　外胴部下半被熱により赤色化摩滅著し　外面全体に煤付着
	510	甕	4区	SK061	—	—	5.4	1mm～1.5mmの極粗粒砂多、海綿骨針微	良	暗灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、底面ケズリ、ナデ	外面に煤付着、内面黒斑
	511	甕	4区	SK062	14.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい褐	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁部外刻み目　内外共に煤付着
	512	細口壺	4区	SK062	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、精良・赤色粒多い	良	橙 にぶい橙	ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	頸部凹線2条間にハケ状具による連続刺突文、頸部最小径7.4cm　全体に磨耗
	513	甕	4区	SK063	21.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、外端刻み目
	514	底部	4区	SK063	—	—	6.2	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	灰 にぶい黄橙	ナデ、ケズリ、ナデ ハケメ、ナデ	外全体に煤付着、内面黒斑
	515	甕	4区	SK066	15.6	—	—	中粒砂多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい褐、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕多 ハケメ後ナデ、指圧痕、ハケメ	口縁外刻み目　外面厚く煤付着
	516	甕	4区	SK066	16.3	—	—	中粒砂多	良	にぶい黄橙、灰黄褐 にぶい黄橙	ナデ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　外面煤付着
	517	甕	4区	SK066	18.9	—		0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外端刻み目　外面強く煤付着
	518	壺	4区	SK066	10.0	—		0.5mm～1mmの粗粒砂少、赤色粒多、精良	良	橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、ナデ	頸部～胴部に直線文と波状文　外面全体に煤強く付着
	519	底部	4区	SK066		—	7.6	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの細礫多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ナデ、一部ハケメ痕残る、指圧痕 ハケメ、底面ケズリ、ナデ	底部外約1/2黒斑、内面底部うすく黒斑
	520	底部	4区	SK066	—	—	3.4	極粗粒砂多、海綿骨針微、赤色粒多	良	にぶい橙 にぶい橙	ケズリ ハケメ、底面ハケメ	外面黒斑あり
図面二二六	521	甕	4区	SK067	16.0	23.3	5.5	細礫やや多、海綿骨針、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一二六	522	甕	4区	SK067	19.9	—	—	極粗粒砂少、繊礫少、海綿骨針	良	灰白～浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内連続刺突文　外面煤付着
	523	甕	4区	SK068	14.7	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂多、赤色粒大粒多	良	橙 橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	内外面共に摩滅　外面胴部に煤付着
	524	甕	4区	SK068	—	—	6.5	粗粒砂やや多	良	褐灰、黒 浅黄橙、褐灰	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、底部ケズリ後ナデ	外面部分的に煤付着
	525	壺	4区	SK068	17.5	—	—	粗粒砂少、赤色粒	良	灰白～灰 灰白～淡橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁部小波状
	526	鉢	4区	SK068	17.3	—	—	極粗粒砂やや多、繊礫少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁穿孔２個１対、対面にもあり
	527	甕	4区	SK069	18.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文
	528	甕	4区	SK069	16.1	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂やや多	良	にぶい橙 にぶい黄橙、黒	ナデ、ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	内外面全体摩滅　外面煤付着
図面一二七	529	壺	4区	SK072	20.2	—	—	極粗粒砂少、細粒砂多、海綿骨針、赤色粒	並	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目
	530	甕	4区	SK075	15.6	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂多、海綿骨針	良	橙 橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	外面全体に煤付着
	531	甕	4区	SK075	14.9	—	—	粗粒砂少、中粒砂多、海綿骨針多	並	灰黄褐、橙 橙、褐灰	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	外面煤付着
	532	甕	4区	SK075	15.6	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 暗灰黄、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ	外面煤付着
	533	底部	4区	SK075	—	—	6.0	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	浅黄 浅黄	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	内面一部黒斑、外面部分的に煤付着
	534	甕	4区	SK075	—	—	4.1	粗粒砂少	良	にぶい黄橙、黒 にぶい橙、黒	ハケメ、ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	内面黒斑、外面下部黒斑、外面煤付着
	535	甕	4区	SK075	—	—	6.6	極粗粒やや多、中粒砂多	良	灰黄、暗灰 灰白、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ、ナデ	底部煤付着、黒斑
	536	壺	4区	SK075	16.4	—	—	中粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外刻み目
	537	甕	4区	SK079	—	—	5.7	粗粒砂多	良	浅黄橙～橙 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
	538	底部	4区	SK079	—	—	5.7	極粗粒砂多	良	灰白 浅黄橙、黒褐	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	外面煤付着
	539	壺	4区	SK079	23.1	—	—	0.5mm～1.5mmの粗粒砂多	良	黄灰 にぶい橙	ナデ ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内斜行短線文５～６条
	540	壺	4区	SK079	13.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ナデ	口縁外羽状刺突文
	541	甕	4区	SK080	14.0	—	—	極粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 褐灰	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁凹沈線２条　外胴部粗いハケメ、頭部細かいハケメ　外面全体煤付着
	542	甕	4区	SK080	15.1	—	—	中粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 灰黄褐、黒褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	外面煤付着
	543	甕	4区	SK080	21.5	—	—	粗粒砂微、中粒砂少	良	灰黄褐 浅黄橙	ハケメ後ヨコナデ、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後横ナデ	外面煤付着
図面一二八	544	甕	4区	SK080	24.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	赤彩赤、にぶい橙 赤、明褐灰	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刺突文　内外面赤彩
	545	壺	4区	SK080	20.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒含む	良	にぶい橙～黄灰 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、斜行短線文５条、円形浮文４個貼付、外刻み目
	546	無頸壺	4区	SK080	12.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁外肥厚部に羽状刺突文
	547	鉢	4区	SK080	23.7	—	—	極粗粒砂少、細礫微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁端部ヨコナデ、体部ナデ 口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	内面一部にうすく煤付着
	548	鉢	4区	SK080	—	—	—	粗粒砂多、海綿骨針多、赤色粒多	良	にぶい橙～橙 橙	ハケメ後ナデ、一部ミガキ ハケメ	頸部に一部黒斑、頸部径 15.6cm　外面摩滅著しい
	549	甕	4区	SK091	17.7	—	—	中粒砂少、海綿骨針少	良	灰黄 灰黄褐	ハケメ ハケメ、指圧痕	外面口縁付近薄く煤付着
	550	無頸壺	4区	SK091	9.8	—	—	粗粒砂多、赤色粒	並	灰白 灰白～浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ミガキ	穿孔２個１対残存　外摩滅の為不明瞭

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面二八	551	無頭壺	4区	SK091	6.4	21.65	7.0	粗粒砂多、粗粒砂多	並	灰黄 にぶい黄灰	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ミガキか	外面摩耗により調整不明瞭
	552	甕	4区	SK092	25.6	—	—	粗粒砂やや多	並	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ、口唇部ナデ	口縁内羽状刺突文
	553	甕	4区	SK098	14.4	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄褐 黒褐	ハケメ ハケメ	外面煤付着
	554	甕	4区	SK099	21.3	—	—	粗粒砂、極粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ハケメ ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目　外面薄く煤付着
図面二九	555	底部	4区	SD001	—	—	4.8	中粒砂少、細礫微、粗粒砂少、極粗粒砂微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ハケメ	
	556	壺	4区	SD001	13.3	—	—	極粗粒砂少、赤色粒、海綿骨針	並	橙 橙	ハケメ ハケメ	口縁部小波状　摩滅不明箇所あり
	557	壺	4区	SD001	—	—	6.0	極粗粒砂少	良	灰白 灰白	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	外面部分的に煤付着、一部黑斑あり
	558	器台	4区	SD001	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、精良	良	灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ ナデ	脚部円形刺突文間にハケ状具による平行の押圧刺突による沈線5条
	559	壺	4区	SD001	7.9	—	—	中粒砂少	良	灰黄 黄灰、赤	口縁端部ヨコナデ、口縁ハケメ後ナデ ミガキ	外面赤彩　摩滅
	560	鉢	4区	SD001	14.4	—	—	粗粒砂少	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	口縁部に把手貼付　内外面赤彩
	561	高杯	4区	SD001	9.0	—	—	粗粒砂多	良	橙、にぶい黄橙 橙	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	562	器台	4区	SD001	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針少	並	浅黄橙、灰 褐灰	脚部ケズリ後ナデ ミガキ	穿孔3個、穿孔径0.8cm　外面赤彩、内面部分的に赤彩痕　受部内面摩滅により調整不明瞭、外面摩滅
	563	甕	4区	SD002	17.6	—	—	細礫少	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	口唇部ハケ状具によるヨコナデ
	564	甕	4区	SD002	17.8	—	—	粗粒砂微、細礫微、赤色粒、海綿骨針	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状
	565	甕	4区	SD002	18.2	—	—	極粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜行短線文、外連続刻み目　外面煤付着
	566	壺	4区	SD002	20.3	—	—	粗粒砂少、細礫微、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	567	壺	4区	SD002	15.4	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂やや多、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ	
	568	鉢	4区	SD002	21.2	—	—	極粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁端ハケ状具による連続刻み目　外面・口縁部内面赤彩
	569	甕	4区	SD002	17.3	—	—	粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、ヨコナデ ヨコナデ、頸部より下ハケメ	
	570	甕	4区	SD003	16.5	—	—	粗粒砂少、細礫微	並	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ 口縁端部ヨコナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	571	甕	4区	SD003	18.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針	並	にぶい黄橙 にぶい橙	ナデ ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	572	甕	4区	SD003	17.5	—	—	細礫少、赤色粒、海綿骨針	並	橙 橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内2個1対の三角刺突文4　外面煤付着
	573	甕	4区	SD003	22.6	—	—	粗粒砂少、細礫微、海綿骨針	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、指圧痕	口縁部小波状　内面黑斑
	574	底部	4区	SD003	—	—	5.2	粗粒砂少、極粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい橙～褐灰 にぶい橙	ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
	575	底部	4区	SD003	—	—	8.4	粗粒砂多、極粗粒砂微	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ ハケメ後ナデ	底部外に植物による圧痕か
図面三〇	576	甕	4区	SD004	12.9	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	外面煤付着
	577	甕	4区	SD004	13.2	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ナデ、条痕	
	578	甕	4区	SD004	18.9	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
	579	甕	4区	SD004	16.8	—	—	極粗粒砂やや多、細礫少、赤色粒	良	にぶい橙 橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外面一部煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 輪	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面110	580	甕	4区	SD004	19.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	褐灰 灰黄褐	口縁端部ヨコナデ、口縁頸部ハケメ 口頸部ハケメ、ナデ	口縁外端刻み目　外面全体に煤付着
	581	甕	4区	SD004	19.8	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂少、赤色粒	良	褐灰～にぶい黄橙 褐灰	ハケメ ハケメ	口縁内外連続刻み目　外面煤付着
	582	甕	4区	SD004	19.3	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ヨコナデ、ナデ 口縁部ハケメ、ヨコナデ	口唇部刻み目　外面全体に煤付着
	583	甕	4区	SD004	19.2	—	—	極粗粒砂微	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、接着痕 ハケメ、ナデ、指圧痕、接着痕	口縁内連続刻み目　外面煤付着
	584	甕	4区	SD004	22.5	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ、接着痕、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	585	甕	4区	SD004	15.0	—	—	粗粒砂少、中粒砂やや多	良	にぶい黄橙、黒褐 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　外面煤付着、内面黒斑
	586	甕	4区	SD004	15.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁内円形刺突文1条、外刻み目
	587	甕	4区	SD004	15.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内三角刺突文3条、外刻み目　外面全体に煤付着
	588	甕	4区	SD004	16.0	—	—	極粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい黄橙、黒褐 にぶい褐	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内連続刺突文、外連続刻み目　外面煤付着
	589	甕	4区	SD004	15.6	—	—	粗粒砂少	並	灰白 浅黄橙	ナデ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、円形刺突文、外連続刻み目
	590	甕	4区	SD004	16.7	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内格子状刺突文1条
	591	甕	4区	SD004	17.7	—	—	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂少	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	592	甕	4区	SD004	19.8	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多、細礫少	並	にぶい黄橙 にぶい褐	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	593	甕	4区	SD004	21.5	—	—	粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　内外面一部煤付着
図面111	594	甕	4区	SD004	23.6	—	—	極粗粒砂やや多、細礫少	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目　内外面赤彩 口縁端部煤付着
	595	甕	4区	SD004	20.7	—	—	細礫少	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜行短線文、外連続刺突文　外面煤付着
	596	甕	4区	SD004	16.0	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針多、赤色粒	並	橙～褐灰 橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、円形刺突文
	597	甕	4区	SD004	21.3	37.5	7.1	極粗粒砂少、中粒砂少、海綿骨針	良	にぶい黄橙 橙～にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外面煤付着、内面底部コゲ付着。
	598	底部	4区	SD004	—	—	5.0	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂少、細礫少	並	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	黒斑あり
	599	底部	4区	SD004	—	—	5.5	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	黒斑あり
	600	底部	4区	SD004	—	—	5.7	極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	底面黒斑
	601	底部	4区	SD004	—	—	5.9	粗粒砂少、極粗粒砂少	良	暗灰黄 にぶい橙	ナデ ハケメ、ナデ	黒斑あり
	602	底部	4区	SD004	—	—	5.5	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂やや多、細礫微	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	煤付着
	603	底部	4区	SD004	—	—	7.0	0.5mm～1mm粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底面ケズリ、ナデ	底面一部黒斑
	604	底部	4区	SD004	—	—	4.6	0.5mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多	良	灰白 浅黄橙～淡黄	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	内外面一部黒斑
	605	壺	4区	SD004	11.0	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂微	並	浅黄 浅黄	ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ	
	606	壺	4区	SD004	15.4	—	—	細礫少、中粒砂少	並	にぶい黄橙 にぶい黄褐	ナデ、ハケメ ハケメ	口縁端連続刻み目
	607	壺	4区	SD004	16.8	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデか ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁外刻み目　内面全体に摩滅　外面全体にうすく黒斑か
	608	壺	4区	SD004	11.9	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	良	明黄褐 黄褐	ハケメ後ナデ、シボリ ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面 / 下段外面)	調整 (上段内面 / 下段外面)	備考
図面一三一	609	壺	4区	SD004	14.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ、ヨコナデ 口唇部ハケメ状具によるヨコナデか	口唇部刻み目、口縁端刻み目
	610	壺	4区	SD004	15.8	—	—	極粗粒砂やや多、海綿骨針、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	
図面一三二	611	壺	4区	SD004	12.9	—	—	極粗粒砂多、赤色粒、海綿骨針	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ハケメ ハケメ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	612	壺	4区	SD004	19.8	—	—	中粒砂多(白色粒多)、極粗粒砂少、海綿骨針	良	灰白 灰白	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、円形浮文6個、外連続刻み目
	613	壺	4区	SD004	17.6	—	—	中粒砂多、微粒砂多、極粗粒砂少	並	橙 にぶい橙	ナデか ナデ	口縁内斜行短線文、円形浮文
	614	壺	4区	SD004	23.9	—	—	粗粒砂少、中粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい橙 橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文
	615	壺	4区	SD004	25.9	—	—	中粒砂やや多、極粗粒砂少、赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、接着痕	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	616	壺	4区	SD004	14.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄 にぶい褐	ハケメ、ミガキ ハケメ、ミガキ	口縁部に格円状の小突起貼付(単位不明) 外面一部黒斑
	617	壺	4区	SD004	19.4	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ナデ ハケメ、口唇部ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目 内面磨滅
	618	壺	4区	SD004	20.8	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜行短線文、外連続刻み目
	619	壺	4区	SD004	20.3	—	—	中粒砂多	並	灰黄褐 灰黄褐	ナデ ナデ	口縁内羽状刺突文、円形浮文4個
	620	無頸壺	4区	SD004	11.0	—	—	中粒砂多(白色粒多)	並	赤 赤	ナデ ハケメ、ナデ	口縁外羽状刺突文、端部刺突文 穿孔1個残
	621	無頸壺	4区	SD004	16.2	—	—	極粗粒砂微、粗粒砂多	良	にぶい黄 にぶい黄	ナデ ハケメ、指圧痕	
	622	壺	4区	SD004	12.9	—	—	粗粒砂少、中粒砂多(白色粒)、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～黒褐	ナデ ハケメ、ナデ	口縁外羽状刺突文
	623	壺	4区	SD004	12.8	—	—	中粒砂多	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ナデ	口縁外羽状刺突文
	624	壺	4区	SD004	24.6	—	—	粗粒砂多	良	褐灰	ナデ ナデ	口縁外羽状刺突文、端部小波状押圧
図面一三三	625	壺	4区	SD004	13.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄～黄灰 橙	僅かにナデのこる —	口縁外円形刺突文と押圧沈線文、上端に円形の押圧文か 内外面とも摩滅により調整不明瞭
	626	壺	4区	SD004	—	—	—	中粒砂やや多(白色粒)、海綿骨針	良	にぶい黄橙 暗赤～赤黒	ハケメ、ナデ ミガキ	楕円線9条 外赤黒い赤彩 搬入品
	627	壺	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂多、中粒砂多、海綿骨針、赤色粒	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	— —	外面頸部に肇状文、肩部に沈線5条あり 内外面とも摩滅により調整不明瞭
	628	壺	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂多、中粒砂多、海綿骨針、赤色粒	並	浅黄橙 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	頸貼付突帯に沈線2条、頸部径10.2cm
	629	壺	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	頸部沈線3条、頸部径11.6cm
	630	壺	4区	SD004	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	並	灰黄褐～褐灰 にぶい黄橙～黒褐	頸部ミガキ、体部ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ミガキ	頸部最小径11.3cm 内外面に黒斑
	631	壺	4区	SD004	—	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針少	良	灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面沈線2条間でヘラ状具による荒い波状文、上下に櫛状具による雑な波状文 全体に摩滅著しい
	632	壺	4区	SD004	—	—	—	中粒砂やや多、海綿骨針	良	にぶい黄橙、浅黄橙 にぶい黄橙～灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面沈線、円形状刺突文 外面赤彩 栗林系
	633	壺	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂少、細礫微、海綿骨針	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ナデ	円形浮文、沈線 栗林系
	634	底部	4区	SD004	—	—	5.5	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針	並	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ナデ	
	635	底部	4区	SD004	—	—	6.4	中粒砂少、粗粒砂微	良	褐灰 にぶい黄橙～黒褐	ハケメ ナデ	黒斑あり
	636	底部	4区	SD004	—	—	6.0	粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい褐 にぶい褐、黒	ハケメ、指圧痕 ケズリ、ミガキ、底面ケズリ、ナデ	外面黒斑
	637	底部	4区	SD004	—	—	6.6	海綿骨針微、極粗粒砂少、粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	底部外面一部に黒斑あり

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一三三	638	底部	4区	SD004	—	—	6.8	中粒砂多、粗粒砂多、極粗粒砂やや小	並	灰黄 にぶい黄橙	ナデ ハケメ後ミガキ	
	639	底部	4区	SD004	—	—	5.7	極粗粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	
	640	底部	4区	SD004	—	—	11.6	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	黄灰 にぶい橙	ナデ ミガキ、ナデ、底面ケズリ、ナデ	内面剥離著しい　外底面黒斑
	641	壺	4区	SD004	13.9	32.8	6.0	粗粒砂少、細礫少、赤色粒	良	灰白 淡橙～にぶい黄橙	条痕、ハケメ、ナデ 条痕、ハケメ、ナデ	
図面一三四	642	壺	4区	SD004	—	—	7.4	中粒砂少、細礫少、海綿骨針	良	にぶい黄橙～黒褐 にぶい黄橙～灰黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	頸部径10.4cm　外面煤付着
	643	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面円形刺突文・連続刺突文・ハケ状具による連続刺突文・沈線
	644	壺	4区	SD004	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、2mm極粗粒砂少	良	暗灰黄～黄灰 にぶい黄橙～にぶい黄橙	板状具によるナデ 板状具によるナデ	内面剥離著し、外面条痕風のようにも見えるが不明瞭
図面一三五	645	壺	4区	SD004	—	—	5.2	中粒砂多、海綿骨針少	良	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、ミガキ ハケメ後ナデ	内外面接合痕残る
	646	壺	4区	SD004	—	—	7.1	極粗粒砂やや多、細礫少、海綿骨針	良	にぶ黄褐 にぶい黄橙～にぶい黄褐	ハケメ、ナデ、条痕 ハケメ、ナデ	外面黒斑あり
	647	鉢	4区	SD004	8.9	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい褐 にぶい褐	ミガキ ミガキ、ナデ	平行沈線２本と３本の間を鋸歯文（三角の中に平行沈線）でうめる
	648	台付鉢	4区	SD004	—	—	5.1	極粗粒砂多、細礫少、赤色粒、海綿骨針	並	灰 橙	ナデ ハケメ、ナデ	
	649	台付鉢	4区	SD004	—	—	6.4	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	暗灰 暗灰	ミガキ ミガキ、台部外底面ナデ	内外面焼成時の炭付着
図面一三六	650	甕	4区	SD004	17.1	—	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 褐灰	口縁端部ハケメ後ヨコナデ、ハケメ 口縁ヨコナデ、頸部ハケメ	外面煤付着
	651	甕	4区	SD004	17.2	—	—	中粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁端部ハケメ後ヨコナデ、口縁ハケメ 口縁ハケメ後ヨコナデ、頸部ハケメ	
	652	甕	4区	SD004	18.2	—	—	細粒砂多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、板ナデ、胴部ナデ ハケメ後ヨコナデ	外面煤付着
	653	甕	4区	SD004	18.7	—	—	極粗粒砂やや多	良	浅黄橙～褐灰 にぶい橙	ヨコナデ ヨコナデ	外面煤付着
	654	甕	4区	SD004	20.3	—	—	海綿骨針、極粗粒砂やや多	良	橙～灰黄橙 褐	口縁ヨコナデ、頸部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
	655	甕	4区	SD004	17.8	—	—	極粗粒砂やや多、海綿骨針	良	浅黄橙～橙 にぶい橙	口縁ヨコナデ、胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	
	656	甕	4区	SD004	18.8	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁ハケメ、ナデ、胴部ケズリ 口縁ヨコナデ、胴部板ナデ、ハケメ	
	657	甕	4区	SD004	13.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙～にぶい褐 にぶい黄橙～褐灰	口縁ヨコナデ、胴部板ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
	658	甕	4区	SD004	15.6	—	—	海綿骨針、赤色粒、中粒砂多、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 黒褐	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後板ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後板ナデ	外面煤付着
	659	甕	4区	SD004	15.3	—	—	赤色粒、極粗粒砂やや多、雲母やや多	良	橙 赤橙	ヨコナデ ヨコナデ	口縁外擬凹線４条
	660	甕	4区	SD004	16.5	—	—	赤色粒、中粒砂少、極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 浅黄橙～にぶい橙	口縁～頸部ヨコナデ、胴部板ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ナデ	口縁外擬凹線４条　内外面煤付着
	661	甕	4区	SD004	19.2	—	—	赤色粒、中粒砂やや多、細礫少	良	灰黄褐 褐灰	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁外擬凹線５条　外面煤付着
	662	甕	4区	SD004	16.5	—	—	極粗粒砂やや多、赤色粒	良	灰黄褐 褐灰	口縁ヨコナデ、胴部ケズリ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線２条　外面煤付着
	663	甕	4区	SD004	20.8	—	—	極粗粒砂多、雲母少	良	にぶい黄橙 黒	口縁ヨコナデ、胴部板ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ヨコナデ	外面煤付着
	664	甕	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	肩部にヘラ状具による連続刻み目　外面にうすく煤付着
	665	甕	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂多	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ、頸部ナデ ハケメ、頸部ナデ	外肩部斜行刺突文　外面煤付着
	666	底部	4区	SD004	—	—	3.9	極粗粒砂多、赤色粒	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ ハケメ、底部ケズリ、底面ナデ	

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面二三七	667	台付壺	4区	SD004	6.7	—	—	中粒砂多、粗粒砂やや多、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ミガキ	外面有段部擬凹線3条
	668	台付壺	4区	SD004	7.6	—	—	中粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ミガキ	
	669	壺	4区	SD004	—	—	5.6	中粒砂少、海綿骨針少	良	黒 にぶい赤褐、黒褐	ハケメ後板ナデ ハケメ後ミガキ、底面ミガキ	外面赤彩か　外面煤付着か
	670	器台	4区	SD004	18.2	—	—	粗粒砂やや多	良	赤、にぶい黄橙 赤	ハケメ後ナデ、ミガキか 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	内外面赤彩　内面摩滅
	671	高杯	4区	SD004	28.5	—	—	粗粒砂やや多	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	672	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂多、細礫1個、海綿骨針少	良	黄灰 明赤褐	工具によるナデ ミガキ	脚部に粘土接合の為刺突痕あり、脚部粘土接合痕が明解、穿孔3ヶ所残存、孔径0.7cm　外面赤彩
	673	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂やや多、海綿骨針やや多	良	にぶい赤褐、にぶい黄橙 にぶい赤褐	杯部ミガキ、脚部工具によるナデ ミガキ	外面・杯部内面赤彩
	674	高杯	4区	SD004	25.0	—	—	中粒砂多、赤色粒やや多	良	橙、にぶい黄橙 橙	杯部ハケメ、ナデ、杯部底部ミガキ ミガキ	杯部有段部擬凹線2条、脚部有段部擬凹線3条 外面・杯部内面赤彩
	675	高杯	4区	SD004	—	—	14.6	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁端部ヨコナデ、ミガキ ヨコナデ	
	676	高杯	4区	SD004	—	—	14.3	粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ミガキ ヨコナデ、ハケメ後ナデ	
	677	器台	4区	SD004	15.7	—	—	粗粒砂少、海綿骨針やや多	良	にぶい橙 にぶい橙、黒	ミガキ ミガキ	外面煤付着
	678	器台	4区	SD004	14.0	—	—	極粗粒砂やや多、細礫少	良	灰黄褐～褐 にぶい黄橙～褐灰	ミガキ 口縁ヨコナデ、基部ミガキ	
	679	器台	4区	SD004	13.9	—	—	粗粒砂少	良	赤 暗赤、黒	ミガキ ミガキ	内外面赤彩　外面煤付着
	680	器台	4区	SD004	—	—	—	中粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ後ミガキ	2個1対の穿孔あり、穿孔径0.5cm
	681	鉢	4区	SD004	10.3	4.95	4.8	粗粒砂多	良	にぶい褐 にぶい黄橙、黒	ミガキ ハケメ後ミガキ、底面ミガキ	外面黑斑
	682	脚部	4区	SD004	—	—	6.8	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	鉢部太いミガキ、台部ハケメ後ヨコナデ 太いミガキ	
	683	脚部	4区	SD004	—	—	8.25	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	鉢部ハケメ後ミガキ、台部ミガキ ミガキ	
図面二三八	684	甕	4区	SD004	13.8	—	—	粗粒砂少	良	にぶい赤褐 にぶい褐	口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁外ごく浅い擬凹線5条
	685	甕	4区	SD004	13.0	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	灰黄褐 灰黄褐	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	内外面煤・ヨゴレ付着
	686	甕	4区	SD004	15.8	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ 口縁～頸部ヨコナデ	外面うすく煤付着
	687	甕	4区	SD004	14.7	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ケズリ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面全体に強く煤付着、内面全体にヨゴレ付着
	688	甕	4区	SD004	15.2	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ後ナデ、頸部～胴部ハケメ 口縁部ヨコナデ、ナデ、頸部胴部ハケメ	外面全体に煤付着
	689	甕	4区	SD004	13.0	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～灰黄褐	口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	690	甕	4区	SD004	14.8	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ヨコナデ ハケメ、ナデ	内面摩滅
	691	甕	4区	SD004	15.0	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙、にぶい橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	
	692	甕	4区	SD004	17.3	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、ナデ、指圧痕	内外面一部黑斑
	693	甕	4区	SD004	17.8	—	—	極粗粒砂多、赤色粒多、海綿骨針微	良	にぶい橙 にぶい黄橙～橙	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	内外面うすく煤付着
	694	甕	4区	SD004	19.7	—	—	極粗粒砂多、細礫（3.5mm）微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面全体に強く煤付着
	695	甕	4区	SD004	17.2	—	—	粗粒砂多	良	灰黄褐、黑 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ 口縁～頸部ヨコナデ	内面コゲ

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一三八	696	壺	4区	SD004	15.2	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ、胴部ケズリ後工具によるナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	外面煤付着
	697	壺	4区	SD004	18.2	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ナデ、ケズリ 口縁部頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	内外面強く煤・炭化物付着
	698	壺	4区	SD004	15.3	—	—	粗粒砂極多	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ハケメ後ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
	699	壺	4区	SD004	18.9	—	—	粗粒砂やや多	良	灰黄褐 黒	ハケメ後ナデ 口縁部ハケメ、頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
	700	壺	4区	SD004	25.8	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少	良	灰黄褐 灰黄褐	ミガキ ミガキ	
	701	壺	4区	SD004	27.7	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ナデ、ハケメ、ケズリ ヨコナデ、頸部指圧痕	擬凹線浅く不明瞭７条　口縁部に強く煤付着
図面一三九	702	壺	4区	SD004	13.0	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい褐 灰褐	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	外面煤付着
	703	壺	4区	SD004	15.7	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ、ハケメ ヨコナデ	口縁端面平滑　外面全体に強く煤付着
	704	壺	4区	SD004	17.3	—	—	粗粒砂多、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	外面煤付着
	705	壺	4区	SD004	17.1	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	内面うすく外面強く煤付着
	706	壺	4区	SD004	15.6	—	—	極粗粒砂多	良	褐灰 にぶい橙～灰褐	ハケメ、ナデ、ケズリ ナデ、ハケメ	内外面煤・炭化物付着
	707	壺	4区	SD004	17.2	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂多	良	にぶい褐 にぶい褐	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁端面平滑　外面全体に煤付着
	708	壺	4区	SD004	18.7	—	—	極粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ハケメ、ナデ、頸部ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ヨコナデ	外面煤付着
	709	壺	4区	SD004	15.4	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙、褐灰 黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	内外面に煤付着
	710	壺	4区	SD004	18.2	—	—	細礫微、極粗粒砂多	並	浅黄橙 浅黄橙～にぶい橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ後ナデ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面うすく煤付着
	711	壺	4区	SD004	17.4	—	—	粗粒砂少、細礫（2mm～3mm）多	良	灰黄褐 にぶい褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	内外面煤付着
	712	壺	4区	SD004	18.2	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ 口縁～頸部ヨコナデ、ナデ、胴部ハケメ	
	713	壺	4区	SD004	15.7	—	—	粗粒砂少、赤色粒多	良	にぶい褐 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁ナデ、胴部ハケメ、ナデ	内外面うすくヨゴレ
	714	壺	4区	SD004	16.2	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい褐	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ケズリ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁端面平滑　外面全体に煤付着
	715	壺	4区	SD004	14.5	—	—	粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁端部ヨコナデ、胴部ハケメ、ケズリ 口縁ナデ、胴部ハケメ、ナデ	口縁端面平滑　外面一部黑斑
	716	壺	4区	SD004	14.0	—	—	極粗粒砂少、細礫（2mm～3mm）多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ナデ、胴部ナデ、ケズリ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部荒いハケメ	口縁端部平滑　内外面強く煤付着
	717	壺	4区	SD004	18.3	—	—	極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	口縁ハケメ、ヨコナデ、胴部板ナデ 口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ	口縁端面平滑　外面全体に煤付着
	718	壺	4区	SD004	16.0	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、ケズリ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁端面平滑　外面全体に強く煤付着
	719	壺	4区	SD004	15.8	—	—	極粗粒砂多	良	暗褐 暗褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	720	壺	4区	SD004	19.8	—	—	極粗粒砂多	良	灰褐 赤褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	
	721	壺	4区	SD004	19.2	—	—	極粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい橙 橙	ハケメ、ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面煤付着
図面一四〇	722	小壺	4区	SD004	11.0	—	—	粗粒砂多	良	灰褐 にぶい褐	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	全体の形ゆがみ大　内外面強く煤付着
	723	小壺	4区	SD004	13.8	10.8	2.6	極粗粒砂微、粗粒砂少	良	浅黄 浅黄	口縁ヨコナデ、接合痕、指圧痕、胴部ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	外面一部黑斑
	724	壺	4区	SD004	14.6	16.7	3.9	極粗粒砂やや多	良	暗褐 暗褐	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	外面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面(四〇)	725	甕	4区	SD004	12.7	—	1.9	海綿骨針多、極粗粒砂多	並	にぶい橙～黒褐 黒	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	
	726	甕	4区	SD004	16.8	—	—	極粗粒砂やや多	良	灰褐 灰褐	ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	727	甕	4区	SD004	20.6	33.1	—	赤色粒、極粗粒砂多、粗粒砂多	良	浅黄橙～黒褐 浅黄橙～灰	口縁部ヨコナデ、ナデ、胴部ハケメ 口縁部ヨコナデ、ナデ、胴部ハケメ	くの字口縁、丸底　内面煤付着
	728	甕	4区	SD004	—	—	2.6	極粗粒砂少、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 黒(黒斑の色)	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、底面ナデ	外面全体的に黒斑、煤付着
	729	甕	4区	SD004	—	—	3.5	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	にぶい黄褐 灰黄褐	ナデ、指圧痕 ハケメ	外面全体に強く煤付着、内面全体に炭化物・ヨゴレ付着
図面(四一)	730	甕	4区	SD004	—	—	3.4	粗粒砂多、海綿骨針少	良	灰黄 黒褐、にぶい橙	ナデ ハケメ後ナデ、底面ナデ	外面一部煤付着
	731	甕	4区	SD004	—	—	3.1	極粗粒砂多	良	にぶい黄褐 褐	ハケメ ハケメ、底面ナデ、一部ハケメ	底部凹　外面煤付着
	732	甕	4区	SD004	—	—	1.6	粗粒砂多	良	灰褐 灰褐	ケズリ ヘラナデ、ケズリ	
	733	甕	4区	SD004	—	—	2.5	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	黒褐 灰黄褐	— ハケメ後ナデ、底面ナデ	内面コゲによる剥離著しく不明
	734	甕	4区	SD004	—	—	2.4	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙～黒褐 褐灰	胴上半部ハケメ、下半部ケズリ ハケメ、底面ナデ	外面煤付着
	735	壺	4区	SD004	9.7	—	—	中粒砂少、粗粒砂少、海綿骨針やや多	良	灰褐 明赤褐	ハケメ、ハケメ後ミガキ、脚部ナデか ミガキ	外面赤彩
	736	壺	4区	SD004	9.5	—	—	粗粒砂多、細礫(2～3mm)3個、海綿骨針微	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	737	壺	4区	SD004	13.5	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい赤褐～灰黄褐 にぶい赤褐～赤灰	ミガキ ミガキ	外面全体赤彩(うす黒く変色)、口縁部内面上半赤彩
	738	壺	4区	SD004	13.8	—	—	粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	灰黄 灰黄	ミガキ ミガキ	
	739	壺	4区	SD004	13.4	—	—	中粒砂少	良	灰黄褐～黒褐 にぶい黄褐～黒褐	ミガキ ミガキか	口縁外縁凹線10条
	740	壺	4区	SD004	12.0	—	—	粗粒砂極多、海綿骨針少	良	灰褐、褐灰 灰褐	口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ミガキ 口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ミガキ	
	741	壺	4区	SD004	12.4	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針多	並	橙 橙	口縁部ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	外面摩滅
	742	壺	4区	SD004	12.5	—	—	粗粒砂多	良	灰黄褐、にぶい褐 灰黄褐	ヨコナデ、頸部付近ナデか ヨコナデ、頸部付近ハケメ	
	743	壺	4区	SD004	16.9	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂少、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙、褐灰 灰黄褐	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	内面摩滅
	744	壺	4区	SD004	15.0	—	—	粗粒砂少	良	明灰褐 明灰褐	ミガキ、ヨコナデ ミガキ、ナデ	
	745	壺	4区	SD004	14.8	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄～黄灰 灰黄～黄灰	口縁部ミガキ、頸部ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ	
	746	壺	4区	SD004	14.3	—	—	中粒砂多、粗粒砂やや多、海綿骨針やや多	良	暗灰黄、赤褐 赤褐	口縁～頸部ミガキ、胴部ケズリ ミガキ	口縁端部・口縁有段部に連続刻み目　内外面赤彩
	747	壺	4区	SD004	15.8	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ミガキ	
図面(四一)	748	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	内外面赤彩　口縁内部摩滅
	749	壺	4区	SD004	14.4	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少	良	黄灰 にぶい黄	ハケメ後ナデ ハケメ	外面一部にうすく煤付着
	750	壺	4区	SD004	13.6	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後一部ナデ、頸部ナデ 口縁～頸部ミガキ	口縁端部一部に黒斑
	751	壺	4区	SD004	16.2	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄褐 灰褐	ヨコナデ、一部ミガキ ヨコナデ	口縁外縁
	752	壺	4区	SD004	18.2	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂少、海綿骨針微	良	浅黄橙 灰白～にぶい黄橙	ミガキ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	
	753	壺	4区	SD004	20.4	—	—	粗粒砂やや多	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面 / 下段外面)	調整 (上段内面 / 下段外面)	備考
図面(四)	754	壺	4区	SD004	13.6	—	—	粗粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ、ハケメ ミガキ	
	755	壺	4区	SD004	9.9	—	—	粗粒砂多、海綿骨針極多	並	浅黄橙 浅黄橙、橙	ヨコナデ、ナデ、指圧痕 受部ハケメ後ミガキ、ヨコナデ	外面赤彩
	756	台付壺	4区	SD004	9.0	—	—	粗粒砂微	良	赤～にぶい褐 赤	口縁ミガキ、体部ナデ、ケズリ ミガキ	外面・口縁端部内面赤彩
	757	壺	4区	SD004	19.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ ヨコナデ	
	758	壺	4区	SD004	21.1	—	—	粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙、黒褐 灰白	ミガキ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	内面煤付着、内外面摩滅、部分的に剥離(特に外面)
	759	壺	4区	SD004	13.1	—	—	粗粒砂少	良	灰褐 灰褐	ミガキ、ハケメ、ナデ ミガキ	外面・口縁部内面赤彩
	760	壺	4区	SD004	20.4	—	—	極粗粒砂多、細礫(2mm～3mm)少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ナデ 口縁～頸部、ヨコナデ	短頸外反口縁
	761	壺	4区	SD004	12.2	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	並	灰黄褐 にぶい黄橙	ヨコナデ、頸部指圧痕 ヨコナデ、頸部付近工具痕	
	762	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂微	良	にぶい橙 赤	ナデ ミガキ	外面赤彩
	763	壺	4区	SD004	7.7	—	—	粗粒砂多	良	暗灰黄 黄灰	ナデ、一部ハケメ痕 ナデ、一部ハケメ痕	外面一部にうすく赤彩痕か
	764	壺	4区	SD004	8.3	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ミガキ	頸部無段
	765	壺	4区	SD004	9.3	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口辺部ナデ、ミガキ ミガキ	口頸部有段
	766	壺	4区	SD004	10.2	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口辺部ナデ、口縁部ハケメ、ナデ 口縁～頸部ミガキ	口頸部有段
	767	壺	4区	SD004	9.4	—	—	粗粒砂少	良	褐 褐	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ミガキ	外面赤彩
図面(四)	768	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少	並	明赤褐～灰黄 灰黄	ミガキ —	口縁外下端に擬凹線3条　外面摩滅　内外面赤彩
	769	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい赤褐～灰褐 明赤褐、にぶい褐	ミガキ ミガキ	外面赤彩、内面一部に赤彩痕のこる
	770	壺	4区	SD004	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針多	良	黄灰 明赤褐	口縁ハケメ、下半ハケメ後ナデ ミガキ	擬凹線3条　口縁有段部連続刻み目　外面赤彩
	771	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	灰黄褐 灰褐	胴部ナデ、底部ハケメ、ナデ ミガキ	外連続刻み目　赤彩痕残る
	772	壺	4区	SD004	—	—	—	細粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針やや多	並	浅黄橙、灰黄 赤橙	ナデ、指圧痕 ハケメ後ミガキ、突帯部ヨコナデ	突帯2段　外面全体赤彩
	773	壺	4区	SD004	—	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙、灰黄褐 赤橙	ナデ、指圧痕 ミガキ、突帯部ヨコナデ	外面突帯(3条の擬凹線)　外面全体赤彩
	774	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少、赤色粒多	良	褐灰 にぶい黄橙	ケズリ、ナデ ヨコナデ、ミガキ	幅広の突帯に凹線2条
	775	台付壺	4区	SD004	—	—	9.0	粗粒砂少	良	暗灰褐 暗灰褐	ナデ、ヨコナデ ミガキ、ナデ	外面上部赤彩
	776	壺	4区	SD004	—	—	6.6	中粒砂(白色粒)少、海綿骨針やや多	良	灰黄 明赤褐	ナデ、ハケメ ミガキ、底面ナデ、ミガキ	外面全体赤彩
	777	壺	4区	SD004	—	9.45	4.3	中粒砂少	良	灰褐 赤彩	ナデ、指圧痕、ケズリ ミガキ	外面赤彩
	778	壺	4区	SD004	7.7	9.2	—	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい褐～灰褐 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ 口縁部ヨコナデ、頸部～底部ナデ	外底面の一部黒斑
	779	壺	4区	SD004	11.6	—	—	中粒砂少	良	橙～赤黒 橙	ミガキ、ナデ ミガキ、頸部ナデ	内面一部黒斑
	780	壺	4区	SD004	11.2	—	—	粗粒砂少	良	赤褐～にぶい黄橙 赤褐～にぶい黄橙	口縁部ミガキ、胴部ナデ ミガキ	外面赤彩、口縁部内面赤彩
	781	壺	4区	SD004	10.0	—	—	中粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ、ハケメ、ナデ ミガキ、ヨコナデ、ハケメ	
	782	壺	4区	SD004	—	—	7.2	海綿骨針やや多、粗粒砂多、赤色粒	並	橙 灰白～橙	ナデ ハケメ後板状具によるナデ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一四三	783	壺	4区	SD004	—	—	2.3	海綿骨針多、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	頸部ナデ、胴部板ナデ、底部ハケメ ミガキ、ハケメ調整痕	外面刻み目、直線文、波状文、胴部細い陰帯貼付（刻み目）
図面一四四	784	壺	4区	SD004	—	—	6.3	粗粒砂少	良	灰褐 灰褐	ハケメ、ケズリ ミガキ	
	785	壺	4区	SD004	—	—	3.6	中粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙～灰黄褐 にぶい黄橙	板状具によるナデ、底部ハケメ、ナデ ミガキ	
	786	壺	4区	SD004	—	—	8.0	粗粒砂少、海綿骨針少	良	褐灰、黒褐 黄灰	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	底部外面籾殻痕
	787	壺	4区	SD004	—	—	3.7	粗粒砂やや多、極粗粒砂微	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後工具によるナデ、底面ナデ	
	788	壺	4区	SD004	—	—	5.8	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい褐	ナデ、一部板状具によるナデ ミガキ、底面ミガキ	外面一部黒斑
	789	壺	4区	SD004	—	—	3.6	中粒砂やや多、海綿骨針やや多	良	にぶい橙 赤、明褐灰	ミガキ ミガキ、底面ミガキ、ナデ	外底面凹　外面赤彩、内面部分的に赤彩痕のこる
	790	壺	4区	SD004	—	—	4.4	中粒砂少	良	灰褐 灰褐	ハケメ、ヘラ状具によるケズリ ミガキ	外面赤彩
	791	壺	4区	SD004	—	—	6.4	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ナデ、放射線状具痕、一部ハケメ痕 ナデ（一部ハケメ痕）、底面ナデ	外底部凹　外面に煤付着
	792	壺	4区	SD004	—	—	3.0	中粒砂少、海綿骨針少	良	灰黄 橙	ミガキ ミガキ、底面ミガキ	外面全体赤彩
	793	壺	4区	SD004	—	—	5.5	粗粒砂少	良	灰黄褐 灰黄褐	ナデ、工具痕、一部ミガキ ナデ、底面ナデ	外面底部辺一部に黒斑　籾痕か種子の圧痕のようなものあり
	794	壺	4区	SD004	—	—	6.6	粗粒砂やや多	良	にぶい橙 にぶい褐	ミガキ ミガキ、底面ミガキ	
	795	壺	4区	SD004	—	—	5.6	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針多	良	黒 灰黄褐	台部ケズリ後ハケメ ケズリ後ミガキ、底部ケズリ、ナデか	内面黒斑
	796	壺	4区	SD004	—	—	7.8	中粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ミガキ、底部ミガキ、ナデ ミガキ、底部ミガキ、ナデ	外面黒斑
	797	壺	4区	SD004	—	—	6.4	粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙、黒	ハケメ後ナデ ミガキ、底部ケズリ	外面1/2黒斑
	798	高杯	4区	SD004	10.4	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針少	良	灰白 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	799	高杯	4区	SD004	10.6	—	—	中粒砂極多、粗粒砂やや多（赤色粒）、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	800	高杯	4区	SD004	11.1	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙～褐灰 にぶい黄～黒褐	ミガキ ミガキ	
	801	高杯	4区	SD004	17.7	—	—	中粒砂多、海綿骨針少	良	灰白～褐灰 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	802	高杯	4区	SD004	18.2	—	—	粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩（一部黒く変色）
	803	高杯	4区	SD004	18.0	—	—	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	804	高杯	4区	SD004	20.4	—	—	極粗粒砂多	良	赤～にぶい黄橙 赤～にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	内外面摩滅　赤彩
図面一四五	805	高杯	4区	SD004	16.9	—	—	粗粒砂少	良	明赤褐 赤褐	ミガキ ミガキ	内外面全体赤彩
	806	高杯	4区	SD004	17.3	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂微	良	赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	807	高杯	4区	SD004	24.0	—	—	中粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ、ヨコナデ ミガキ、ヨコナデ	内外面赤彩
	808	高杯	4区	SD004	29.0	—	—	中粒砂少、海綿骨針少	良	褐灰、暗灰 明褐灰	ミガキ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	内面煤付着、外面ヨゴレ
	809	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂多、海綿骨針やや多	良	明暗褐、暗赤灰 灰赤	ミガキ ミガキ	外面有段部6条の擬凹線、連続刻み目　内外面全体赤彩
	810	高杯	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	赤～にぶい黄橙 赤～にぶい黄橙	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	口縁段部に擬凹線4条　内外面赤彩
	811	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい褐 にぶい褐	ミガキ ミガキ	

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 〔上段内面／下段外面〕	調整 〔上段内面／下段外面〕	備考
図面一四五	812	高杯	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂多	良	赤褐 赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	813	高杯	4区	SD004	16.1	—	—	中粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄褐 明赤褐	ミガキ 口縁端部ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	外面全体赤彩、内面全体赤彩か
	814	高杯	4区	SD004	17.4	—	—	中粒砂少	良	赤褐 赤褐、黒	ミガキ ミガキ	外面煤付着　内外面赤彩
	815	高杯	4区	SD004	—	—	16.7	粗粒砂少、海綿骨針微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	口縁外下端にヘラ状具による連続刻み目　内外面赤彩
	816	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針多	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙、にぶい黄褐	ミガキ ミガキ	外面有段部連続刻み目、擬凹線3条
	817	高杯	4区	SD004	9.7	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	赤、にぶい黄橙 赤	杯部ミガキ、脚部ナデ、指圧痕 杯部・脚部ミガキ	杯部内外面赤彩、脚部外面赤彩
	818	脚部	4区	SD004	—	—	7.4	粗粒砂少、極粗粒砂微	良	灰黄褐、赤～にぶい橙 赤	杯部ミガキ、脚部ミガキ、ナデ ミガキ（ハケメ痕）	外面・脚部内面赤彩
	819	脚部	4区	SD004	—	—	9.1	粗粒砂多	良	灰黄褐 赤	ナデ、一部ハケメ痕 ミガキ	外面赤彩、裾端部黒く変色
	820	脚部	4区	SD004	—	—	8.0	粗粒砂多	良	にぶい黄橙、にぶい褐 赤	杯部ナデ、脚部ナデ ミガキ	外面赤彩
	821	脚部	4区	SD004	—	—	10.5	中粒砂多、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	杯部ナデ、脚部ミガキ ミガキ、口唇部ヨコナデ	
	822	台付鉢	4区	SD004	—	—	10.1	中粒砂微、極粗粒砂(2mm)1個、海綿骨針極多	良	にぶい橙、にぶい黄橙 橙	杯部ミガキ、脚部ミガキか ミガキ	外面赤彩
	823	脚部	4区	SD004	—	—	10.7	粗粒砂多、赤色粒多、海綿骨針やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	824	脚部	4区	SD004	—	—	13.0	粗粒砂少、海綿骨針微	良	橙～灰黄褐 明赤褐	ナデ、一部ミガキ ミガキ	外面赤彩、内面うすく赤彩痕
	825	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂少、粗粒砂微、海綿骨針少	並	にぶい黄橙 浅黄橙、褐灰	杯部ミガキ、脚部ハケメ後ナデ ミガキ	穿孔4ヶ所、穿孔径0.8～0.9cm　外面煤付着
	826	高杯	4区	SD004	—	—	12.3	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 赤	ハケメ、ナデ、ヨコナデ ミガキ	外面赤彩
	827	高杯	4区	SD004	—	—	14.3	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 赤	ナデ ミガキ	外面赤彩
	828	高杯	4区	SD004	—	—	13.8	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 明赤褐	ハケメ、ナデ、ヨコナデ ミガキ、ヨコナデ	円形透孔単位推測5個か、孔径約0.6cm　外面赤彩
	829	高杯	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙 明赤褐	絞り痕、ハケメ、ナデ ミガキ	脚部穿孔（円形透孔）単位4、孔径約1.1cm　杯部内面・脚部内面赤彩
	830	高杯	4区	SD004	—	—	9.9	粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい褐 にぶい橙	ミガキ、ハケメ後ヨコナデ ミガキ	
図面一四六	831	高杯	4区	SD004	—	—	14.0	粗粒砂少	良	褐 褐	ケズリ、ヘラナデ、ハケメ ミガキ	
	832	高杯	4区	SD004	—	—	14.5	粗粒砂少	良	灰黄褐 明赤褐	ハケメ、ナデ、ミガキ ミガキ、裾端部ヨコナデ	2個1対の穿孔単位3、孔径約1.1cm　外面・杯部内面赤彩
	833	高杯	4区	SD004	—	—	19.6	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい橙、褐灰 にぶい橙	ヨコナデ、ナデ、一部ケズリ ミガキ	裾部内面煤付着
	834	高杯	4区	SD004	—	—	15.5	粗粒砂微、海綿骨針微	良	にぶい橙 橙	ハケメ、ナデ、ヨコナデ ミガキ	脚部穿孔（円形透孔）2個上下1対で単位4か、孔径約0.8cm　外面赤彩　摩滅
	835	高杯	4区	SD004	—	—	7.4	粗粒砂多、海綿骨針多	並	橙 橙	ナデ、ハケメ後ヨコナデ ハケメ後ミガキか	外面摩滅
	836	高杯	4区	SD004	—	—	9.0	粗粒砂少、海綿骨針少	並	にぶい黄橙 浅黄橙、にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ後ナデ、裾端部ヨコナデ	
	837	高杯	4区	SD004	—	—	9.4	粗粒砂少	良	にぶい橙 橙	絞り痕、ナデ、ヨコナデ ミガキ	外面赤彩、裾部一部黒く変色
	838	高杯	4区	SD004	—	—	10.6	粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 灰黄褐	裾部ハケメ、ナデ ミガキ	脚裾端部一部に黒斑
	839	高杯	4区	SD004	—	—	8.4	粗粒砂少	良	赤褐 赤褐	ナデ、ミガキか ミガキ、ヨコナデか	外面・杯部内面赤彩
	840	高杯	4区	SD004	—	—	8.0	粗粒砂やや多	並	黄灰 灰白、褐灰	杯部ナデか、ナデ、下半ハケメ後ナデ ミガキ	外面煤付着か

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面 / 下段外面)	調整 (上段内面 / 下段外面)	備考
図面一四六	841	高杯	4区	SD004	—	—	8.8	中粒砂少、海綿骨針多	良	灰黄褐 にぶい黄橙	杯部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ ミガキ	
	842	高杯	4区	SD004	—	—	9.3	中粒砂やや多、	良	黄灰、にぶい黄橙 にぶい橙	杯部ミガキ、下半ナデ、ハケメ ミガキ、裾端部横位ハケメ後ナデ	
	843	高杯	4区	SD004	—	—	8.8	粗粒砂少	良	にぶい橙 明赤褐～にぶい橙	絞り痕、ナデ、裾部ミガキ ミガキ	円形透孔単位3、孔径0.6cm　外面赤彩か
	844	高杯	4区	SD004	—	—	9.5	赤色粒	良	灰褐～褐灰 赤褐～明赤褐	杯部ミガキ、裾部ハケメ後ナデ ミガキ	外面赤彩　内裾部赤色痕　外面一部にタール状の黒い物付着
	845	高杯	4区	SD004	—	—	10.7	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 赤	絞り痕、ナデ、裾部ヨコナデ ミガキ	2個1対(横並び)の円形透孔単位3、孔径約0.6cm　外面・杯部内面赤彩
	846	高杯	4区	SD004	—	—	9.0	中粒砂多、粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	灰黄 灰黄、暗灰	受部ミガキか、脚部ナデ ミガキ	穿孔3個、穿孔径0.6～0.7cm
	847	高杯	4区	SD004	—	—	—	中粒砂少、海綿骨針多	良	灰白、明黄褐 にぶい黄褐	杯部ミガキ、脚部ハケメ、ナデ 杯部ミガキ、脚部ケズリ後ミガキ	穿孔4個、穿孔径1.3～1.4cm
	848	器台	4区	SD004	8.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	灰黄褐 灰白	ハケメ ハケメ後ナデ、指圧痕	
	849	器台	4区	SD004	9.0	—	—	粗粒砂多	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	受部有段　内外面赤彩
	850	器台	4区	SD004	7.9	—	—	粗粒砂極多	並	にぶい橙 浅黄橙	受部ミガキ、脚部上半ナデ ミガキ	脚部穿孔1個残、数不明、穿孔径0.7cm　外面摩滅著しい
	851	器台	4区	SD004	8.6	—	—	粗粒砂多	良	暗褐 暗褐	ミガキ、ナデ ミガキ	外面赤彩、内面部分的に赤彩
	852	器台	4区	SD004	10.0	9.4	14.4	粗粒砂多、海綿骨針やや多	良	赤褐、脚部にぶい黄橙 赤褐	受部ミガキ、脚部ハケメ後ナデ ミガキ	脚部穿孔単位3ヶ所、孔径1.0cm　赤彩　脚部内面一部黒く変色
	853	器台	4区	SD004	13.1	—	—	粗粒砂多	良	暗灰褐 暗灰褐	ミガキ、ナデ、ハケメ ミガキ	
	854	器台	4区	SD004	8.4	—	—	粗粒砂少	良	明褐 明褐	ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ、絞り痕	外面赤彩、内面部分的に赤彩
	855	器台	4区	SD004	5.7	—	—	細粒砂多、粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい橙、にぶい黄橙 にぶい橙	受部ミガキ、脚部下半ハケメ後ナデ ハケメ、ミガキ	内面口縁外面黒斑
	856	器台	4区	SD004	15.8	—	—	極粗粒砂少、海綿骨針微	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	円形透孔(推定9～10個か)、孔径約1.0cm　内外面赤彩
	857	器台	4区	SD004	18.2	—	—	粗粒砂微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	体部に涙滴型透孔　内外面赤彩
図面一四七	858	器台	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少	良	にぶい褐 赤、にぶい褐	受部ミガキ、ナデ、脚部ナデ ミガキ	穿孔3ヶ所(円形透孔)孔径約0.7cm　外面赤彩、受部内面下端にうすく赤彩痕
	859	器台	4区	SD004	—	—	9.8	粗粒砂多、海綿骨針少	良	灰黄 黄灰	受部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ ミガキ	
	860	器台	4区	SD004	—	—	11.7	極粗粒砂多、海綿骨針少	良	赤、にぶい黄橙 赤	受部ミガキ、脚部ナデ ミガキ、裾端部ヨコナデ	外面全体赤彩、内面ごく一部に赤彩痕、内面受けブロック状に赤彩
	861	器台	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 赤	受部ミガキ、脚部ケズリ、ハケメ、ナデ ミガキ	脚部穿孔単位2個1対で3ヶ所・円形透孔、孔径約1.1cm　外面赤彩、内面一部赤彩
	862	器台	4区	SD004	—	—	13.5	極粗粒砂微	良	にぶい橙 赤	ハケメ、ナデ、指圧痕、裾端部ヨコナデ ミガキ、裾端部ヨコナデ	脚部穿孔1個残(単位不明)孔径約1.0cm)　外面赤彩　摩滅
	863	器台	4区	SD004	—	—	12.3	粗粒砂少	良	にぶい褐 赤	ハケメ後ナデ、指圧痕 ミガキ	脚部円形透孔1個残(単位不明)、孔径約0.65cm　外面赤彩
	864	器台	4区	SD004	—	—	13.7	粗粒砂少、海綿骨針多	良	灰黄褐 灰黄褐	受部ミガキ、脚部ケズリ後ナデ ミガキ	穿孔3ヶ所、穿孔径1.0cm
	865	器台	4区	SD004	—	—	—	中粒砂やや多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	受部ミガキ、脚部ハケメ後ナデ ミガキ	穿孔2個1対4ヶ所
	866	器台	4区	SD004	—	—	10.6	中粒砂多、粗粒砂やや多、海綿骨針やや多	良	灰黄 灰黄	脚部ハケメ後ナデ ミガキ、裾端部ヨコナデ	穿孔3個残る、数不明、穿孔径0.7cm
	867	器台	4区	SD004	—	—	9.8	粗粒砂少、海綿骨針少	良	灰黄褐 灰黄褐、黒	受部ハケメ後ミガキ、脚部ハケメ後ナデ ハケメ後荒いミガキ、裾端部ヨコナデ	外面煤付着、内面煤付着、裾部まで煤のタレ付着
	868	鉢	4区	SD004	9.7	—	—	粗粒砂少	良	暗灰 黄灰	ナデ ナデ	
	869	高杯	4区	SD004	16.4	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 赤	ハケメ、ナデ、一部ミガキ ミガキ	外面赤彩

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一四七	870	高杯	4区	SD004	16.3	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少、海綿骨針微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	内外面赤彩、外面一部黒く変色
	871	鉢	4区	SD004	15.3	—	—	極粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ、ナデ、体部ハケメ、ナデ 口縁部ハケメ、ナデ、体部ハケメ、ナデ	
	872	鉢	4区	SD004	26.2	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁～頭部ハケメ、ナデ、胴部ナデ 口縁部ハケメ、ヨコナデ、胴部ハケメ	内面うすくヨゴレか
	873	鉢	4区	SD004	13.0	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少	並	にぶい橙 赤	ミガキ ミガキ	外面赤彩、口縁部内面にうすく赤彩痕
	874	台付鉢	4区	SD004	8.8	—	—	極粗粒砂多、細礫微	良	にぶい橙 にぶい黄橙	ナデ、指圧痕 ナデ、ミガキ	外面一部に黒斑
	875	台付鉢	4区	SD004	12.4	—	—	精良、粗粒砂少	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ミガキ ミガキ	
	878	鉢	4区	SD004	14.8	—	—	粗粒砂少、細礫(3mm)微	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	把手残存1個（2個か）、把手内外面赤彩
図面一四八	879	鉢	4区	SD004	9.5	—	—	粗粒砂多	良	灰黄褐 灰黄褐	口縁部ヨコナデ、体部ナデ 口縁～頭部ヨコナデ、体部ナデ	外面一部黒斑
	880	鉢	4区	SD004	10.4	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	黄橙 黄橙	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ	有段口縁
	881	鉢	4区	SD004	9.4	—	—	粗粒砂多	良	橙～浅黄 橙	ミガキ 口縁部ミガキ、胴部ハケメ後ミガキ	内面一部・外面赤彩
	882	鉢	4区	SD004	10.2	6.8	1.7	粗粒砂やや多	良	明褐 明褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	883	鉢	4区	SD004	11.9	—		粗粒砂多	良	灰黄褐 灰黄褐	口縁部ヨコナデ、頭部～胴部ナデ ミガキ、ナデ、ハケメ	
	884	鉢	4区	SD004	13.8	—	—	精良、粗粒砂少	良	にぶい褐 にぶい橙	ハケメ、ミガキ、ナデ 口縁～体部ハケメ後ミガキ	内外面丁寧なミガキ
	885	鉢	4区	SD004	13.8	—	—	極粗粒砂少	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	886	鉢	4区	SD004	10.7	8.2	1.15	粗粒砂多	良	灰褐 灰褐	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ナデ	
	887	壺	4区	SD004	12.1	—	—	粗粒砂少	良	赤褐 赤褐	ミガキ ミガキ、ヨコナデ	
	888	鉢	4区	SD004	12.7	—	—	粗粒砂少	良	灰褐 灰褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	889	鉢	4区	SD004	15.4	6.8	1.6	極粗粒砂微、粗粒砂少	良	橙 橙	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ、底面ミガキ	内外面赤彩
	890	台付鉢	4区	SD004	13.4	6.7	4.8	粗粒砂多、極粗粒砂微	良	にぶい橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ 全体ハケメ後ヨコナデ、外底面ナデ	体部楕形　体部の一部黒斑か
	891	鉢	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 赤褐	ケズリ、ナデ ミガキ	内面うすく赤彩痕、外面全体に赤彩
	892	台付鉢	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少	良	暗褐 暗褐	ハケメ、ナデ、ミガキ ミガキ	外面赤彩
	893	鉢	4区	SD004	—	—	2.7	極粗粒砂多	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ナデ ナデ(一部ハケメ痕)	底部穿孔(孔径0.7cm)
	894	底部	4区	SD004	—	—	6.4	粗粒砂少	良	灰黄褐 赤～暗赤灰	ハケメ、ケズリ、ナデ ミガキ	外面・外底面赤彩、一部黒く変色している
	895	鉢	4区	SD004	—	—	5.2	粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	明赤褐 明赤褐	ナデ、指圧痕後ミガキか ハケメ後ミガキ、底面ミガキ	内面摩滅　内外面全体赤彩
	896	台付鉢	4区	SD004	—	—	4.8	粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ、底面ハケメ、ナデ、ミガキ	
	897	脚部	4区	SD004	—	—	5.0	粗粒砂少、海綿骨針微	良	褐 にぶい赤褐	体部ナデ、台部内面ナデ、指圧痕 ミガキ、台部ミガキ	赤彩か、脚部内面にも赤彩痕のこる
	898	脚部	4区	SD004	—	—	7.0	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	体部ナデ、脚部ナデ 体部ハケメ、ナデ、台部ナデ、ヨコナデ	
	899	脚部	4区	SD004	—	—	9.3	粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 赤	杯部ミガキ、ナデ、脚部ハケメ、ナデ ミガキ	外面赤彩
	900	脚部	4区	SD004	—	—	9.8	粗粒砂多、赤色粒多	良	灰黄褐 にぶい橙	底部ナデ、台部ナデ、指圧痕 ミガキ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一四八	901	脚部	4区	SD004	—	—	7.6	精良、粗粒砂少、赤色粒、海綿骨針少	良	にぶい橙、にぶい黄褐 にぶい橙	体部ナデ、脚部ナデ、ヨコナデ ナデ、指圧痕、ヨコナデ	
	902	脚部	4区	SD004	—	—	8.9	粗粒砂少	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ後ヨコナデ ミガキ	
	903	脚部	4区	SD004	—	—	7.2	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	体部ミガキ、脚部ナデ ミガキ	
	904	脚部	4区	SD004	—	—	8.7	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい橙 にぶい褐	体部ナデ、脚部ナデ ミガキ	
	905	脚部	4区	SD004	—	—	8.8	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	体部ナデ、脚部ナデ(ハケメ痕が残る) ミガキ	外面と内面端部に煤付着
図面一四九	906	壺	4区	SD004	5.5	—	—	粗粒砂多	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	ツマミ部欠損　内外面赤彩
	907	壺	4区	SD004	7.7	3.2	—	粗粒砂多	良	褐 褐	ナデ ミガキ	
	908	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂微、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	ツマミ径3.0cm
	909	壺	4区	SD004	7.0	2.8	—	粗粒砂少	良	暗灰黄 暗灰黄	ミガキ ハケメ後ミガキ	ツマミ径1.9cm　外面黒斑
	910	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少	良	赤 赤	ミガキ ツマミ部～体部ミガキ	内外面赤彩
	911	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少	良	黒褐 にぶい赤褐	ミガキ ツマミ部～体部ミガキ	外面赤彩
	912	壺	4区	SD004	7.6	2.9	—	粗粒砂多	良	褐灰 赤橙～暗赤灰	ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	ツマミ径2.5cm　全体に赤彩（ツマミ上面も） 外面摩滅
	913	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少	良	明褐 明褐	ヨコナデ ミガキ	内外面赤彩
	914	壺	4区	SD004	9.5	3.9	—	極粗粒砂やや多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 浅黄橙～褐灰	ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ	ツマミ径2.7cm
	915	壺	4区	SD004	9.2	3.4	—	中粒砂少、海綿骨針微	良	褐灰 灰黄褐～褐灰	ミガキ ミガキ	ツマミ径2.2cm
	916	壺	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	ツマミ径3.4cm　内外面赤彩
	917	壺	4区	SD004	9.3	—	—	極粗粒砂多	良	赤 赤	ミガキ、ナデ ミガキ	ツマミ部先端欠損　内外面赤彩
	918	壺	4区	SD004	—	—	—	極粗粒砂やや多、粗粒砂やや多	並	浅黄橙 浅黄橙	板状具によるナデ、ナデ、指圧痕 板状具によるナデ、ナデ	ツマミ径3.0cm　内外面部分的に煤付着
	919	壺	4区	SD004	10.6	3.8	—	極粗粒砂微、粗粒砂やや多	良	にぶい黄褐 暗灰黄	ナデ ハケメ後ナデ	ツマミ径2.4cm
	920	壺	4区	SD004	—	—	—	粗粒砂少、中粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ミガキ ミガキ	ツマミ径2.6cm
	921	壺	4区	SD004	12.5	4.5	—	極粗粒砂微、粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	ツマミ径1.7cm　内面口縁部と外面部分的に煤付着　外面剥離
	922	壺	4区	SD004	13.9	5.35	—	極粗粒砂やや多、粗粒砂やや多	並	浅黄橙～褐灰 浅黄橙～褐灰	ハケメ、指圧痕 ハケメ後ナデ	ツマミ径1.7cm
	923	壺	4区	SD004	17.55	4.65	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ツマミ部～体部ミガキ	ツマミ径3.3cm　内外面赤彩
	924	壺	4区	SD004	17.1	5.25	—	粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	口縁部内外に煤付着
	925	ミニチュア壺形土器	4区	SD004	5.7	6.1	2.1	粗粒砂少	良	褐 褐	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ミガキ、ナデ	内外面赤彩
	926	ミニチュア鉢形土器	4区	SD004	3.8	4.95	3.7	粗粒砂やや多	良	灰褐 灰褐	ナデ ハケメ、ナデ	
	927	ミニチュア壺形土器	4区	SD004	7.6	4.1	3.7	粗粒砂少	良	にぶい褐 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ 口縁ナデ、体部ミガキ、ナデ	
図面一五〇	928	底部	4区	SD006	—	—	6.3	粗粒砂多	良	浅黄橙 にぶい橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ミガキ	粘土積上箇所で剥離
	929	壺	4区	SD006	11.5	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂やや多	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 〔上段内面／下段外面〕	調整 〔上段内面／下段外面〕	備考
図面一五〇	930	高杯	4区	SD006	15.3	—	—	中粒砂多、海綿骨針少	良	橙 明赤褐	ミガキ ミガキ	外面赤彩
	931	壺	4区	SD009	16.6	32.35	6.4	粗粒砂やや多	良	明褐 明褐	ミガキ、指圧痕、ナデ、ハケメ ミガキ、ハケメ	外面煤付着
	932	底部	4区	SD009	—	—	6.2	極粗粒砂少、細礫微	良	褐灰 褐灰	ハケメ ハケメ、ナデ、ミガキ	
	933	底部	4区	SD009	—	—	6.2	極粗粒砂少	良	にぶい橙 灰褐	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	
	934	底部	4区	SD009	—	—	6.2	粗粒砂多、白色粒やや多	良	暗灰 にぶい褐	ナデ、ハケメ ナデ	底部内面最上にハケメ
	935	壺	4区	SD009	—	—	6.2	粗粒砂多（白色粒多）、細礫少	良	灰 灰白～浅黄橙	ハケメ ハケメ、ミガキ、ナデ	内面の上部に細かいハケメ、下部に荒めのハケメ 外面黒斑あり、煤付着
	936	甕	4区	SD009	12.2	—	—	海綿骨針、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙～褐灰 にぶい黄橙～褐灰	口縁ハケメ後ヨコナデ、頸部ハケメ ヨコナデ	外面煤付着
	937	甕	4区	SD009	17.3	—	—	海綿骨針、粗粒砂やや多、極粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 灰褐	口縁ヨコナデ、胴部板ナデ 胴部ハケメ、口縁～頸部ヨコナデ	口縁外擬凹線　外面煤付着
	938	甕	4区	SD009	17.3	—	—	海綿骨針、赤色粒、極粗粒砂やや多、細礫やや多	並	浅黄橙 灰白	口縁端部ヨコナデ、口縁ナデ 口縁端部ヨコナデ、頸部ハケメ	
	939	甕	4区	SD009	16.8	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 褐灰	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	口縁外擬凹線６条　外面煤付着
	940	甕	4区	SD009	18.1	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂やや多	良	灰白 浅黄橙、黒褐	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	外面煤付着
	941	甕	4区	SD009	15.0	—	—	中粒砂多、粗粒砂少	良	浅黄、黄灰 浅黄橙、黒褐	口縁ハケメ後ヨコナデ、胴部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	内面部分的に煤付着　外面煤付着
	942	甕	4区	SD009	18.9	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂多	良	浅黄橙、灰黄橙 にぶい黄橙、褐灰	口縁～頸部ヨコナデ、指圧痕 口縁ナデ、胴部ハケメ後ナデ	
	943	甕	4区	SD009	—	—	1.8	粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、底面ナデ	外面煤付着
	944	壺	4区	SD009	—	—	—	極粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙～褐灰 赤	口縁～頸部ナデ、指圧痕、胴部ハケメ ミガキ	外面赤彩
図面一五一	945	壺	4区	SD009	19.0	—	—	粗粒砂少	良	赤褐 明赤褐	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ、ナデ	
	946	高杯	4区	SD009	—	—	13.3	粗粒砂少、海綿骨針少	良	黒褐 赤褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ミガキ、ハケメ残る	外面赤彩
	947	高杯	4区	SD009	—	—	13.1	細粒砂少、海綿骨針微	良	灰黄褐 にぶい赤褐	ナデ、ヨコナデ、一部ハケメ残る ミガキ	脚部外擬凹線５条、刻み目　外面赤彩　一部煤状のもの付着　脚基部に穿孔か
	948	台付鉢	4区	SD009	13.5	—	—	中粒砂やや多	良	にぶい黄橙、褐灰 灰白	ミガキ ミガキ	有段部外擬凹線２条・連続刻み目
	949	合子形土製品	4区	SD009	5.3	1.9	—	粗粒砂少	良	明赤褐 赤	ナデ、一部ミガキ 全体ミガキ	天井部端に穿孔１個（約 1.5mm）　外面赤彩、内面うすく赤彩痕
	950	脚部	4区	SD010	—	—	9.0	極粗粒砂多	良	橙～にぶい橙 赤	ハケメ、ヨコナデ ミガキ	外面と内面端部に赤彩
	951	台付鉢	4区	SD010	—	—	6.3	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい黄橙	内部ハケメ、ナデ、指圧痕、台部ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	台部端にうすく煤付着
	952	甕	4区	SD011	16.5	—	—	粗粒砂多、3mmの細礫１個	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ ヨコナデ	口縁外擬凹線８条　外面全体に煤付着
	953	高杯	4区	SD015	4.1	—	—	海綿骨針、極粗粒砂多、細礫少	良	橙～灰黄褐 橙	ミガキ ミガキ	受部と脚部接合部の粘土塊残
	954	甕	4区	SD017	20.5	—	—	中粒砂少、細礫微	良	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文　外面煤付着
	955	甕	4区	SD018	19.1	—	—	極粗粒砂少、細礫微、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ナデ	口縁内羽状刺突文　外面煤付着
	956	甕	4区	SD018		—	6.4	粗粒砂やや多	良	灰白 灰白、褐灰	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、指圧痕	内面黒斑、外面煤付着
	957	甕	4区	SD021	18.3	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙、黒褐	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	外面煤付着
	958	壺	4区	SD021	19.0	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙～にぶい黄褐 灰黄褐、黒	ハケメ後ナデ ハケメ	口縁外刻み目　外面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一五一	959	甕	4区	SD021	16.6	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ、ナデ、胴部ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ、ナデ	外全体に強く煤付着
	960	甕	4区	SD021	20.4	—	—	極粗粒砂多、粗粒砂多、赤色粒多、海綿骨針少	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口唇部連続刻み目
	961	甕	4区	SD021	21.6	—	—	粗粒砂、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ハケメ後ナデ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ後横ナデ、ハケメ	口縁外単位のある刻み目　外面厚く煤付着
	962	底部	4区	SD021	—	—	5.9	極粗粒砂多	並	黒褐、浅黄橙 にぶい黄褐、暗灰	ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ	底部黒斑、外面煤付着
	963	底部	4区	SD021	—	—	5.95	細礫微、極粗粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針微	良	黒 灰黄、橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	外面～底部黒斑、内面底部全体黒斑
図面一五二	964	壺	4区	SD021	18.0	—	—	0.5mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多、海綿骨針	良	にぶい橙～褐灰 にぶい橙	ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	内外面とも摩滅著しい
	965	壺	4区	SD021	17.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ、ヨコナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目(大小)単位不明
	966	壺	4区	SD021	17.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁外羽状刺突文、端部格子文
	967	底部	4区	SD021	—	—	7.4	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 橙～浅黄橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底面ナデ	内外面底面に黒斑　一部摩滅
	968	壺	4区	SD021	—	—	—	極粗粒砂多、粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ後ナデ ハケメ後ミガキ	外面籠目
	969	壺	4区	SD021	—	—	8.2	粗粒砂少、海綿骨針、赤色粒	良	褐灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ミガキ	外面籠目　頸部径10.3cm
	970	鉢	4区	SD021	19.3	—	—	中粒砂多、海綿骨針微	並	灰黄 灰黄	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	
	971	鉢	4区	SD021	15.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 灰白	ハケメ、ナデ(一部ミガキか) ハケメ、ナデ	口縁部辺に穿孔1(2個1対か)　内面一部に黒斑
図面一五三	972	甕	4区	SD023	30.5	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい橙～浅黄橙 にぶい黄橙～黄灰	口縁部ハケメ、ナデ、胴部ハケメ、指圧痕 口縁部ハケメ、指圧痕、ナデ、胴部ハケメ	内面に細いハケメと荒いハケメ混在
	973	甕	4区	SD023	16.0	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂多	良	にぶい黄橙～にぶい黄橙 にぶい黄橙～にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、工具によるナデか ハケメ後ナデ	外面部分的に煤付着
	974	甕	4区	SD023	21.7	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙、灰黄褐 にぶい橙、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁外刻み目　外面煤付着
	975	甕	4区	SD023	15.7	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　外面全体に煤付着
	976	甕	4区	SD023	19.0	—	—	粗粒砂少	良	灰白、褐灰 褐灰、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	977	甕	4区	SD023	20.2	—	—	中粒砂多	並	灰白 灰白	ハケメ後ナデ ハケメ、指圧痕	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	978	甕	4区	SD023	22.4	—	—	極粗粒砂少、粗粒砂多	並	灰白、浅黄橙 浅黄橙、黒	ナデか ハケメ後ナデ、口縁ナデ	口縁内三角刺突文、外連続刻み目　内面摩滅　外面全体煤付着
	979	甕	4区	SD023	25.0	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙 浅黄橙、黒褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目　外煤付着
	980	甕	4区	SD023	20.2	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙、灰白 にぶい橙、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁部小波状　外面煤付着
	981	底部	4区	SD023	—	—	6.3	細礫少、極粗粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針多	良	灰黄 にぶい橙、黒褐	ナデ ハケメ後ナデ	
	982	底部	4区	SD023	—	—	5.3	極粗粒砂多、粗粒砂多	並	灰白～灰 灰黄、浅黄橙、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	外面煤付着
図面一五四	983	壺	4区	SD023	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 褐灰	ハケメ ハケメ	外面籠目
	984	壺	4区	SD023	—	—	—	極粗粒砂やや多、細礫少、赤色粒	良	灰白 灰白～淡橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	頸部径13.7cm　外黒斑あり
	985	壺	4区	SD023	—	—	6.2	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい赤橙 淡赤橙～浅黄橙	ハケメ、ナデ、ナデアゲ —	外底面一部に黒斑　全体に摩滅
	986	底部	4区	SD023	—	—	6.4	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底面ナデ	外面煤付着
	987	底部	4区	SD023	—	—	6.0	極粗粒砂少、粗粒砂少	良	浅黄橙～橙 浅黄橙～黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、底面ナデ	外面一部黒斑

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一五五	988	底部	4区	SU	—	—	5.4	中粒砂多	良	灰白 褐灰	ナデ ミガキ、底面ミガキか	外底面剥離
	989	壺	4区	SU	19.8	—	—	粗粒砂多	並	灰黄 橙	ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ	口縁外斜格子文
	990	甕	4区	SU	12.6	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂微	良	にぶい黄橙 黒褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	外面煤付着
	991	甕	4区	SU	—	—	2.2	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ナデ 工具によるナデ、底面ナデ	外面煤付着
	992	底部	4区	SU	—	—	5.3	粗粒砂多	良	灰白 浅黄橙	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ、ケズリ	内面黒斑　外面煤付着
	993	壺	4区	SU	—	—	—	粗粒砂少	良	灰白 赤橙	ナデ ミガキ	口縁外擬凹線7条　有段部連続刻み目　外面赤彩 内面剥離
	994	甕	4区	SU	20.8	—	—	中粒砂多	良	灰黄 浅黄橙、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕、口唇部ハケメ	外面煤付着
	995	壺	4区	SU	19.0	—	—	粗粒砂多	並	灰白 浅黄橙	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁部小波状
	996	甕	4区	SU	24.4	—	—	粗粒砂少	並	浅黄橙 灰黄褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	997	甕	4区	SU	16.6	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ	
	998	甕	4区	SU	16.8	—	—	中粒砂多	良	にぶい黄橙、灰黄褐 にぶい黄橙、黒褐	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁外刻み目　外面煤付着
	999	甕	4区	SU	13.3	—	—	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい橙 にぶい黄橙、黒褐	口縁ヨコナデ、頸部ハケメ後ナデ ヨコナデ、頸部下半ハケメ	外面煤付着
	1000	甕	4区	SU	19.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	明褐灰 灰褐	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	外面煤付着
	1001	甕	4区	SU	21.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ	口縁部小波状　口縁部外端に刻み目残存3個　外面煤付着
	1002	甕	4区	SU	28.0	—	—	1mm～2mmの粗粒砂多	良	灰白 浅黄橙	ハケメ、ナデ、ヨコナデ ハケメ、ナデ、ヨコナデ	口縁部小波状
	1003	甕	4区	SU	15.5	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	良	浅黄橙 にぶい黄橙、褐灰	口縁ヨコナデ、下半ハケメ ヨコナデ	外面煤付着
	1004	壺	4区	SU	17.8	—	—	精良、1/2mmの中粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙～浅黄橙	ハケメ後ヨコナデ、ナデ、指圧痕 口縁部ナデ、頸部ハケメ	口縁外円形刺突文
	1005	鉢	4区	SU	21.0	—	—	極粗粒砂少、中粒砂多(白色粒多)、赤色粒	並	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	穿孔(2個1対)
	1006	甕	4区	SU	18.5	—	—	0.5mm～1.5mmの粗粒砂多	良	褐灰 褐灰	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ヨコナデ	口縁端部に擬凹線風の沈線1条　内外面に煤
	1007	甕	4区	SU	15.4	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい褐	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁部小波状
	1008	甕	4区	SU	17.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内羽状刺突文
	1009	甕	4区	SU	17.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　胴部外直線文、斜行短線文　外面煤付着
	1010	鉢	4区	SU	13.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	頸部に2個1対の孔あり　内面摩滅著し
図面一五六	1011	甕	4区	SU	15.0	—	—	中粒砂やや多	良	にぶい黄橙 明黄橙	ヨコナデ、指圧痕 ヨコナデ、指圧痕、頸部ハケメ	
	1012	器台	4区	SU	—	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂やや多、海綿骨針少	並	浅黄橙、橙 浅黄橙	— ミガキ	内面摩滅により調整不明瞭　外面摩滅
	1013	蓋	4区	SU	—	—	—	細粒砂多、海綿骨針やや多、赤色粒(1mm)少	並	にぶい橙 浅黄橙、褐灰	ミガキ ナデ、ミガキ	ツマミ径2.3cm　内面摩滅
	1014	甕	4区	SU	19.5	—	—	0.5mm～2mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口唇部ハケ状具によるヨコナデ
	1015	甕	4区	SU	15.6	—	—	1mmの粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい橙	口縁部ハケメ後ナデ、胴部ナデ 口頸部ヨコナデ、胴部ハケメ、指圧痕	外内面煤付着
	1016	壺	4区	SU	9.7	—	—	中粒砂少、粗粒砂少、海綿骨針少	良	浅黄橙 浅黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ナデ、指圧痕 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一五六	1017	甕	4区	SU	16.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁端部、ハケ状具による刻み目文　外面煤付着
	1018	甕	4区	SU	19.0	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ後ナデ	
	1019	甕	4区	SU	17.5	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁内斜行短線文4行、外刻み目
	1020	鉢・把手	4区	SU	—	—	—	中粒砂多、粗粒砂多	並	黄灰 橙、浅黄橙	指圧痕 ミガキか	把手貼付、穿孔2個　内面摩滅により不明　外面摩耗？
	1021	底部	4区	SU	—	—	6.8	粗粒砂少、中粒砂多、極粗粒砂微、海綿骨針極多、赤色粒微	良	黒 にぶい黄橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、指圧痕	内面炭化物付着
	1022	甕	4区	SU	18.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁外端刻み目　外面強く煤付着
	1023	壺	4区	SU	22.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針	良	にぶい橙～橙 にぶい橙	ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ナデ	口縁下部を彫去し連続の小突起状となる
	1024	甕	4区	SU	22.9	—	—	粗粒砂少	良	灰黄褐、浅黄橙 灰黄褐、黒	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁内斜行短線文4条、外連続刻み目
	1025	甕	4区	SU	19.6	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、雲母微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ハケメ、指圧痕 ハケメ	頸部外側描直線文　外面全体煤付着
	1026	壺	4区	SU	10.8	—	—	粗粒砂少	並	浅黄橙、にぶい橙 浅黄橙	口縁ミガキ後ナデ ミガキ後ナデ	頸部外沈線文2条
	1027	甕	4区	SU	15.5	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、一部ハケメ痕か ヨコナデ	
	1028	底部	4区	SU	—	—	9.5	極粗粒砂多、赤色粒少	良	にぶい橙 浅黄橙	ケズリ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕、底面ナデ	外底面に黒斑
	1029	甕	4区	SU	18.7	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙 灰白	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
図面一五七	1030	蓋	4区	SU	—	—	—	粗粒砂多	良	赤 赤	ミガキ ツマミ部～体部ミガキ。	ツマミ径23cm　内外面赤彩　内面一部にうすく煤状のもの付着
	1031	高杯	4区	SU	—	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 赤橙	杯部ミガキ、脚部ハケメ、ナデ ミガキ	杯部内面・脚部外面赤彩
	1032	甕	4区	SU	15.6	—	—	粗粒砂多	並	にぶい橙 浅黄橙～にぶい橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁内連続刺突文
	1033	甕	4区	SU	23.7	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	並	灰黄 浅黄橙～にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、ハケメ、指圧痕	
	1034	甕	4区	SU	19.9	—	—	中粒砂少	良	灰白 灰白	ハケメ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目
	1035	壺	4区	SU	23.5	—	—	中粒砂(白色粒)多	良	にぶい橙、灰白 にぶい橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、指圧痕	口縁外連続刻み目
	1036	甕	4区	SU	17.3	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ、ナデ	内接合痕残る
	1037	高杯	4区	SU	—	—	—	粗粒砂多	良	明赤褐、にぶい褐 明赤褐	杯部ミガキ、脚部絞り、ナデ 杯部ミガキ、脚部ミガキ	杯部内外面・脚部外面赤彩
	1038	甕	4区	SU	19.3	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、指圧痕	
	1039	甕	4区	SU	16.0	—	—	粗粒砂、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 黒褐～褐灰	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、ハケメ	口縁端部1条の沈線　頸部外面全体剥離
	1040	甕	4区	SU	14.0	—	—	極粗粒砂多	並	浅黄橙、褐灰 浅黄橙、黒褐	ナデ、指圧痕、口唇部ハケメ ハケメ後ナデ、指圧痕、接合痕残3	外面煤付着
	1041	甕	4区	SU	—	—	—	粗粒砂(白色粒)多	良	浅黄橙、褐灰 にぶい黄橙、黒褐	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ	口縁部小波状　外面煤付着
	1042	底部	4区	SU	—	—	6.4	粗粒砂少、中粒砂(白色粒)多	良	黄灰～灰 灰黄、灰	ナデ、指圧痕 ハケメ	
	1043	甕	4区	SU	14.6	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 にぶい橙	ハケメ後ヨコナデ ハケメ後ヨコナデ	
	1044	甕	4区	SU	16.9	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙～橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	口縁部小波状　口縁端部上面をハケ状具による押圧刻み目、ごく浅い小波状となる
	1045	甕	4区	SU	—	—	5.0	極粗粒砂多、海綿骨針微	良	褐灰 にぶい褐、黒褐	ナデ ハケメ、底部指圧痕	底部外面黒斑

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一五七	1046	底部	4区	SU	—	—	6.1	粗粒砂多、海綿骨針多	良	黄灰 灰黄褐	ケズリ後ナデ ケズリ、ナデ、底面ケズリ、ナデ	外面全体剥離面にも煤付着
	1047	甕	4区	SU	17.5	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	口縁部ハケメ、ヨコナデ 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ後ヨコナデ	
図面一五八	1048	高杯	4区	SU	9.8	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ミガキ、ナデ ミガキ	
	1049	甕	4区	SU	17.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ	口縁内連続刺突文、外刻み目
	1050	底部	4区	SU	—	—	3.4	極粗粒砂多	良	黄灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ケズリ。底面ナデ	外面に煤付着
	1051	甕	4区	SU	19.6	—	—	1/2mm前後の中粒砂多	良	橙 にぶい橙	ナデ ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目
	1052	甕	4区	SU	34.4	—	—	粗粒砂多	良	明黄褐 にぶい黄橙	ヨコナデ、胴部ケズリ ヨコナデ、	口縁外擬凹線明瞭なもの9条　内面摩滅　煤付着
	1053	甕	4区	SU	19.4	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ	口縁外連続刻み目
	1054	甕	4区	SU	14.6	—	—	極粗粒砂多	良	浅黄橙 にぶい橙～橙	ヨコナデ、頸部ナデ ヨコナデ	
	1055	甕	4区	SU	20.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁部小波状　口縁部上面板状工具による押圧 口縁部外面に煤付着
	1056	甕	4区	SU	11.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部～頸部ミガキ、胴部ナデ 口縁部ヨコナデ、胴部ミガキ	
	1057	甕	4区	SU	16.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ ハケメ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　内外面摩滅
	1058	台付鉢	4区	SU	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ後ヨコナデ ハケメ後ヨコナデ、一部ミガキ	内面一部黒変
	1059	脚部	4区	SU	—	—	9.8	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ミガキ、一部ハケメ痕か	
	1060	底部	4区	SU	—	—	5.0	極粗粒砂多	良	暗灰 明褐灰	ケズリ後ナデ ハケメ、ナデ、底面ケズリ	外底面うすい黒変
	1061	脚部	4区	SU	—	—	11.4	粗粒砂少、細礫(3mm)1個	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、端部ヨコナデ ハケメ後ミガキ、端部ヨコナデ	
	1062	蓋	4区	SU	—	—	—	粗粒砂少	良	灰褐 灰黄褐	ミガキ、ナデ ツマミ部～体部ミガキ	ツマミ部径3.1cm
	1063	甕	4区	SU	19.0	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、7mm×9mmの大礫1個、2mm～3mmの細礫多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	口縁部ナデ、胴部ケズリ、ナデ 口頸部ヨコナデ、ナデ、胴部ハケメ	外面全体に強く煤付着
図面一五九	1064	甕	4区	P	18.2	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒褐	ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁部小波状　外面煤付着
	1065	甕	4区	P	15.2	—	—	2mm～2.5mmの細礫多	良	にぶい黄橙～黄灰 浅黄橙	— —	口縁内羽状刺突文、竹管による円形刺突文、外刻み目　内外面とも摩滅著しく調整不明瞭
	1066	甕	4区	P	15.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　内面摩滅
	1067	壺	4区	P	25.3	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	並	灰黄 灰白	ナデ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	1068	無頸壺	4区	P	9.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	赤橙 淡赤橙～褐灰	ハケメ、ヨコナデ、ナデ ミガキかナデ	口縁外刻み目、沈線(凹線)はハケ状具によるもの　口縁部に丸い小突起　外面全体に摩滅。
	1069	壺	4区	P	—	—	—	1/2mm前後の中粒砂多、1mmの粗粒砂少	良	灰黄 黄灰	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	頸部沈線1条、頸部最小径8.6cm
	1070	壺	4区	P	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、ヨコナデ	頸部突帯に斜格子文　頸部最小径10.1cm
	1071	底部	4区	P	—	—	10.6	粗粒砂微、中粒砂少	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ	外面部分的に煤付着　底部木葉痕
	1072	器台	4区	P	14.7	—	—	海綿骨針やや多、赤色粒、粗粒砂微	良	灰白 灰白	ヨコナデ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	
	1073	器台	4区	P	—	—	10.0	極粗粒砂多	良	明褐 明褐	ミガキ、ナデ、ヨコナデ ミガキ	
	1074	壺	4区	P	21.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	口縁部ヨコナデか、頸部ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一五九	1075	甕	4区	P	26.7	—	—	粗粒砂多、海綿骨針微	良	灰黄 灰白～橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	
	1076	器台	4区	P	19.3	—	—	極粗粒砂多	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ、口縁ヨコナデ ミガキ、口縁ナデ	内外面赤彩
	1077	甕	4区	P	19.8	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面全体に煤付着
	1078	甕	4区	P	18.0	—	—	粗粒砂多	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ —	口縁外連続刻み目　摩滅により調整不明瞭
	1079	甕	4区	P	16.0	—	—	粗粒砂少	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、指圧痕	口縁内羽状刺突文　外連続刻み目
	1080	高杯	4区	P	17.1	—	—	極粗粒砂多、細礫少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁端部ヨコナデ、ミガキ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	粘土積み上げ部分で割れる
図面一六〇	1081	甕	4区	遺構外	11.8	—	—	細粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ナデ、ミガキか	
	1082	甕	4区	遺構外	15.6	—	—	極粗粒砂少、中粒砂多	良	浅黄 浅黄	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	
	1083	甕	4区	遺構外	14.6	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	灰黄褐 灰黄褐	口縁部ハケメ、頸部ハケメ、ナデ 口縁部ナデ、頸部ナデ、胴部ハケメ	口縁部に連続の圧痕文(押圧文) 外面全体に薄く煤かヨゴレ
	1084	甕	4区	遺構外	14.6	—	—	極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	
	1085	甕	4区	遺構外	15.8	—	—	2mm～3mmの細礫多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ、ヨコナデ、ナデ 口縁部ハケメ、ヨコナデ、胴部タタキ	外面全体に煤付着
	1086	甕	4区	遺構外	17.6	—	—	極粗粒砂やや多、海綿骨針微	良	灰白、橙 浅黄橙	ナデ、ヨコナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ後ナデ	外面部分的に煤付着
	1087	甕	4区	遺構外 (南側調査区)	13.8	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい褐 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ、ナデ 口頸部ヨコナデ、胴部ハケメ、ヨコナデ	外面全体にうすく煤付着
	1088	甕	4区	遺構外	15.1	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ、ナデ	外面全体うすくヨゴレ
	1089	甕	4区	遺構外	14.9	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ 口縁部ヨコナデ、ハケメ、ナデ	外面全体に煤付着
	1090	甕	4区	遺構外	14.8	—	—	海綿骨針微、極粗粒砂少、粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、接合痕 ハケメ後ナデ、指圧痕	
	1091	甕	4区	遺構外	14.8	—	—	粗粒砂多	良	黄灰 灰白、褐灰	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	
	1092	甕	4区	遺構外	14.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、1.5mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ 口頸部ヨコナデ、頸部ハケメ、ヨコナデ	内外面うすく煤付着
	1093	甕	4区	遺構外	14.0	—	—	中粒砂少、粗粒砂少、極粗粒砂微、海綿骨針	良	黄灰 灰黄褐	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	外面口縁部付近に接着痕　煤付着
	1094	甕	4区	遺構外	16.7	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、2mm～3mmの細礫少、赤色粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸胴部ハケメ、ナデ 口頸部ヨコナデ、指圧痕、胴部ハケメ	口縁部外面煤付着
	1095	甕	4区	遺構外	13.1	—	—	粗粒砂少	良	灰白 にぶい黄橙、黒	ハケメ後ナデ、ナデ 口縁ハケメ後ナデ、胴部ハケメ後ナデ	外面煤付着
	1096	甕	4区	遺構外	19.0	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少、細礫微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	煤付着
図面一六一	1097	甕	4区	遺構外　Ⅱ層	18.0	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい褐 にぶい黄褐	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	
	1098	甕	4区	遺構外　Ⅰ層	21.7	—	—	粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙、褐灰 にぶい黄橙、橙	ハケメ、ハケメ後ナデ ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁穿孔1個　内面黑斑
	1099	甕	4区	遺構外 (南ベルト　N4ライン)	18.1	—	—	極粗粒砂やや多、細礫やや多、海綿骨針	良	橙 橙	ハケメ、ナデ、接着痕 ハケメ、ナデ	外面煤付着
	1100	甕	4区	遺構外	15.6	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁外端刻み目 外面全体に煤強く付着
	1101	甕	4区	遺構外 (北側調査区中央)	17.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ、ナデ、頸部ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁外刻み目
	1102	甕	4区	遺構外	26.8	—	—	粗粒砂多、海綿骨針、赤色粒	並	灰白～橙 橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状
	1103	甕	4区	遺構外	17.4	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂少、細礫微	良	橙 橙、黑褐	ハケメ、ナデ、接着痕 ハケメ、ナデ	煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一六一	1104	甕	4区	遺構外 Ⅱ層	17.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ	外面全体にうすく煤・ヨゴレ付着　全体摩滅
	1105	甕	4区	遺構外 (南側調査区)	21.7	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂多、赤色粒多	良	橙 橙	胴部ケズリ、ナデか 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ	内外面摩滅
	1106	甕	4区	遺構外	18.6	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ、指圧痕	口縁外端刻み目　外面全体に強く煤付着
	1107	甕	4区	遺構外	21.4	—	—	中粒砂多、粗粒砂少、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁外連続刻み目　煤付着
	1108	甕	4区	遺構外	17.5	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙～にぶい橙 浅黄橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁外端刻み目　外面全体に煤付着　内外面全体に摩滅
	1109	甕	4区	遺構外	21.5	—	—	極粗粒砂少、細礫少	良	灰白 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部小波状　外面煤付着
図面一六二	1110	甕	4区	遺構外 (調査区南側)	25.5	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙～橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ、頸部ミガキ 口頸部ハケメ、ヨコナデ	外面全体に強く煤付着
	1111	甕	4区	遺構外	31.6	—	—	極粗粒砂多、細礫やや多、海綿骨針	良	褐灰～にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
	1112	甕	4区	遺構外	22.4	—	—	1mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁部焼成後の穿孔1　外面全体に強く煤付着
	1113	甕	4区	遺構外	20.5	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい橙、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁外刻み目　外面煤付着
	1114	甕	4区	遺構外	22.5	—	—	極粗粒砂多、粗粒砂多、海綿骨針	良	浅黄橙～褐灰 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁外刻み目　外面煤付着
	1115	甕	4区	遺構外	20.0	—		粗粒砂少、海綿骨針少	良	灰黄 浅黄橙、褐灰	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ後ナデ、ハケメ	口縁外刻み目　外面薄く煤付着
	1116	甕	4区	遺構外	18.0	22.9	6.2	粗粒砂やや多、海綿骨針少	良	橙、黒 橙、黒	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ、ハケメ後ナデ	口縁部小波状
図面一六三	1117	甕	4区	遺構外	13.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	褐灰 にぶい褐	ハケメ ハケメ	口縁内円形刺突文、外刻み目
	1118	甕	4区	遺構外	15.9	—	—	極粗粒砂少、中粒砂多、海綿骨針	良	褐灰 褐灰	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁羽状刺突文、外連続刻み目
	1119	甕	4区	遺構外	17.3	—	—	極粗粒砂少、海綿骨針	並	にぶい黄橙 淡橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜格子文、斜行櫛描文、外連続刻み目　外面煤付着
	1120	甕	4区	遺構外	19.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内三角刺突文、羽状刺突文、円形浮文3個、外刻み目　外面煤付着
	1121	甕	4区	遺構外	23.0	—	—	粗粒砂多	良	灰黄褐、褐灰 灰黄褐	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁部小波状　口縁内羽状刺突文
	1122	甕	4区	遺構外	17.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、指圧痕	口縁内にハケ状具による押引きの押圧文　内外面に煤・ヨゴレ付着
	1123	甕	4区	遺構外	16.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ 口縁～頸部ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、垂線　外面煤付着
	1124	甕	4区	遺構外	19.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口唇部ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁内ハケ状具による刺突文
	1125	甕	4区	遺構外 (調査区北側)	16.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、円形刺突文、外刻み目
	1126	底部	4区	遺構外	—	—	5.3	中粒砂多(白色粒多)、細礫微	良	灰 にぶい黄橙	ナデ ハケメ	底部穿孔
	1127	底部	4区	遺構外	—	—	7.0	極粗粒砂少、粗粒砂多	良	灰白 浅黄橙	ハケメ後ナデ、ミガキか ハケメ後ナデ、ミガキ	内面底部一部黒斑　外面一部煤付着
	1128	底部	4区	遺構外	—	—	5.0	海綿骨針少、極粗粒砂少、粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ後ナデ ハケメ	外面一部黒斑・煤付着、内面底部一部黒斑
	1129	底部	4区	遺構外	—	—	5.2	1mm～2mmの極粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい黄橙 橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、指圧痕、底部ケズリ	外底面中央に小円形の凹みを作る　内外に黒斑
	1130	底部	4区	遺構外	—	—	6.3	極粗粒砂やや多、細礫少、海綿骨針、赤色粒	良	浅黄橙～灰黄褐 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	1131	底部	4区	遺構外	—	—	7.2	極粗粒砂やや多、中粒砂多、細礫少、赤色粒	良	灰白～灰 浅黄橙	板ナデ、他、不明 ハケメ、ナデ	外面煤付着
	1132	底部	4区	遺構外	—	—	6.6	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1.5mm前後の極粗粒砂少、海綿骨針多	良	灰黄 灰黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、外底面ナデ	外面全体に煤付着、内面全体に黒斑ヨゴレあり

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一六四	1133	鉢	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙～褐灰	ケズリ、指圧痕 口縁部ケズリ、ナデ	
	1134	壺	4区	遺構外 (調査区北側畦畔)	16.1	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	口縁部ヨコナデ、ハケメ、頸部ハケメ 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ	受口状口縁
	1135	壺	4区	遺構外	14.7	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙、黄灰 浅黄橙	ナデ ナデ、指圧痕	
	1136	壺	4区	遺構外	18.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、海綿骨針微	良	橙 橙	ハケメ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	
	1137	壺	4区	遺構外	27.6	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、指圧痕	内面摩滅
	1138	壺	4区	遺構外	19.1	—	—	極粗粒砂やや多、細礫多、海綿骨針	並	浅黄橙～橙 浅黄橙～橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁端部連続刻み目
	1139	壺	4区	遺構外	19.8	—	—	中粒砂少、粗粒砂少	良	にぶい橙、褐灰 にぶい黄橙	ハケメ後ナデか ハケメ後ナデ	口縁内円形浮文(4個)、羽状刺突文、外刻み目
	1140	壺	4区	遺構外	19.3	—	—	1.5mm～3mmの極粗粒砂、細礫多	良	灰黄褐～褐灰 灰黄褐	口縁部ナデ、頸部ハケメ、指圧痕 ハケメ、指圧痕	口縁内三角刺突文、外刻み目
	1141	壺	4区	遺構外	22.5	—	—	中粒砂多、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ ハケメ、ハケメ後ヨコナデ	口縁内羽状刺突文、円形浮文、外刻み目　内面部分的に黑斑
	1142	壺	4区	遺構外	15.2	—	—	中粒砂少、海綿骨針	良	浅黄橙 にぶい黄橙	ナデ、接着痕 ハケメ、ナデ、接着痕	口縁内羽状刺突文
	1143	壺	4区	遺構外	20.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少	良	にぶい黄橙 橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ヨコナデ、ナデ	口縁内羽状刺突文、格子目内に円形刺突文、外連続刻み目
	1144	壺	4区	遺構外 (2区北側調査区)	20.7	—	—	極粗粒砂多、海綿骨針	良	にぶい橙 灰褐	ナデ ハケメ、ナデ	口縁内斜行短線文、外下端部小波状、押圧
	1145	壺	4区	遺構外	24.4	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ、ハケメ後ミガキ	口縁内羽状刺突文　補修孔2ケ所
図面一六五	1146	壺	4区	遺構外	25.5	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文、円形浮文4個1対、外刻み目
	1147	壺	4区	遺構外	13.8	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい橙～褐灰 にぶい褐、褐灰	ハケメ、ナデ ナデ、ハケメ	口縁外羽状刺突文　内面剥離・摩滅著しい
	1148	壺	4区	遺構外 (調査区北側畦畔)	14.6	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 浅黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁外斜格子文　外面全体摩滅
	1149	壺	4区	遺構外	15.2	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ ナデ	口縁外円形刺突文　口縁部肥厚　内外面とも摩滅
	1150	壺	4区	遺構外	18.6	—	—	粗粒砂やや多	良	灰白、灰白 橙、浅黄橙	ナデ ハケメ	口縁外円形刺突文
	1151	壺	4区	遺構外	15.5	—	—	極粗粒砂多	良	浅黄橙 橙～浅黄橙	ハケメ、ナデ —	口縁部隆帯貼布　外面赤彩　その他調整は摩滅により不明
	1152	無頭壺	4区	遺構外	10.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ケズリ、ハケメ ミガキ	口縁部2個1対の穿孔　外全体に薄くヨゴレか
	1153	無頭壺	4区	遺構外 (北側調査区)	11.3	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙 灰白	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
	1154	無頭壺	4区	遺構外	11.7	—	—	極粗粒砂やや多、海綿骨針	良	灰黄褐 褐灰	ナデ ハケメ、ナデ	穿孔2個1対残
	1155	無頭壺	4区	遺構外	13.3	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい赤橙 にぶい赤橙	ハケメ、ナデ ハケメ後ナデか	口縁外羽状刺突文　口縁部に2個1対の穿孔(焼成前)　外面全体に摩滅
	1156	鉢	4区	遺構外	17.9	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、海綿骨針微	良	灰褐黄 灰褐黄	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁外斜格子文
	1157	壺	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、指圧痕 ハケメ、ナデ	頸部斜格子文　内面うすい黑斑
	1158	壺	4区	遺構外	—	—	—	1mm～1.5mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	頸部貼付突帯に斜格子文、頸部最小径12.6cm
	1159	壺	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ナデ	頸部穿孔2個　4条の擬凹線のうち上2条の間と最下段の1条の下に連続刺突文　頸部最小径12.0cm
	1160	壺	4区	遺構外	—	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂多	良	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ヨコナデ、ナデ	頸部貼付突帯に斜格子文　頸部最小径11.0cm
	1161	壺	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、4mmの細礫1個、赤色粒多	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ヨコナデ、ナデ	頸部沈線4条間に斜格子文

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一六五	1162	壺	4区	遺構外	—	—	—	1mm～2mmの極粗粒砂少、海綿骨針微	良	灰白 灰白	ハケメ、ヨコナデ、頸部ハケメ、指圧痕 ハケメ、ナデ	口縁外に刻み目　頸部に貼付突帯か　剥離欠損 縁部欠損
図面一六六	1163	壺	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、海綿骨針微、赤色粒少	良	暗灰黄 橙	ハケメ(横方向) ハケメ後ナデ	横位の沈線1条、縦直線文の間に波状文
	1164	壺	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多、1mm～2mmの極粗粒砂少	良	明赤褐 にぶい橙～灰黄褐	ハケメ後ナデ ナデ	太い櫛状具による波状文と横直線文
	1165	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい橙 にぶい橙、黒褐	ハケメ後ナデ、指圧痕 ハケメ	外面煤付着
	1166	底部	4区	遺構外	—	—	4.9	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針多	良	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ミガキ、底面ナデ、中央凹	内面全体黒斑、外面一部黒斑
	1167	底部	4区	遺構外 (調査区北側)	—	—	4.8	0.5mm～1mmの粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ナデ、底面ハケメ、ナデ	外面摩滅　外底面凹
	1168	底部	4区	遺構外	—	—	10.0	0.5mm～1mmの粗粒砂少、1mm～2mmの極粗粒砂少、海綿骨針少	良	灰白 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、底面ハケメ、ナデ	内面全体摩滅剥離　外底面～底部辺に黒斑
	1169	底部	4区	遺構外	—	—	9.0	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい橙～灰黄褐	ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、底面ナデ	内面一部黒斑
	1170	壺	4区	遺構外	—	—	6.4	0.5mm～1mmの粗粒砂多、海綿骨針微	良	褐灰 にぶい黄橙	ハケメ、ミガキ ハケメ、ミガキ、底面ケズリ、ナデ	外底部辺一部に黒斑
	1171	高杯	4区	遺構外	—	—	15.3	中粒砂(白色粒)多、粗粒砂少	並	浅黄橙、黒 浅黄橙	ナデ、ハケメ後ナデ、ミガキ ハケメ後ミガキか	脚部竹管文2列1対6箇所、沈線3条、裾部外刻み目　内面黒斑　外面摩滅により調整不明瞭
	1172	鉢	4区	遺構外	11.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、指圧痕	口縁外連続刺突文　口縁部穿孔1ヶ所残存(焼成前1/2個1対か
	1173	鉢	4区	遺構外	9.1	—	—	0.5mm～1mmの極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、指圧痕、接合痕残る ハケメ、指圧痕	口縁部穿孔1/2個1対か)　内外面うすい黒斑 外面うすく煤かヨゴレ付着
	1174	台付鉢	4区	遺構外	11.6		5.1	1mm～2mmの極粗粒砂多、2mm～3mmの細礫多	良	にぶい橙～褐灰 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ハケメ ハケメ、ヨコナデ、ナデ、底面ナデ	
	1175	台付鉢	4区	遺構外	—	—	6.3	0.5mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多、海綿骨針微	良	にぶい褐 灰褐	体部ナデ、台部ナデ 体部ハケメ、ナデ、台部ハケメ、ナデ	
	1176	鉢	4区	遺構外	19.0	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂多	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、ナデ 口縁部ナデ、体部ハケメ、ミガキ	口縁外斜格子文　口縁部2個1対の把手貼布(穿孔)
	1177	鉢	4区	遺構外	11.2	7.4	4.1	0.5mm～1.5mmの粗粒砂、極粗粒砂多	良	灰黄褐～灰 にぶい黄橙～ｵﾘｰﾌﾞ黒	ミガキ、ナデ ミガキ、底面ミガキ	外面にヘラ描き文様(直線文と曲線文)、外底面にも文様あり
	1178	ミニチュア壺形土器	4区	遺構外	—	—	—	0.5mm～1mmの粗粒砂少、精良、海綿骨針少	良	灰赤 にぶい橙	ナデ、指圧痕 ハケメ、ミガキ、ナデ	
	1179	ミニチュア壺形土器	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂やや多、極粗粒砂やや多、海綿骨針	並	灰白 灰白	ナデ ナデ、板ナデ	外一部黒斑
	1180	ミニチュア壺形土器	4区	遺構外	—	—	—	極粗粒砂やや多、細礫やや多、赤色粒	並	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	
図面一六七	1181	甕	4区	遺構外	14.8	—	—	粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	口縁ヨコナデ、頸部ナデ、板ナデ ヨコナデ	口縁擬凹線4条
	1182	甕	4区	遺構外	13.8	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	全体にうすく煤付着
	1183	甕	4区	遺構外	14.7	—	—	赤色粒、極粗粒砂少	良	灰白 浅黄橙	ハケメ後ナデ 頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	肩部連続刺突文
	1184	甕	4区	遺構外	18.0	—	—	極粗粒砂多、赤色粒	並	灰黄褐 浅黄橙	ヨコナデ、頸部ナデ、 ヨコナデ、口縁部指圧痕、胴部ハケメ	外面一部煤付着
	1185	壺	4区	遺構外	11.4	—	—	海綿骨針、赤色粒、中粒砂少、極粗粒砂やや多	並	浅黄橙 浅黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	口縁煤付着　内面摩滅
	1186	壺	4区	遺構外	12.3	—	—	粗粒砂やや少、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙、赤 にぶい黄橙、赤	口縁～頸部ハケメ後ナデ、胴部ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ後ミガキ	外面赤彩、口縁部内面赤彩
	1187	壺	4区	遺構外	10.4	—	—	粗粒砂多	良	にぶい褐、にぶい橙 にぶい橙	ハケメ後ミガキ 口縁ヨコナデ、頸部ハケメ後ミガキ	
	1188	底部	4区	遺構外	—	—	4.9	海綿骨針少、極粗粒砂少、細礫やや多	良	灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、底面ナデ	
	1189	底部	4区	遺構外	—	—	10.2	海綿骨針少、極粗粒砂やや多、中粒砂少	良	灰 灰白、暗灰	ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ、底面ナデ	底面丸くナデ
	1190	底部	4区	遺構外	—	—	6.8	海綿骨針少、極粗粒砂多、中粒砂(白色粒)多	並	にぶい橙 灰白	ナデ ハケメ、ナデ、底面ナデ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一六七	1191	器台	4区	遺構外	20.6	—	—	海綿骨針少、極粗粒砂多、細礫微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	体部下半ハケメ、ミガキ ミガキ	
	1192	高杯	4区	遺構外	—	—	—	海綿骨針微、粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1193	高杯	4区	遺構外	—	—	—	海綿骨針微、赤色粒、極粗粒砂やや多	良	浅黄橙 赤	ミガキ ミガキ	外面赤彩
	1194	高杯	4区	遺構外	—	—	—	極粗粒砂多、細礫微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ、口縁付近ハケメ	内外面赤彩
	1195	高杯	4区	遺構外	27.8	—	—	海綿骨針少、粗粒砂微	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ミガキ ミガキ、口縁端部ヨコナデ	
	1196	器台	4区	遺構外	—	—	—	中粒砂やや多、細礫微	良	暗赤褐 暗赤褐～明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1197	器台	4区	遺構外	15.7	—	—	海綿骨針少、赤色粒、粗粒砂少	並	橙 赤橙	ハケメ後ミガキ ミガキ	
	1198	器台	4区	遺構外	—	—	—	海綿骨針微、中粒砂（白色粒）多	良	灰黄橙 灰白～黒	ナデ ミガキ	
	1199	鉢	4区	遺構外	27.6	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、細礫少	並	にぶい橙 橙	ミガキ ミガキ	口縁外縁凹線10条
	1200	鉢	4区	遺構外	18.0	7.7	6.0	粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ナデ、指圧痕	底部穿孔1個
	1201	鉢	4区	遺構外	16.9	—	—	海綿骨針少、赤色粒、極粗粒砂やや多	良	浅黄橙 橙	口縁ナデ、胴部指圧痕、ハケメ 口縁ナデ、胴部ハケメ	穿孔1個　内黒痕あり
	1202	有孔鉢	4区	遺構外	—	—	—	中粒砂（白色粒）やや多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ	底部穿孔径0.6cm
	1203	台付鉢	4区	遺構外	—	—	6.0	海綿骨針	良	明黄褐 浅黄橙	鉢部ナデ、台部ナデ、指圧痕 ハケメ、ミガキ、ナデ、底部指圧痕	
	1204	台付鉢	4区	遺構外	—	—	5.3	粗粒砂多	良	浅黄橙 浅黄橙	杯部ナデ後ミガキ、台部ナデ 胴部ミガキ、底部ハケメ後ナデ	
	1205	台付鉢	4区	遺構外	—	—	7.3	赤色粒、極粗粒砂少	良	浅黄橙 にぶい橙	鉢部ミガキ、台部ナデ 底部ナデ、ミガキ	
図面一六八	1206	鉢	4区	遺構外	12.1	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ハケメ、胴部ナデ 口縁部ハケメ、胴部ハケメ、ナデ	口縁部内面一部に赤彩痕か
	1207	甕	4区	遺構外	14.4	—	—	極粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、頸部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ	
	1208	甕	4区	遺構外	16.5	—	—	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ヨコナデ ヨコナデ	外面全体に煤付着、内面一部に煤付着
	1209	甕	4区	遺構外	18.6	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁～頸部ヨコナデ、胴部ケズリ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁外縁凹線5条　外面全体に煤付着
	1210	甕	4区	遺構外	16.2	—	—	粗粒砂多、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	
	1211	甕	4区	遺構外 （調査区南側）	17.3	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ナデ、胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面全体にうすく煤付着
	1212	甕	4区	遺構外	12.7	—	—	粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ミガキ、ナデ、胴部ナデ ミガキ、ナデ	外面煤付着　摩滅
	1213	甕	4区	遺構外	14.1	—	—	極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、頸部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ	外面に煤付着
	1214	甕	4区	遺構外	17.0	—	—	極粗粒砂少	良	にぶい橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、頸部端ハケメか	外面煤付着
	1215	甕	4区	遺構外	16.3	—	—	極粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、頸～胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面に黒斑
	1216	甕	4区	遺構外	14.7	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂多	良	にぶい褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面全体に強く煤付着
	1217	甕	4区	遺構外	16.5	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁ハケメ後ヨコナデ、胴部ナデ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ	外面全体に煤付着
	1218	甕	4区	遺構外	15.8	—	—	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 口縁～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	外面うすく煤付着
	1219	甕	4区	遺構外	17.5	—	—	極粗粒砂少、細礫少、海綿骨針多	良	橙 にぶい橙	口縁部ナデ、胴部ナデ 胴部ミガキ、ナデ	

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一六八	1220	甕	4区	遺構外	—	—	2.0	極粗粒砂多	良	にぶい赤橙 淡赤橙	ナデ、底部辺ナデ、指圧痕 ハケメ、底面ナデ	外面一部摩滅、煤付着
	1221	壺	4区	遺構外	6.6	7.0	2.2	中粒砂少	良	赤橙～灰白 橙～浅黄橙	口縁部ミガキ、頸部～胴部ナデ 全体ミガキ、底面ミガキ	
	1222	壺	4区	遺構外	—	—	4.6	赤色粒、極粗粒砂やや多、細礫やや多	良	橙 浅黄橙	口縁～頸部ヨコナデ、体部ナデ 口縁部ミガキ、体部ミガキ、ナデ	
	1223	壺	4区	遺構外	—	—	5.5	海綿骨針多、赤色粒	良	橙 橙	口縁～頸部板ナデ、ナデ、体部ナデ ミガキ	丸底
図面一六九	1224	壺	4区	遺構外	—	—	4.1	海綿骨針微、中粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ、ナデ ミガキ、底部ミガキ	
	1225	壺	4区	遺構外	—	—	2.0	海綿骨針少、極粗粒砂少、中粒砂少、細礫微	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ ミガキ、底部ミガキ	
	1226	壺	4区	遺構外	—	—	2.8	精良、粗粒砂少、海綿骨針微	良	浅黄橙 赤	板状具によるナデ ミガキ、底面ミガキ	外面～底面に赤彩
	1227	底部	4区	遺構外	—	—	6.9	粗粒砂多	並	灰白、黄灰 灰白、黄灰	ハケメ ハケメ後ナデか	内外面黒斑　外面摩滅
	1228	壺	4区	遺構外	—	—	6.4	極粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 明赤褐	ナデ、底部に工具痕 ミガキ	外面赤彩　黒斑
	1229	壺	4区	遺構外	—	—	4.0	粗粒砂多	良	にぶい橙 橙	ミガキ ミガキ、底面ミガキ	外面赤彩、内面極うすく赤彩痕か　剥離著しい
	1230	壺	4区	遺構外	—	—	4.0	粗粒砂多、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	ミガキ ミガキ、底面ミガキ	底部辺に擬円線11条
	1231	底部	4区	遺構外	—	—	6.5	極粗粒砂多、細礫少	良	灰白 灰白	ナデ ハケメ後ナデ、底面ナデ	底部一部黒斑
	1232	壺	4区	遺構外	—	—	7.4	粗粒砂多	良	明赤褐 橙	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ、底面ケズリ	内外面赤彩　外面底部黒斑
	1233	壺	4区	遺構外	—	—	1.2	粗粒砂多、海綿骨針多	良	褐灰 灰黄褐	ハケメ ミガキ	底部丸底　外面に黒斑
	1234	壺	4区	遺構外	—	—	8.3	海綿骨針少、赤色粒、中粒砂少	良	にぶい橙 橙～にぶい橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ、底面ナデ	内面ハケの角の線状痕あり　外面黒斑あり
	1235	壺	4区	遺構外	—	—	7.0	極粗粒砂多、細礫多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	胴部ナデ、底部辺ミガキ、ナデ ミガキ、底部ミガキ	外面一部黒斑あり
	1236	壺	4区	遺構外	—	—	8.4	海綿骨針少、極粗粒砂少	並	灰黄 浅黄橙	胴部ハケメ後ナデ、底部ナデ 胴部ハケメ後板ナデ、ナデ、底部ナデ	内外面摩滅不明瞭　外面一部・外面底部黒斑
図面一七〇	1237	壺	4区	遺構外	15.2	—	—	極粗粒砂少、細礫少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ハケメ後ナデ 口縁部ナデ	口縁内・端部刻み目
	1238	壺	4区	遺構外	9.3	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ヨコナデ、ミガキ ミガキ、板状具によるナデか	
	1239	壺	4区	遺構外	9.2	—	—	極粗粒砂多	良	橙 浅黄橙	口縁部板ナデ、胴部板ナデ 口縁部板ナデ、頸部ナデ、胴部ハケメ	
	1240	壺	4区	遺構外	10.4	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、肩部ナデ 口縁部ハケメ後ナデ、頸部ハケメ、ナデ	頸部無段
	1241	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ケズリ、ミガキ、ナデ	
	1242	壺	4区	遺構外	12.6	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい褐	口縁～頸部ミガキ 口縁部ヨコナデ、ミガキ	
	1243	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 口縁部ミガキ、体部ヘラミガキ	口縁部と肩部に煤付着
	1244	壺	4区	遺構外	15.4	—	—	粗粒砂少	良	灰褐 灰褐	ヨコナデ、ミガキ、ナデ、ハケメ ミガキ、ハケメ	
	1245	壺	4区	遺構外	17.0	—	—	粗粒砂少、海綿骨針少	良	赤褐～暗赤灰 赤褐～暗赤灰	ミガキ ミガキ	内外面赤彩(赤黒く変色)
	1246	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少	良	にぶい橙～にぶい黄橙 赤	口縁部ミガキ、頸部ハケメ、ナデ 口縁～頸部ミガキ	内面うすく赤彩痕、外面赤彩
	1247	壺	4区	遺構外	16.8	—	—	粗粒砂少	良	赤～にぶい橙 赤	口縁部ミガキ、頸部ナデ 口縁～頸部ミガキ	口縁部内面・外面全体赤彩
	1248	壺	4区	遺構外	19.5	—	—	粗粒砂少	良	赤～にぶい橙 赤	ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	内外面赤彩

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一七〇	1249	壺	4区	遺構外	12.6	—	—	海綿骨針微	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ナデ、頸部ナデ 口縁部ミガキ、ナデ、胴部ミガキ	外面煤付着
	1250	壺	4区	遺構外	13.8	—	—	粗粒砂少、海綿骨針多	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1251	壺	4区	遺構外	15.3	—	—	精良、粗粒砂少、海綿骨針多、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ミガキ、頸部ハケメ、ナデ 口縁部ミガキ、頸部ヨコナデ	
	1252	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多、海綿骨針微	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	外面に擬凹線3条　内外面赤彩　摩滅
	1253	壺	4区	遺構外	21.8	—	—	細礫2個、極粗粒砂やや多、中粒砂少、海綿骨針微	並	浅黄 浅黄	— ハケメ	内外面とも剥離により調整不明瞭
	1254	壺	4区	遺構外	26.7	—	—	極粗粒砂多、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ、一部ハケメ痕か	外反口縁　内面に黒斑か
	1255	壺	4区	遺構外	15.4	—	—	粗粒砂少、極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ 口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、ナデ	
図面一七一	1256	高杯	4区	遺構外	17.6	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	1257	高杯	4区	遺構外	—	—	19.0	粗粒砂多	良	浅黄橙 灰白	ミガキ ミガキ	口縁部下端にヘラ状具による連続刻み目、擬凹線3条
	1258	高杯	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	擬凹線4条
	1259	高杯	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少	良	浅黄橙 浅黄橙	杯部ミガキ、脚部ナデ ミガキ	脚部に円形透孔単位3か、孔径約0.6cm
	1260	高杯	4区	遺構外	—	—	14.9	赤色粒、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 赤	ハケメ、ナデ ミガキ	透孔1個残、単位不明　外面赤彩
	1261	脚部	4区	遺構外	—	—	9.4	粗粒砂少、細礫少	良	赤、にぶい橙 赤	杯部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ ハケメ後ミガキ	杯部内外面・脚部外面赤彩
	1262	脚部	4区	遺構外	—	—	9.2	粗粒砂少、赤色粒	良	灰白 灰白	脚部ハケメ、ナデ、指圧痕 ミガキ	杯部内面摩滅　外面一部摩滅
	1263	高杯	4区	遺構外	—	—		粗粒砂少	並	明赤褐、灰白 明赤褐	ハケメ、板ナデ、ナデ(裾部内) ミガキ	内外面赤彩
	1264	高杯	4区	遺構外 (調査区北西側)	—	—	9.1	精粒、粗粒砂少、赤色粒多	良	浅黄橙 浅黄橙	脚部絞り、ナデ ミガキか(ハケメ痕)	杯部及び脚部底部内面摩滅　外面全体摩滅
	1265	高杯	4区	遺構外	—	—	10.1	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	絞り痕、ナデ ミガキ	外面に黒斑、摩滅
	1266	高杯	4区	遺構外	—	—	10.0	精良、粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、褐灰	脚部絞り痕、裾部ハケメ、ナデ ミガキ	外面全体に黒褐色に変色
	1267	脚部	4区	遺構外	—	—	10.0	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ(ハケメ痕) ミガキ	
	1268	脚部	4区	遺構外	—	—	8.9	粗粒砂多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	脚上部ナデ、裾部ハケメ、ナデ ミガキ	外面に煤付着
	1269	高杯	4区	遺構外	—	—	3.9	粗粒砂多	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	杯部ミガキ、脚部ナデ ミガキ	裾部外面黒く変色、杯部内面黒く変色
	1270	高杯	4区	遺構外	—	—	8.6	粗粒砂多、海綿骨針微	良	赤褐～灰褐 赤褐～灰褐	ナデ、裾部にハケメ、ヨコナデ ミガキ	円形透孔・単位3(約0.5cm)　内面に赤彩、外面に赤彩痕(黒く変色している)
	1271	高杯	4区	遺構外	—	—	8.7	精良、粗粒砂少、海綿骨針少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	杯部ハケメ、ナデ、脚部ハケメ、ナデ ミガキ	杯部との接合面がうすく剥離してハケ痕が見える
	1272	脚部	4区	遺構外	—	—	8.3	粗粒砂少、海綿骨針微	良	灰黄褐 灰黄褐	ナデ、ハケメ痕 ミガキ	
	1273	脚部	4区	遺構外 (調査区南側)	—	—	7.4	精良、粗粒砂少	良	橙 橙	脚部ナデ ミガキ	縦、隅丸の長方形の透し窓あり、単位3か　杯部及び脚部内面摩滅、外面摩滅
	1274	高杯	4区	遺構外	20.4	13.3	10.6	赤色粒、粗粒砂多、細礫少	良	にぶい橙 橙	杯部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ 杯部一部ミガキ、脚部ミガキ	
	1275	高杯	4区	遺構外	17.4	13.0	10.7	粗粒砂少、中粒砂多(白色粒)、細礫微	良	にぶい褐～明赤褐 赤	杯部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ 杯部ミガキ、ナデ、脚部ミガキ	杯部外擬凹線4条　杯部内面赤彩、杯・脚部外面赤彩
	1276	高杯	4区	遺構外	18.5	13.4	10.6	海綿骨針微、極細粒細少、細礫少	並	浅黄橙 明赤褐	杯部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ 杯部ミガキ、脚部ミガキ	外面赤彩
	1277	高杯	4区	遺構外	15.4	10.2	9.4	粗粒砂多、赤色粒多	良	にぶい橙 浅黄橙	杯部ミガキ、脚部ナデ、指圧痕 脚部ミガキ	脚部に円形透孔、単位3、孔径6cm

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面（七）	1278	器台	4区	遺構外	9.6	—	—	極粗粒砂少、細礫少	良	赤 赤	受部ミガキ、脚部ナデ ミガキ	受部内面赤彩、外面全体赤彩
	1279	器台	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂やや多	良	明灰褐 明灰褐	ミガキ、ケズリ、ナデ ミガキ	
	1280	器台	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多	良	淡橙、浅黄橙 淡黄橙～赤橙	— ミガキか	円形透孔２個１対。早位２　外面一部わずかに赤彩痕　内外面とも摩滅により調整不明瞭
	1281	器台	4区	遺構外	—	—	—	細粒砂多、海綿骨針多	良	褐灰 灰褐	受部ミガキ、脚部ナデ ミガキ	穿孔３ヶ所、穿孔径1.0cm
	1282	器台	4区	遺構外	—	—	10.4	粗粒砂やや多、海綿骨針少	並	浅黄橙 浅黄橙	受部ミガキ、基部～脚部上半ケズリ ハケメ後ミガキ、裾部端部ミガキ	
	1283	器台	4区	遺構外	—	—	11.2	粗粒砂少、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	受部ハケメ痕、脚部ナデ、ヨコナデ ミガキ	
	1284	器台	4区	遺構外	13.3	—	—	海綿骨針少、細粒砂やや多	良	暗赤褐 赤褐	脚部ナデ、端部ミガキ ミガキ	内外面赤彩（剥離が著し）　口縁摩滅剥離　調整不明瞭
	1285	器台	4区	遺構外	—	—	—	海綿骨針少、赤色粒、極粗粒砂やや多、細礫やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	受部ナデ、脚部ナデ ミガキ、ナデ	受部内面赤彩
	1286	器台	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多	良	橙 橙	ハケメ後ミガキ ミガキ	擬円線３条　円形透孔１残、孔径約0.8cm　外面赤彩、内面赤彩か
	1287	器台	4区	遺構外	—	—	13.4	海綿骨針多、極粗粒砂多、細礫多	良	にぶい橙 赤	受部ナデ、脚部板ナデ、ミガキ ミガキ	透孔４個　外面赤彩
	1288	器台	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針微	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	段部に刻み目　透し窓の形は不明　内外面赤彩
	1289	器台	4区	遺構外	8.25	7.12	11.9	粗粒砂やや多	良	黒褐 黒褐	ヨコナデ、ケズリ、ハケメ、ナデ ミガキ	
	1290	器台	4区	遺構外	13.4	10.4	11.1	極粗粒砂少、赤色粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	受部ミガキ、脚部ナデ、ハケメ ミガキ	
	1291	鉢	4区	遺構外	17.0	—	—	中粒砂やや多、粗粒砂少、	良	にぶい橙 にぶい橙	ヨコナデ 口縁端部ヨコナデ、ミガキ	
	1292	鉢	4区	遺構外	17.4	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ、指圧痕 ナデ、ハケメ痕	
	1293	鉢	4区	遺構外	9.9	5.6	2.4	粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙～灰黄	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、指圧痕 口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外底面凹
	1294	鉢	4区	遺構外	12.8	—	—	細粒砂少	良	赤褐 赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1295	鉢	4区	遺構外	—	—	1.0	極粗粒砂少、細礫１個	良	にぶい橙 にぶい黄橙	ケズリ、ナデ ミガキ、工具痕	
	1296	脚部	4区	遺構外	—	—	6.6	極粗粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ナデ、一部ミガキか ミガキ	
	1297	鉢	4区	遺構外	21.8	—	—	粗粒砂多、極粗粒砂少、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、ハケメ後ナデ 口縁部ヨコナデ、ハケメ、ナデ	口縁部焼成前の穿孔１
	1298	壺	4区	遺構外	—	—	—	中粒砂少、海綿骨針少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1299	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少、海綿骨針多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	ツマミ部径3.4cm　ツマミ部黒斑　内外面体部に煤付着
	1300	壺	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少、細粒砂やや多	良	橙 にぶい赤褐～黒褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩　外面一部黒く変色
	1301	壺	4区	遺構外 （調査区北側）	—	—	—	粗粒砂多	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	ツマミ部に連続刻み目あり　穿孔１ヶ所残存、孔径0.45cm　内外面赤彩
	1302	壺	4区	遺構外 （調査区北側）	—	—	—	中粒砂少、粗粒砂微	良	明赤褐 明赤褐、黒褐	ミガキ ミガキ	ツマミ部刻み目あり　ツマミ径2.0cm　内面赤彩、外面赤彩（一部黒く変色）
	1303	壺	4区	遺構外	11.4	4.3	—	極粗粒砂多	良	にぶい黄橙 灰白	ミガキ（荒いハケメ調整痕） ミガキ	ツマミ部径2.5cm　内外面口辺部に煤付着
	1304	壺	4区	遺構外	14.7	—	—	粗粒砂少	良	赤 赤	ハケメ後ミガキ	ツマミ部欠損　内外面赤彩（一部黒く変色）
	1305	壺	4区	遺構外	14.4	4.4	—	粗粒砂多、極粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	ミガキ ミガキ	ツマミ径2.8cm　内外面に煤状のもの付着
	1306	壺	4区	遺構外	—	—	13.6	粗粒砂少	良	明褐 赤彩	ケズリ、ミガキ、ヨコナデ ナデ、ミガキ、ヨコナデ	外面赤彩

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一七二	1307	把手	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多	良	黄橙 黄橙	ハケメ ハケメ、ナデ、ケズリ	
	1308	把手	4区	遺構外	—	—	—	細粒砂多	良	灰白 灰白	ナデ ハケメ、ナデ	孔径0.7cm
	1309	把手	4区	遺構外	—	—	—	粗粒砂少、赤色粒	良	にぶい橙 にぶい橙	ミガキ ミガキ、ナデ	口縁部に把手
	1310	器台	4区	遺構外	11.9	—	—	海綿骨針微、赤色粒	良	赤 赤	ミガキ ミガキ	接合部剥離　外面赤彩・口縁部内面赤彩
図面一七八	1455	甕	5区	SK001	15.9	16.4	5.4	海綿骨針、1～2mm砂粒少	良	にぶい橙～黄灰 にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ	外面煤付着
	1456	甕	5区	SK008	20.8	2.7	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 黄褐	ハケメ ナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文、外連続刺突文　外面煤付着
	1457	壺	5区	SK008	—	8.5	—	1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 灰白	ハケメ後ナデ ヨコナデ	外面貼付突帯に斜格子文
	1458	ミニチュア 鉢形土器	5区	P573	—	3.45	3.3	1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 黒褐	ナデ ハケメ状工具ナデ、指圧痕	完形品
	1459	甕	5区	SK009	16.7	12.3	—	2～3mm砂粒少	良	にぶい橙 橙	ハケメ ハケメ	口縁外連続刻み目
	1460	壺	5区	SK010	—	13.5	—	1mm砂粒若干	良	灰白 灰黄	ハケメ ハケメ後ミガキ	外面籠目痕あり　煤付着
	1461	甕	5区	SK011	16.0	6.3	—	1mm砂粒若干	良	淡黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　体部外面煤付着
	1462	甕	5区	SK011	20.0	7.6	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁部小波状
	1463	壺	5区	SK011	12.0	5.0	—	1～2mm砂粒若干	やや良	灰白 灰白	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	
	1464	壺	5区	SK011	9.8	14.9	—	1mm砂粒、石英多	やや良	灰黄 灰黄	ハケメ —	内外面とも摩耗により調整不明瞭
	1465	無頸壺	5区	SK011	14.0	3.9	—	白色粒少	良	浅黄 黒褐	ハケメ ハケメ、ナデ	口縁外羽状刺突文　穿孔1ヶ所残存
	1466	鉢	5区	SK011	8.4	3.35	—	白色粒少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ヨコナデ、指圧痕 ヨコナデ	把手貼付、穴2個あり
	1467	甕	5区	SK011	—	19.6	—	白色粒少	良	にぶい橙、褐灰 橙、黒褐	ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	外面煤付着
図面一七九	1468	壺	5区	SK016	12.3	9.0	—	1～2mm砂粒、海綿骨針多	良	灰黄～にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	内面摩耗著しい
	1469	甕	5区	SK016	19.6	4.4	—	2～5mm砂粒少	やや良	褐灰 橙	ハケメ ハケメ	外面一部ハケメ残る　剥離のため調整不明瞭
	1470	甕	5区	SK016	15.1	18.5	5.8	1～3mm砂粒少	良	灰黄～黄灰 にぶい橙～にぶい黄橙	ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ナデ	外面一部煤付着
	1471	鉢	5区	SK002	10.0	5.4	4.6	海綿骨針、1mm以下砂粒若干	良	黄灰 黄灰	ハケメ ハケメ、ナデ	内面底部付近摩耗により調整不明瞭
	1472	高杯	5区	P574	13.7	4.4	—	海綿骨針、白色粒少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ、口縁部ケズリ？	内外面赤彩　外面煤付着
	1473	甕	5区	SK014	14.5	1.8	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 にぶい黄	ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目
	1474	甕	5区	SK013	14.55	1.3	—	1～2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 黒	ハケメ —	口縁外連続刻み目　煤付着
	1475	甕	5区	SK013	14.45	9.1	—	海綿骨針、白色粒若干	良	褐灰 浅黄橙	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	
	1476	甕	5区	SK013	—	6.7	6.2	海綿骨針多、2～3mm砂粒少	不良	橙、灰黄褐 灰黄褐	ナデ ハケメ	内外面とも摩耗により調整不明瞭
	1477	壺	5区	SK018	21.0	10.1	—	白色粒少	良	浅黄橙 淡黄	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	
	1478	高杯	5区	SK018	—	4.2	11.0	海綿骨針、白色粒若干	良	褐灰 にぶい赤褐～黒褐	ヨコナデ、ハケメ ミガキ	脚部穿孔2ヶ所残存　外面赤彩
	1479	甕	5区	SD003	18.0	—	—	粗粒砂やや多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ	口縁内斜行短線2条　外面煤付着

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一七九	1480	高杯	5区	SD003	18.0	5.5	—	海綿骨針、白色粒若干	良	橙 にぶい橙	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1481	高杯	5区	SD003	21.0	4.0	—	1mm砂粒若干	良	明赤褐 明赤褐～黒	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1482	器台	5区	SD003	—	4.9	—	1mm白色粒少	良	にぶい黄橙 明赤褐	ナデか ミガキ	脚部穿孔２ヶ所残存　外面赤彩　内面摩耗により調整不明瞭
	1483	壺	5区	SD003	—	8.6	—	粗粒砂少	良	灰黄褐 赤褐～黒褐	ナデ、ハケメ，指圧痕 ミガキ	外面赤彩
図面一八〇	1484	甕	5区	SD003	17	23.6	—	海綿骨針、1mm砂粒多	良	にぶい黄橙 褐灰	ヨコナデ、ケズリ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	内面底部付近及び外面煤付着
	1485	甕	5区	SD003 遺構外	18.4	5.9	—	1～2mm砂粒若干	良	灰白 浅黄	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、ヘラ	
	1486	甕	5区	SD003	15.5	22.4	—	2～4mm砂粒多	良	にぶい黄橙～黒褐 にぶい黄橙～黒	ハケメ後ナデ、指圧痕、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	内面底部及び外面煤付着
	1487	甕	5区	SD003	18.4	5.75	—	2～4mm砂粒多	良	淡黄 浅黄橙	ハケメ、ヨコナデ ハケメ、ヨコナデ	外面煤付着
	1488	甕	5区	SD003	16.6	0.4	—	1mm石英、砂粒若干	良	暗灰黄 浅黄	ハケメ、ナデ ヨコナデ	
	1489	甕	5区	SD003	16.6	3.7	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 黒	ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ	内面接合痕あり　外面煤付着
	1490	甕	5区	SD003	—	4.0	3.2	2～3mm砂粒少	良	暗灰黄 黄灰	ハケメ ハケメ、ナデ、ケズリ	
	1491	甕	5区	SD003 SK016	17.9	9.1	—	1mm砂粒少	良	灰白 淡橙	ハケメ後ナデ、ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1492	甕	5区	SD003	29.2	37.0	6.35	2～3mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒褐	胴上部ハケメ後ミガキ 胴下半部ハケメ、ナデ、一部ミガキ	外面煤付着
図面一八一	1493	甕	5区	SU	16.1	3.0	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、指圧痕	
	1494	甕	5区	SU	16.1	4.7	—	1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1495	甕	5区	SU	15.3	3.3	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 にぶい黄橙	ハケメ後ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1496	甕	5区	SU	18.7	3.6	—	1mm砂粒少	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	
	1497	甕	5区	SU	18.8	3.5	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ヨコナデ ヨコナデ	口縁外擬凹線７条
	1498	壺	5区	SU	17.6	6.0	—	白色粒	良	暗灰黄 暗灰黄、にぶい黄橙	ヨコナデ、指圧痕 ヨコナデ	口縁外擬凹線 10 条
	1499	甕	5区	SU	15.8	3.1	—	1～2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ヨコナデ ヨコナデ	口縁外擬凹線６条
	1500	甕	5区	SU	18.8	9.1	—	1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1501	器台	5区	SU	7.5	4.5	—	1mm砂粒多	良	明赤褐～浅黄 明赤褐	ミガキ、ナデ、ハケメ ミガキ	内外面赤彩
	1502	壺	5区	SU	7.8	6.0	—	海綿骨針、白色粒少	良	にぶい黄 橙	ハケメ後ナデ ミガキ	外面赤彩
	1503	甕	5区	遺構外	19.75	3.4	—	2mm砂粒若干	良	灰白 にぶい黄橙	ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内斜行短線３条　口縁外連続刻み文
	1504	甕	5区	遺構外	21.85	1.15	—	2mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目
	1505	甕	5区	遺構外	25.5	7.9	—	1～2mm砂粒少	良	灰白 にぶい黄	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁内羽状文、外連続刻み目　胴部内面摩耗で調整不明瞭
	1506	甕	5区	遺構外	16.5	11.2	—	2～4mm砂粒多	良	浅黄 にぶい黄橙	— ヨコナデ、ハケメ	口縁内刺突文　胴部内面摩耗により調整不明瞭
	1507	甕	5区	遺構外	18.0	1.0	—	白色粒多	良	にぶい黄橙 灰白	ヨコナデ ヨコナデか	口縁内羽状刺突文　外面摩耗により調整不明瞭
	1508	脚部	5区	遺構外	—	2.7	3.4	海綿骨針多	良	淡黄～黒褐 淡黄～黒褐	指圧痕、ナデ 指圧痕、ナデ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一八一	1509	甕	5区	遺構外	20.0	3.5	—	1～3mm砂粒少	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目　外面煤付着
	1510	甕	5区	遺構外	20.0	1.4	—	粗粒砂やや多	良	灰白 にぶい黄橙	ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内羽状刺突文
	1511	甕	5区	遺構外	22.0	13.7	—	2～5mm砂粒多	良	灰白 浅黄	ナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	内面摩耗により調整不明瞭　外面全体的に煤付着
図面一八二	1512	壺	5区	遺構外	21.0	13.7	—	白色粒多	良	浅黄橙 浅黄橙	ハケメ ハケメ	口縁部小波状
	1513	甕	5区	遺構外	17.2	20.1	—	白色粒、1～2mm砂粒少	良	灰黄 灰黄	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	外面摩耗により調整不明瞭
	1514	甕	5区	遺構外	14.6	4.3	—	2mm砂粒少	良	明赤褐 にぶい赤褐	ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ、ハケメ状工具ナデ	
	1515	甕	5区	遺構外	3.0	6.5	—	1～2mm砂粒少	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ナデ、ハケメ	
	1516	壺	5区	遺構外	—	3.1	—	粗粒砂少	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1517	甕	5区	遺構外	16.0	3.9	—	粗粒砂多	良	浅黄 浅黄	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1518	甕	5区	遺構外	17.5	4.8	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	
	1519	甕	5区	遺構外	16.95	5.6	—	2～3mm石英、砂粒若干	良	にぶい黄 にぶい黄橙	ハケメ、ケズリ ハケメ後ヨコナデ、ナデ	体部外面調整不明瞭
	1520	甕	5区	遺構外	23.8	4.0	—	海綿骨針、白色粒少	良	浅黄 にぶい黄橙	ハケメ状工具ヨコナデ、ナデ ハケメ状工具ヨコナデ	
	1521	甕	5区	遺構外	12.2	3.6	—	1mm砂粒若干	良	橙 明赤褐	— ナデか	口縁外擬凹線3条　内外面とも摩耗のため調整不明瞭
	1522	甕	5区	遺構外	13.7	3.7	—	海綿骨針、2mm砂粒少	良	灰黄褐 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ ヨコナデ、ナデ	
	1523	甕	5区	遺構外	15.5	3.3	—	海綿骨針、1～3mm砂粒少	良	黄灰 黄灰	ヨコナデ ヨコナデ	
	1524	甕	5区	遺構外	12.5	3.6	—	粗粒砂やや多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ	内面ハケメ少々残存
	1525	壺	5区	遺構外	12.0	3.9	—	海綿骨針、白色粒若干	良	明赤褐 明赤褐、明黄褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩、外面一部明黄褐色
	1526	壺	5区	遺構外	12.2	3.9	—	海綿骨針、白色粒若干	良	にぶい黄橙 浅黄	ミガキ ミガキ	外面横方向に細かいミガキを施した後斜め方向の幅広いミガキを施す
	1527	無頸壺	5区	遺構外	12.8	4.3	—	白色粒若干	良	橙 にぶい黄橙	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	口縁外羽状刺突文
	1528	甕	5区	遺構外	26.8	10.9	—	1mm砂粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	外面摩耗著しく調整不明瞭
	1529	甕	5区	遺構外	16.1	6.2	—	1mm砂粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ	外面摩耗により調整不明瞭
	1530	壺	5区	遺構外	9.8	4.5	—	海綿骨針、白色粒若干	良	灰黄褐 灰黄褐	指圧痕、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1531	高杯	5区	遺構外	—	5.6	—	海綿骨針、2～3mm砂粒若干	良	灰白 明赤褐	ナデ ミガキ	脚部穿孔1ヶ所残存　外面赤彩
	1532	器台	5区	遺構外	—	6.1	13.6	海綿骨針、白色粒若干	良	褐灰 にぶい赤褐	ハケメ後ヨコナデ、ハケメ ミガキ	脚部直列で2ヶ所穿孔あり　外面赤彩
	1533	器台	5区	遺構外	—	7.0	12.2	粗粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ、ヨコナデ ミガキ	外面赤彩か、若干朱色残存
図面一八四	1583	甕	6区	SX401 SX401	19.0	22.6	—	粗粒砂やや多	良	浅黄、黄灰 灰黄褐	ヨコナデ、ハケメ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	内面胴下半部調整摩滅　内外面とも胴部下半に煤付着
	1584	壺	6区	SX401	—	13.5	5.9	1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ケズリ後ハケメか ナデ、ハケメ、ミガキ	外面黒斑あり　底部接合痕を押さえるようにミガキが入る
	1585	鉢	6区	SX401	14.6	9.2	—	白色粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ、ナデ ミガキ	内面接合痕あり　外面黒斑あり
	1586	壺	6区	SX401 SD217　Ⅰ層 遺構外	—	10.0	6.8	1mm砂粒若干砂粒少	良	灰黄 明赤褐	ナデ、指圧痕 ミガキ	外面赤彩

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一八四	1587	鉢	6区	SX401	—	7.5	6.1	1mm砂粒若干砂粒少	良	灰 赤褐	ナデ ミガキ、ヨコナデ	外面赤彩
	1588	台付鉢	6区	SX401	—	7.6	9.2	海綿骨針、1～3mm石英、砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ヨコナデ ミガキ、ナデ	
	1589	器台	6区	SX401	—	5.7	4.2	粗粒砂少	良	淡黄 赤褐	ナデ、ハケメ ハケメ後ミガキ	脚部穿孔2ヶ所残存、元は3ヶ所か　外面赤彩
	1590	高杯	6区	SX401	—	4.5	—	粗粒砂少	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ミガキ	脚部穿孔3ヶ所残存、元は4ヶ所か　内面器台上部摩耗し調整不明瞭。
	1591	壺	6区	SD211	14.0	7.5	—	2～3mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	
	1592	器台	6区	SD211	—	4.8	9.5	海綿骨針、白色粒若干	良	淡黄 灰黄	ハケメ、ナデ、ヨコナデ、指圧痕 ハケメ、ナデ、ヨコナデ	
	1593	高杯	6区	SD216 SK312	18.6	5.1	—	1mm砂粒若干	良	明赤褐 赤褐	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	内外面赤彩
	1594	壺	6区	SD216	17.1	4.5	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 黒褐	ヨコナデ、ハケメ、指圧痕 ヨコナデ	
	1595	壺	6区	SD216	—	8.5	3.1	2mm砂粒若干	良	浅黄 灰黄～黒褐	ハケメ、ナデ ハケメ状工具ナデ	煤若干付着
	1596	鉢	6区	SD216　I層	9.7	6.2	—	海綿骨針多	良	にぶい黄橙～灰黄橙 浅黄～黒褐	口縁部ミガキ、体部ナデか 口縁部ヨコナデ、体部ミガキ	外面黒斑あり
	1597	壺	6区	SD216	14.0	6.3	—	2mm石英、砂粒多	良	橙 浅黄橙	ナデか ヨコナデ、ハケメ	内外面摩耗し調整不明瞭
	1598	壺	6区	SD216	16.2	9.9	—	1～2mm砂粒多	不良	橙 橙	— ハケメ	内面摩耗し調整不明瞭
	1599	高杯	6区	SD216	—	5.5	9.1	砂粒少	良	にぶい黄橙 赤	ハケメ、ミガキ ミガキ	内面の一部と外面赤彩
図面一八五	1600	壺	6区	SD216	15.1	12.3	—	2～3mm砂粒多	良	赤褐 黒褐	ヨコナデ、ケズリ、ナデ、ミガキ ヨコナデ、ハケメ	
	1601	壺	6区	SD216	16.0	9.8	—	2mm砂粒若干	良	浅黄 灰黄～黒褐	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ハケメ状工具ナデ	
	1602	ミニチュア 鉢形土器	6区	SD216	4.8	3.45	4.0	1～2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～灰黄	指圧痕、ナデ 指圧痕	
	1603	壺	6区	SD216 SD217	16.6	15.7	—	1mm砂粒多	良	浅黄 浅黄～にぶい橙	ヨコナデ、指圧痕、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1604	高杯	6区	SD217 SD216	15.9	8.8	7.5	1mm砂粒少	良	赤褐～浅黄 赤褐～黒褐	脚部ハケメ、ヨコナデ、杯部ミガキ ミガキ	外面赤彩、杯部内面赤彩
	1605	壺	6区	SD217	17.6	8.0	—	海綿骨針多、2～3mm砂粒少	良	にぶい黄橙 黒	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1606	壺	6区	SD217	16.6	7.1	—	1mm砂粒多	良	にぶい黄橙、褐灰 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、指圧痕、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1607	壺	6区	SD217	13.7	5.5	—	2～5mm砂粒多	良	浅黄 浅黄	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ	内外面摩耗により調整不明瞭
	1608	壺	6区	SD217	17.9	21.7	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～黒	ヨコナデ、指圧痕、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1609	台付鉢	6区	SD217	14.8	9.8	6.7	1mm砂粒多	良	明黄褐 にぶい黄橙	台部ヨコナデ、鉢部ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ、ナデ	
	1610	鉢	6区	SD217	11.5	3.2	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ミガキ ハケメ後ミガキ	
	1611	壺	6区	SD217	8.4	10.0	—	海綿骨針、1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	
	1612	壺	6区	SD217	—	6.1	—	海綿骨針、1mm砂粒少	良	明赤褐 明赤褐	ハケメ後ミガキか ミガキ	内面ミガキ不明瞭　内外面赤彩
	1613	壺	6区	SD217	16.4	6.7	—	白色粒若干	良	赤褐 赤褐	ハケメ後ミガキ ミガキ	内面摩耗著しく調整不明瞭　内外面赤彩
図面一八六	1614	壺	6区	SI701 I層	14	3.6	—	海綿骨針、1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ヨコナデ、ハケメか ヨコナデ、ハケメ	内外面著しく摩耗
	1615	器台	6区	SI701 I層	8.3	7.3	10.5	1mm砂粒若干、海綿骨針多	良	にぶい黄 にぶい黄	脚部ミガキ、ヘラナデ、受け部ミガキ ミガキ	脚部穿孔5ヶ所

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一八六	1616	甕	6区	SI701（SD229）	15.6	5.2	—	海綿骨針、2～3mm砂粒若干	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、頸部ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁部波状
	1617	甕	6区	SI701（SD229） 遺構外　Ⅰ層 SI702 周溝（SD226）	16.2	5.0	—	2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1618	鉢	6区	SI701（SD229）	16.6	7.9	—	海綿骨針、1～3mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 灰黄	ヨコナデ、ハケメ ハケメ後ミガキ	
	1619	甕	6区	SI702 周溝（SD226）	17.5	5.1	—	2mm砂粒若干	良	灰黄 浅黄	ヨコナデ、ハケメ、胴部ナデ ヨコナデ、ハケメ	内外面とも頸部はハケメ調整の後にナデ
	1620	甕	6区	SI703	16.4	5.6	—	2～3mm石英、砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1621	器台	6区	SI703	—	4.5	11.9	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 赤褐	ナデ、ハケメ ミガキ、ヨコナデ	脚部上部に刻み目、擬凹線5条あり　外面赤彩
	1622	壺	6区	SI703	—	5.2	—	白色粒若干	良	灰黄 赤褐	ナデ、指圧痕 ミガキ	外面赤彩
	1623	長頸壺	6区	SI703	6.7	11.1	—	白色粒若干	良	赤褐 暗赤褐	ヨコナデ後ナデ ミガキ	内面上部1/3赤彩、外面赤彩
	1624	壺	6区	SI706 周溝	15.1	7.7	—	1mm砂粒若干	良	赤褐 赤褐	ハケメ、ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1625	高杯	6区	SX407 トレ SI706 周溝	13.8	5.9	—	1mm白色粒少	良	浅黄 浅黄	ミガキ ミガキ	
	1626	鉢	6区	SI706 周溝　Ⅰ層	8.6	6.75	4.0	1～2mm砂粒少	良	にぶい橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ハケメ後ミガキ、ケズリ	内面調整ケズリとナデ混在
	1627	鉢	6区	SX407 下層 SI706　周溝	10.2	6.2	1.9	1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、接合痕 ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	
	1628	甕	6区	SI706 周溝（SD228）Ⅰ層	17.3	3.8	—	海綿骨針、砂粒多	良	浅黄 浅黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、指圧痕	内外面煤付着　外面摩耗し調整不明瞭
	1629	甕	6区	SI706 周溝（SD228）	—	10.8	4.8	1～2mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ハケメ、ケズリ	胴部外面煤付着
	1630	甕	6区	SI707 P1 Ⅰ層 SI707　Ⅰ層	17.5	2.6	—	1～2mm砂粒少	良	浅黄 黒褐	ハケメ、ハケメ状工具ナデ ハケメ	口縁刻み目あり　外面一部煤付着
	1631	甕	6区	SI707 Ⅰ層	15.4	9.4	—	1～2mm石英、砂粒少	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、胴部ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1632	鉢	6区	SI707　P1　Ⅰ層	15.3	6.8	—	1mm砂粒若干	良	明赤褐 明赤褐	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	内外面赤彩
	1633	器台	6区	SI707　Ⅰ層	8.8	6.7	—	1mm砂粒若干	良	赤褐、にぶい黄 赤褐	脚部ケズリ、受け部ミガキ ミガキ	脚部直列穿孔あり　外面・受部内面赤彩
図面一八七	1634	甕	6区	SI707 周溝（SX406）　Ⅰ層 遺構外　Ⅱ層	15.4	7.0	—	白色粒、2mm石英、砂粒若干	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	
	1635	甕	6区	SI707 周溝（SX406）　下層 SI707 周溝（SX406）　Ⅱ層	13.6	16.7	2.0	2～3mm砂粒多	良	にぶい黄橙 灰黄～暗灰黄	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ、底部ケズリ	外面煤付着
	1636	壺	6区	SI707 周溝（SX406）	8.1	7.05	—	1mm砂粒若干	良	赤褐 暗赤褐	ハケメ、ハケメ後ヨコナデ ハケメ後ミガキ	内面上部及び外面赤彩あり　一部摩耗により調整不明瞭
	1637	壺	6区	SI707 周溝（SX406）Ⅰ層	6.7	7.0	—	1～2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、接合痕、ナデ ミガキ	
	1638	器台	6区	SI707 周溝（SX406）　Ⅱ層	21.0	3.7	—	砂粒少	良	橙 橙	ヨコナデ ヨコナデ	口縁外波状文、円形浮文
	1639	蓋	6区	SI707 周溝（SX406）下層	6.3	3.05	—	1mm砂粒若干	良	にぶい橙 浅黄橙	ケズリ、ナデ ミガキ	
	1640	無頸壺	6区	SI707 周溝（SX406）Ⅱ層	9.7	2.5	—	1mm砂粒若干	良	浅黄橙 灰白	指圧痕、ナデ ナデか	口縁外稜描羽状刺突文　外面摩耗により調整不明瞭
	1641	台付鉢	6区	SI707 周溝（SX406）　下層	—	5.2	7.4	白色粒若干	良	明赤褐 明赤褐	ミガキ、脚部内面ヨコナデ、指圧痕 ミガキ	内外面赤彩　摩耗著しい
	1642	高杯	6区	SI707 周溝（SX406）　Ⅱ層 SI707 周溝（SX406）　下層	10.5	9.35	—	海綿骨針、1mm白色粒	良	にぶい赤褐、黒褐 暗赤褐	脚部ヨコナデ、杯部ミガキ、ナデ ミガキ	杯部外面に3条の沈線、刻み目　内外面赤彩
	1643	高杯	6区	SI707 周溝（SX406）トレ SI703　トレ SI707 周溝（SX406）　Ⅰ層	19.1	9.7	—	1mm以下砂粒若干	良	浅黄 にぶい黄橙	不明 不明	摩擦著しい

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一八七	1644	甕	6区	SI707 (SX407) Ⅱ層 SI707 (SX407)	15.7	5.1	—	1～2mm石英、砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ状工具ヨコナデ、ケズリ、ハケメ ハケメ状工具ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ	
	1645	甕	6区	SI707 (SX407)	11.8	4.7	—	白色粒多、1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1646	鉢	6区	SI707 (SX407) Ⅱ層	16.2	6.7	5.6	1mm砂粒少	良	浅黄 にぶい黄	ミガキ ハケメ後ミガキ、ナデ、底部板状圧痕	
	1647	鉢	6区	SI707 (SX407) Ⅱ層	—	5.35	7.7	1mm砂粒多	良	浅黄 浅黄	胴部ナデ、底部ハケメ ハケメ、ヨコナデ	
	1648	甕	6区	SI707 (SX407) Ⅱ層 SI707 (SX407) 下層 SI707 (SX406) Ⅱ層	11.7	9.2	—	1mm石英、砂粒少	良	浅黄 暗灰黄	ヨコナデ、ハケメ、ハケメ状工具ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線5条
	1649	壺	6区	SI707 (SX407) SI707 (SX407) Ⅱ層	8.2	5.7	—	1～2mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、口縁上部ミガキ ハケメ後ミガキ	
	1650	高杯	6区	SI707 (SX407) E Ⅰ層	27.6	5.6	—	海綿骨針、白色粒少	良	にぶい赤褐 赤褐	ミガキ ミガキ	杯部外擬凹線4条　内外面赤彩
	1651	高杯	6区	SI707 (SX407) SI707 (SX407) 下層 SI707 (SX407) Ⅱ層	14.2	5.3	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	
	1652	器台	6区	SI707 (SX407) N	—	5.2	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 赤褐	ミガキ、ナデ ミガキ	3ヶ所穿孔残存　外面赤彩
	1653	高杯	6区	SI707 (SX407) トレ	—	7.6	9.4	海綿骨針、1mm白色粒少	良	にぶい橙 赤褐	ナデ、ケズリ ヨコナデ、ミガキ	外面赤彩
	1654	蓋	6区	SI707 (SX407) Ⅱ層	—	2.8	—	1mm石英若干	良	明黄褐 赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1655	蓋	6区	SI707 (SX407) Ⅱ層 SI707 (SX407)	12.4	4.1	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ミガキ ミガキ	
	1656	蓋	6区	SI707 (SX407) 下層	9.3	1.6	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい赤褐	ミガキ ミガキ	擬凹線4条　外面赤彩
図面一八八	1657	甕	6区	SI707 周溝 (SD231)	14.4	11.6	—	2mm砂粒、海綿骨針少	良	灰黄褐 灰黄褐	ヨコナデ、ケズリ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線7条　外面煤付着
	1658	甕	6区	SI707 周溝 (SD231) SK345	18.4	5.2	—	海綿骨針、1～2mm砂粒少	良	浅黄 明黄褐	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線6条　外面煤付着
	1659	甕	6区	SI707 周溝 (SD231)	16.4	24.8	1.7	2～3mm石英、砂粒多	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ	口縁外擬凹線4条　外面口縁～胴部中央、内面底部に煤付着
	1600	鉢	6区	SI707 周溝 (SD231)	11.0	6.5	—	1mm石英、砂粒少	良	灰黄 にぶい黄	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	
	1661	鉢	6区	SI707 周溝 (SD231)	12.3	7.0	—	石英、海綿骨針、白色粒少	良	黄灰 黒	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1662	甕	6区	SI707 周溝 (SD231)	—	6.0	5.6	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ハケメ後ナデ、一部ミガキ	
	1663	器台	6区	SI707 周溝 (SD231)	9.5	6.3	7.2	白色粒少	良	赤褐 明赤褐	ミガキ、ナデ ミガキ	外面凸部に刻み目、沈線あり　内外面赤彩
	1664	高杯	6区	SI707 周溝 (SD231) 遺構外	19.3	5.7	—	1～2mm砂粒少	良	赤褐 明赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1665	高杯	6区	SI707 周溝 (SD231) SI707 周溝 (SD231)	16.7	7.5	—	海綿骨針、1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 灰白	ミガキ ミガキ	
	1666	器台	6区	SI707 周溝 (SD231)	8.2	4.8	—	2mm石英、砂粒少	良	淡黄 淡黄	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ ミガキ	
	1667	壺	6区	SI707 周溝 (SD231)	12.6	11.1	—	砂粒多	良	暗灰黄 黄灰	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、頸部接合痕 ヨコナデ、ハケメ、ナデかケズリ	外面煤付着
	1668	壺	6区	SI707 周溝 (SD231) SU	11.6	11.8	—	1～2mm砂粒多	良	黄褐 にぶい黄褐	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	外面煤付着
	1669	壺	6区	SI707 周溝 (SD231)	11.7	5.3	—	1mm砂粒少、1～5mm赤色粘土粒多	やや不良	褐灰～にぶい褐 橙	ヨコナデ、指圧痕、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ後ミガキか	外面摩耗著しく調整不明瞭
	1670	壺	6区	SI707 周溝 (SD231) SI707 周溝 (SD231)	14.8	5.8	—	海綿骨針、白色粒少	良	浅黄 淡黄	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内指頭圧痕残る　口縁外擬凹線9条
	1671	壺	6区	SI707 周溝 (SD231)	13.4	7.7	—	白色粒、1mm砂粒若干	良	灰黄 灰黄	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内指頭圧痕残る　口縁外擬凹線10条

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面 / 下段外面)	調整 (上段内面 / 下段外面)	備考
図面一八八	1672	壺	6区	SI707 周溝（SD231）	14.0	4.9	—	1～2mm石英、砂粒若干	良	灰黄 浅黄	口縁ヨコナデ、頸部～胴部ケズリ ヨコナデ、ハケメ	
	1673	甕	6区	SI707 周溝（SD231）	12.1	6.4	—	海綿骨針、白色粒若干	良	浅黄 灰黄	ヨコナデ、指圧痕、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ミガキ	
	1674	壺	6区	SI707 周溝（SD231）	11.6	5.5	—	1～2mm石英、砂粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、頸部接合痕、ナデ ヨコナデ、ナデ	黒斑あり
図面一八九	1675	甕	6区	SI701 周溝（SD231）	18.3	8.7	—	5～10mm砂粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～黒	ハケメ後ナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケメ	
	1676	甕	6区	SI701 周溝（SD231）	18.6	11.5	—	1～2mm砂粒若干	良	にぶい黄褐 黒	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	外面全体に煤付着
	1677	甕	6区	SI701 周溝（SD232）	—	13.9	—	1～5mm砂粒少	良	褐灰 黒褐～灰黄褐	ケズリ ハケメ、底部ナデ	外面煤付着
	1678	甕	6区	SI701 周溝（SD232）	16.4	5.65	—	1mm砂粒少	良	にぶい黄褐 黒	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1679	甕	6区	SI701 周溝（SD232）	17.6	5.0	—	2～3mm砂粒少	良	橙 橙、黒	ヨコナデ、頸部接合痕 ヨコナデ	全体的に摩耗著しく調整不明瞭
	1680	甕	6区	S B 611（SX402）	16.8	4.3	—	1mm長石、砂粒少	良	灰黄 暗灰黄	ヨコナデ、ハケメ、頸部接合痕 ヨコナデ、ハケメ	
	1681	甕	6区	S B 611（SX402）	17.2	4.1	—	2～3mm砂粒、海綿骨針若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、接合痕 ヨコナデ、ハケメ	口縁端部摩滅のため形状不明瞭
	1682	鉢	6区	S B 611（SX402）	37.4	15.2	—	白色粒少	良	浅黄 灰黄	ハケメ後ミガキ ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ミガキ、接合痕	
	1683	壺	6区	S B 611（SX402）	8.0	6.5	—	砂粒多	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ後ヨコナデ、ハケメ ハケメ後ヨコナデ、ハケメ	内外面とも摩耗し調整不明瞭
	1684	甕	6区	S B 611（SX403）	18.4	6.6	—	砂粒多	良	淡黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁外刻み目
	1685	甕	6区	S B 611（SX404）	15.0	4.3	—	2～4mm砂粒若干	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ	
	1686	壺	6区	S B 611（SX405）	—	2.1	—	白色粒わずか	良	にぶい黄橙 赤褐	天井部ハケメ後ナデ、体部ナデ ミガキ	外縁凹線7条　外面赤彩
	1687	壺	6区	S B 611（SX405）	9.7	4.0	—	1mm砂粒、白色粒少	やや良	明灰黄 黄灰	ハケメ後ヨコナデ、指圧痕、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁部波状
	1688	壺	6区	S B 611（SX405）	14.2	5.2	—	1～2mm砂粒少	良	赤褐赤褐 赤褐	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1689	甕	6区	S B 611（SX405）	13.4	12.75	—	2～3mm砂粒少	良	灰黄褐 黒褐	ヨコナデ、ナデ、頸部接合痕、指圧痕、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	内面胴部ナデ、ハケメ混在 外面煤付着
図面一九〇	1690	甕	6区	SK308　Ⅱ～最下層	29.0	5.4	—	海綿骨針、2mm砂粒少	良	にぶい褐 にぶい橙	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁部小波状
	1691	壺	6区	SK308	15.0	9.5	—	1～2mm砂粒多	良	淡黄 浅黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	
	1692	壺	6区	SK308	18.2	7.2	—	石英、、白色粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい橙	ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁外連続刻み目
	1693	鉢	6区	SK309　Ⅲ層 SK309	11.4	8.85	5.6	海綿骨針、1mm白色粒	良	橙 橙	ヨコナデか、底部指圧痕 ハケメ、ミガキ、底部ナデ	口縁付近に穿孔あり　外面底部付近摩耗
	1694	有孔鉢	6区	SK309	—	7.6	5.2	2～3mm砂粒若干	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ハケメ、底部ナデ ハケメ、底部ナデ	
	1695	甕	6区	SK309 SK309　Ⅱ層 SK309　Ⅲ層	17.5	18.5	—	砂粒若干	良	にぶい黄 浅黄	ヨコナデ、ハケメ ハケメ後ヨコナデ、ハケメ	口縁外刻み目
	1696	鉢	6区	SK309　Ⅲ層 SK309	28.0	16.7	8.4	白色粒若干	良	にぶい黄橙 浅黄	ハケメ、底部ナデ ハケメ、ミガキ、底部ナデ	
	1697	甕	6区	SK311　Ⅰ-Ⅴ層 SK311　Ⅵ層	17.0	20.0	6.1	砂粒多	良	淡黄 明黄褐～灰黄褐	ハケメ後ナデ、ハケメ、底部付近ナデか ハケメ後ナデ、ハケメ、ナデ	口縁部小波状　内面底部摩耗により調整不明瞭 外面煤付着
	1698	甕	6区	SK311　Ⅰ層 SK311　Ⅰ-Ⅴ層 SK311　Ⅵ層	17.6	6.6	—	1～2mm砂粒少	良	にぶい橙 にぶい橙	ヨコナデ、ハケメか ハケメ後ヨコナデ、ハケメ	口縁部小波状　胴部内面摩耗し調整不明瞭　外面 頸部～胴部煤付着
	1699	壺	6区	SK311　Ⅵ層 SK311　Ⅰ層	13.2	15.4	—	砂粒多	良	浅黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面/下段外面)	調整 (上段内面/下段外面)	備考
図面一九〇	1700	甕	6区	SK311 Ⅰ-Ⅴ層 SK311 Ⅵ層	13.3	13.5	4.4	砂粒多	良	灰黄褐 黒	ハケメ、胴部ナデ ナデ、ハケメ、ケズリ	口縁内羽状刺突文　内面下半摩耗し調整不明瞭 外面煤付着
図面一九一	1701	壺	6区	SK311 Ⅰ-Ⅴ層 SK311 Ⅰ層 SK311 Ⅵ層	—	20.75	6.9	白色粒若干	良	にぶい黄橙 灰黄褐	ハケメ後ナデ、底部ナデ ハケメ後ミガキ	内面胴下半部摩耗により調整不明瞭、外面煤付着、 摩耗により一部調整不明瞭
	1702	甕	6区	SK307 Ⅰ層	—	19.3	—	2～3mm砂粒少	良	浅黄 浅黄～黒褐	ハケメ ハケメ	内面底部剥離、外面底部摩耗により調整不明瞭
	1703	甕	6区	SK304	14.8	14.5	—	1～2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙～黒	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	
	1704	甕	6区	SK322	14.0	7.0	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 黒	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	内面接合痕残る　外面煤付着
	1705	壺	6区	SK330	16.2	6.5	—	海綿骨針、2mm石英、砂粒少	良	にぶい橙 浅黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ	外面わずかにハケメ残る
	1706	壺	6区	SK345 SK345 Ⅰ層	—	6.6	—	海綿骨針、白色粒少	良	にぶい褐 赤褐	ハケメ後ナデ、ケズリ ミガキ	胴部貼付突帯に擬凹線4条　外面赤彩
	1707	壺	6区	SK345 Ⅱ層	—	9.6	1.8	2～3mm砂粒若干	良	灰黄 にぶい黄橙	ナデ、指圧痕、接合痕 ミガキ、ハケメ、ケズリ	
	1708	鉢	6区	SK345 SK345 Ⅰ層	14.6	9.5	—	2～3mm砂粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒	ヨコナデ、ナデ、指圧痕 ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1709	器台	6区	SK345 Ⅲ層	13.8	7.6	—	1mm砂粒少	良	浅黄 浅黄	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ、ナデ	
	1710	蓋	6区	SK345 Ⅵ層	—	3.8	—	白色粒少	良	にぶい黄橙 橙	ミガキ ミガキ、ヨコナデ	
	1711	甕	6区	SD224	11.1	7.2	—	1mm砂粒少	良	灰白 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	頸部内面ハケメ後胴部ナデ　外面煤付着
	1712	高杯	6区	SD201 Ⅴ層	—	7.5	12.0	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 赤褐	ナデ、ヨコナデ ミガキ	穿孔あり　外面赤彩　内面摩耗により調整不明瞭
	1713	壺	6区	SU	20.2	4.7	—	1mm砂粒少	不良	浅黄 にぶい黄橙	— ハケメ	口縁内羽状刺突文、外剥み目
	1714	蓋	6区	SU	3.8	3.9	—	3mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ナデ、ハケメ 指圧痕、ナデ、ハケメ	
	1715	蓋	6区	SU	—	3.8	—	1mm砂粒少	良	にぶい黄橙 赤褐	ミガキか ミガキ	内面摩耗により調整不明瞭　外面赤彩
図面一九二	1716	甕	6区	SU	15.9	4.8	—	1～2mm砂粒多	良	灰黄 灰白	ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線6条
	1717	甕	6区	SU	15.8	4.9	—	2mm砂粒多	良	灰白 灰白	ヨコナデか ヨコナデ	口縁外擬凹線6条
	1718	壺	6区	SU	14.8	6.0	—	海綿骨針、砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ、指圧痕、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線12条
	1719	壺	6区	SU	18.8	4.8	—	1mm石英、砂粒少	良	浅黄 浅黄	ヨコナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁内に傷のようなものが残る
	1720	甕	6区	SU	13.7	3.9	—	海綿骨針、2mm砂粒多	良	灰褐 明褐灰	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデか	外面摩耗により調整不明瞭
	1721	甕	6区	SU	15.7	5.6	—	砂粒若干	良	明灰黄 浅黄	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	
	1722	鉢	6区	SU	—	3.4	5.6	白色粒若干	良	赤褐 暗赤褐	ミガキ ナデ、指圧痕、ミガキ	内外面赤彩
	1723	鉢	6区	SU	9.4	4.55	3.8	2mm砂粒若干	良	にぶい橙 にぶい橙	ハケメ、ナデ ナデ、指圧痕	
	1724	器台	6区	SU	7.5	8.2	10.2	海綿骨針、白色粒若干	良	赤褐 赤褐	ミガキ、ケズリ、ヨコナデ ミガキ	脚部穿孔4ヶ所あり　内外面赤彩
	1725	高杯	6区	SU	19.7	3.9	—	1mm砂粒若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキか ミガキ	内面摩耗により調整不明瞭
	1726	器台	6区	SU	16.2	4.7	—	1mm砂粒若干	良	赤褐 赤褐	ハケメ後ミガキ ハケメ後ミガキ	外面に3条の沈線、剥み目　内外面赤彩
	1727	壺	6区	SU	—	7.6	—	海綿骨針、白色粒少	良	灰黄 褐	ハケメ後ナデ ミガキ	外面赤彩

図面番号	No	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一九二	1728	甕	6区	遺構外	15.2	5.5	—	1mm砂粒少	良	橙 にぶい橙	ヨコナデ、ナデ、接合痕 ヨコナデ、ハケメ	外面一部ミガキ調整のような痕あり
	1729	甕	6区	遺構外	14.9	4.1	—	海綿骨針、白色粒少	良	にぶい橙 にぶい橙	ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線２条　煤付着
	1730	甕	6区	遺構外	13.9	5.15	—	2～3mm砂粒若干	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケメ	口縁外擬凹線４条　外面煤付着
	1731	甕	6区	遺構外	12.6	3.0	—	1～3mm石英、砂粒若干	良	暗灰黄 にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	
	1732	甕	6区	遺構外	16.3	5.0	—	砂粒若干	やや良	にぶい橙 にぶい橙	ヨコナデ、ハケメ状工具ナデ ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1733	甕	6区	遺構外	17.6	4.7	—	砂粒若干	やや良	灰白 灰白、黒	ヨコナデ、ハケメ、接合痕 ヨコナデ、ハケメ	外面煤付着
	1734	台付鉢	6区	遺構外	—	7.2	6.8	2～3mm砂粒多	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ ミガキ	
	1735	高杯	6区	遺構外	—	10.3	—	1mm砂粒若干	良	浅黄 浅黄	ミガキ、脚部指圧痕 ハケメ後ミガキ	
	1736	甕	6区	遺構外	12.3	5.3	—	砂粒若干	やや不良	にぶい黄 浅黄	— —	内外面摩耗著しく調整不明瞭
	1737	壺	6区	遺構外	13.2	2.8	—	1mm砂粒若干	やや不良	灰白 にぶい黄橙	ヨコナデか ヨコナデか	口縁外縁位に隆起突帯２条貼付　内外面摩耗著しく調整不明瞭
	1738	壺	6区	遺構外	13.0	6.8	—	2mm砂粒少	良	にぶい褐、赤褐 赤褐	ミガキ、ヨコナデ、ナデ ミガキ	口縁外擬凹線10条　口縁内部に楕円、外に四角、胴部全面に赤彩　胎土絶登産
	1739	壺	6区	遺構外	17.9	6.4	—	1～2mm石英、砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ミガキ、ナデか ヨコナデ、ミガキ、ナデ、ケズリ	内面頸部調整不明瞭
	1740	壺	6区	遺構外	5.2	2.15	—	白色粒若干	良	明赤褐 黒	ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	1741	ミニチュア	6区	遺構外	—	3.7	3.2	砂粒少	良	にぶい橙 にぶい黄橙	ナデ ナデ、ケズリ	
	1742	土製円盤	6区	SK311	4.4	4.4	0.65	1～2mm砂粒少	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ —	表面煤付着、中心部使用により摩滅。
	1743	土製円盤	6区	遺構外	3.5	3.5	0.7	白色粒少	良	にぶい黄橙、褐灰 にぶい黄橙、褐灰	ハケメ ハケメ	表裏ともに摩耗著しい
図面一九三	1750	甕	7区	遺構外	15.0	—	—	粗粒砂多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ハケメ	口縁外刻み目
	1751	甕	7区	遺構外 (調査区北側中央)	15.2	—	—	小粒砂少	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐	ハケメ ハケメ	
	1752	壺	7区	遺構外	—	—	—	小粒石	良	浅黄橙 浅黄橙	ナデ ナデ	口縁外刻み目
	1753	壺	7区	遺構外 (調査区中央)	—	—	—	微粒砂少	良	灰黄 灰黄	擬指 ヘラナデ	口縁外刻み目
	1754	高杯	7区	遺構外	—	—	6.6	海綿骨針少	良	橙 浅黄橙～橙	— ケズリ、ナデ	
	1755	壺	7区	遺構外	—	—	—	石粒	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ —	口縁外羽状刺突文
	1760	壺	7区	遺構外	—	—	—	粗粒砂多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ハケメ ナデ、ハケメ	
	1766	高杯	7b区	SD207	—	—	—	粒砂やや多	良	褐色 褐色	ナデ ヨコナデ	
	1767	高坏	7b区	遺構外	—	—	—	粒砂やや多	良	褐色 褐色	— ヨコナデ	
図面一九四	1779	鉢	8区	SZ301	25.0	—	—	小粒砂少	良	橙 橙	ハケメ ハケメ	
	1780	底部	8区	SZ301	—	—	8.5	粗粒砂多	並	黒 橙	ナデ ナデ	
	1781	鉢	8区	SZ302	17.5	9.1	6.5	1～2mm粒砂少	良	にぶい橙 淡黄	ヨコナデ、ハケメ ヨコナデ、ハケメ	
	1782	壺	8区	SZ302	14.0	35.5	8.2	雲母	並	にぶい橙 浅黄橙	ハケメ、ナデ ハケメ、ミガキ	口縁内羽状刺突文、外連続刻み目

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一九五	1783	壺	8区	SZ302	16.2	38.7	8.7	赤色粒、1mm粒砂若干	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ後ナデ ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文　外刻み目
	1784	甕	8区	SZ302	13.6	15.2	6.0	1～3mm粒砂やや多	良	にぶい橙 橙	ハケメ後ナデ ハケメ後ナデ	口縁内羽状刺突文　外ハケ工具押圧文4条、斜線文　内面黒斑、コゲ　外面煤付着
	1785	甕	8区	SX302	11.5	16.1	6.0	細粒砂	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ハケメ、ナデ、指圧痕、接合痕 ハケメ、ナデ	口縁内羽状刺突文、外刻み目　内面底部黒斑、外面底部黒斑あり
	1786	壺	8区	SZ303	25.0	—	—	赤色粒、海綿骨針	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ハケメ ハケメ	
	1787	壺	8区	SZ311	17.3	29.7	7.2	細粒砂多	良	灰 灰	ハケメ、口縁部ナデか ハケメ、口縁部ナデか、ミガキ	口縁外刻み目　外面頸部ハケメのち擬回線(12条×1、6条×4)、櫛描波状文(6条×2)　一部煤付着　全体に摩耗　黒斑

※　単位はとくに断らない限りｃｍとする。

第３表　玉作関連遺物

図面番号	No.	種類	工程	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	備考
図面一七三	1311	管玉	石鋸	4区	SK080	5.25	3.79	2.18	52.46	緑色凝灰岩	淡緑灰	板状の剥片をとり、その側面に横長の柱状剥片を作出。3～4枚を取る。
	1312	管玉	荒割	4区	SK080	3.04	2.38	1.96	17.94	鉄石英	赤褐	上面は質のよい割れ方をしているが、その他は質の悪いガサガサの面をしている。
	1313	管玉	荒割	4区	SK080	2.78	2.41	1.65	—	鉄石英	赤褐	一部に自然面を残し、初期的な段階である。
	1314	管玉	荒割	4区	SK080	2.28	1.67	1.50	4.59	鉄石英	赤褐	上面に自然面残す。溝は見られず荒割り段階のもので、ほとんどが上からの剥離。主要剥離面は裏面。
	1315	管玉	形割	4区	SK080	2.87	1.58	1.09	5.38	鉄石英	赤褐	上面に施溝１条。表面に自然面。
	1316	管玉	形割	4区	SK080	1.81	1.27	1.28	3.07	鉄石英	赤褐	上面に１条の施溝。
	1317	管玉	形割	4区	SK080	1.98	0.92	0.79	2.33	鉄石英	赤褐	施溝は上面表面側１ヶ所、面左右側面側２ヶ所。裏面横方向から剥離。
	1318	管玉	形割	4区	SK080	1.80	0.60	0.54	0.84	緑色凝灰岩	緑	表面、右側面は横方向から３面以上の剥離により調整。裏面、左側面は単一面。
	1319	管玉	形割	4区	SK080	1.36	0.80	0.40	0.55	緑色凝灰岩	緑	上面に２条の施溝。
	1320	管玉	形割	4区	SK080	1.23	0.74	0.74	1.01	鉄石英	赤褐	上面側面側に施溝され上から下へ剥がされている。下面にも施溝されているが、下の横方向に剥がされている。
	1321	管玉	形割	4区	SK080	0.95	0.74	0.45	0.56	鉄石英	赤褐	上面長辺の表、裏とも施溝されており上からの分割が行なわれている。短辺にも２条の施溝が見られ、左側縁は溝を使って分割されているが、中央の溝は使われていない。
	1322	管玉	形割	4区	SK080	1.47	0.67	0.33	0.34	鉄石英	赤褐	上面の表裏に施溝が見られる。
	1323	管玉	形割	4区	SK080	0.96	0.57	0.50	0.40	鉄石英	赤褐	上面３方向、三角形状に施溝が見られる。全て上からの剥離。
	1324	管玉	形割	4区	SK080	0.88	0.73	0.72	0.46	鉄石英	赤褐	上面の表面側に施溝が見られる。下半欠損。
	1325	管玉	形割	4区	SK080	1.16	0.55	0.36	0.30	緑色凝灰岩	緑	正面上部に施溝が見られる。
	1326	管玉	形割	4区	SK080	1.28	0.60	0.34	0.32	鉄石英	赤褐	上面の表、裏に施溝が見られる。
	1327	管玉	形割	4区	SK080	1.36	0.62	0.38	0.36	鉄石英	赤褐	上面に表方向と側面方向との２本の施溝が見られる。
	1328	管玉	形割	4区	SK080	1.42	0.75	0.55	0.60	鉄石英	赤褐	上面の裏面側に施溝されている。
	1329	管玉	形割	4区	SK080	1.21	0.52	0.26	0.19	緑色凝灰岩	深緑	上面の４面に施溝がなされている。すべて上からの分割によって剥がされている。先端が薄くなり、形状整形のための剥片か。
	1330	管玉	形割	4区	SK080	1.89	0.44	0.37	0.32	緑色凝灰岩	深緑	上面に施溝が２面方向に見られる。角柱段階の剥片。
	1331	管玉	研磨	4区	SK080	1.57	0.72	0.53	0.71	鉄石英	赤褐	上面２方向に施溝が見られる。表面は研磨されている。
	1332	管玉	研磨	4区	SK080	1.04	0.48	0.40	0.29	鉄石英	赤褐	３面を研磨し、上の施溝より分割している。分割の失敗品か。下端欠損。
	1333	管玉	研磨	4区	SK080	0.98	0.35	0.40	0.33	鉄石英	赤褐	研磨段階の未成品で、下半を欠損する。全体に左下りの研磨が見られる。上面も研磨されている。
	1334	管玉	研磨	4区	SK080	1.03	0.43	0.38	0.27	鉄石英	赤褐	多角柱の研磨段階のもの。上端、下端も磨かれている。
	1335	管玉	研磨	4区	SK080	0.64	0.35	0.32	0.13	鉄石英	赤褐	八角形。上面の正面側に施溝が見られる。研磨段階未成品。下半欠損。
	1336	管玉	研磨	4区	SK080	1.05	0.37	0.36	0.20	鉄石英	赤褐	多角柱。研磨段階で上半が欠損。
	1337	管玉	研磨	4区	SK080	0.80	0.33	0.35	0.16	鉄石英	赤褐	上面の表裏に施溝が見られる。下半は折れている。
図面一七四	1338	管玉	穿孔	4区	SI005	1.39	0.71	0.52	0.86	緑色凝灰岩	緑灰	4角柱状のもので、4面とも研磨されている。下端欠損。穿孔はあるが貫通していない。
	1339	管玉	穿孔	4区	SI006	1.30	0.60	0.61	0.77	緑色凝灰岩	緑灰	上下両面から穿孔され、孔内側に回転痕が見られる。
	1340	管玉	穿孔	4区	遺構外	1.29	0.59	0.44	0.51	緑色凝灰岩	緑灰	4角柱状。研磨段階のもの。円形の剥離が見られる。
	1341	管玉	穿孔	4区	SK080	1.03	0.25	0.25	0.13	鉄石英	暗緑	穿孔前のもので、上面に穿孔しようとした形跡が見られる。
	1342	管玉	穿孔	4区	SK080	0.47	0.32	0.33	0.07	緑色凝灰岩	緑灰	最後の穿孔段階で欠損したのか孔が貫通していない。
	1343	管玉	完成品	4区	SI001・002	0.74	0.25	0.24	0.06	緑色凝灰岩	緑	上半を欠損。
	1344	管玉	完成品	4区	SI005	0.58	0.26	0.26	0.06	緑色凝灰岩	緑	
	1345	管玉	完成品	4区	SI005	0.98	0.30	0.30	0.15	緑色凝灰岩	深緑	穿孔は両面からと思われ、孔は多少偏っている。

図面番号	No.	種類	工程	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	備考
図版一七四	1346	管玉	完成品	4区	SK013	1.60	0.28	0.27	0.18	緑色凝灰岩	緑白	多角状に見られるが、丁寧に研かれている。
	1347	管玉	完成品	4区	遺構外	1.79	0.26	0.26	0.18	緑色凝灰岩	緑白	多角柱。側面は研磨されているが、多角状をなしている。
	1348	勾玉	完成品	4区	遺構外	1.35	0.89	0.40	0.91	ネフライト（軟玉）	緑	穿孔は裏面よりあけられ、円錐形になっている。表面の窪みは欠けを磨いたものか。
	1349	白玉	—	4区	SI001・002	0.50	050	0.26	0.09	緑色凝灰岩	白	表面に線状痕が見られる。
	1350	白玉	—	4区	SI001・002	0.53	0.52	0.28	0.16	緑色凝灰岩	緑灰	
	1351	白玉	—	4区	SI001・002	0.44	0.43	0.25	0.07	緑色凝灰岩	緑灰	裏表とも角が取れ、摩耗している。
	1352	白玉	—	4区	SI003	0.45	0.45	0.25	0.07	緑色凝灰岩	白緑	
	1353	白玉	—	4区	SI005	0.39	0.37	0.15	0.03	緑色凝灰岩	深緑	表面は使用のためか凹状に窪んでいる。
	1354	白玉	—	4区	SI005	0.44	0.44	0.32	0.09	緑色凝灰岩	緑灰	表、裏とも凸凹が激しい。使用によるものか。
	1355	白玉	—	4区	SI005	0.38	0.40	0.32	0.07	緑色凝灰岩	緑	ほぼ中央に穿孔されている。
	1356	白玉	—	4区	SI005	0.40	0.39	0.27	0.06	緑色凝灰岩	白	表面に線状痕が見られる。
	1357	白玉	—	4区	SI005	0.44	0.44	0.24	0.07	緑色凝灰岩	緑灰	
	1358	白玉	—	4区	SI005	0.32	0.32	0.12	0.02	緑色凝灰岩	淡緑	
	1359	白玉	—	4区	SI005	0.33	0.36	0.26	0.06	緑色凝灰岩	白	表面及び裏面に縦痕のような線状痕が見られる。
	1360	白玉	—	4区	SI005	0.42	0.43	0.26	0.07	緑色凝灰岩	緑灰	表面は使用のためか凸円している。
	1361	白玉	—	4区	SI005	0.44	0.44	0.27	0.08	緑色凝灰岩	緑灰	表面は縦のためか線状痕が見られる。
	1362	白玉	—	4区	SI005	0.43	0.43	0.26	0.08	緑色凝灰岩	緑灰	表面に線状痕が見られる。
	1363	白玉	—	4区	SI005	0.43	0.46	0.25	0.08	緑色凝灰岩	緑灰	
	1364	白玉	—	4区	SI005	0.40	0.42	0.29	0.09	緑色凝灰岩	緑灰	表面に線状痕がある。
	1365	小玉	—	4区	SI005	0.43	0.45	0.37	0.09	ガラス	青	
	1366	白玉	—	4区	SI006	0.50	0.51	0.16	0.06	緑色凝灰岩	緑灰	石質の気泡のためか側面が凹凸になっている。
	1367	白玉	—	4区	SI006	0.43	0.42	0.32	0.10	緑色凝灰岩	緑灰	表面は使用のためか凹凸がある。
	1368	白玉	—	4区	SI006	0.46	0.46	0.29	0.09	緑色凝灰岩	緑灰	表面側が凹状に窪んでいる。
	1369	小玉	—	4区	SI006	0.31	0.36	0.17	0.04	ガラス	青	
	1370	小玉	—	4区	SI001・002	0.32	0.33	0.20	0.05	ガラス	青	小形の断面が丸みを帯びたものである。
	1371	石錐	—	4区	SK080	0.73	1.53	0.26	0.41	結晶片岩	灰	刃部を残す破片である。
	1372	石錐	—	4区	SK080	0.73	1.53	0.26	0.42	結晶片岩	灰	破片。刃部は見えない。
	1373	石錐	—	4区	SK080	0.80	0.49	0.13	0.07	結晶片岩	灰	刃部近くの破片か。
	1374	石錐	—	4区	SK080	0.96	0.96	0.25	0.28	結晶片岩	灰	下部に刃部を持つもので、その他は欠損。
	1375	石針	形割	4区	SK080	1.43	0.70	0.63	1.05	安山岩	黒褐	上面に一方向のみ施溝され、裏面には横からの調整も見られる。下半を欠損する。
	1376	石針	形割	4区	SK080	2.32	1.36	0.90	2.46	安山岩	黒褐	裏面は自然面。上面中央に施溝が見られるが使用しなかったか。
	1377	石針	形割	4区	SK080	2.54	0.80	0.62	1.75	安山岩	黒褐	上面表裏２面に施溝をもつ角柱状破片。左側面は自然面である。
	1378	石針	形割	4区	SK080	1.19	0.79	0.60	1.02	安山岩	黒褐	角柱段階未成品。上面の３面に施溝を施している。下半は欠損。
	1379	石針	形割	4区	SK080	0.92	0.69	0.40	0.35	安山岩	黒褐	上面に施溝が３面施されている。下半を大きく欠損。
	1380	石針	形割	4区	SK080	1.50	0.79	0.50	0.71	安山岩	黒褐	上面２方向に施溝がみられる。一部に自然面を残す。
	1381	石針	形割	4区	SK080	1.40	0.45	0.39	0.23	安山岩	黒褐	上面の表面側と左側縁に施溝がみられる。
	1382	石針	形割	4区	SI006	1.33	0.46	0.49	0.59	安山岩	黒褐	上面手前に施溝され分割された剥片である。
	1383	石針	形割	4区	SK080	1.32	0.63	0.32	0.32	安山岩	黒褐	上面の裏表方向に施溝をもつ。調整剥片か。
	1384	石針	形割	4区	SK080	1.31	0.76	0.30	0.30	安山岩	黒褐	上面の裏表、片側面の３方向に施溝が見られる。
	1385	石針	形割	4区	SK080	1.28	0.86	0.30	0.25	安山岩	黒褐	裏表に施溝が見られる。調整剥片か。
	1386	石針	形割	4区	SK080	0.52	0.30	0.28	0.09	安山岩	黒褐	上面表裏に施溝が見られる。すべて上からの剥離。下半を欠損。
	1387	石針	形割	4区	SK080	1.02	0.32	0.39	0.23	安山岩	黒褐	裏表の上面に施溝が見られる。下半を欠損。
	1388	石針	研磨	4区	SK080	0.42	0.70	0.31	0.35	安山岩	黒褐	角柱状剥片であるが、部分的に研磨されている。
	1389	石針	研磨	4区	SK080	1.08	0.40	0.30	0.24	安山岩	黒褐	施溝は裏面と右側面上部に見られる。表裏は研磨段階にはいっている。
	1390	石針	研磨	4区	SK080	0.82	0.28	0.25	0.10	安山岩	黒褐	上面の表表に施溝があり分割されている。両側面は研磨されている。下端欠損か。
図版一七五	1391	石針	研磨	4区	SK080	1.10	0.19	0.15	0.05	安山岩	黒褐	上面に施溝が見られ、裏面が分割面である。表面は多角柱状になっており、研磨されたものをさらに分割したものか。
	1392	石針	研磨	4区	SK080	0.81	0.19	0.18	0.05	安山岩	黒褐	裏面に主な剥離面をもつ。その他は研磨面である。
	1393	石針	研磨	4区	SK080	0.76	0.23	0.18	0.06	安山岩	黒褐	研磨段階で欠損したもので、先端のみが残存する。縦方向の研磨で六角柱状、先端は細くなる。
	1394	石針	研磨	4区	SK080	1.12	0.20	0.20	0.08	安山岩	黒褐	先端は少し細くなる。回転痕は見られず、未成品である。多角柱状をなし、上半を欠損する。
	1395	石針	研磨	4区	SK080	0.63	0.24	0.19	0.05	安山岩	黒褐	上下共に欠損。
	1396	石針	研磨	4区	SK080	0.88	0.18	0.18	0.05	安山岩	黒褐	先端回転痕は見られず、未成品である。上半部を欠損する。
	1397	石針	研磨	4区	SI001・002	0.96	0.17	0.18	0.05	安山岩	黒褐	先端が若干細くなっており、上半部を欠損する。回転痕は見られず、研磨段階で折れたものか。
	1398	石針	完成品	4区	SI001・002	0.76	0.15	0.14	0.03	安山岩	黒褐	八角柱状。先端回転痕あり。基部欠損。
	1399	石針	完成品	4区	SI001・002	1.15	0.10	0.11	0.02	安山岩	黒褐	七角柱状。先端回転痕あり。基部欠損か。
	1400	石針	完成品	4区	SI001・002	0.98	0.17	0.17	0.03	安山岩	黒褐	先端に回転痕があり、石針と思われる。両端の幅異なる。
	1401	石針	完成品	4区	SK080	1.03	0.10	0.11	0.02	安山岩	黒褐	下端に回転痕が見られる。側面も丁寧に磨かれている。
	1402	石針	完成品	4区	SK080	1.17	0.10	0.11	0.03	安山岩	黒褐	先端に回転痕が見られる。基端は折れたものか。

図面番号	No.	種類	工程	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	備考
図面一七五	1403	石針	完成品	4区	SK080	1.18	0.10	0.10	0.03	安山岩	黒褐	六角柱状。先端に回転痕が見られる。基端は欠損する。
	1404	石針	完成品	4区	SK080	1.26	0.10	0.10	0.03	安山岩	黒褐	七角柱状。先端下半に回転痕が見られ、黒く変色している。
	1405	石針	完成品	4区	SK080	1.19	0.12	0.12	0.03	安山岩	黒褐	五角柱状。先端に回転痕が見られ、基部は折れか。
	1406	石針	完成品	4区	SK080	1.03	0.16	0.15	0.06	安山岩	黒褐	六角柱状。先端に回転痕があり、上半を欠損する。
	1407	石針	完成品	4区	SK080	0.85	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	七角柱状。先端に回転痕が残る。基部側は折れている。
	1408	石針	完成品	4区	SK080	0.81	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられる。上半を欠損する。
	1409	石針	完成品	4区	SK080	0.57	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	長さが短いが完形品と思われる。上面の頭部には施溝が見られ、先端には回転痕が見られる。
	1410	石針	完成品	4区	SK080	0.56	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	下半の先端部を欠損する。
	1411	石針	完成品	4区	SK080	0.68	0.20	0.20	0.05	安山岩	黒褐	先端に回転痕が見られる。上半を欠損する。
	1412	石針	完成品	4区	SK080	0.90	0.19	0.16	0.05	安山岩	黒褐	表面側に回転痕が見られ裏面は割れたものか。基端も欠損する。
	1413	石針	完成品	4区	SK080	0.83	0.14	0.16	0.04	安山岩	黒褐	先端に回転痕が残る。上半部を欠損する。
	1414	石針	完成品	4区	SK080	0.65	0.17	0.13	0.02	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられる。断面が半円であり、縦半分に折れたもの。基部も欠損する。
	1415	石針	完成品	4区	SK080	0.53	0.18	0.14	0.02	安山岩	黒褐	先端に回転痕あり。断面が半円形ではあるが、使用したものと思われる。
	1416	石針	完成品	4区	SK080	0.52	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられ、上半は折れている。
	1417	石針	完成品	4区	SK080	0.63	0.15	0.13	0.03	安山岩	黒褐	六角柱状。基部部分が残存し、下半の先端を欠損する。
	1418	石針	完成品	4区	SK080	0.64	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	七角柱状。基部が残存し、先端の下半を欠損する。
図面一八三	1534	管玉	荒割	5区	遺構外	5.25	3.84	3.10	90.97	蛇紋	深緑	角柱状の大きな剥片。縞状の互層をなす蛇紋である。
	1535	管玉	荒割	5区	SK001	2.10	1.85	1.80	7.02	鉄石英	赤褐	施溝は見られない。
	1536	管玉	荒割	5区	SK001	1.26	1.56	0.95	2.32	鉄石英	赤褐	施溝は見られない。
	1537	管玉	形割	5区	SK002	1.56	0.99	1.10	1.90	鉄石英	赤褐	角柱状剥片。上面に施溝が1条見られる。
	1538	管玉	形割	5区	SK001	1.67	1.36	0.82	1.60	緑色凝灰岩	深緑	角柱状剥片。表面上部に施溝1条、裏面側部にも施溝がある。
	1539	管玉	形割	5区	SK001	1.69	0.71	0.80	1.25	鉄石英	赤褐	角柱状剥片。上面の表面側に施溝がされている。側面は横方向に剥離面が見られる。
	1540	管玉	形割	5区	SK001	1.26	0.90	0.42	0.48	緑色凝灰岩	深緑	角柱状剥片。表裏上面に施溝をもち、先端が薄くなる。調整剥片か。
	1541	管玉	形割	5区	SK001	0.77	0.81	0.66	0.40	緑色凝灰岩	深緑	角柱状剥片。上面に2方向の施溝をもつ。下半を大きく欠損。
	1542	管玉	形割	5区	SK001	1.19	0.35	0.60	0.34	鉄石英	赤褐	表裏の上面に施溝が見られる。
	1543	管玉	研磨	5区	SK001	1.33	0.69	0.44	0.50	緑色凝灰岩	深緑	上面に表面の一方向に施溝がみられ、裏面は研磨されている。
	1544	管玉	形割	5区	SK001	1.82	0.63	0.42	0.67	緑色凝灰岩	乳白	上面表面側に施溝がみられる。
	1545	管玉	研磨	5区	SK001	0.80	0.48	0.38	0.34	鉄石英	赤褐	角柱状に研磨され、下半を欠損する。
	1546	管玉	研磨	5区	SK001	1.00	0.39	0.40	0.29	鉄石英	赤褐	六角柱状に研磨され、上面一面に施溝が見られる。
	1547	管玉	研磨	5区	SK001	0.91	0.34	0.39	0.26	鉄石英	赤褐	四角柱状で、上面の3方に施溝が見られる。下半が折れている。
	1548	管玉	研磨	5区	SK001	0.83	0.30	0.31	0.14	鉄石英	赤褐	下端を欠損する。
	1549	管玉	研磨	5区	SK001	0.43	0.30	0.27	0.06	緑色凝灰岩	淡緑	11角柱状。下端は生きているが、上半が折れる。
	1550	管玉	研磨	5区	SK002	0.61	0.29	0.30	0.07	鉄石英	赤褐	上面表裏の2方向に施溝をもつ。研磨途中に欠損したものか。
	1551	管玉	研磨	5区	SK002	0.69	0.25	0.26	0.08	鉄石英	赤褐	下部を欠損。
	1552	管玉	研磨	5区	SK002	0.37	0.30	0.30	0.05	鉄石英	赤褐	下部を欠損。
	1553	管玉	研磨	5区	SK002	0.77	0.31	0.30	0.13	鉄石英	赤褐	11角柱状で、上半が欠損。
	1554	管玉	研磨	5区	SK002	0.83	0.25	0.23	0.08	鉄石英	赤褐	9角柱状で、上半を欠損。
	1555	管玉	研磨	5区	SK002	0.67	0.25	0.25	0.08	鉄石英	—	多角柱状で、下端も研磨されている。上半を欠損。
	1556	管玉	完成品	5区	SK001	0.40	0.40	0.33	0.07	緑色凝灰岩	白灰	上半を欠損する。
	1557	管玉	完成品	5区	SK001	0.74	0.23	0.23	0.05	緑色凝灰岩	緑	両端から穿孔を施す。
	1558	石針	完成品	5区	SK001	1.73	0.24	0.21	0.15	安山岩	灰褐	4角柱状。先端から5mm前後のところまで回転痕がみられるが、まだ断面が丸くなっていない。
	1559	石針	完成品	5区	SK001	1.30	0.15	0.16	0.05	安山岩	灰褐	4角柱状。先端に回転痕がみられ、基端も生きている。完形品。
	1560	石針	完成品	5区	SK001	0.96	0.20	0.15	0.05	安山岩	灰褐	6角柱状。先端に回転痕があり、基部も生きている。
	1561	石針	完成品	5区	SK001	0.98	0.11	0.11	0.02	安山岩	黒褐	8角柱状。先端に回転痕が見られる。
	1562	石針	完成品	5区	SK001	0.57	0.14	1.12	0.01	安山岩	灰褐	4角柱状。先端に回転痕があり、基部も生きている。
	1563	石針	完成品	5区	SK001	0.87	0.14	0.16	0.03	安山岩	黒褐	5角柱状。先端回転痕がみられる。基部にはU字状の窪みが見られ、擦切施溝の跡か。
	1564	石針	完成品	5区	SK001	0.72	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	先端に回転痕があり、かなり丸みを帯びている。基部は細くなる。
	1565	石針	完成品	5区	SK001	0.78	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられる。基部も生きているか。
	1566	石針	完成品	5区	SK001	1.19	0.18	0.14	0.04	安山岩	黒褐	6角柱状。先端に回転痕と円形の小さな空洞がみられる。
	1567	石針	完成品	5区	SK001	0.67	0.08	0.08	0.01	安山岩	黒褐	7角柱状。先端は回転により丸みを帯びる。基端も生きているか。
	1568	石針	完成品	5区	SK001	0.46	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられる。基端も生きている。
	1569	石針	完成品	5区	SK001	0.48	0.10	0.10	0.01	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられる。基端は折れている。
	1570	石針	完成品	5区	SK001	0.45	0.12	0.12	0.01	安山岩	黒褐	先端わずかに丸みを帯びる。上部は折れている。
	1571	石針	完成品	5区	SK001	0.44	0.14	0.13	0.01	安山岩	灰褐	先端に回転痕がみられる。上端は折れている。
	1572	石針	完成品	5区	SK001	0.55	0.17	0.15	0.01	安山岩	灰褐	回転痕がみられず基端部が残存するものと考えられる。下端の先端部を欠損する。
	1573	石針	完成品	5区	SK001	0.65	0.12	0.13	0.01	安山岩	灰褐	6角柱状。基端部が残存し、先端部を欠損するものか。
	1574	石針	荒割	5区	SK002	2.25	3.80	1.23	10.60	安山岩	黒褐	表面に自然面を残す。初期段階の荒割剥片。

図面番号	No.	種類	工程	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	備考
図面一八三	1575	石針	形割	5区	SK001	1.83	0.96	0.41	0.96	安山岩	黒褐	角柱状剥片。上面に一方向のみ施溝がみられる。調整剥片か。
	1576	石針	形割	5区	SK001	1.51	0.60	0.34	0.50	安山岩	黒褐	角柱状剥片。上面3方向に施溝がみられる。裏面は研磨面である。
	1577	石針	形割	5区	SK001	1.40	0.10	0.55	0.64	安山岩	黒褐	角柱状剥片。施溝はどこにも見られない。上面は自然面を残す。
	1578	石針	形割	5区	SK001	1.75	0.66	0.46	0.67	安山岩	黒褐	角柱状剥片。上面の4面に施溝がみられる。裏面の剥離は階段状に剥がれ、下半が薄くなる。
	1579	石錐	—	5区	SK001	6.26	10.45	0.79	68.47	流紋岩	白灰	角柱状剥片。全体形状は三角形をなし、2辺に刃部を形成している。刃部は太めである。
図面一九二	1746	小玉	—	6区	SI705	0.36	0.40	0.31	0.05	ガラス	青	
図面一九三	1771	管玉	荒割	7区	遺構外	2.82	1.77	1.80	10.38	緑色凝灰岩	深緑	施溝はみられず、上面に自然面を残している。
	1772	管玉	荒割	7区	遺構外	2.38	1.43	1.20	4.51	緑色凝灰岩	深緑	施溝はみられない。
	1773	管玉	形割	7区	遺構外 （調査区東側中央）	1.28	0.70	0.52	0.63	鉄石英	赤褐	角柱状剥片。上半部を欠損。施溝は確認出来ない。
	1774	石製品	剥片	7区	遺構外	1.49	1.30	0.35	0.60	メノウ	黄褐	調整剥離は行なわれていない。
	1775	石針	完成品	7区	SD207	1.37	0.16	0.16	0.20	安山岩	黒褐	先端に回転痕がみられる。

※　単位はとくに断らない限りｃｍとする。重量はｇとする。

第４表　石器

図面番号	No.	種類	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	備考
図面〇九三	1	石皿	2区	SD003	2.13	14.7	4.8	—	—	— —	— —
図面一七五	1419	磨製石鏃	4区	SI005	2.66	1.39	0.20	0.96	蛇文岩	緑	全体に丁寧に磨かれ、基部は直線的に研磨されている。
	1420	打製石鏃	4区	SI005	4.00	2.40	0.70	5.00	チャート	—	
	1421	打製石鏃	4区	SI007	2.20	1.60	0.03	1.00以下	チャート	—	
	1422	石鏃	4区	SI007	2.60	1.66	0.50	2.32	安山岩 （下呂石）	黒褐	基部に抉りをもつ尖基のもの。先端部は折れたものか。
	1423	石包丁	4区	SK026	9.52	6.96	0.71	49.57	砂岩	灰褐	下端に僅かに刃部が残されている。孔も一部残存する。両面からの穿孔である。
	1424	磨製石斧	4区	SI005	3.00	2.50	0.90	7.00	チャート	—	
	1425	磨製石斧	4区	SD001	9.30	3.90	3.20	189.00	ホルンフェルス	—	右側面の基部～刃部を欠損。
	1426	石斧	4区	SK014　Ⅰ層	3.78	5.82	4.23	167.56	砂岩	—	基部及び先端の両方を欠損する。
	1427	磨製石斧 （蛤刃）	4区	SK006　Ⅱ層	5.92	4.95	4.00	191.90	砂岩	—	基部のみ残存。
	1428	石包丁	4区	SK014	6.43	4.00	0.90	29.96	ホルンフェルス	褐	研磨により刃部を作り出している。穿孔は見られない。
	1429	磨製石斧 （片刃）	4区	SD004 南東一括	3.72	3.62	0.86	22.73	チャート	暗緑褐	刃部及び基部を欠損する。丁寧に研磨されている。
	1430	石包丁	4区	SD002	6.80	14.80	2.7	201.00	緑色凝灰岩	—	表面に自然面を残す。使用痕あり。
	1431	石剣	4区	SK037・038	15.0	3.90	1.10	94.00	ホルンフェルス	—	
図面一七六	1432	敲石	4区	SD004	12.50	5.50	3.80	418.00	ホルンフェルス	—	
	1433	砥石	4区	SD004 Ⅲ層	12.25	5.50	3.80	290.00	花崗岩	—	
	1434	磨製石斧 （片刃）	4区	遺構外	5.70	1.20	1.70	10.00	粘板岩	—	
	1435	砥石	4区	遺構外 （調査区南側）	8.80	3.50	2.85	136.19	凝灰岩	灰褐	6面とも研磨されている。左側面の傷は現代のものである。
	1436	砥石	4区	遺構外　Ⅰ層	7.13	3.99	3.50	131.42	凝灰岩	灰白	長方形の砥石で半分に欠損。
	1437	打製石斧	4区	遺構外　Ⅱ層	20.20	8.90	3.00	713.00	花崗岩	—	
	1438	石斧	4区	遺構外	9.34	7.20	2.58	264.23	凝灰岩	褐	下半部を欠損。表面は自然面であるが研磨されている。裏面も研磨が部分的に見られる。
	1439	石斧	4区	遺構外	3.37	2.96	0.78	11.28	透閃石岩	暗緑褐	小型の磨製石斧で刃部は片刃である。右側面は直線的で擦切りであろうか、左側面は礫面を反映しているのか丸みを帯びている。
	1440	石剣	4区	遺構外　Ⅱ層	4.60	4.30	1.30	27.00	砂岩	—	両端部を欠損する。
	1441	石包丁	4区	遺構外	3.76	5.73	1.00	14.43	凝灰岩	灰褐	中央に裏面から穿孔が施されている。孔の径は62mm。刃部は欠損。
	1442	磨製石斧 （蛤刃状）	4区	遺構外	11.50	5.60	3.98	425.00	砂岩	—	
	1443	石包丁	4区	遺構外	8.00	11.80	1.50	425.00	砂岩	—	丸みを帯びた二等辺三角形状で、そのうちの2辺に研磨を施している。穿孔はない。

図面番号	No.	器種	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	備考
図面一八三	1580	石包丁	5区	遺構外	6.90	7.80	1.20	89.00	砂岩	—	刃部研磨あり。孔は1ヵ所のみで、孔径35.0～9.0mm。両面から穿孔されている。
	1581	磨製石斧	5区	SK016	3.68	3.70	3.97	43.75	透閃石岩	緑灰褐	刃部、基部とも大きく欠損。丁寧に研磨された大型のものである。
	1582	打製石鏃	5区	SK016	4.60	17.50	0.70	4.50	黒色頁岩	—	
図面一九二	1744	石鏃	6区	SI703	2.64	1.04	0.44	1.11	流紋岩	乳白	石錐状のものである。基部が平坦な作りになっているので、錐の先端でなく基部とした。丁寧に調整され下部を欠損する。
	1745	石鏃	6区	SK308	2.66	1.54	0.4	1.23	白色凝灰岩	乳白	二等辺三角形で基部は抉りを持つ尖基となっている。
図面一九三	1776	石鏃	7区	遺構外	2.41	1.88	0.38	1.32	安山岩 (下呂岩)	黒褐	三角形の形状を呈し、基部はわずかに抉りを持つ。
図面一九四	1777	打製石斧	7区	遺構外	20.40	10.40	3.10	729.00	ホルンフェルス	—	刃部加工せず。
	1778	打製石斧	7区	遺構外	18.60	7.70	0.26	284.00	凝灰岩	—	刃部使用痕あり。
図面一九八	1825	打製石鏃	9区	SD003	3.60	1.80	0.50	2.00	下呂石	—	基部に抉りをもつ尖基のもの。基部を一部欠損する。
	1826	打製石鏃	9区	SD001	2.40	1.70	0.60	1.00	下呂石	—	

※　単位はとくに断らない限りｃｍとする。重量はｇとする。

第５表　木製品

図面番号	No.	種類	調査区	遺構名	長さ	幅	厚さ	備考
図面一七七	1444	小型容器	4区	SD004　Ⅱ層	12.00	10.10	5.10	内外面に薄く漆状のものが付着。
	1445	木製鎧	4区	SD004　Ⅱ層	23.95	—	—	
	1446	弓	4区	SD004　Ⅲ層	33.70	2.50	2.50	
	1447	弓	4区	SD004	72.70	2.50	2.50	弭部分の最大長約1.8cm、幅0.7cm
	1448	弓	4区	SD004　Ⅱ層	44.80	2.50	2.50	弭部分の最大長約2.1cm、幅1.0cm。全体に漆を上塗り。
	1449	棒状木製品	4区	SD004	56.00	3.70	3.30	裏表両端に加工面。
	1450	棒状木製品	4区	SD004	51.50	9.50	6.3	表裏両側面に加工痕あり。
	1451	木針	4区	SD004　Ⅲ層	31.10	2.20	1.50	表裏側面全体に加工痕。先端に直径約7.5mmの穿孔あり。
	1452	箆状木製品	4区	SD004　Ⅱ層	36.70	4.80	2.00	木取りは柾目。把手～箆先まで丁寧に加工されている。
	1453	不明木製品	4区	SD004　Ⅱ層	14.30	5.80	—	直径9mmの孔が貫かれている。下部を欠損し、全体に焼コゲる。
	1454	不明木製品	4区	SD004　Ⅱ層下位	25.40	10.20	3.30	
図面一〇一	1891	人形又は斎串	10区	SD011　Ⅳ層	13.8	2.7	0.5	
	1892	人形又は斎串	10区	SD011　砂層	11.8	1.9	0.5	
	1893	斎串	10区	SX001 黒色土(腐食)	15.1	2.1	0.5	
	1894	人形又は斎串	10区	SD011	8.2	4.5	0.4	頭頂のみ。
	1895	人形	10区	SD011	9.2	3.0	0.3	
	1896	人形	10区	SD011	20.7	6.0	0.5	
	1897	人形	10区	SD011　砂層	21.5	2.7	0.9	
	1898	斎串	10区	SD011　砂層	15.7	1.4	0.3	
	1899	斎串	11区	SD011　地山直上	16.2	1.5	0.3	
	1900	斎串	10区	SX001 黒色土(腐食)	11.2	2.4	0.3	先端のみ残存。
	1901	木簡様木製品	10区	SD011　砂層	11.8	2.6	0.7	
	1902	木簡様木製品	10区	SX001　Ⅳ層	9.2	3.0	1.1	
	1903	箸	11区	SD011　Ⅱ層	19.9	0.9	0.9	
	1904	独楽形木製品	10区	SD011　地山直上	11.7	11.6	—	
	1905	鋤先形木製品	10区	SD011	32.7	17.9	1.5	

※　単位はとくに断らない限りｃｍとする。

第6表　古代土師器・須恵器・その他

図面番号	No	種別	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面一四七	876	土師器	椀	4区	SD004	10.6	4.35	2.0	精良、極粗粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ヨコナデ、ナデ	
	877	土師器	椀	4区	SD004	12.2	4.5	—	精良、極粗粒砂少	良	暗褐 暗褐	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ、指圧痕、ケズリ	
図面一九二	1747	土師器	皿	7区	SD201	9.2	—	—	微粒砂少	良	灰黄 灰黄	— —	内外面調整不明瞭
	1748	土師器	椀	7区	SD201	13.0	4.1	5.0	中粒砂少	良	黒褐 黒褐	回転ナデ 回転ナデ	
	1749	須恵器	瓶	7区	SD202	14.6	—	—	白色石粒、微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、頸部付根にタタキ	
	1756	土師器	皿	7区	遺構外	—	—	—	微粒砂少	良	灰黄 にぶい橙	ヨコナデ ヨコナデ、指圧痕	
	1757	土師器	皿	7区	遺構外 （調査区北側）	12.0	2.5	6.4	海綿骨針少	良	にぶい黄橙 黄灰	ヨコナデ ヨコナデ、指圧痕	
	1758	須恵器	蓋	7区	遺構外	12.0	3.95	—	海綿骨針少	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1759	須恵器	杯身	7区	遺構外	12.2	—	—	白色石粒	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1761	珠洲焼	すり鉢	7区	遺構外	—	—	—	微粒砂	良	灰 灰	— ナデ	口縁外端部及び口縁外に櫛描波文
	1762	珠洲焼	すり鉢	7区	遺構外 （調査区南側中央）	—	—	—	白色石粒、微粒砂	良	黄灰 黄灰	擦目（12条1組）、回転ナデ 回転ナデ	
	1763	陶器	すり鉢	7区	遺構外	—	—	17.2	微粒砂、中粒砂少	良	暗褐 暗褐	擦目 ロクロナデ、底部糸切り	
	1764	珠洲焼	すり鉢	7区	遺構外	—	—	—	白色石粒多	良	灰 灰	擦目（11条1組） 回転ナデ、底部静止糸切りか	内面摩滅
	1765	珠洲焼	すり鉢	7区	遺構外 （調査区北側）	30.0	—	—	白色微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ、擦目 回転ナデ	
	1768	土師器	椀	7b区	遺構外	14.3	—	—	極粗粒砂少	良	明褐 黒	研磨 ヨコナデ	
	1769	灰釉陶器	椀	7b区	遺構外	—	—	6.4	微粒砂	良	— —	ヨコナデ 底部ヘラケズリ	
	1770	肥前	皿	7区	遺構外 （調査区中央）	—	—	7.4	白色石粒少	不良	浅黄橙 暗灰黄	ロクロナデ ロクロナデ	
図面一九五	1788	須恵器	蓋	8区	遺構外 （調査区中位西端）	11.4	—	—	微石粒	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
図面一九六	1789	土師器	甕	9区	SD001	18.0	—	—	砂礫多、中礫微少	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	指圧痕、ハケメ —	外面摩滅
	1790	土師器	甕	9区	SD001	19.2	—	—	細礫多、中礫少	並	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ハケメ、押圧痕 ハケメ	
	1791	土師器	甕	9区	SD001	—	—	—	砂礫多、中礫少	並	灰黄褐 灰黄褐	ハケメ、ケズリ後ナデ ハケメ、指圧痕	
	1792	土師器	甕	9区	SD001	—	—	—	細中礫、白色粒	並	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ハケメ、指圧痕 ハケメ、指圧痕	外面煤付着
図面一九七	1793	土師器	椀	9区	SD001	13.1	4.05	6.0	小粒砂少	良	橙 にぶい橙	回転ナデ 回転ナデ	
	1794	土師器	椀	9区	SD001	11.9	4.25	4.8	白色砂粒多、3.0mmの礫2個、海綿骨針	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ、ミガキ ナデ、ケズリ	口縁部外面に墨書「西家」
	1795	土師器	椀	9区	SD001	15.0	6.05	5.8	小粒砂少	良	にぶい橙 にぶい橙	回転ナデ 回転ナデ、ケズリ	
	1796	須恵器	杯	9区	SD001	—	—	9.0	微粒砂	不良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ	
	1797	須恵器	杯	9区	SD001	12.4	3.2	8.4	白色微石粒少	不良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ	
	1798	須恵器	蓋	9区	SD001	16.4	2.4	—	微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	歪みによる器形の変形箇所あり

図面番号	No.	種別	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一九七	1799	須恵器	杯	9区	SD001	—	—	7.8	微粒砂、白色粒	やや不良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ	
	1800	須恵器	杯	9区	SD001	—	—	6.4	中粒砂多	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	底外面に墨書、釈文不明
	1801	須恵器	杯	9区	SD001	16.4	7.5	9.6	微粒砂少	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1802	須恵器	壺	9区	SD001	12.0	—	—	白色微粒砂多	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1803	須恵器	杯	9区	SD003	—	—	7.2	白色粒、海綿骨針	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部ナデ	
	1804	須恵器	杯	9区	SD003	11.8	3.0	6.6	白色小粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1805	須恵器	杯	9区	SD003	12.2	3.6	6.0	微粒砂	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	回転ナデ 回転ナデ	
	1806	須恵器	杯	9区	SD003	12.6	3.3	—	微粒砂少	良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ	
	1807	須恵器	杯	9区	SD003	12.4	3.1	8.8	白色微石粒少	不良	浅黄 浅黄	回転ナデ 回転ナデ	
	1808	須恵器	杯	9区	SD003	12.4	3.1	8.6	白色小粒、微粒砂やや多	良	灰白　口縁付近灰 灰白　口縁付近灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1809	須恵器	杯	9区	SD003	12.5	3.8	—	微粒砂多	良	灰黄 灰黄～黄灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1810	須恵器	杯	9区	SD003	11.0	3.6	6.8	白色少粒	良	黄灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1811	須恵器	杯	9区	SD003	11.3	4.1	6.4	白色微粒	良	黄灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1812	須恵器	杯	9区	SD003	11.4	4.2	7.0	白色小石粒	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1813	須恵器	杯	9区	SD003	10.8	4.5	6.2	白色小石粒多	良	灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1814	須恵器	杯	9区	SD003	—	—	6.0	中粒砂少	良	黄灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ	底部外面に墨書、釈文不明
	1815	須恵器	蓋	9区	SD003	—	—	—	微粒砂	良	灰白 灰白	回転ナデ、頂はヨコナデ 回転ナデ	器表は自然釉で光沢がある
	1816	須恵器	蓋	9区	SD003	—	—	—	微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	外面に自然釉
	1817	須恵器	壺	9区	SD003	—	—	—	小粒石多	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ	外面自然釉が剥離、内部分的に自然釉
	1818	須恵器	杯	9区	遺構外	12.8	3.0	7.0	微粒砂少	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ	
	1819	須恵器	杯	9区	遺構外	—	—	7.6	微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1820	越中瀬戸	皿	9区	遺構外	—	—	5.0	白色小粒砂	良	浅黄 浅黄	回転ナデ 回転ナデ	
図面一九八	1821	土師器	甕	9区	SD001・003	9.7	—	—	粗粒砂多	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ナデ ナデ、ケズリ	人面墨書土器（3面）
	1822	土師器	甕	10区	SD011	13.8	11.7	7.3	赤色粒多	並	橙 橙	ヨコナデ ヨコナデ、底部回転糸切り	人面墨書土器（4面）
	1823	土師器	甕	10区	SD011	13.0	—	—	白砂粒少、海綿骨針	良	浅黄 浅黄	ナデ ナデ	人面墨書土器（3面か）
	1824	土師器	鍋	10ｂ区 11区	SD003 SD011	34.8	11.6	—	砂礫少	良	灰黄褐 灰黄褐	カキ目、ケズリ カキ目、ナデ、浅いケズリ	人面墨書土器（4面）
図面一九九	1827	土師器	椀	10区	SD011	13.2	4.7	4.5	小粒砂少	良	明黄褐 にぶい黄褐	回転ナデ 回転ナデ	
	1828	土師器	椀	10区	SD011	12.8	4.6	5.8	白色砂粒多	良	灰黄褐 灰黄褐	回転ナデ 回転ナデ	
	1829	土師器	甕	10区	SD011	13.0	—	—	粗粒砂	並	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ヨコナデ ヨコナデ	人面墨書土器

図面番号	No.	種別	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 (上段内面／下段外面)	調整 (上段内面／下段外面)	備考
図面一九九	1830	土師器	甕	10区	SD011	—	—	—	中粒砂多	良	にぶい橙 にぶい橙	ヨコナデ ナデ、ケズリ、沈線	人面墨書土器
	1831	須恵器	杯	10区	SD011	12.0	3.0	8.3	海綿骨針、微粒砂少	良	灰 灰～灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1832	須恵器	杯	10区	SD011	11.6	3.5	8.0	海綿骨針、微粒砂、白石粒	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1833	須恵器	杯	10区	SD011	12.0	3.5	7.7	海綿骨針、微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1834	須恵器	杯	10区	SD011	12.0	3.2	7.6	海綿骨針、小石粒、微粒砂	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	口縁部内面に油煙付着
	1835	須恵器	杯	10区	SD011	12.0	3.2	6.8	海綿骨針、微粒砂	良	灰褐～灰 灰褐～灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1836	須恵器	杯	10区	SD011	14.0	3.5	9.0	海綿骨針、微粒砂	不良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1837	須恵器	杯	10区	SD011	10.2	4.15	7.7	小粒砂小	良	黒褐 黄灰	回転ナデ 回転ナデ	底部外面にヘラ記号
	1838	須恵器	杯	10区	SD011	10.9	4.1	7.2	海綿骨針、微粒砂	良	灰 灰～灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1839	須恵器	杯	10区	SD011	13.2	3.8	8.2	海綿骨針、微粒砂やや多	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1840	須恵器	杯	10区	SD011	11.6	3.7	7.1	海綿骨針少	良	黄灰 灰、底部灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1841	須恵器	杯	10区	SD011	14.2	5.4	8.2	海綿骨針、微粒砂	良	灰 灰～灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1842	須恵器	杯	10区	SD011	14.4	6.7	6.7	白色砂粒多	良	褐灰 褐灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1843	須恵器	杯	10区	SD011	16.2	6.6	9.9	海綿骨針、微粒砂、小石粒多	不良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1844	須恵器	蓋	10区	SD011	—	—	—	海綿骨針、微粒砂少	良	黄灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1845	須恵器	蓋	10区	SD011	16.4	3.9	—	海綿骨針、微粒砂	良	灰 黄灰～灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1846	須恵器	蓋	10区	SD011	16.6	—	—	海綿骨針、微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	内面に煤付着
	1847	須恵器	鉢	10区	SD011	10.8	3.2	—	白石粒多	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	口縁部・底部外面に自然釉
	1848	須恵器	壺	10区	SD011	—	—	—	微粒砂	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ	外面自然釉剥離
	1849	珠洲焼	甕	10区	SD002	—	—	—	白色石粒多	良	暗灰、灰 暗灰、灰	ナデ 肩部タタキメ、口縁ナデ	
	1850	珠洲焼	甕	10区	SD002	—	—	—	微粒砂	不良	黄灰 黄灰	ナデ 胴部タタキメ、口縁ナデ	
	1851	珠洲焼	すり鉢	10区	SD002	—	—	—	石粒、微粒砂	良	黄灰 黄灰	回転ナデ、櫛目 回転ナデ	
	1852	珠洲焼	甕	10区	遺構外	—	—	—	微粒砂	良	黄灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ、タタキ	
図面一〇〇	1853	須恵器	蓋	10区	遺構外	—	—	—	微粒砂	良	灰 灰白	回転ナデ 回転ナデ	内面に自然釉
	1854	須恵器	蓋	10区	遺構外	11.6	—	—	海綿骨針、微粒砂	良	灰	回転ナデ 回転ナデ、頂部ヘラケズリ	
	1855	須恵器	杯	10区	遺構外	11.6	3.8	8.6	海綿骨針、微粒砂少	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1856	珠洲焼	甕	10区	遺構外　Ⅰ層	—	—	—	微粒砂少	良	灰白～灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	内外面にうすく自然釉
	1857	珠洲焼	甕	10区	遺構外　Ⅰ層	—	—	—	微粒砂多	良	灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ	内外面に自然釉、口唇部に研磨痕状のものあり
	1858	須恵器	杯	11区	SD011	—	—	6.4	白色砂粒少	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	底部外面に墨書「主」

図面番号	No	種別	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面〇〇	1859	須恵器	杯	11区	SD011	10.0	3.1	—	白石粒	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1860	須恵器	杯	11区	SD011	10.6	3.2	6.4	微粒砂	良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ、底部ヘラ切り	外面に篠付着
	1861	須恵器	杯	11区	SD011	12.3	3.3	7.2	海綿骨針、微粒砂やや多	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1862	須恵器	杯	11区	SD011	11.8	3.2	7.6	白色石粒、微粒砂	良	灰白～灰（上位） 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1863	須恵器	杯	11区	SD011	—	—	6.4	微粒砂多	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1864	須恵器	杯	11区	SD011	12.4	3.5	7.0	海綿骨針、微粒砂	不良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1865	須恵器	杯	11区	SD011	—	—	6.0	微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1866	須恵器	杯	11区	SD011	11.4	2.7	6.8	白色石粒少、海綿骨針	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部ヘラ切り	
	1867	須恵器	杯	11区	SD011	—	—	7.4	微粒砂やや多	良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1868	須恵器	杯	11区	SD011	12.4	3.1	7.2	白色石粒多	良	灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	内面炭が付着
	1869	須恵器	杯	11区	SD011	11.8	—	—	海綿骨針、微粒砂	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部ヘラ切り	
	1870	須恵器	杯	11区	SD011	12.6	3.1	7.4	海綿骨針、微粒砂	良	灰 灰～灰（上位）	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1871	須恵器	蓋	11区	SD011	8.0	—	—	白色石粒やや多、微粒砂	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	回転ナデ、頂部ヨコナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	
	1872	須恵器	蓋	11区	SD011	20.4	—	—	微粒砂、白色石粒	良	黄灰 灰	頭部ナデ、肩部タタキ 頭部ナデ、肩部タタキ	
	1873	須恵器	壺	11区	SD011	—	—	—	白色石粒多、微粒砂	良	白色石粒多、灰白 灰	回転ナデ 回転ナデ	肩部外面の自然釉剥離
	1874	須恵器	壺	11区	SD011	—	—	11.2	白色石粒多	良	灰 灰～灰	ナデ ヘラケズリ	
	1875	土師器	皿	11区	SD010	8.0	2.1	3.5	微粒砂やや多	良	にぶい橙 にぶい橙	回転ナデ、底部ヨコナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	口縁部に油煙付着
	1876	須恵器	蓋	11区	SD010	14.4	—	—	微粒砂少	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、底部ヘラ切り	
	1877	須恵器	杯	11区	SD010	11.7	3.4	8.6	白色石粒少、微粒砂	良	浅黄 浅黄	回転ナデ 回転ナデ、底部ヘラ切り	
	1878	珠洲焼	壺	11区	SX001	4.2	2.5	—	微粒砂	良	灰 灰	— —	線刻、底面ケズリ
	1879	土師器	皿	11区	遺構外	7.2	1.4	—	粉質	良	橙～橙 にぶい橙～橙	ヨコナデ ヨコナデ	
	1880	土師器	皿	11区	遺構外	8.5	1.9	—	海綿骨針、微粒砂小	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	回転ナデ 回転ナデ、底部指圧痕	口縁部に油煙付着
	1881	土師器	皿	11区	遺構外	11.8	3.0	5.8	微粒砂やや多	良	浅黄橙 浅黄橙	回転ナデ 回転ナデ	
	1882	須恵器	蓋	11区	遺構外	13.0	—	—	海綿骨針、微粒砂	良	灰白～灰 灰白～灰	回転ナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	
	1883	須恵器	蓋	11区	遺構外	14.6	—	—	白色微粒やや多	良	灰 灰、口縁部暗オリーブ 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1884	須恵器	蓋	11区	遺構外	—	—	—	微粒砂少	良	灰 灰～暗灰	回転ナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	
	1885	須恵器	杯	11区	遺構外	—	—	7.3	白色粒、微粒砂	良	灰白 灰白	回転ナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	
	1886	須恵器	杯	11区	遺構外	12.4	3.7	7.0	微粒砂少	良	灰黄 灰黄	回転ナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	
	1887	須恵器	杯	11区	遺構外	11.2	3.1	5.8	白色石粒やや多、海綿骨針	良	灰 灰～灰	回転ナデ、底部ヨコナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	

図面番号	No.	種別	器種	調査区	遺構名	口径 全長	器高 幅	底径 厚さ	胎土	焼成	色調 （上段内面／下段外面）	調整 （上段内面／下段外面）	備考
図面100	1888	須恵器	杯	11区	遺構外	13.2	3.1	7.9	微粒砂、海綿骨針	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1889	須恵器	壺又は鉢	11区	遺構外	—	—	—	白色礫、微粒砂多	良	灰 灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1890	瀬戸	おろし皿	11区	遺構外	—	—	—	微粒砂	良	灰黄 灰黄	おろし目 回転糸切り	
図面101	1906	銭貨	皇宋通寶	11区	SD011	2.4	2.4	0.1	—	—	— —	— —	
	1907	鉄滓	鉄滓	11区	SD011	5.7	3.9	2.2	—	—	— —	— —	重量 26.1 g
	1908	須恵器	杯	12区	SD039	11.1	—	—	微粒砂極少	良	黄灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ	
	1909	須恵器	杯	12区	SD039	11.2	4.0	6.1	白色石粒、微粒砂	良	黄灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1910	須恵器	杯	12区	遺構外	—	—	7.6	白色石粒、微粒砂	良	黄灰 黄灰～灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1911	須恵器	杯	12区	遺構外	—	—	7.6	白色石粒、海綿骨針	良	灰白 褐灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1912	須恵器	杯	12区	遺構外	—	—	7.9	微粒砂少	良	灰黄褐（厚く自然釉） 褐灰	回転ナデ 回転ナデ、底部回転ヘラ切り	
	1913	須恵器	壺	12区	遺構外	17.0	—	—	微粒砂少	良	黄灰 黄灰	回転ナデ 回転ナデ、頂部回転ヘラ切り	口縁部外面に自然釉
	1914	陶器	椀	12区	遺構外	—	—	—	微粒砂	良	黄褐 黄褐	ロクロナデ ロクロナデ	
	1915	陶器	壺	12区	遺構外	—	—	5.4	微粒砂やや少	良	赤灰 赤灰	ロクロナデ ロクロナデ、底部回転糸切り	

※　単位はとくに断らない限りｃｍとする。

※　本書では須恵器出現期以降の土師器から古代土師器としている。

報　告　書　抄　録

ふりがな	いしなせえーいせきちょうさほうこく
書名	石名瀬A遺跡調査報告
副署名	県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第24冊
屋外調査担当者	山口辰一
報告書編集者	根津明義　田上和彦　阿原智子
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933-8601　富山県高岡市広小路7番50号　　TEL　0766-20-1463
発行年月日	西暦2012年3月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
石名瀬A遺跡	富山県 高岡市 和田	016202	202163	36° 43′ 36″	136° 59′ 7″	050614 ～ 210331	36,775㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石名瀬A遺跡	散布地	弥生中期 古墳前期 古代 中世	弥生・古墳竪穴住居　弥生方形周溝墓　掘立柱建物　古代河川跡　古代畝状遺構　古代溝状遺構　古代土坑　古代ピット	弥生土器　弥生玉作関連遺物　古墳土師器　古代土師器　古代須恵器　古代人面墨書土器　古代墨書土器　古代斎串	

高岡市埋蔵文化財調査報告　第24冊

石名瀬A遺跡調査報告

―県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査―

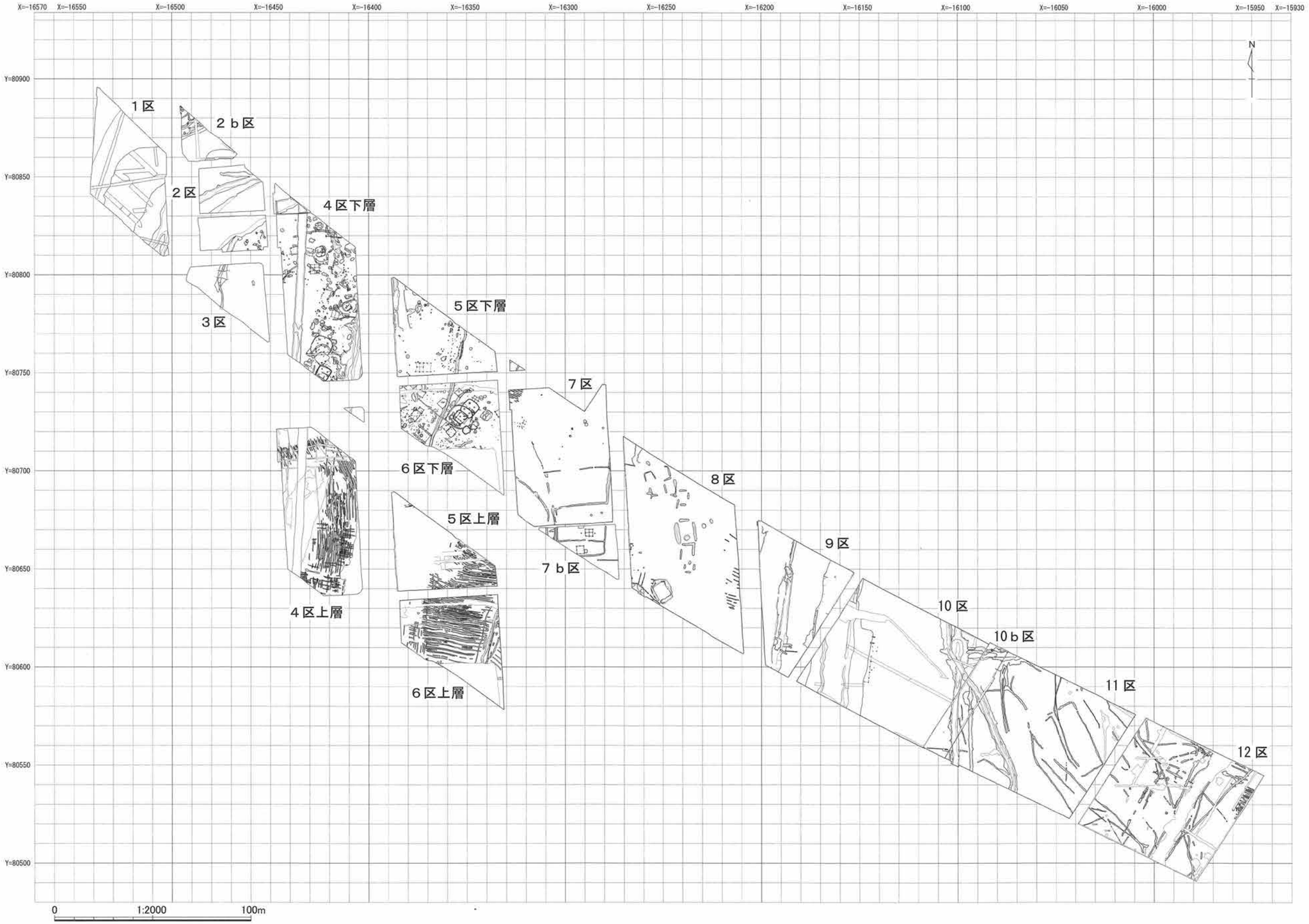
2012年3月

発行者　高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

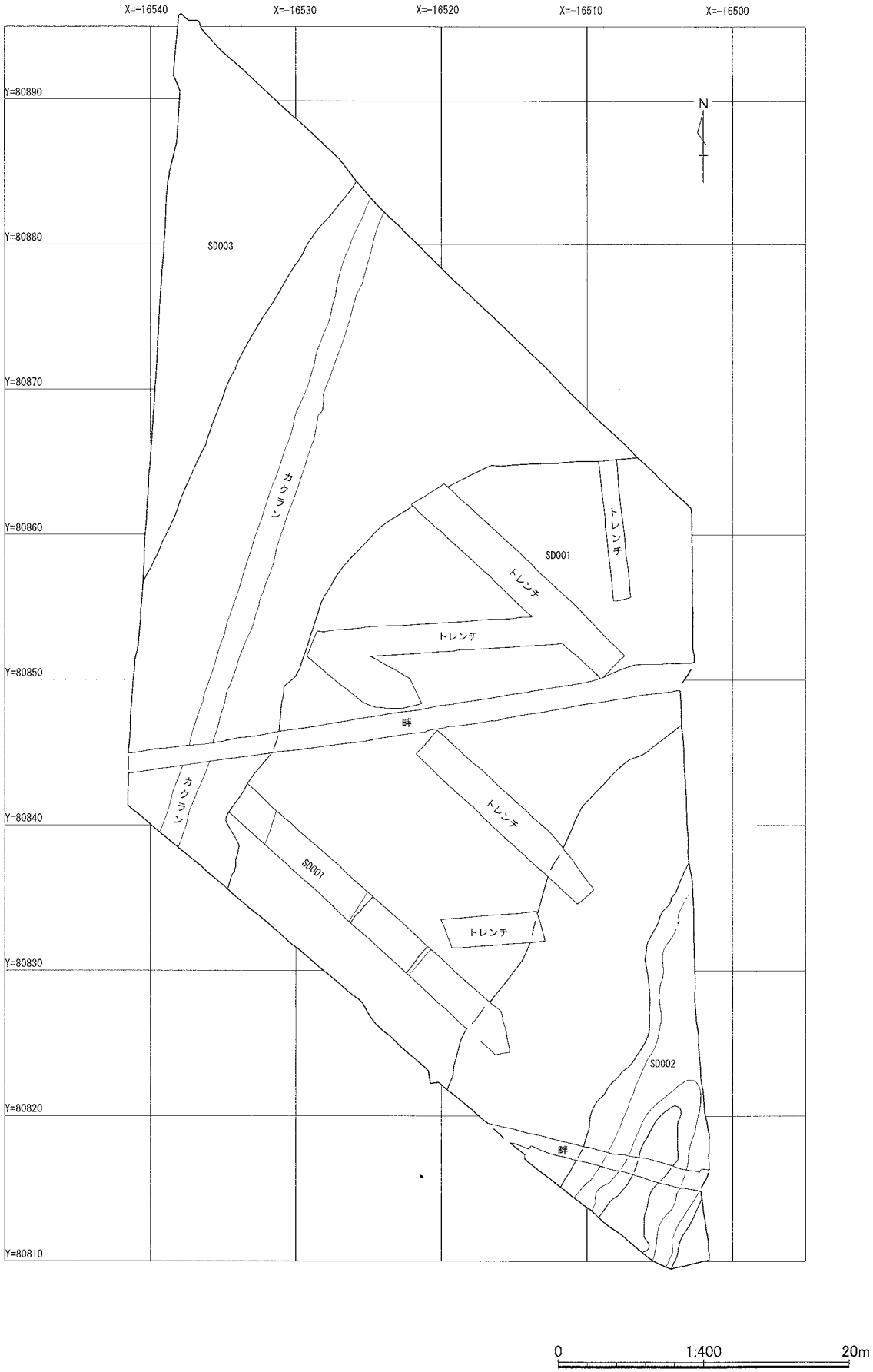
印刷所　キクラ印刷株式会社

富山県高岡市樋詰48-2



1区～12区遺構全体図　縮尺1／2000

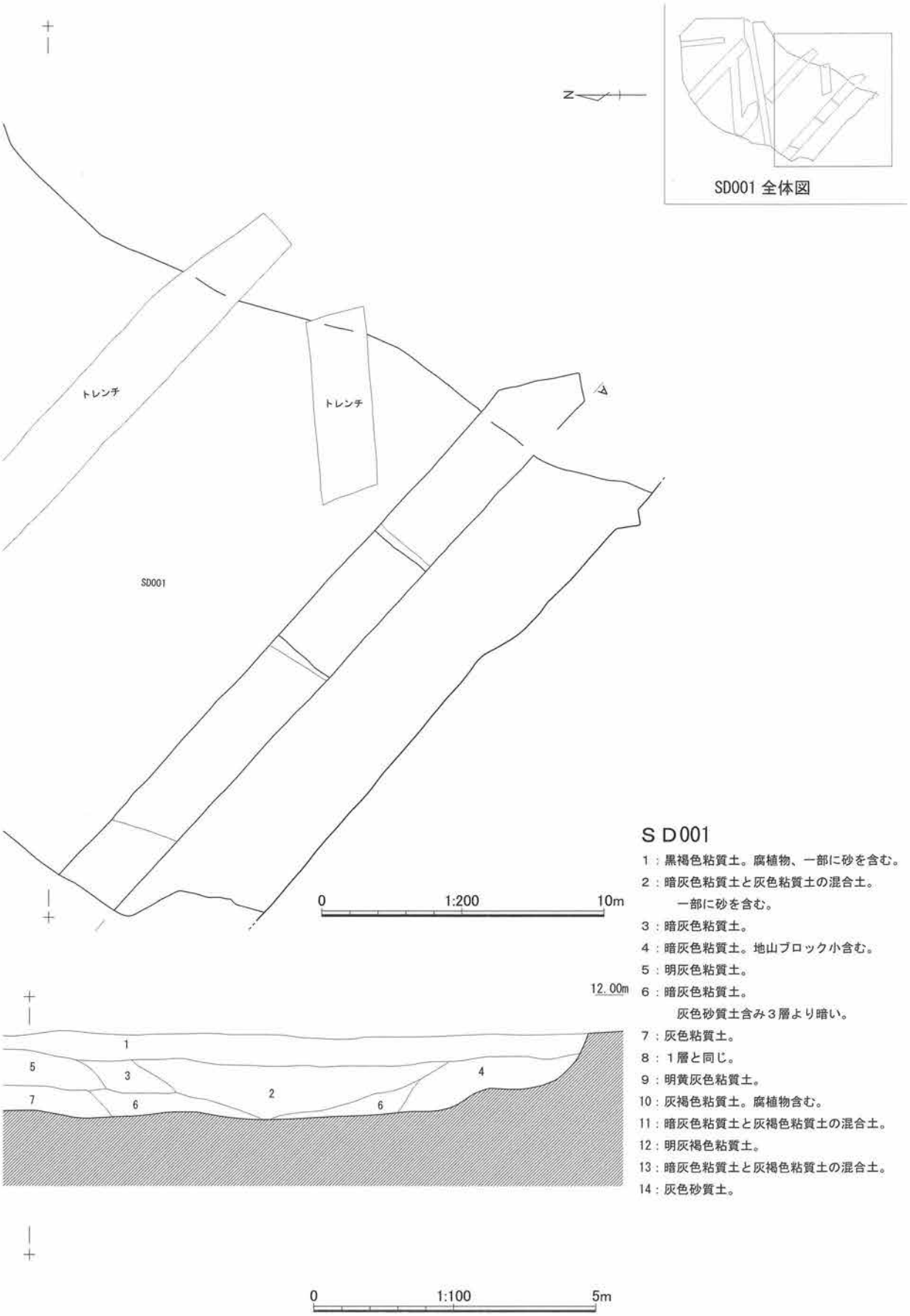
図面〇〇二　遺構実測図（1区）



1区 遺構全体図　縮尺 1/400

図面〇〇三　遺構実測図（1区）

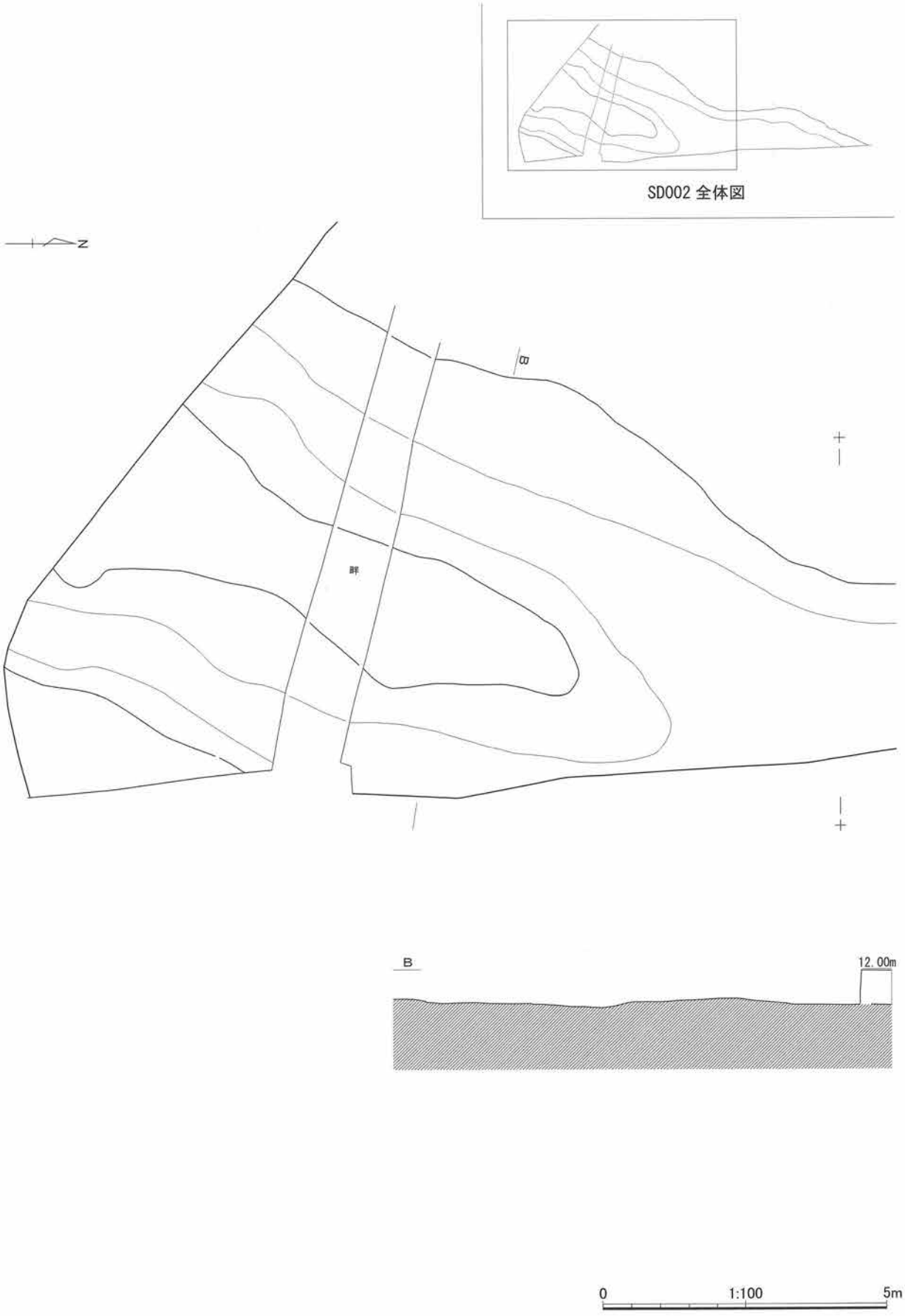
1区 溝 SD001 実測図〔1〕 縮尺 1/200、1/100



ＳＤ001

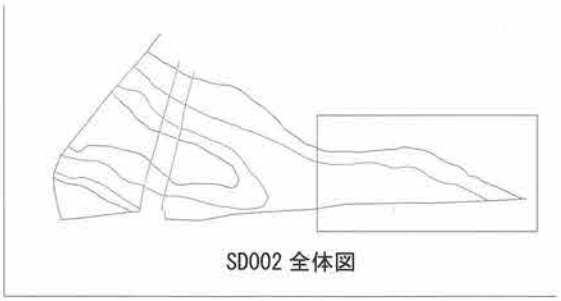
1：黒褐色粘質土。腐植物、一部に砂を含む。
2：暗灰色粘質土と灰色粘質土の混合土。
　一部に砂を含む。
3：暗灰色粘質土。
4：暗灰色粘質土。地山ブロック小含む。
5：明灰色粘質土。
6：暗灰色粘質土。
　灰色砂質土含み３層より暗い。
7：灰色粘質土。
8：１層と同じ。
9：明黄灰色粘質土。
10：灰褐色粘質土。腐植物含む。
11：暗灰色粘質土と灰褐色粘質土の混合土。
12：明灰褐色粘質土。
13：暗灰色粘質土と灰褐色粘質土の混合土。
14：灰色砂質土。

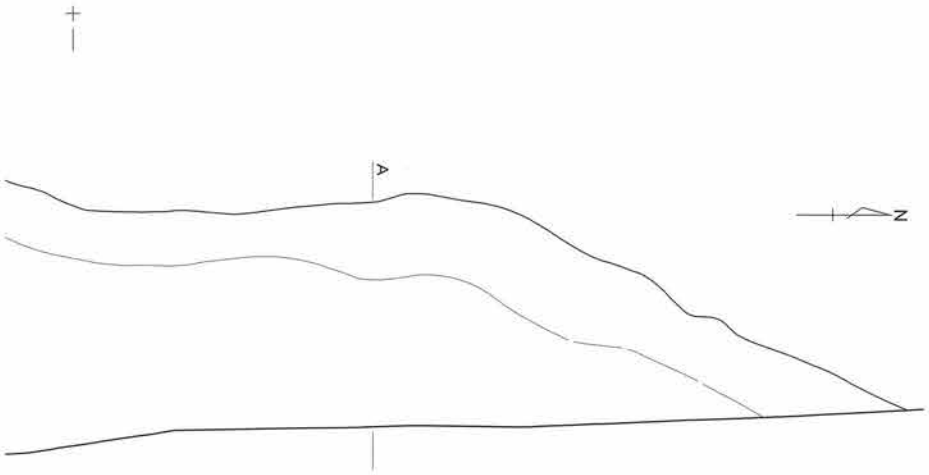
1区 溝 SD001 実測図〔2〕 縮尺 1/200、1/100

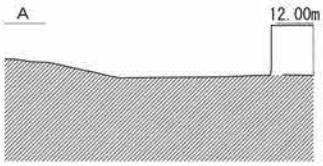


1区 溝 SD002 実測図〔1〕 縮尺1／100

図面〇〇六　遺構実測図（1区）







0　1:100　5m

1区 溝 SD002 実測図〔2〕 縮尺 1/100

図面〇〇七　遺構実測図（２区・２ｂ区）

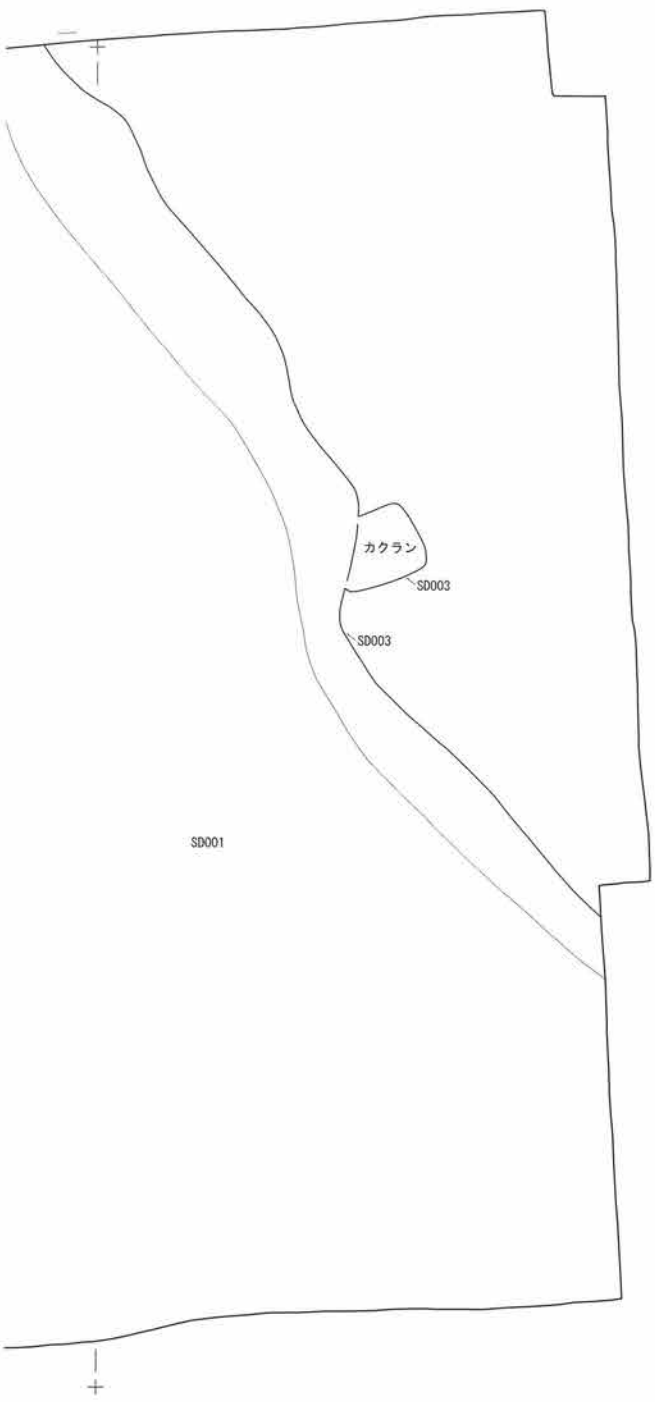
0　1:400　20m

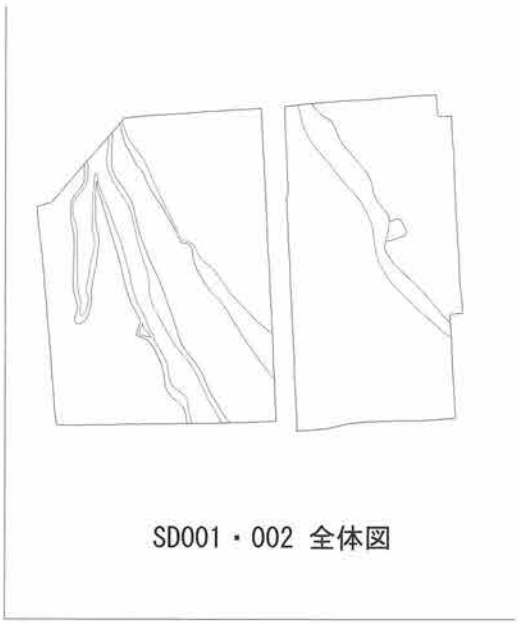
２区・２ｂ区 遺構全体図　縮尺１／400

図面〇〇八　遺構実測図（２区）

２区 溝 SD001・SD002 実測図〔1〕 縮尺１／200、１／100

図面〇〇九　遺構実測図（2区）

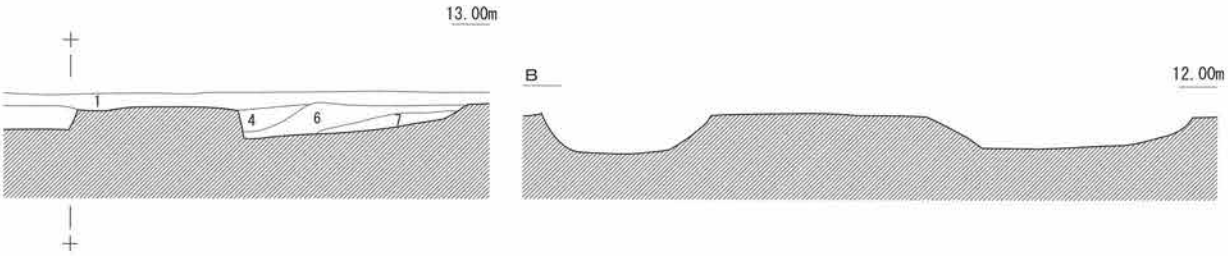




SD001A

1：表土。
2：灰色粘質土。礫含む。
3：灰色粘質土。礫含む。
4：灰色粘質土。植物根・礫含む。
5：暗灰色粘質土・黒色粘質土・明黄灰色粘質土の混合土。
6：暗灰色粘質土。
7：明黄灰砂質土・暗灰色粘質土の混合土。
8：灰色粘質土。
9：明灰色粘質土。
10：明灰色粘質土・明黄灰色粘質土の混合土。
11：黒色粘質土。
12：暗灰色粘質土。
13：明灰黄色粘質土。（地山）

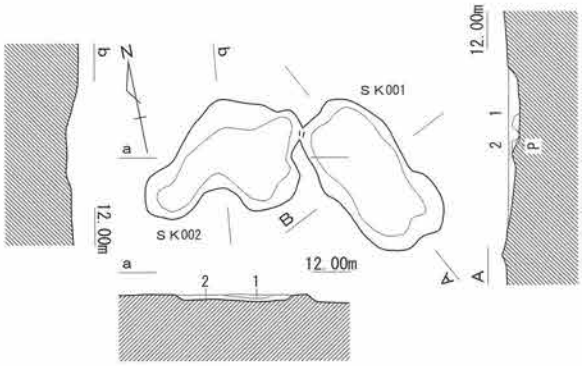
0　1:200　10m



0　1:100　5m

2区 溝 SD001・SD002 実測図〔2〕 縮尺1／200、1／100

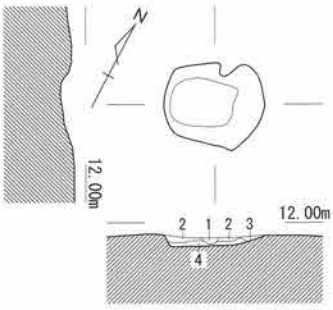
図面〇一〇　遺構実測図（２区）



SK001A・B　SK002a・b

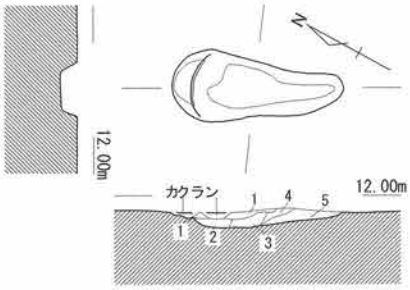
1：暗灰色粘質土。
2：灰色砂質土。

1：暗灰色粘質土。
2：灰色砂質土。



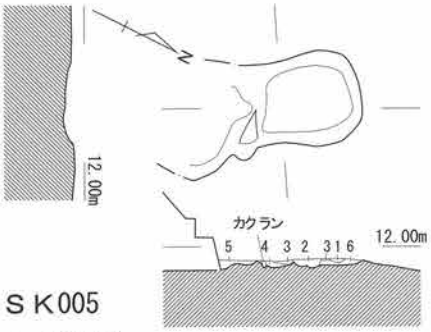
SK003

1：暗灰色粘質土。
2：灰色粘質土。
3：灰色粘質土と暗灰色粘質土の混合土。
4：灰色粘質土。



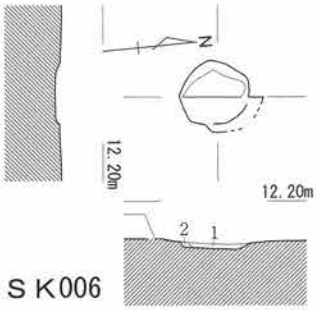
SK004

1：暗灰色砂質土。
2：暗灰色砂質土と黄灰色砂質土の混合土。
3：暗灰色砂質土と黄色砂質土の混合土。
4：灰色砂質土。
5：明灰色砂質土。



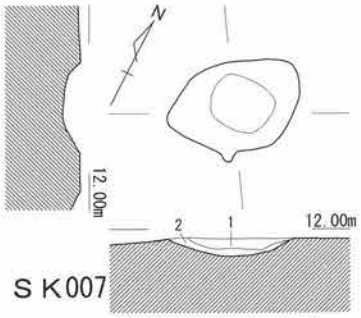
SK005

1：灰色粘質土。
2：暗灰色粘質土と黒褐色粘質土の混合土。
3：暗灰色粘質土。
4：灰色粘質土。
5：灰色粘質土。
6：灰色砂質土。



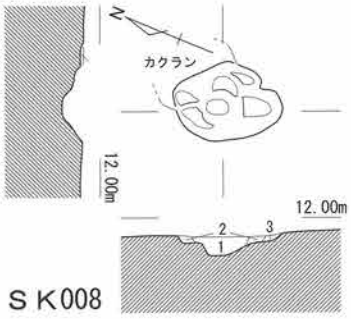
SK006

1：暗灰色粘質土。
2：灰色砂質土と地山の混合土。



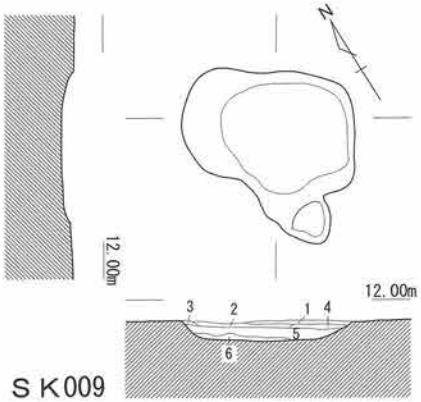
SK007

1：灰色砂質土。
2：明灰色砂質土。



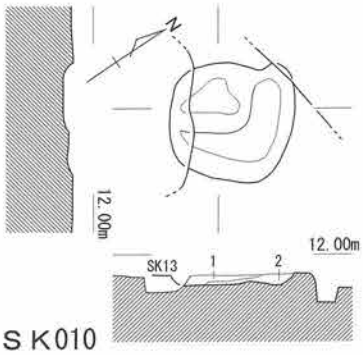
SK008

1：灰色砂質土。
2：灰色砂質土と黄灰色砂質土の混合土。
3：黄灰色砂質土。



SK009

1：灰色砂質土。
2：灰色砂質土と黄灰色砂質土の混合土。
3：黄灰色粘質土。
4：黄灰色砂質土。
5：暗灰色砂質土。
6：明灰砂質土。



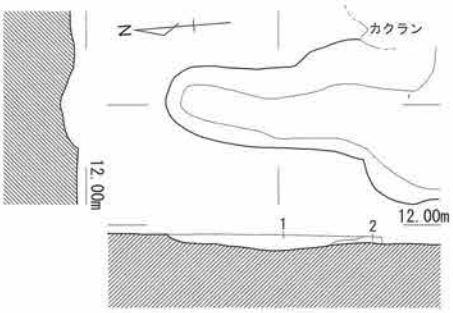
SK010

1：灰色砂質土。
2：明灰色砂質土。

0　1:80　4m

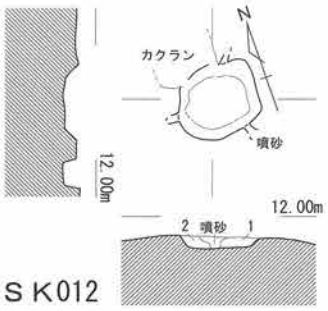
２区 土坑 SK001 ～ SK010 実測図　縮尺１／80

図面〇一一　遺構実測図（2区・2b区）



SK011

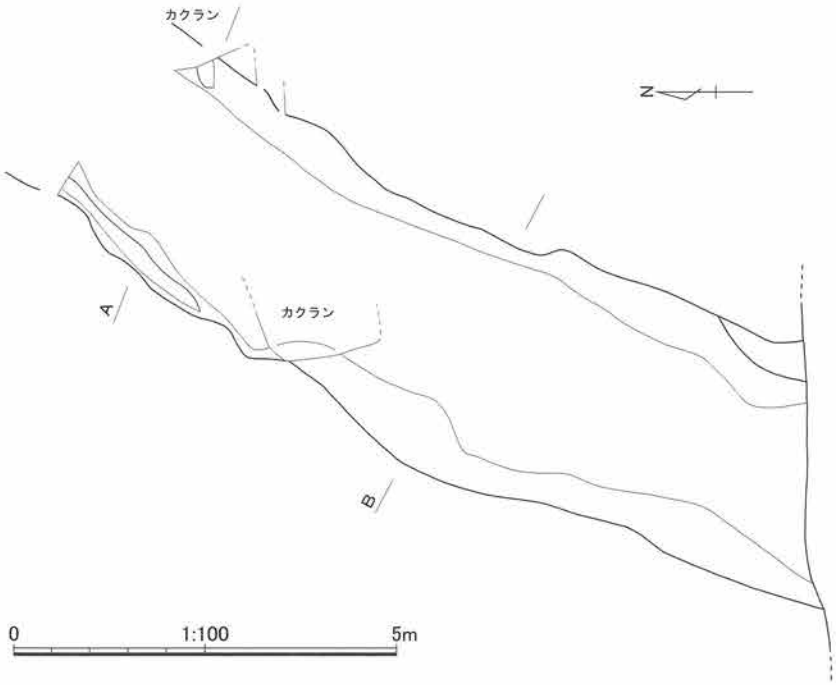
1：灰色砂質土。
2：灰色砂質土と黄灰色砂質土の混合土。

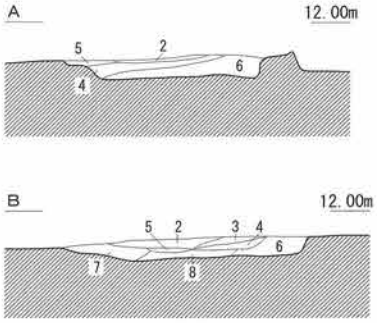


SK012

1：黒色粘質土。
2：暗灰色砂質土。

0　1:80　4m



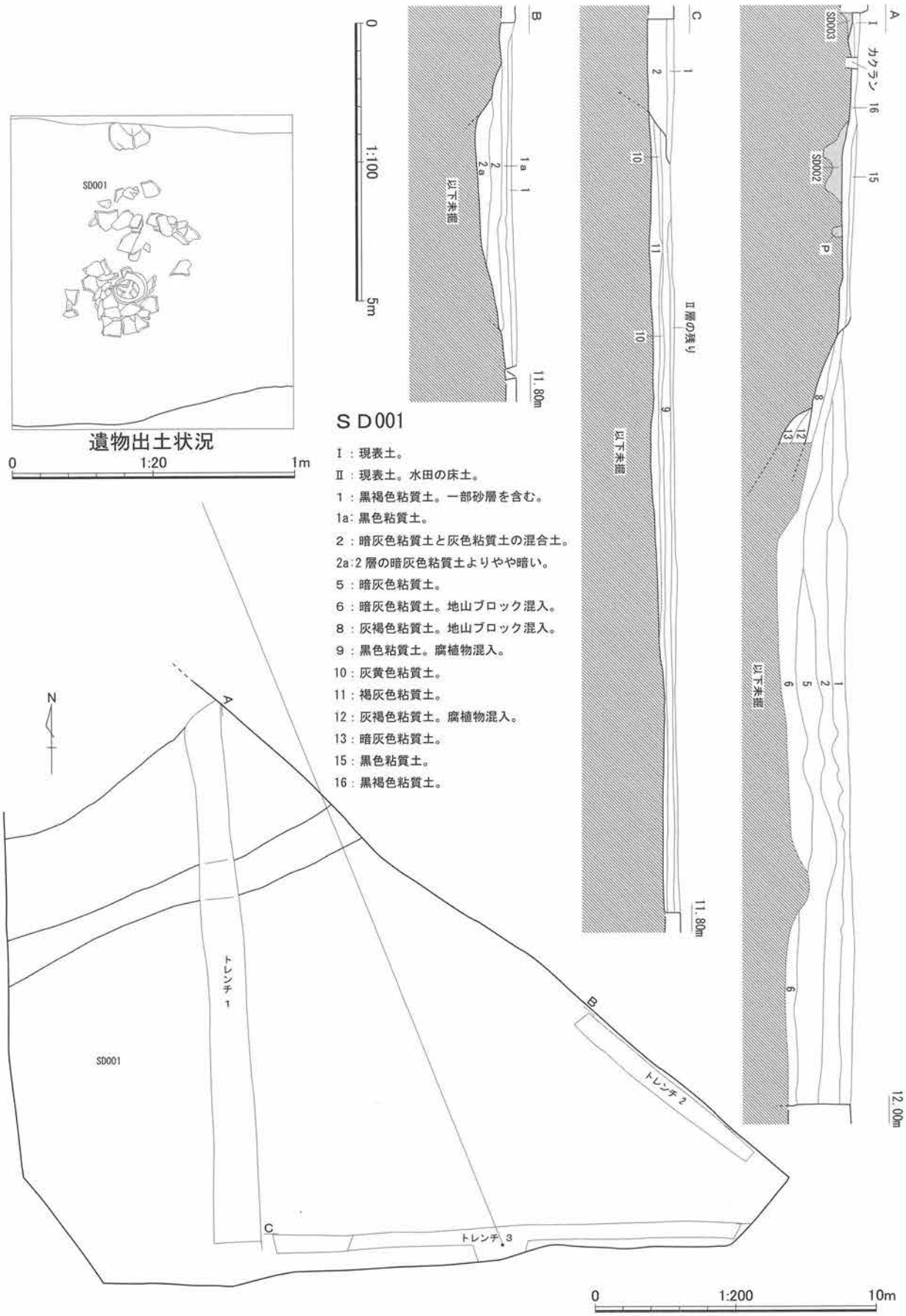


SD003A・B

2：黒褐色粘質土と暗灰色粘質土の混合土。
3：暗灰色粘質土。
4：灰褐色粘質土。
5：暗灰色粘質土。
6：明灰褐色粘質土。
7：灰色粘質土。
8：灰色砂質土。礫含。

2区 土坑SK011・SK012、溝SD003実測図　縮尺1／80、1／100

図面〇一二　遺構実測図（２ｂ区）

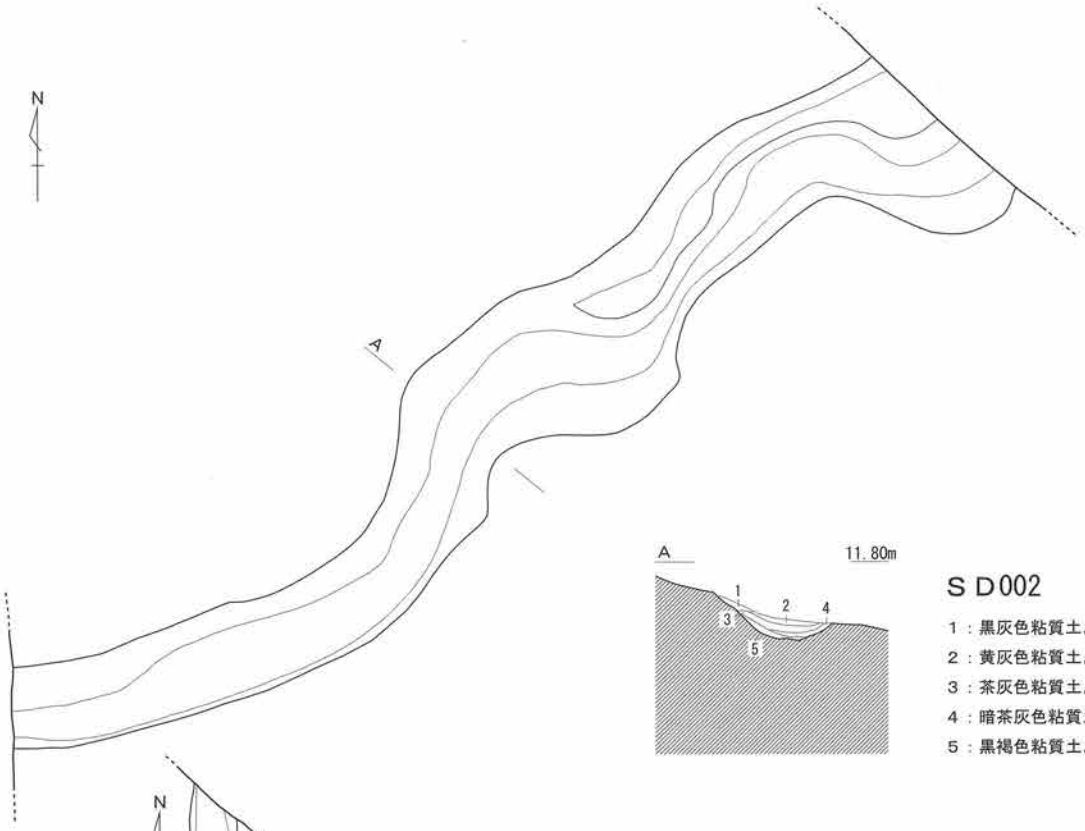


ＳＤ001

Ⅰ：現表土。
Ⅱ：現表土。水田の床土。
1：黒褐色粘質土。一部砂層を含む。
1a：黒色粘質土。
2：暗灰色粘質土と灰色粘質土の混合土。
2a：2層の暗灰色粘質土よりやや暗い。
5：暗灰色粘質土。
6：暗灰色粘質土。地山ブロック混入。
8：灰褐色粘質土。地山ブロック混入。
9：黒色粘質土。腐植物混入。
10：灰黄色粘質土。
11：褐灰色粘質土。
12：灰褐色粘質土。腐植物混入。
13：暗灰色粘質土。
15：黒色粘質土。
16：黒褐色粘質土。

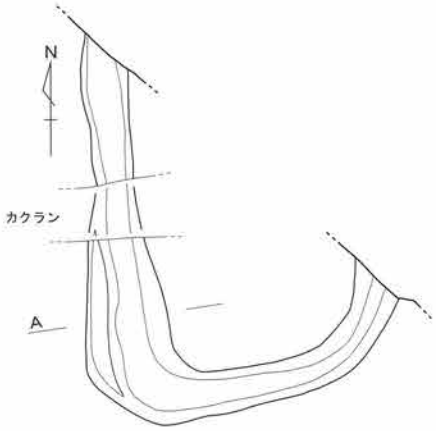
２ｂ区 溝 SD001 実測図　縮尺１／20、１／100、１／200

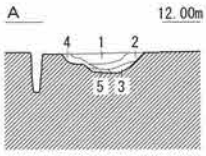
図面〇一三　遺構実測図（２ｂ区）



ＳＤ002

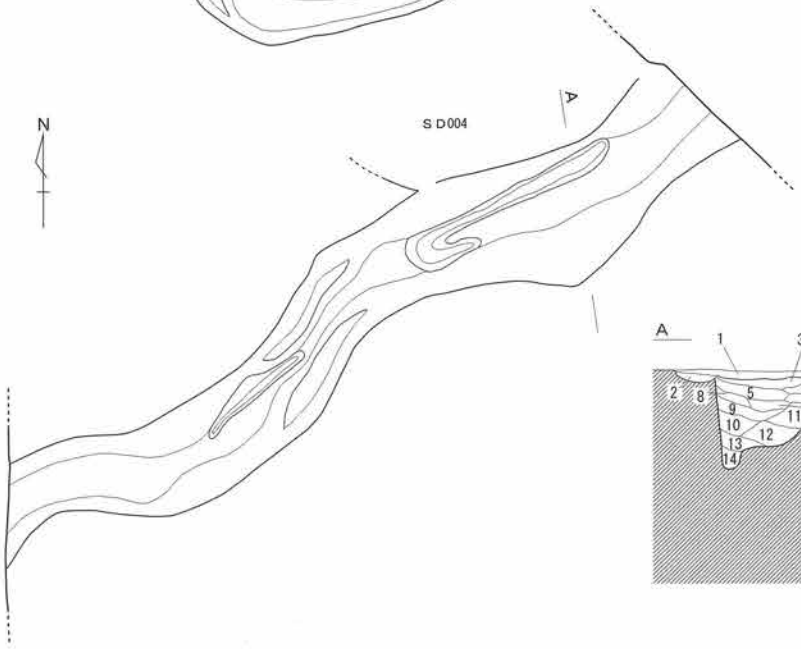
１：黒灰色粘質土。植物遺体含む。
２：黄灰色粘質土。
３：茶灰色粘質土。植物遺体含む。
４：暗茶灰色粘質土。植物遺体含む。
５：黒褐色粘質土。植物遺体含む。

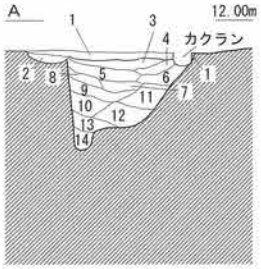




ＳＤ004

１：黒褐色粘質土。
２：淡黒灰色粘質土。
３：淡黒灰色粘質土。
４：淡黒灰色粘質土。
５：淡黒灰色砂質土。





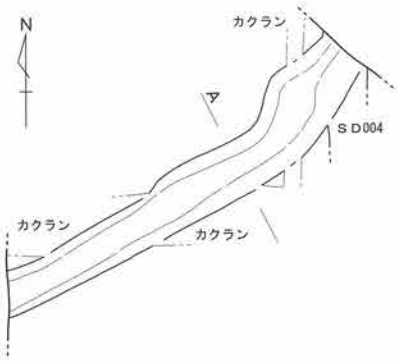
ＳＤ003

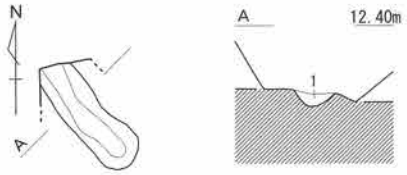
１：SD001 最終覆土。
２：SD004 覆土。
３：黒褐色粘質土。
４：灰褐色粘質土。
５：オリーブ黒色粘質土。
６：灰黄色粘質土。
７：黒色粘質土。炭化物微量混入。
８：灰黄色粘質土。
９：黒褐色粘質土。
10：黄灰色粘質土。
11：浅黄灰色粘質土。
12：黄灰色粘質土。
13：浅黄色粘質土。
　一部黒色粘質土が下に積る。
14：黒色粘質土。板跡。

0　1:80　4m

２ｂ区 溝 SD002 ～ SD004 実測図　縮尺１／80

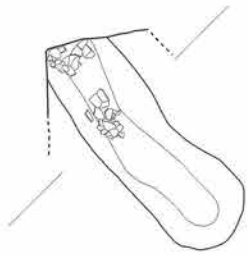
図面〇一四　遺構実測図（２ｂ区）





ＳＤ006

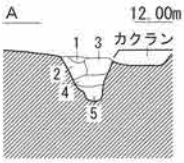
１：灰褐色粘質土。炭化物多少混入。
　　玉片・土器含む。



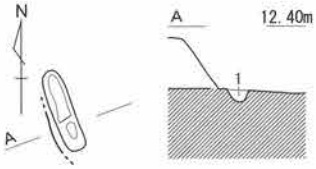
ＳＤ006遺物出土状況

0　1:40（出土状況図）　2m

ＳＤ005

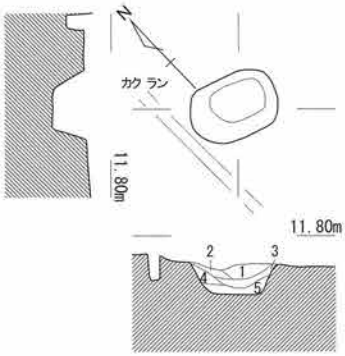


１：淡黒灰色粘質土。
２：黄灰色粘質土。
３：黒褐色粘質土。
４：黒褐色粘質土。
５：黄灰色粘質土。



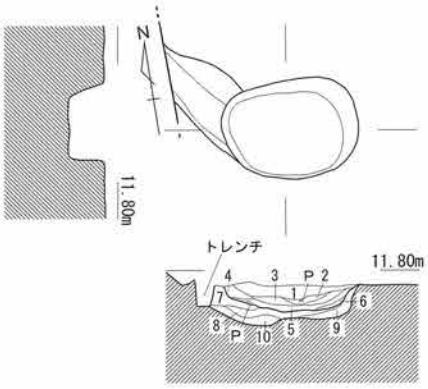
ＳＤ007

１：黒灰色粘質土。



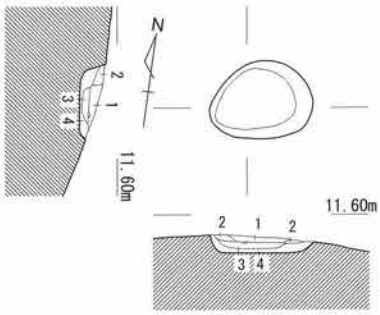
ＳＫ001

１：黒褐色粘質土。
２：黒褐色粘質土。
３：黒褐色粘質土。
４：黒褐色粘質土。
５：黒褐色粘質土と黄灰色粘質土の互層。
　　炭化物少量混入。



ＳＫ002

１：灰褐色粘質土。炭化物多量混入。
２：火床面（２次）。炭化物多量混入。土器片含む。
３：灰褐色粘質土。炭化物混入。
４：暗黄灰色砂質土。炭化物少量混入。
５：火床面（１次）。３と同じ。
６：暗黄灰色砂質土。炭化物多量混入。
７：灰褐色砂質土。
８：暗黄灰色砂質土。炭化物多量混入。
９：暗黄灰色砂質土。炭化物少量混入。
10：灰褐色砂質土。炭化物微量混入。



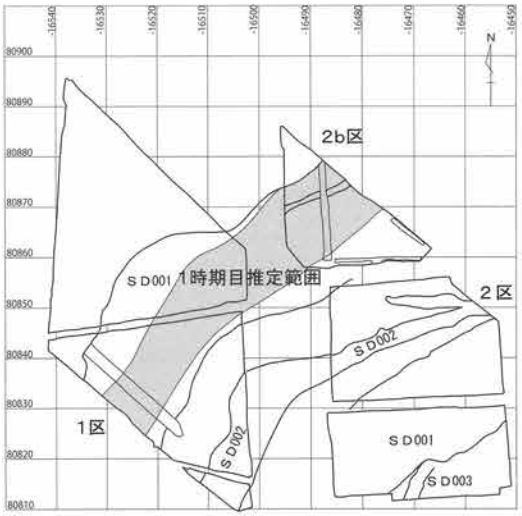
ＳＫ003

１：暗灰色粘質土。炭化物・焼土・土器多量混入。
２：暗緑灰色粘質土。炭化物少量混入。
３：暗灰色粘質土。炭化物多量混入。
４：緑灰色粘質土。炭化物少量混入。

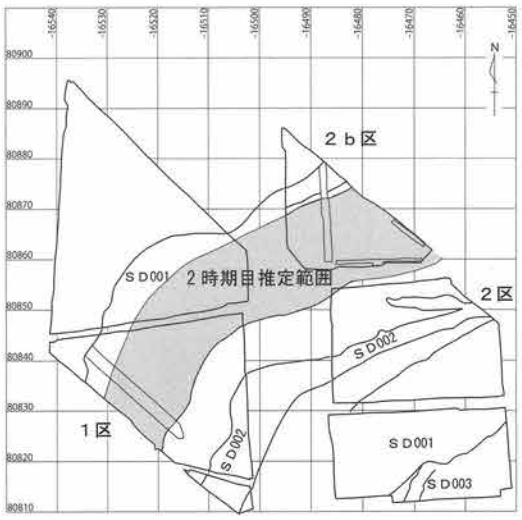
0　1:80　4m

２ｂ区 溝 SD005 ～ SD007、土坑 SK001 ～ SK003 実測図　縮尺１／80、１／40

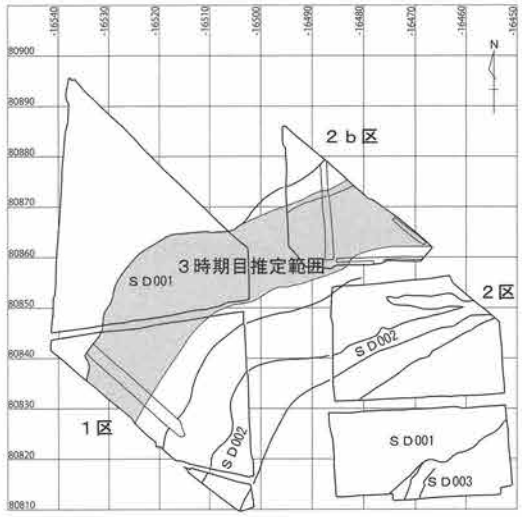
図面〇一五　遺構実測図（1区・2区・2b区）



1時期目の河川範囲



2時期目の河川範囲

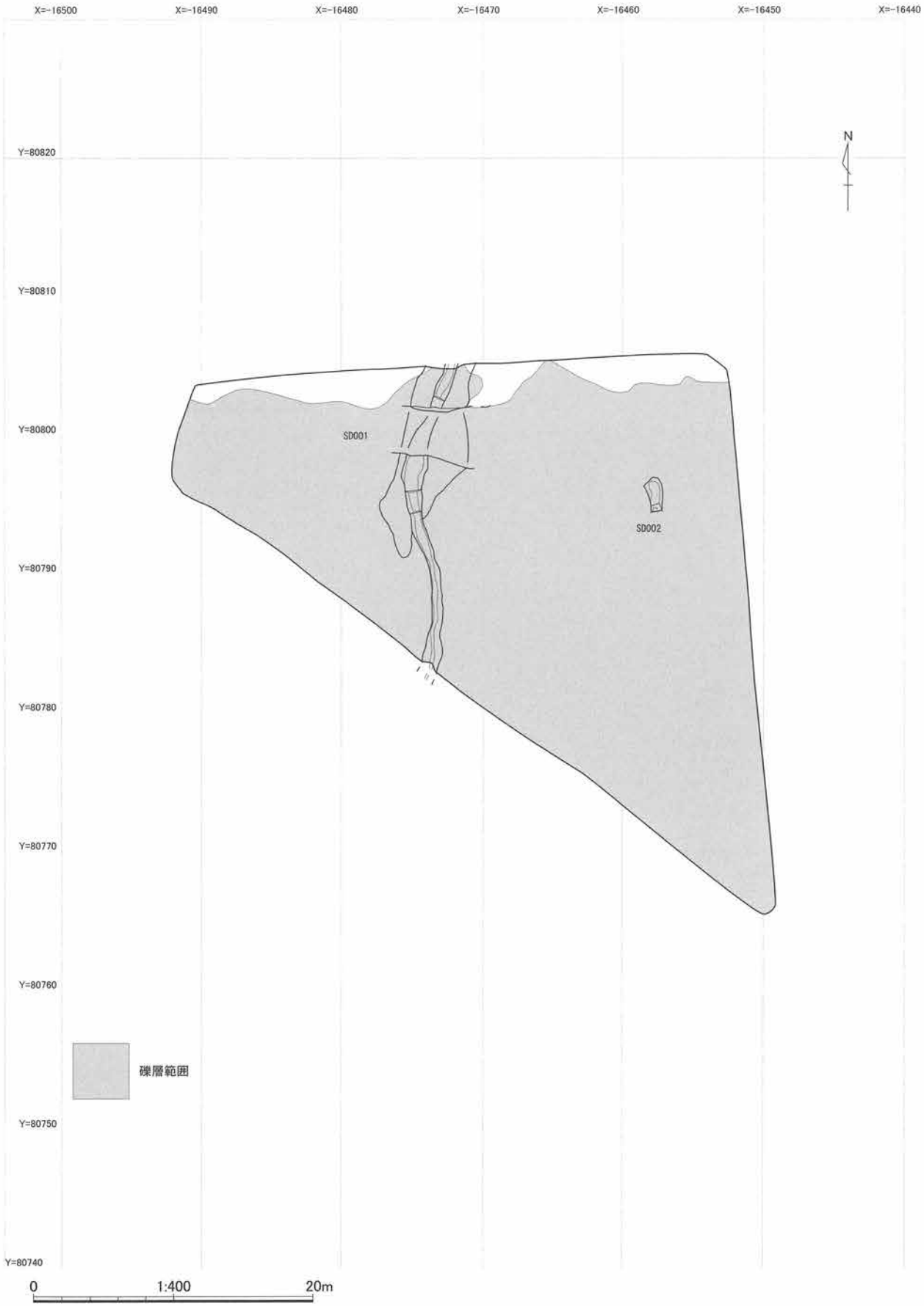


3時期目の河川範囲

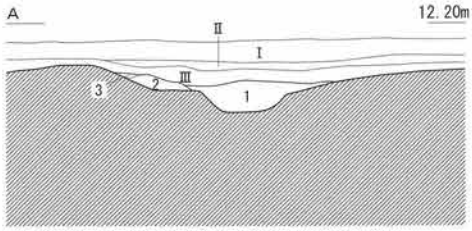
0　1:1500　75m

1区・2区・2b区 河川範囲変遷図　縮尺1／1500

図面〇一六　遺構実測図（３区）



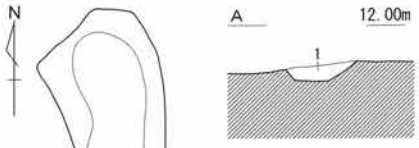
３区 遺構全体図　縮尺１／400



ＳＤ001

Ⅰ：現表土。
Ⅱ：礫層。
Ⅲ：黒色粘質土。
１：灰色砂質土。小礫混入。（SD001）
２：明灰色砂質土。（SD001）
３：礫層。（SD001）

0　1:80　4m

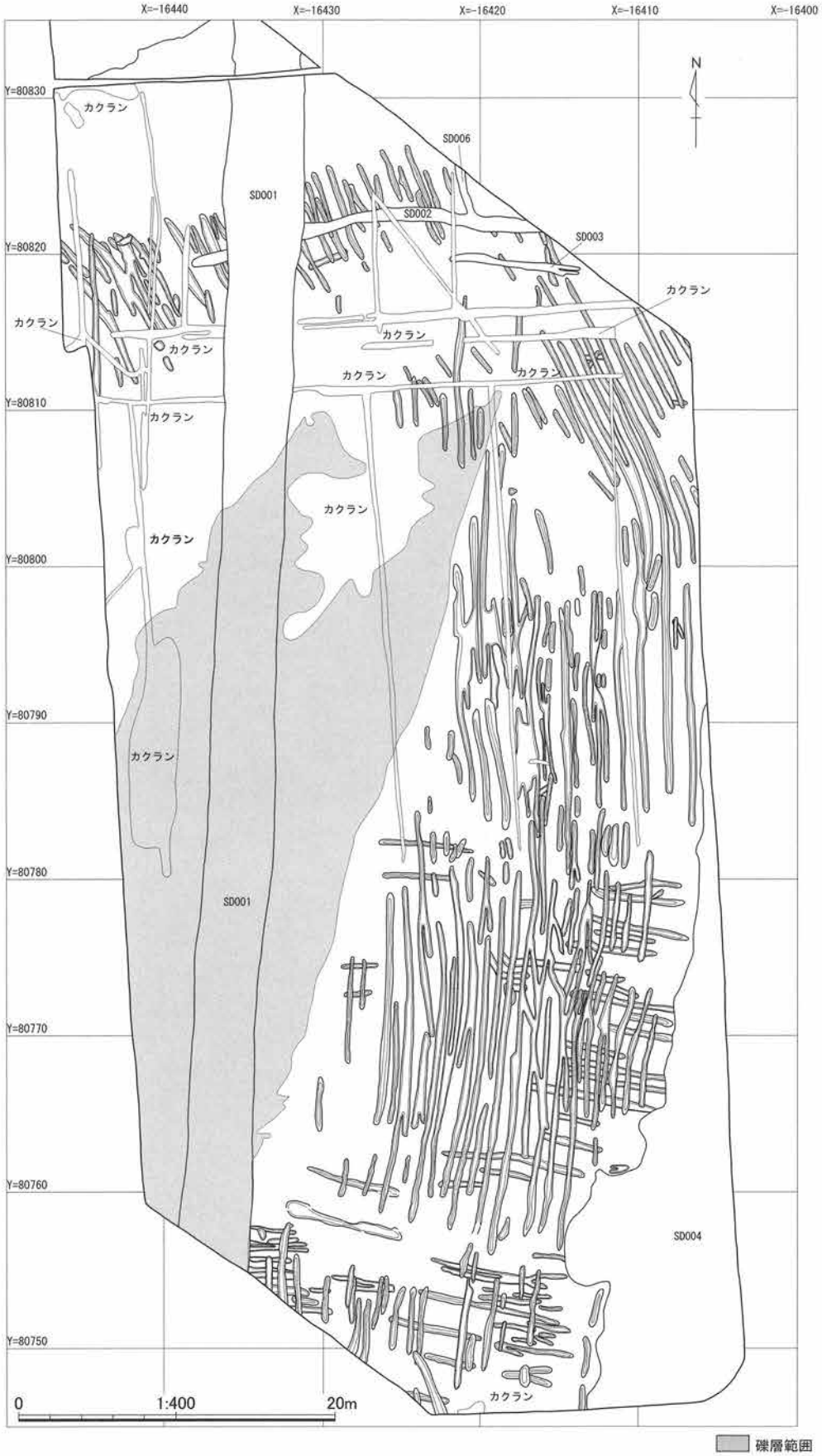


ＳＤ002

１：暗灰色粘質土。

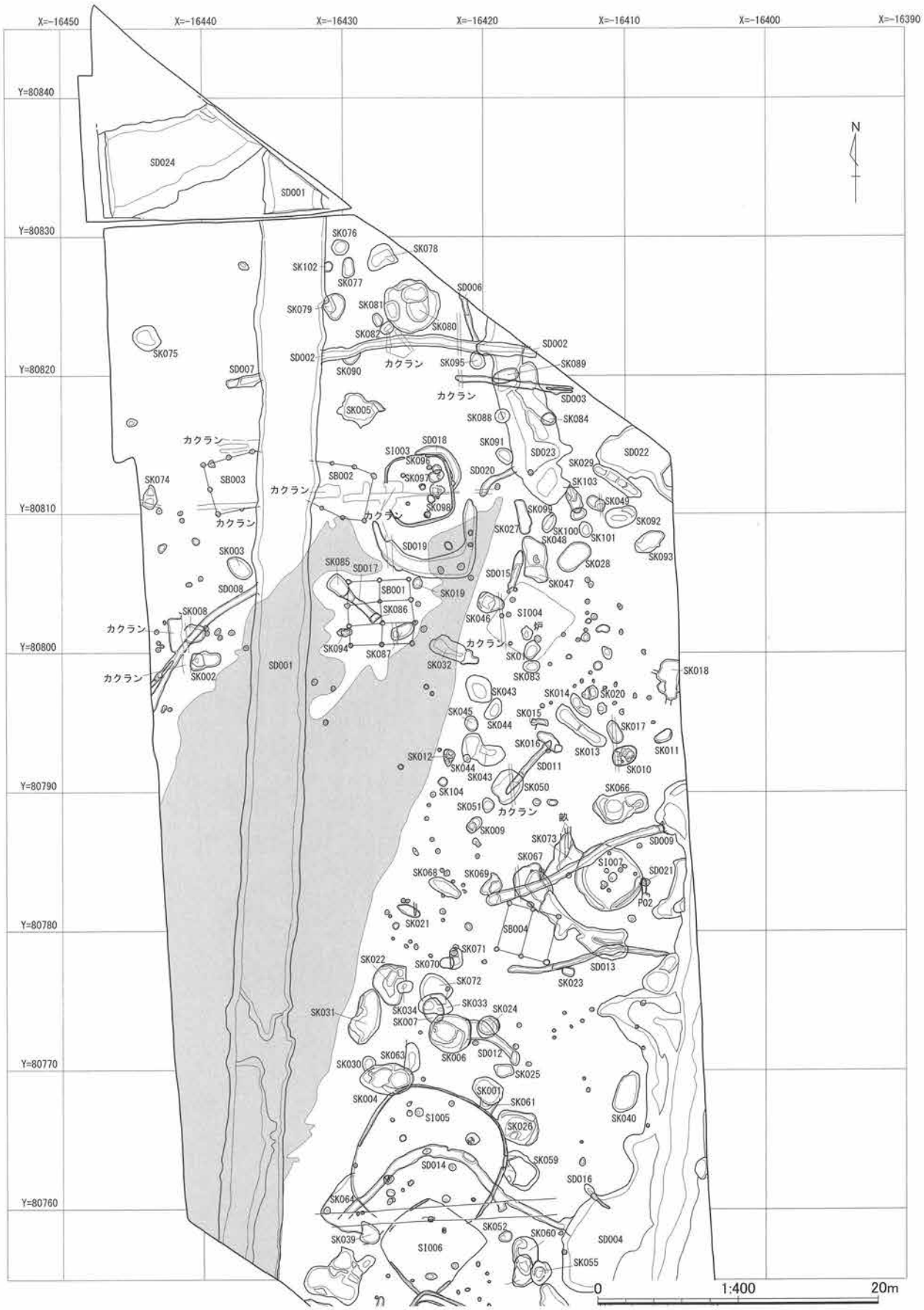
0　1:80　4m

３区 溝 SD001・SD002 実測図　縮尺１／80



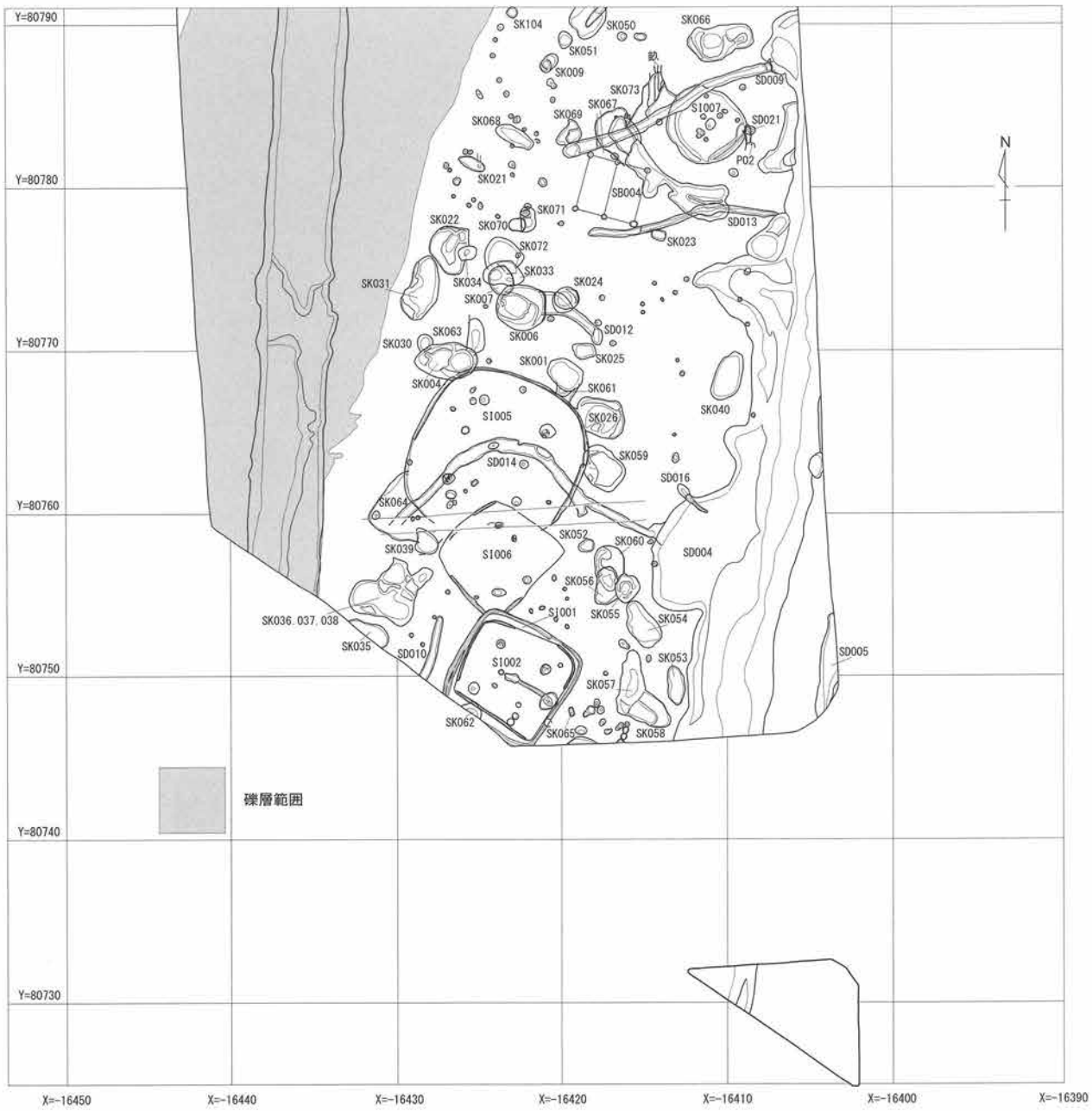
4区 上層遺構全体図　縮尺1／400

図面〇一九　遺構実測図（４区）



４区 下層遺構北側全体図　縮尺１／400

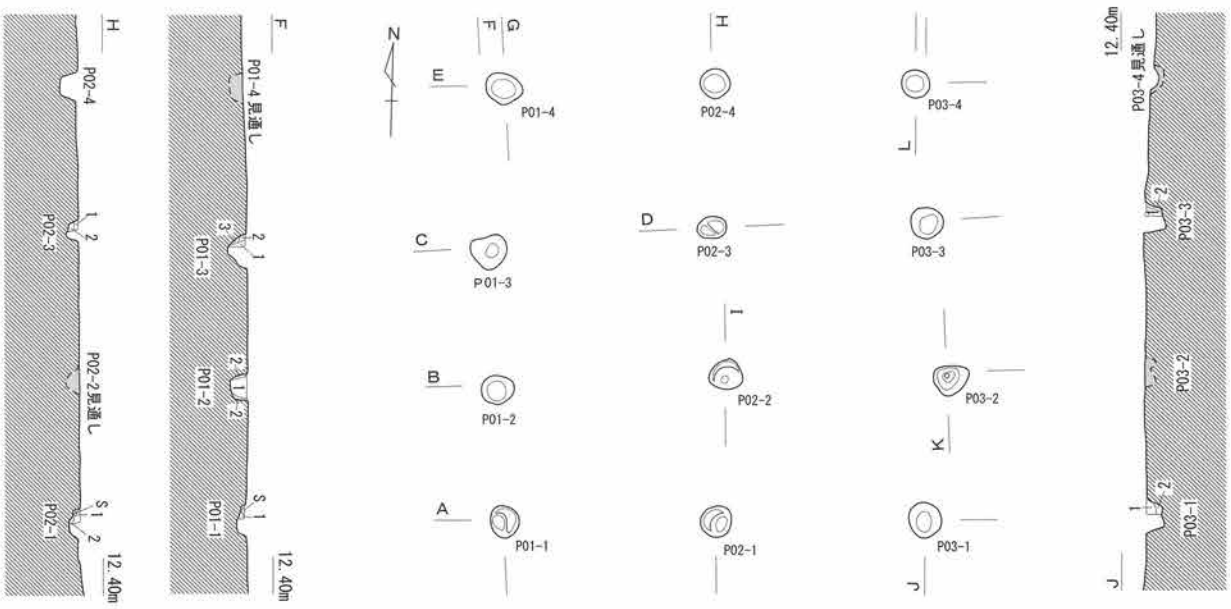
図面〇二〇　遺構実測図（４区）

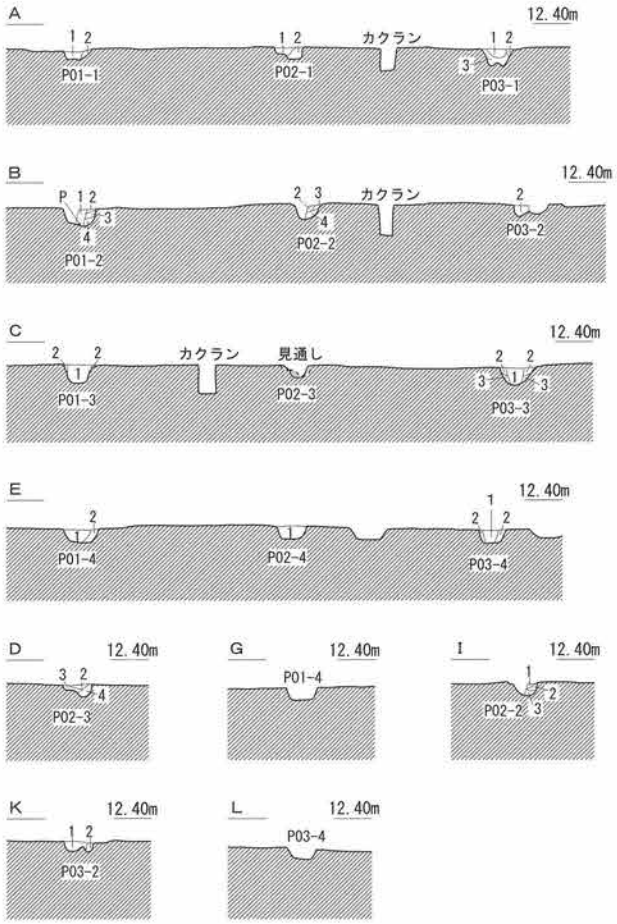


0　1:400　20m

４区 下層遺構南側全体図　縮尺１／400

図面〇二一　遺構実測図（４区）



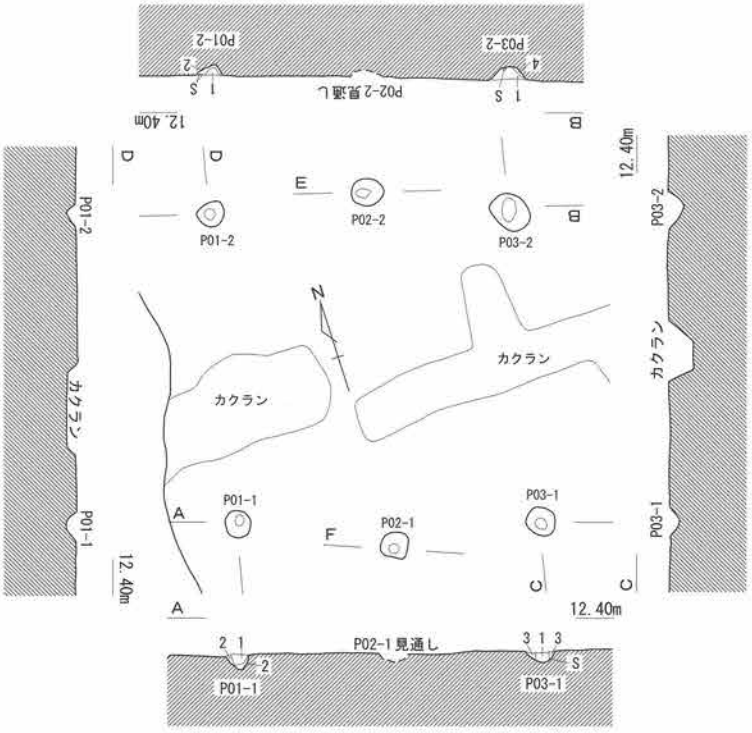


ＳＢ001全柱穴

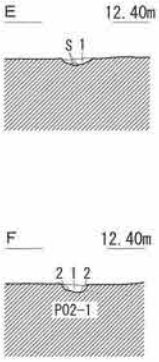
１：暗褐色粘質土。柱痕。
２：灰褐色粘質土と明黄灰色粘質土の混合土。
３：灰褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合土。
　　地山ブロック混入。
４：明黄灰色粘質土と暗褐色粘質土の混合土。

0　1:80　4m

４区 掘立柱建物址 SB001 実測図　縮尺１／80

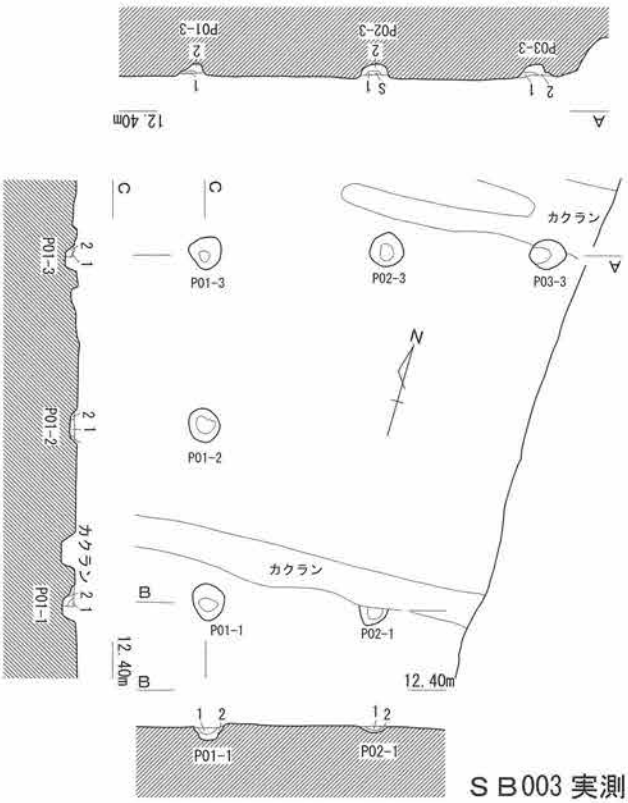


ＳＢ002 実測図



ＳＢ002 全柱穴

1：暗灰色粘質土。柱痕。
2：灰色粘質土。
3：暗灰褐色粘質土。明黄色粘質土ブロック混入。
4：明黄色粘質土。暗灰褐色粘質土ブロック混入。



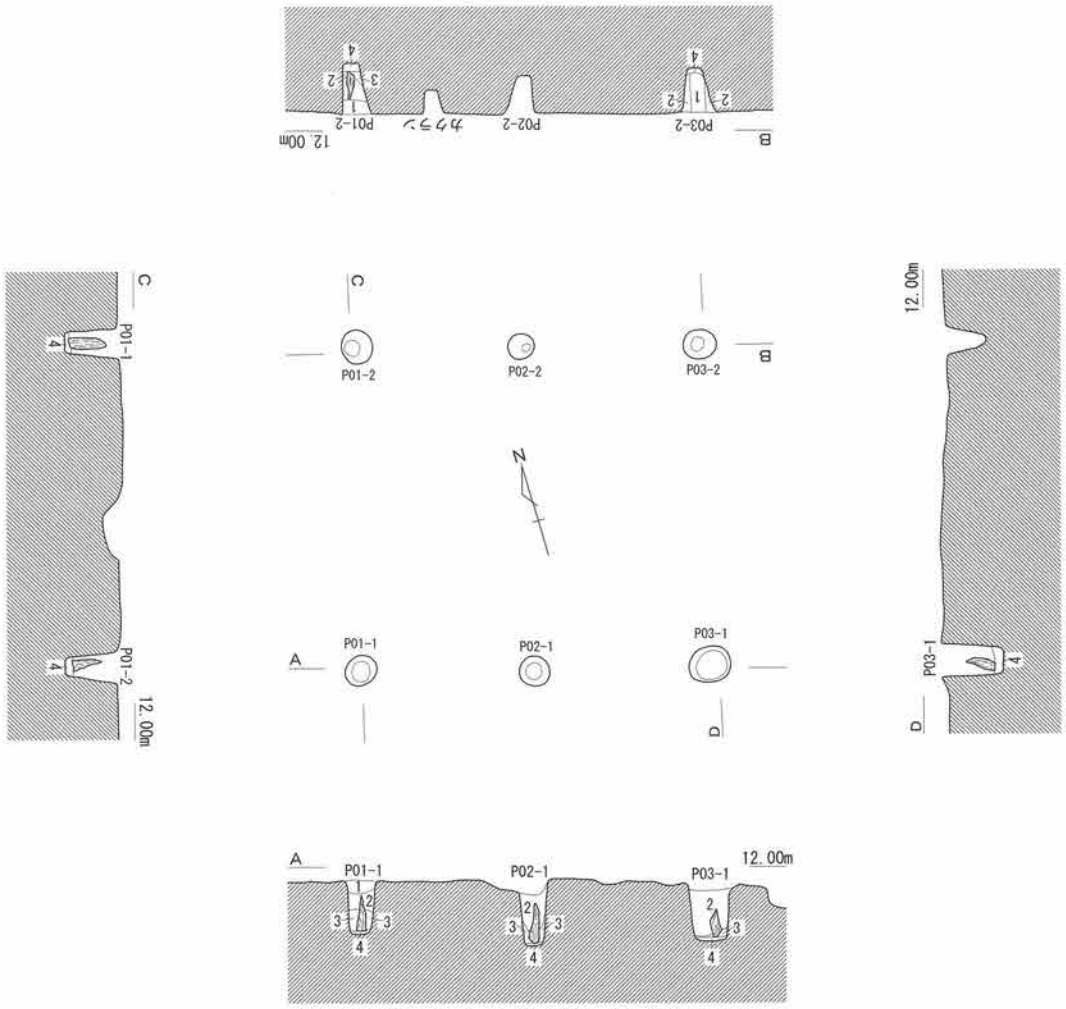
ＳＢ003 実測図

ＳＢ003 全柱穴

1：暗褐色粘質土と明黄灰色粘質土の混合土。
2：灰褐色粘質土と明黄灰色粘質土の混合土。

0　1:80　4m

4区 掘立柱建物址 SB002・SB003 実測図　縮尺 1／80

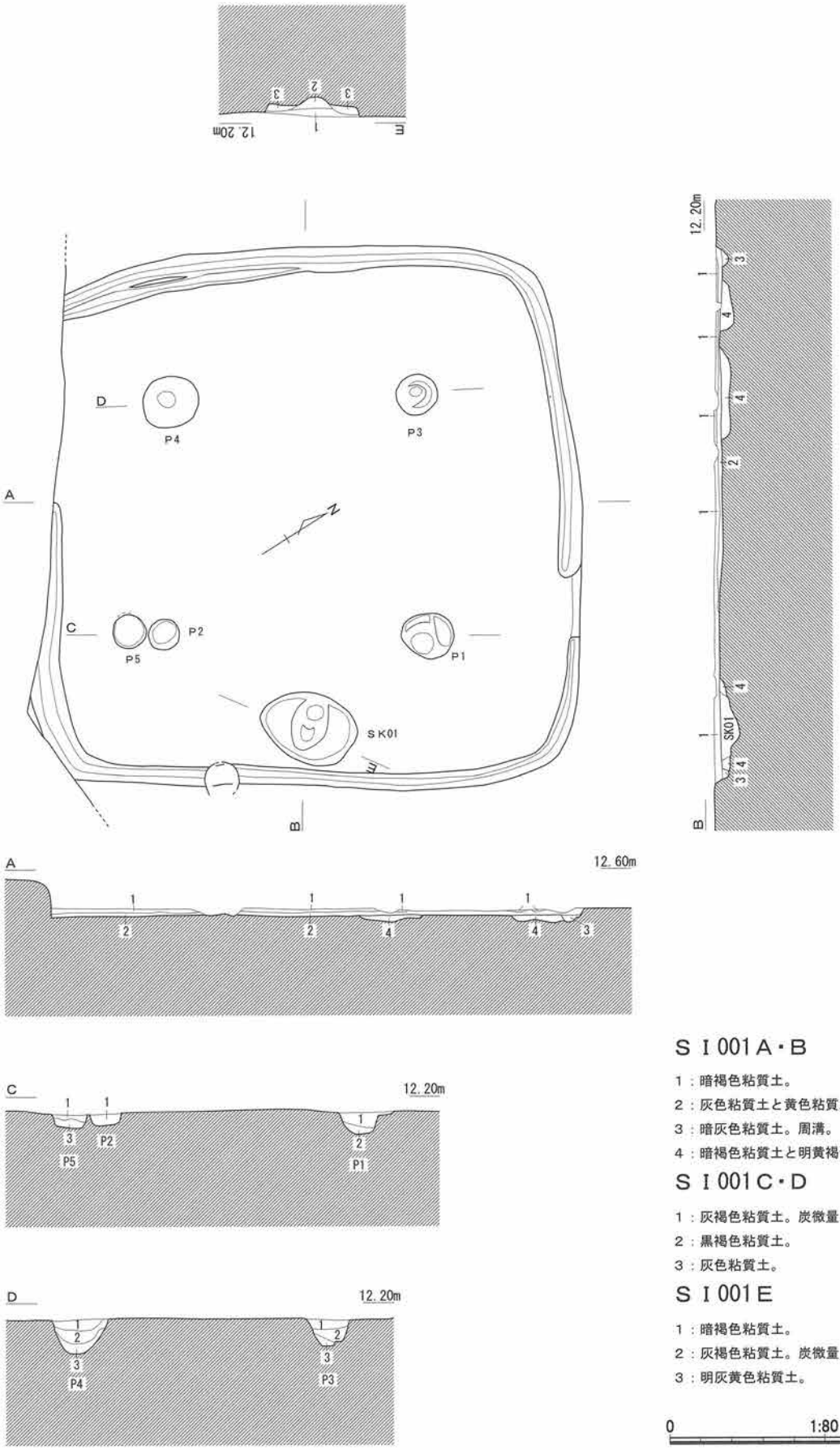


ＳＢ004 全柱穴

１：黒色粘質土。柱根。
２：暗褐色粘質土と灰褐色粘質土の混合土。埋方。
３：暗褐色粘質土と明黄色粘質土の混合土。埋方。
４：明黄色粘質土。

0　1:80　4m

４区 掘立柱建物址 SB004 実測図　縮尺１／80



ＳＩ001Ａ・Ｂ

１：暗褐色粘質土。
２：灰色粘質土と黄色粘質土の混合土。炭化物微量。
３：暗灰色粘質土。周溝。
４：暗褐色粘質土と明黄褐色粘質土の混合土。

ＳＩ001Ｃ・Ｄ

１：灰褐色粘質土。炭微量。地山ブロック混入。
２：黒褐色粘質土。
３：灰色粘質土。

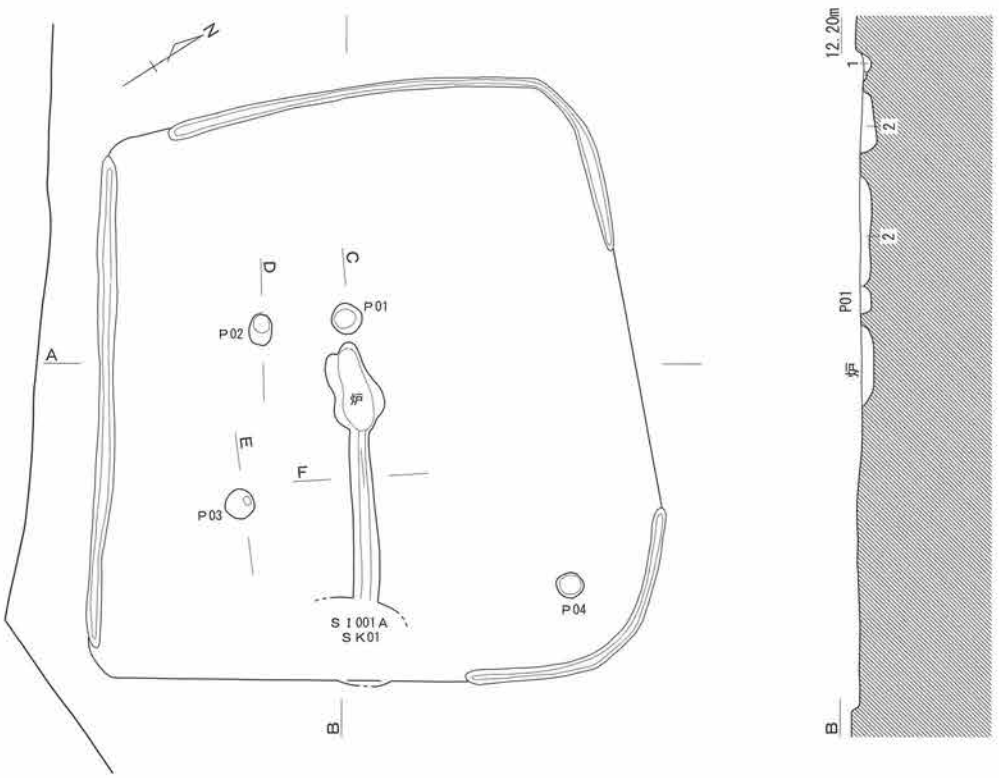
ＳＩ001Ｅ

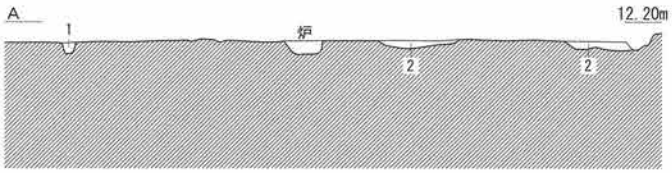
１：暗褐色粘質土。
２：灰褐色粘質土。炭微量。
３：明灰黄色粘質土。

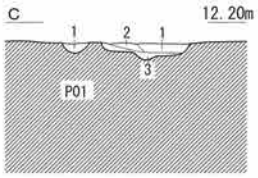
0　1:80　4m

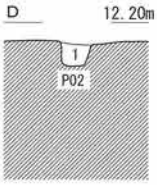
４区 竪穴建物址 SI001 実測図　縮尺１／80

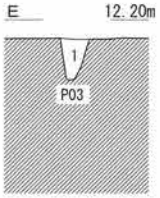
図面〇二五　遺構実測図（４区）











ＳＩ002Ａ・Ｂ

１：暗灰色粘質土。
２：明黄色粘質土と黒色粘質土の混合土。貼床。

炉跡Ｃ

１：灰褐色粘質土と明黄褐色粘質土の混合土。
２：黒褐色粘質土と明黄褐色粘質土の混合土。炭化物混入。
３：灰褐色粘質土と明黄褐色粘質土の混合土。

床上溝Ｆ

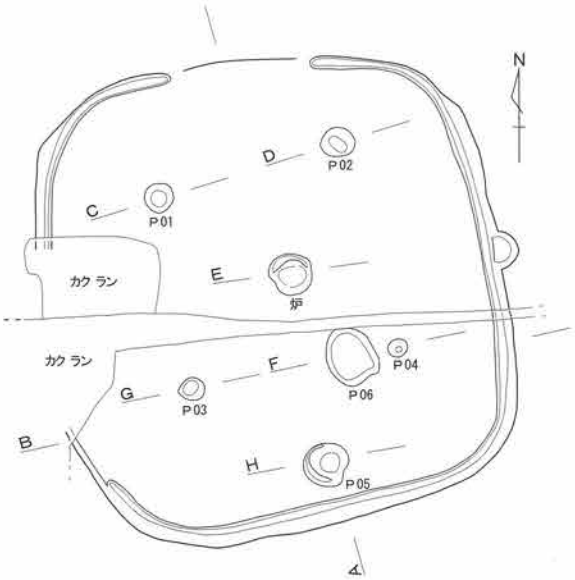
１：灰褐色粘質土。明黄色粘質土を含む。

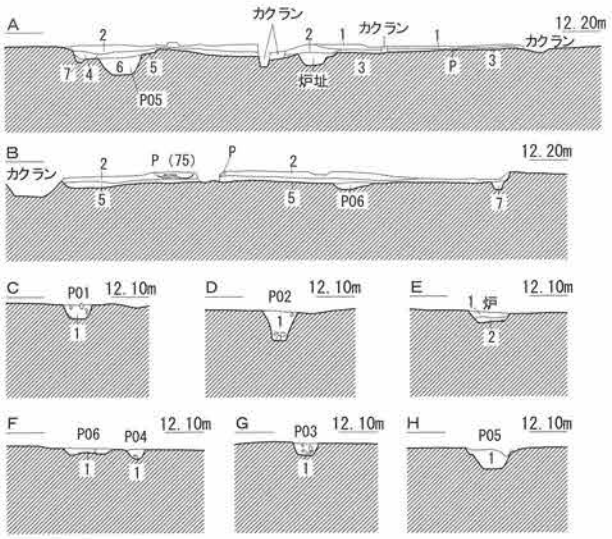
Ｐ１～Ｐ３Ｅ・Ｄ

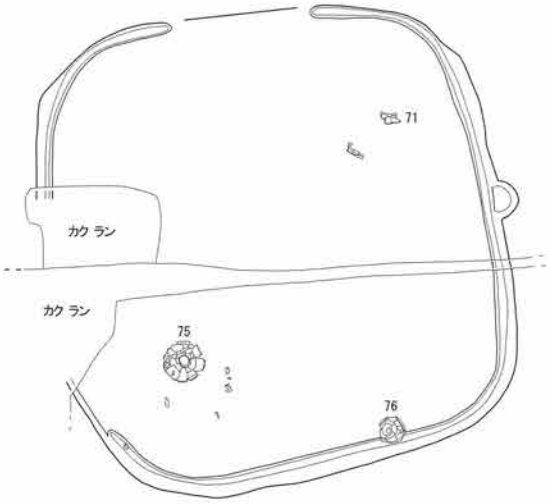
１：黒色粘質土。

0　1:80　4m

４区 竪穴建物址 SI002 実測図　縮尺１／80







ＳＩ003 遺物出土状況

ＳＩ 003 Ａ・Ｂ

１：暗褐色粘質土。
２：明灰色粘質土。
３：明灰色粘質土と地山の混合土。
４：明灰色粘質土。地山ブロック混入。
５：明灰色粘質土と地山の混合土。
６：柱穴Ｐ５。
７：暗灰色粘質土。周溝。

ＳＩ 003 床面施設

Ｐ01 ～Ｐ06Ｃ・Ｄ・Ｆ・Ｇ・Ｈ

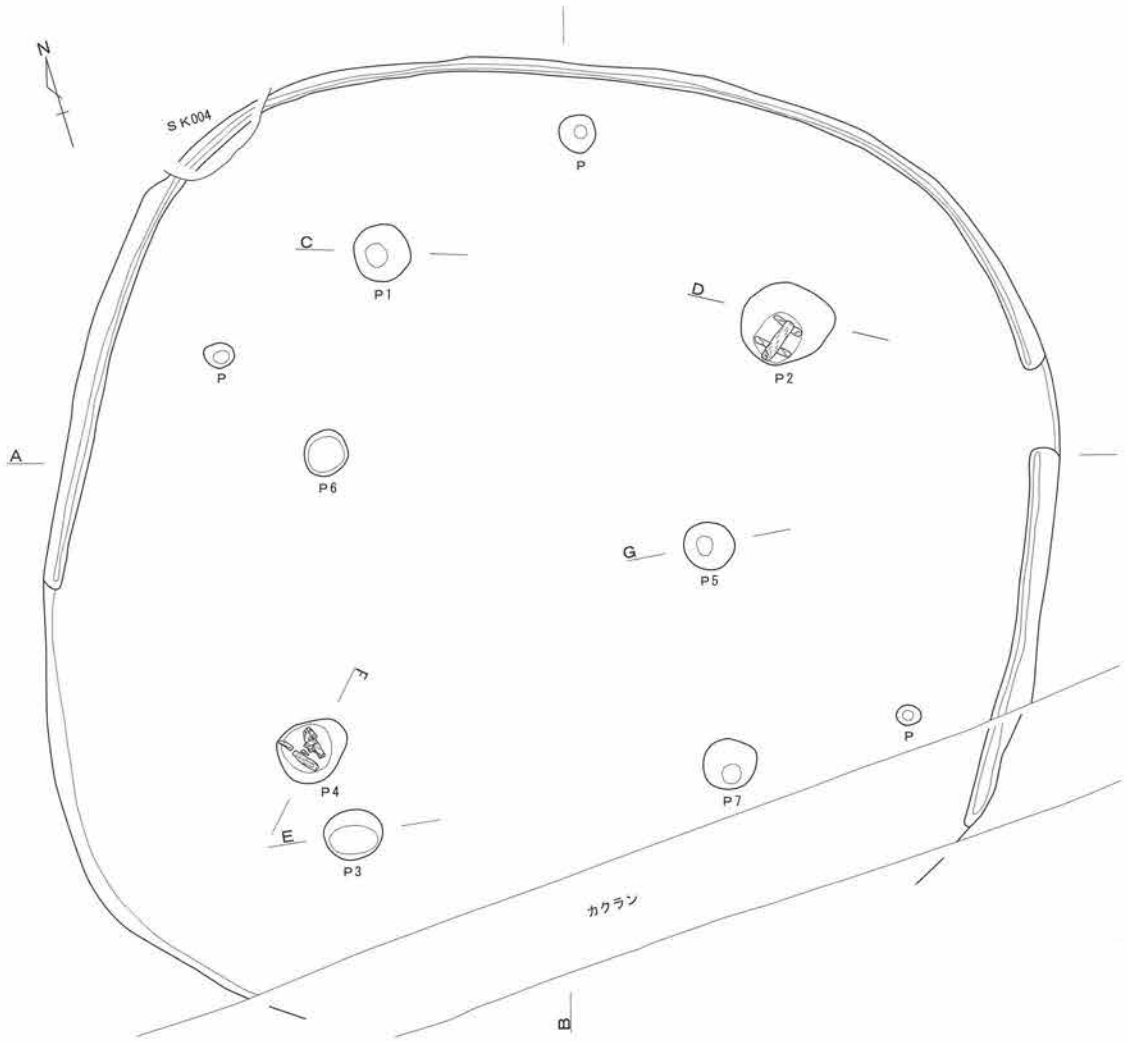
１：暗褐色粘質土。

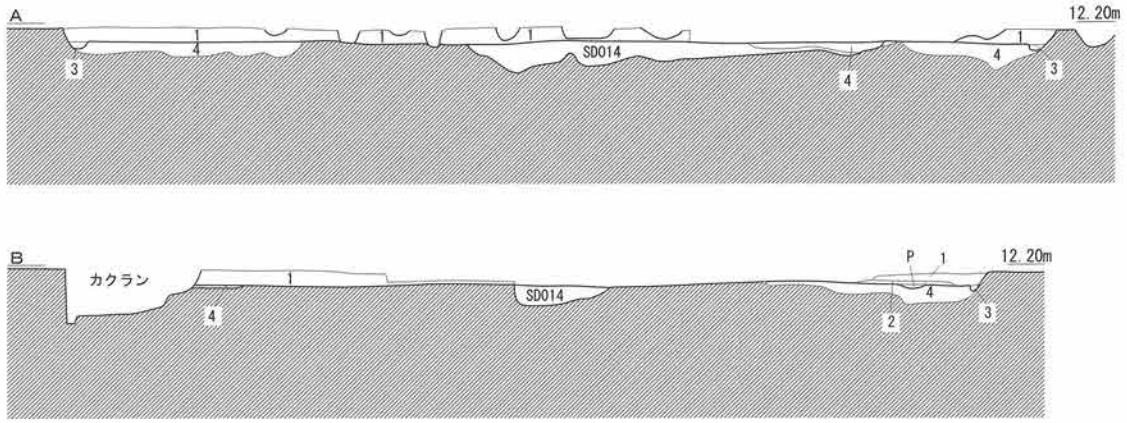
炉Ｅ

１：灰褐色粘質土。炭微量
２：黒色粘質土。焼土ブロック微量

0　1:80　4m

４区 竪穴建物址 SI003 実測図　縮尺１／80



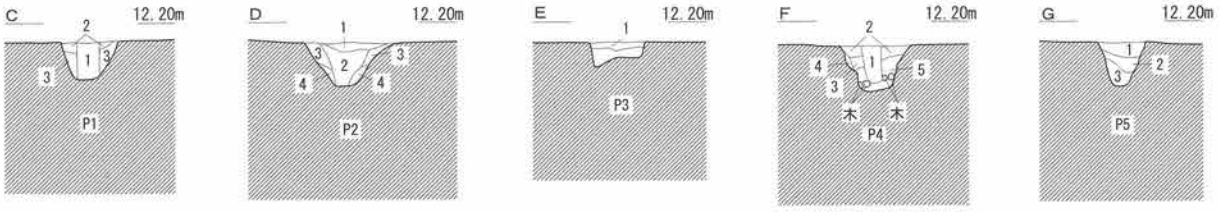


ＳＩ 005 Ａ・Ｂ

１：暗褐色粘質土。炭化物微量。
２：暗褐色粘質土と明黄褐色粘質土の混合土。
３：暗褐色粘質土。周溝。
４：黒色粘質土と灰褐色粘質土と明黄色粘質土の混合土。
　　貼床。

0　1:80　4m

４区 竪穴建物址 SI005 実測図　縮尺１／80



床面施設

P1 C

1：灰褐色粘質土。柱痕。
2：暗灰色粘質土。
3：明黄褐色粘質土。

P2 D

1：灰褐色粘質土。
2：灰褐色粘質土。
　黒色粘質ブロック混入。
3：明黄褐色粘質土。
4：黄褐色粘質土。

P3 E

1：暗灰色粘質土。
2：黒色粘質土。

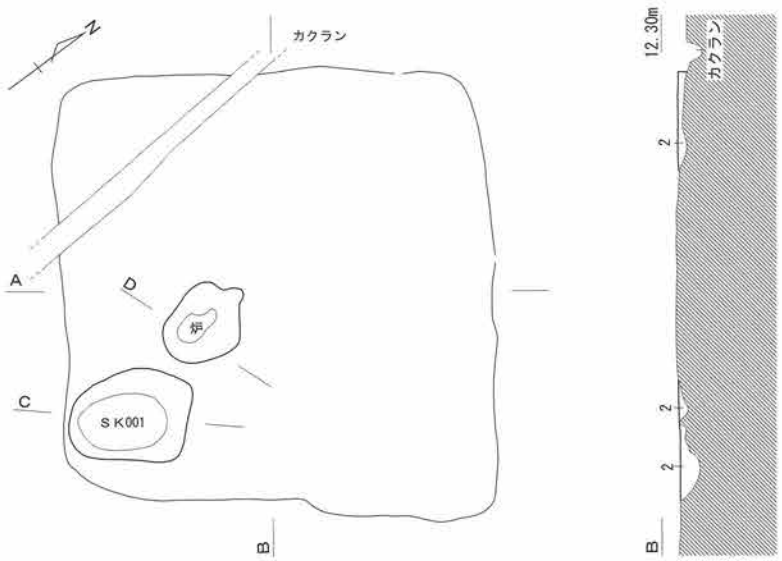
P4 F

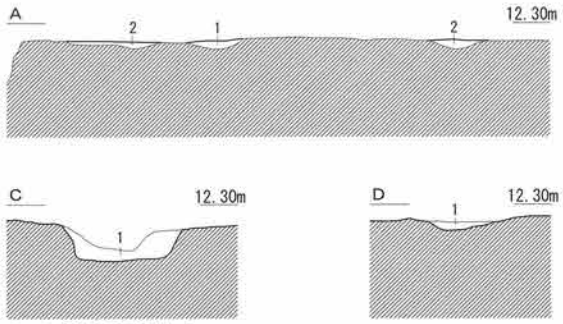
1：暗灰褐色粘質土。柱痕。
2：暗灰色粘質土。
3：灰褐色粘質土。
4：暗褐色粘質土。
5：暗褐色粘質土と明黄色粘質土の
　混合土。

P5 G

1：暗灰色粘質土。
2：黄褐色粘質土と
　灰色粘質土の混合土。
3：灰色粘質土。

S I 005 床面施設断面実測図





S I 004 実測図

S I 004 A・B

1：暗灰色粘質土。若干赤み帯びる。炉。
2：灰色粘質土と明黄色粘質土の混合土。貼床。

S I 004 床面施設

S K 001 C

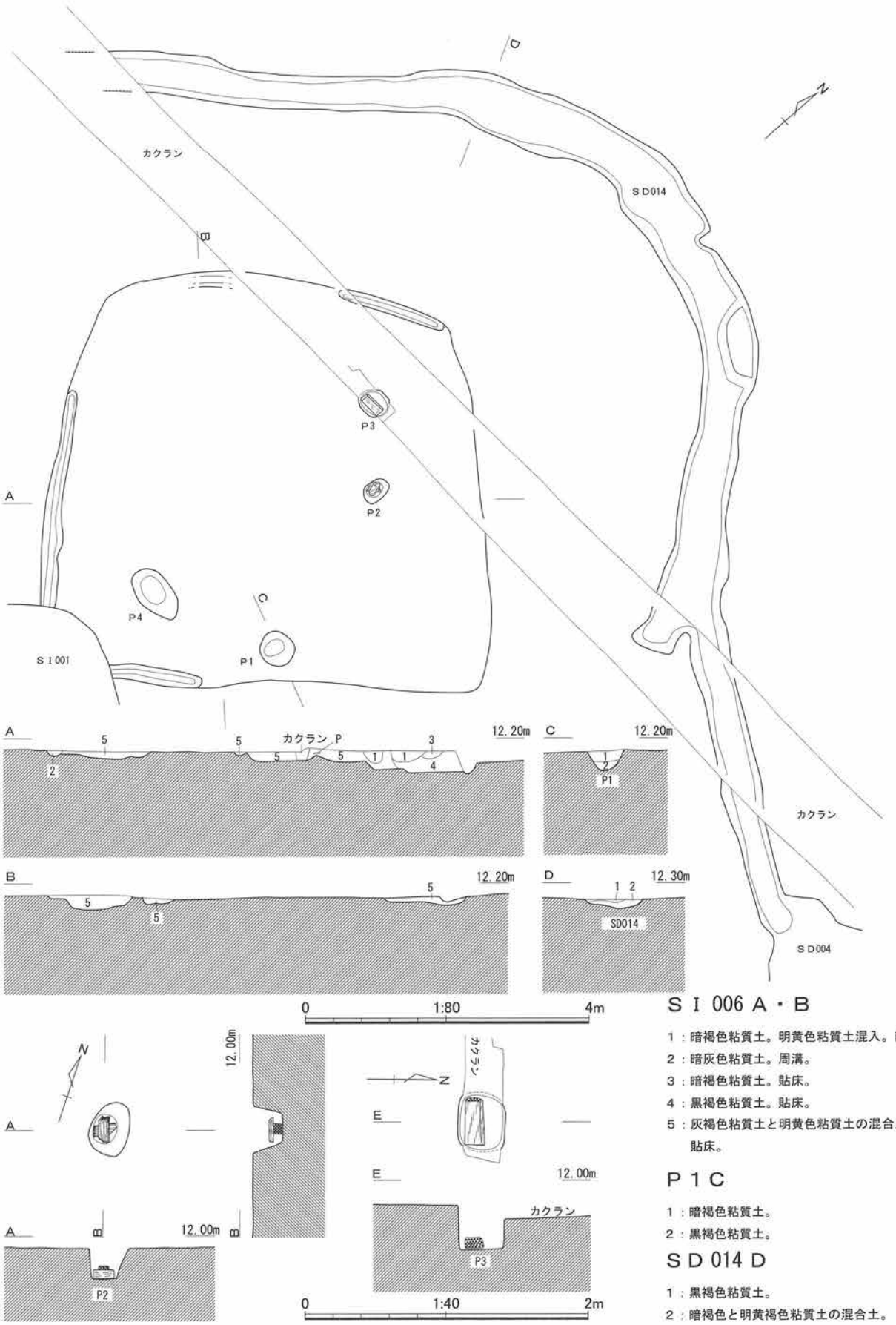
1：黒褐色粘質土。炭化物多量。

炉跡D

1：暗灰色粘質土。若干赤み帯びる。

0　1:80　4m

4区 竪穴建物址 SI005・SI004 実測図　縮尺1／80



SI 006 A・B

1：暗褐色粘質土。明黄色粘質土混入。畝。
2：暗灰色粘質土。周溝。
3：暗褐色粘質土。貼床。
4：黒褐色粘質土。貼床。
5：灰褐色粘質土と明黄色粘質土の混合土。貼床。

P1C

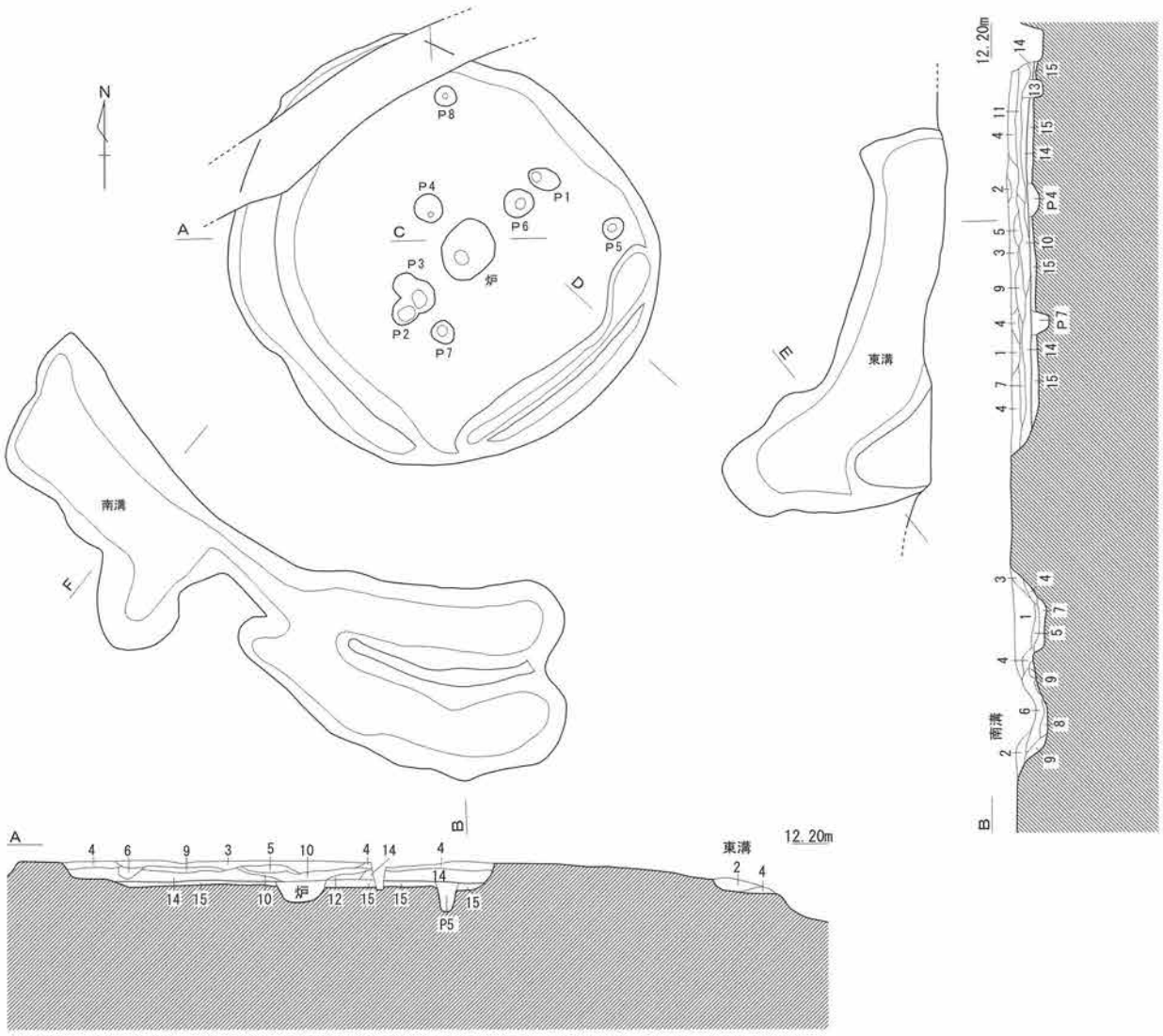
1：暗褐色粘質土。
2：黒褐色粘質土。

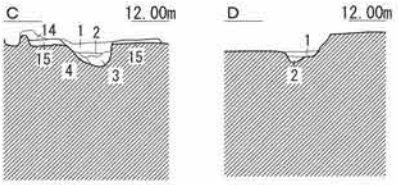
SD014 D

1：黒褐色粘質土。
2：暗褐色と明黄褐色粘質土の混合土。

4区 竪穴建物址 SI006 実測図　縮尺1／80、1／40

図面〇三〇　遺構実測図（４区）





ＳＩ 007 Ａ・Ｂ

1：白灰色粘質土。焼土ブロック混入。
2：黒色粘質土。焼土ブロック混入。
3：灰褐色粘質土。焼土ブロック、炭化物混入。
4：灰色粘質土。炭混入。
5：明赤褐色粘質土。焼土。
6：暗灰色粘質土。
7：暗灰色粘質土。
8：灰褐色粘質土。炭微量。
9：暗灰色粘質土と炭の混合土。
10：極黒色粘質土。炭化物層。
11：灰褐色粘質土。
12：暗赤褐色粘質土。
13：褐色粘質土。
14：灰褐色粘質土と明黄色粘質土の混合土。
15：明黄色粘質土と褐色粘質土の混合土。貼床。

ＳＩ 007 炉跡Ｃ

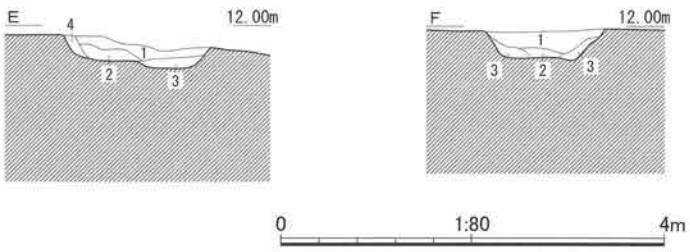
1：黒色粘質土。炭化物層、焼土粒含む。
2：暗褐色粘質土。炭化物層。
3：灰褐色粘質土。
4：明黄色粘質土と３層の混合土。

ＳＩ 007 周溝Ｄ

1：暗褐色粘質土。
2：暗褐色粘質土と明黄色砂質土の混合土。

0　1:80　4m

４区 竪穴建物址 SI007 実測図　縮尺１／80



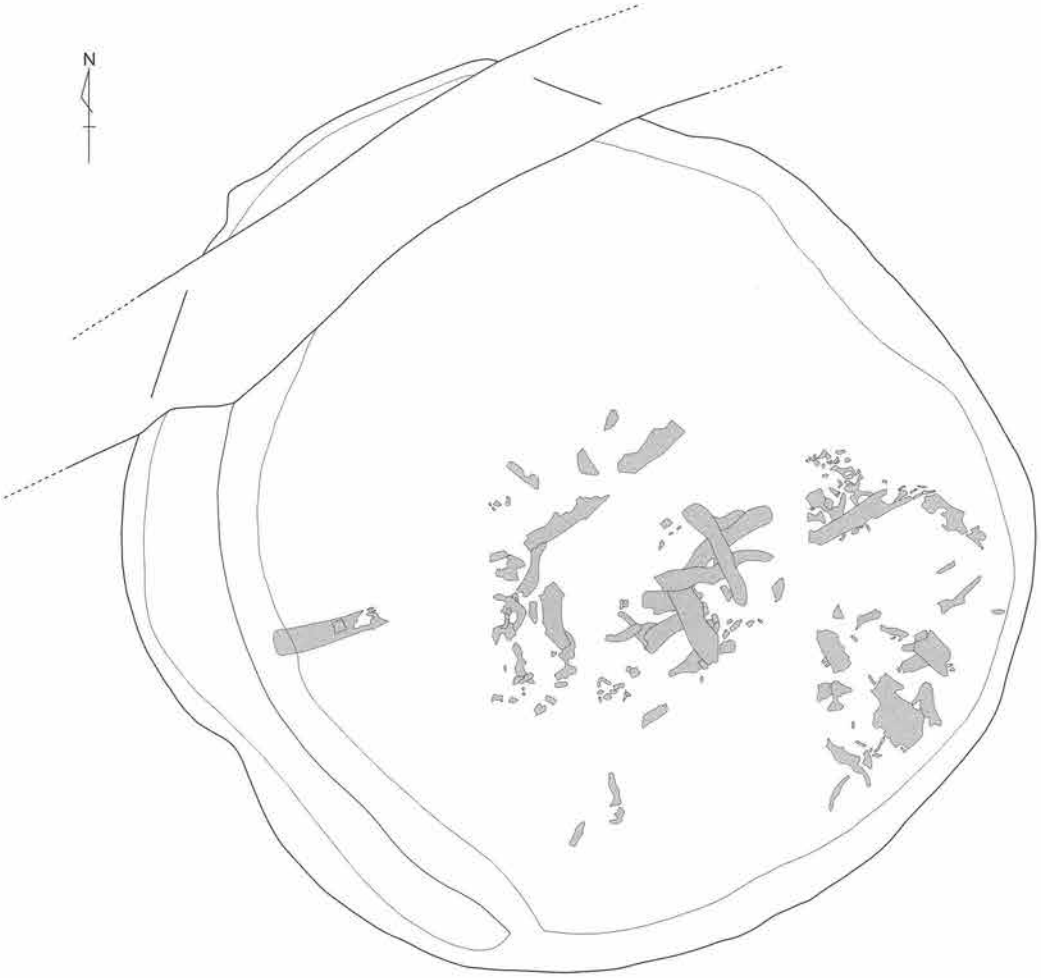
ＳＩ007 東溝・南溝断面実測図

ＳＩ007 東溝Ｅ

１：灰色粘質土。地山ブロック混入。
２：暗灰色粘質土。炭微量。
３：灰褐色粘質土。
４：灰色粘質土と明黄色粘質土の混合土。

ＳＩ007 南溝Ｆ

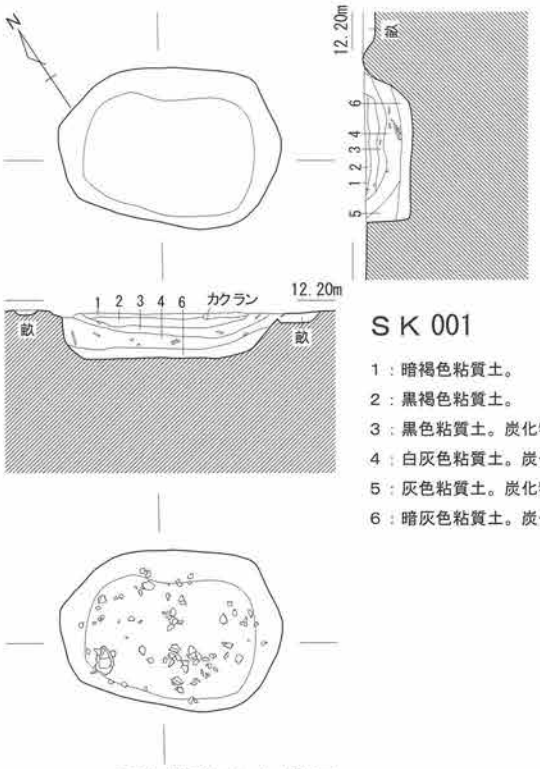
１：灰褐色粘質土。炭微量。
２：灰褐色粘質土と明黄色砂質土の混合土。
３：明黄色砂質土。



ＳＩ007 炭化物範囲

0　1:40　2m

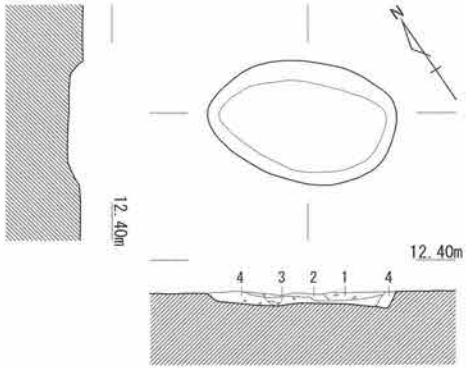
４区 竪穴建物址 SI007 溝断面図、炭化物範囲実測図　縮尺１／80、１／40



ＳＫ 001

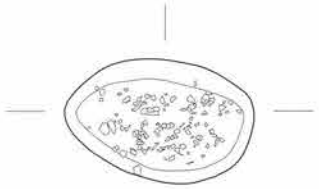
1：暗褐色粘質土。
2：黒褐色粘質土。
3：黒色粘質土。炭化物混入。
4：白灰色粘質土。炭化物微量混入。
5：灰色粘質土。炭化物微量混入。
6：暗灰色粘質土。炭化物微量混入。

ＳＫ 001 遺物出土状況

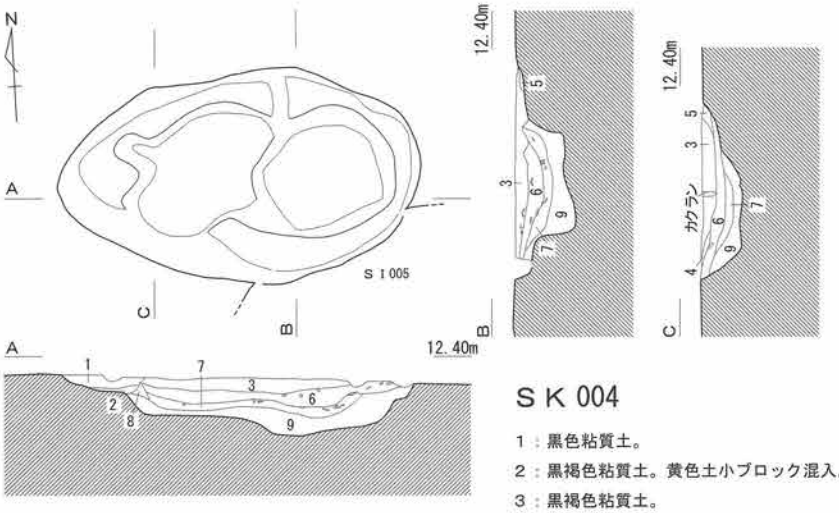


ＳＫ 003

1：灰褐色粘質土・暗灰褐色粘質土の混合土。炭化物混入。
2：灰褐色粘質土炭化物混入。
3：灰褐色粘質土・明灰褐色粘質土の混合土。炭化物混入。
4：明灰褐色粘質土。

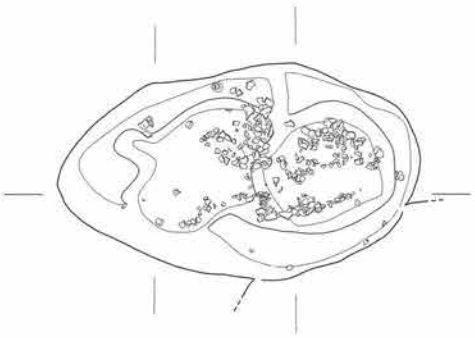


ＳＫ 003 遺物出土状況



ＳＫ 004

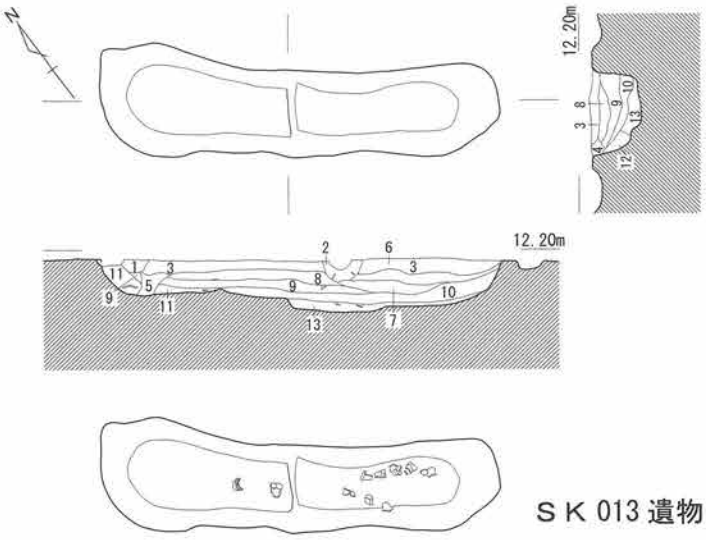
1：黒色粘質土。
2：黒褐色粘質土。黄色土小ブロック混入。
3：黒褐色粘質土。
4：灰褐色粘質土。
5：黒色粘質土。黄色土小ブロック混入。
6：暗灰色粘質土。炭化物微量。
7：黒色粘質土。遺物層。
8：明黄褐色粘質土。
9：灰褐色粘質土。炭化物微量。



ＳＫ 004 遺物出土状況

0　1:80　4m

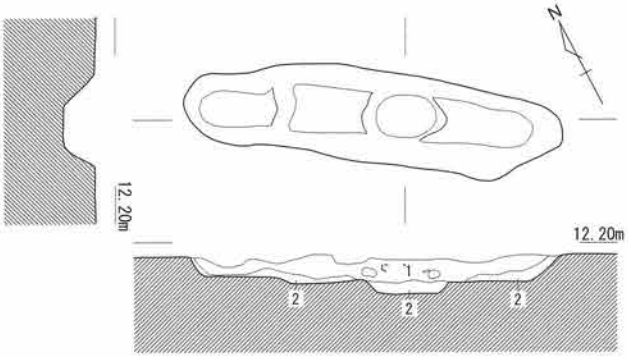
４区 土坑 SK001・SK003・SK004 実測図　縮尺１／80



ＳＫ 013

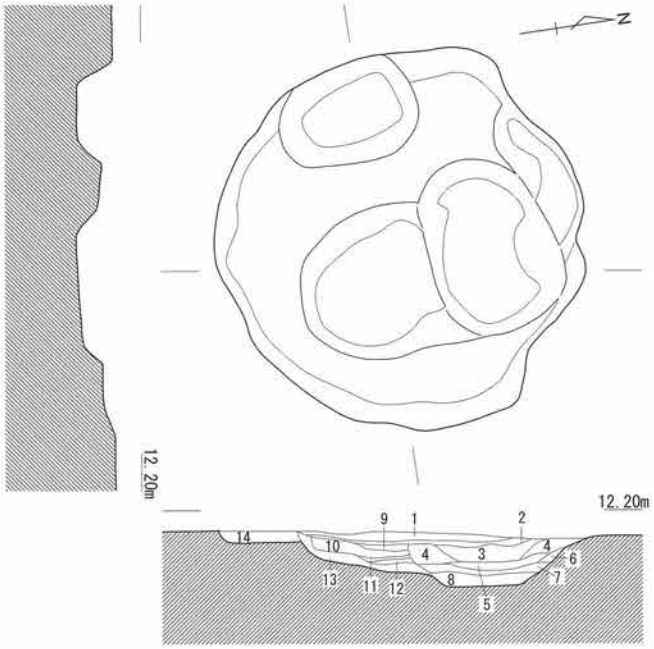
１：黒褐色粘質土。地山ブロック混入。
２：黒褐色粘質土。
３：暗褐色粘質土。
４：暗褐色粘質土。灰褐色粘質土ブロック小混入。
５：黒褐色粘質土。
６：灰褐色粘質土。
７：暗灰色粘質土。炭化物微量。
８：明灰色粘質土。炭化物微量。
９：灰褐色粘質土。遺物層。
10：灰褐色粘質土。炭化物微量。
11：明灰色粘質土。炭化物微量。
12：灰褐色砂質土。
13：灰褐色粘質土。

ＳＫ 013 遺物出土状況



ＳＫ 029

１：暗褐色粘質土。炭化物微量混入、遺物層。
２：明灰色粘質土。



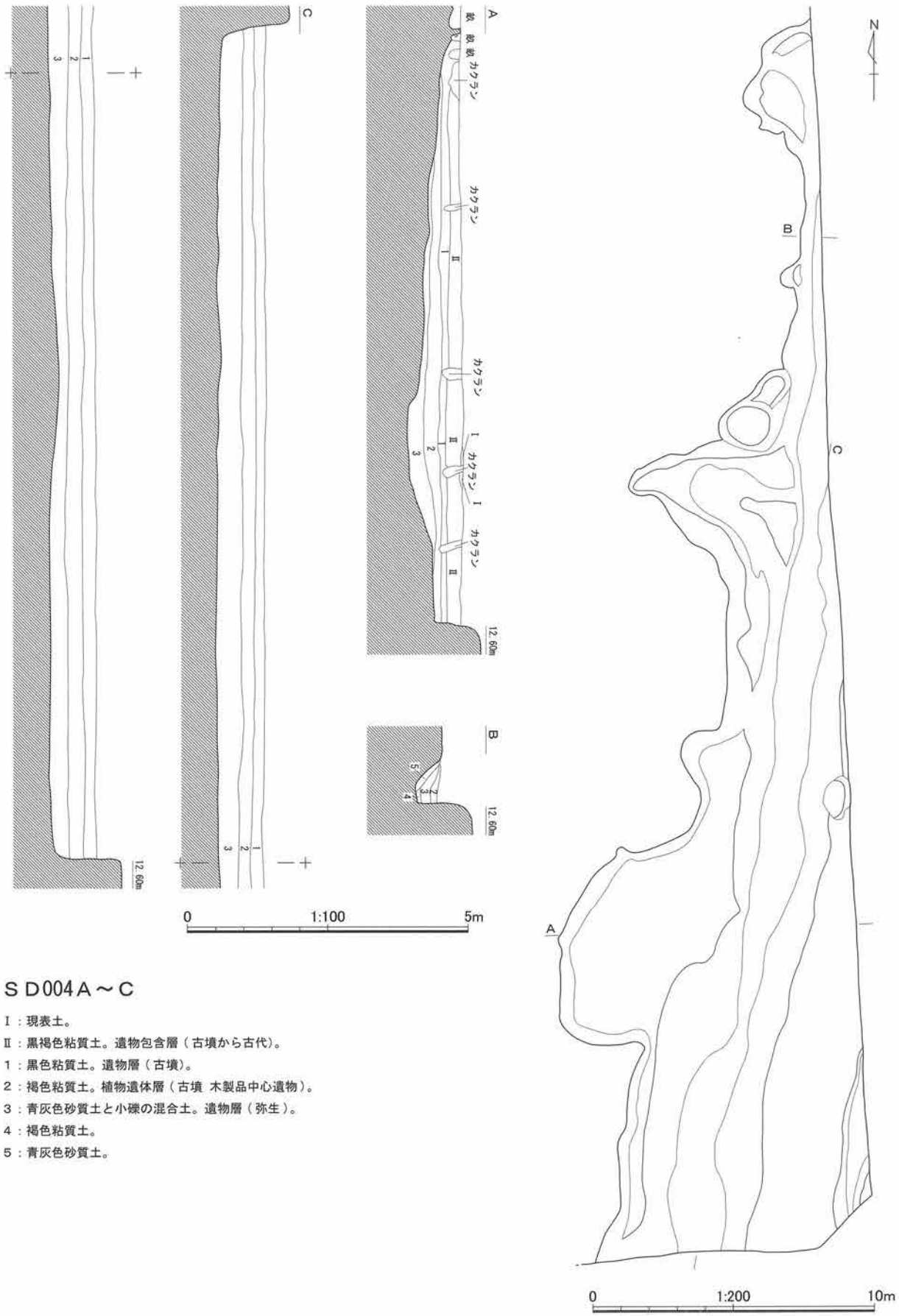
ＳＫ 080

１：明灰色粘質土。
２：暗灰色粘質土と明黄色粘質土の混合土。一部白色粘質土を含む。
３：暗灰色粘質土と明黄色粘質土の混合土。炭微量。
４：暗灰色粘質土。
５：暗灰色粘質土と黒色粘質土の混合土。炭化材有。
６：明灰色粘質土。
７：灰褐色粘質土。
８：明黄色砂質土。
９：明黄色砂質土。炭微量。
10：暗褐色粘質土。焼土ブロック赤褐色粘質土含む、炭微量。
11：黒色粘質土。炭化物層。
12：暗灰色粘質土。焼土ブロック赤褐色粘質土含む。
13：明黄灰色粘質土。
14：明黄色砂質土。

0　1:80　4m

４区 土坑 SK013・SK029・SK080 実測図　縮尺１／80

図面〇三四　遺構実測図（４区）

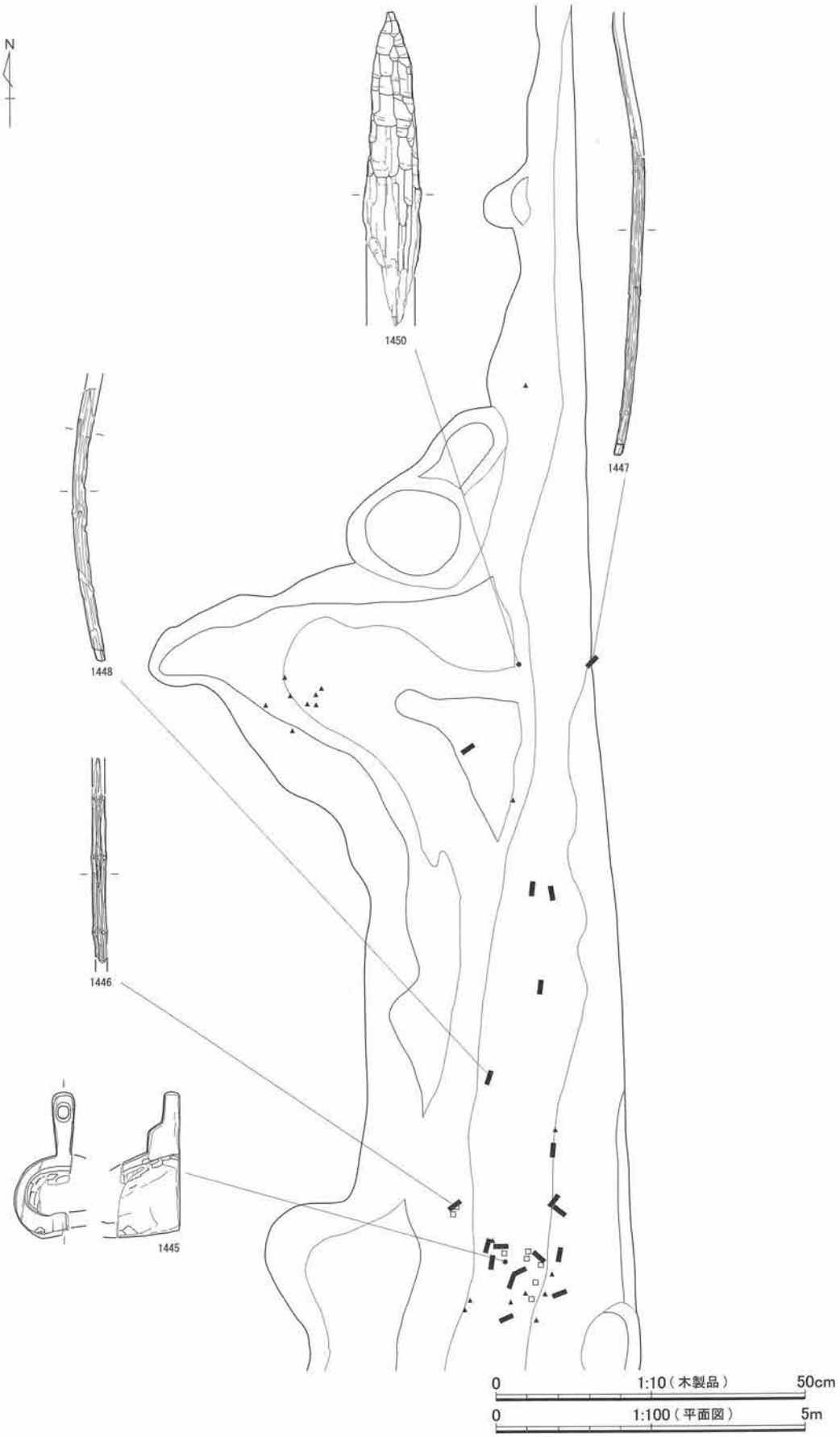


ＳＤ004Ａ～Ｃ

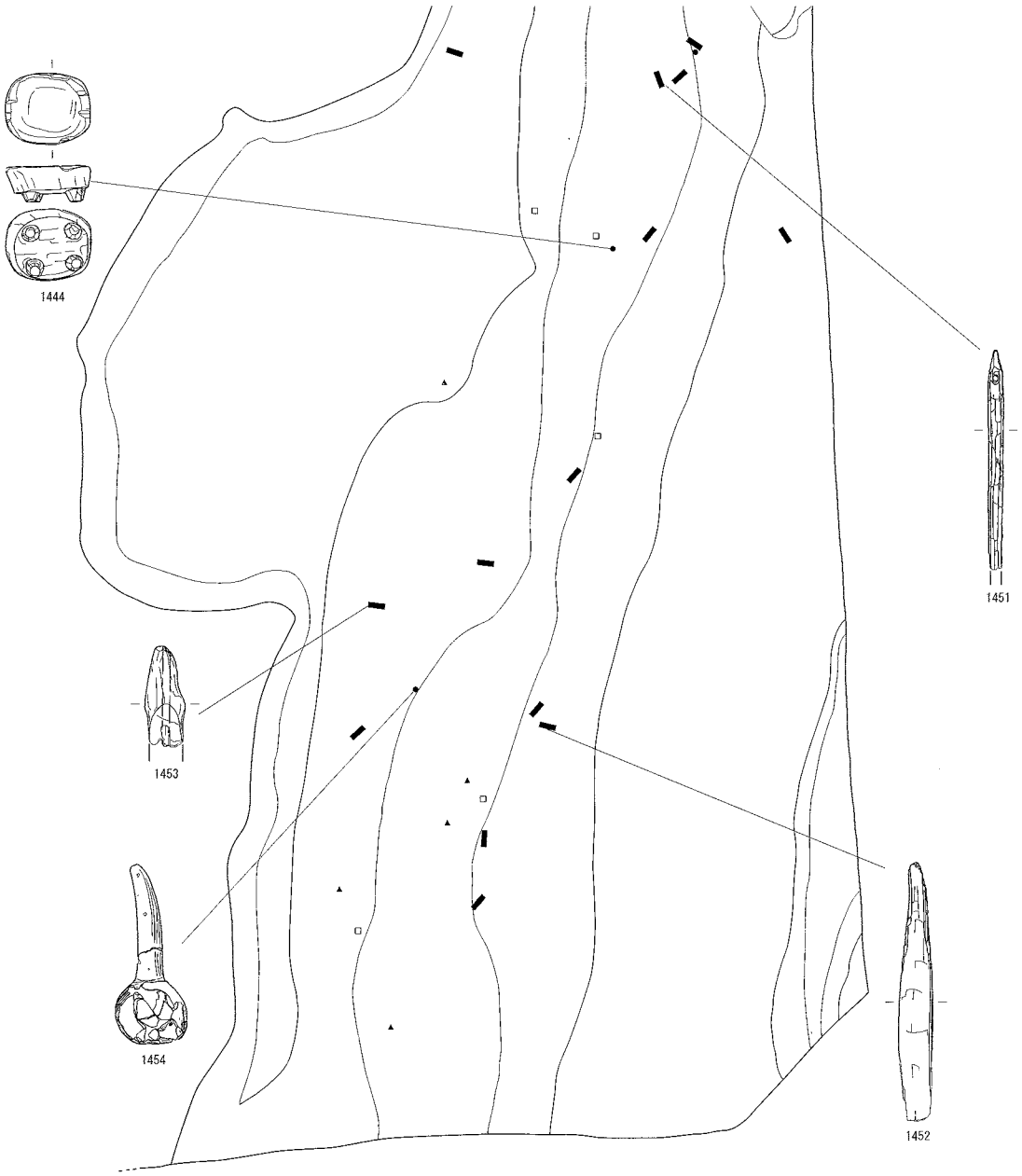
Ⅰ：現表土。
Ⅱ：黒褐色粘質土。遺物包含層（古墳から古代）。
１：黒色粘質土。遺物層（古墳）。
２：褐色粘質土。植物遺体層（古墳 木製品中心遺物）。
３：青灰色砂質土と小礫の混合土。遺物層（弥生）。
４：褐色粘質土。
５：青灰色砂質土。

４区 溝 SD004 実測図　縮尺１／100、１／200

図面〇三五　遺構実測図（4区）



4区 溝 SD004 遺物出土位置図〔1〕 縮尺1／10、1／100

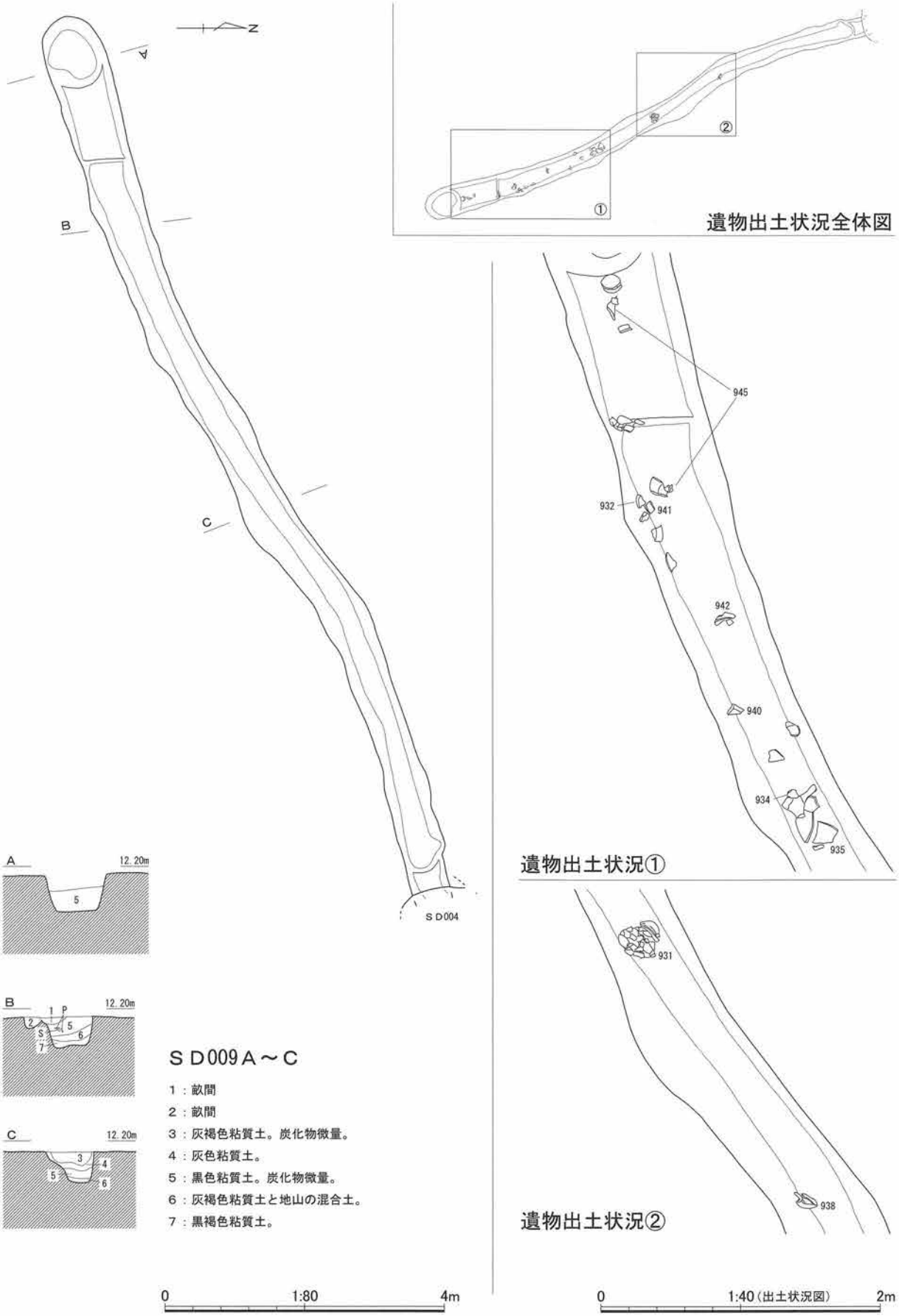


● 木製品
▬ 木製品
▲ 土器
▫ 種子

0　1:10（木製品）　50cm
0　1:100（平面図）　5m

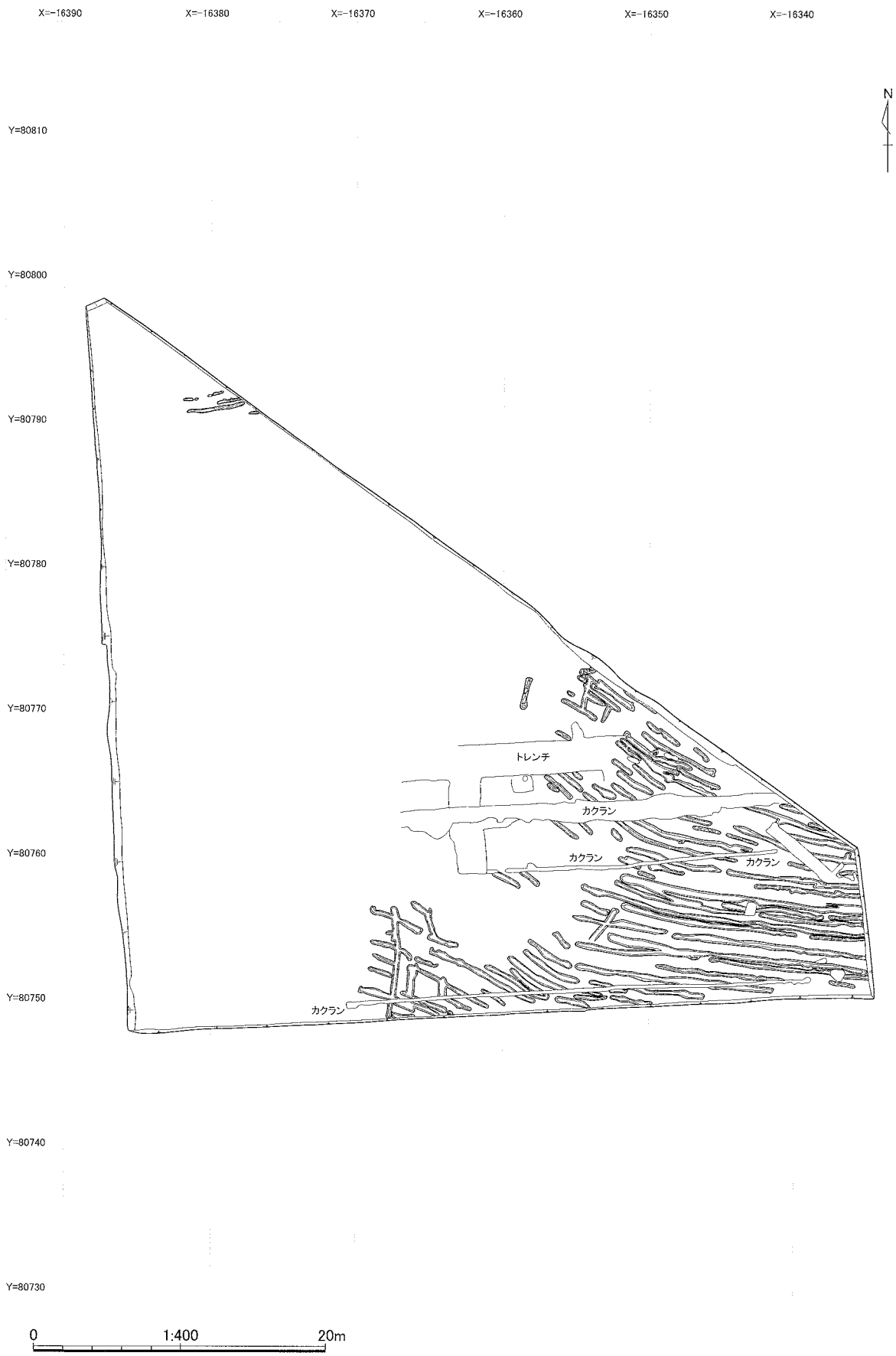
４区 溝 SD004 遺物出土位置図〔2〕 縮尺１／10、１／100

図面〇三七　遺構実測図（４区）



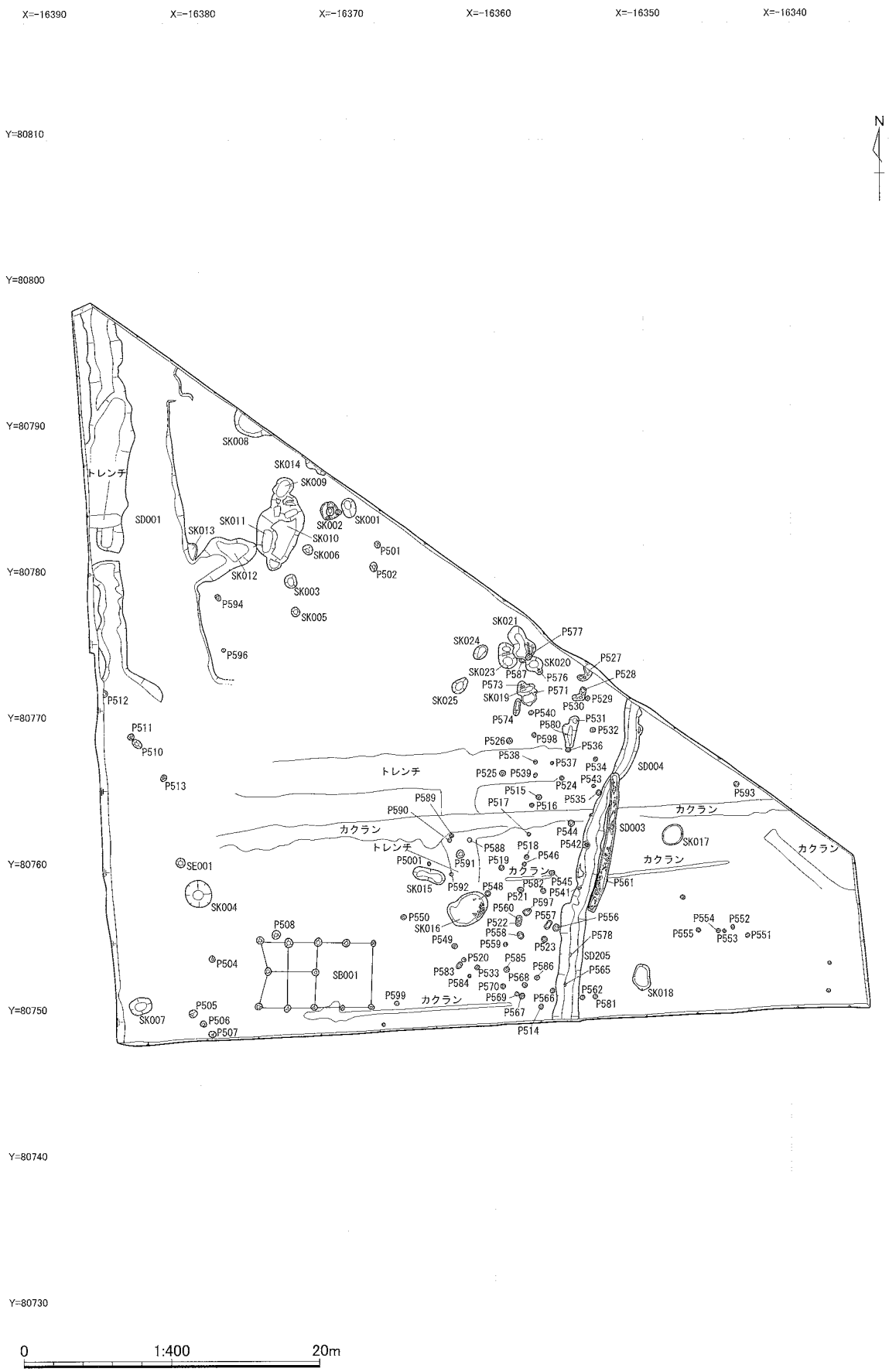
４区 溝 SD009 実測図　縮尺１／80、１／40

図面〇三八　遺構実測図（５区）



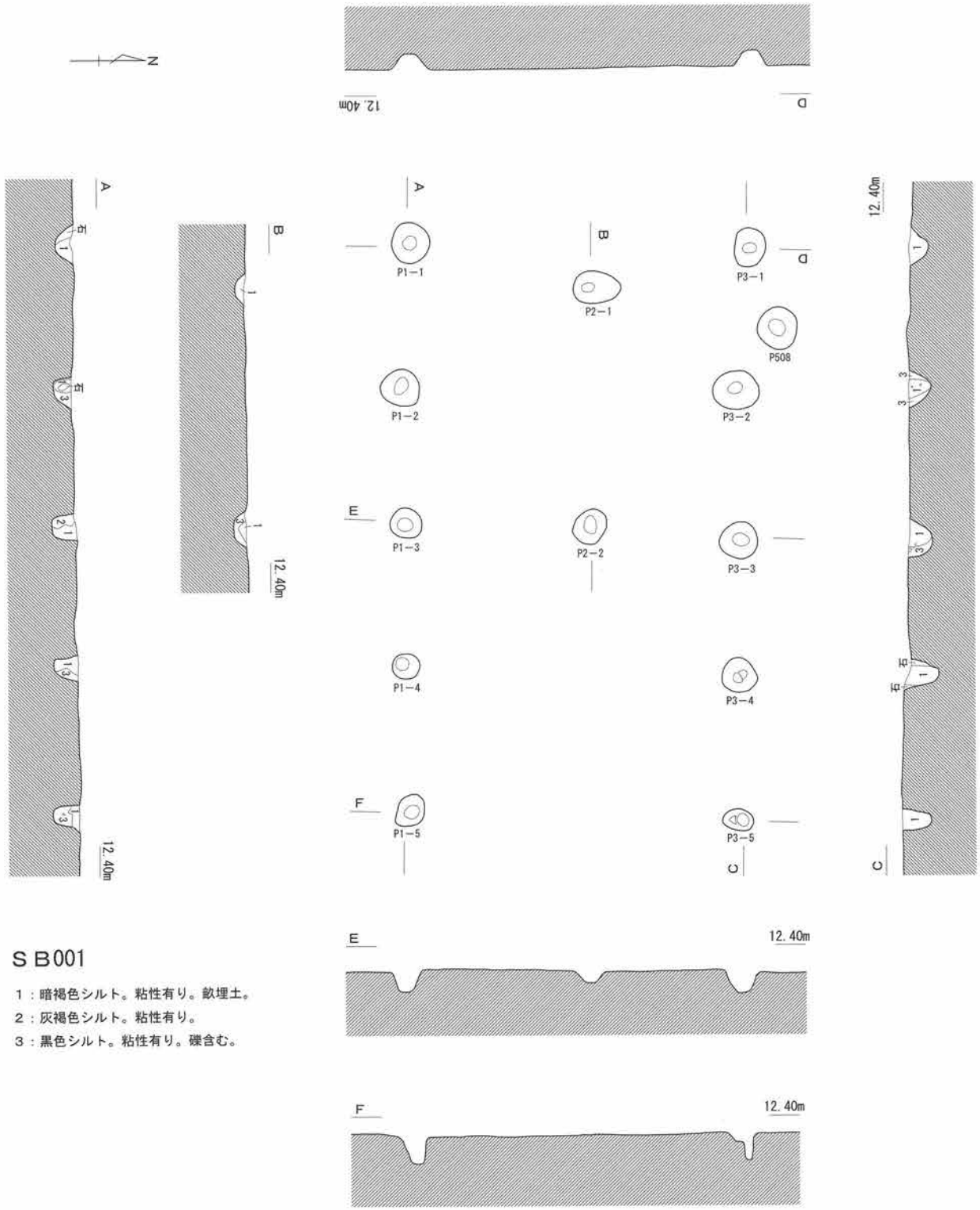
５区 上層遺構全体図　縮尺１／400

図面〇三九　遺構実測図（５区）



0　1:400　20m

５区 下層遺構全体図　縮尺１／400

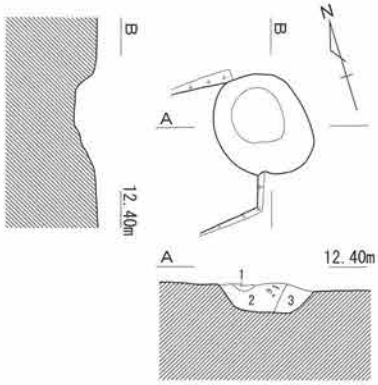


ＳＢ001

１：暗褐色シルト。粘性有り。畝埋土。
２：灰褐色シルト。粘性有り。
３：黒色シルト。粘性有り。礫含む。

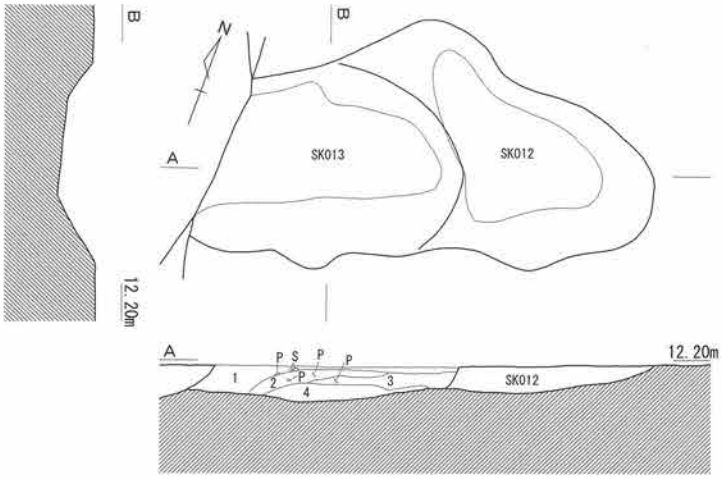
0　1:80　4m

５区 掘立柱建物址 SB001 実測図　縮尺１／80



ＳＫ001

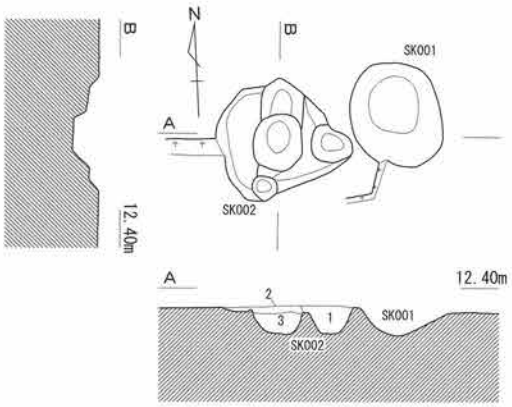
１：明黄褐色砂質シルト。粘性有り。
２：灰褐色砂質シルト。粘性有り。
３：明灰色砂質シルト。粘性有り。



ＳＫ013

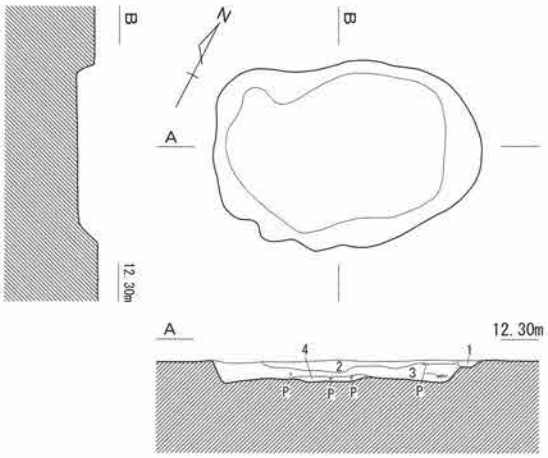
１：黒色シルト。粘性有り。
２：灰色シルト。粘性有り。
　炭微量含む。
３：暗灰色シルト。粘性有り。
４：明灰色シルト。粘性有り。

SK013 遺物出土状況



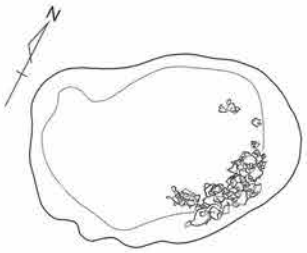
ＳＫ002

１：暗褐色シルト。粘性有り。礫多量含む。
２：灰褐色シルト。粘性有り。
３：黒色シルト。粘性有り。礫多量含む。

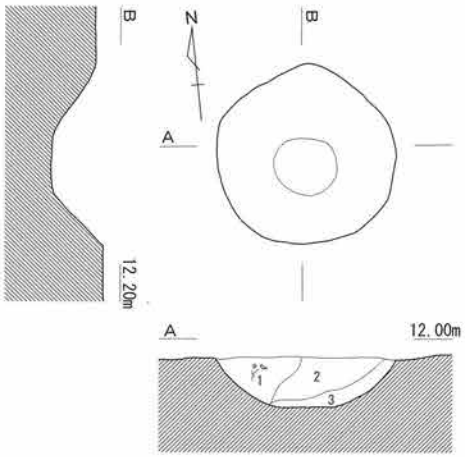


ＳＫ016

１：黒色シルト。粘性有り。畝。
２：黒褐色シルト。
３：明灰色シルト。粘性有り。
　遺物多量含む。
４：黒色シルト。粘性有り。



SK016 遺物出土状況

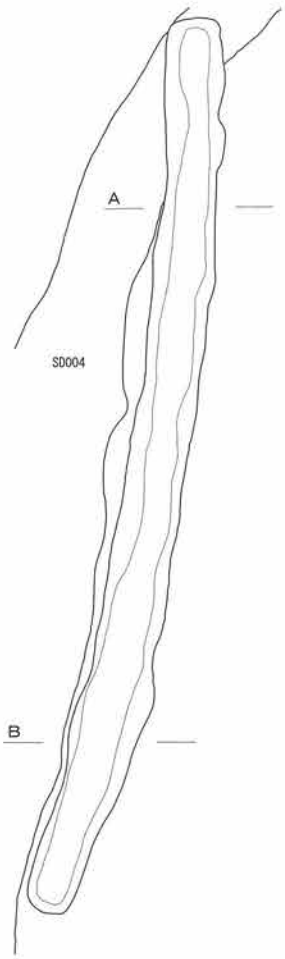


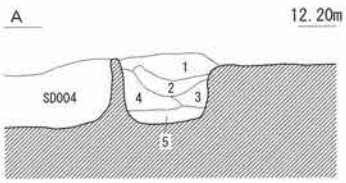
ＳＫ004

１：黒褐色シルト。粘性有り。土器含む。礫少ない。
２：灰褐色シルト。粘性有り。礫多量含む。炭微量含む。明黄ブロック含む。
３：灰褐色砂質シルト。粘性有り。礫多量含む。細かな礫多い。灰色砂質土含む。

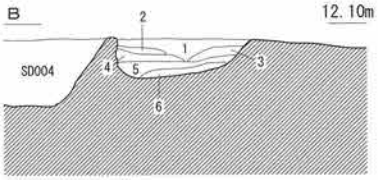
0　1:80　4m

５区 土坑 SK001・SK002・SK004・SK013・SK016 実測図　縮尺１／80

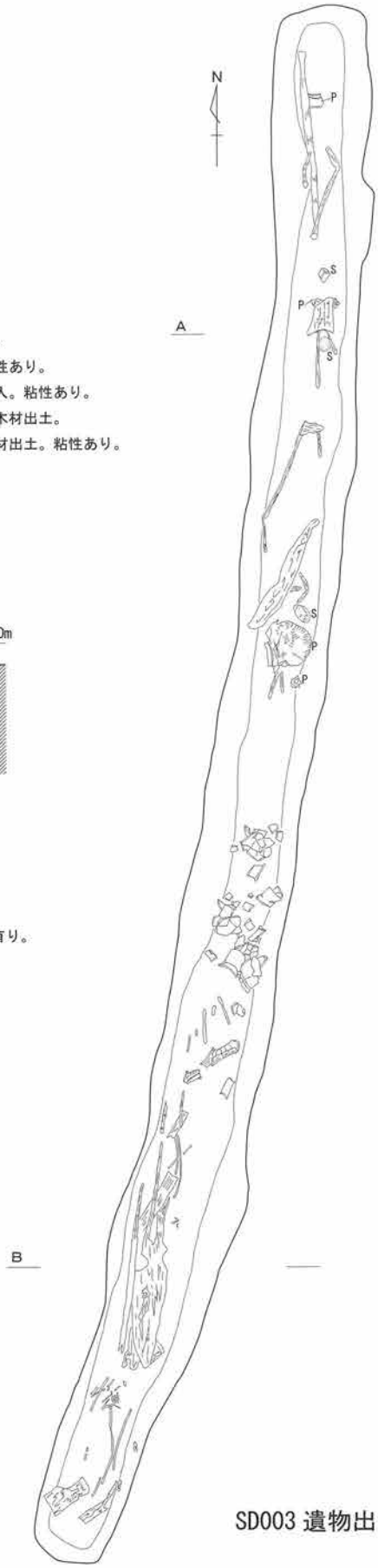




1：黒褐色土。灰褐粒混入。炭化物微量含む。
2：黒色土。炭化物大量含む。土器出土。粘性あり。
3：黒褐色土。灰褐色土少量混入。玉砂利混入。粘性あり。
4：灰褐色砂質土。暗褐色土が層状に混入。木材出土。
5：灰褐色砂質土。地山由来と思われる。木材出土。粘性あり。



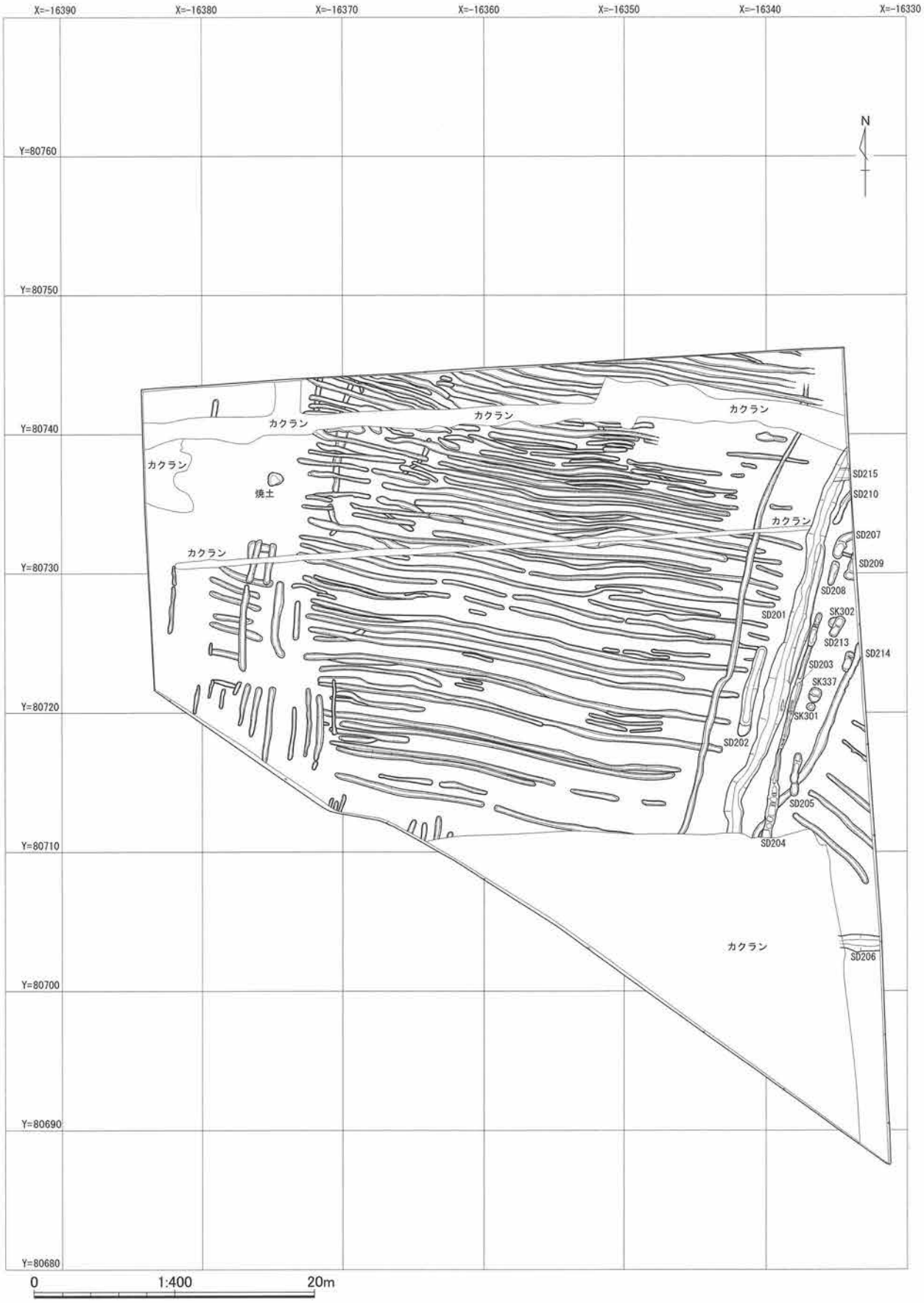
1：黒褐色土。灰褐粒混入。炭化物微量含む。
2：灰褐色土。炭化物混入。
3：灰褐色土。暗褐土少量混入。
4：黒褐色土。灰褐土少量混入。
5：黒色土。灰褐粒状に少量混入。
6：黒色土。灰褐粒状に中量混入。粘性やや有り。



SD003 遺物出土状況

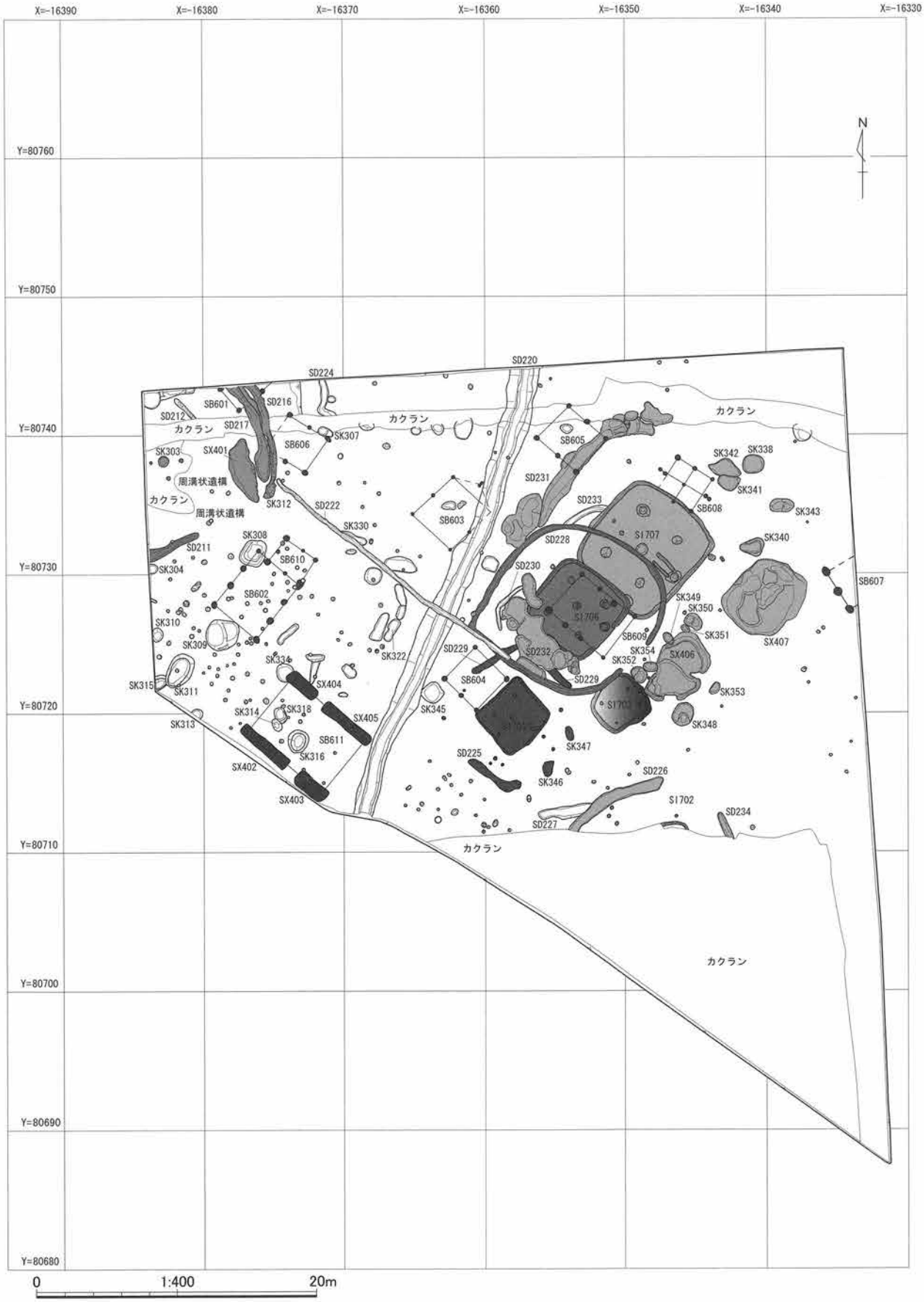
5区 溝 SD003 実測図　縮尺 1／80、1／40

図面〇四三　遺構実測図（6区）



6区 上層遺構全体図　縮尺1／400

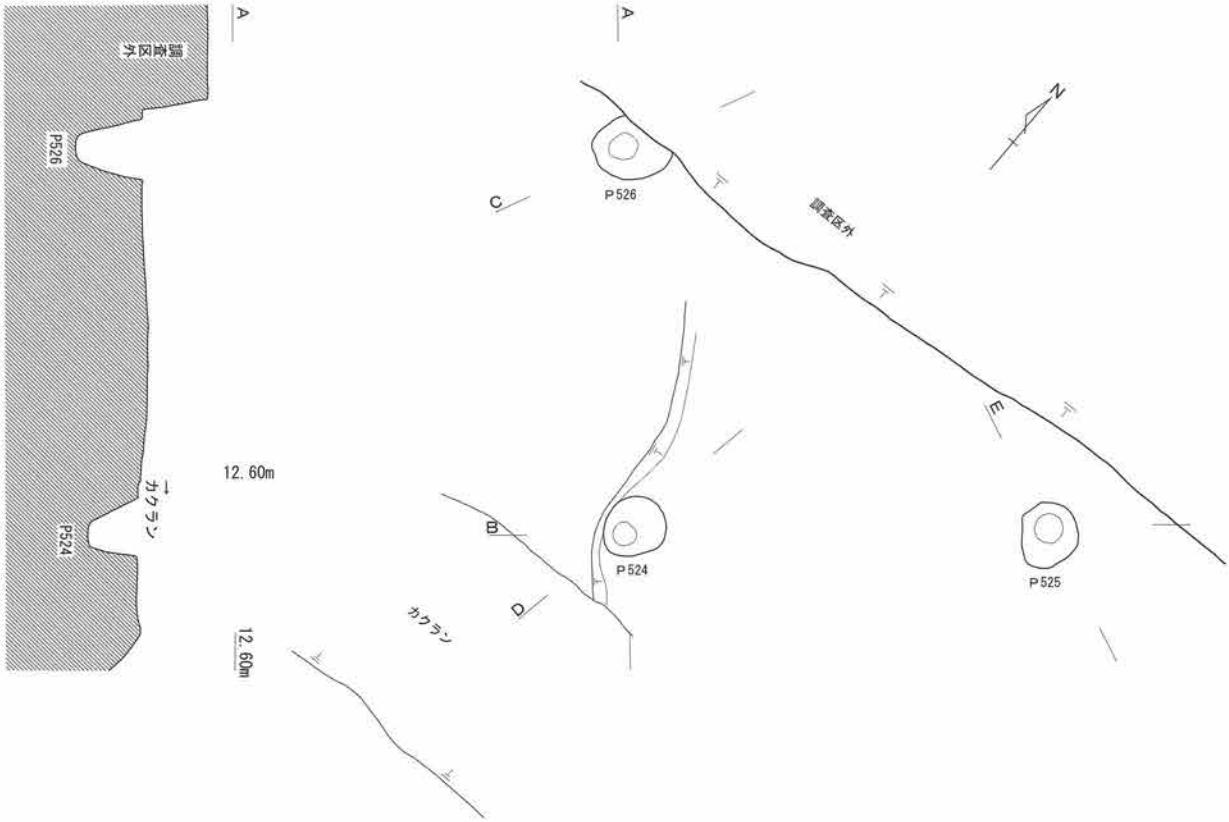
図面〇四四　遺構実測図（６区）

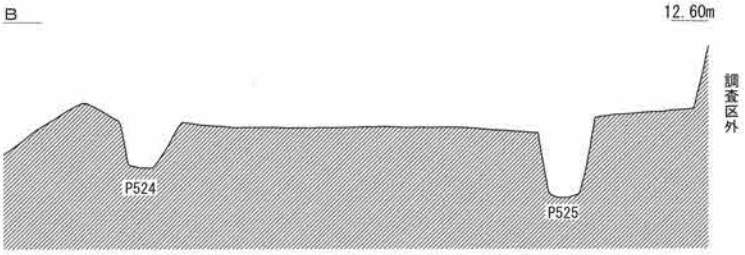


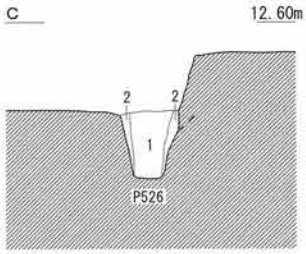
0　1:400　20m

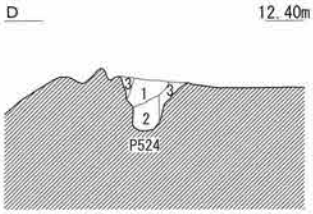
６区 下層遺構全体図　縮尺１／400

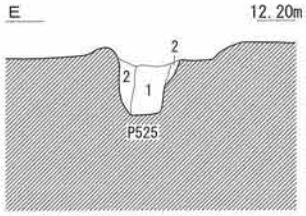
図面〇四五　遺構実測図（６区）











0　1:40　2m

P526C

1：褐灰色砂質シルト。（地山粒、3～5mmの炭やや多）

2：褐灰色砂質シルト。（地山粒多）

P524D

1：褐灰色砂質シルト。（地山粒多）

2：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）

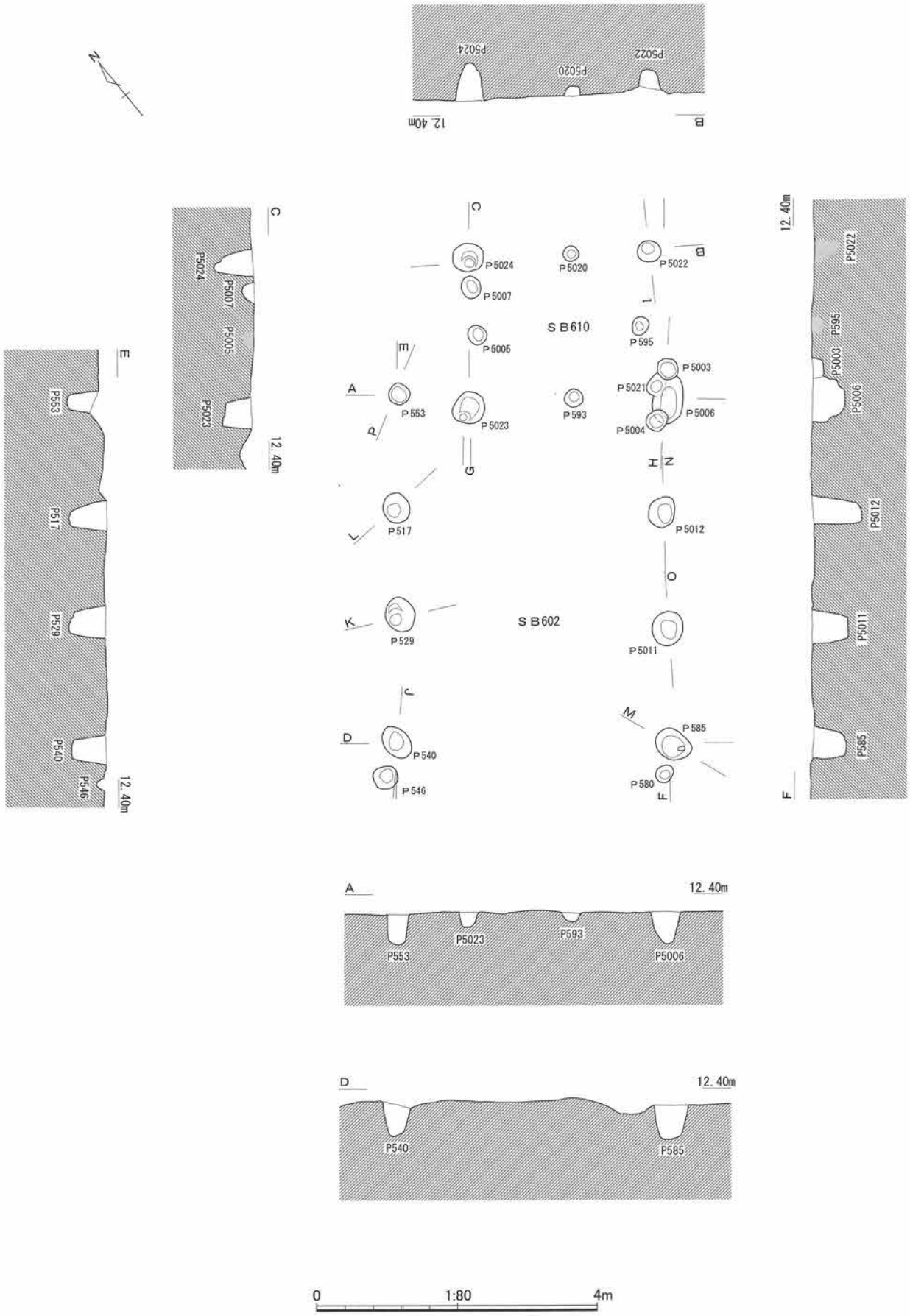
3：褐灰色砂質シルト。（地山粒やや多）

P525E

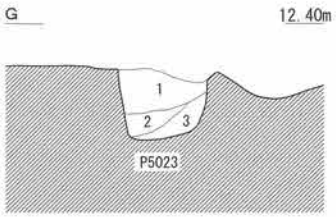
1：柱痕。褐灰色砂質シルト。（地山粒少）

2：褐灰色砂質シルト。（地山粒多）

６区 掘立柱建物址 SB601 実測図　縮尺１／40

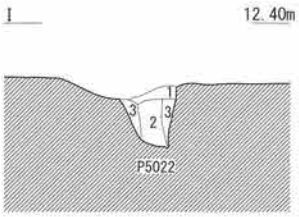


６区 掘立柱建物址 SB602・SB610 実測図　縮尺１／80



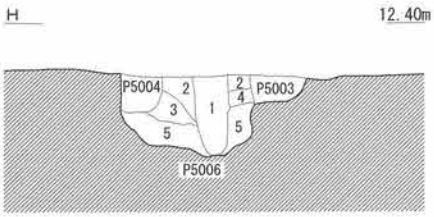
ＳＢ610Ｐ5023

1：黒褐色シルト。（褐灰色粒やや多、地山粒少）
2：黒褐色シルト。（地山粒多）
3：黒褐色シルト。（地山粒やや多）



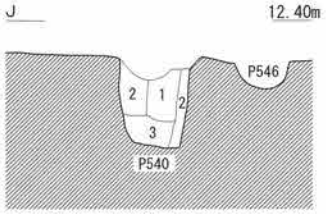
ＳＢ610Ｐ5022

1：黒褐色シルト。（地山粒少）
2：黒褐色シルト。
3：黒褐色シルト。（地山粒多）



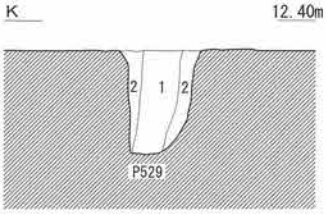
ＳＢ602Ｐ5006

1：黒褐色砂質シルト。（褐灰色粒、地山粒少）
2：黒褐色砂質シルト。（地山粒多、褐灰色粒少）
3：黒褐色砂質シルト。（地山粒やや多、褐灰色粒少）
4：黒褐色砂質シルト。（地山粒、褐灰色粒少）
5：黒褐色砂質シルト。（地山ブロック少、褐灰色ブロック少）



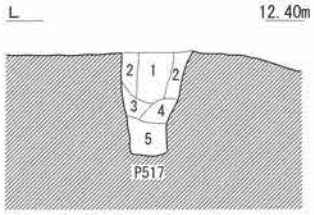
ＳＢ602Ｐ540

1：黒褐色砂質シルト。（2～3mmの炭少、地山粒やや多）
2：黒褐色砂質シルト。（地山粒多）
3：地山相当層。（黒褐色粒やや多）



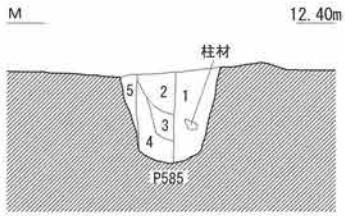
ＳＢ602Ｐ529

1：褐灰色砂質シルト。（3～5mmの炭、地山粒やや多）
2：褐灰色砂質シルト。（地山粒多）



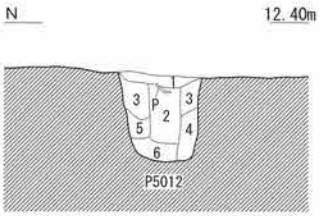
ＳＢ602Ｐ517

1：柱痕。黒色シルト。粘性有。
2：黒色シルトと地山混合土。粘性有。
3：明黄色シルト。粘性有。
4：黒色シルト。粘性有。
5：黒色シルトと地山混合土。



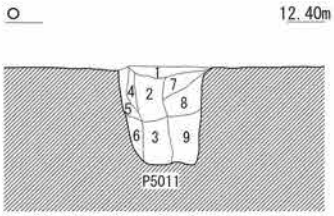
ＳＢ602Ｐ585

1：黒褐色砂質シルト。（褐灰色粒、地山粒やや多）
2：黒褐色砂質シルト。（地山粒多）
3：黒褐色砂質シルト。（地山粒少）
4：黒褐色砂質シルト。（地山粒やや多）
5：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）



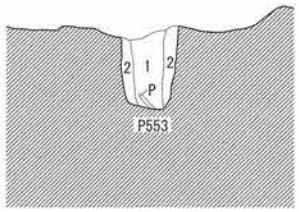
ＳＢ602Ｐ5012

1：黒褐色シルト。（地山粒少）
2：黒褐色シルト。（地山粒少）
3：黒褐色シルト。（地山粒少）
4：黒褐色シルト。（地山粒やや多）
5：黒褐色シルト。（地山粒やや多）
6：黒褐色シルト。（地山粒多）



ＳＢ602Ｐ5011

1：黒褐色砂質シルト。（地山粒少）
2：黒褐色砂質シルト。
3：黒褐色砂質シルト。（地山ブロックやや多）
4：黒褐色砂質シルト。（地山粒少）
5：黒褐色砂質シルト。（地山ブロックやや多）
6：黒褐色砂質シルト。（地山ブロック多）
7：黒褐色砂質シルト。（地山粒少）
8：黒褐色砂質シルト。（地山粒やや多）
9：黒褐色砂質シルト。（地山ブロック多）

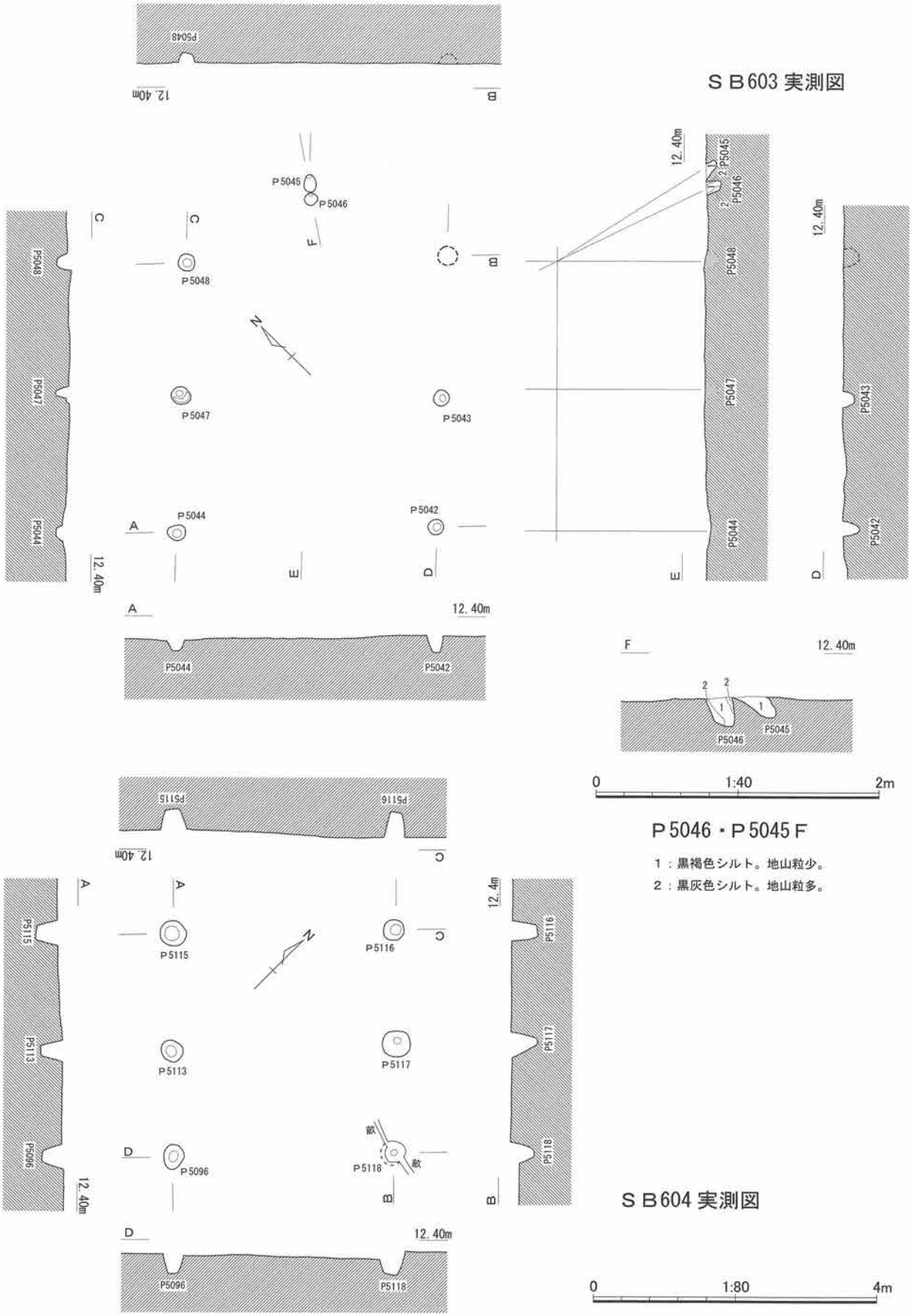


ＳＢ602Ｐ553

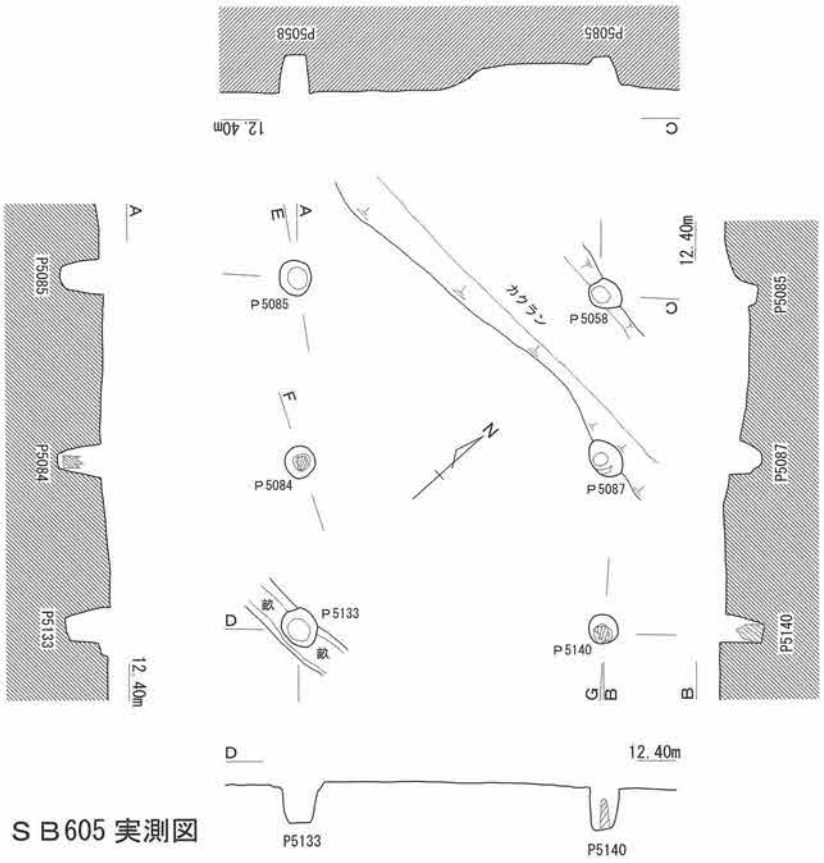
1：黒褐色砂質シルト。（地山粒少、土器片やや多）
2：黒褐色砂質シルト。（褐灰色粒やや多、地山粒多）

0　1:40　2m

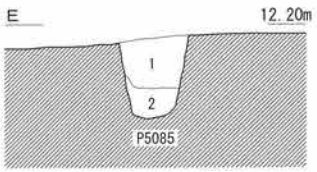
６区 掘立柱建物址 SB602・SB610 柱穴断面図　縮尺１／40



６区 掘立柱建物址 SB603・SB604 実測図　縮尺１／80、１／40

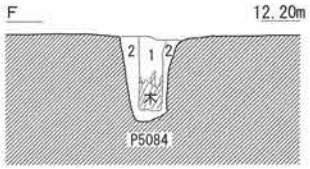


ＳＢ605 実測図



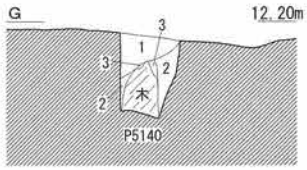
P 5085 E

1：黒褐色シルト。（地山粒やや多）
2：黒褐色シルト。（地山粒少）



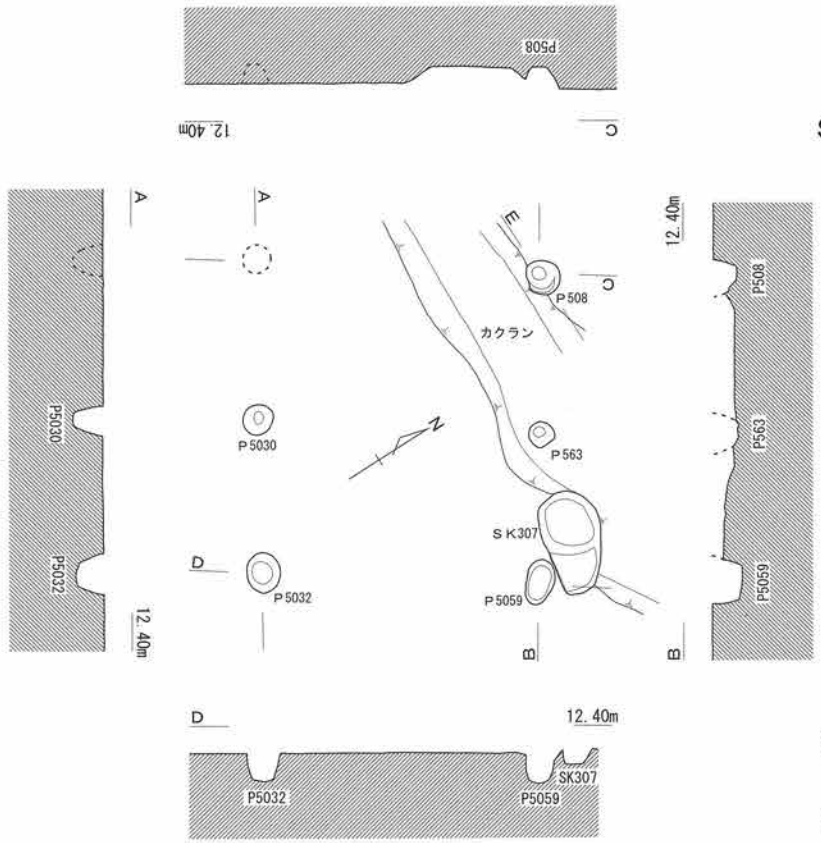
P 5084 F

1：淡褐灰色シルト。（2～3mm の炭やや多）
2：淡褐灰色シルト。（地山粒多）

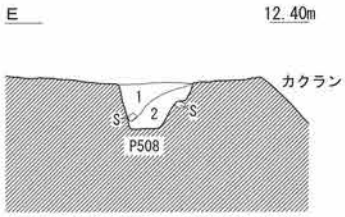


P 5140 G

1：褐灰色シルト。（2～3mm の炭やや多、地山粒少）
2：褐灰色シルト。（地山粒やや多）
3：暗褐灰色シルト。



ＳＢ606 実測図



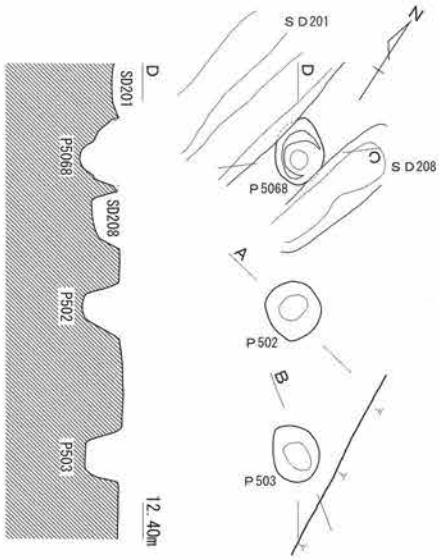
P 508 E

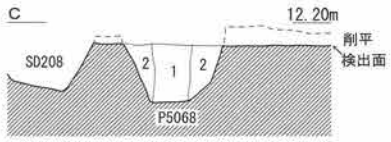
1：黒褐色シルト。（地山粒やや多）
2：地山砂質シルト。（黒褐色粒やや多）

0　1:40（断面図）　2m

0　1:80（平面図）　4m

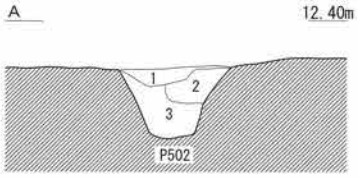
６区 掘立柱建物址 SB605・SB606 実測図　縮尺１／80、１／40





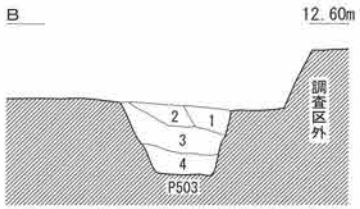
ＳＢ607Ｃ

１：灰褐色シルト。炭やや多。
２：灰褐色シルト。地山粒やや多。



ＳＢ607Ａ

１：黒灰色砂質シルト。地山粒多。
２：黒灰色砂質シルト。地山ブロック多。
３：黒灰色砂質シルト。地山ブロック少。

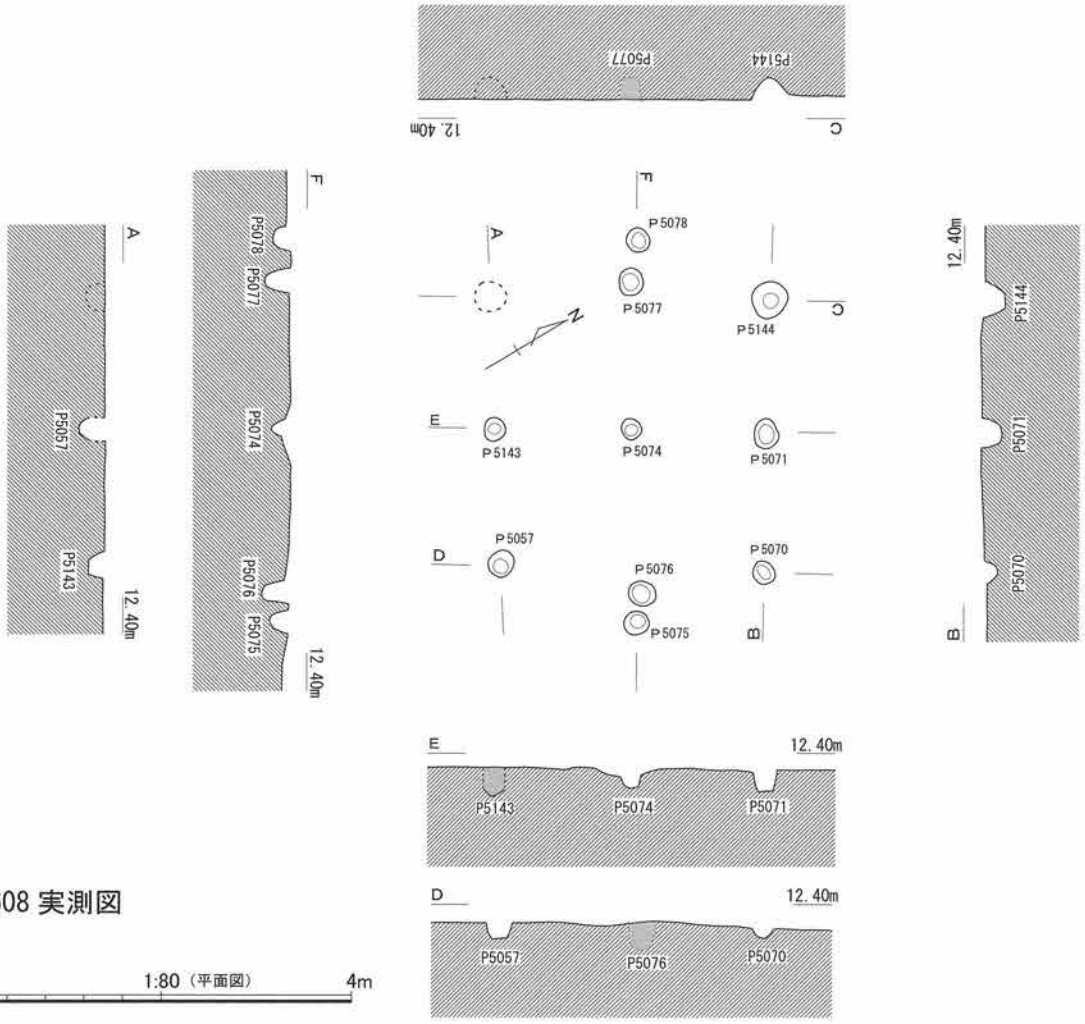


ＳＢ607Ｂ

１：黒灰色砂質シルト。地山粒やや多。
　炭化物少。
２：黒灰色砂質シルト。地山粒少。炭化物少。
３：黒灰色砂質シルト。地山と混合層。
４：黒灰色砂質シルト。地山粒多。

ＳＢ607 実測図

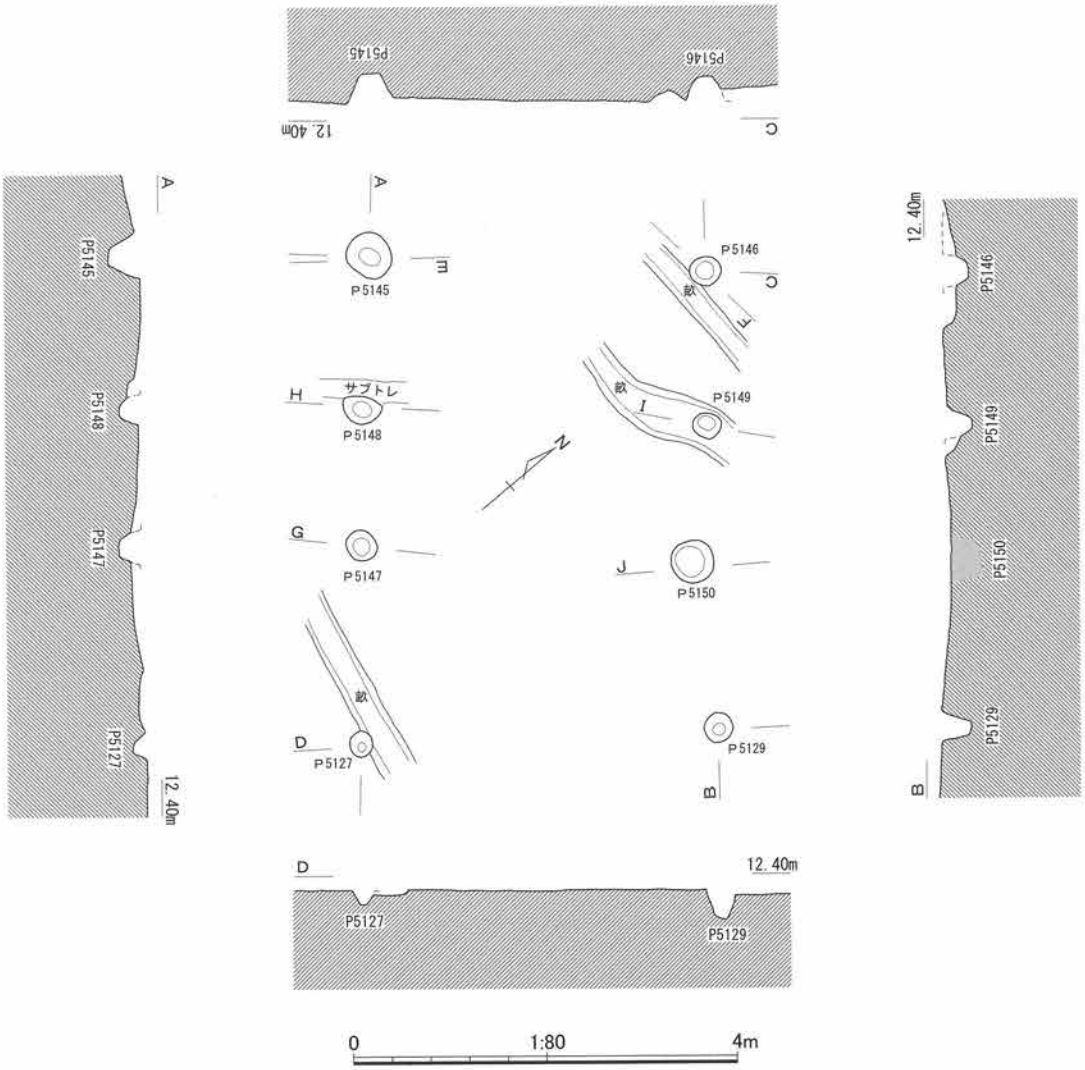
0　1:40（断面図）　2m

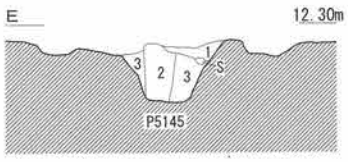


ＳＢ608 実測図

0　1:80（平面図）　4m

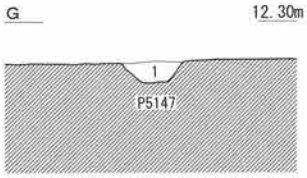
６区 掘立柱建物址 SB607・SB608 実測図　縮尺１／80、１／40





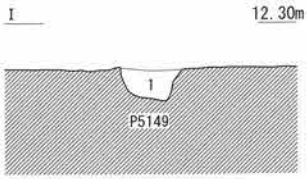
P5145E

1：褐灰色砂質シルト。炭少。
2：褐灰色砂質シルト。地山粒少。
3：褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。



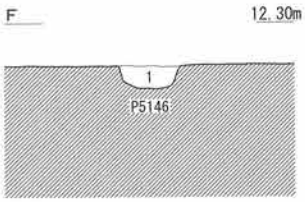
P5147G

1：褐灰色砂質シルト。地山ブロック少。



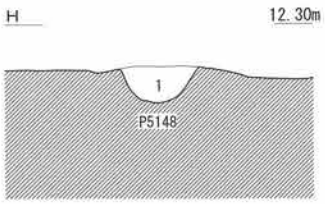
P5149 I

1：褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。



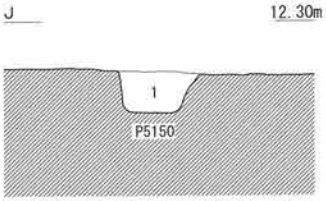
P5146F

1：褐灰色砂質シルト。地山ブロック少。



P5148H

1：褐灰色砂質シルト。地山ブロック少。



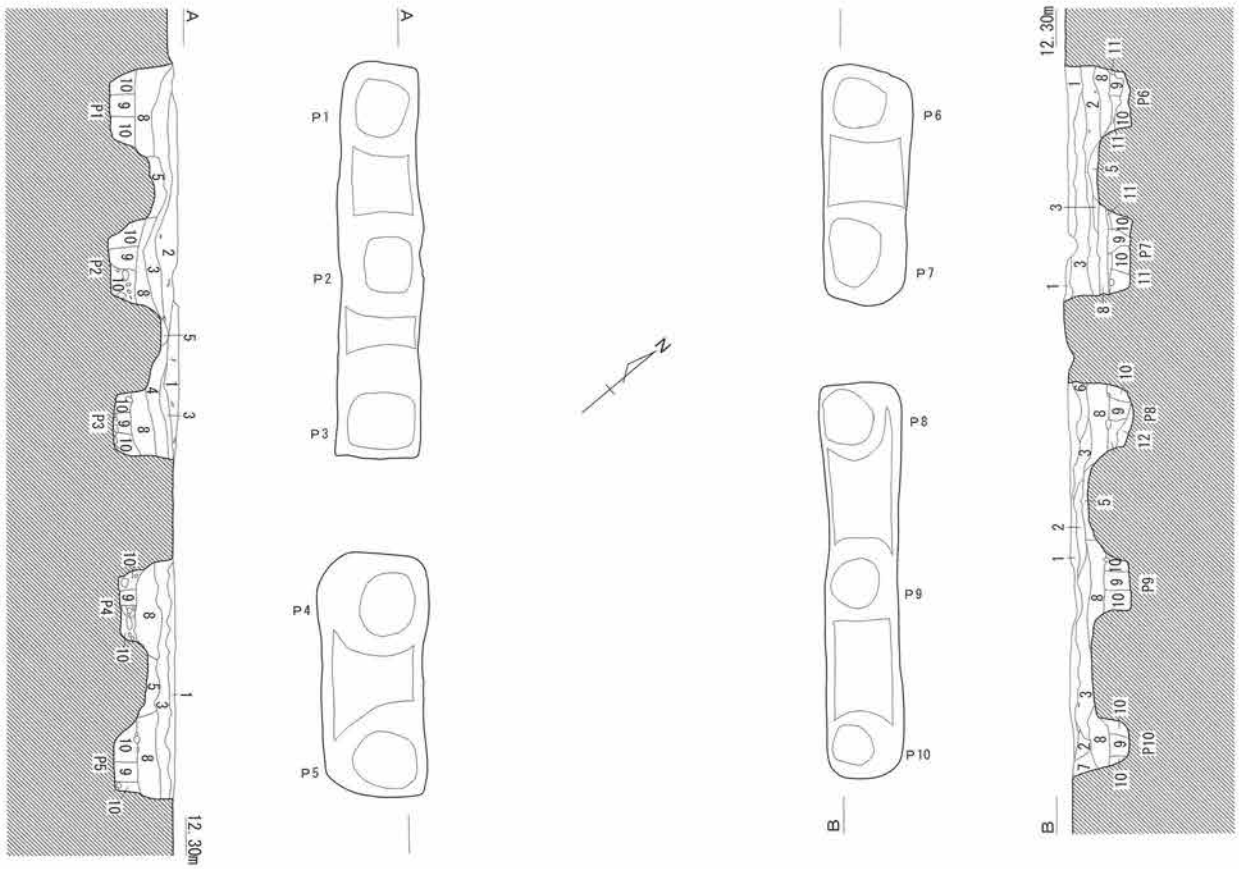
P5150J

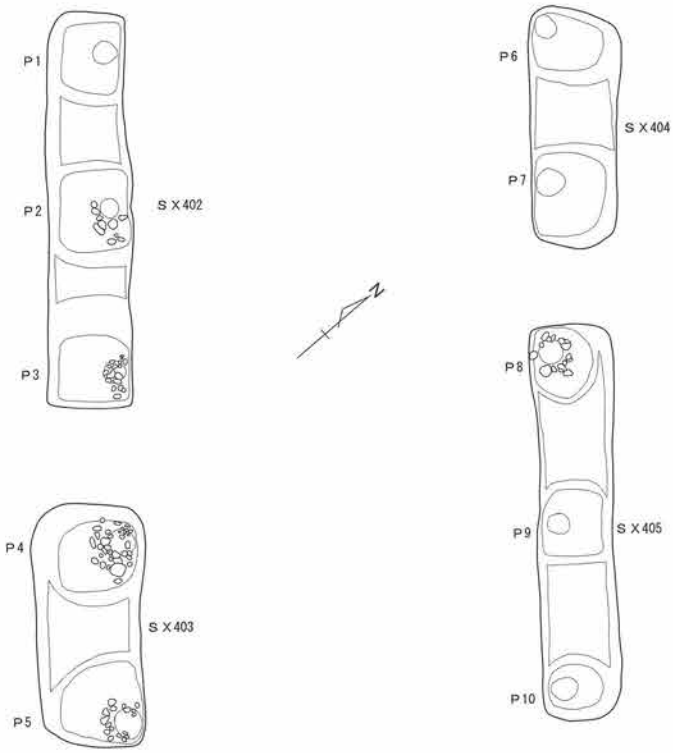
1：褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。

0　1:40　2m

6区 掘立柱建物址 SB609 実測図　縮尺1／80、1／40

図面〇五二　遺構実測図（６区）





柱根・根巻石・根石出土状況

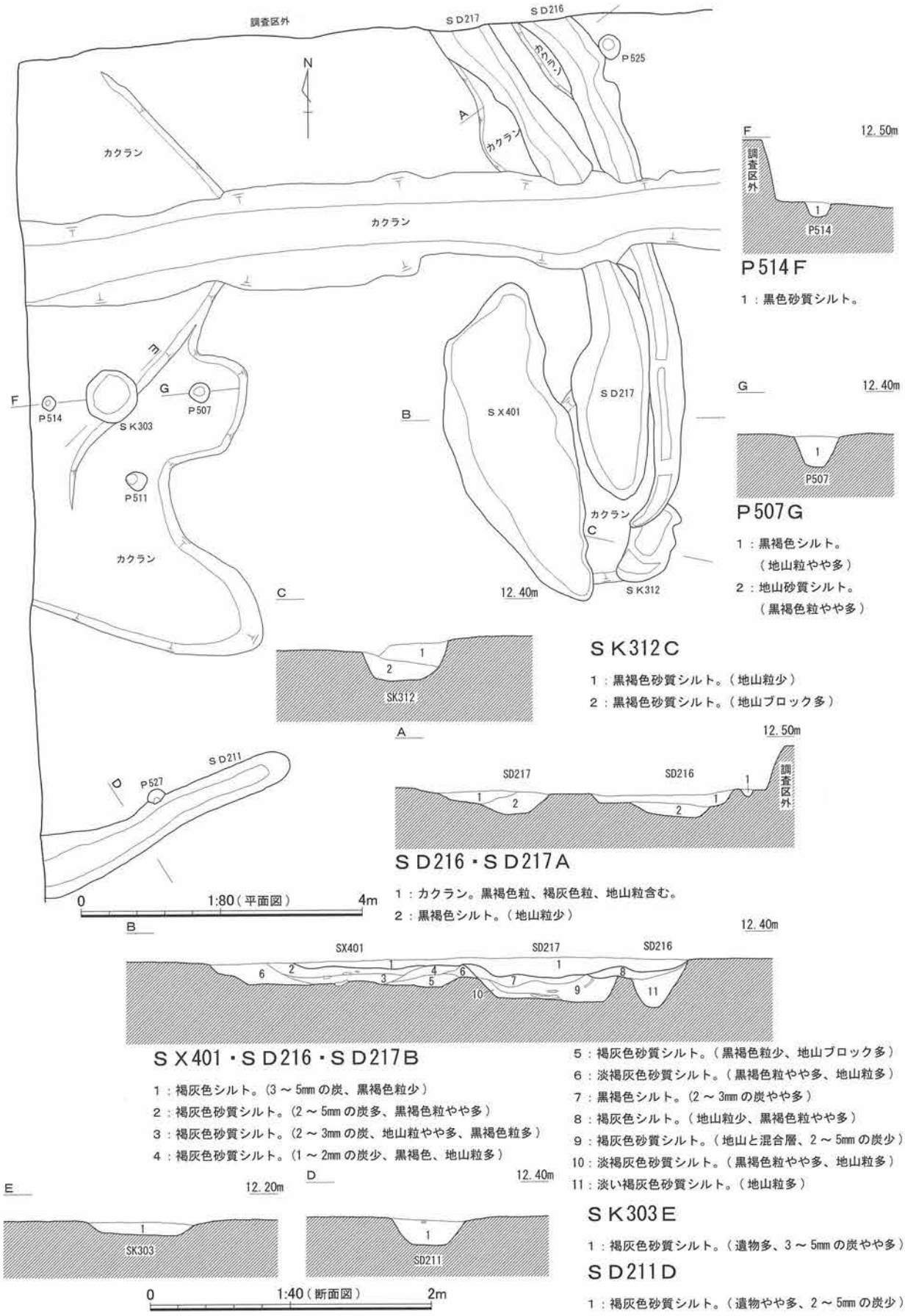
ＳＢ611Ａ・Ｂ

1：黒褐色シルト。（地山粒少）
2：黒褐色シルト。（2～3cmの礫少、地山粒やや多）
3：黒褐色シルト。（褐灰色ブロック少、地山粒少）
4：黒褐色砂質シルト。（2～5cmの礫多、地山粒多）
5：暗褐灰色砂礫。（3～5cmの礫多）
6：黒褐色シルト。
7：黒褐色シルト。（2～3cmの礫多、地山粒多）
8：地山砂質シルト。（黒褐色粒やや多、2～5cmの礫多）
9：柱痕。黒褐色シルト。（3～5cmの礫やや多、地山粒多、木片有）
10：暗黄褐色砂礫。（2～5cmの礫多、黒褐色粒少、木片有）
11：黒褐色シルト。（地山粒多）
12：暗黄褐色砂礫。（地山粒多、2～3cmの礫やや多）

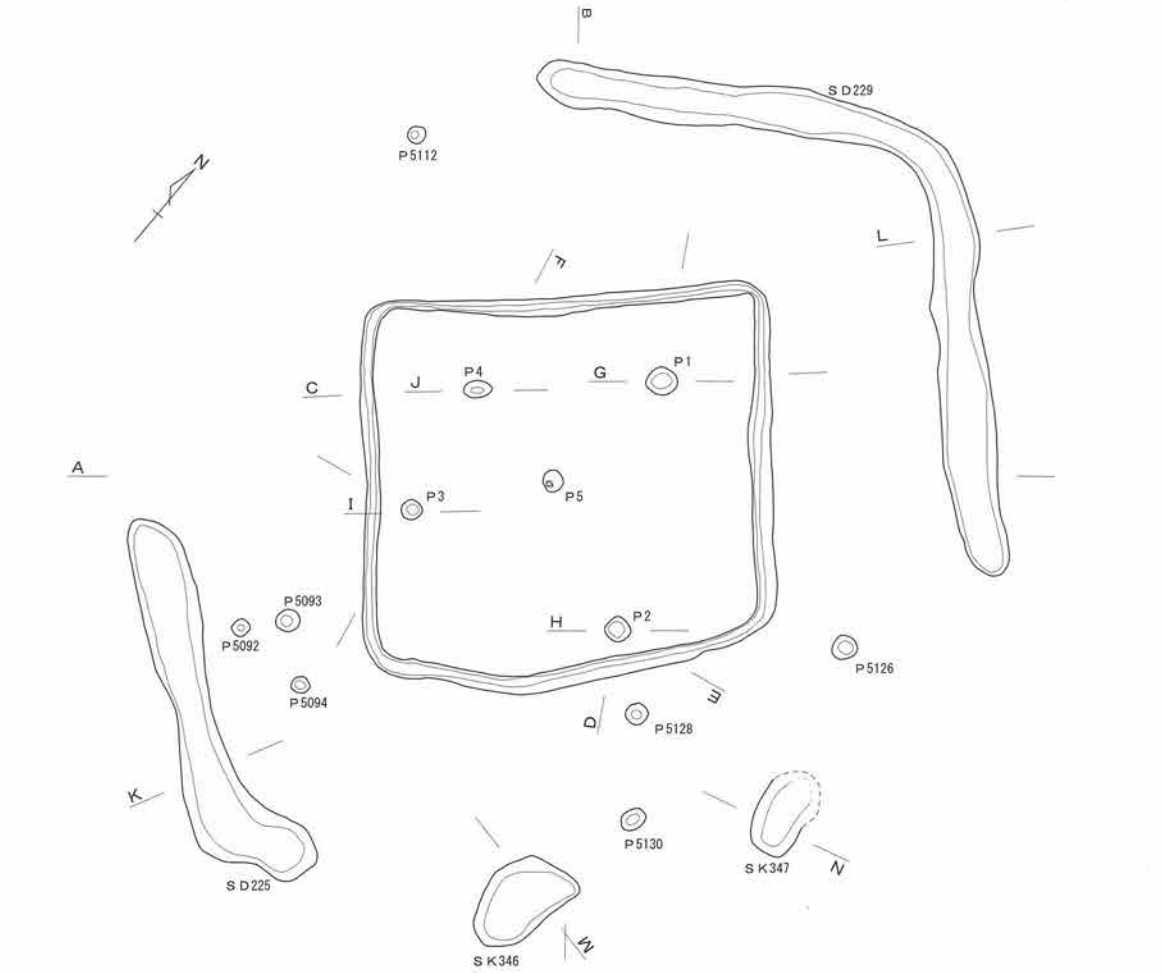
0　1:80　4m

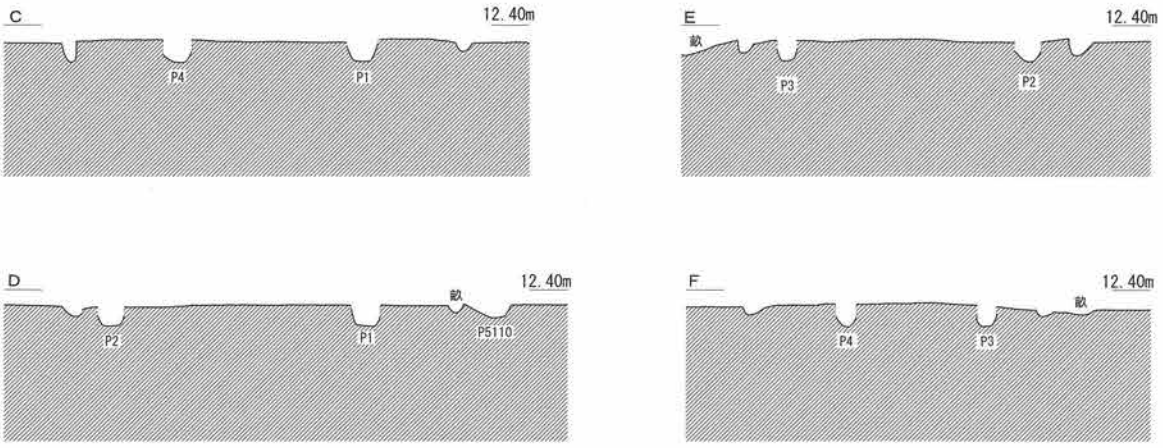
６区 掘立柱建物址 SB611 実測図　縮尺１／80

図面〇五三　遺構実測図（6区）



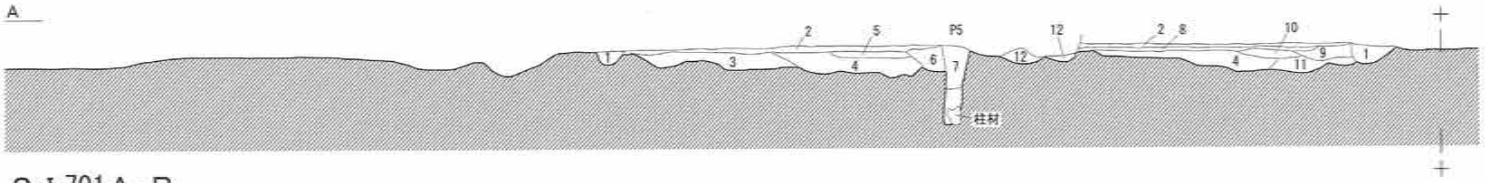
6区 周溝状遺構実測図　縮尺1／80、1／40





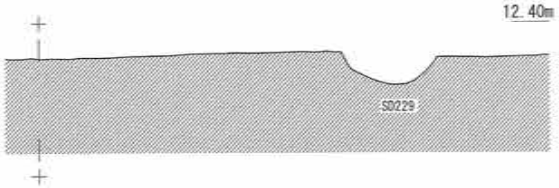
0　1:80　4m

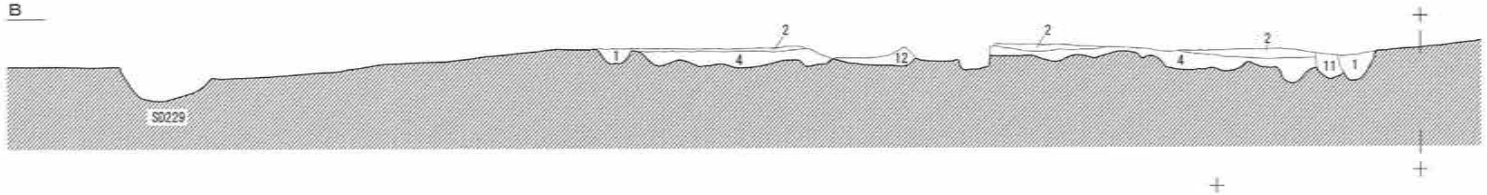
6区 竪穴建物址 SI701 実測図　縮尺 1／80

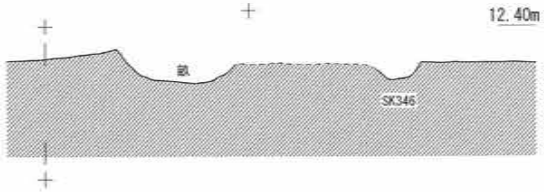


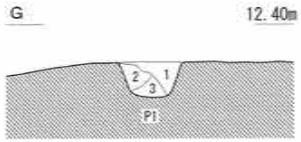
S I 701 A・B

1：褐灰色シルト。地山ブロック多。
2：褐灰色シルト。地山粒少。炭少。
3：褐灰色シルト。地山ブロック多。黒褐色粒やや多。
4：褐灰色シルト。地山ブロック多。
5：褐灰色シルト。地山粒やや多。
6：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。
7：褐灰色シルト。地山粒多。礫少。
8：褐灰色シルト。地山粒やや多。炭やや多。一部層状に。
9：褐灰色シルト。地山粒少。黒褐色粒少。
10：褐灰色シルト。地山粒少。
11：褐灰色シルト。地山ブロック多。
12：黒褐色シルト。地山ブロック多。畝。



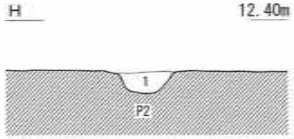






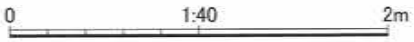
P1A

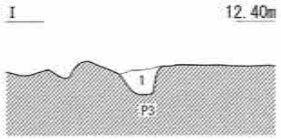
1：褐灰色シルト。黒褐色粒少。地山ブロック多。
2：地山シルト。黒褐色粒少。
3：地山砂質シルト。黒褐色粒少。



P2H

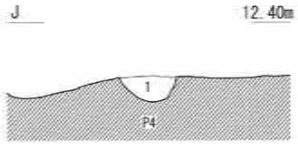
1：褐灰色シルト。地山粒やや多。





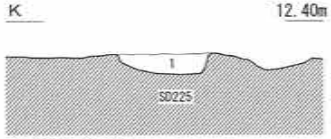
P3 I

1：褐灰色シルト。地山粒やや多。



P4 J

1：地山シルト。黒褐色粒少。

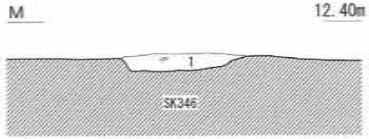


S D225K

1：褐灰色シルト。地山粒やや多。

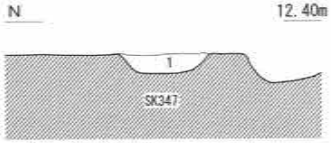
S D229 L

1：黒褐色砂質シルト。地山粒やや多。



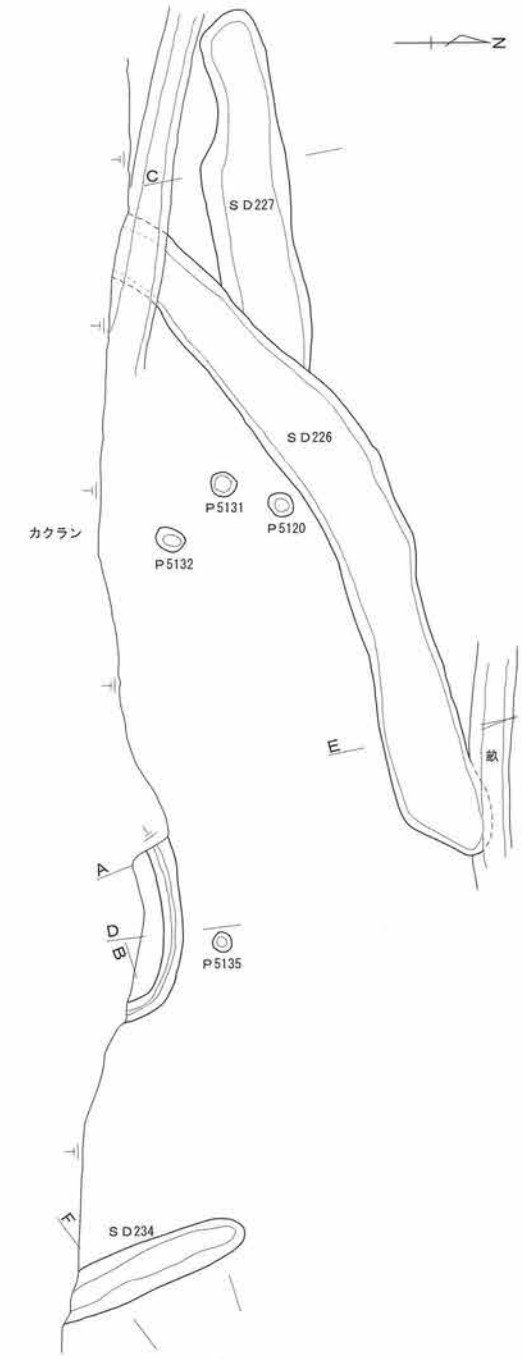
S K346M

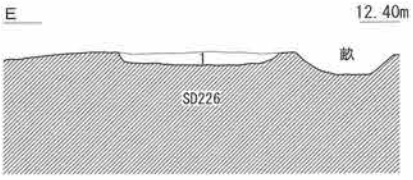
1：黒褐色シルト。地山粒少。



S K347N

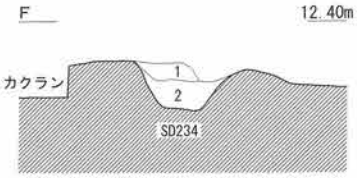
1：黒褐色シルト。地山粒多。





SD226E

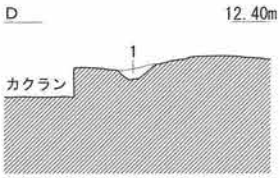
1：淡褐灰色シルト。（地山ブロック多）



SD234F

1：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）

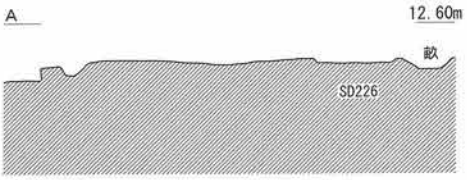
2：暗褐灰色砂質シルト。（地山ブロックやや多）

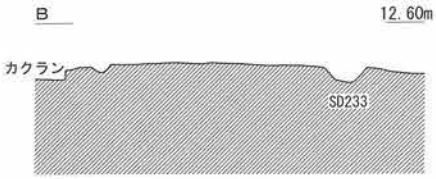


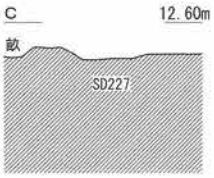
D

1：淡褐灰色シルト。（地山粒やや多）

0　1:40（断面図）　2m

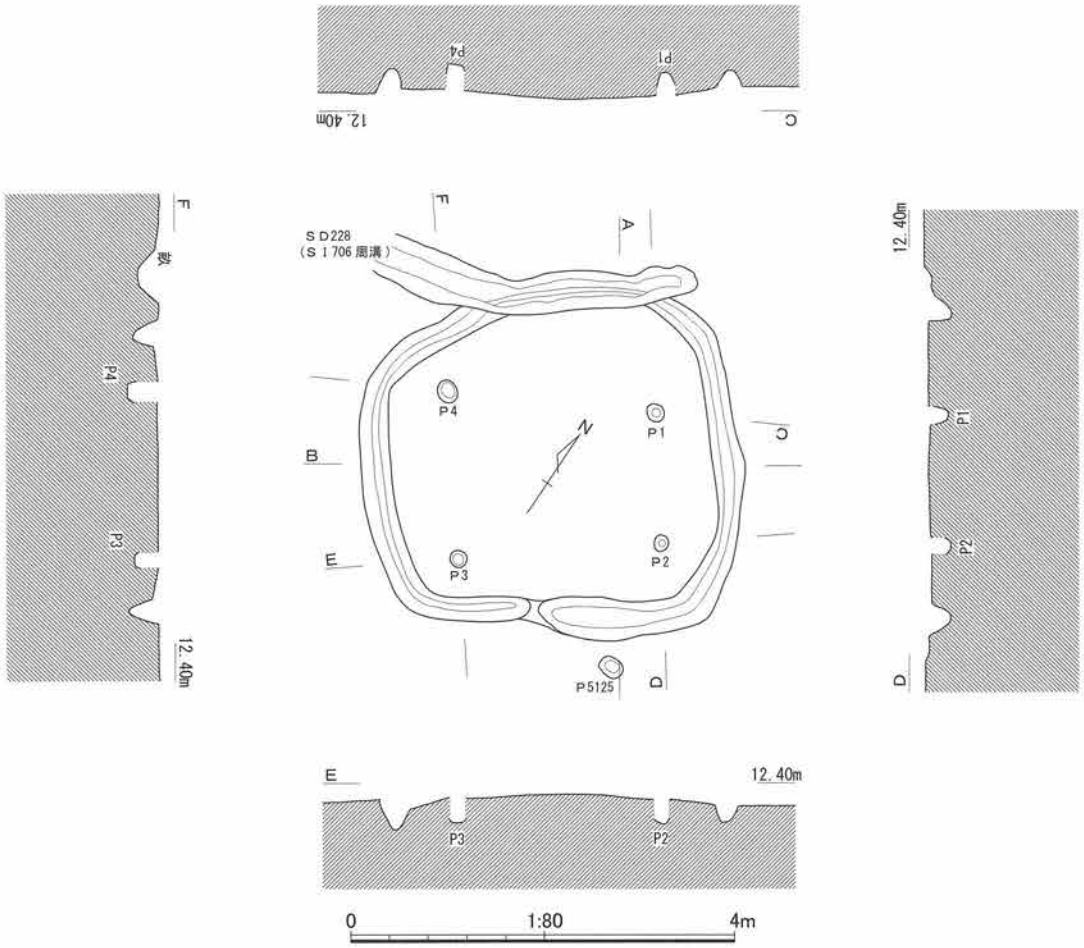


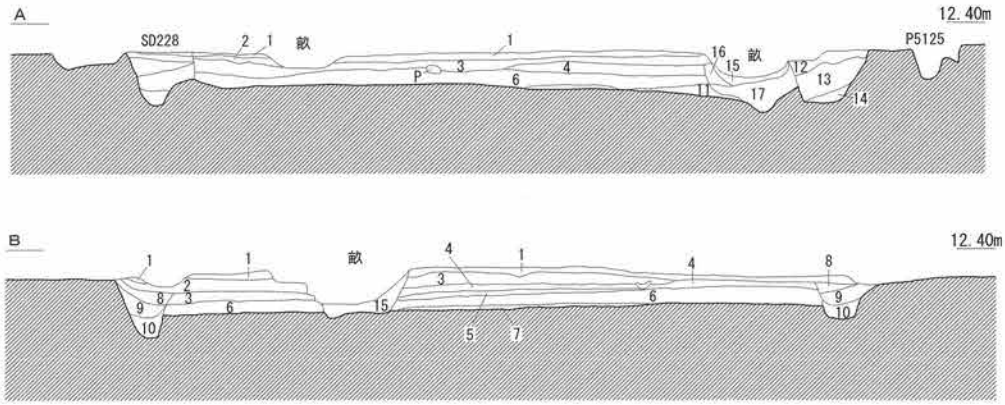




0　1:80　4m

6区 竪穴建物址 SI702 実測図　縮尺1／80、1／40



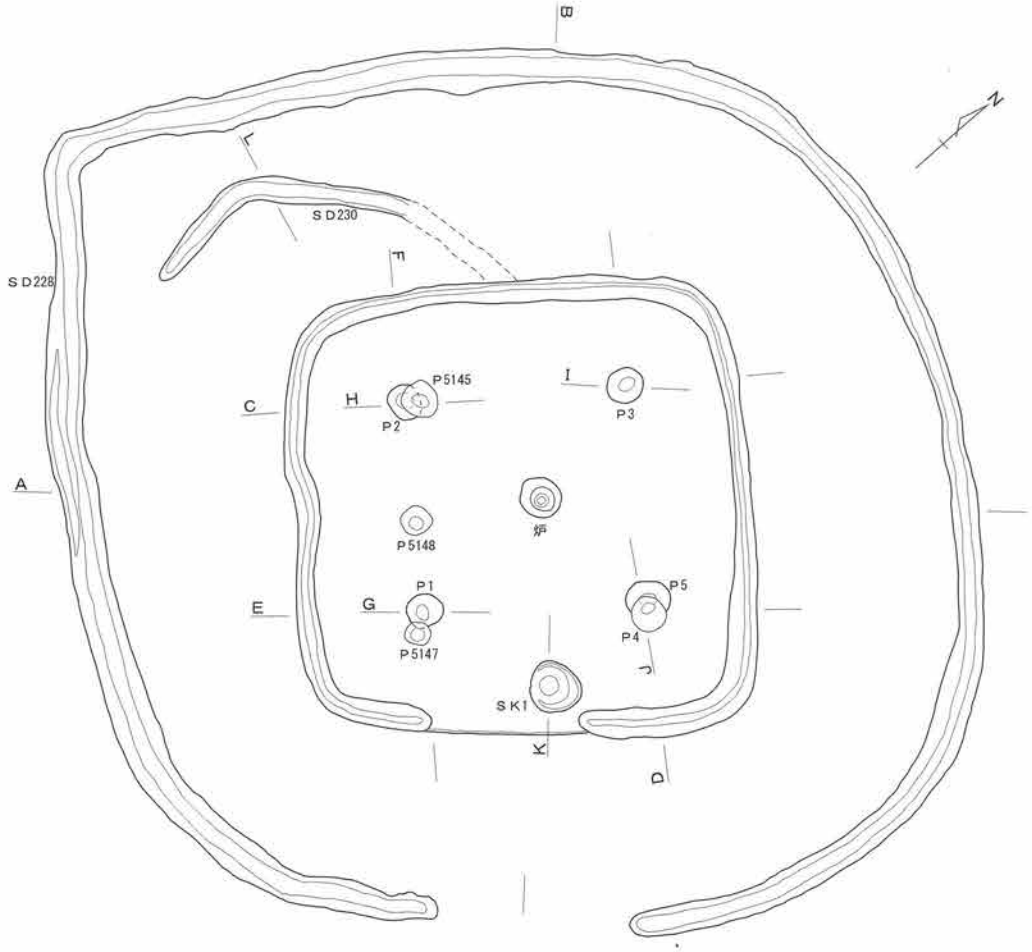


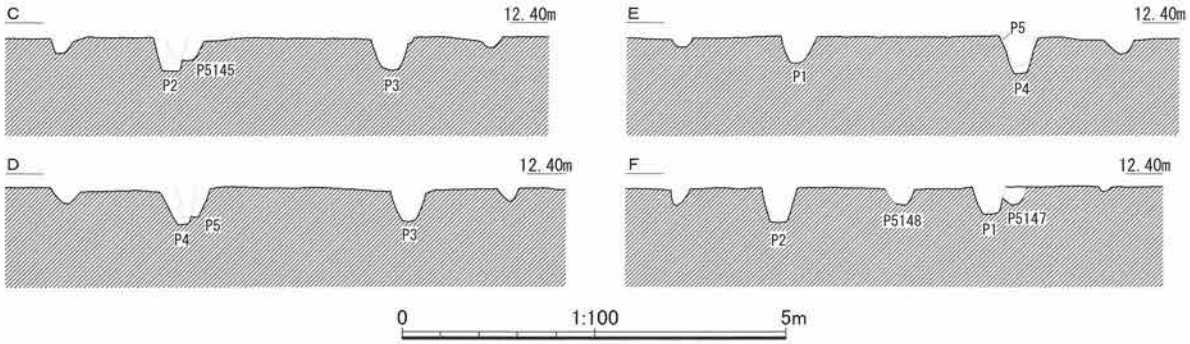
SI703A・B

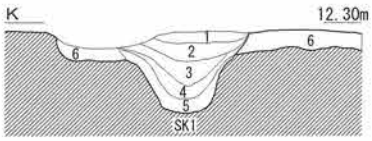
1：褐灰色シルト。(2～3mmの炭少)
2：褐灰色シルト。(地山粒少)
3：褐灰色シルト。(地山粒多、1～2mmの炭少)
4：褐灰色シルト。(3～5mmの炭やや多、地山粒少)
5：褐灰色シルト。(炭層状、地山粒やや多)
6：地山砂質シルト。(黒褐色・褐灰色粒多)
7：褐灰色シルト。(炭層状、地山粒やや多)
8：褐灰色シルト。(地山粒少)
9：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
10：淡褐灰色砂質シルト。(地山粒多)
11：地山砂質シルト。(黒褐色粒少)
12：淡褐灰色シルト。(黒褐灰色粒少)
13：地山シルト。(褐灰色ブロックやや多)
14：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
15：畝。黒褐色シルト。
16：褐灰色シルト。
17：黒褐色シルト。(地山ブロックやや多)

0　1:40（断面図）　2m

6区 竪穴建物址SI703実測図　縮尺1／80、1／40

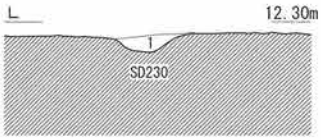






ＳＫ1Ｋ

1：褐灰色砂質シルト。（包含層）
2：褐灰色砂質シルト。(2 ～ 3mm の炭少）
3：褐灰色砂質シルト。(1 ～ 2mm の炭やや多）
4：褐灰色砂質シルト。(3 ～ 5mm の炭多）
5：淡褐灰色砂質シルト。（地山粒多）
6：地山砂質シルト。（褐灰色粒やや多）



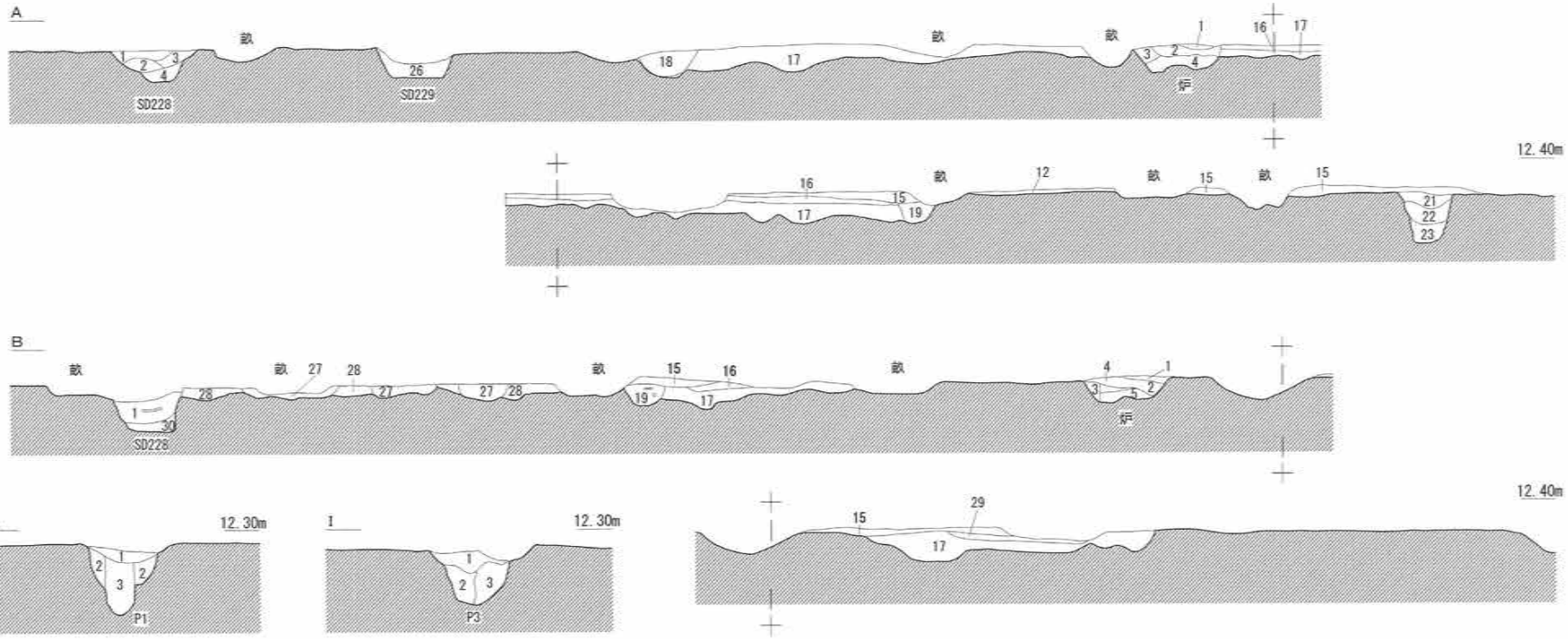
ＳＤ230Ｌ

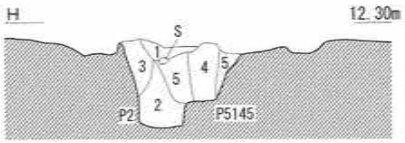
1：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）

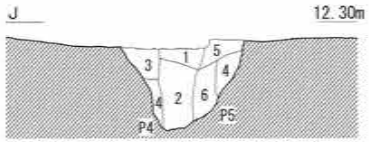
0　1:40（断面図）　2m

６区 竪穴建物址 SI706 実測図　縮尺１／100、１／40

図面〇五九　遺構実測図（6区）







P1G

1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少)
2：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
3：地山砂質シルト。(褐灰色粒多)

P3I

1：褐灰色砂質シルト。(2～5mmの炭少)
2：地山砂質シルト。柱痕。(2～3cmの礫、褐灰色粒少)
3：地山砂質シルト。(2～3cmの礫少、褐灰色粒やや多)

P2・P5145H

1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少)
2：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
3：地山砂質シルト。(褐灰色粒少)
4：褐灰色砂質シルト。(地山粒少)
5：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)

P4・P5J

1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少)
2：地山砂質シルト。(2～5cmの礫少、褐灰色粒やや多)
3：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
4：地山砂質シルト。(褐灰色粒少)
5：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
6：地山砂質シルト。(褐灰色粒少)

SI706A・B

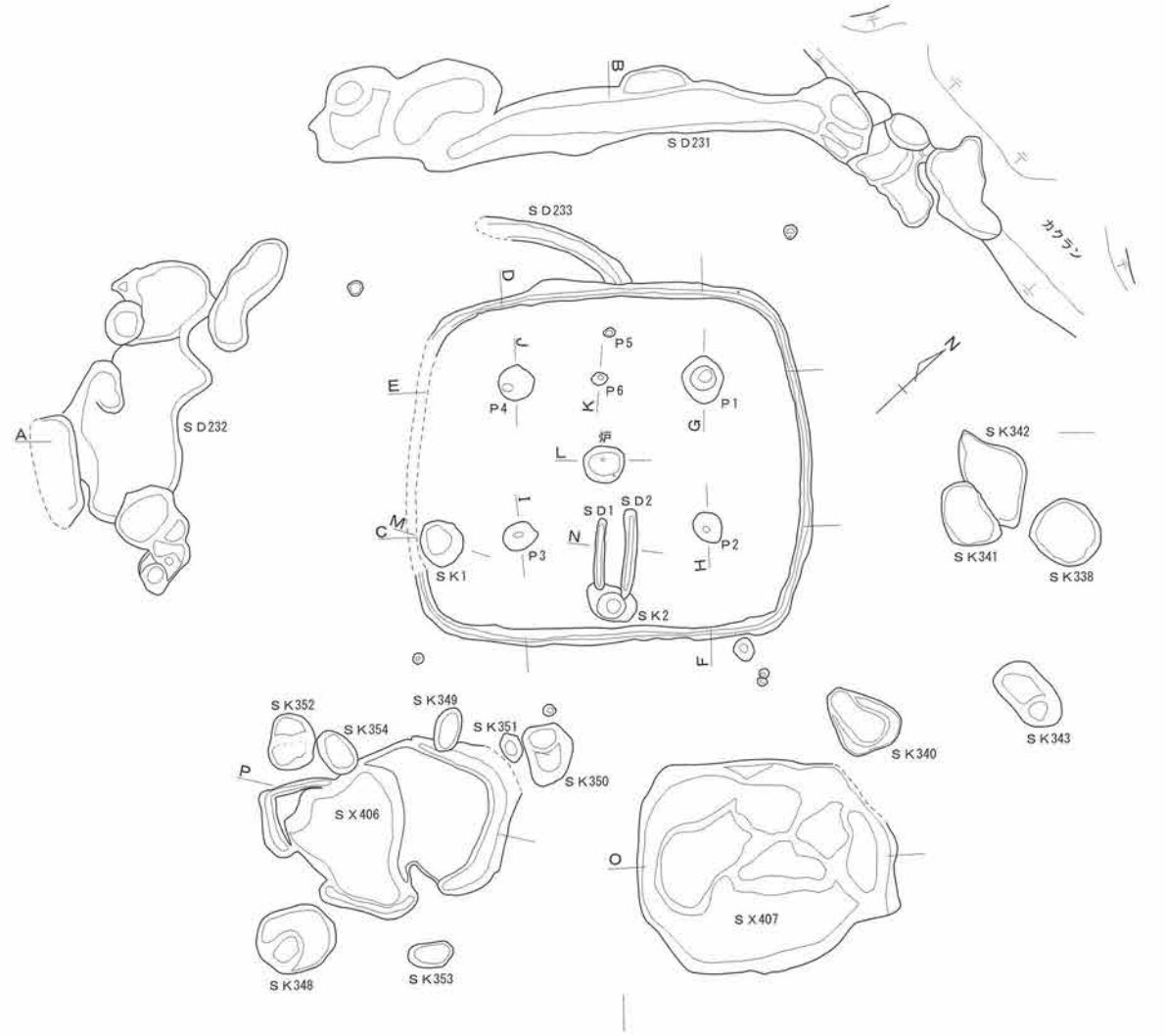
1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少)
2：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
3：褐灰色砂質シルト。(地山粒少)
4：淡褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
15：褐灰色シルト。
16：褐灰色シルト。床面。(2～3mmの炭、地山粒やや多)
17：地山砂質シルト。(淡褐灰色ブロックやや多)
18：褐灰色砂質シルト。(地山ブロックやや多)
19：褐灰色砂質シルト。(地山粒少)
21：褐灰色シルト。(1～2mmの炭少)
22：褐灰色シルト。(2～3mmの炭やや多、地山粒少)
23：地山砂質シルト。(褐灰色粒少)
26：黒褐色砂質シルト。(地山粒やや多)
27：淡褐灰色シルト。(褐灰色ブロックやや多)
28：淡褐灰色シルト。包含層。
29：褐灰色砂質シルト。(1～2mmの炭やや多)
30：地山砂質シルト。(淡褐灰色粒やや多)

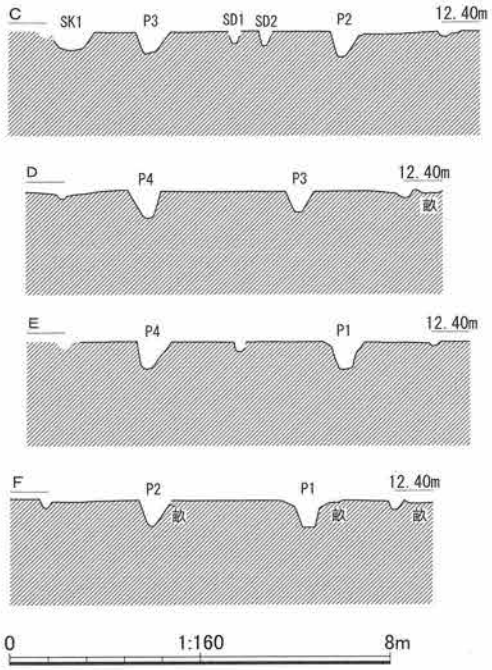
炉

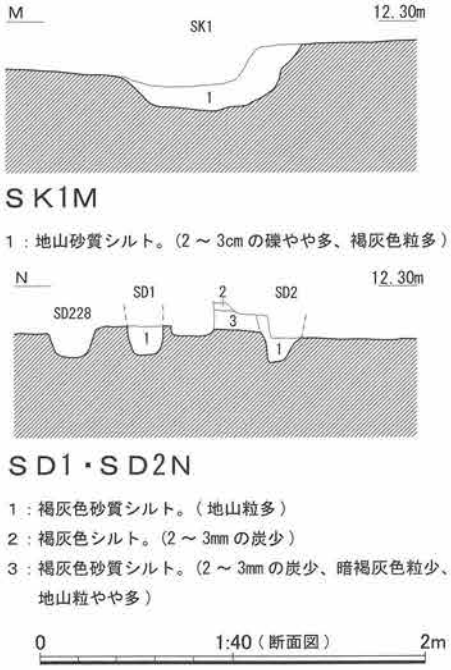
1：暗灰色砂質シルト。(3～5mmの炭やや多)
2：炭層。(3～5mmの炭多)
3：淡褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭やや多、地山粒少)
4：淡褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少、地山粒やや多)
5：淡褐灰色砂質シルト。(2～5mmの炭少、地山粒やや多)

SI707A土層注記と同。

0　1:40　2m

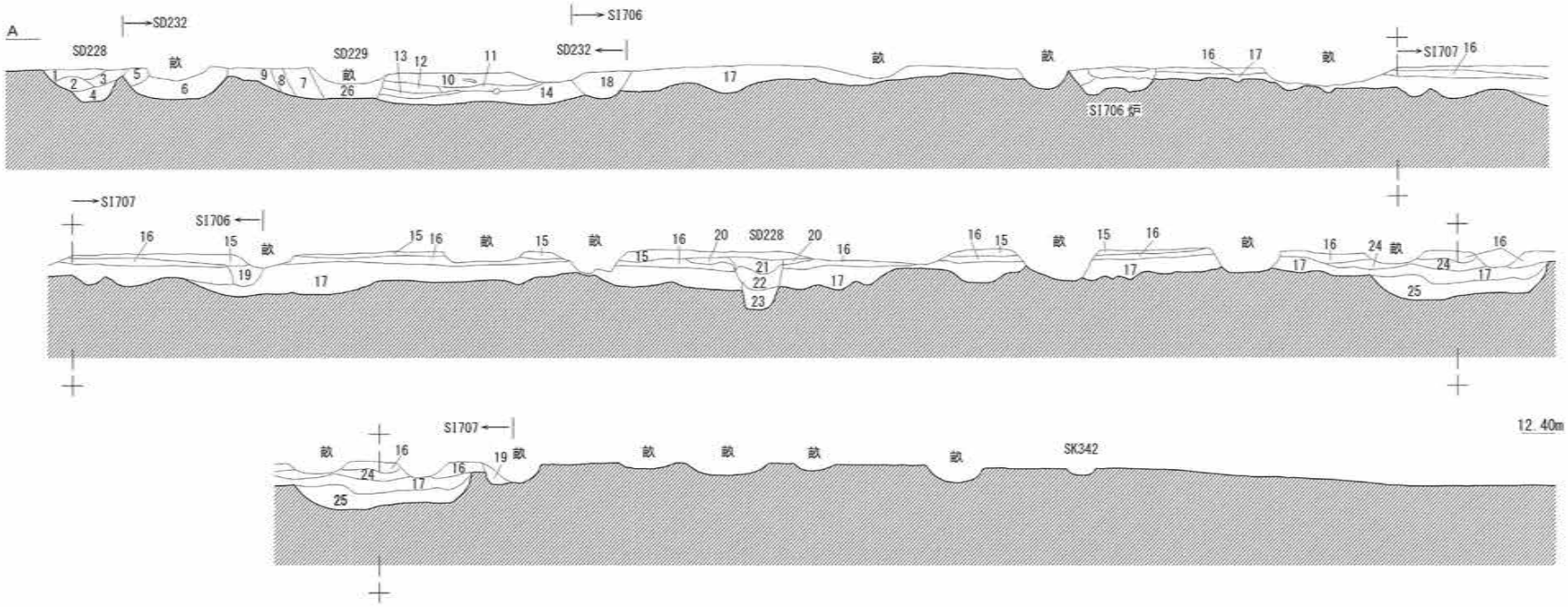






６区 竪穴建物址 SI707 実測図　縮尺１／160、１／40

図面○六一　遺構実測図（６図）

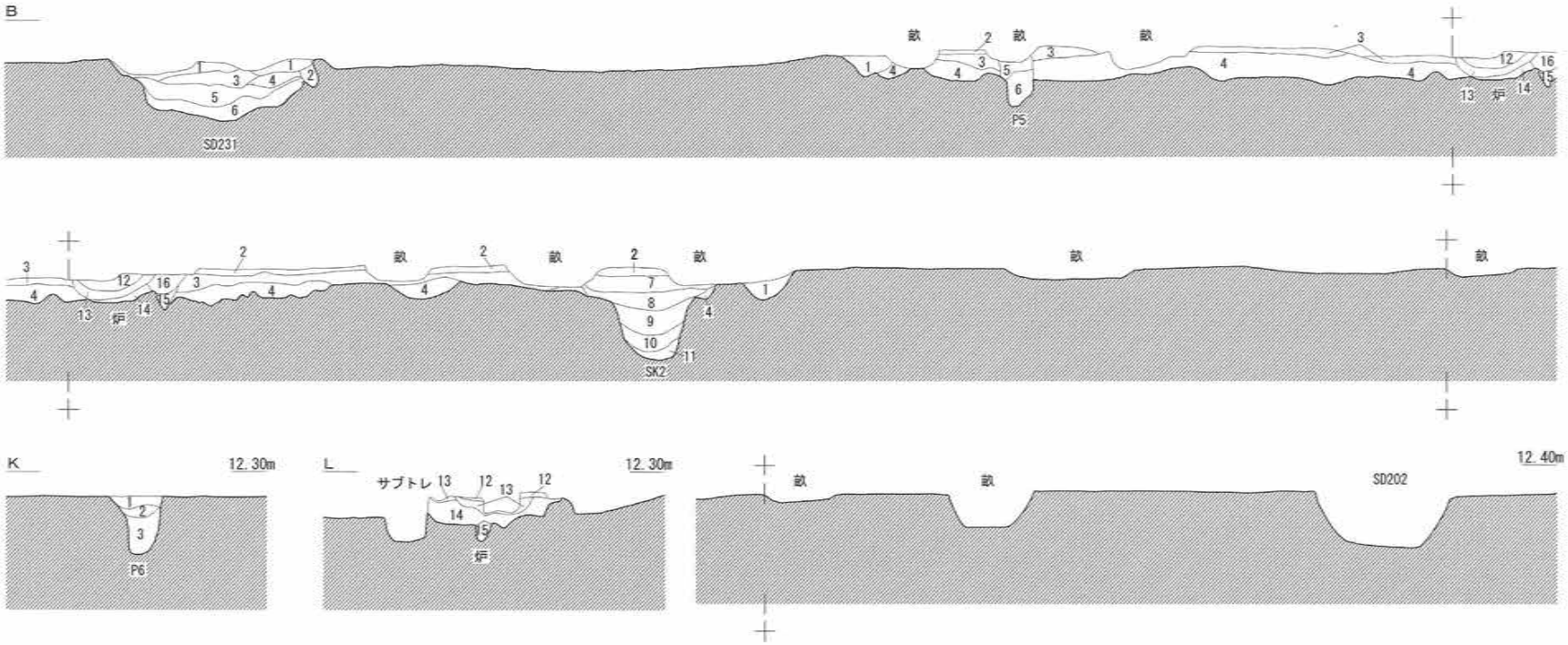


ＳＩ707Ａ

1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少)
2：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
3：褐灰色砂質シルト。(地山粒少)
4：淡褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
5：褐灰色砂質シルト。(地山ブロックやや多)
6：淡褐灰色砂質シルト。(地山粒多)
7：褐灰色砂質シルト。
8：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
9：地山砂質シルト。(褐灰色少)
10：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭やや多)
11：褐灰色砂質シルト。(3～5mmの炭多、焼土やや多)
12：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
13：褐灰色砂質シルト。
14：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
15：褐灰色シルト。
16：褐灰色シルト。床面。(2～3mmの炭やや多、地山粒やや多)
17：地山砂質シルト。(淡褐灰色ブロックやや多)
18：褐灰色砂質シルト。(地山ブロックやや多)
19：褐灰色砂質シルト。(地山粒少)
20：暗褐灰色シルト。(2～3mmの炭少)
21：褐灰色シルト。(1～2mmの炭少)
22：褐灰色シルト。(2～3mmの炭やや多、地山粒少)
23：地山砂質シルト。(褐灰色粒少)
24：暗褐灰色砂質シルト。(地山ブロックやや多)
25：淡褐灰色砂礫。(2～3cmの礫多、褐灰色粒多)
26：黒褐色砂質シルト。(地山粒やや多)

ＳＩ706Ａ・Ｂ土層注記と一部同。
ＳＩ706炉の土層注記はＳＩ706Ａ・Ｂに記載有。

0　1:40　2m



P6K

1：褐灰色砂質シルト。
2：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）
3：褐灰色砂質シルト。（地山粒多）

SI707B

1：淡褐灰色砂質シルト。周壁溝。（地山粒多）
2：褐灰色シルト。（2～3mmの炭少）
3：褐灰色砂質シルト。（2～3mmの炭、暗褐灰色粒少、地山粒やや多）
4：地山砂質シルト。（褐灰色ブロックやや多）
5：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）
6：暗褐灰色砂質シルト。（3～5cmの礫多）
7：褐灰色砂質シルト。（地山粒少）
8：褐灰色砂質シルト。（地山粒少、暗褐灰色粒やや多）
9：褐灰色砂質シルト。（地山粒、暗褐灰色粒やや多）
10：暗褐灰色砂質シルト。（地山ブロック少）
11：暗褐灰色砂質シルト。（地山ブロックやや多）
12：褐灰色砂質シルト。（2～3mmの炭少）
13：炭層。
14：地山砂質シルト。（2～3mmの炭、褐灰色粒やや多）
15：褐灰色砂質シルト。（2～3mmの炭少、地山粒やや多）
16：褐灰色砂質シルト。（2～3mmの炭少、地山粒少）

SD231

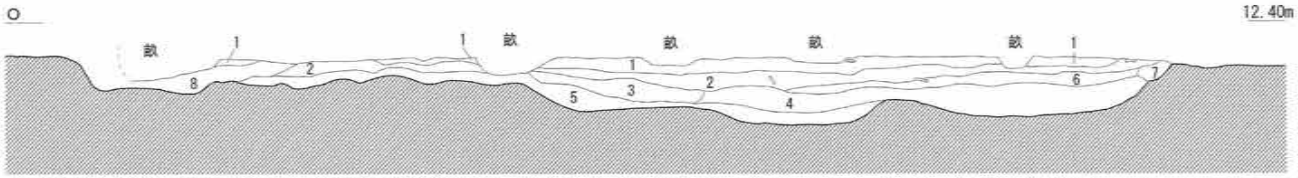
1：褐灰色砂質シルト。（1～2mmの炭、地山粒少、暗褐灰色粒やや多）
2：褐灰色砂質シルト。（地山粒やや多）
3：褐灰色砂質シルト。（地山砂質シルトと混合層）
4：褐灰色砂質シルト。（暗褐灰色ブロックやや多）
5：暗褐灰色シルト。（地山ブロック少）
6：地山砂質シルト。

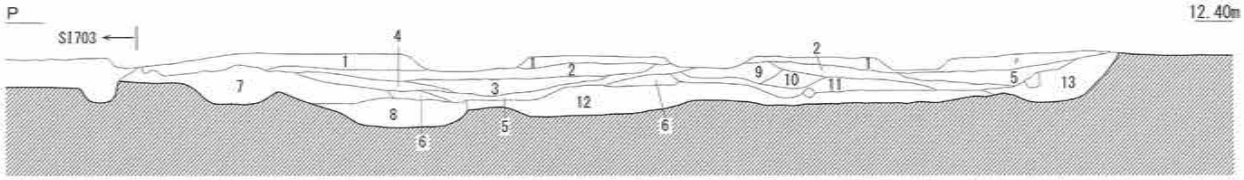
0　1:40　2m

図面〇六二　遺構実測図（6区）

6区 竪穴建物址 SI707 断面図〔2〕 縮尺1／40

図面〇六三 遺構実測図（6区）



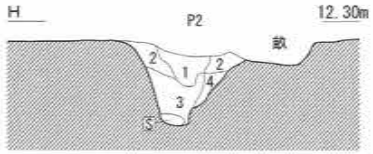


SX407O

1：褐灰色シルト。
2：黒褐色シルト。(2～3mmの炭、地山粒少)
3：黒褐色シルト。(3～5mmの炭やや多、地山粒少)
4：黒褐色シルト。(褐灰色粒やや多、地山ブロック少)
5：地山砂質シルト。(褐灰色粒、黒褐色粒やや多)
6：褐灰色シルト。(地山ブロック少)
7：褐灰色シルト。(地山ブロックやや多)
8：褐灰色シルト。(地山粒少)

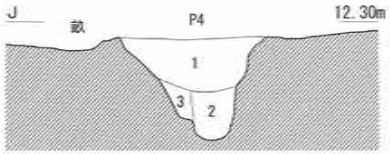
SX406P

1：褐灰色シルト。(2～3mmの炭少)
2：褐灰色シルト。(3～5mmの炭、地山粒やや多)
3：褐灰色シルト。(2～5mmの炭やや多、地山粒多)
4：褐灰色シルト。(5～10mmの炭多、地山粒少)
5：褐灰色シルト。(3～5mmの炭少、地山粒少)
6：褐灰色シルト。(地山粒多)
7：褐灰色シルト。(地山ブロック多)
8：地山砂質シルト。(黒褐色粒やや多)
9：褐灰色シルト。(地山粒多)
10：褐灰色シルト。(地山粒少)
11：褐灰色シルト。(1～2mmの炭、地山粒少)
12：地山砂質シルト(黒褐色粒やや多)
13：地山砂質シルト。(黒褐色ブロック多)



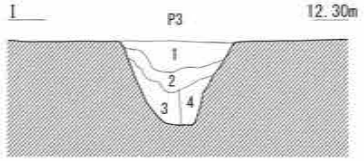
P2H

1：褐灰色砂質シルト。(1～2mmの炭少)
2：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
3：褐灰色砂質シルト。(2～3cmの礫、地山粒やや多)
4：褐灰色砂質シルト。(3～5cmの礫多、地山粒やや多)



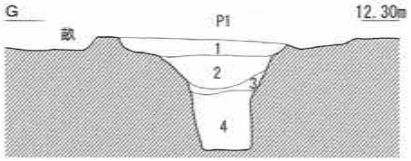
P4J

1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少、地山粒少)
2：暗黄灰色砂礫。(3～5cmの礫やや多)
3：暗黄灰色砂礫。(2～3mmの礫多)



P3I

1：褐灰色砂質シルト。(2～3mmの炭少)
2：褐灰色砂質シルト。(1～2mmの炭、地山粒やや多)
3：地山砂質シルト。(褐灰色粒やや多)
4：地山砂質シルト。(褐灰色粒少)



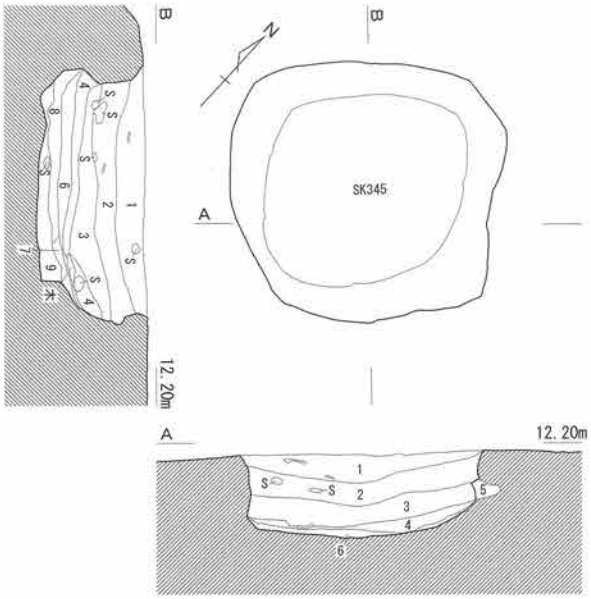
P1G

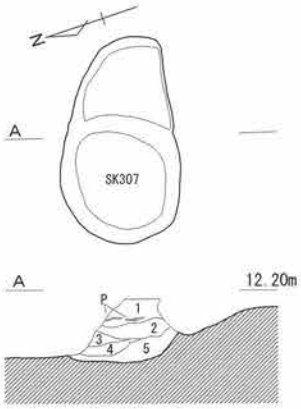
1：褐灰色砂質シルト。(地山粒少)
2：褐灰色砂質シルト。(地山粒やや多)
3：地山砂質シルト。
4：暗褐灰色砂礫。(2～3mmの礫多)

0 1:40 2m

ＳＫ345

1：黒褐色シルト。褐灰色ブロックやや多。土器片出土。礫少。
2：褐灰色シルト。黒褐色ブロックやや多。地山粒少。礫やや多。
3：褐灰色シルト。地山ブロック多。黒褐色ブロックやや多。木片出土。
4：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。黒褐色粒少量含む。礫少。
5：褐灰色シルト。地山粒やや多。黒褐色粒やや多。
6：黒褐色粘質シルト。炭多。木片など有機物多。
7：地山と類似。
8：黒褐色粘質シルト。炭やや多。木片など有機物多量。
9：黒褐色粘質シルト。炭やや多量含む。木片など有機物多。礫多。

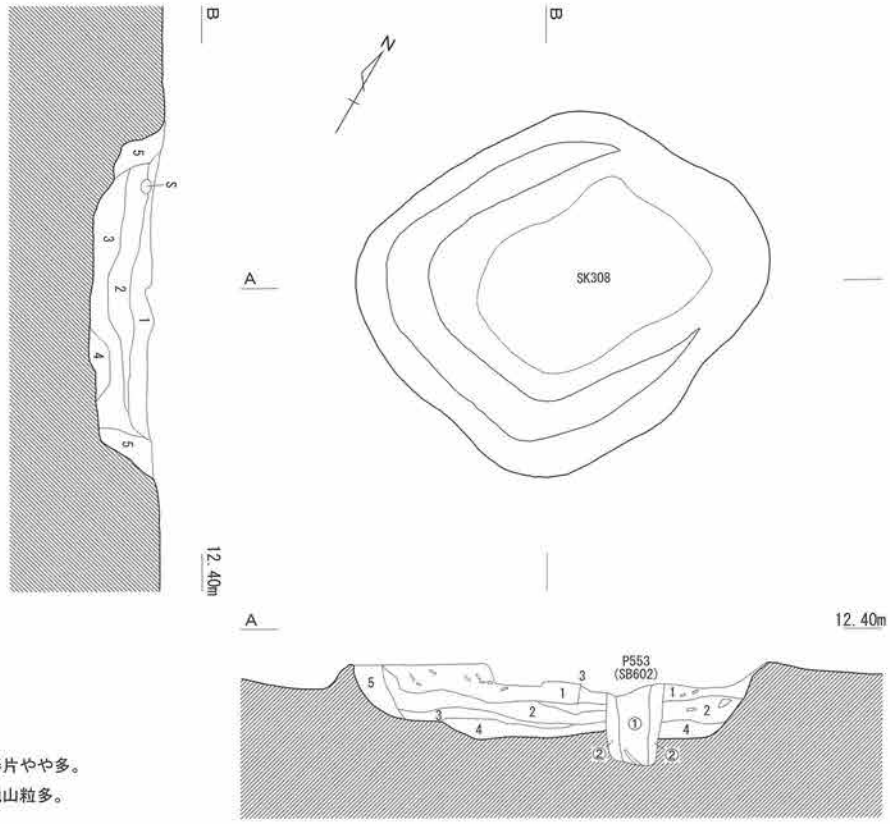




ＳＫ307

1：黒褐色シルト。遺物多。
2：黒褐色シルト。地山粒多。
3：黒褐色シルト。
4：黒褐色シルト。地山粒少。
5：黒褐色シルト。地山粒多。

0　1:40　2m



ＳＫ308

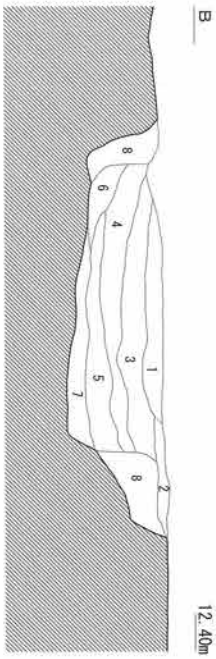
1：褐灰色シルト。炭やや多。土器片多。
2：褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。
3：褐灰色砂質シルト。地山粒極多。
4：褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。
5：地山。黄灰色砂質シルト。褐灰色粒多。

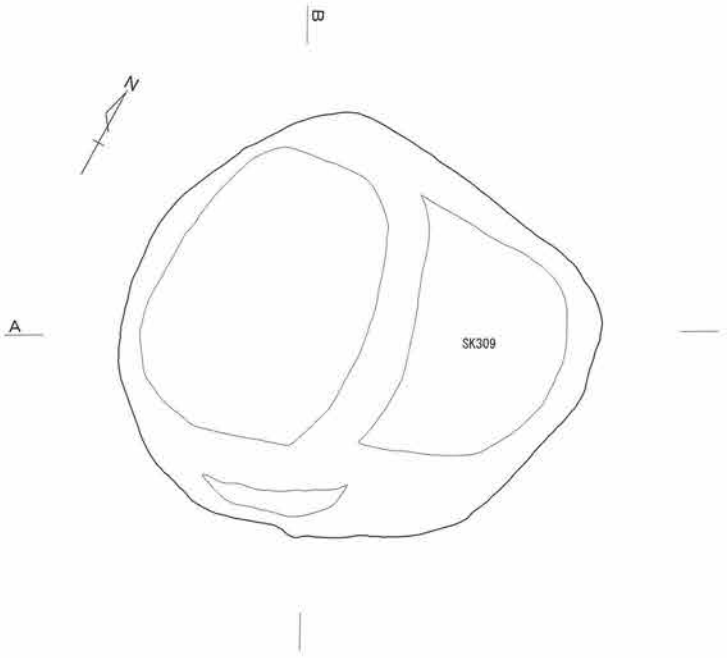
Ｐ553

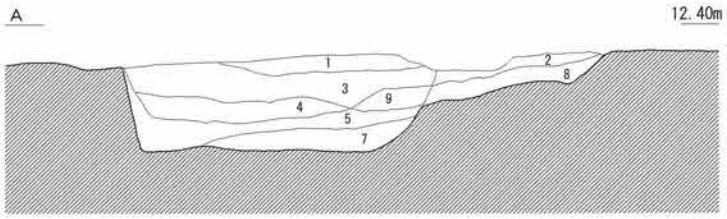
①: 黒褐色砂質シルト。やや粘性有り。土器片やや多。
②: 黒褐色砂質シルト。褐灰色粒やや多。地山粒多。

6区 土坑 SK307・SK308・SK345 実測図　縮尺１／40

図面〇六五　遺構実測図（６区）

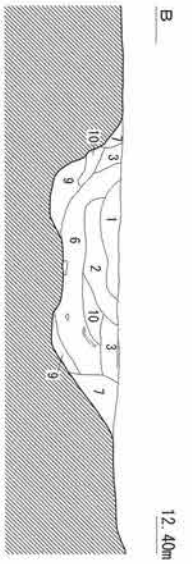


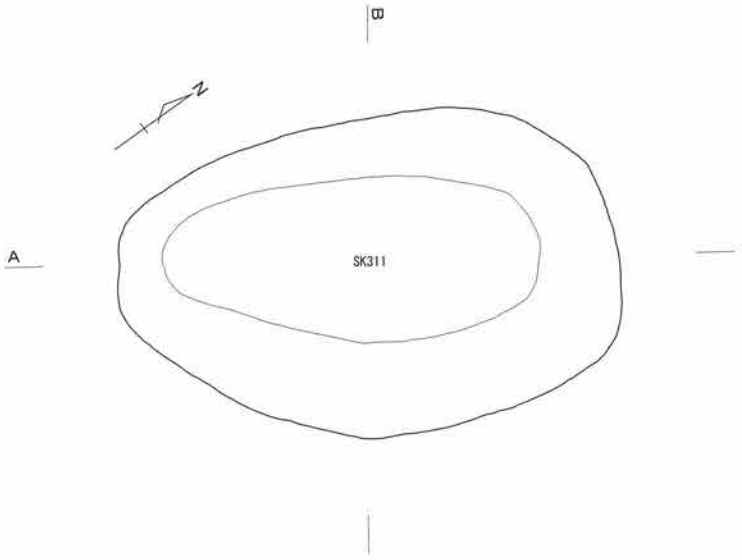


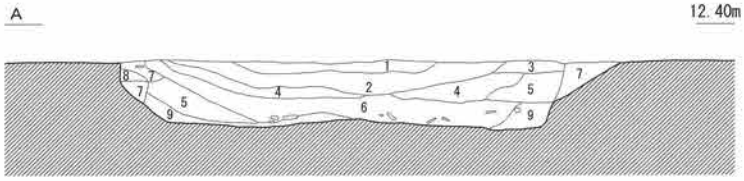


ＳＫ309

１：黒褐色シルト。
２：褐灰色シルト。黒褐色粒やや多。
３：褐灰色シルト。
４：褐灰色シルト。炭やや多。
５：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。
６：褐灰色砂質シルト。
７：褐灰色砂質シルト。地山粒少。
８：淡褐灰色砂質シルト。褐灰色粒・地山粒少。
９：褐灰色砂質シルト。地山粒少。







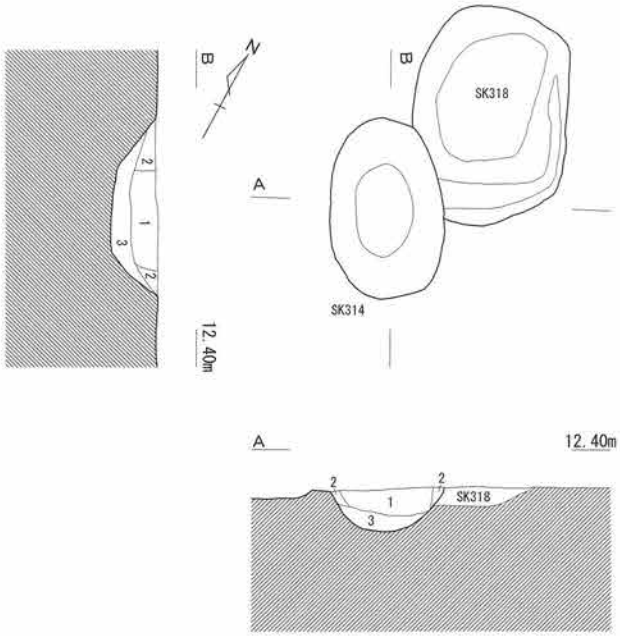
ＳＫ311

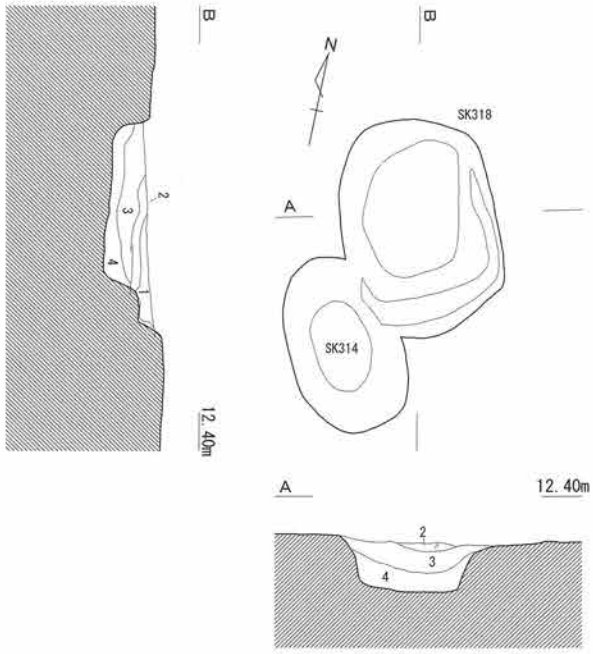
１：褐色シルト。
２：淡褐灰色砂質シルト。地山粒少。
３：褐色シルト。
４：淡褐灰色砂質シルト。炭少。
５：淡褐灰色砂質シルト。
６：暗褐灰色砂質土シルト。炭・遺物多。
７：淡褐灰色砂質土シルト。
８：地山。淡褐灰色粒少。
９：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。

0　1:40　2m

６区 土坑 SK309・SK311 実測図　縮尺１／40

図面〇六六　遺構実測図（６区）



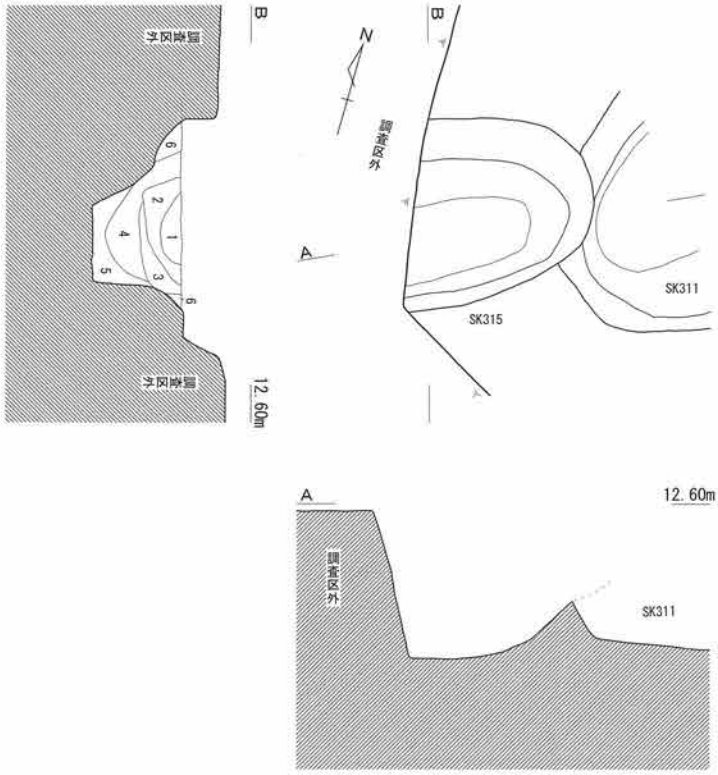


ＳＫ314

１：褐灰色砂質シルト。炭少。
２：淡褐灰色砂質シルト。地山粒少。
３：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。

ＳＫ318

１：暗褐灰色シルト。炭少。
２：暗褐灰色シルト。炭やや多。
３：褐灰色砂質シルト。地山粒少。



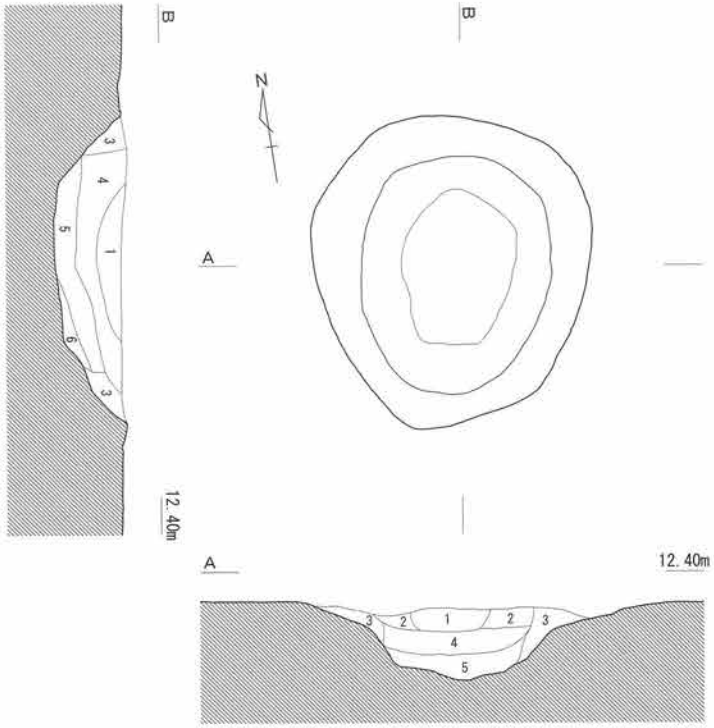
ＳＫ315

１：暗褐灰色砂質シルト。炭少。地山粒少。
２：褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。
３：褐灰色砂質シルト。地山粒少。
４：暗褐灰色砂質シルト。炭多。土器出土。
５：暗褐灰色砂質シルト。炭やや多。
６：淡褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。

0　1:40　2m

６区 土坑 SK314・SK315・SK318 実測図　縮尺１／40

図面〇六七　遺構実測図（6区）

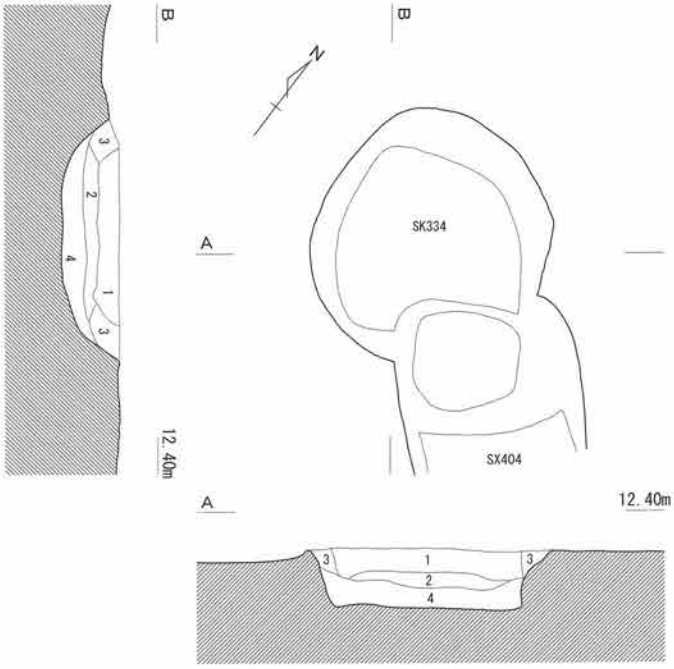


ＳＫ316

1：暗褐灰色シルト。
2：褐灰色砂質シルト。
3：淡褐灰色砂質シルト。地山粒やや多。
4：淡褐灰色砂質シルト。地山粒少。
5：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。

ＳＫ334

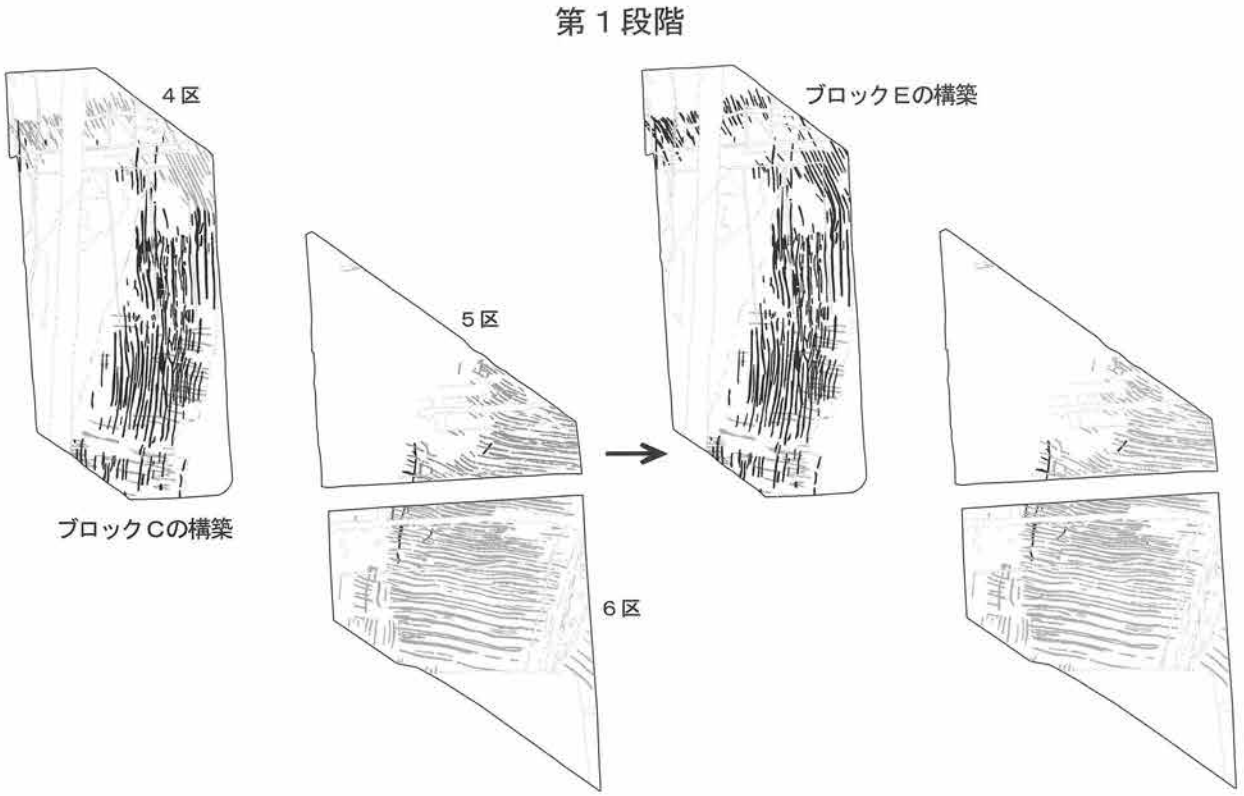
1：暗褐灰色シルト。炭少。
2：暗褐炭色砂質シルト。炭少。地山粒少。
3：淡褐灰色砂質シルト。地山粒多。
4：淡褐灰色シルト。地山粒多。

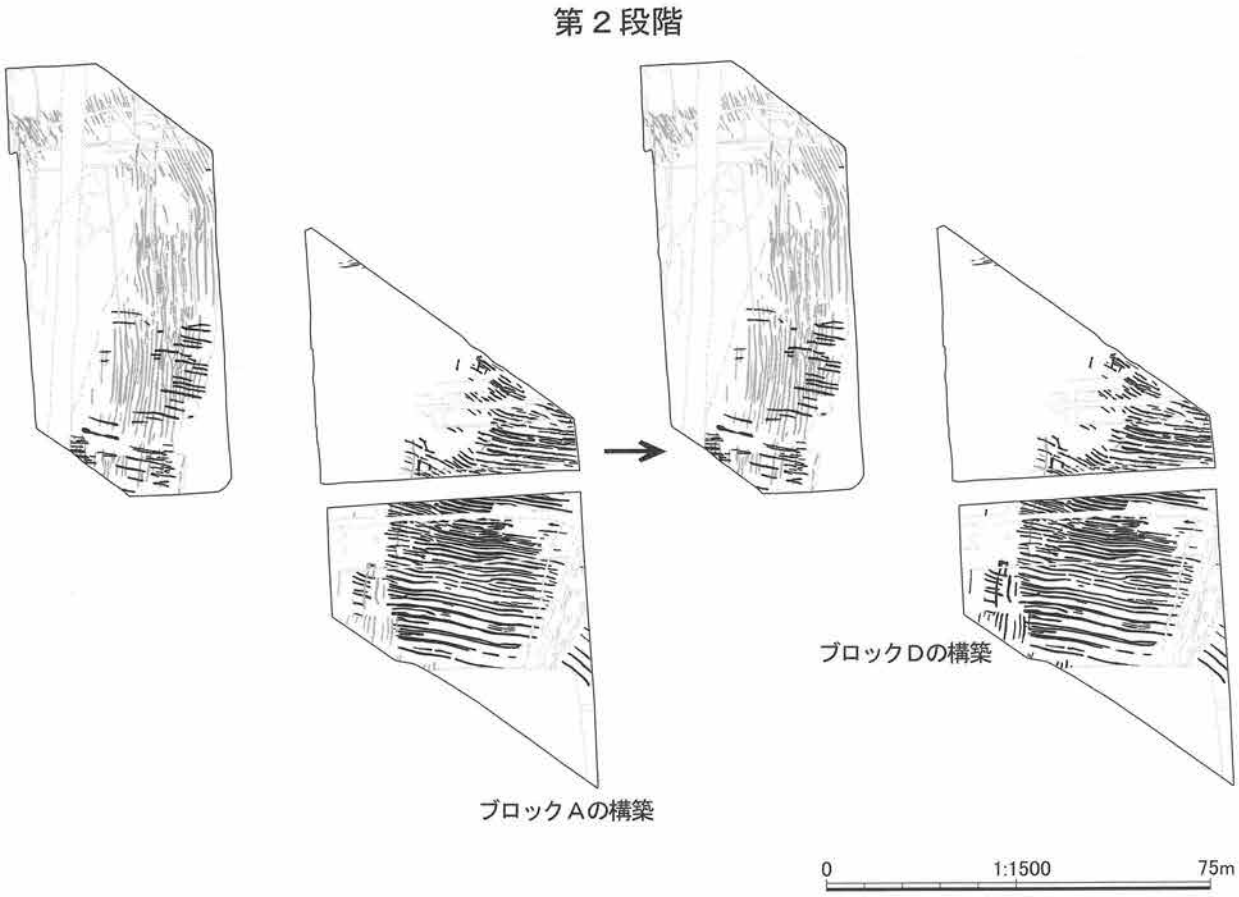


0　1:40　2m

6区 土坑 SK316・SK334 実測図　縮尺１／40

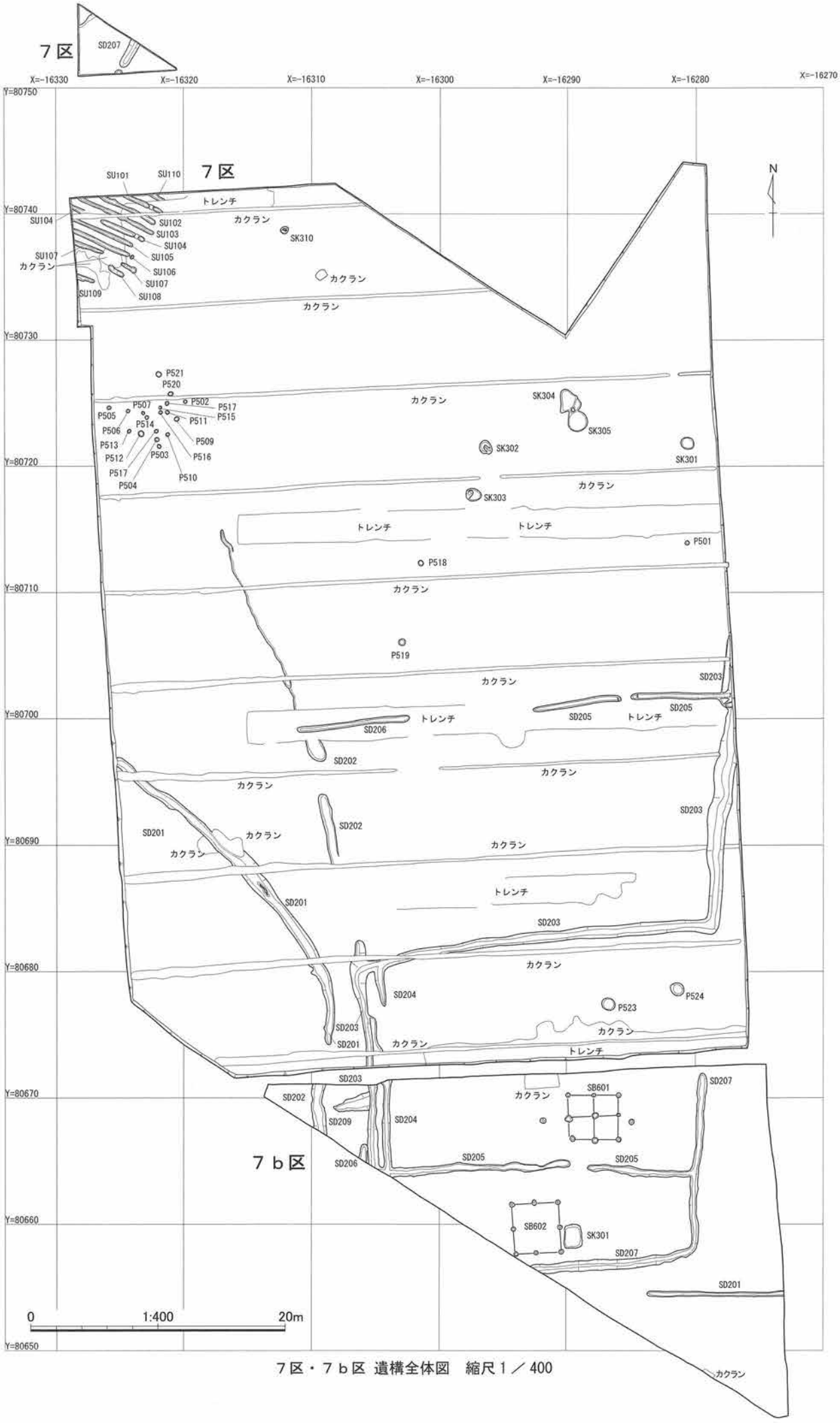
図面〇六八　遺構実測図（4区・5区・6区）



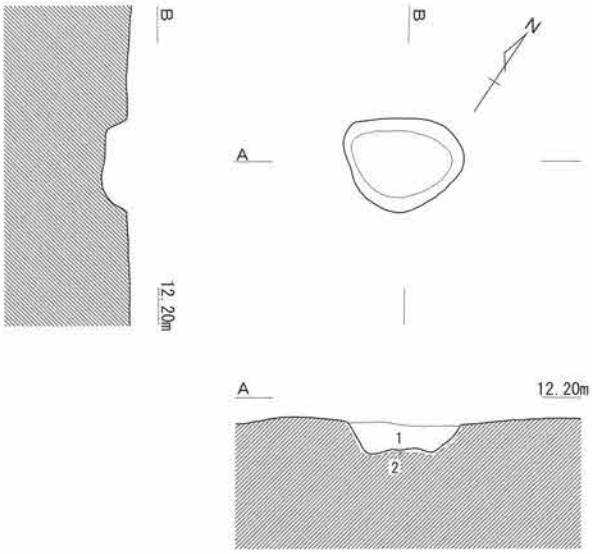


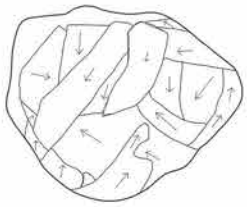
４区・５区・６区 上層畝状遺構全体図　縮尺１／1500

図面〇六九　遺構実測図（7区・7b区）



7区・7b区 遺構全体図　縮尺1／400





ＳＫ310 樹皮敷き詰め状況

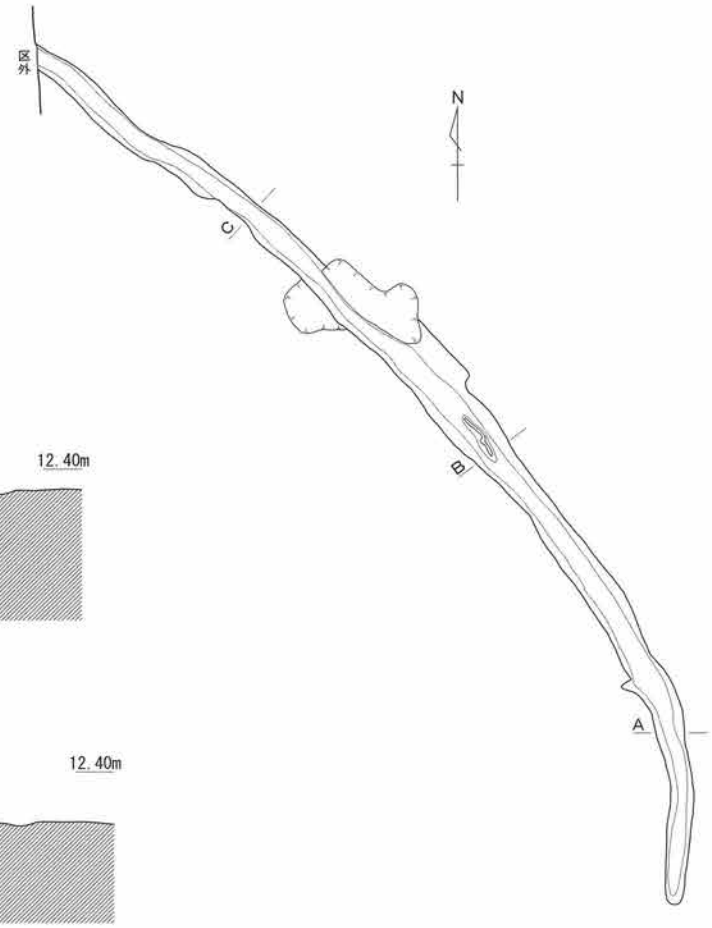
0　1:20　1m

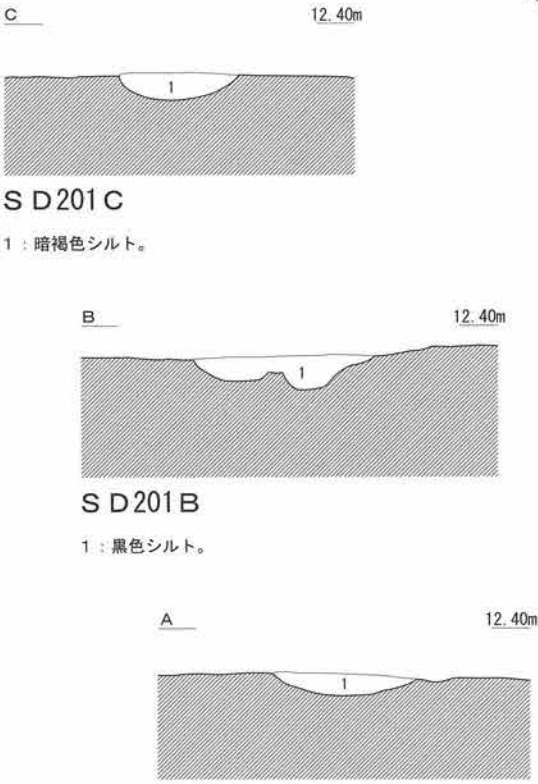
ＳＫ310Ａ

1：暗灰、黒褐、明黄色混合シルト。（人為）

2：樹皮層。

ＳＤ201 実測図





ＳＤ201Ｃ

1：暗褐色シルト。

ＳＤ201Ｂ

1：黒色シルト。

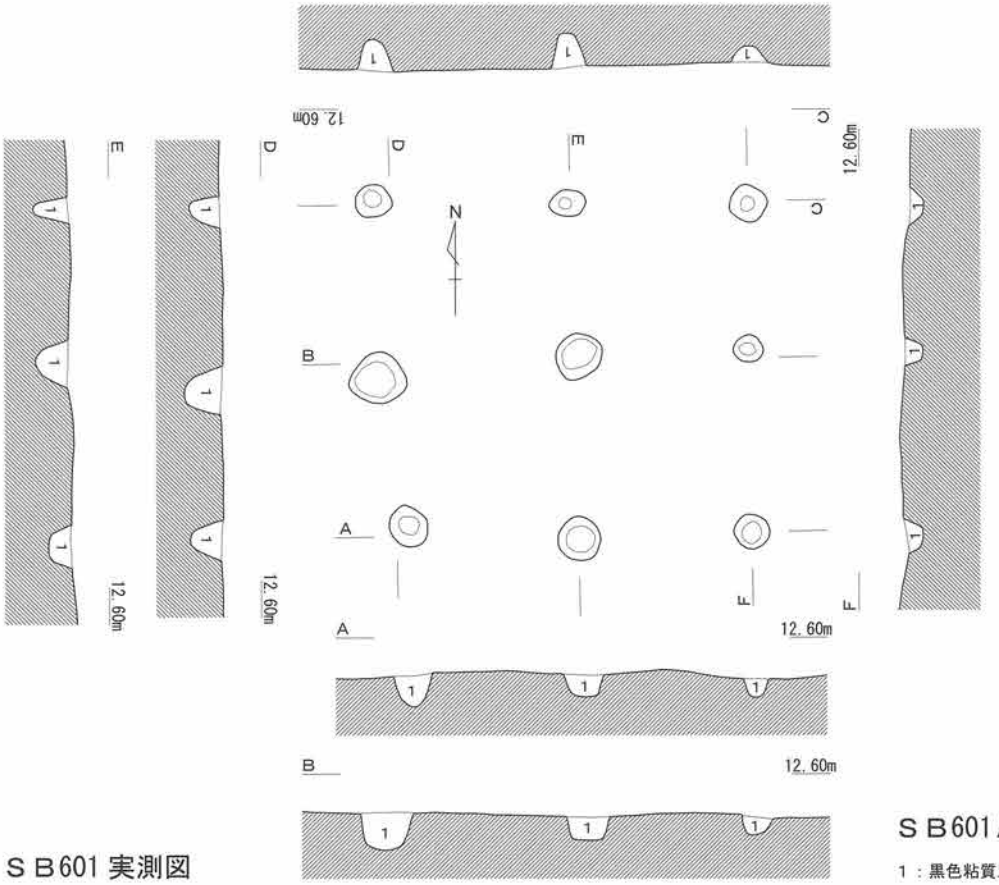
ＳＤ201Ａ

1：暗灰色シルト。

（SK310 平面図・SD201 断面図）
0　1:40　2m

0　1:200　10m

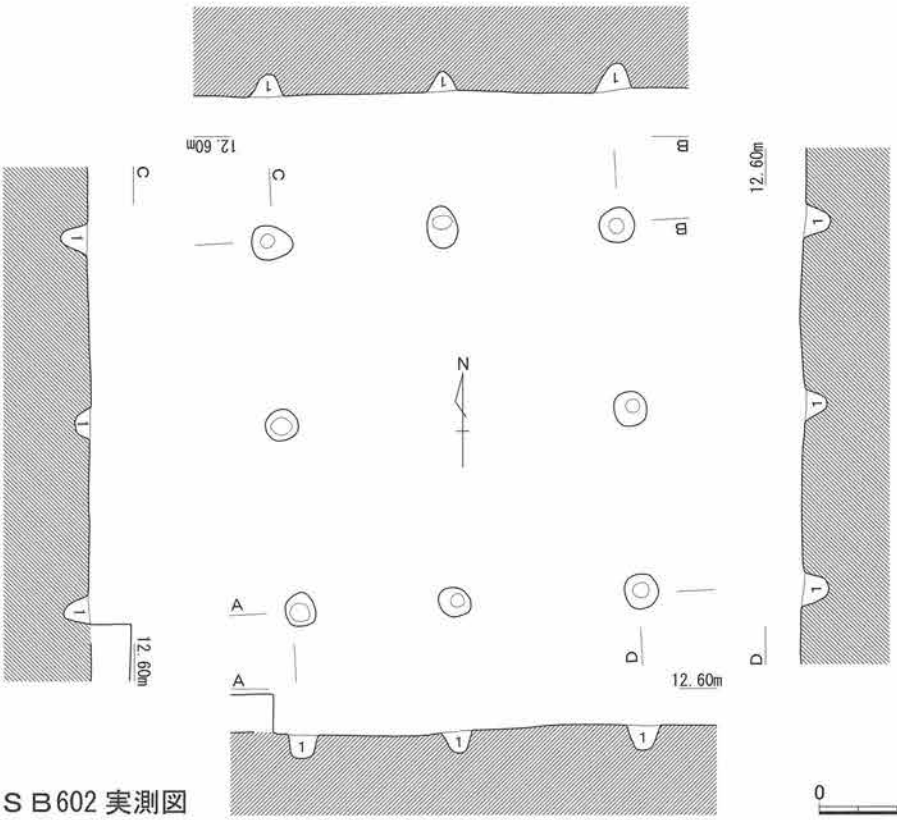
7区 土坑 SK310、溝 SD201 実測図　縮尺１／40、１／20、１／200



ＳＢ601 実測図

ＳＢ601Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ

１：黒色粘質土。



ＳＢ602 実測図

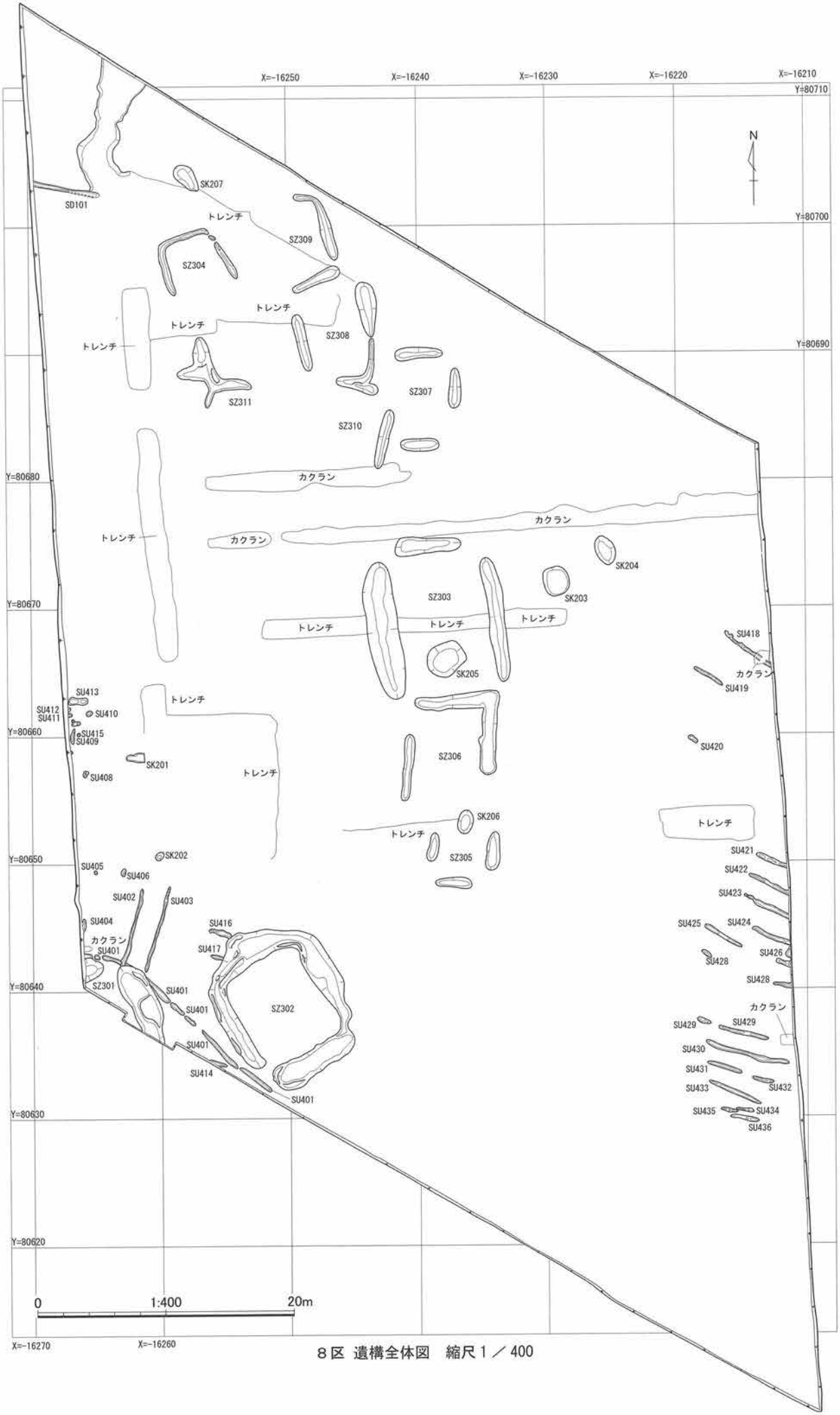
ＳＢ602Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

１：黒色粘質土。

0　1:80　4m

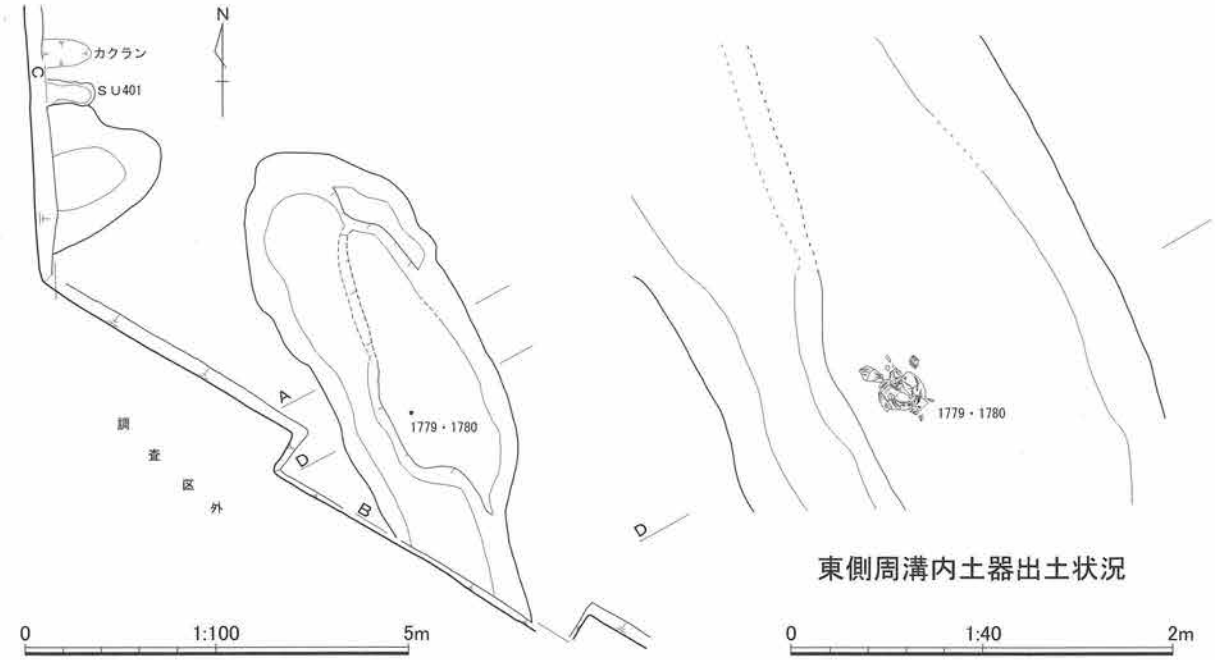
７ｂ区 掘立柱建物址 SB601・SB602 実測図　縮尺１／80

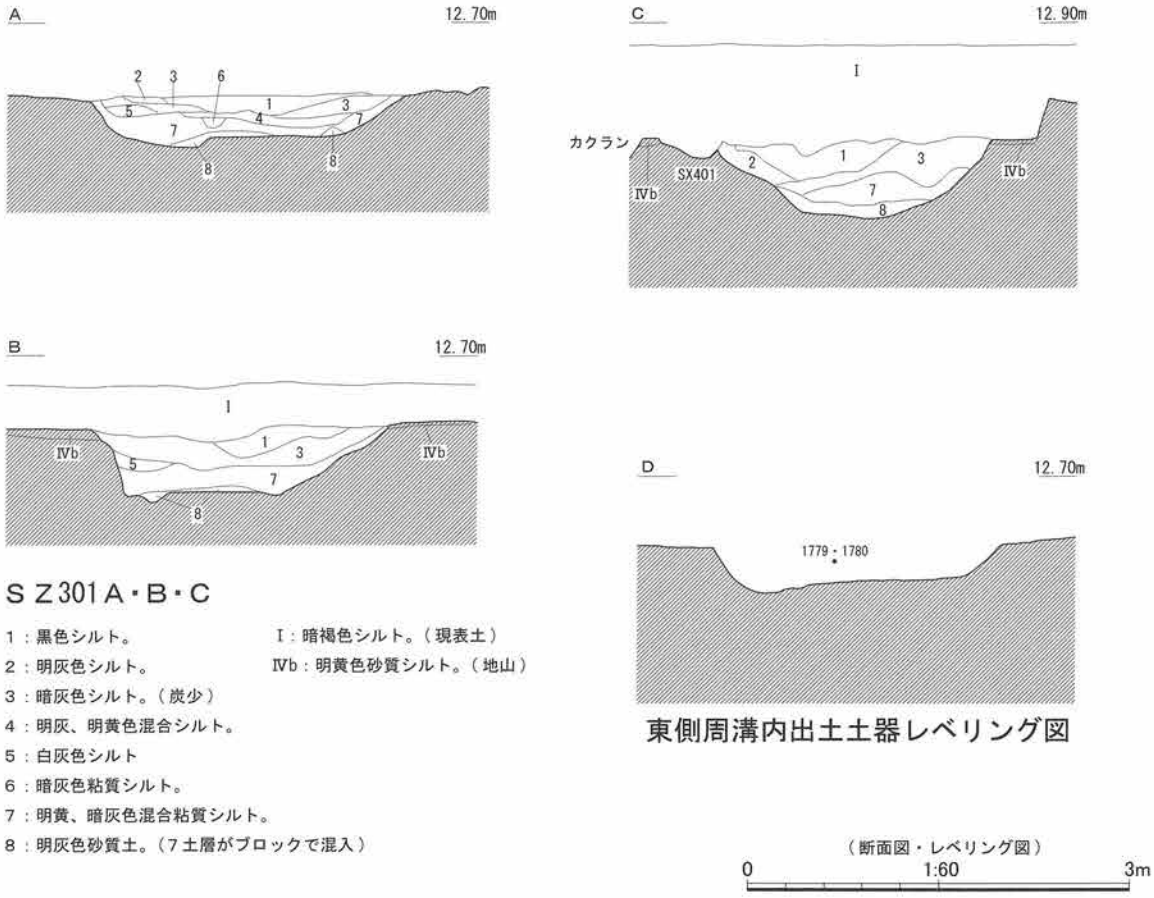
図面〇七二　遺構実測図（８区）



８区 遺構全体図　縮尺１／400

図面〇七三　遺構実測図（８区）



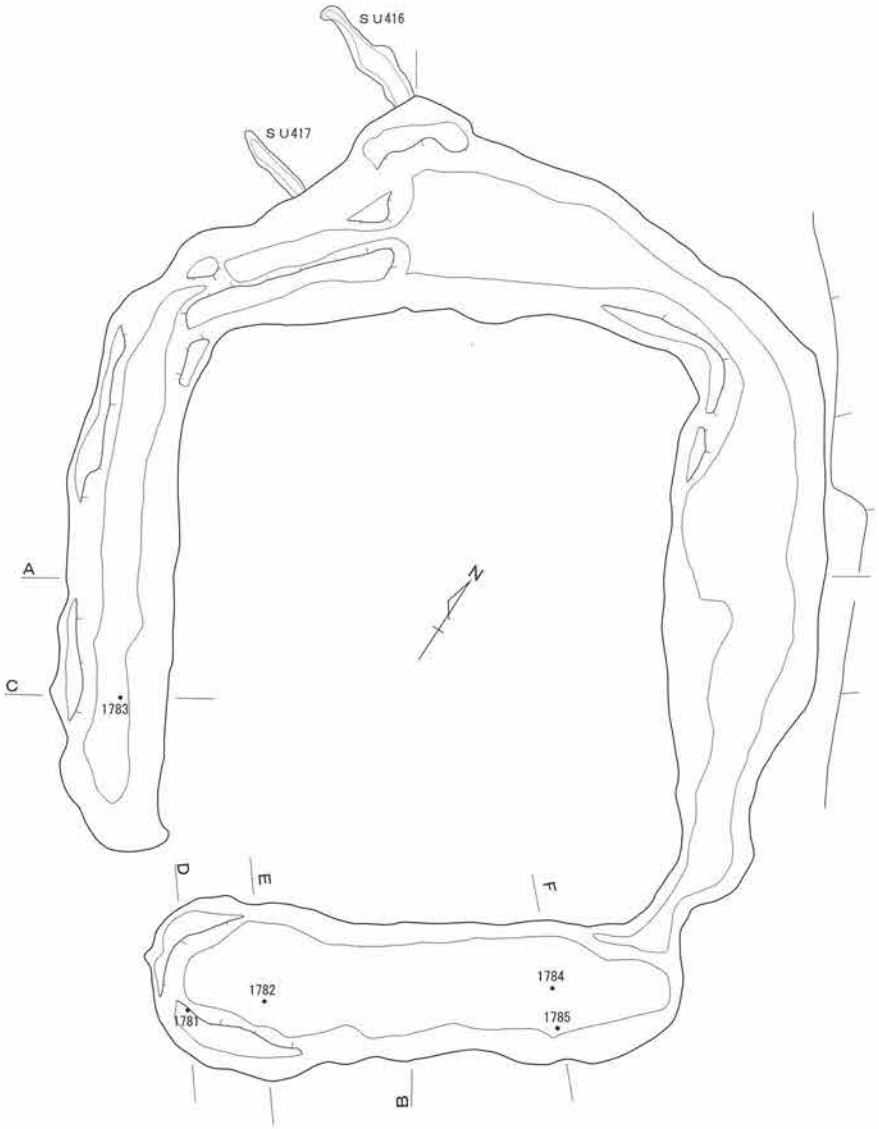


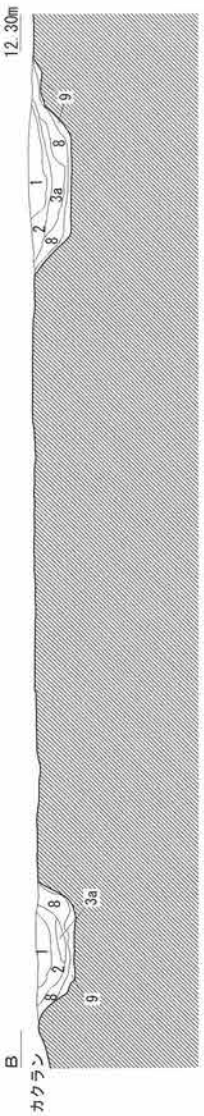
ＳＺ301Ａ・Ｂ・Ｃ

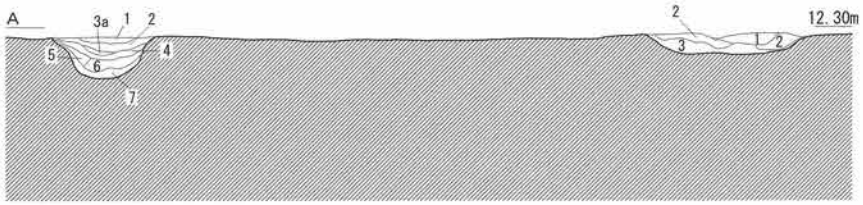
１：黒色シルト。
２：明灰色シルト。
３：暗灰色シルト。（炭少）
４：明灰、明黄色混合シルト。
５：白灰色シルト
６：暗灰色粘質シルト。
７：明黄、暗灰色混合粘質シルト。
８：明灰色砂質土。（７土層がブロックで混入）

Ⅰ：暗褐色シルト。（現表土）
Ⅳb：明黄色砂質シルト。（地山）

８区 方形周溝墓 SZ301 実測図　縮尺１／100、１／40、１／60







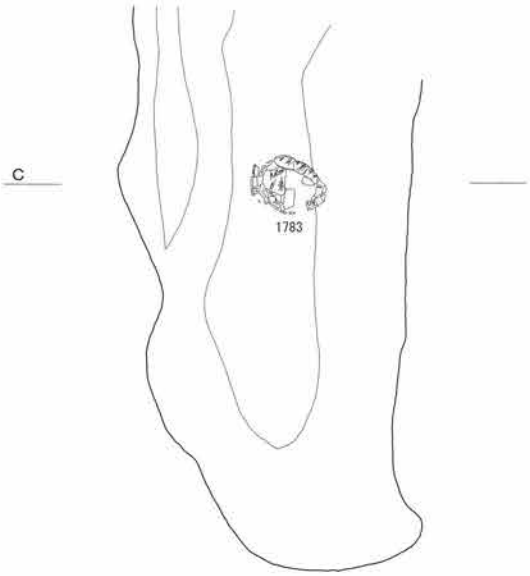
ＳＺ302Ａ・Ｂ

１：黒色シルト。（礫含む）
２：灰褐色シルト。（礫やや含む）
３：灰褐色砂質シルト。（明黄色ブロック混入）
３a：黒、灰褐色混合シルト。（炭微量含む）
４：灰色シルト。
５：明黄色シルト。
６：白灰、灰褐色混合シルト。
７：白灰色シルト。
８：灰褐色シルト。（明黄色ブロック混入）
９：明黄、白灰色混合シルト。

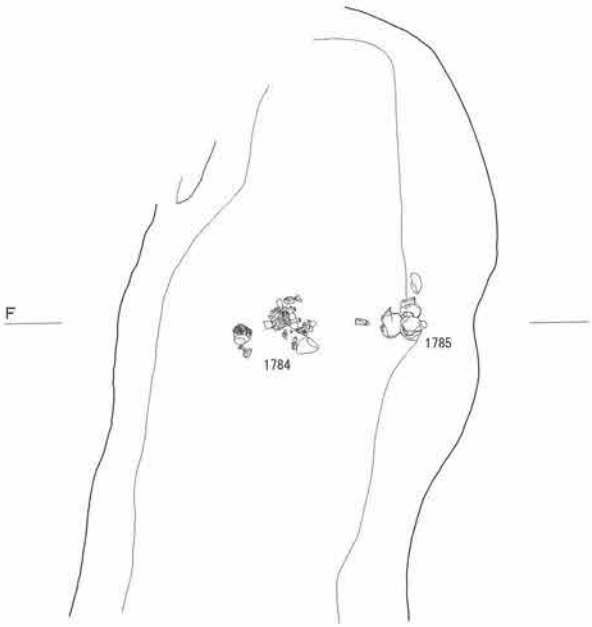
0　1:100　5m

８区 方形周溝墓 SZ302 実測図　縮尺１／100

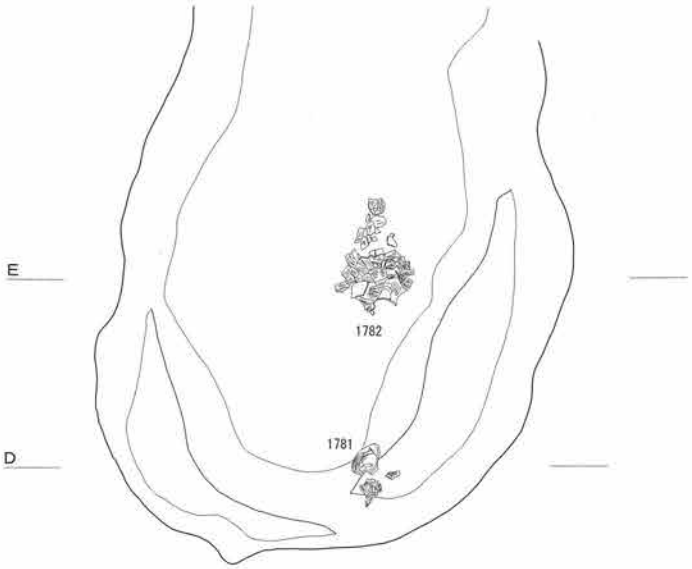
図面〇七五　遺構実測図（８区）



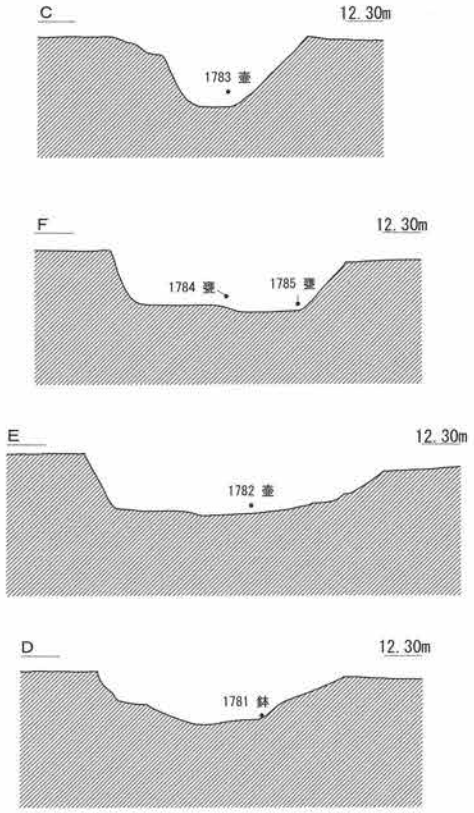
東側周溝内土器出土状況



南側周溝内（F）土器出土状況



南側周溝内（D・E）土器出土状況

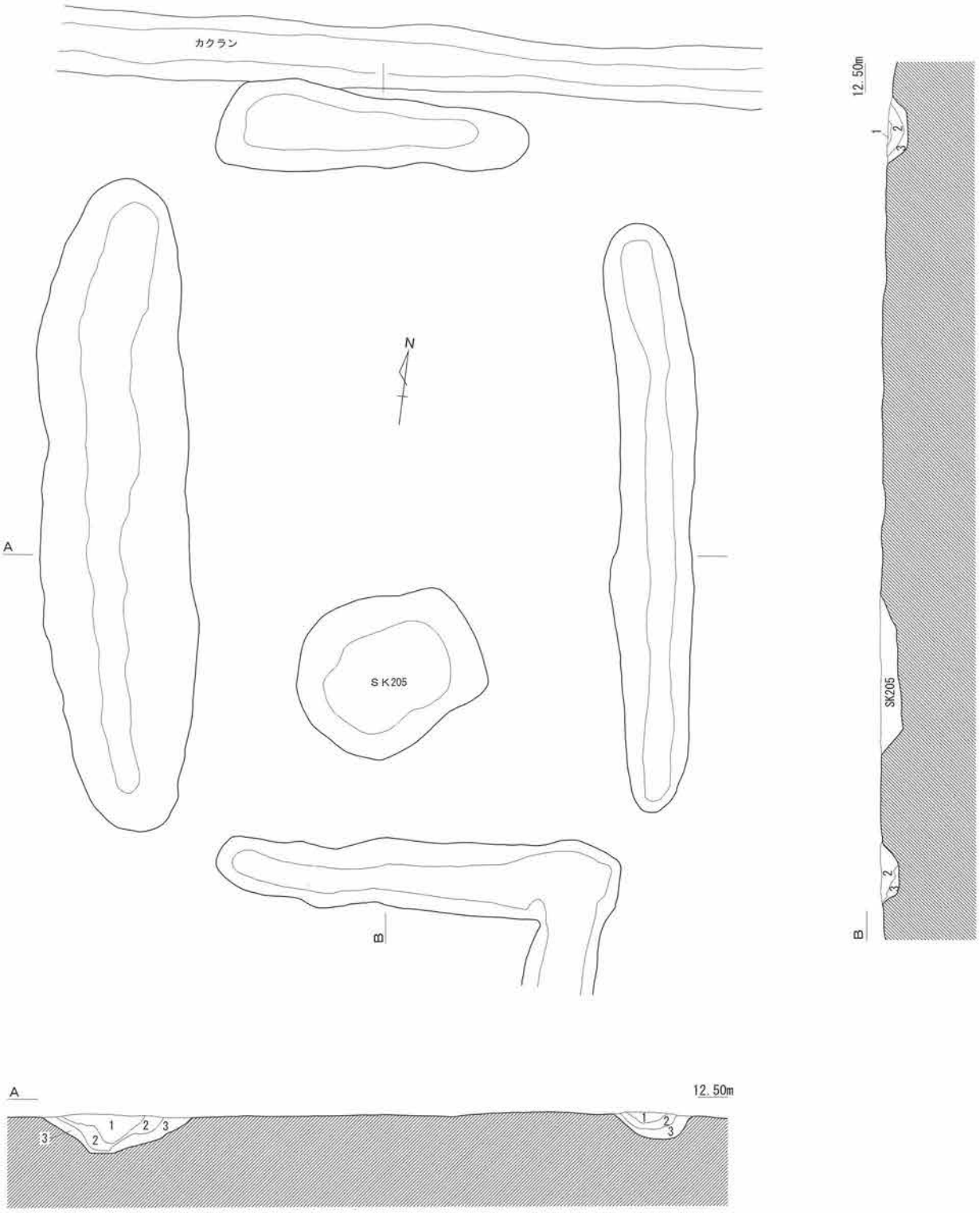


周溝内出土土器レベリング図

0　1:40（出土状況）　2m

0　1:60（レベリング図）　3m

８区 方形周溝墓 SZ302 土器出土状況図　縮尺１／40、１／60



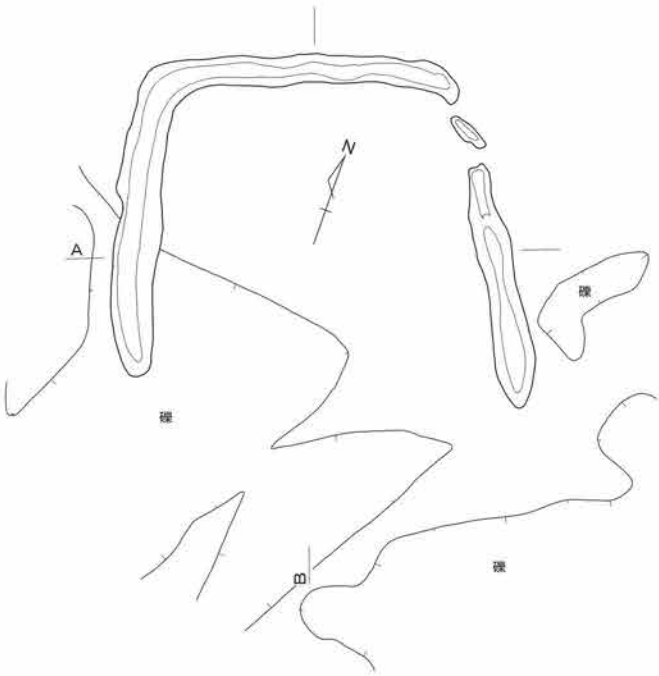
ＳＺ303Ａ・Ｂ

１：黒色シルト。（礫多）
２：灰褐色シルト。（礫多）
３：黒褐色砂質土。（礫多）

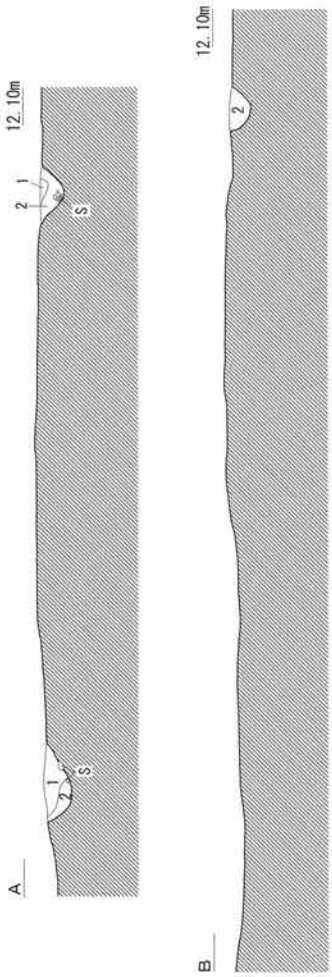
0　1:100　5m

８区 方形周溝墓 SZ303 実測図　縮尺１／100

図面〇七七　遺構実測図（８区）

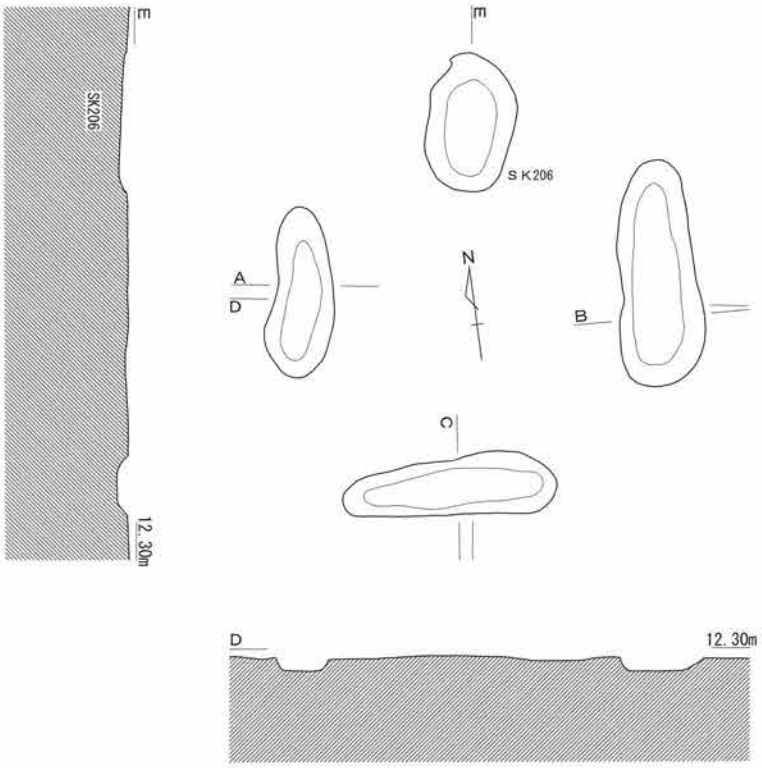


ＳＺ304 実測図

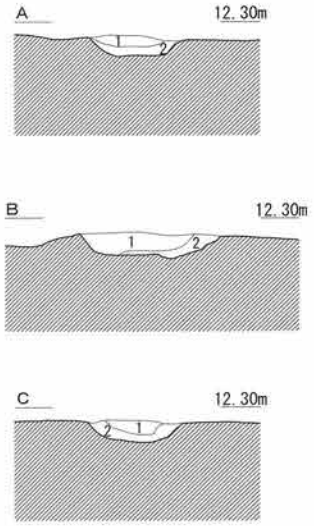


ＳＺ304Ａ・Ｂ

1：黒褐色シルト。（1cm 以下の礫含む）
2：灰褐色シルト。（1～3cm の礫含む）



ＳＺ305 実測図



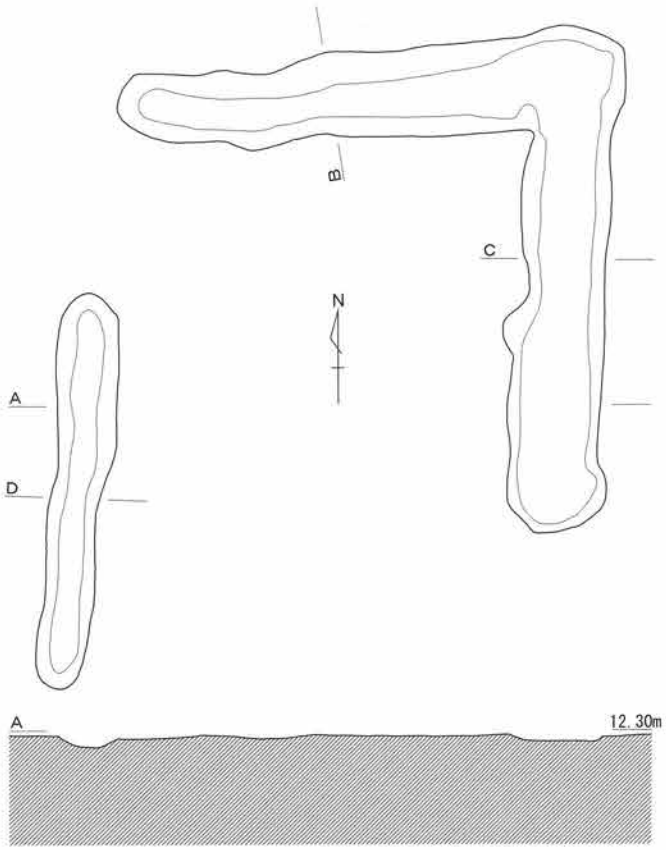
ＳＺ305Ａ・Ｂ・Ｃ

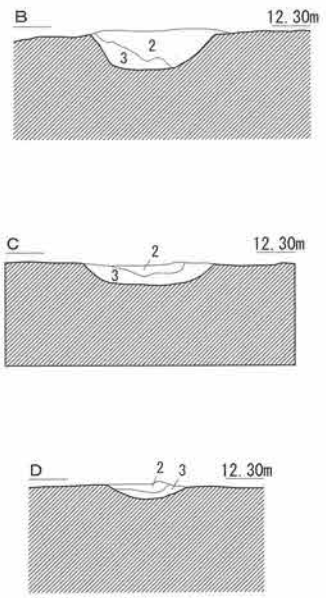
1：灰褐色シルト。（2～10cm の礫多）
2：黒褐色砂質土。（1～5cm の礫多）

0　1:100（平面図）　5m

0　1:60（断面図）　3m

８区 方形周溝墓 SZ304・SZ305 実測図　縮尺１／100、１／60

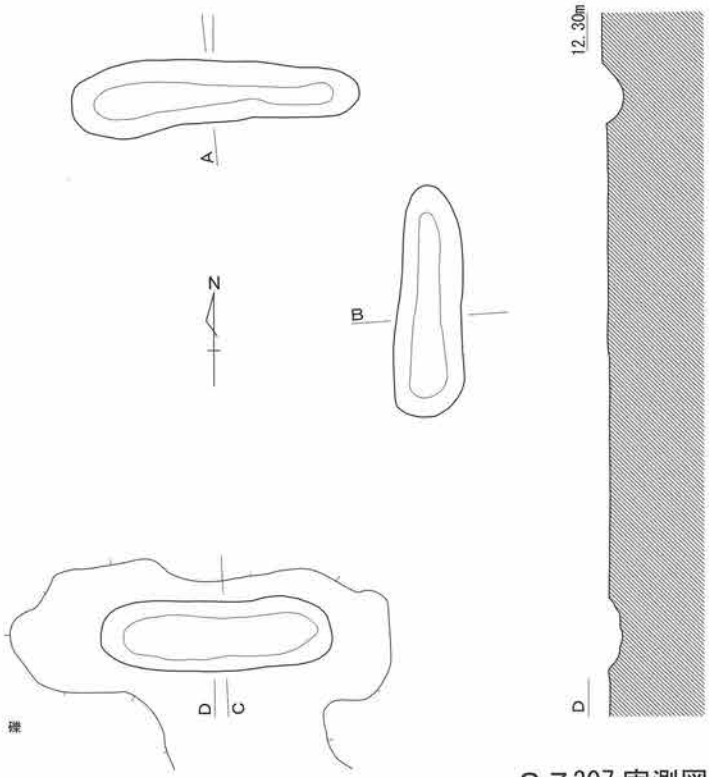


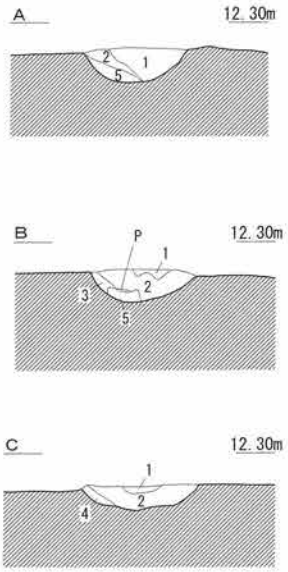


ＳＺ306Ｂ・Ｃ・Ｄ

２：灰褐色シルト。（礫多）
３：黒褐色砂質土。（礫多）
ＳＺ303Ａ・Ｂ土層注記と同。

ＳＺ306 実測図





ＳＺ307Ａ・Ｂ・Ｃ

１：黒褐色シルト。（礫少）
２：灰褐色シルト。
３：灰褐色砂質シルト。（礫多）
４：灰褐色砂質土。（礫多）
５：灰色シルト（礫多）

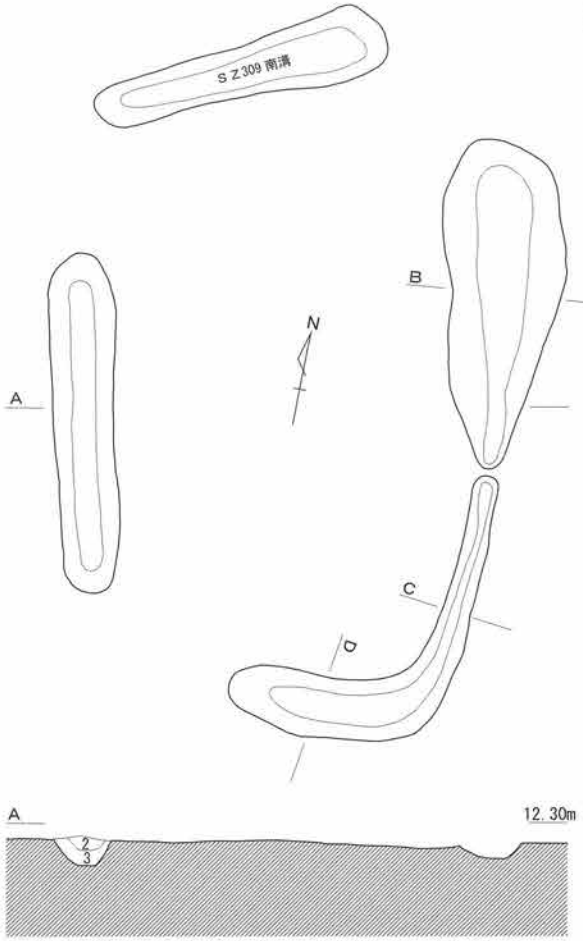
ＳＺ307 実測図

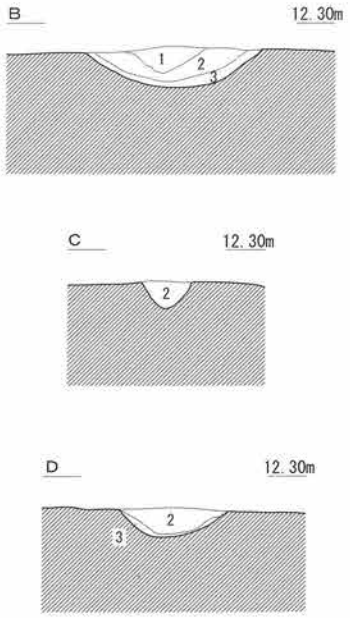
0　1:100（平面図）　5m

0　1:60（断面図）　3m

８区 方形周溝墓 SZ306・SZ307 実測図　縮尺１／100、1/60

ＳＺ308 実測図

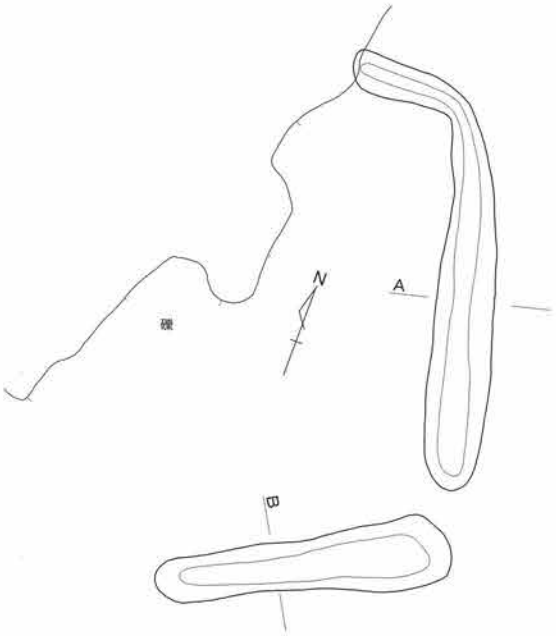


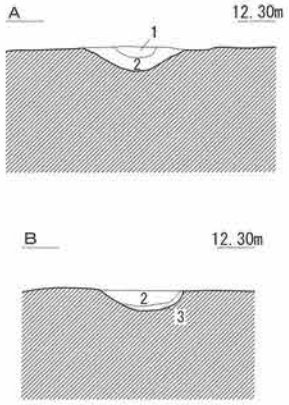


ＳＺ308Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

1：黒褐色シルト。（礫少）
2：灰褐色シルト。（礫少　西側は礫多）
3：灰褐色砂質土。（礫多）

ＳＺ309 実測図





ＳＺ309Ａ・Ｂ

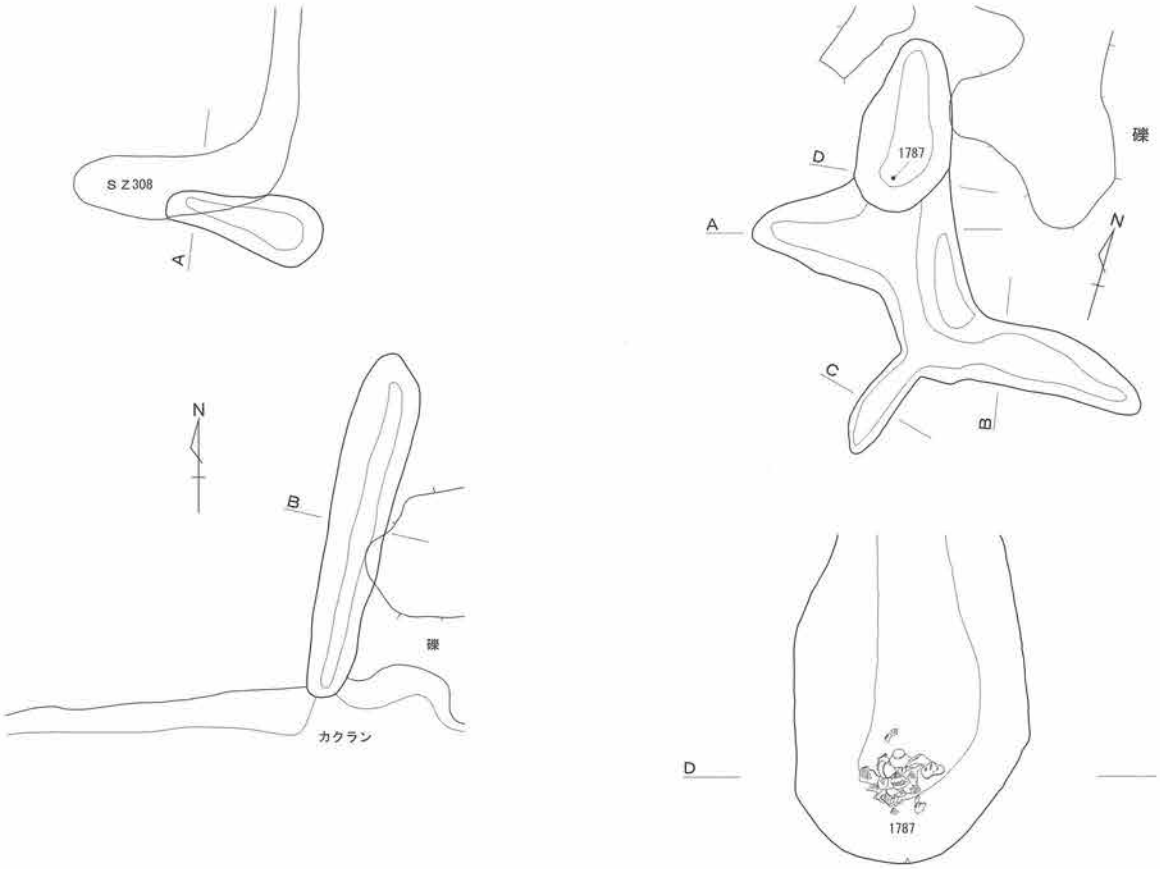
1：黒褐色シルト。
2：灰褐色シルト。（礫多）
3：灰褐色砂質土。（礫多）

0　1:100（平面図）　5m

0　1:60（断面図）　3m

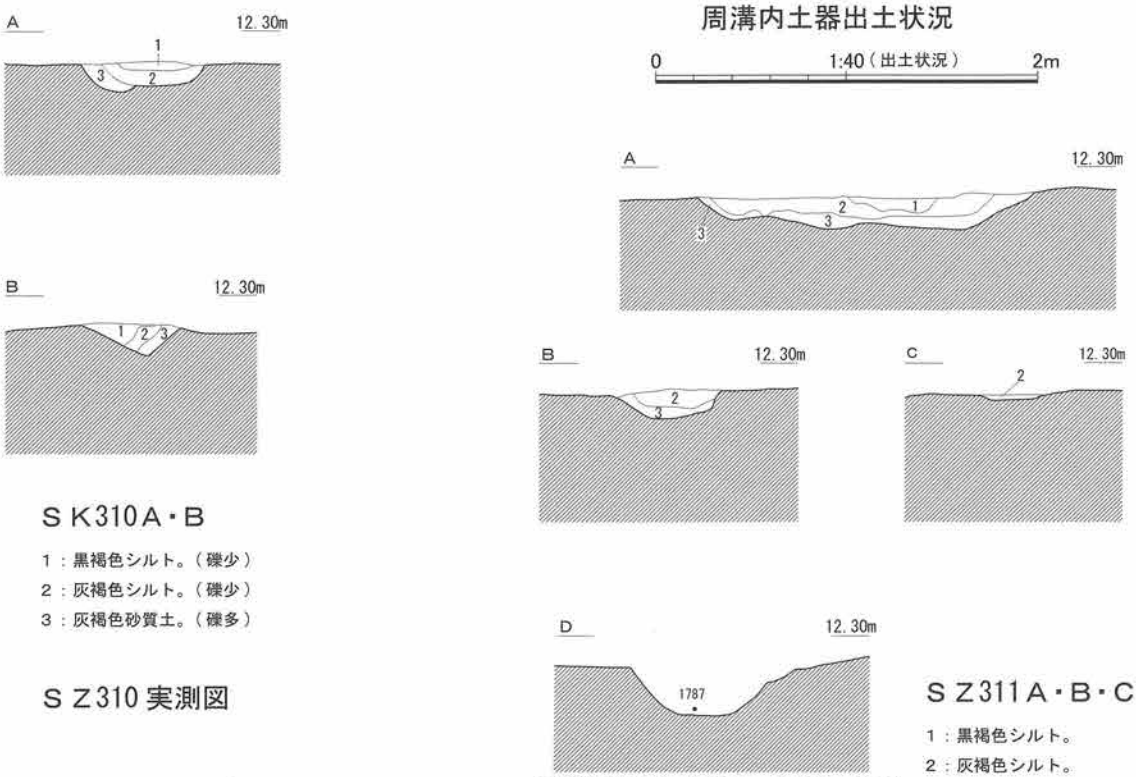
8区 方形周溝墓 SZ308・SZ309 実測図　縮尺１／100、１／60

図面〇八〇　遺構実測図（８区）



周溝内土器出土状況

0　1:40（出土状況）　2m



SK310A・B

1：黒褐色シルト。（礫少）
2：灰褐色シルト。（礫少）
3：灰褐色砂質土。（礫多）

SZ310 実測図

（断面図・レベリング図）
0　1:60　3m

0　1:100（平面図）　5m

周溝内出土土器レベリング図

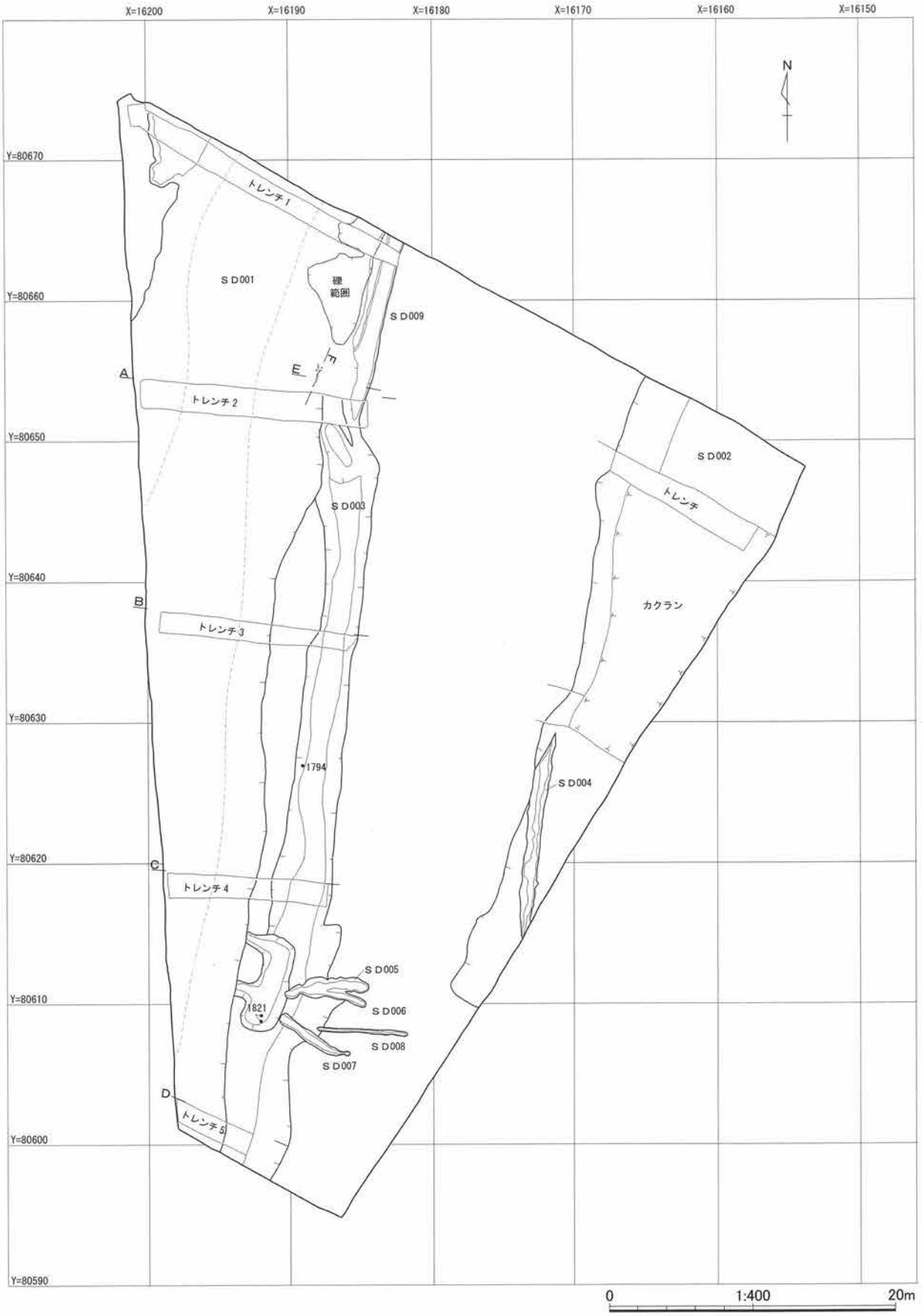
SZ311A・B・C

1：黒褐色シルト。
2：灰褐色シルト。
3：灰色砂質シルト。（礫少）

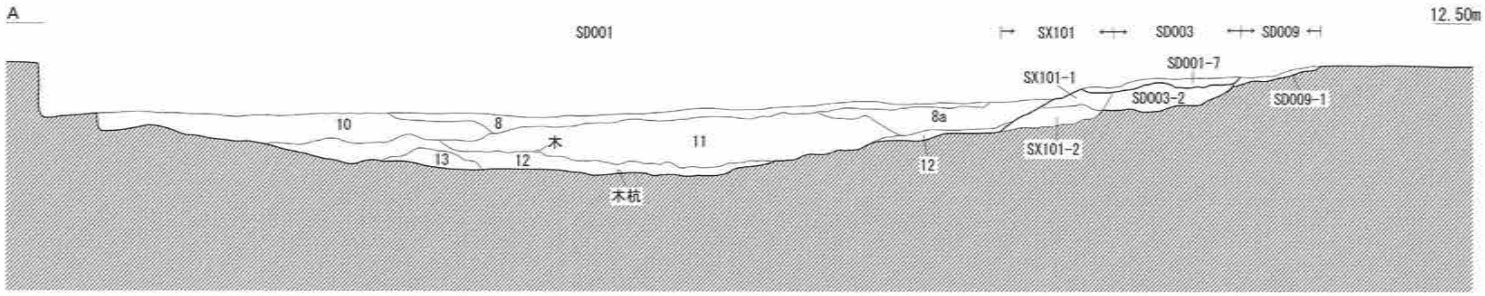
SZ311 実測図

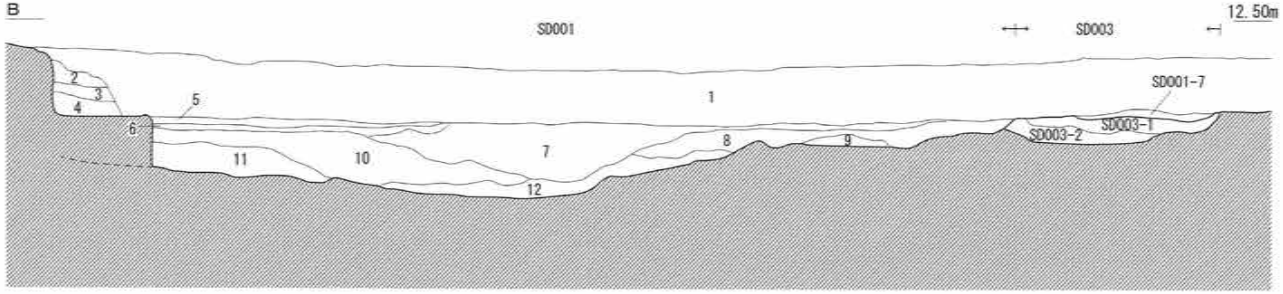
８区 方形周溝墓 SZ310・SZ311 実測図　縮尺１／100、１／40、１／60

図面〇八一　遺構実測図（９区）



９区 遺構全体図　縮尺１／400





トレンチ２～５　A・B・C・D

ＳＤ201

1：褐色土。盛土。（重機乗入道路）
2：黒色土。盛土。（田畑乗入道路）
3：褐灰色土。盛土。（田畑乗入道路）
4：黒褐色土。盛土。（田畑乗入道路）
5：褐色シルト。（旧耕作土）
6：暗褐色シルト。
7：灰黄褐色シルト。
8：黒褐色粘質土。
8a：黒褐色粘質土。（木出土）
9：灰白砂質土、黒色土混合シルト。
10：褐灰色土、灰白色砂質土（少量）混合シルト。
11：褐灰色土、灰白色砂質土（多量）混合シルト。
12：黒色土、灰白色粘土混合シルト。（木出土）
13：青灰色砂質土。
14：にぶい黄橙色土、褐灰色砂質土混合シルト。
15：灰白色粘土、黒褐色土混合シルト。（植物遺体含む）
16：青灰色粘土。

ＳＤ003

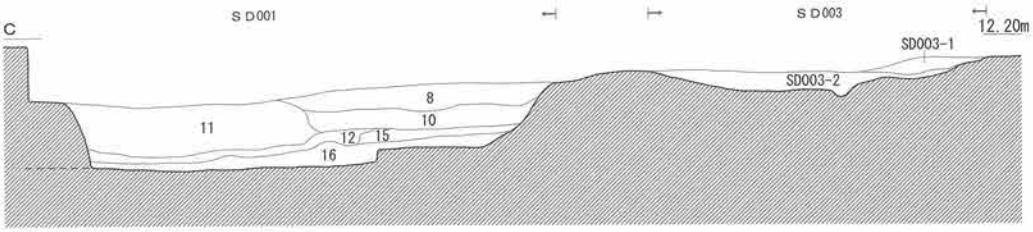
1：黒色土、褐灰色砂質土混合シルト。
1a：褐灰色土。
1b：褐灰色砂質土。
2：灰黄色砂質土。

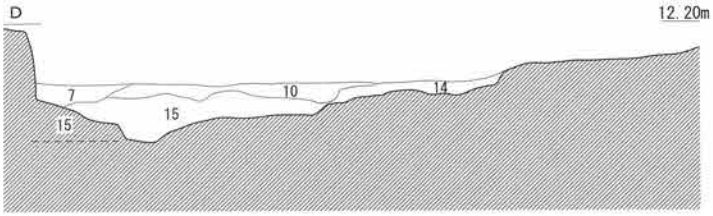
ＳＤ009

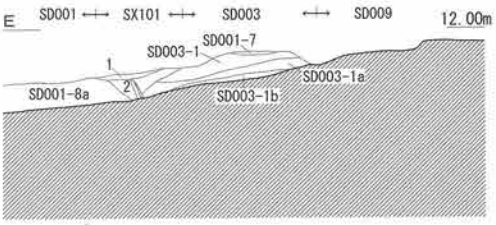
1：黒色土、黄色土混合シルト。

0　1:100　5m

図面〇八二　遺構実測図（９図）





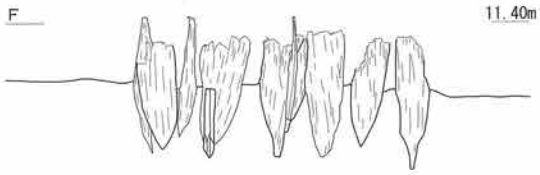


ＳＸ101Ｅ

１：黒色シルト。

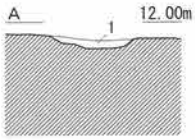
２：褐灰色砂質土、灰白色粘土、黒色土混合粘質シルト。

護岸施設（SX101）出土状況（平面図）



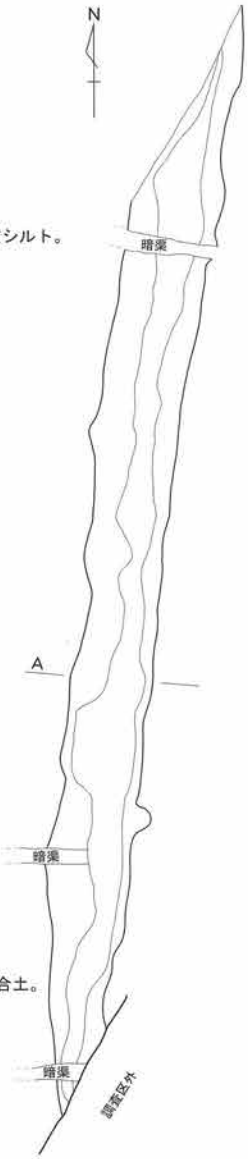
護岸施設（SX101）出土状況（断面図）

0　1:40（出土状況）　2m



ＳＤ004Ａ

１：暗褐色土、地山黄灰シルト（少量）混合土。

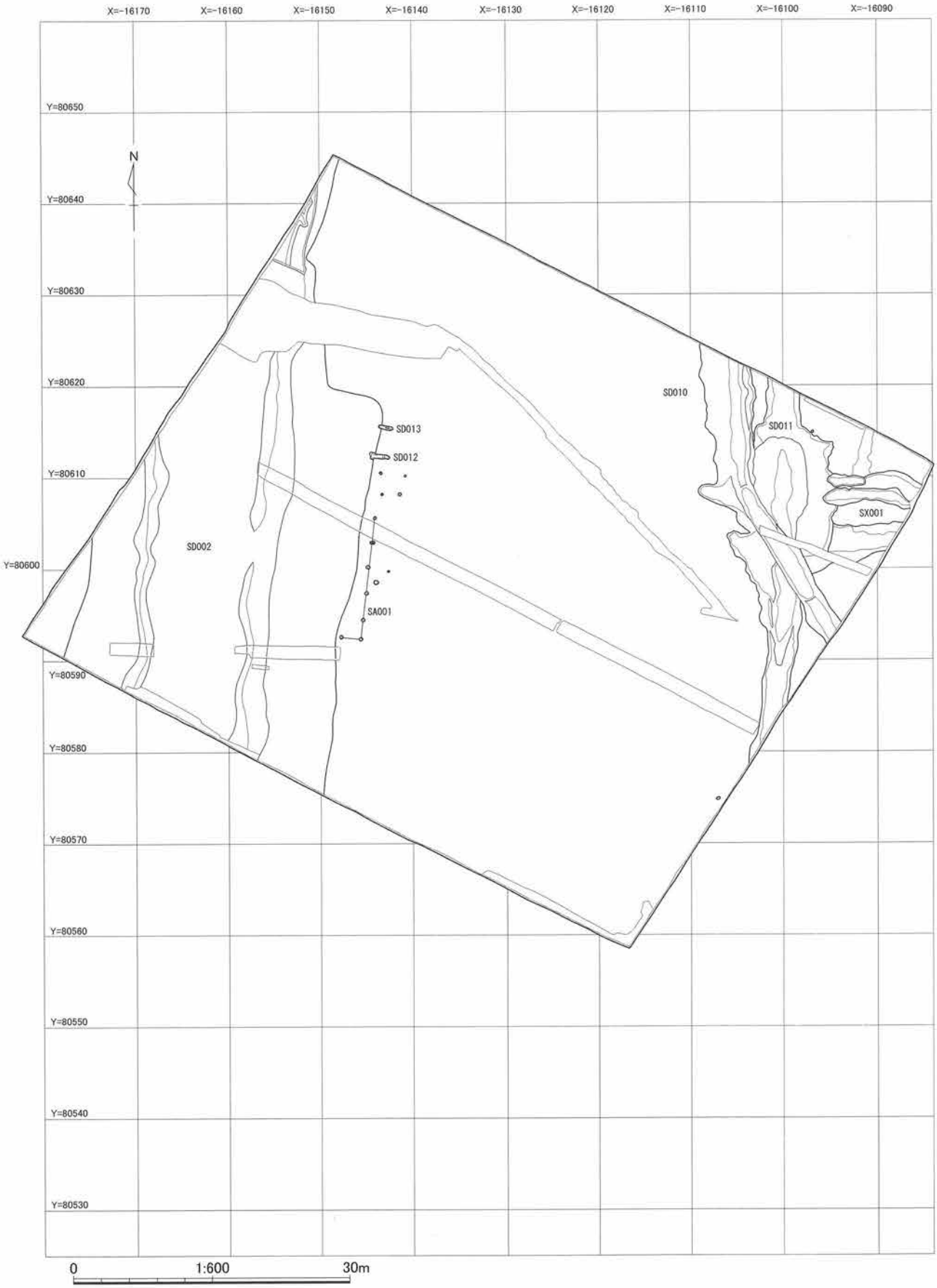


ＳＤ004 実測図

0　1:100　5m

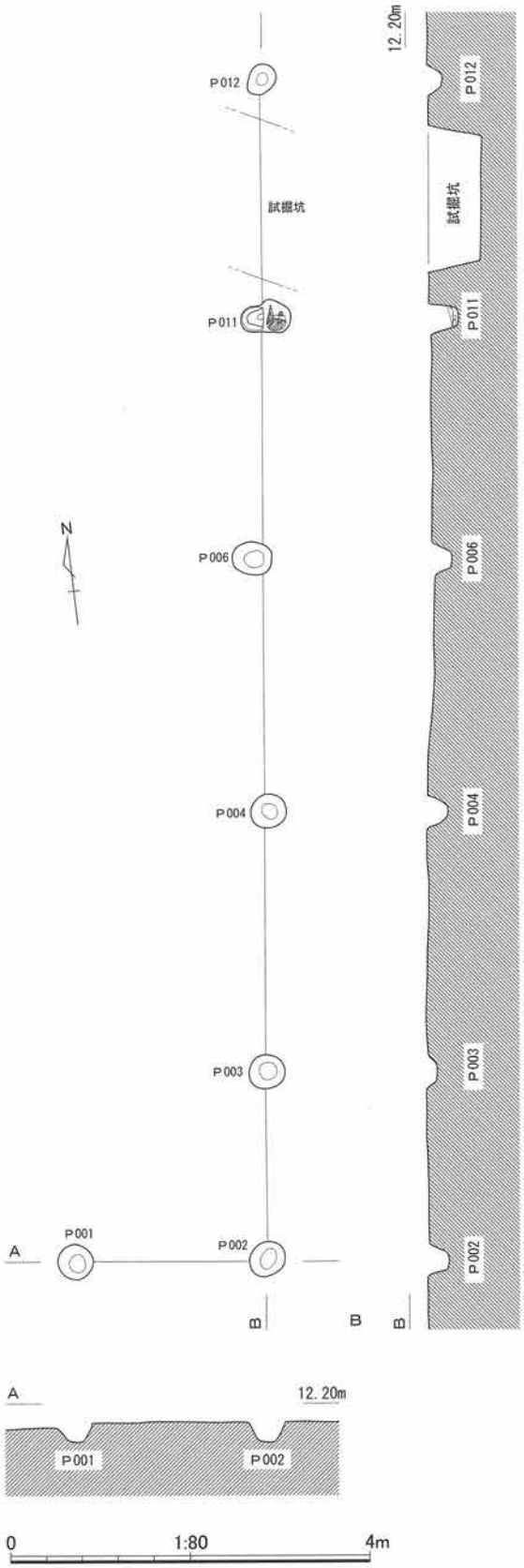
９区 溝 SD001・SD003・SD004、護岸施設 SX101 実測図　縮尺１／40、１／100

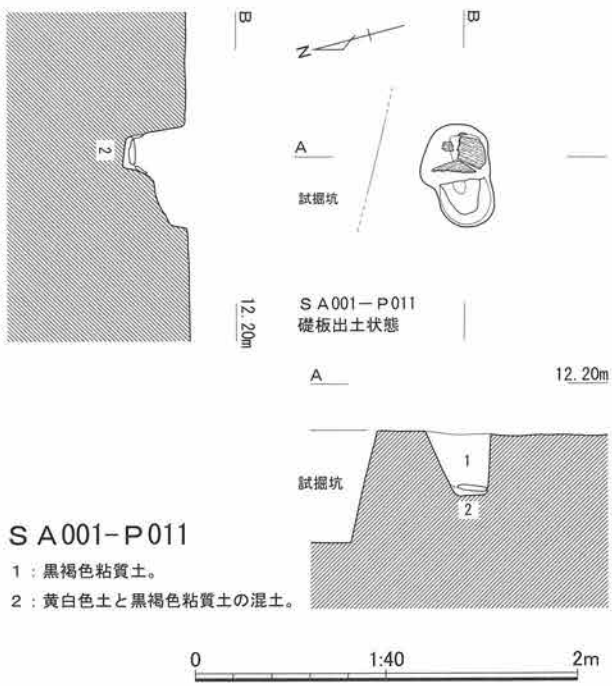
図面〇八四　遺構実測図（10区）



10区 遺構全体図　縮尺1／600

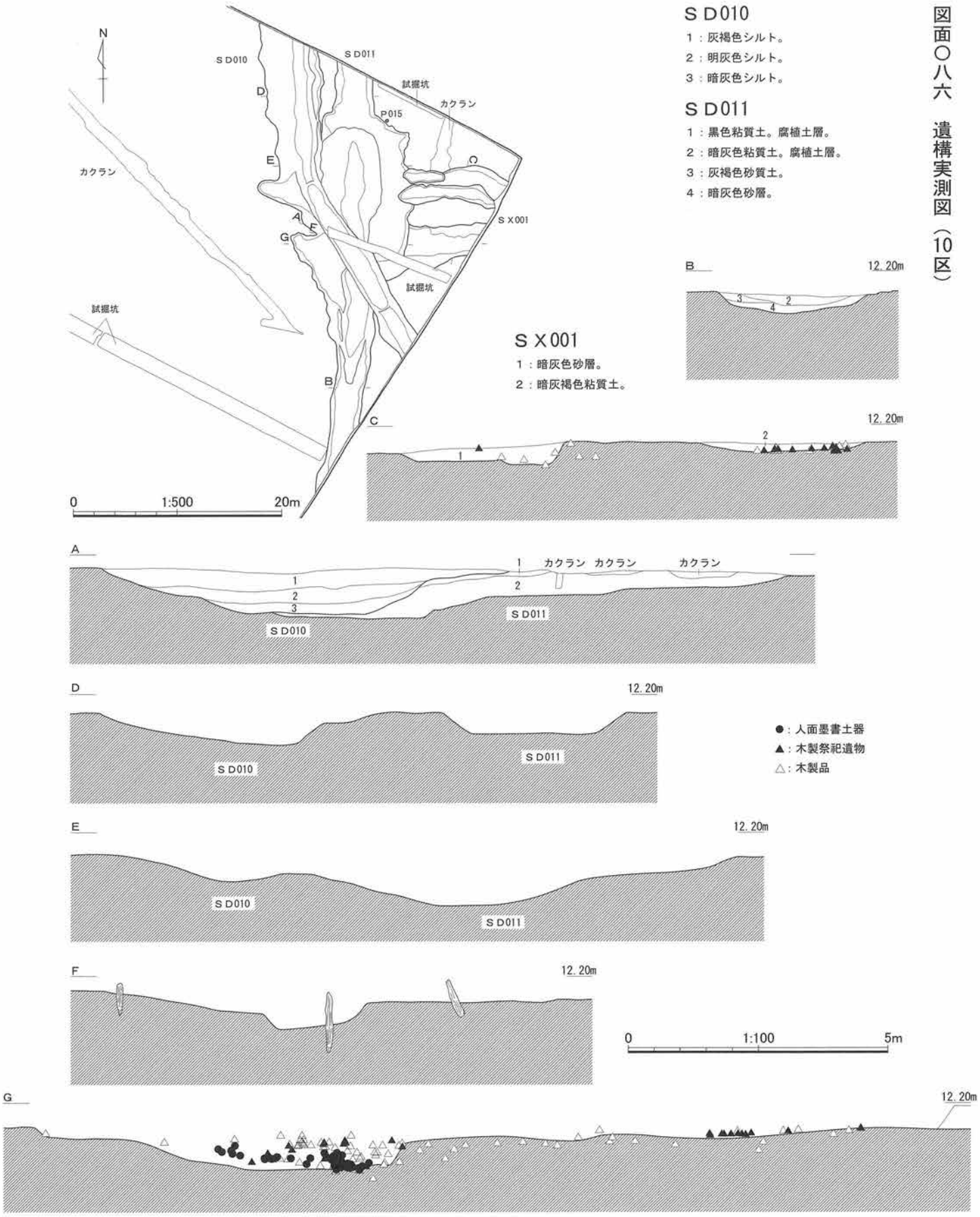
図面〇八五　遺構実測図（10区）





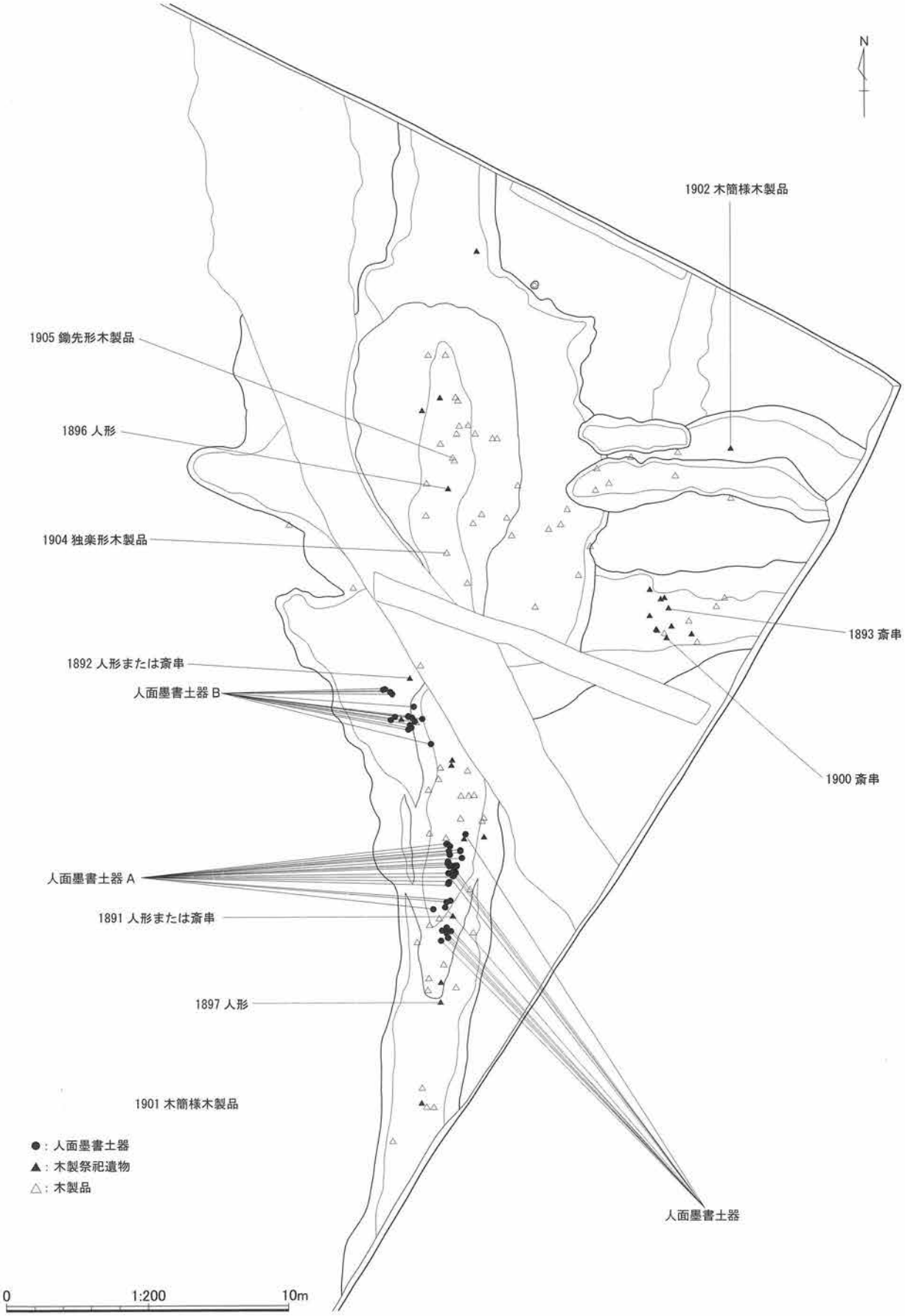
10区 柵址 SA001・P011 実測図　縮尺1／80、1／40

図面〇八六　遺構実測図（10区）



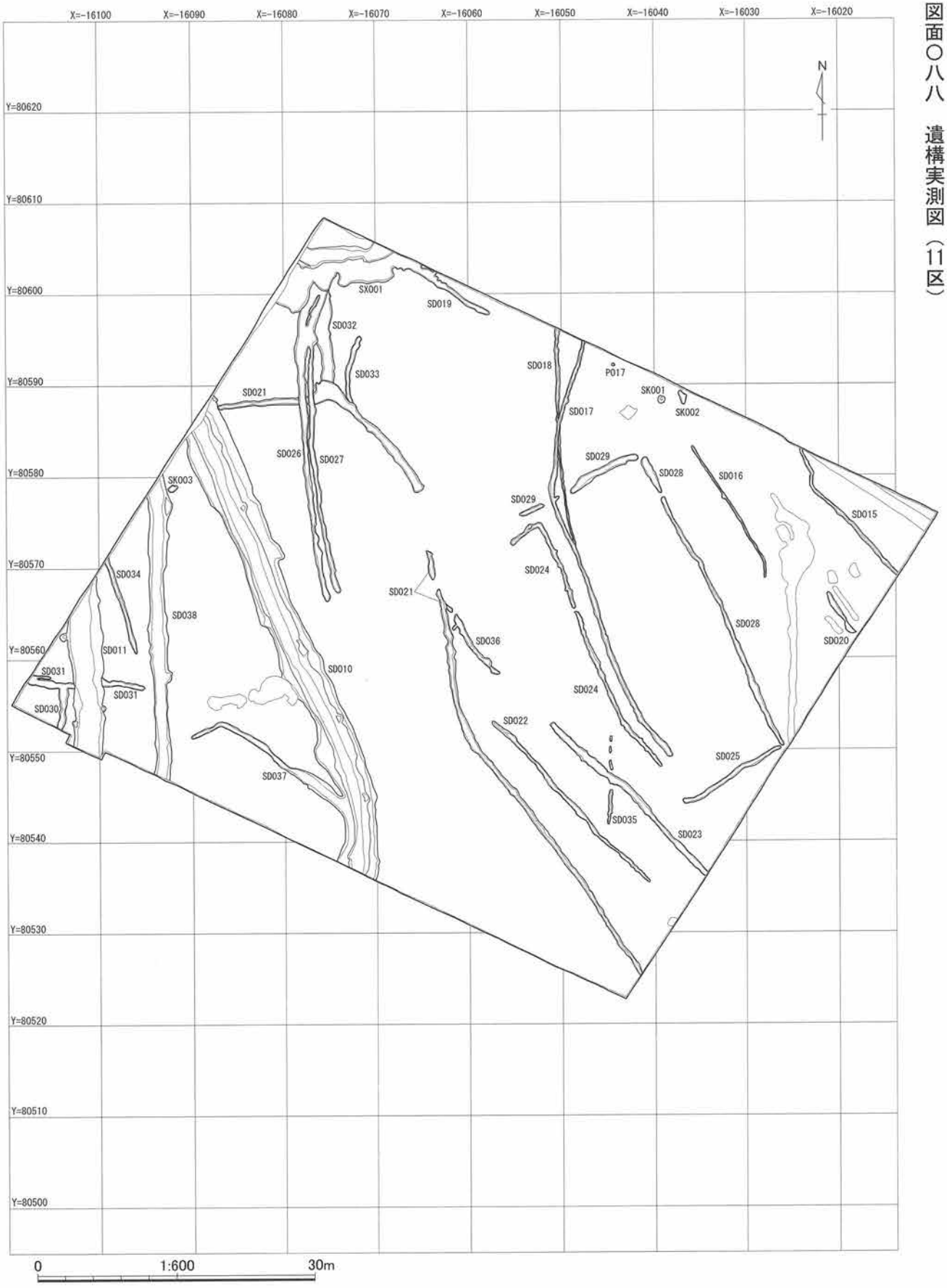
10区 溝 SD010・SD011、窪地 SX001 実測図　縮尺 1／500、1／100

図面〇八七　遺構実測図（10区）



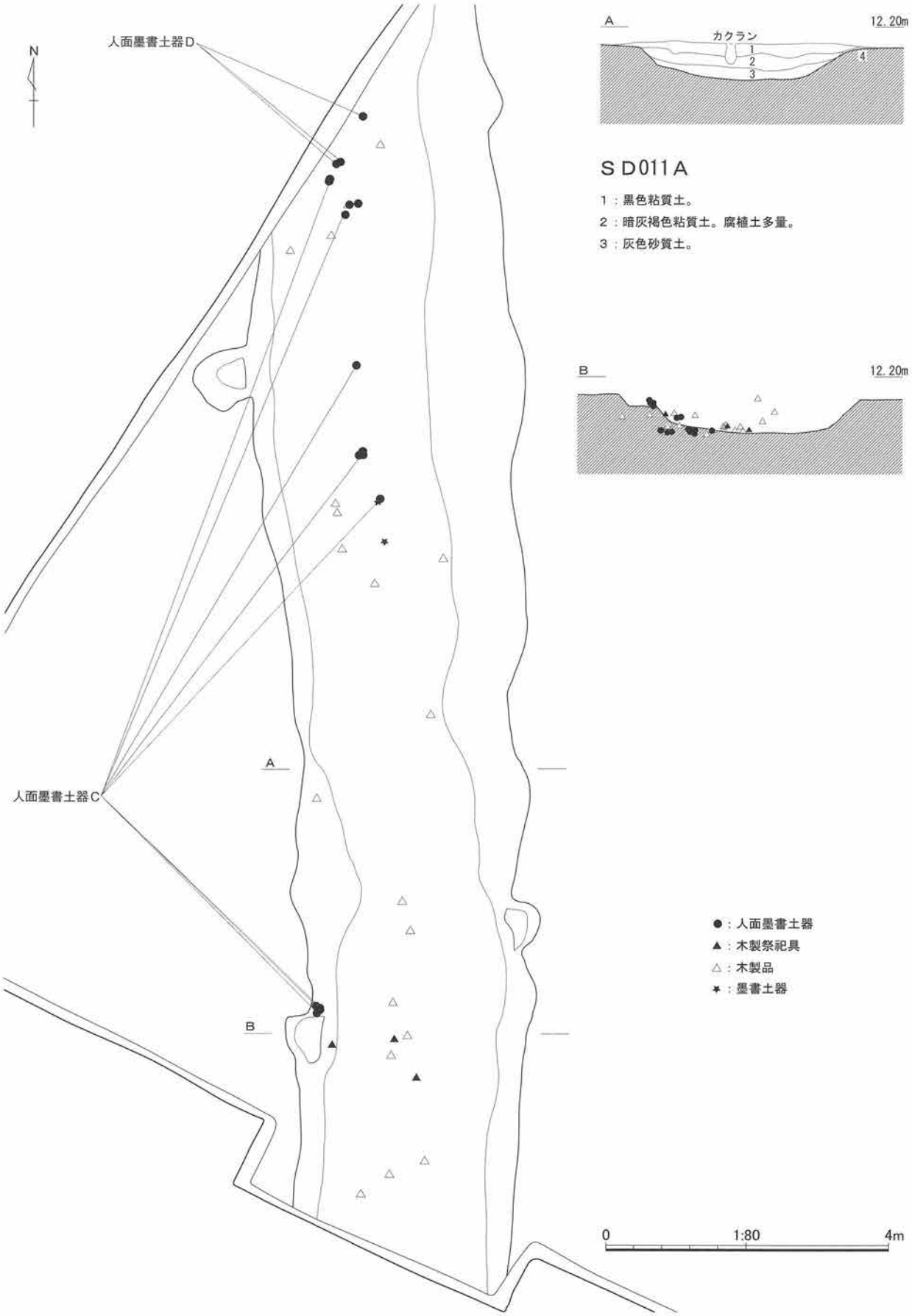
10 区 溝 SD011、窪地 SX001 遺物分布図　縮尺 1 ／ 200

図面〇八八　遺構実測図（11区）

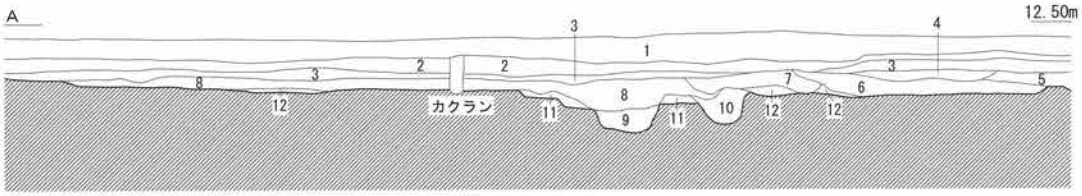


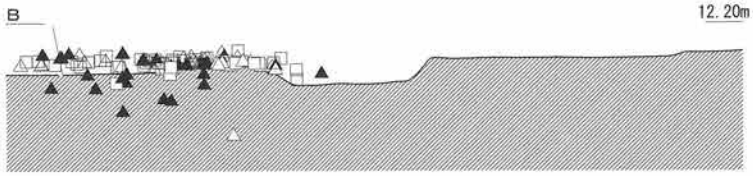
11区 遺構全体図　縮尺1／600

図面〇八九　遺構実測図（11区）



11区 溝 SD011 遺物分布図　縮尺1／80





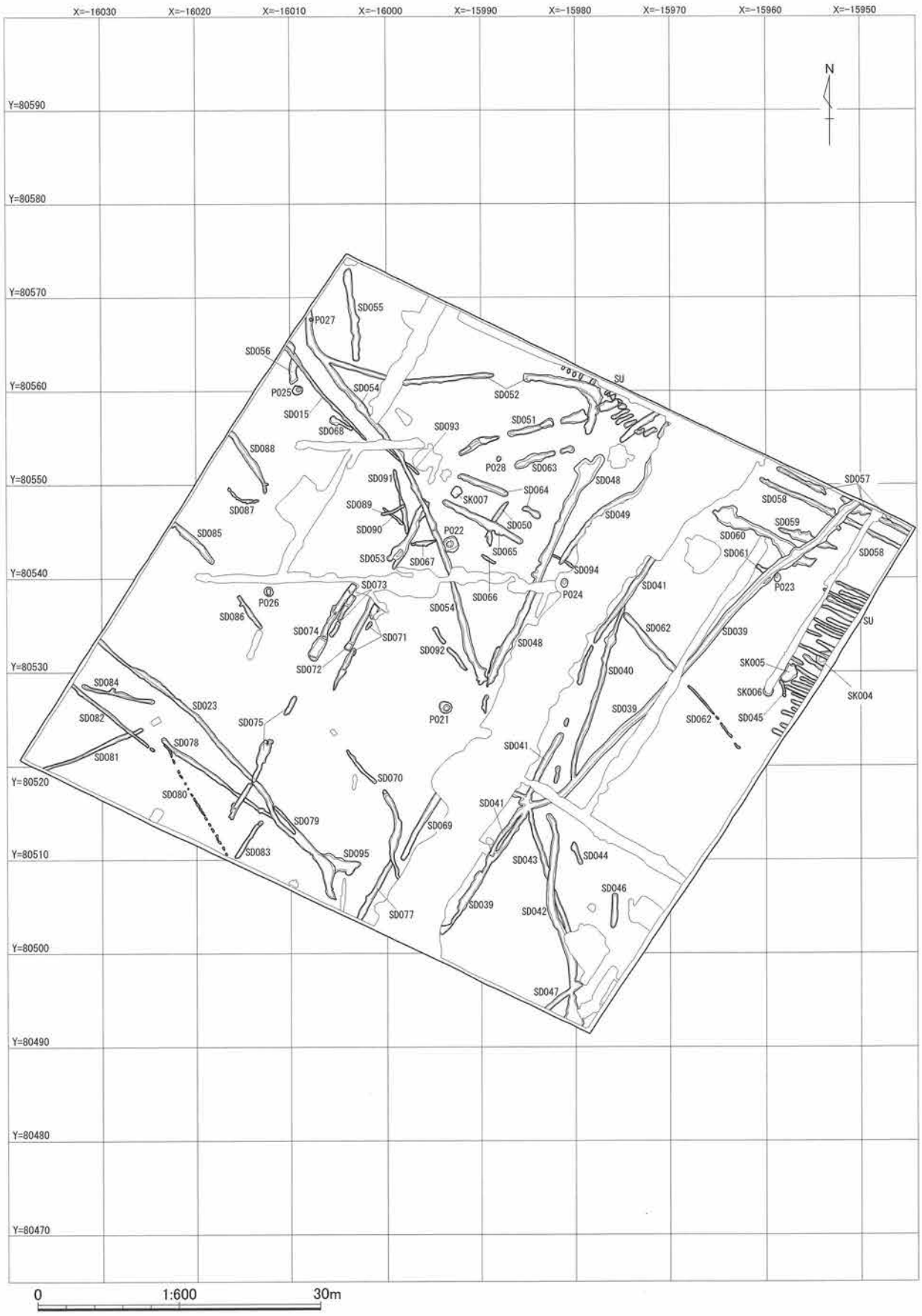
SX001

1：表土。
2：灰褐色粘質土。
3：黒褐色粘質土。
4：灰褐色砂質土。
5：明灰褐色砂質土。
6：暗灰褐色粘質土と灰褐色粘質土の混土。
7：灰褐色粘質土。
8：暗灰褐色粘質土。
9：暗褐色粘質土。
10：暗褐色粘質土。黄白色土ブロック混入。
11：灰褐色粘質土。
12：青灰色粘質土。

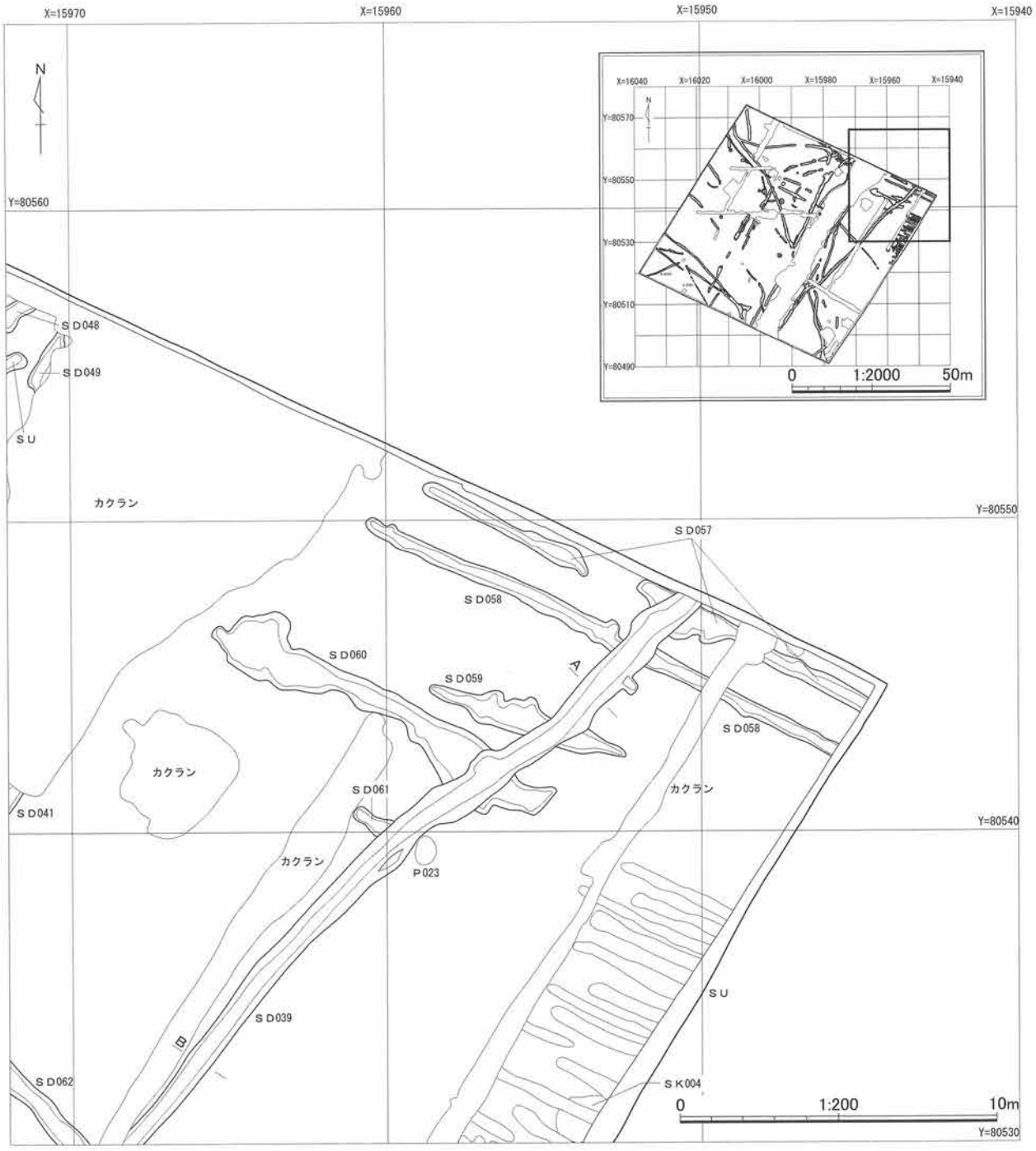
0　1:80　4m

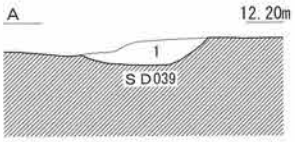
11区 窪地SX001実測図　縮尺1／100、1／80

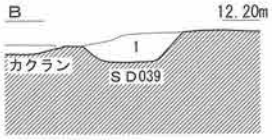
図面〇九一　遺構実測図（12区）



12区 遺構全体図　縮尺1／600







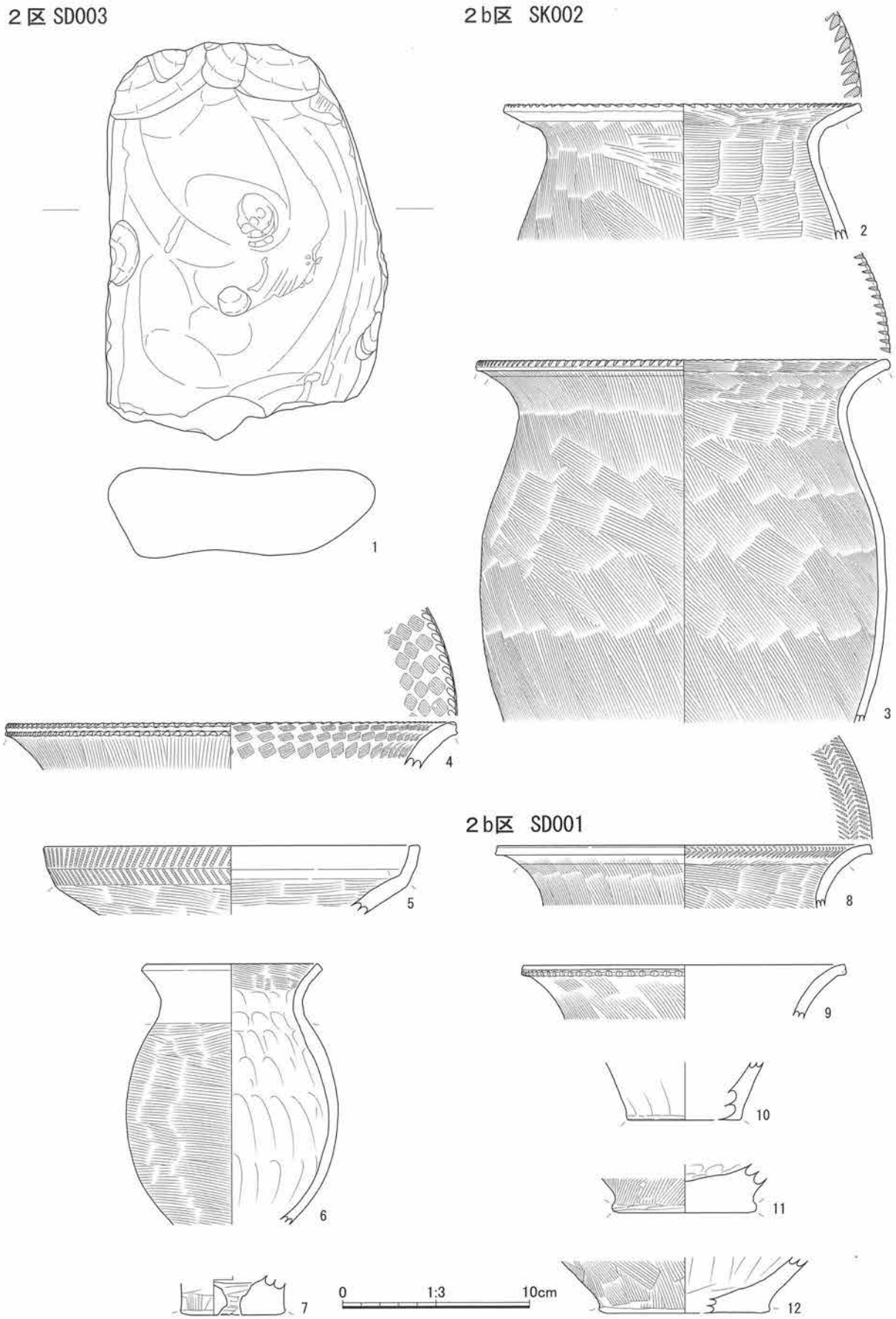
SD039

1：黒褐色粘質土。

0　1:60　3m

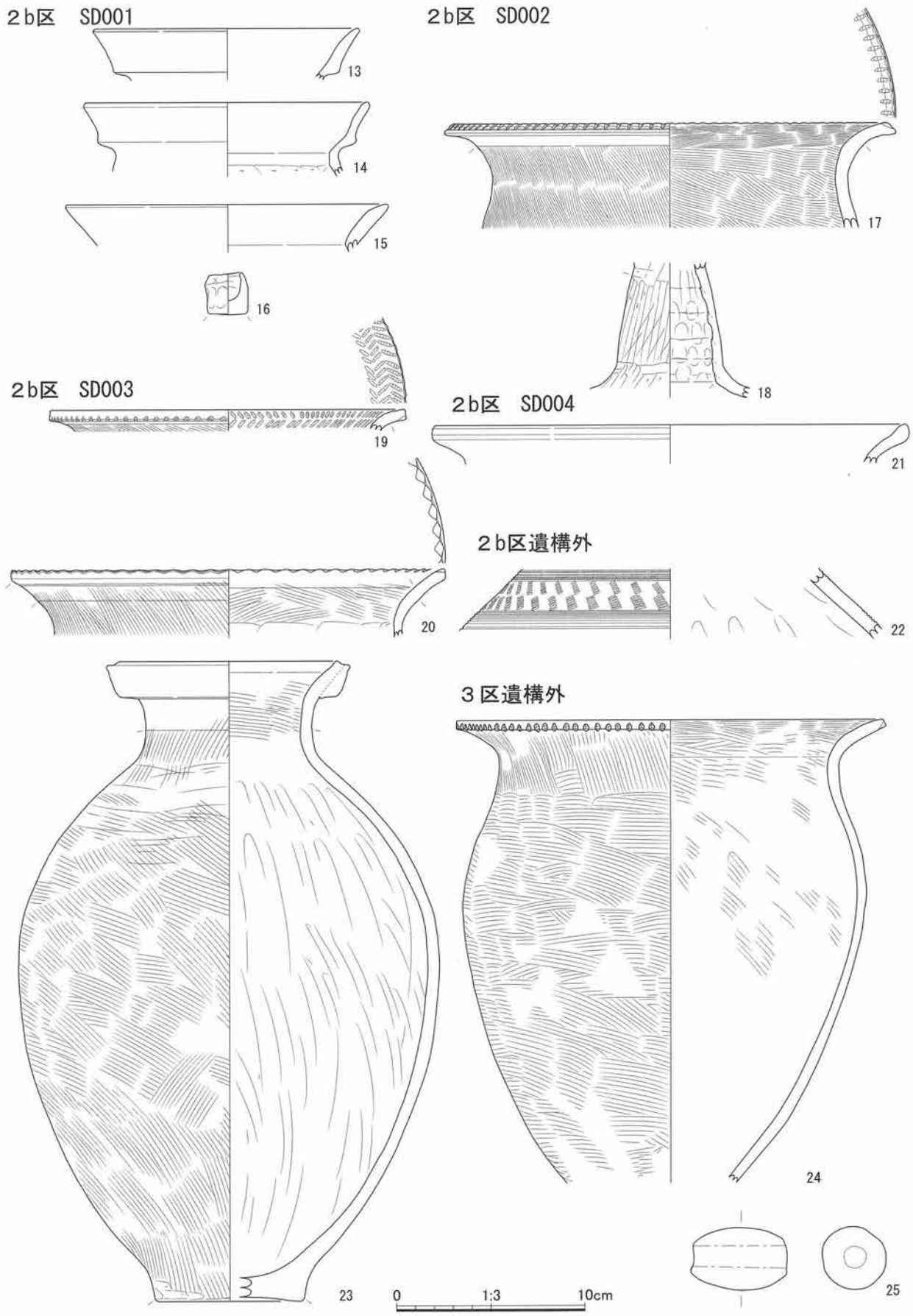
12区 溝 SD039 実測図　縮尺1／2000、1／200、1／60

図面〇九三　遺物実測図（２区・２ｂ区）



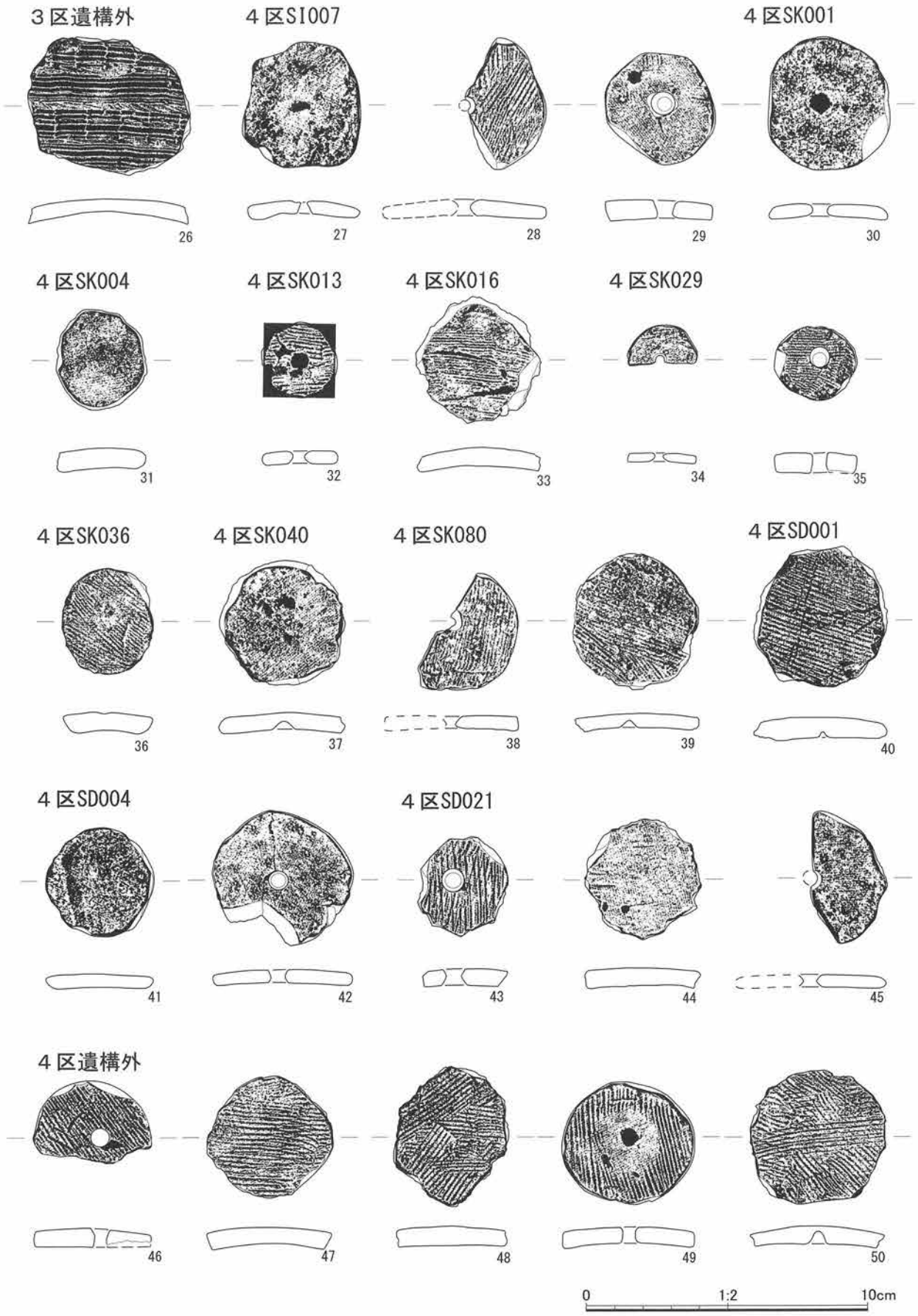
２区・２ｂ区 出土遺物　縮尺１／３

図面〇九四　遺物実測図（２ｂ区・３区）

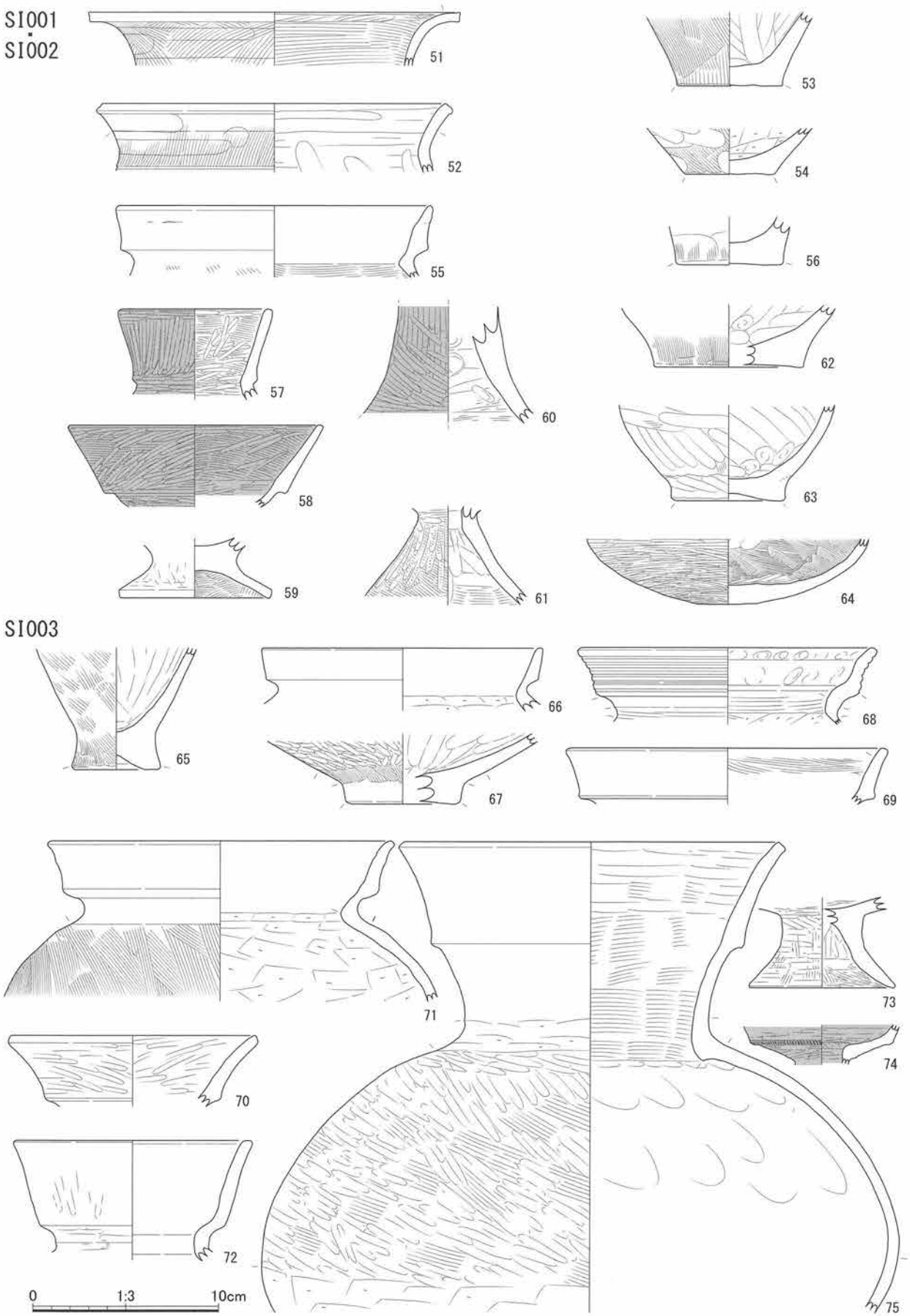


２ｂ区・３区 出土遺物　縮尺１／３

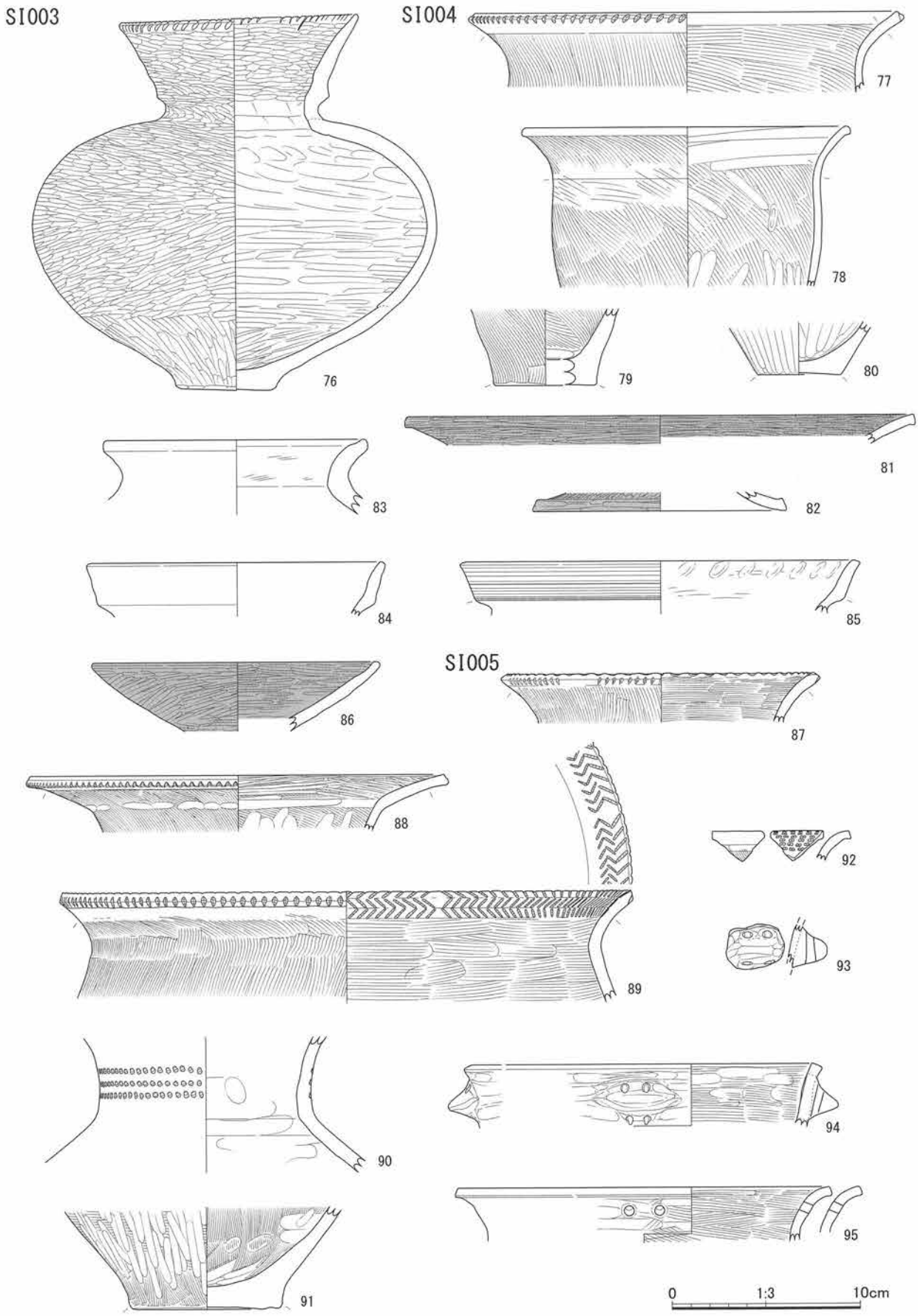
図面〇九五　遺物実測図（3区・4区）



3区・4区 出土円盤状土製品　縮尺　1／2

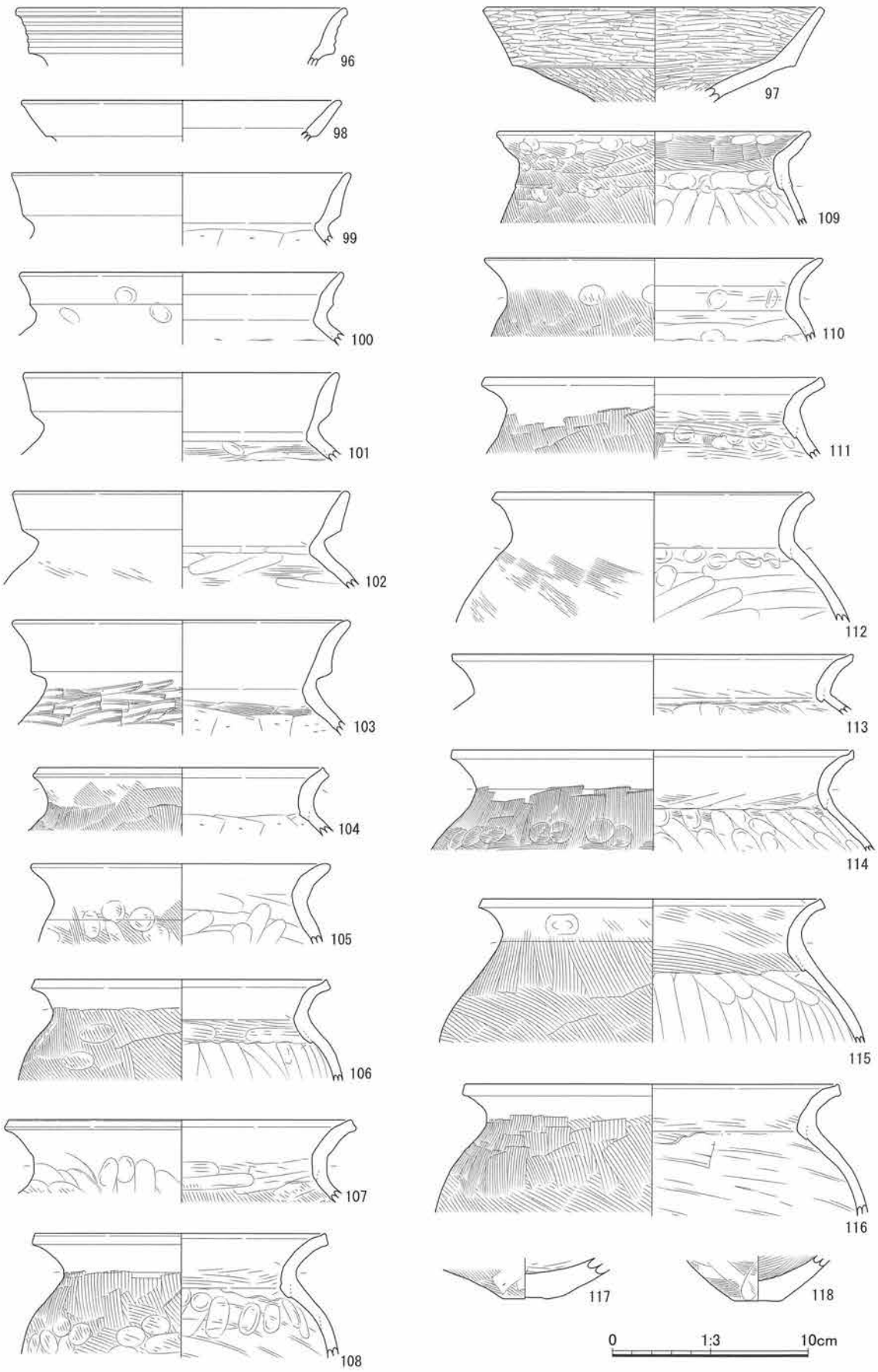


４区 竪穴建物址 SI001 ～ SI003 出土遺物　縮尺１／３

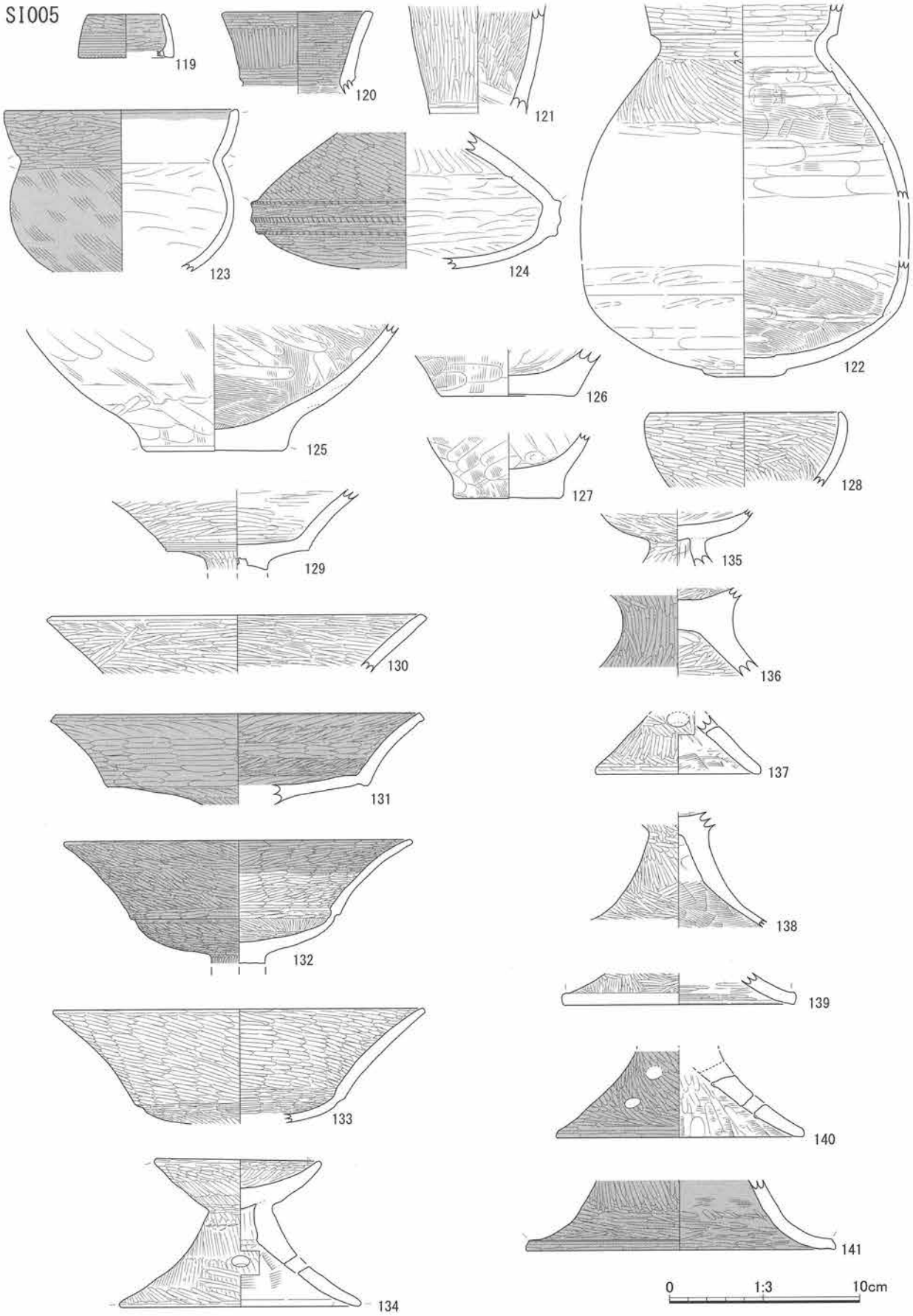


４区 竪穴建物址 SI003 ～ SI005 出土遺物　縮尺１／３

SI005

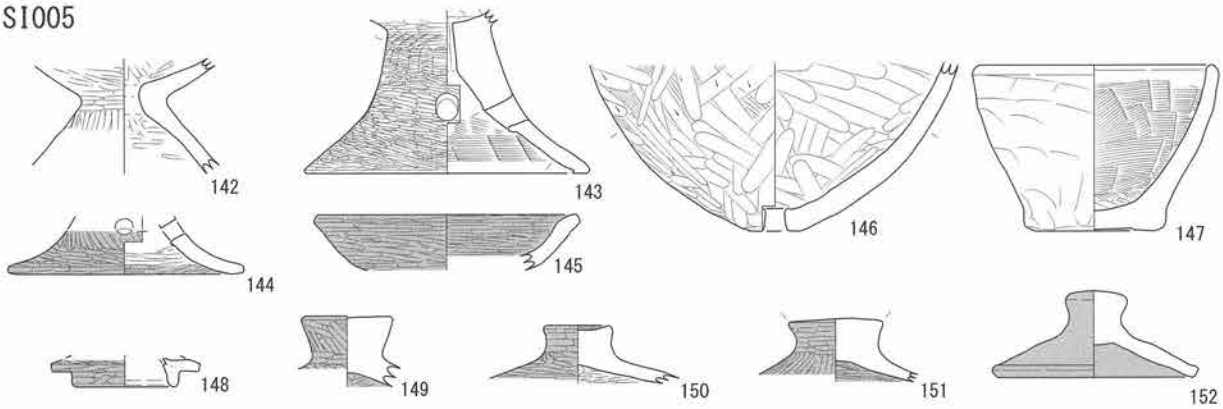


４区 竪穴建物址 SI005 出土遺物〔1〕 縮尺１／３

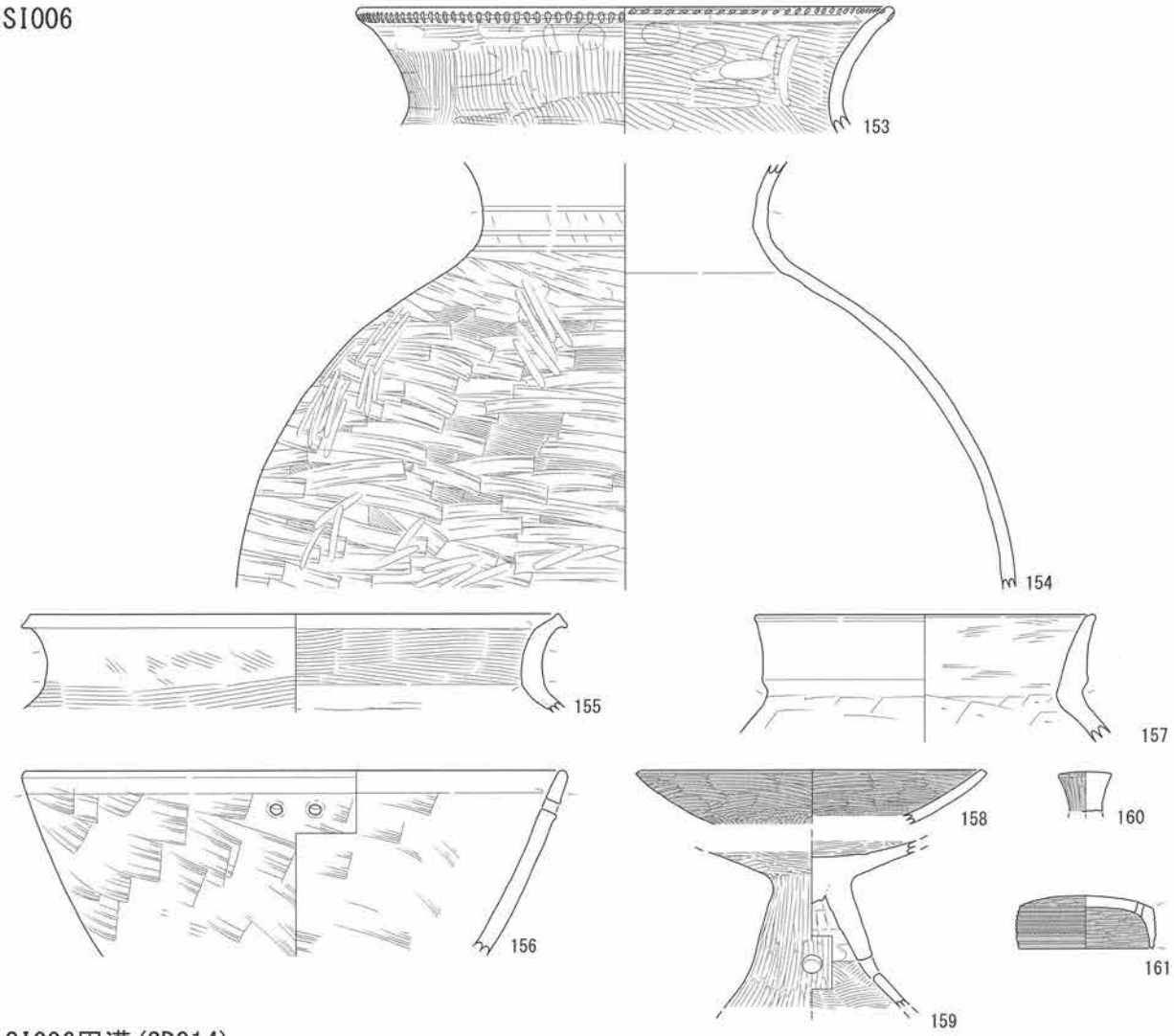


4区 竪穴建物址 SI005 出土遺物〔2〕 縮尺1／3

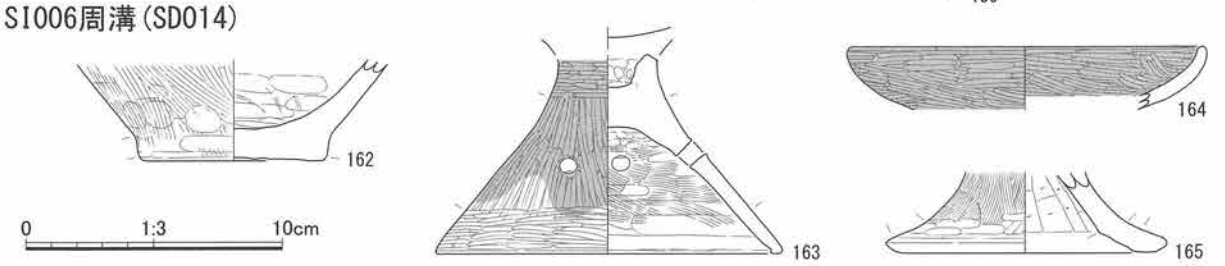
SI005



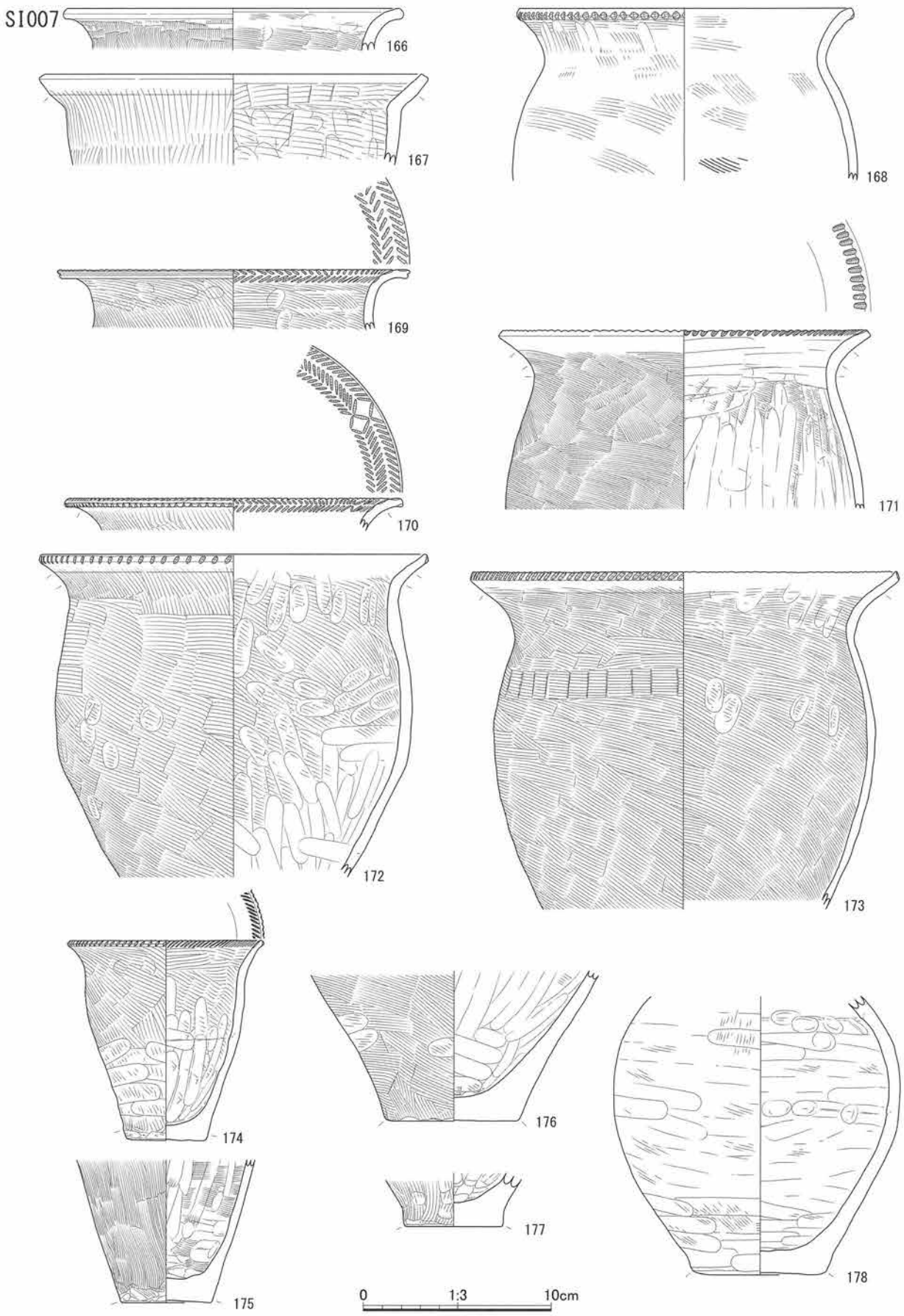
SI006



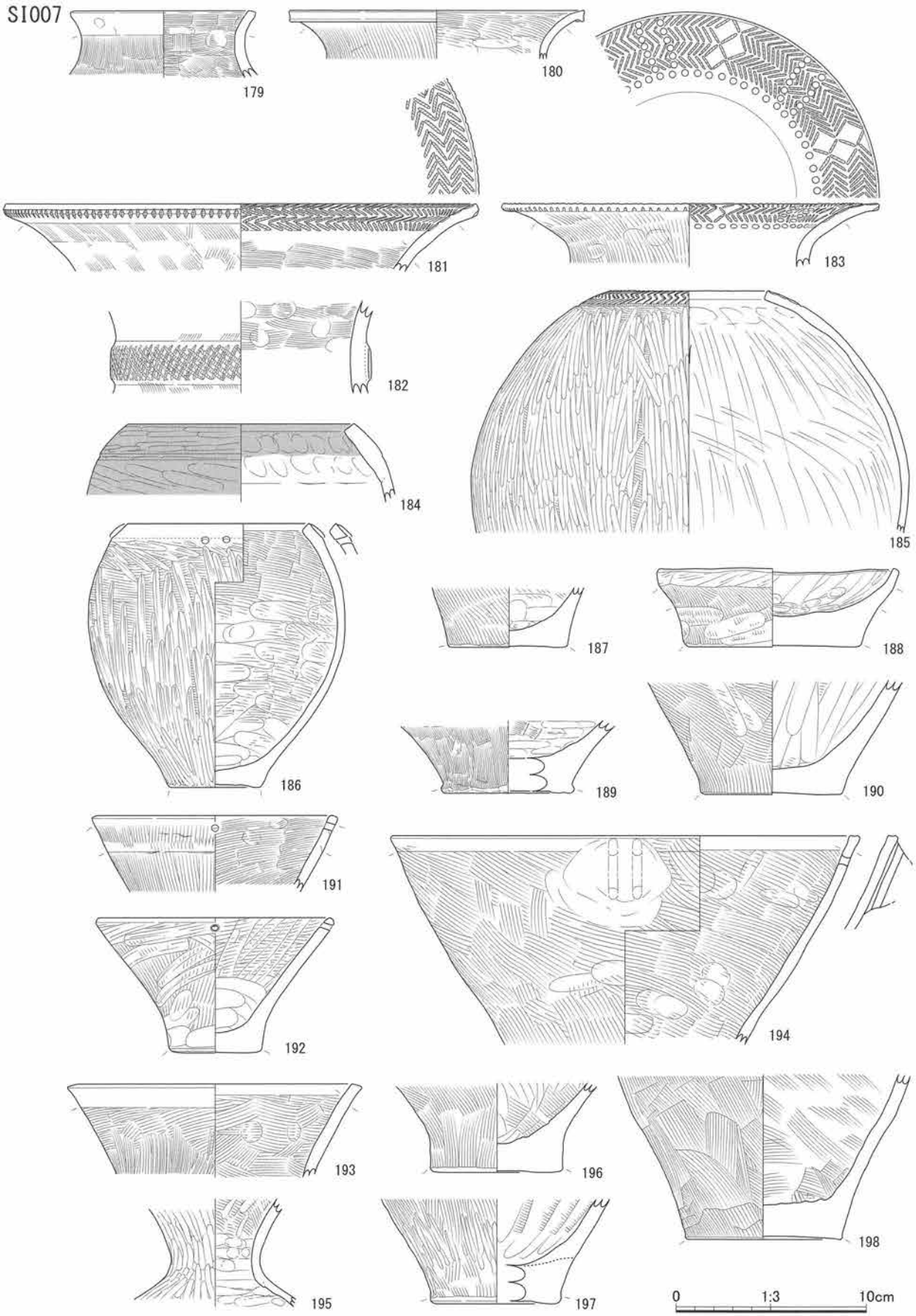
SI006周溝(SD014)



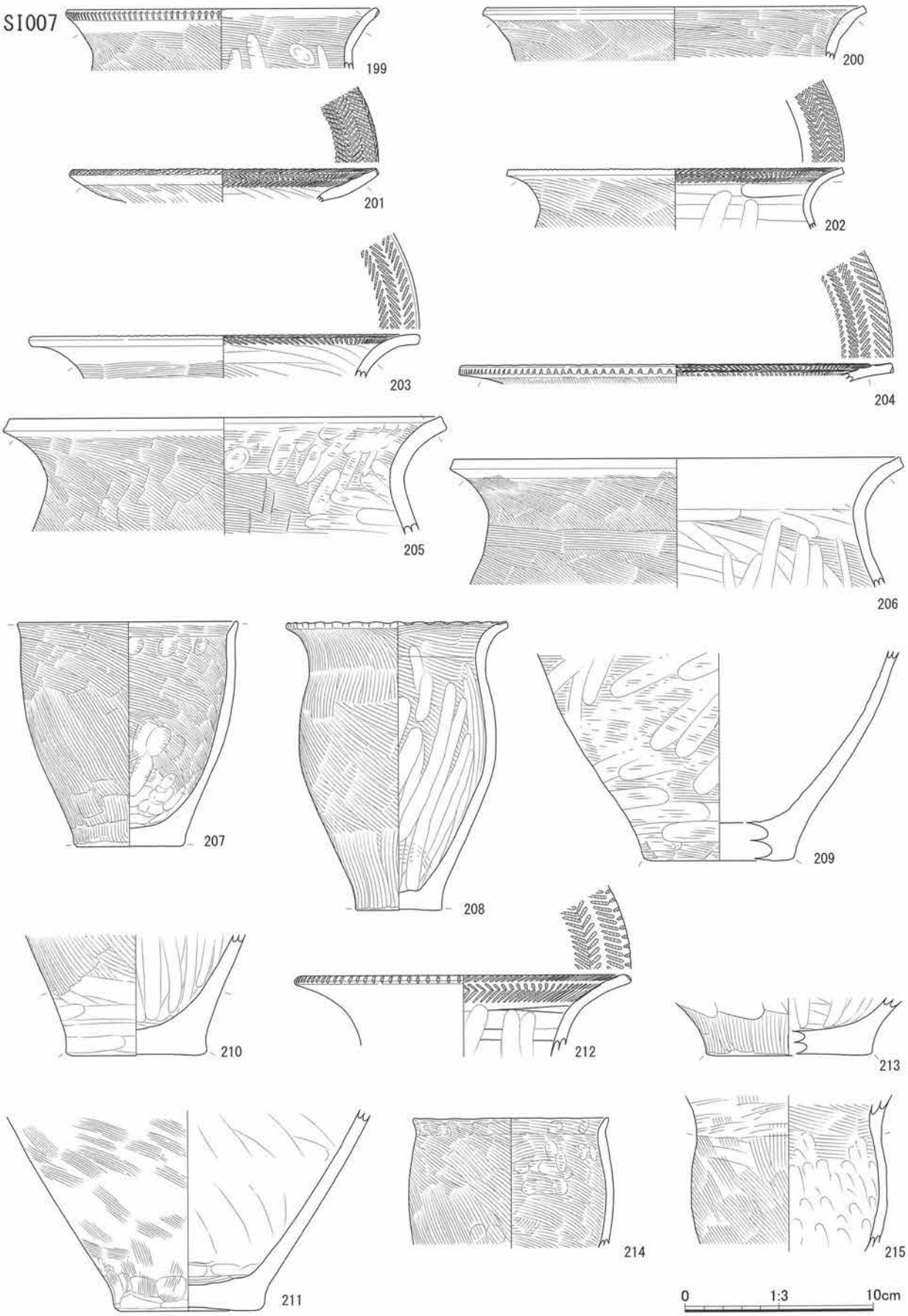
4区 竪穴建物址 SI005・SI006 出土遺物　縮尺1／3



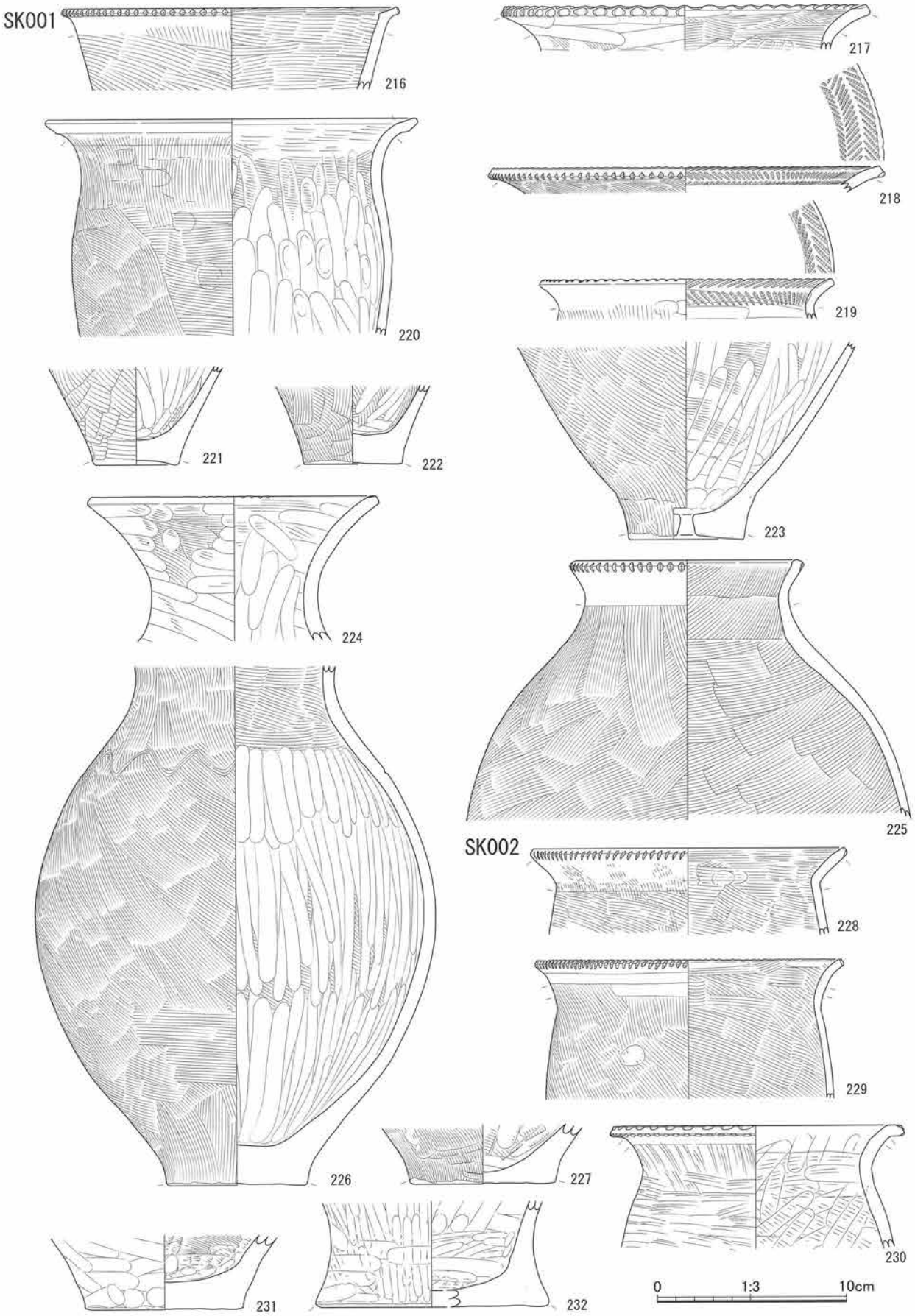
4区 竪穴建物址 SI007 出土遺物〔1〕 縮尺1／3



4区 竪穴建物址 SI007 出土遺物〔2〕 縮尺1／3

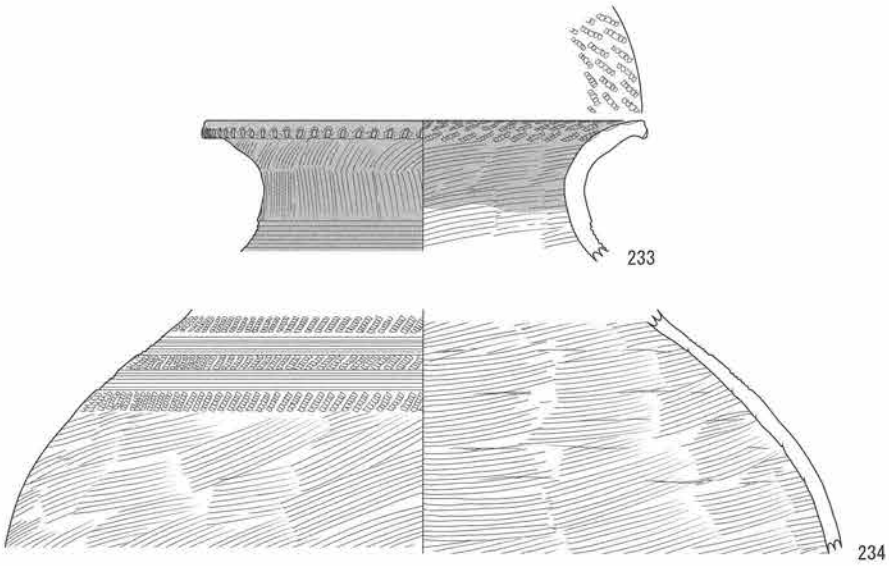


4区 竪穴建物址 SI007 出土遺物〔3〕 縮尺1／3

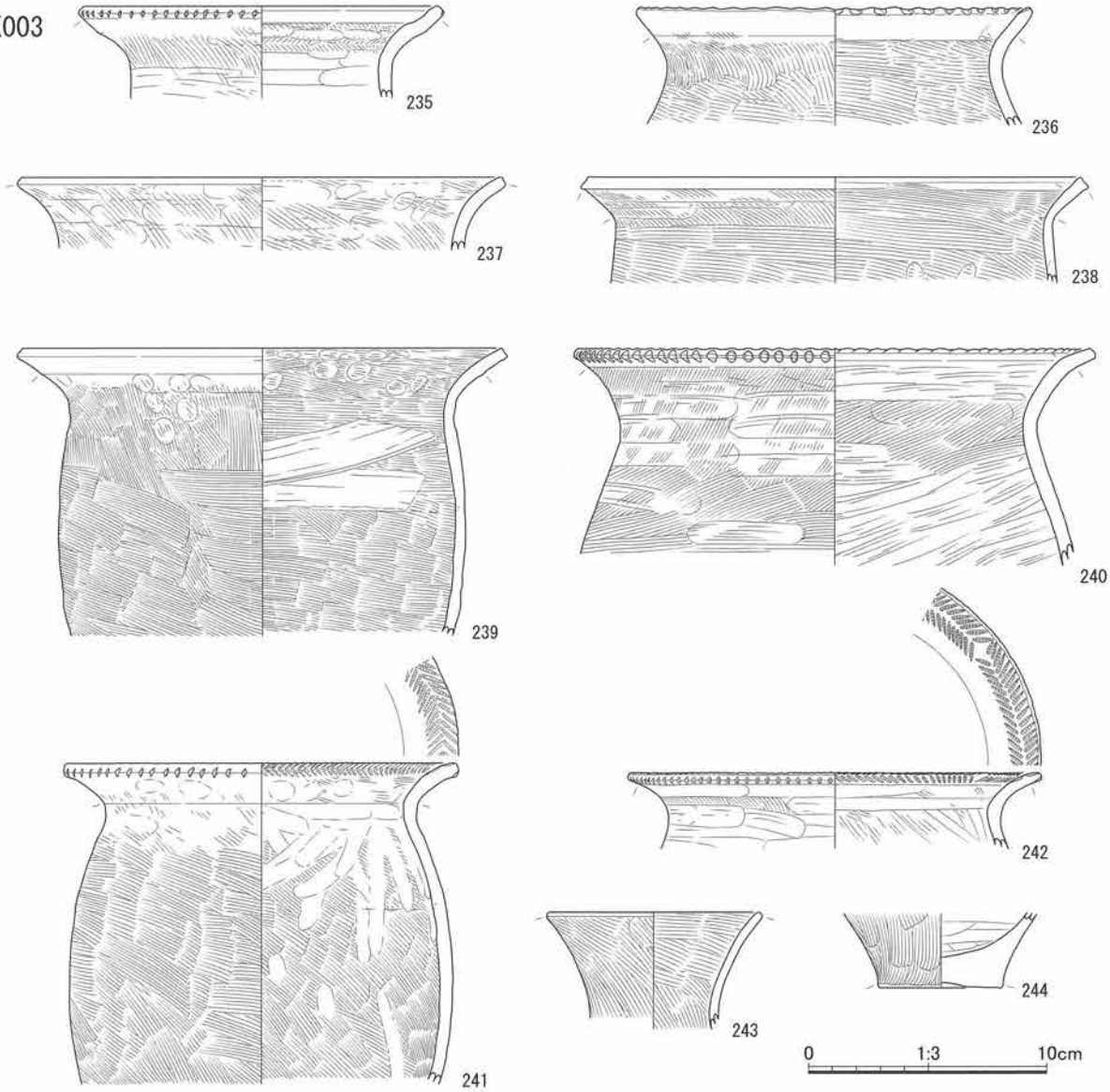


4区 土坑 SK001・SK002 出土遺物　縮尺 1／3

SK002

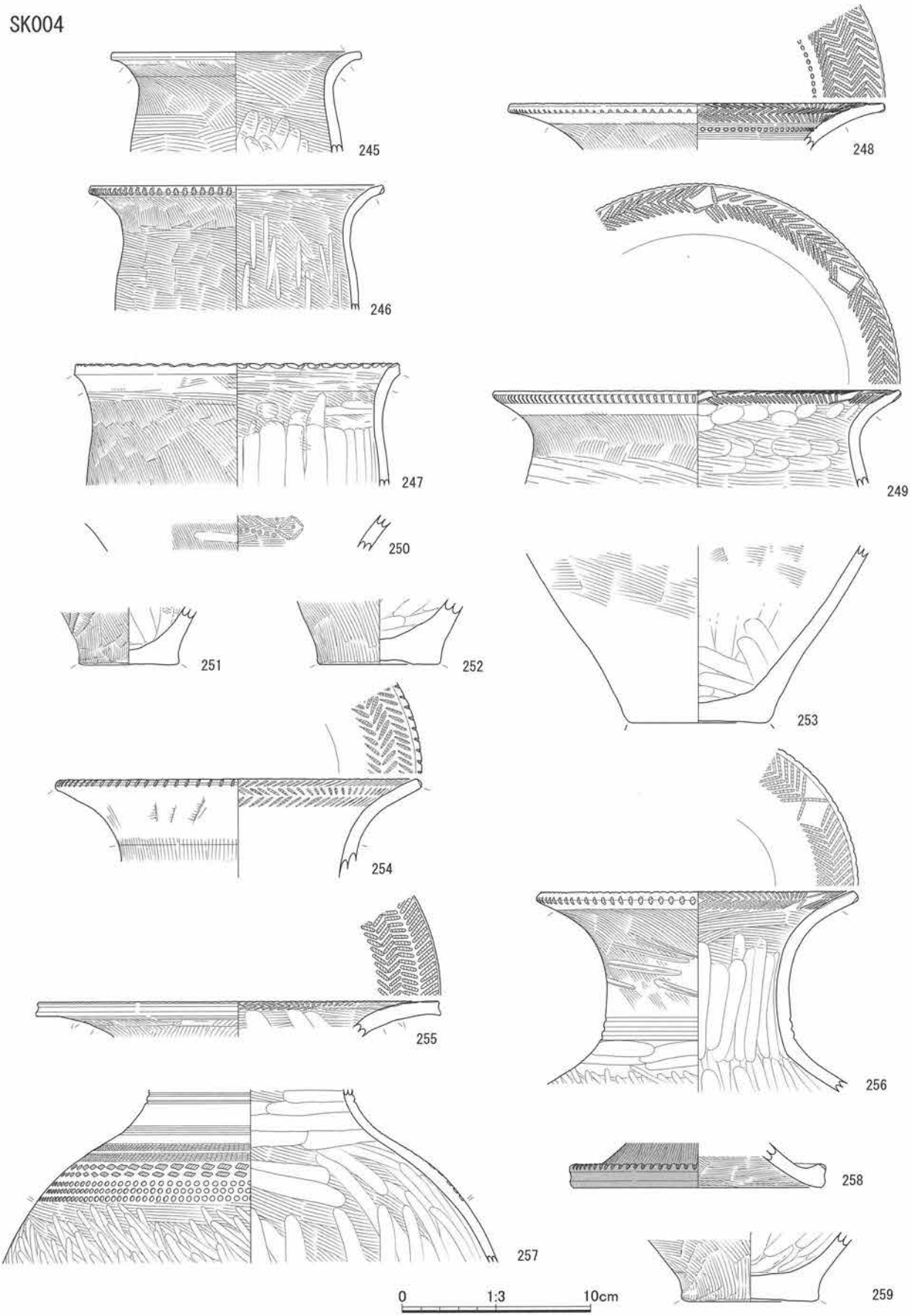


SK003



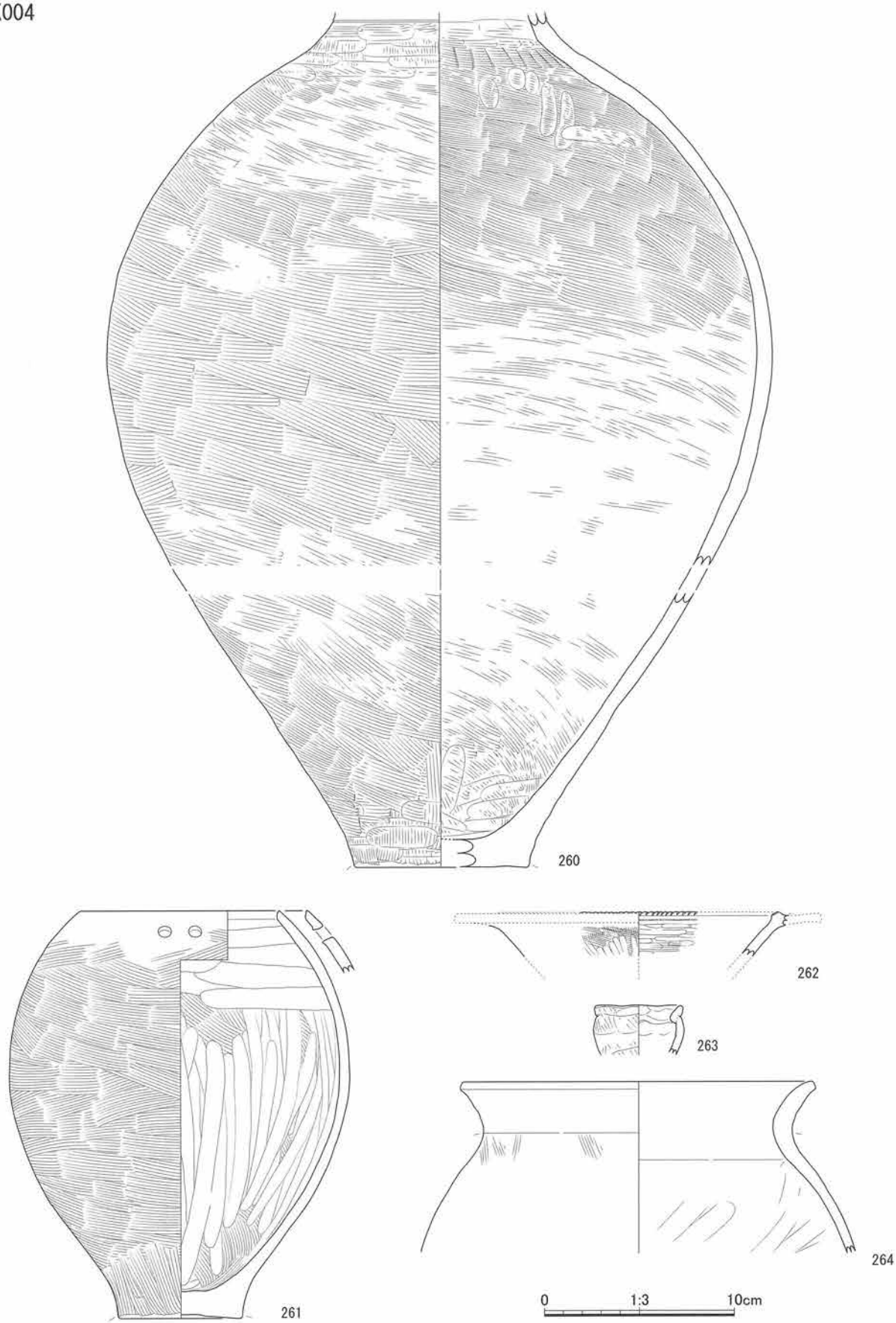
4区 土坑 SK002・SK003 出土遺物　縮尺 1／3

SK004

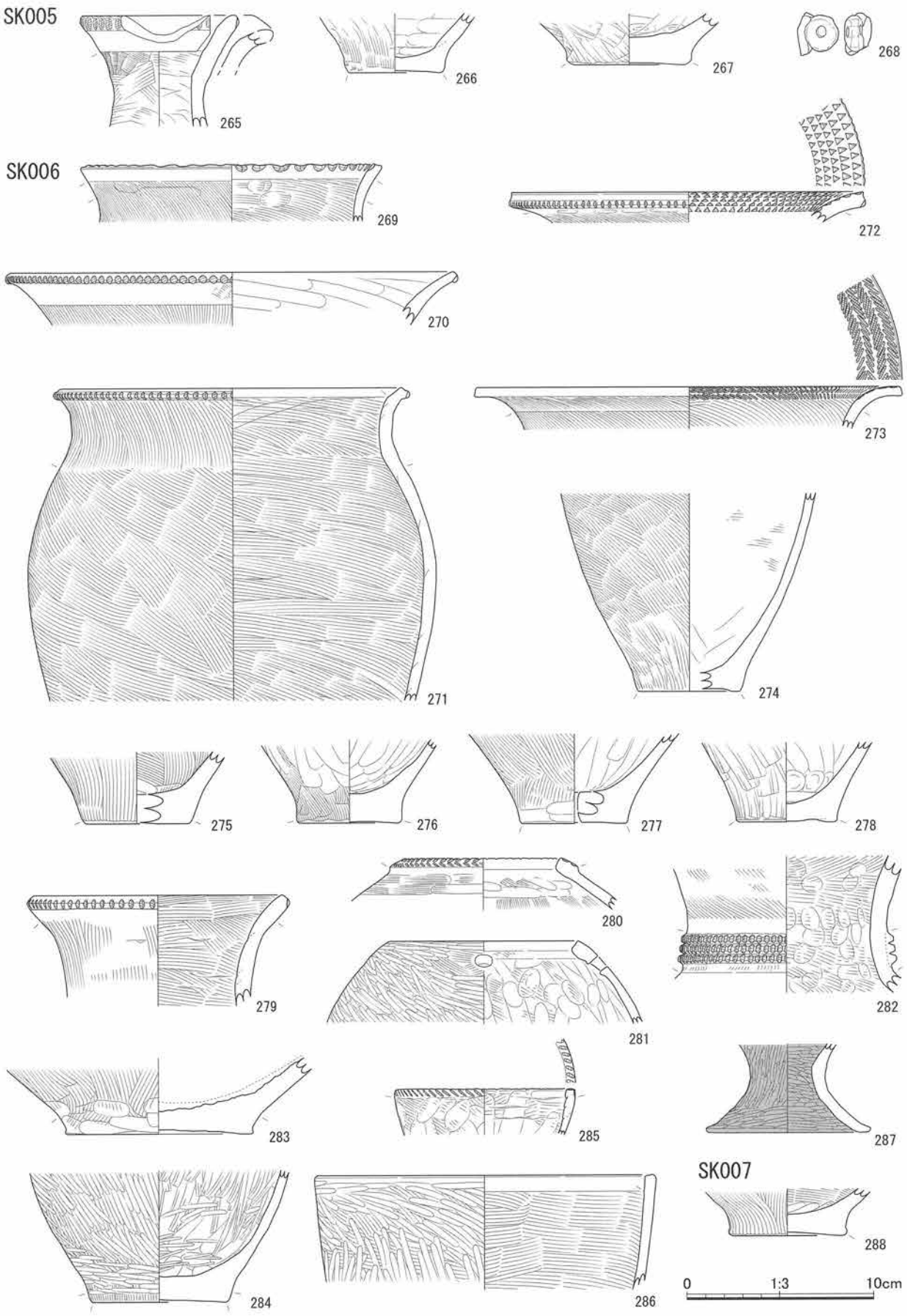


4区 土坑SK004出土遺物〔1〕 縮尺1／3

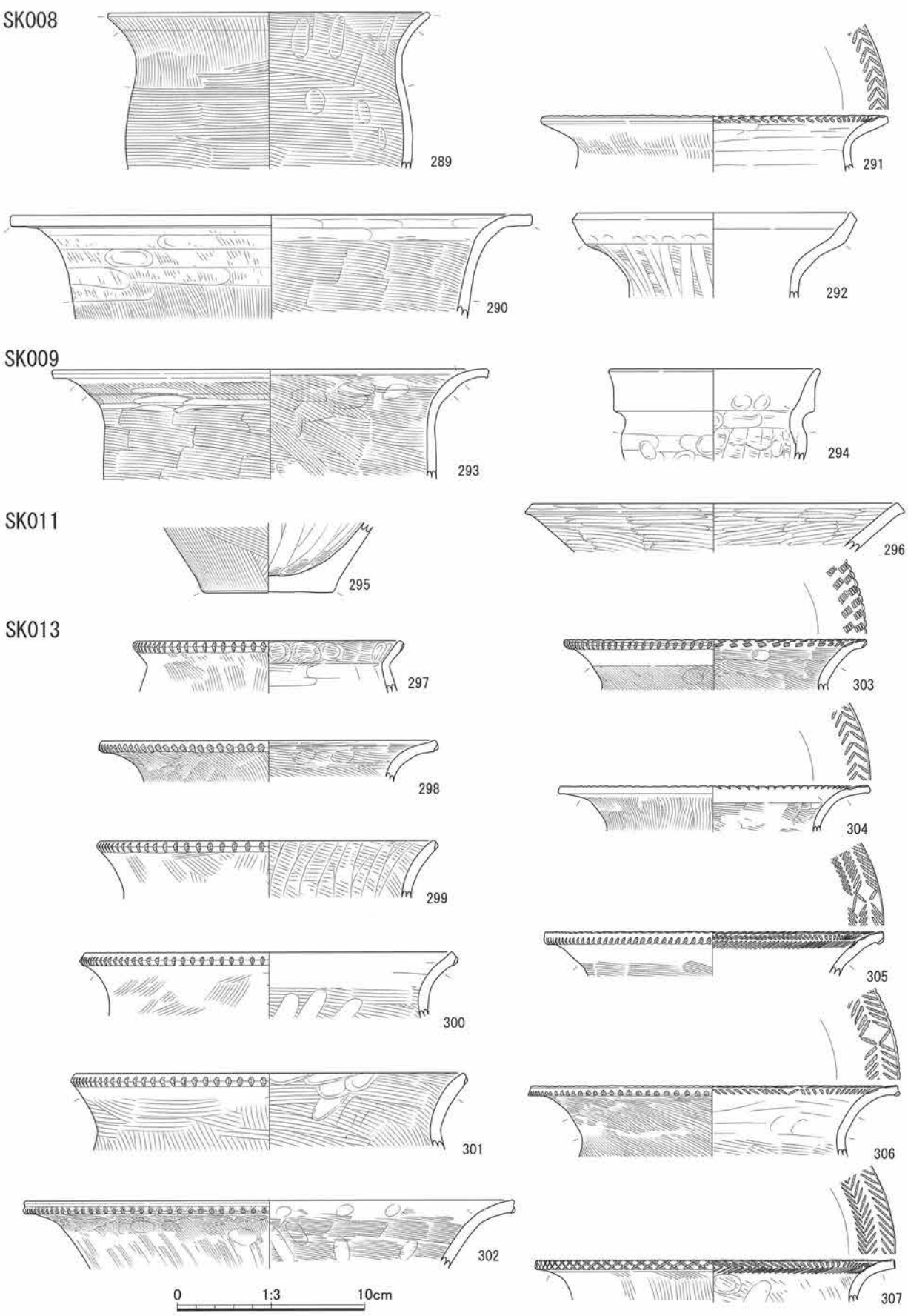
SK004



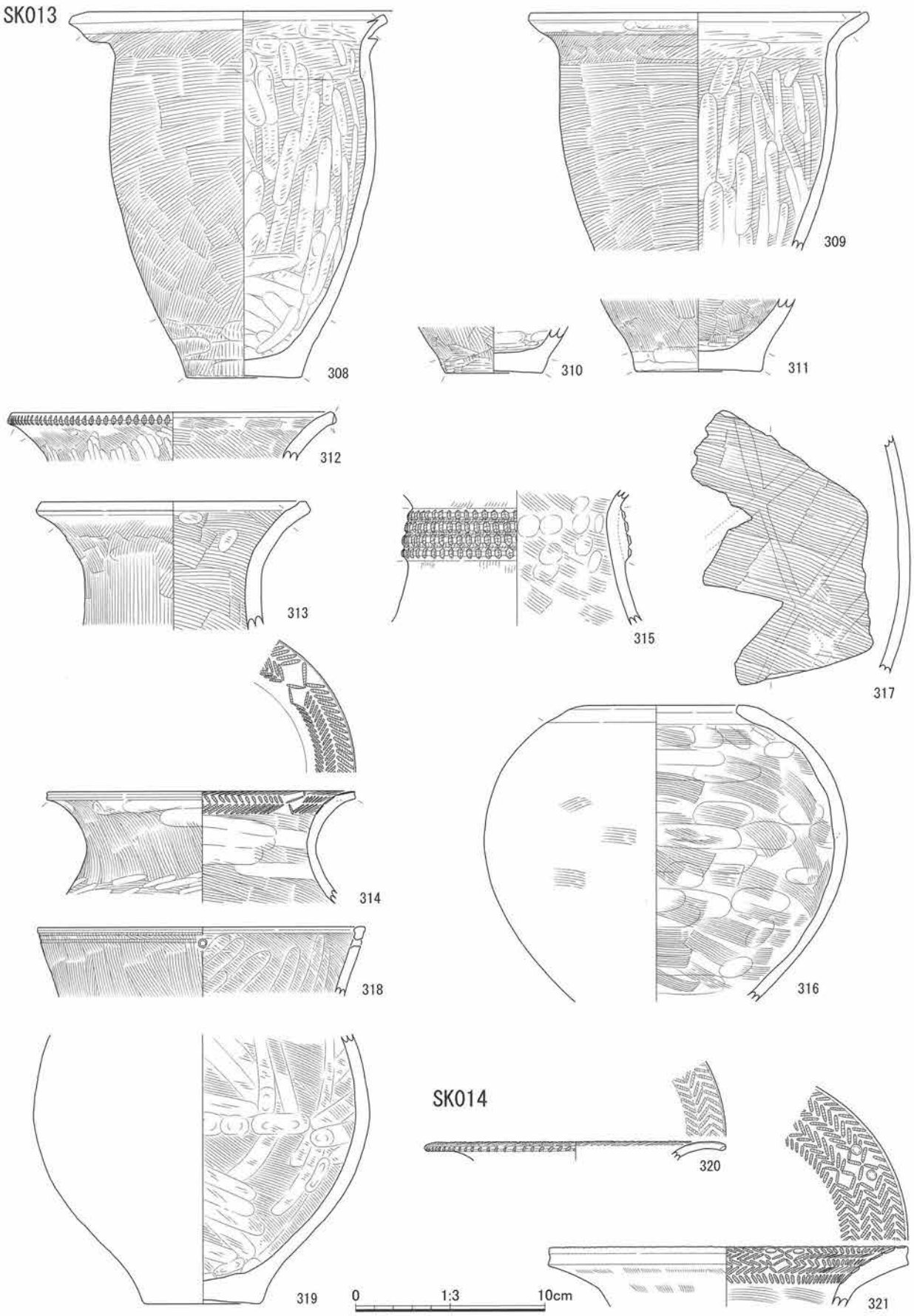
４区 土坑 SK004 出土遺物〔2〕 縮尺１／３



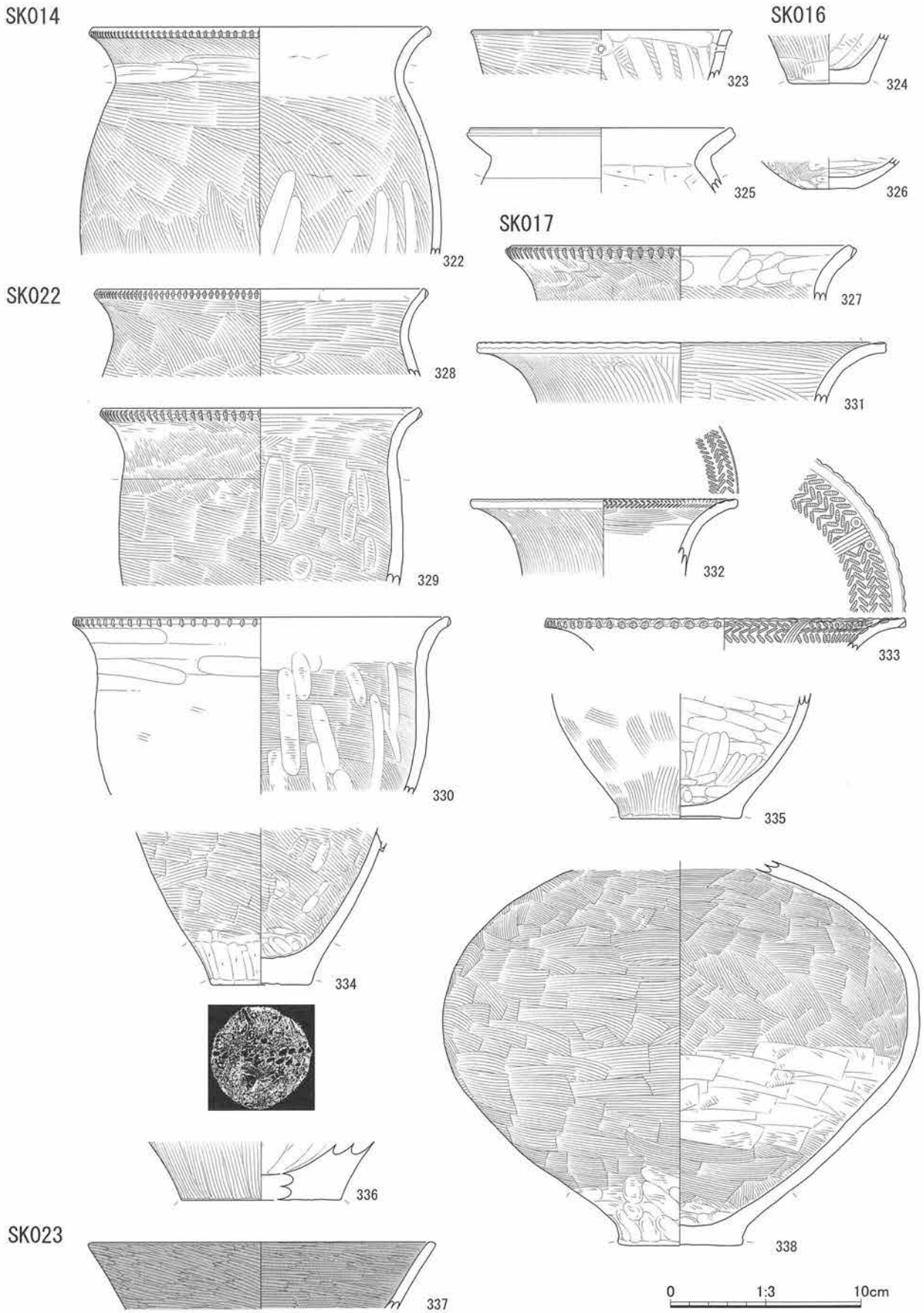
4区 土坑 SK005 ～ SK007 出土遺物　縮尺 1／3



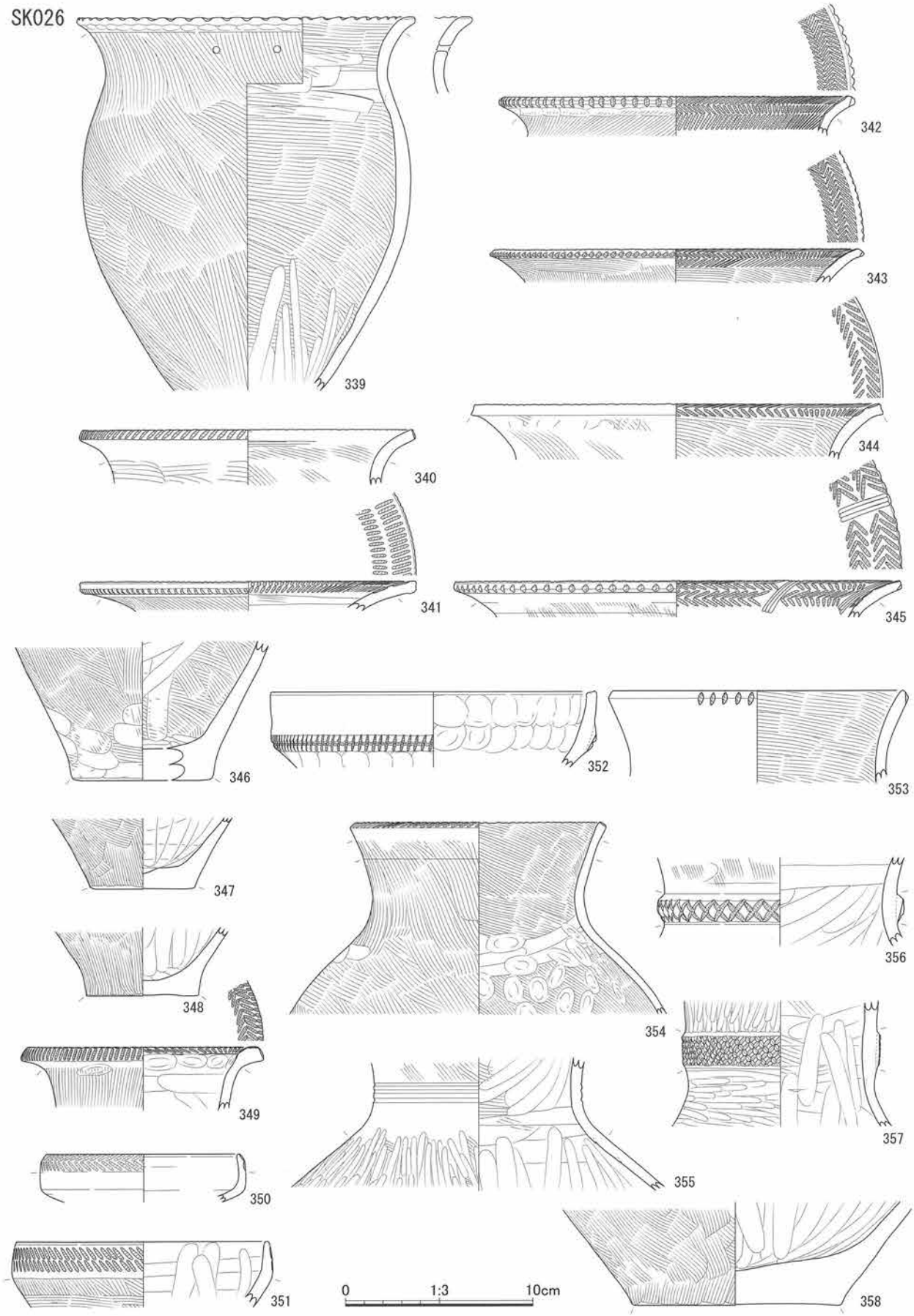
4区 土坑 SK008・SK009・SK011・SK013 出土遺物　縮尺 1／3



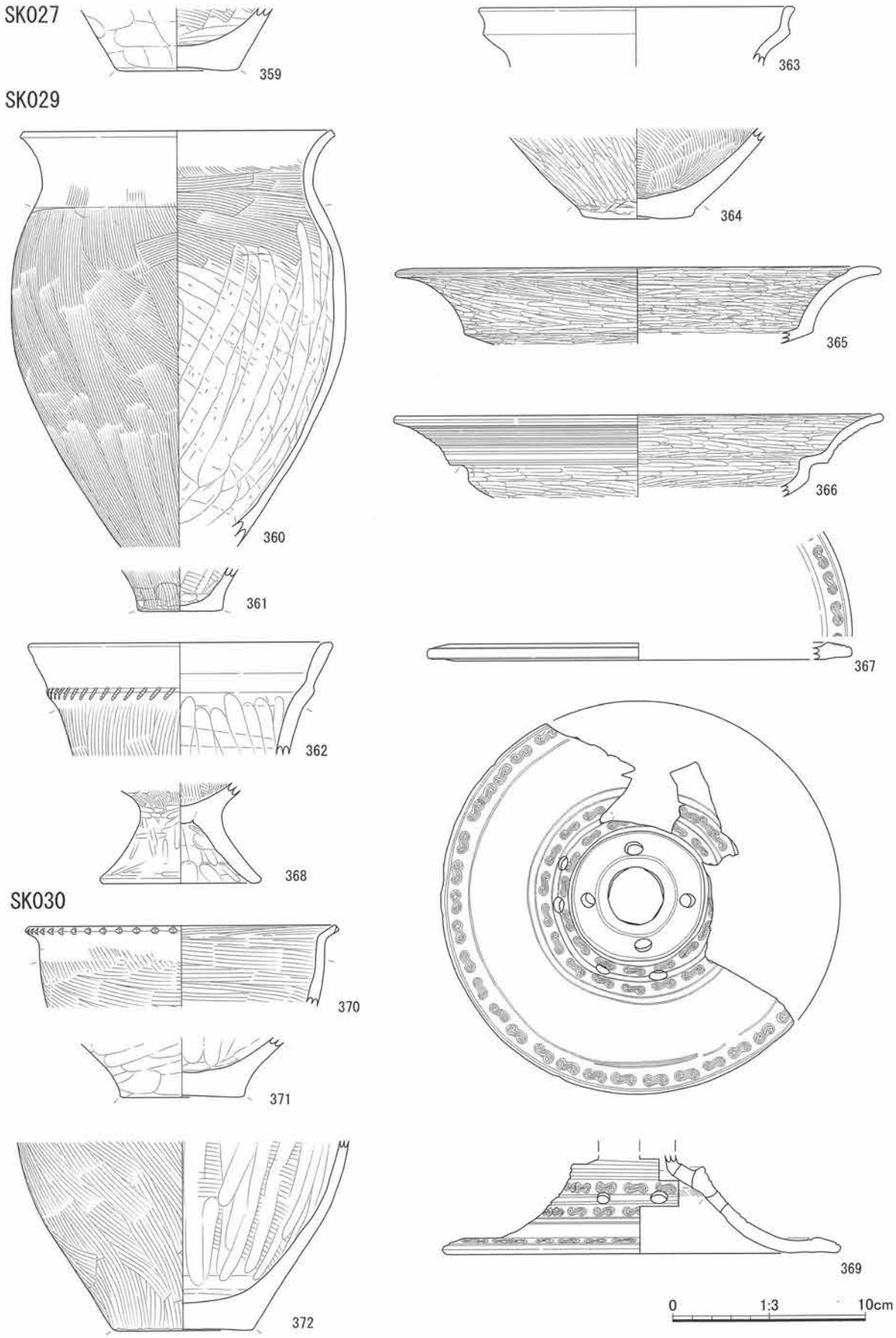
4区 土坑 SK013・SK014 出土遺物　縮尺 1／3



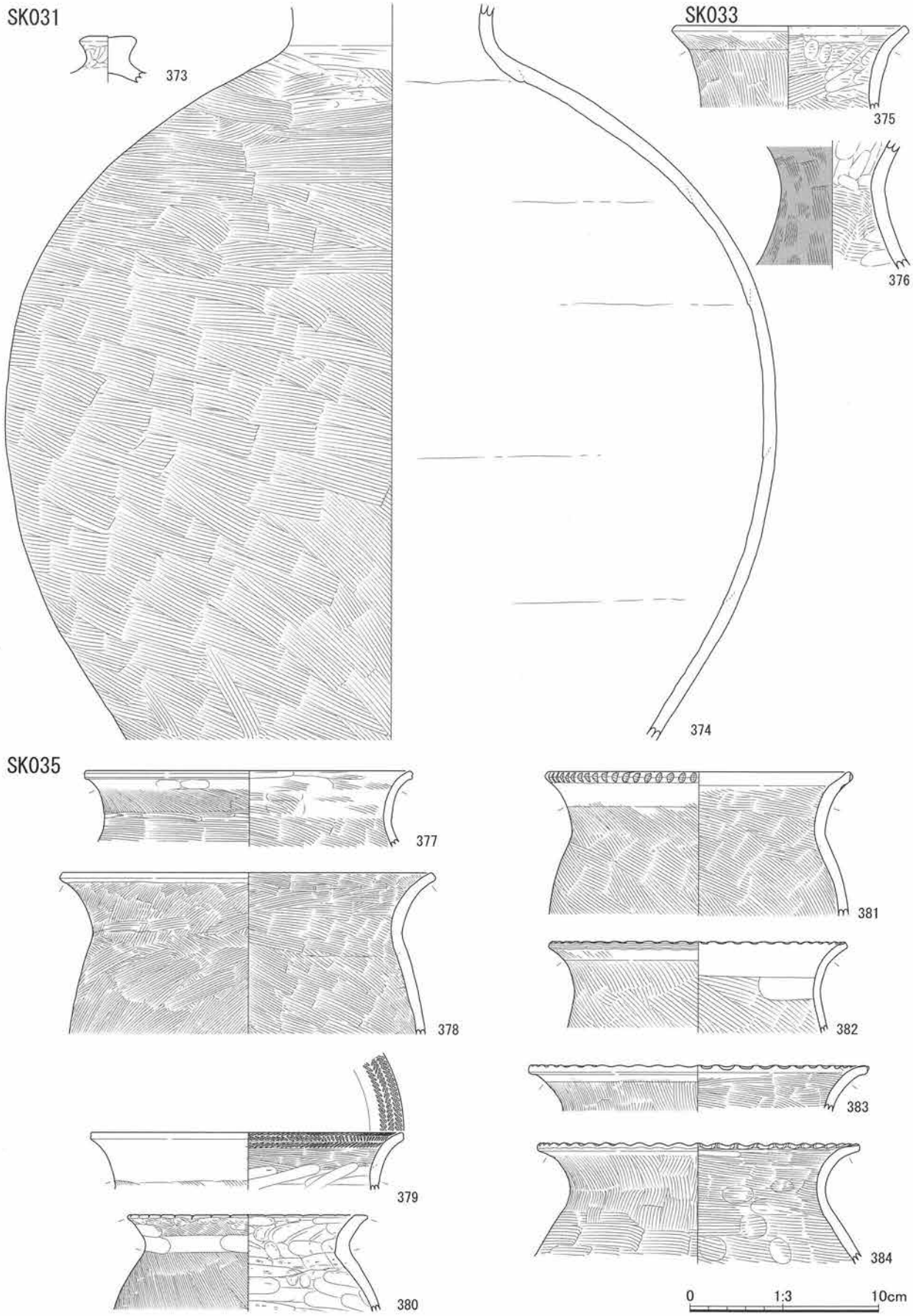
4区 土坑 SK014・SK016・SK017・SK022・SK023 出土遺物　縮尺 1／3



4区 土坑 SK026 出土遺物　縮尺1／3

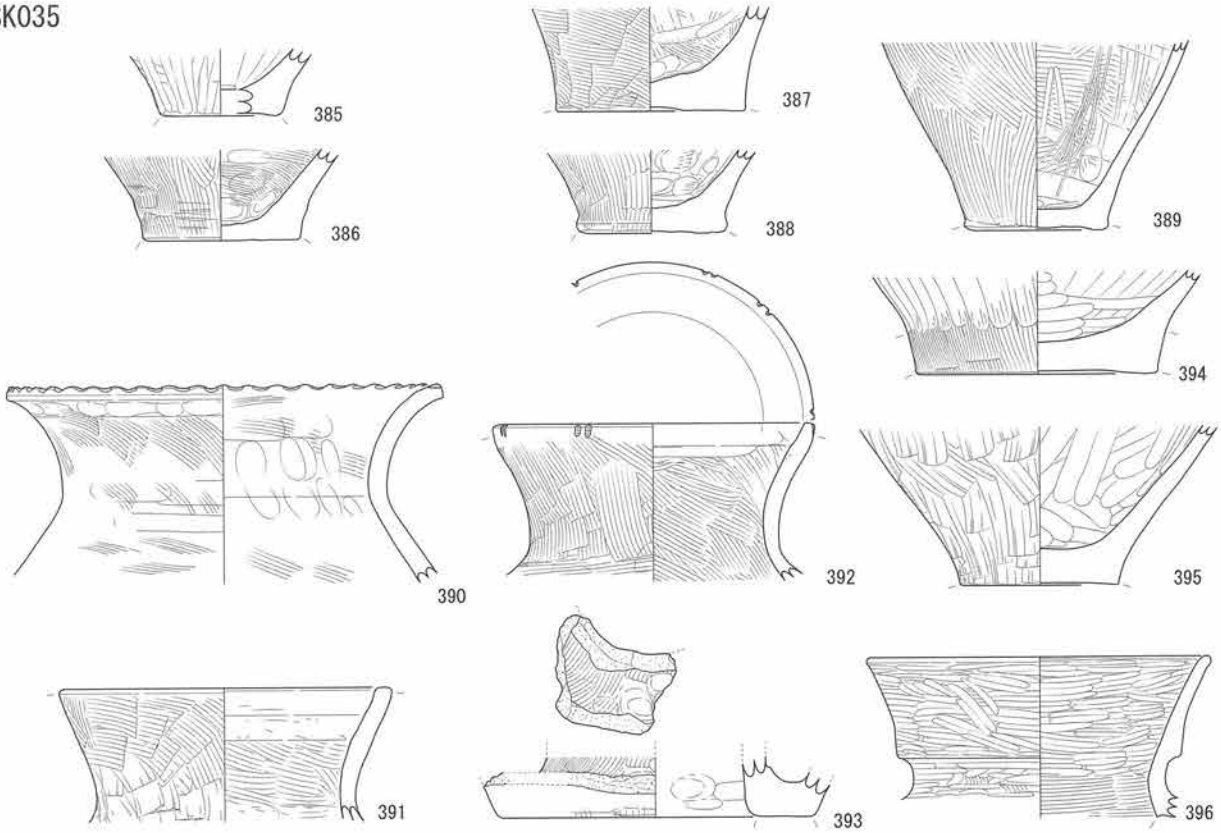


4区 土坑 SK027・SK030 出土遺物　縮尺1／3

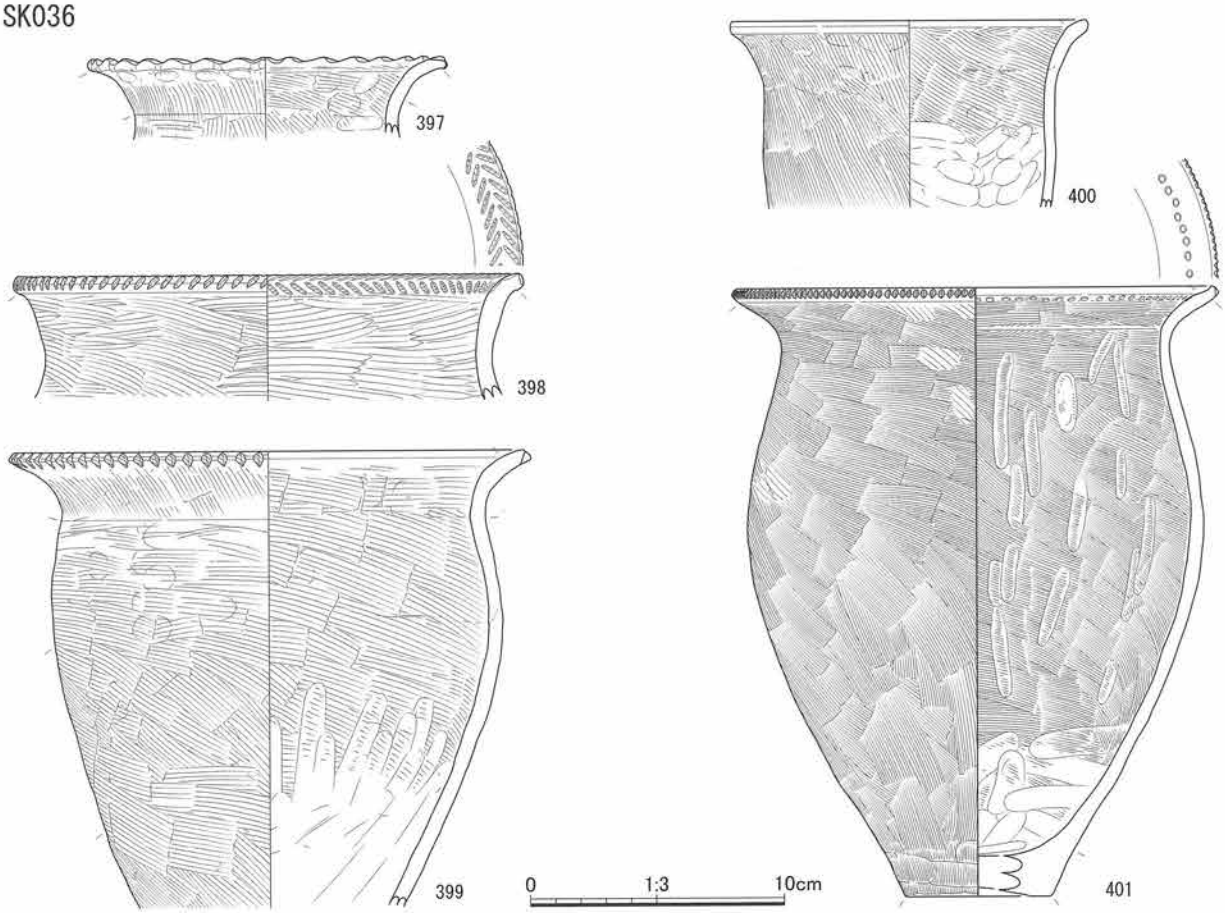


4区 土坑 SK031・SK033・SK035 出土遺物　縮尺1／3

SK035

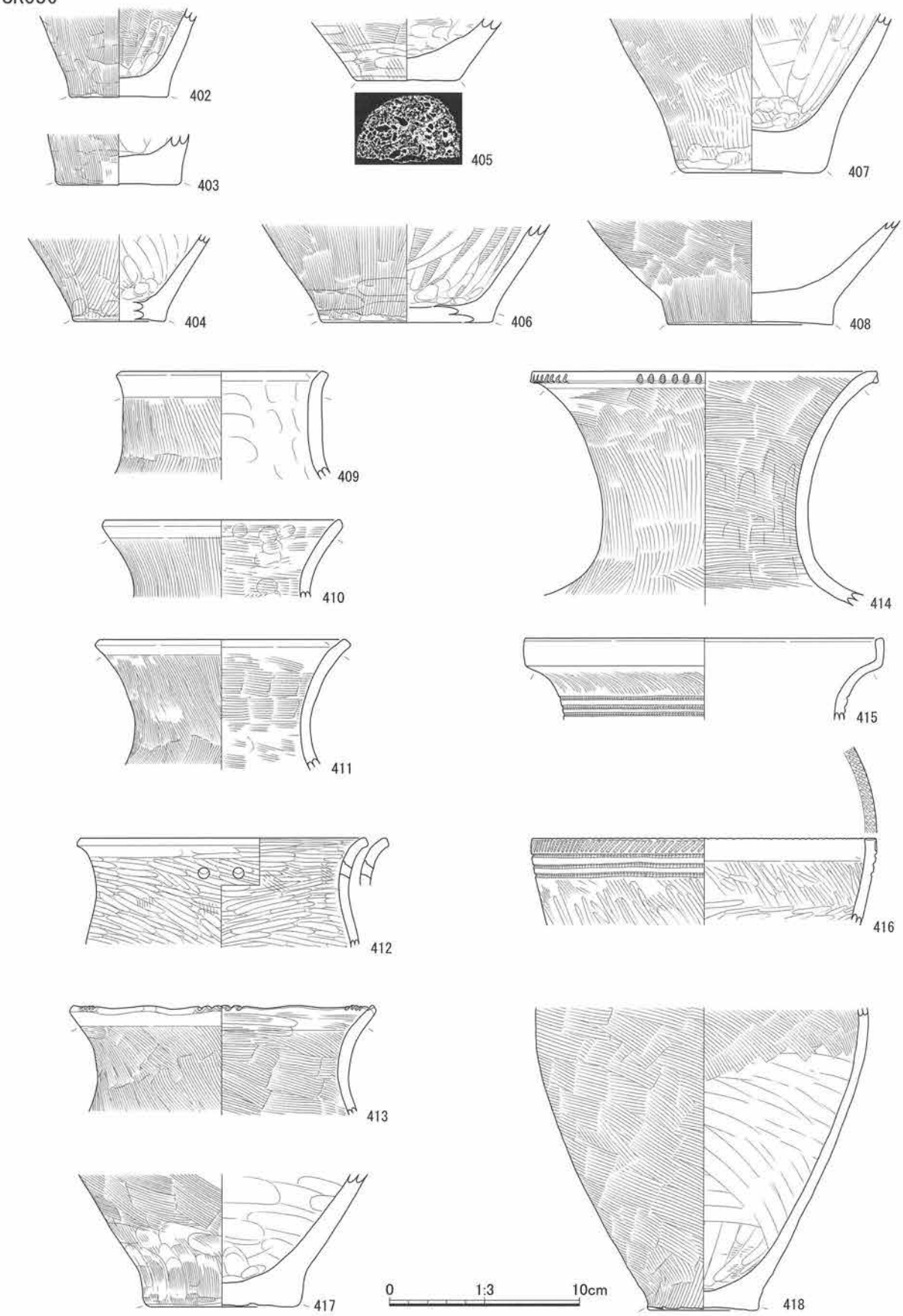


SK036

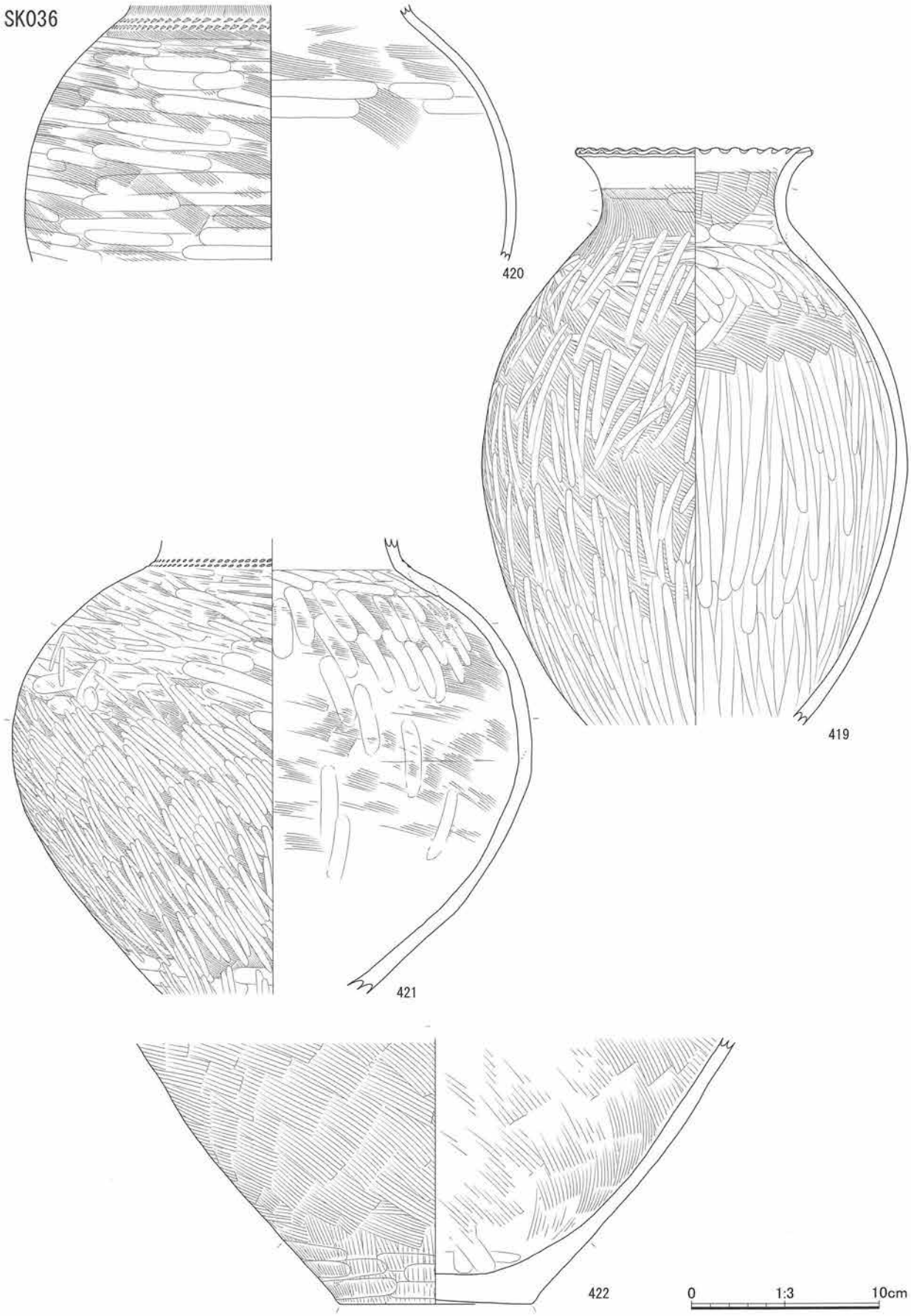


4区 土坑 SK035・SK036 出土遺物　縮尺1／3

SK036

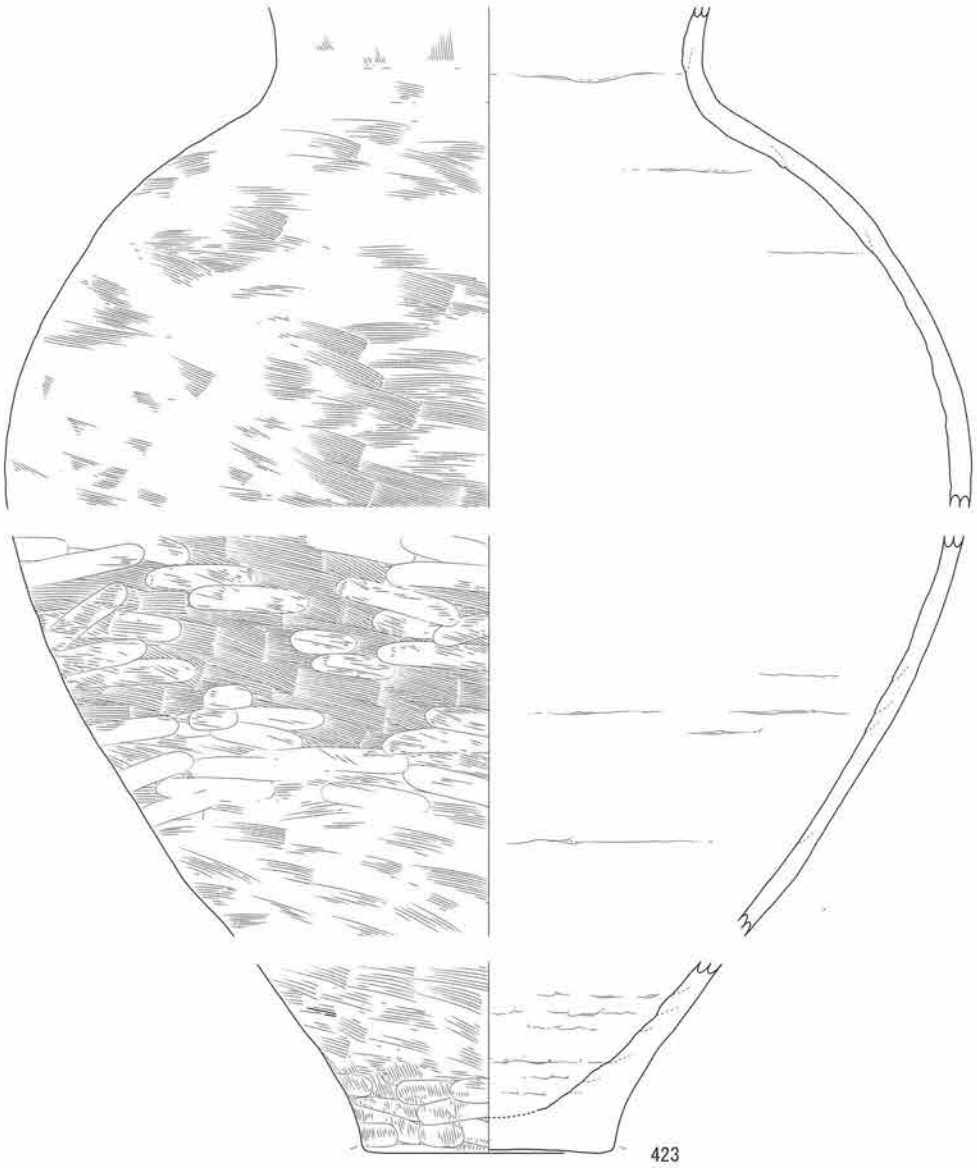


4区 土坑 SK036 出土遺物〔1〕 縮尺 1／3

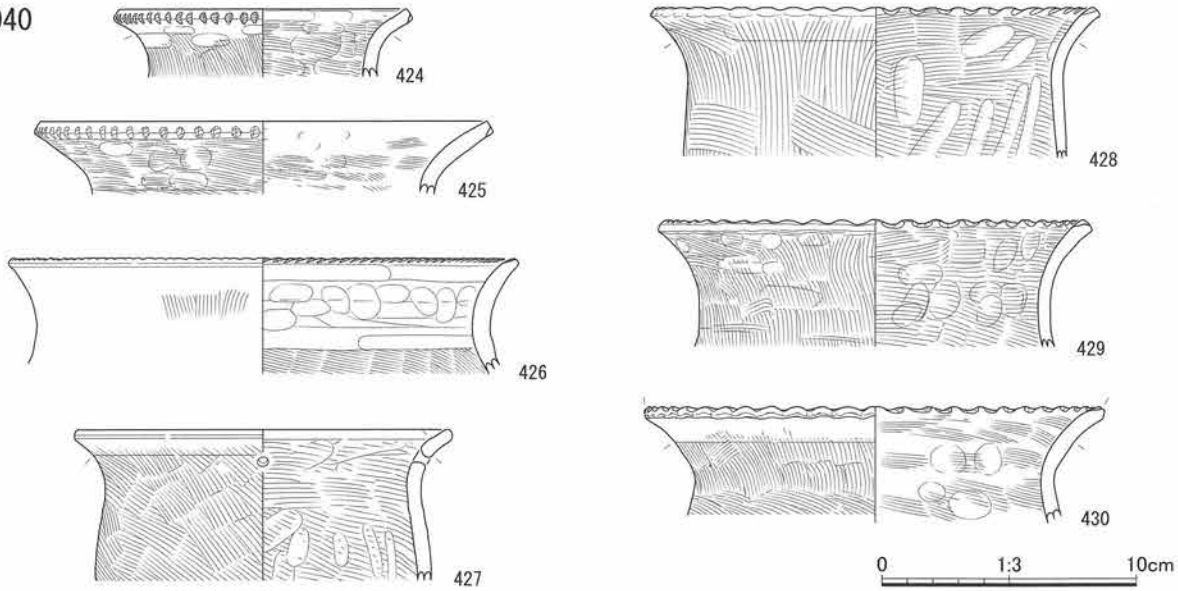


4区 土坑 SK036 出土遺物〔2〕 縮尺 1／3

SK036

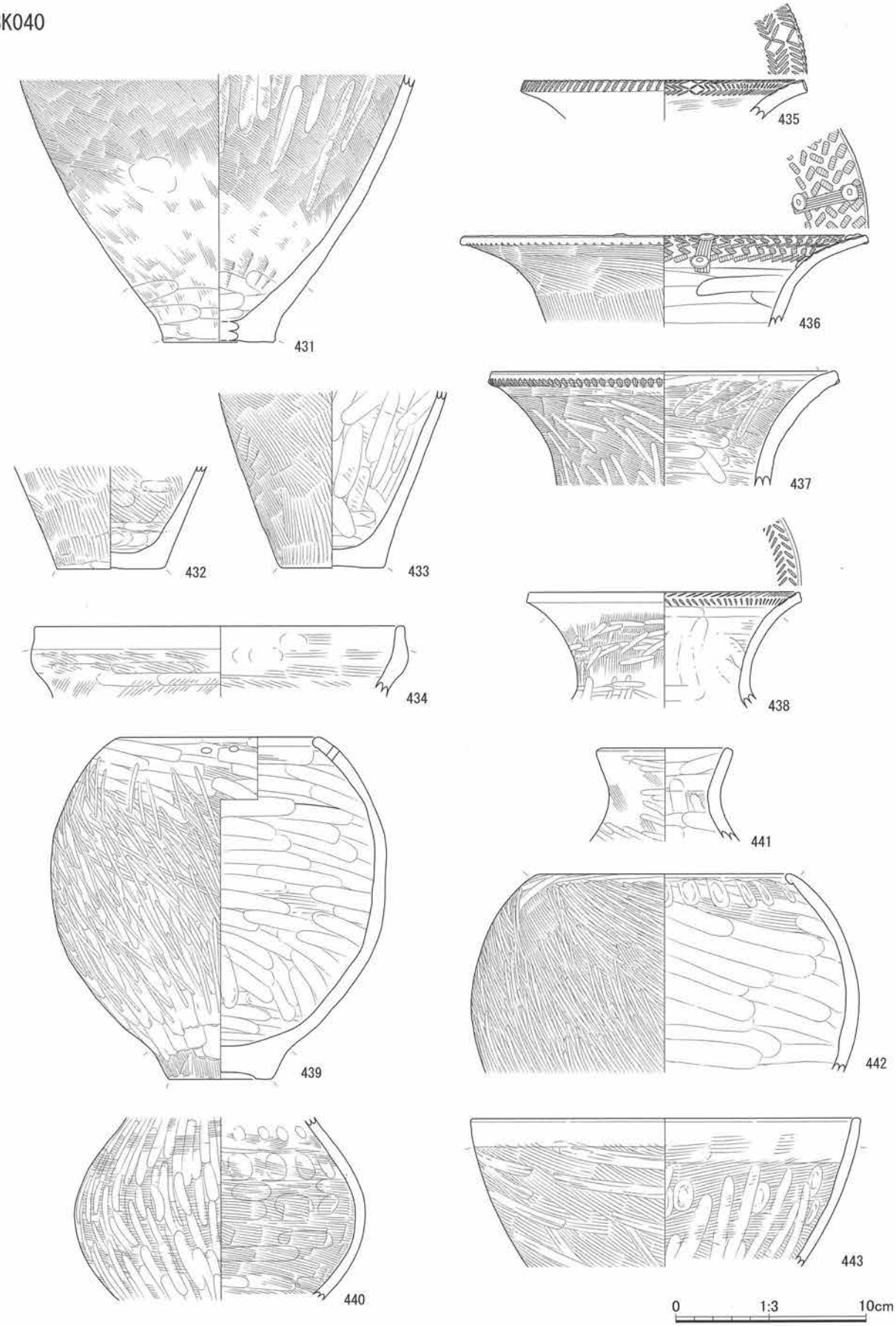


SK040



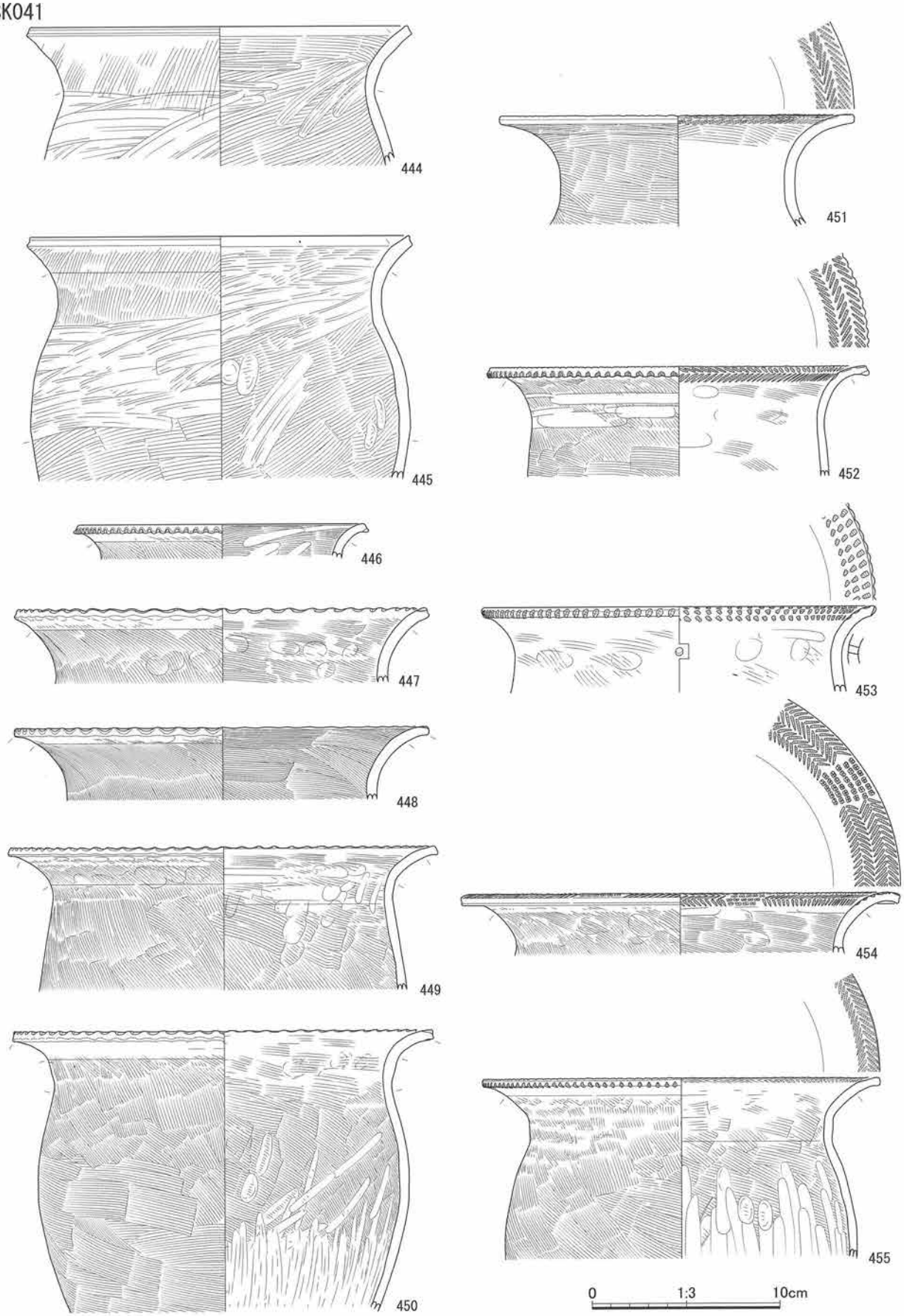
4区 土坑SK036・SK040出土遺物　縮尺1／3

SK040

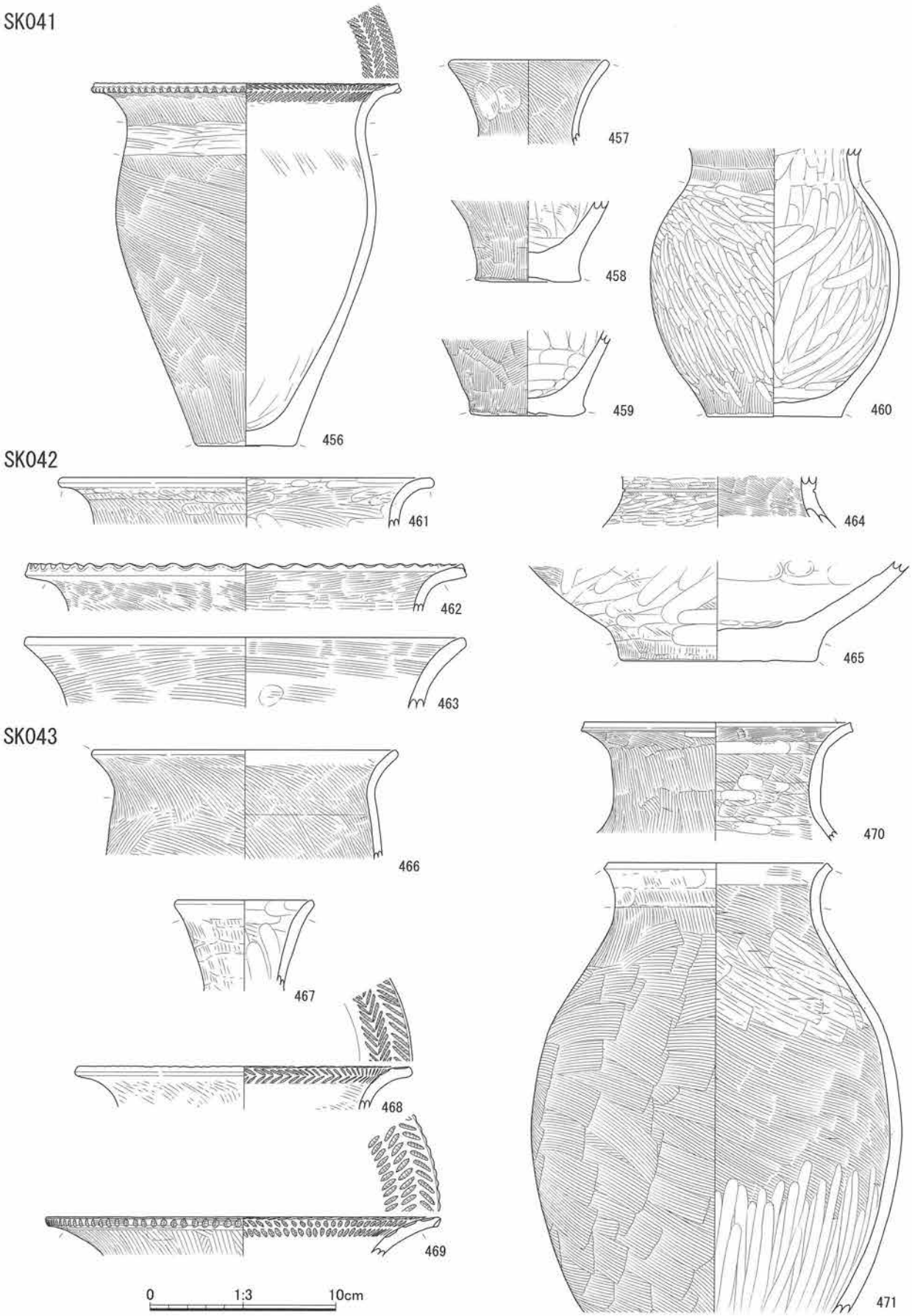


4区 土坑 SK040 出土遺物　縮尺 1／3

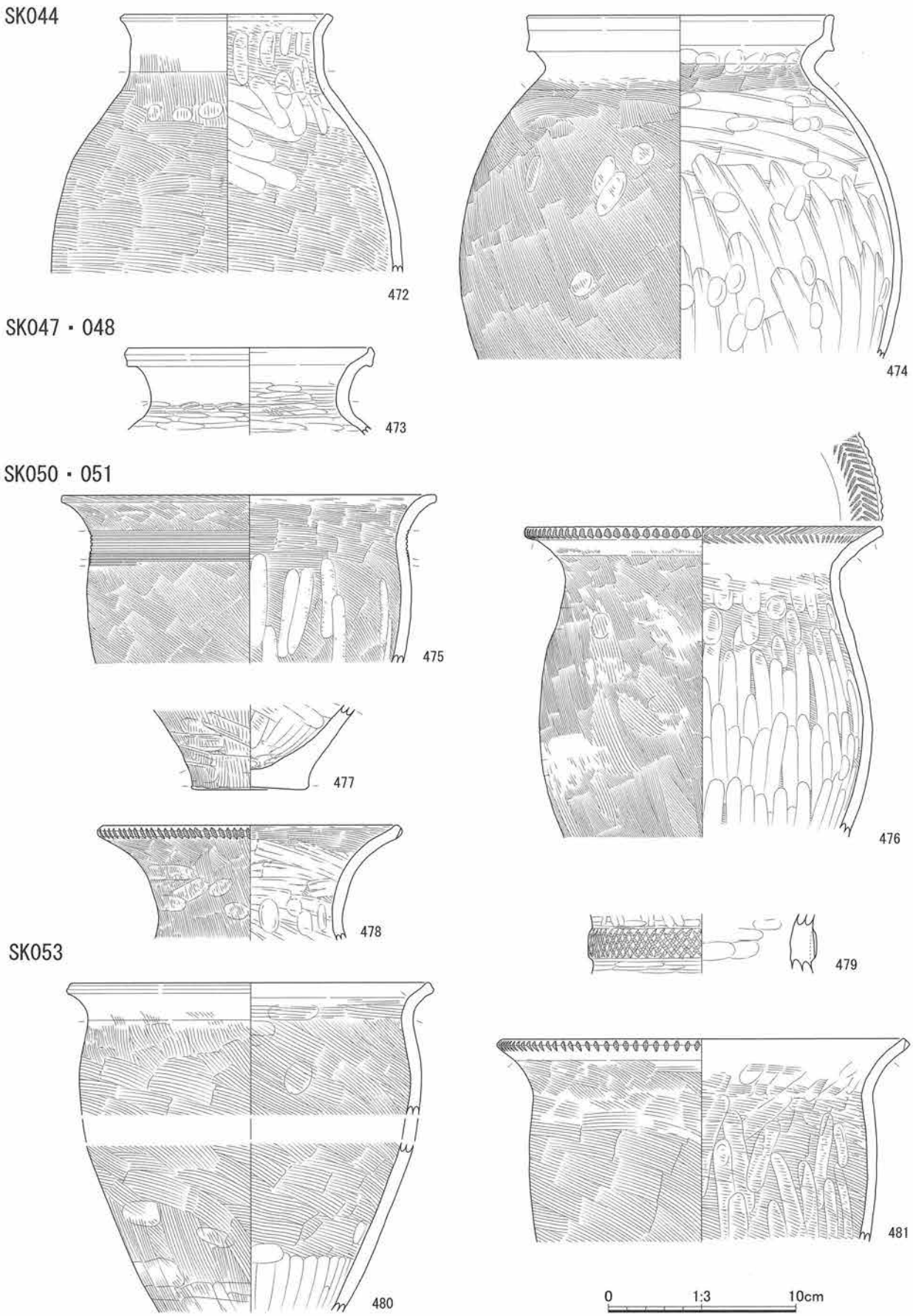
SK041



4区 土坑SK041出土遺物　縮尺1／3

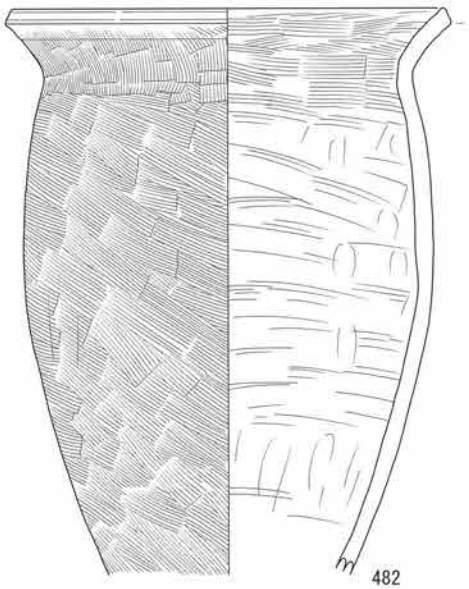


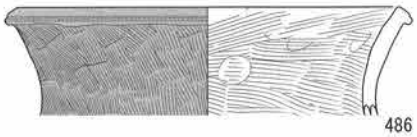
4区 土坑 SK041 ～ SK043 出土遺物　縮尺 1／3

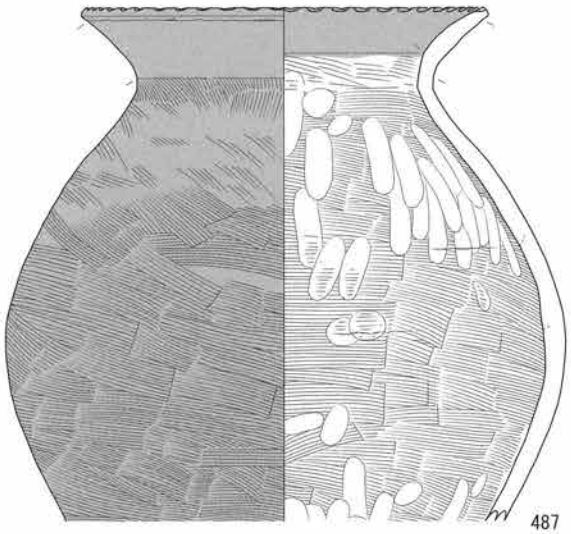


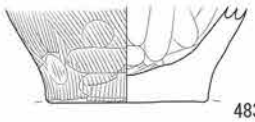
4区 土坑 SK044・SK047・SK048・SK050・SK051・SK053 出土遺物　縮尺 1／3

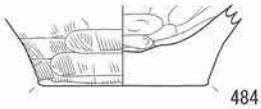
SK053

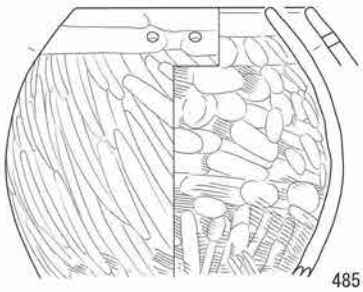

482

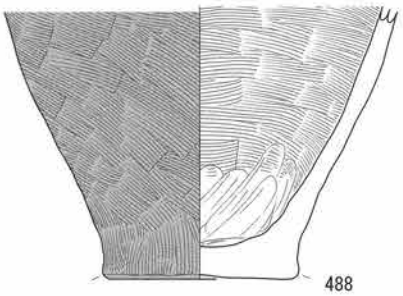

486


487

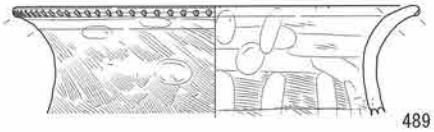

483

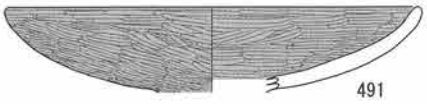

484

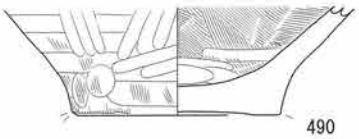

485

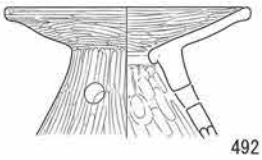

488

SK054


489


491

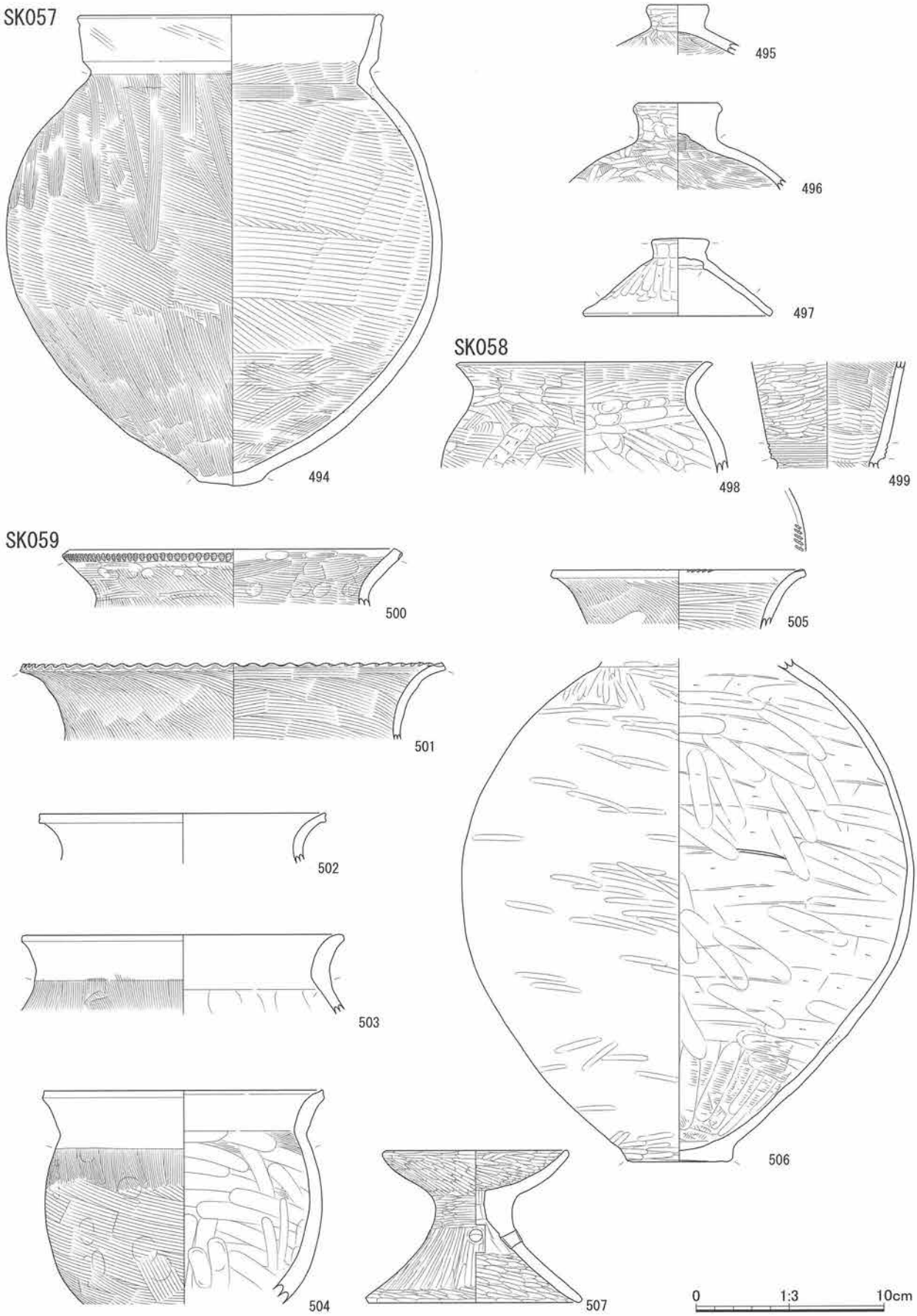

490


492

493

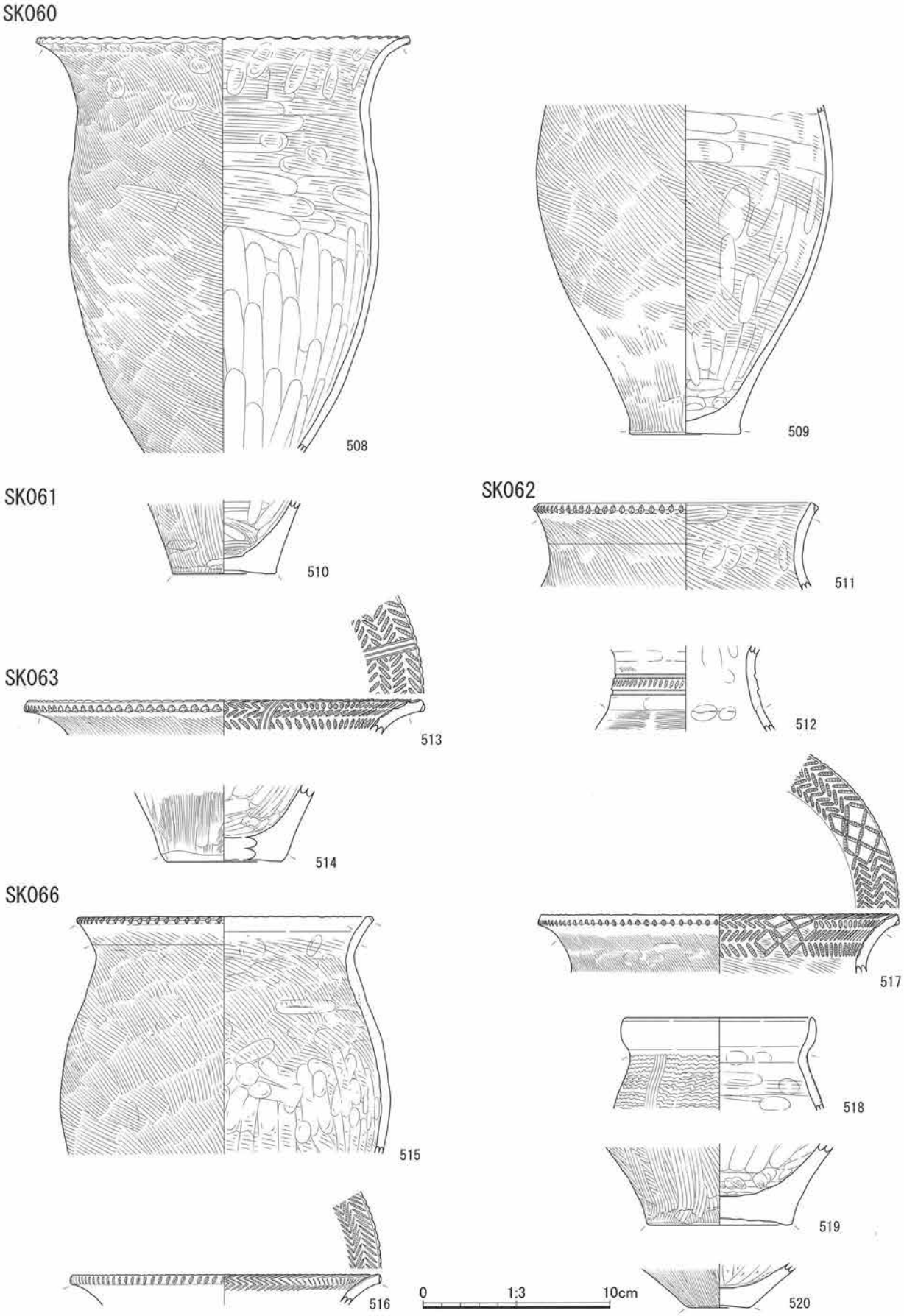
0　1:3　10cm

4区 土坑 SK053・SK054 出土遺物　縮尺1／3

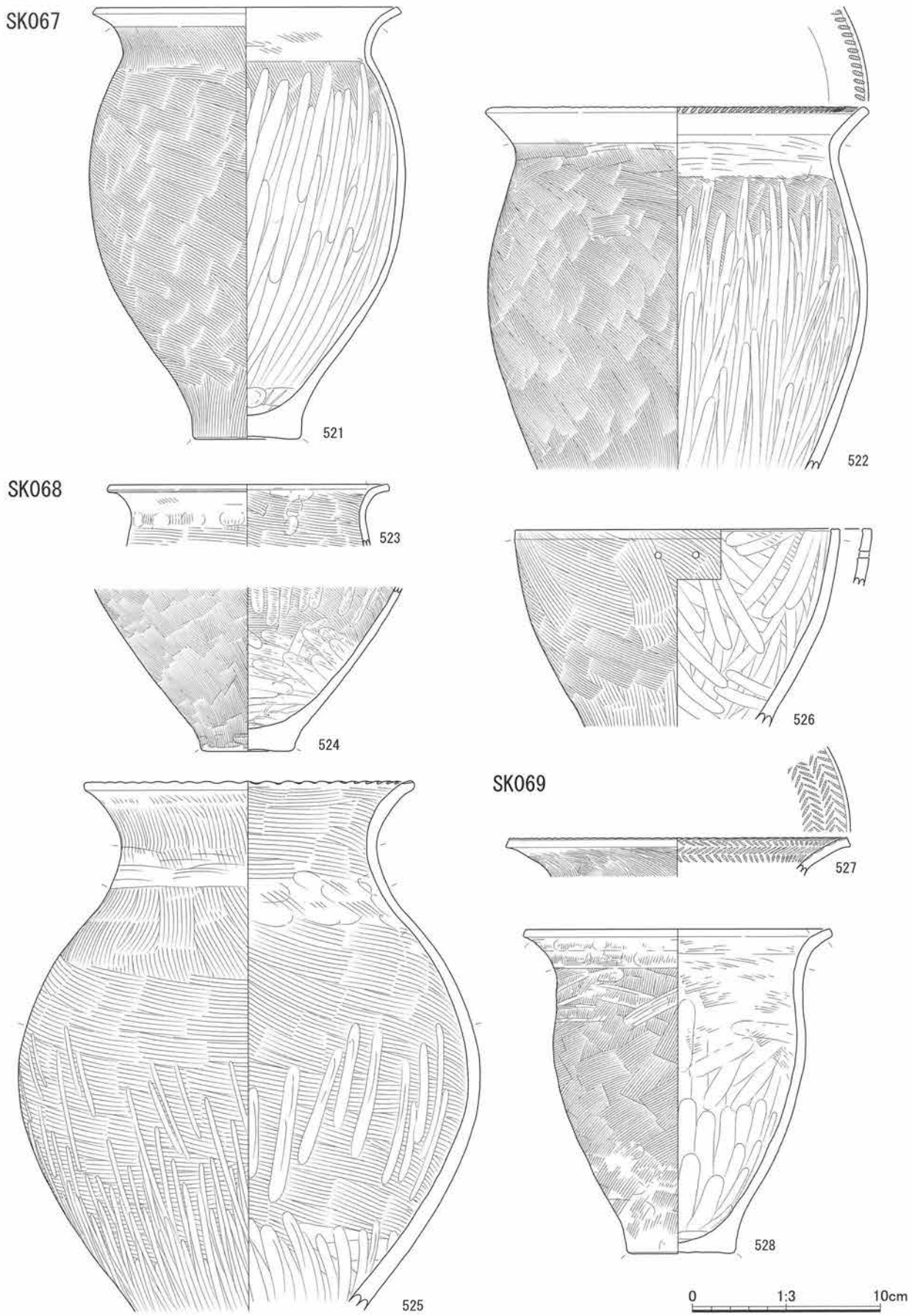


4区 土坑 SK057 ～ SK059 出土遺物　縮尺 1／3

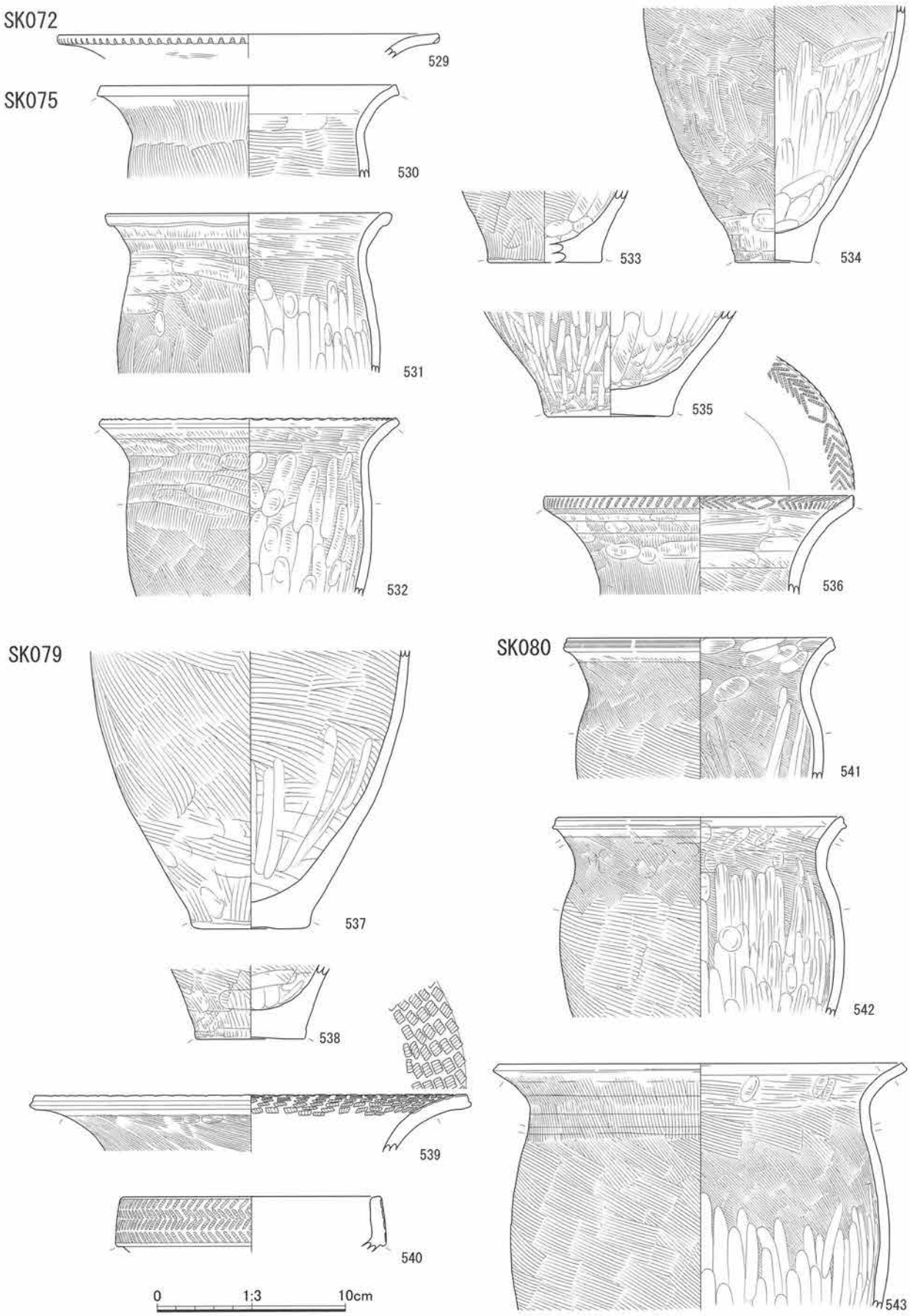
図面一二五　遺物実測図（4区）



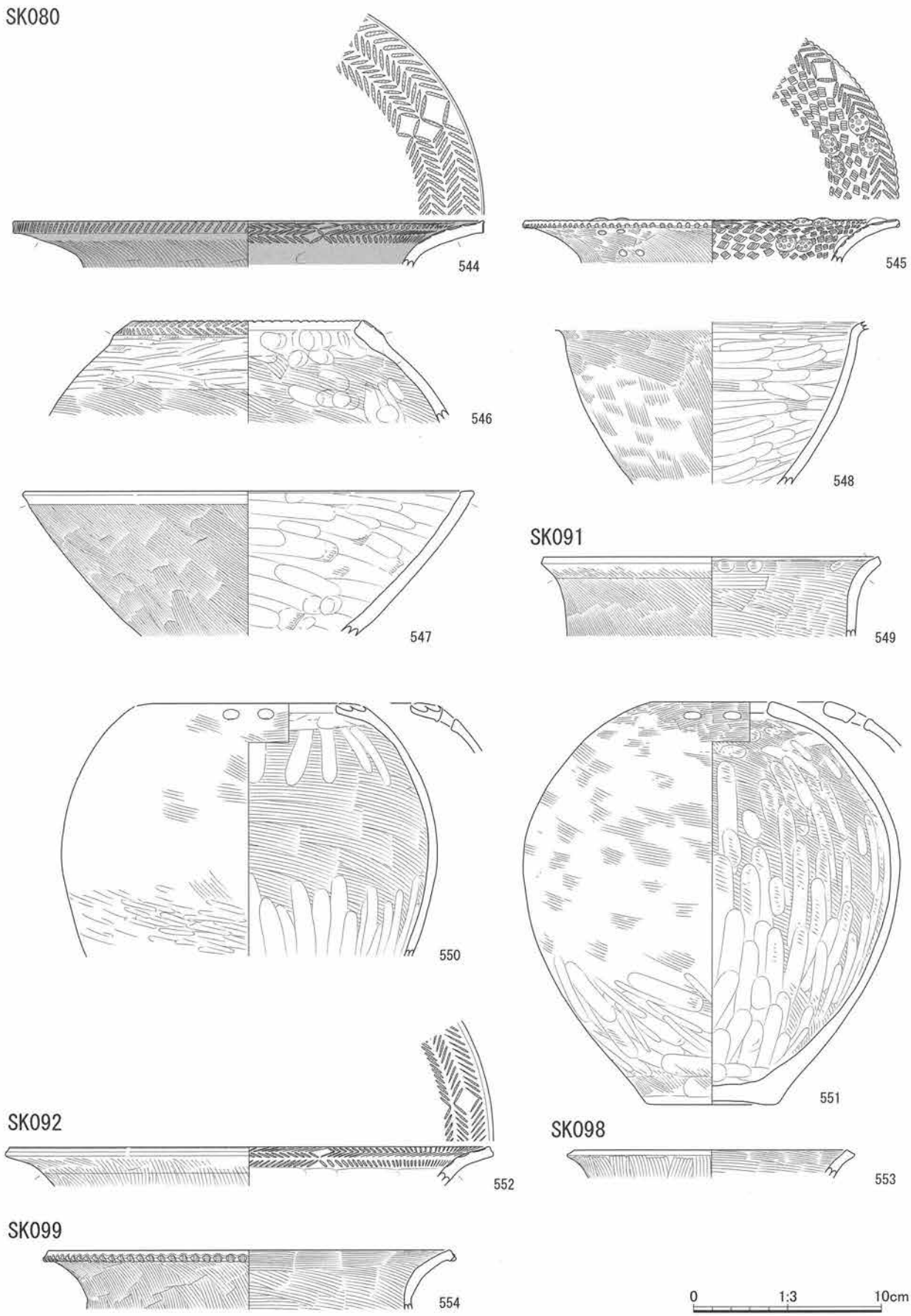
4区 土坑 SK060 ～ SK063・SK066 出土遺物　縮尺 1／3



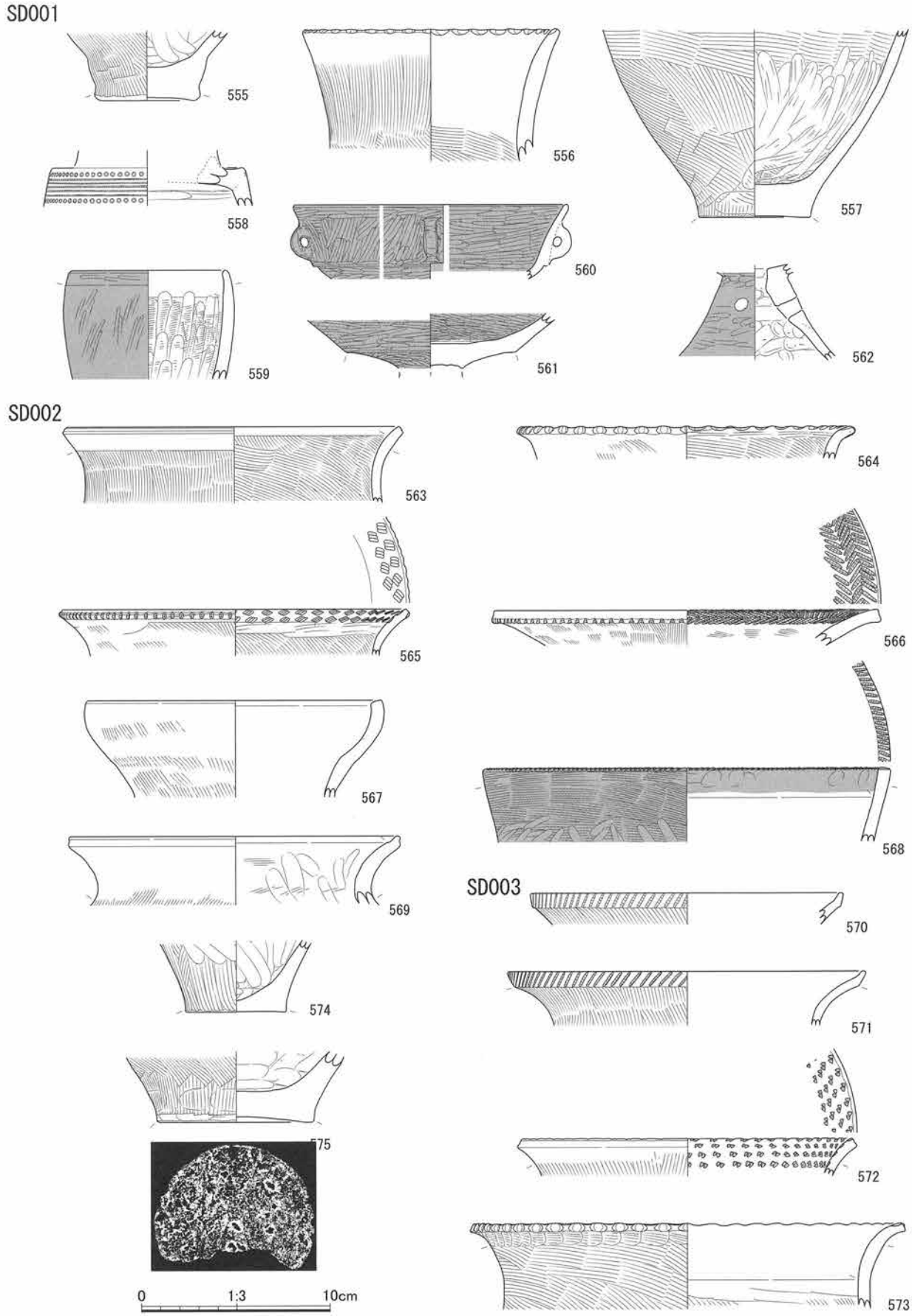
4区 土坑 SK067 ～ SK069 出土遺物　縮尺 1／3



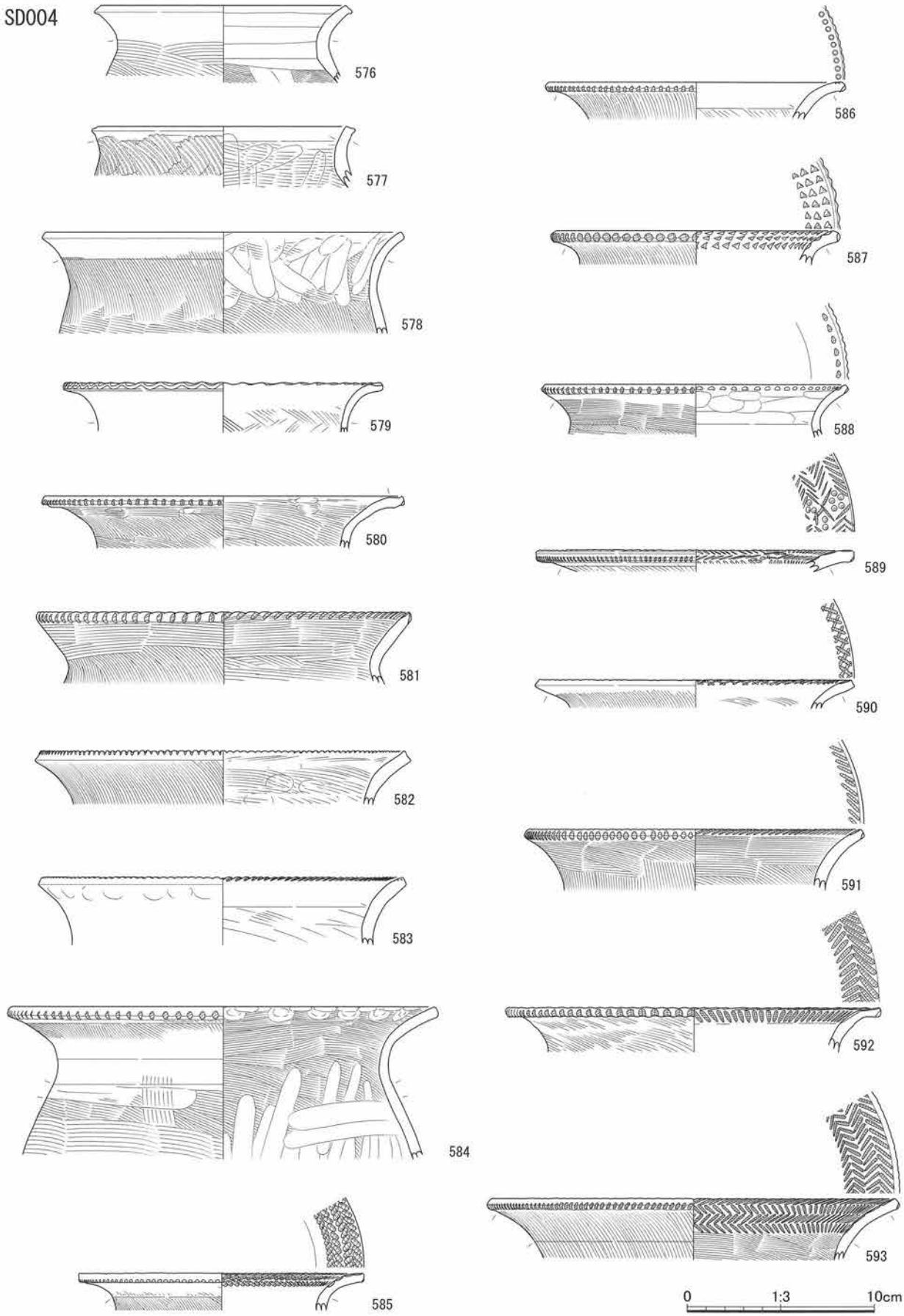
４区 土坑 SK072・SK075・SK079・SK080 出土遺物　縮尺１／３



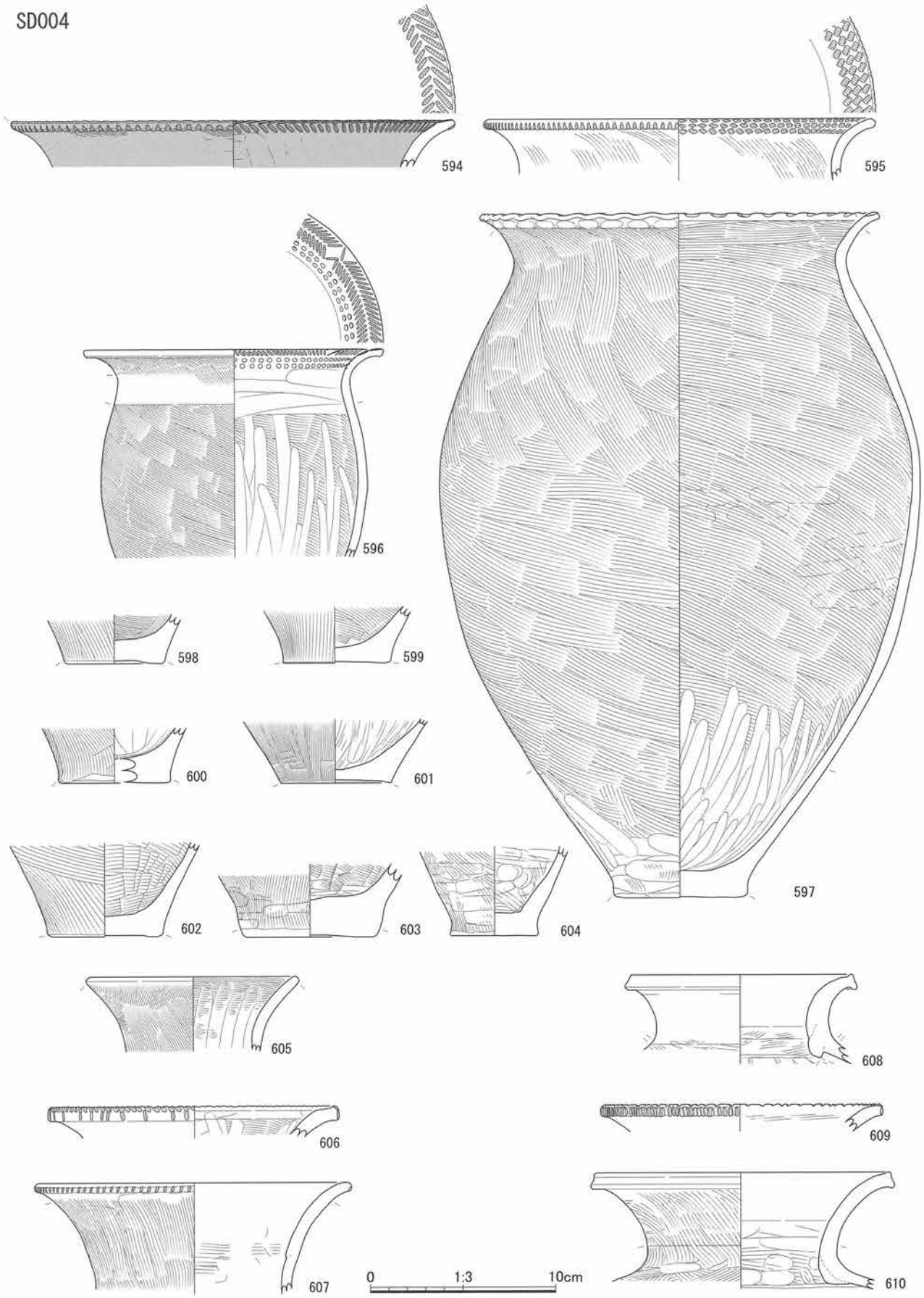
4区 土坑 SK080・SK091・SK092・SK099 出土遺物　縮尺 1／3



４区 溝 SD001 ～ SD003 出土遺物　縮尺１／３

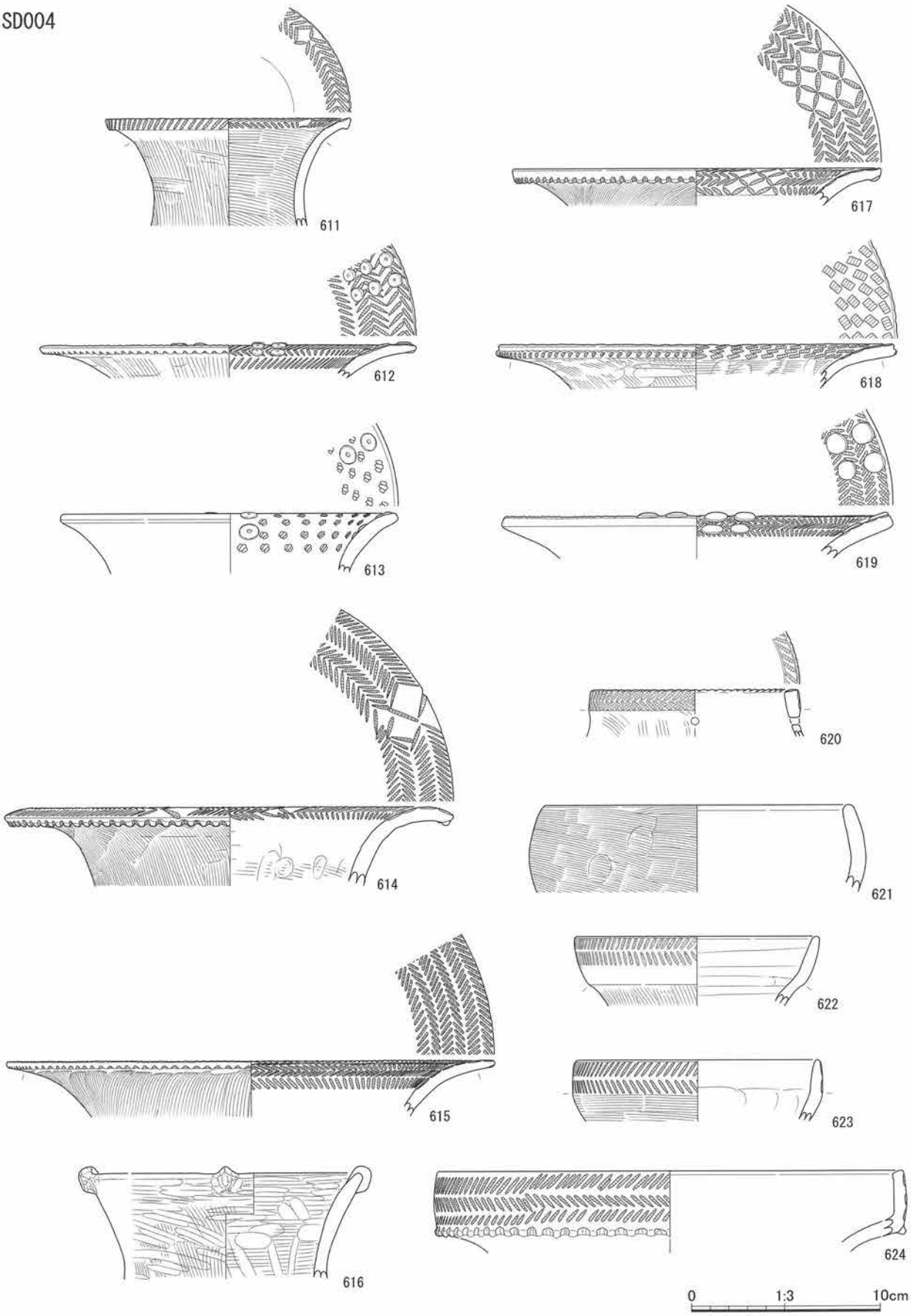


4区 溝 SD004 出土遺物〔1〕 縮尺1／3

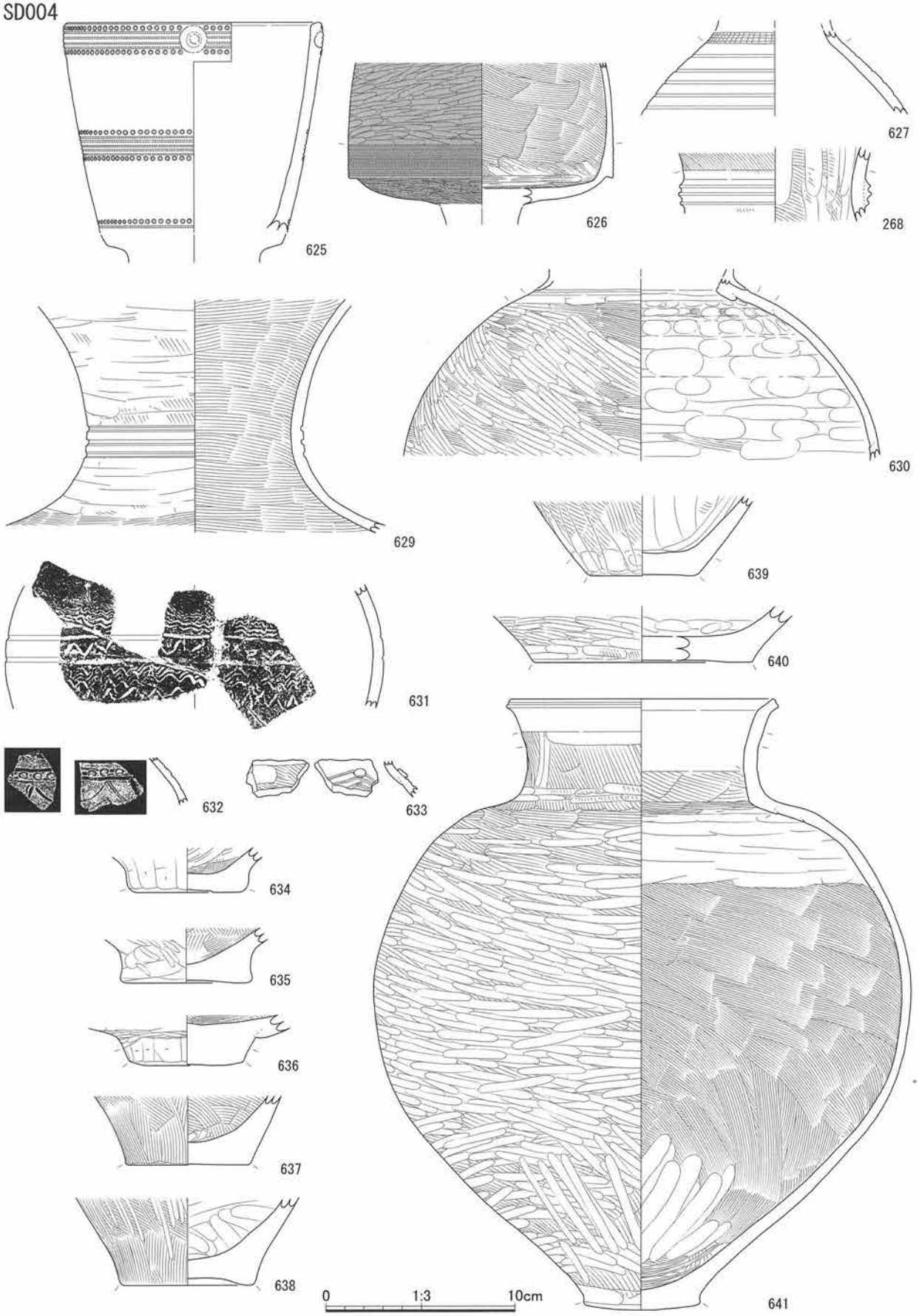


４区 溝 SD004 出土遺物〔2〕 縮尺１／３

SD004

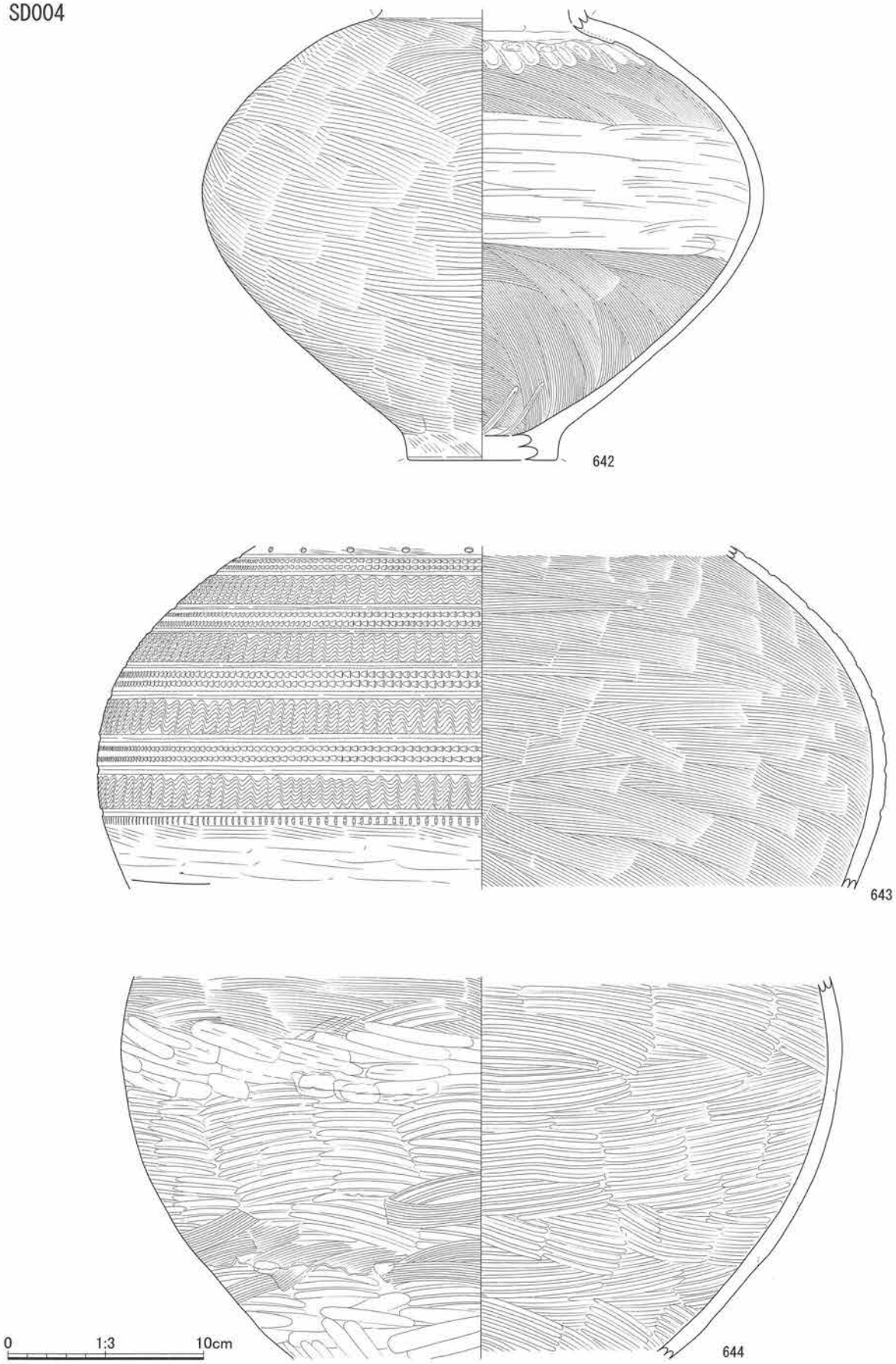


4区 溝SD004出土遺物〔3〕 縮尺1／3



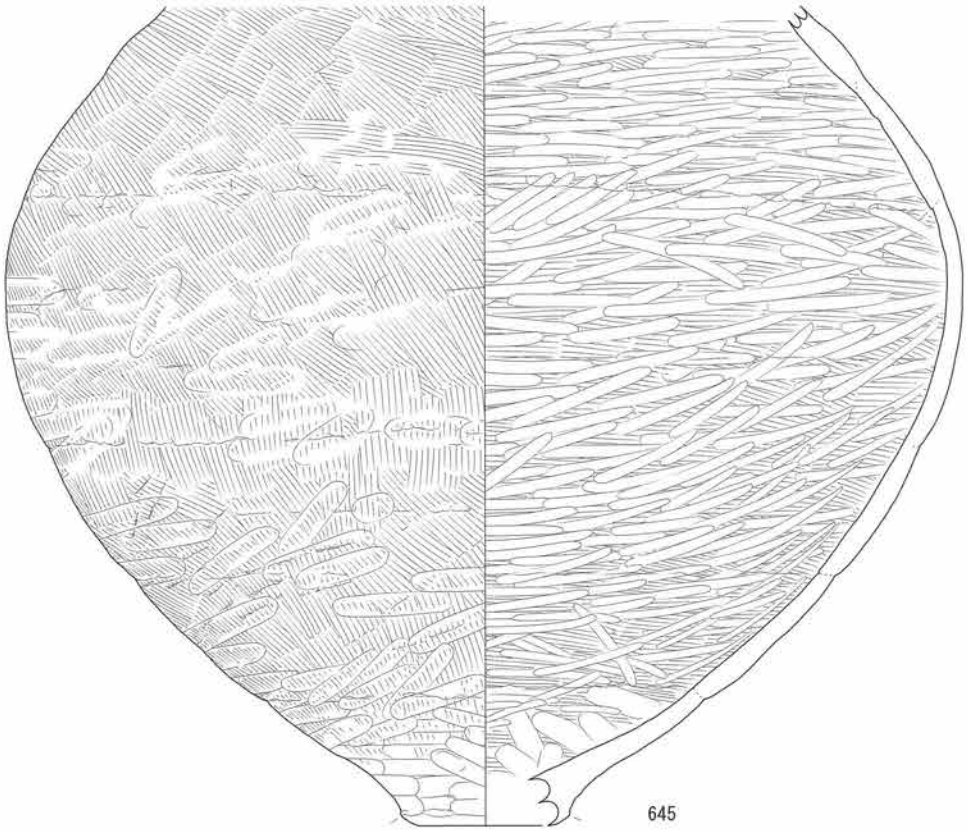
4区 溝 SD004 出土遺物〔4〕 縮尺1／3

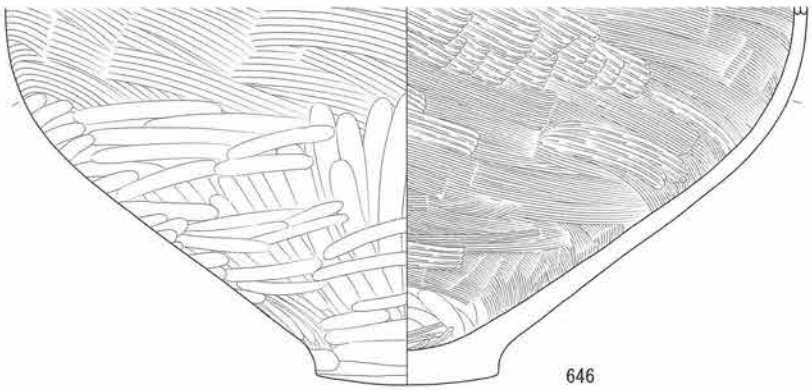
SD004

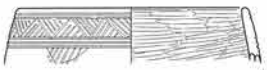


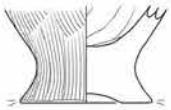
4区 溝 SD004 出土遺物〔5〕 縮尺1／3

SD004





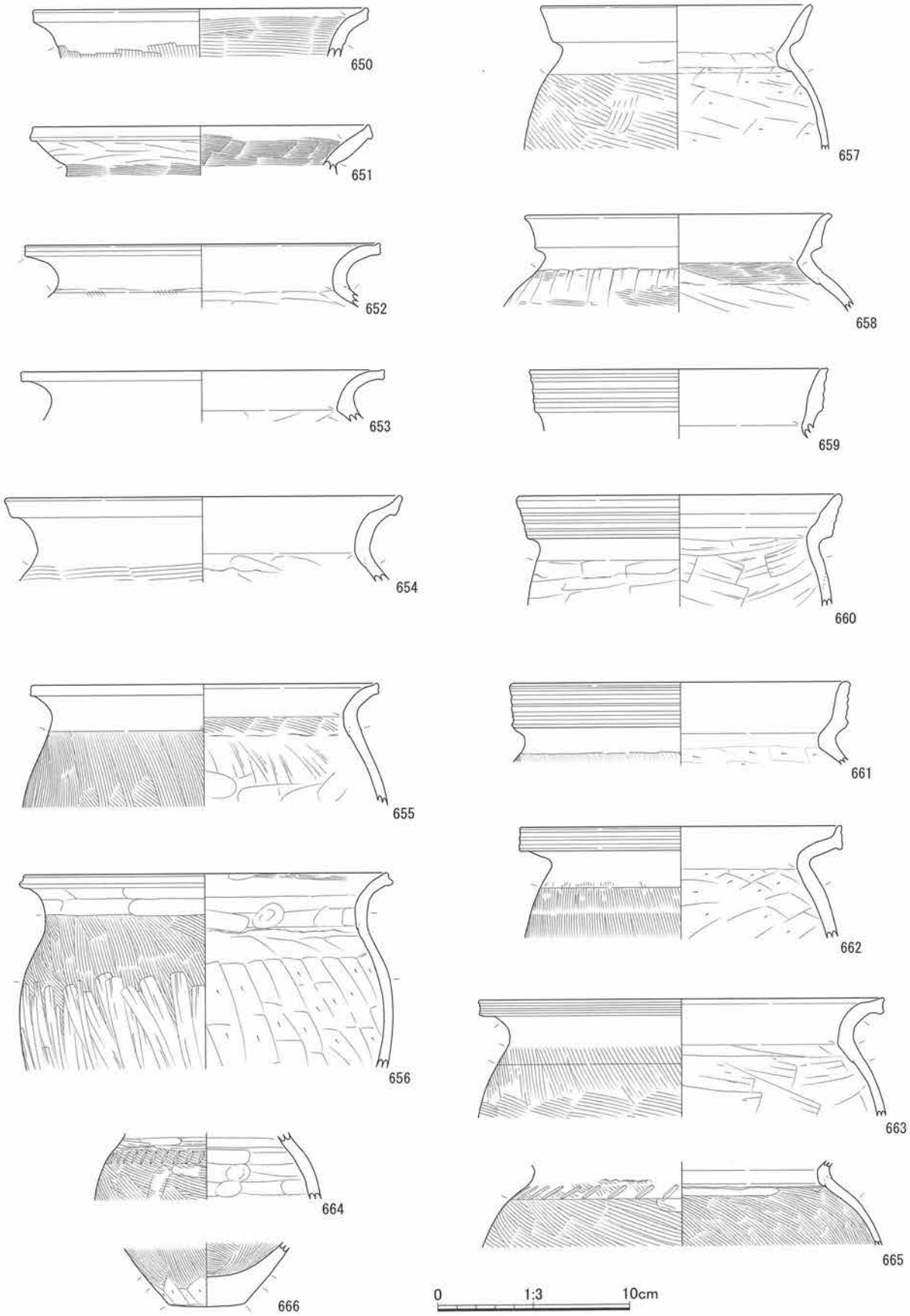




0　1:3　10cm

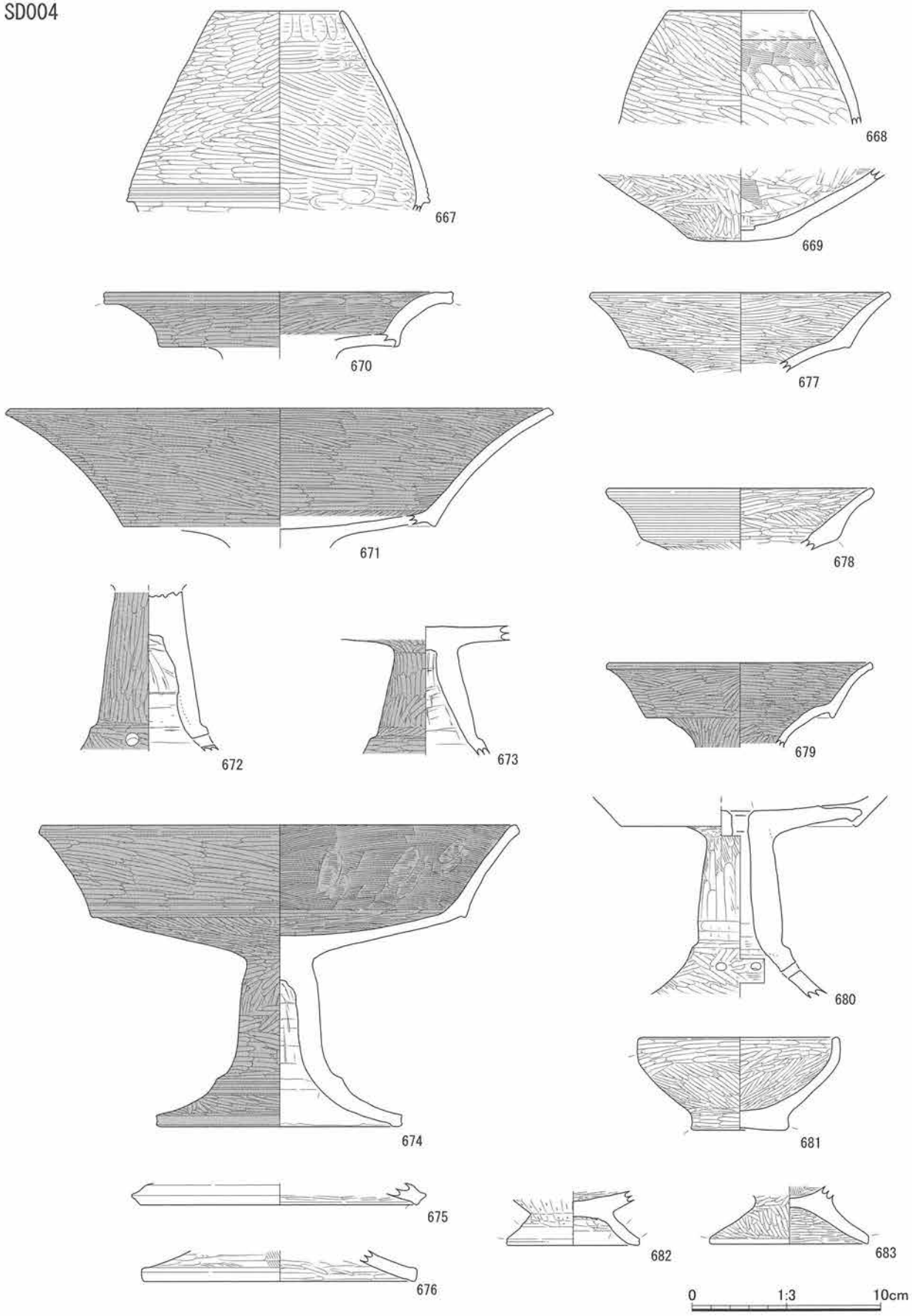
４区 溝 SD004 出土遺物〔6〕 縮尺１／３

SD004



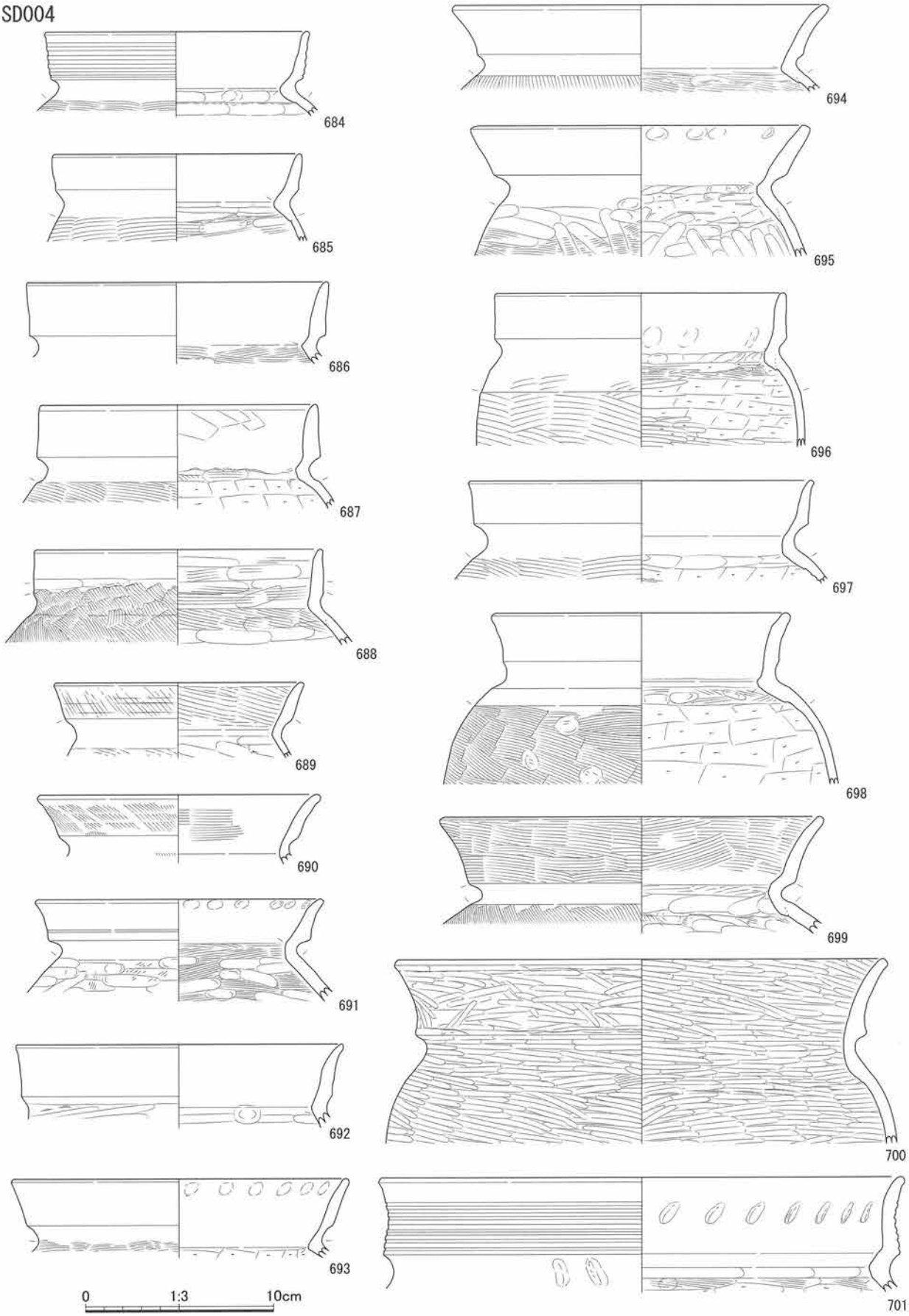
4区 溝 SD004 出土遺物〔7〕 縮尺 1／3

SD004

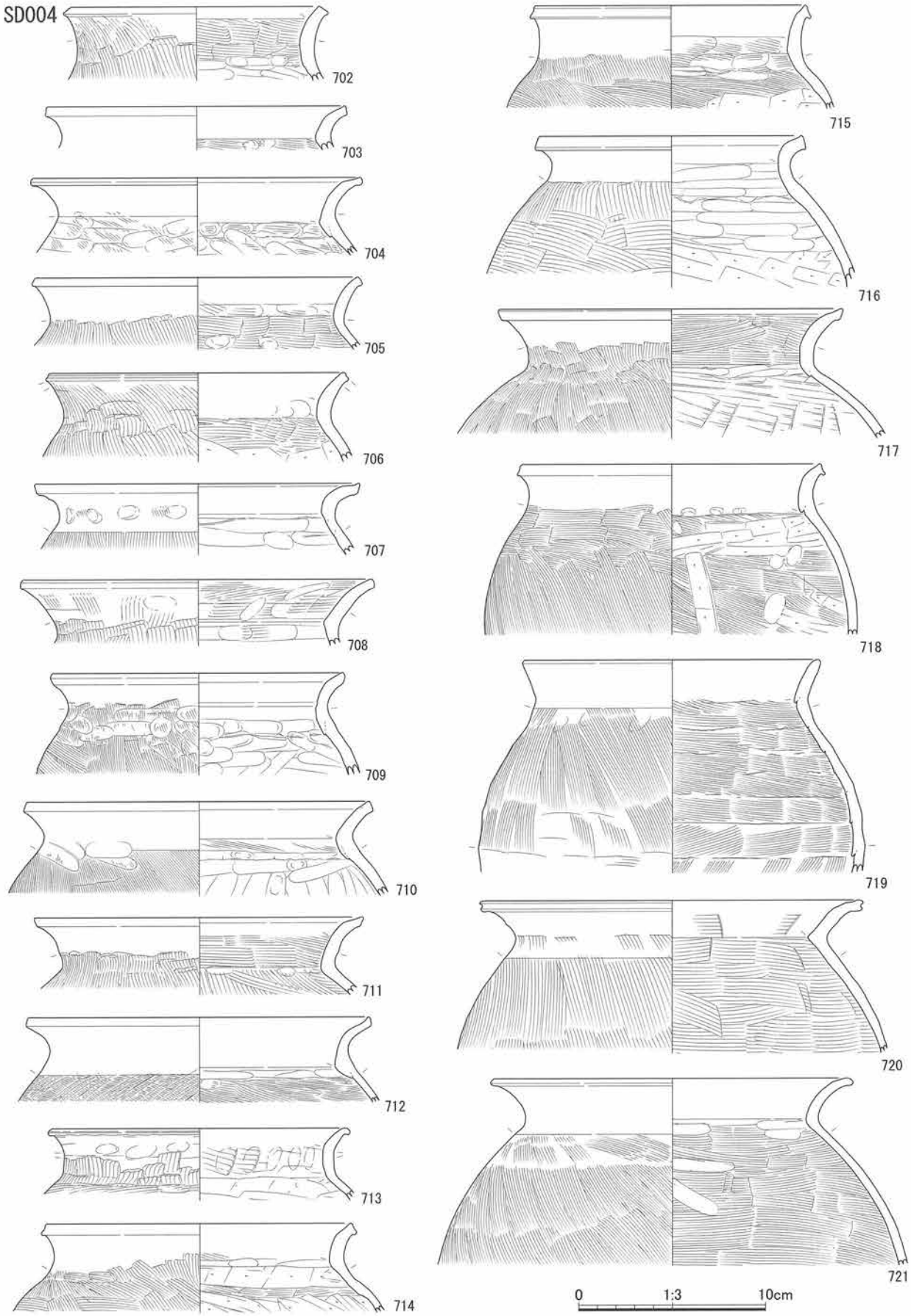


４区 溝 SD004 出土遺物〔8〕 縮尺１／３

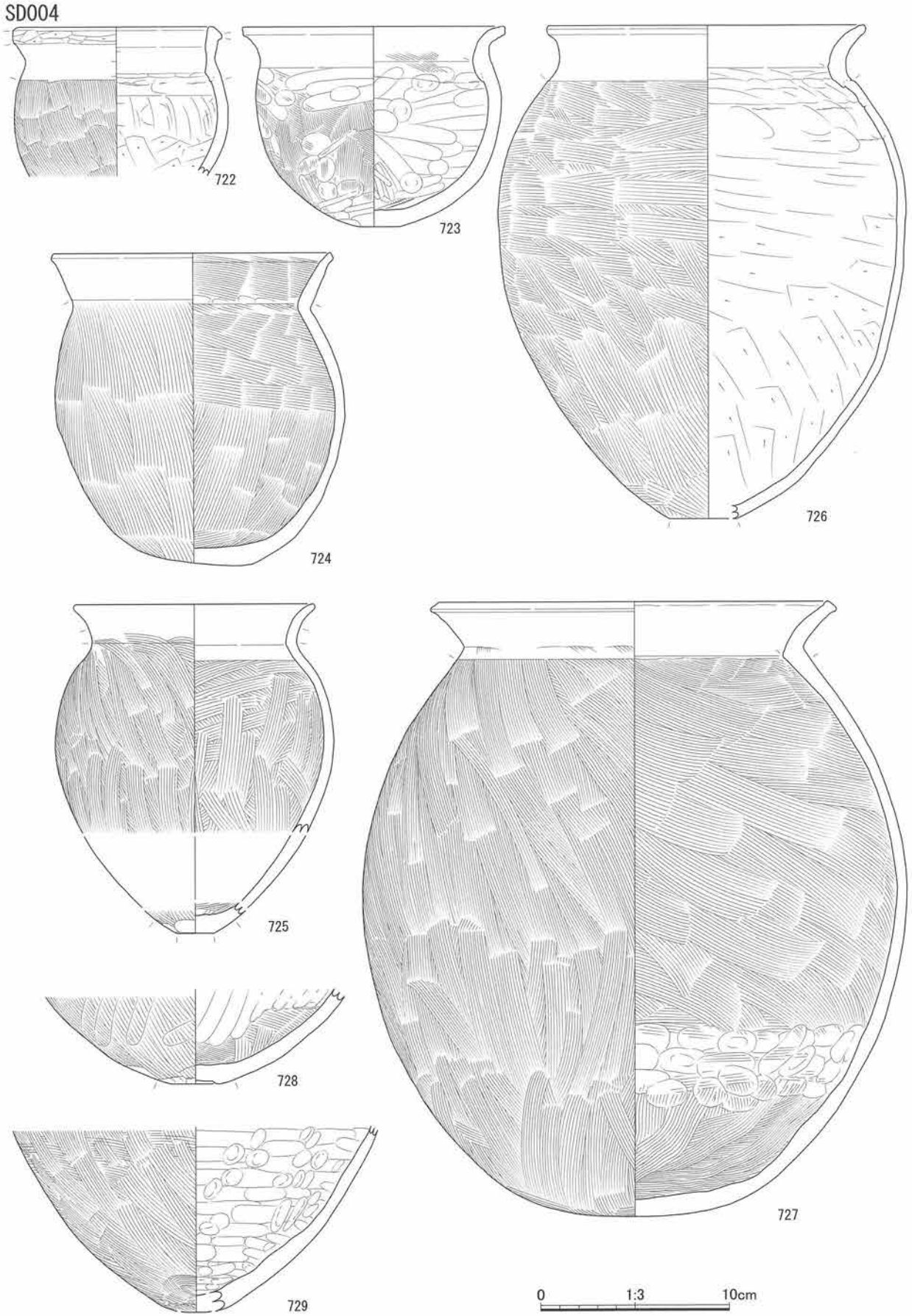
SD004



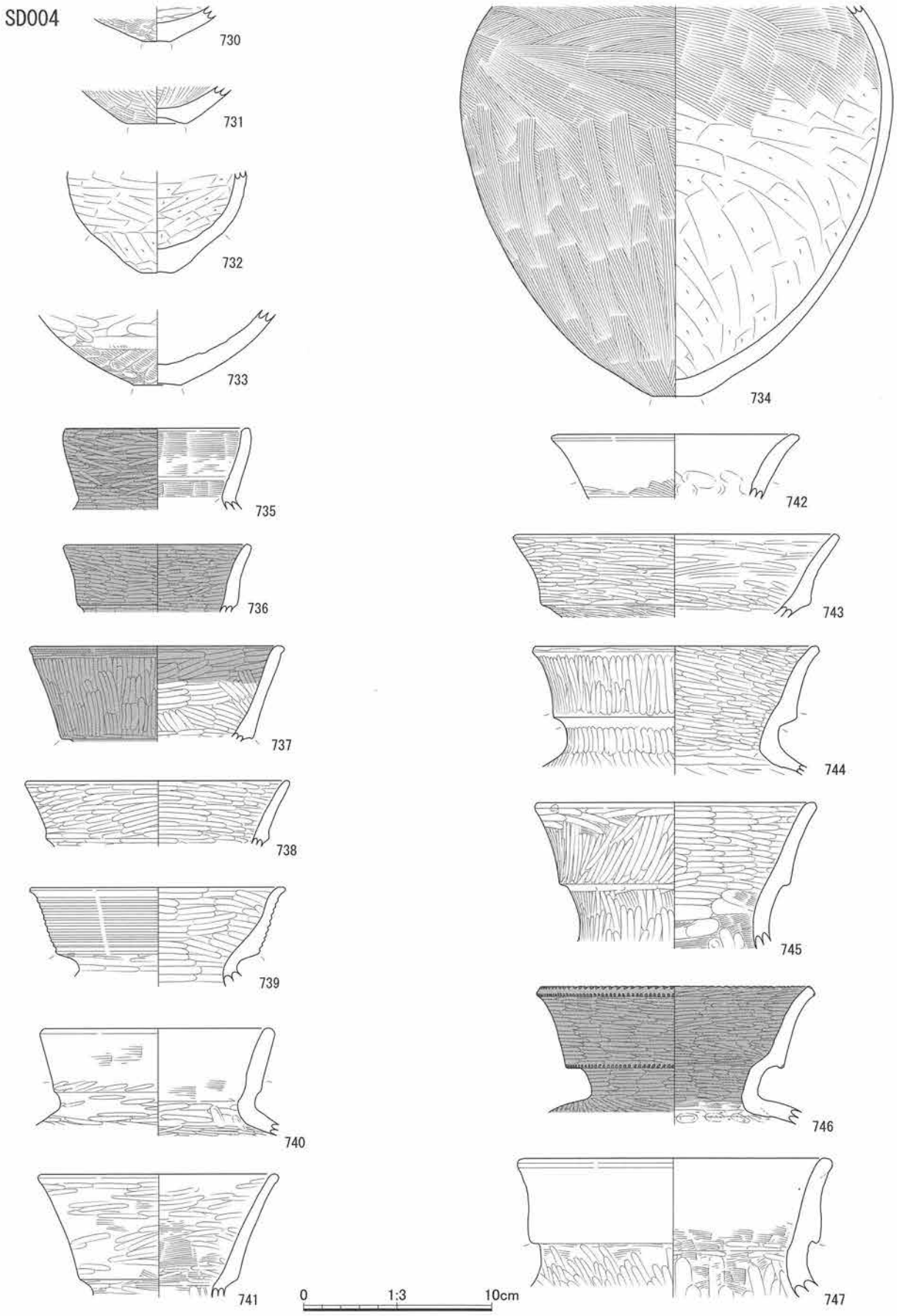
4区 溝 SD004 出土遺物〔9〕 縮尺1／3



４区 溝 SD004 出土遺物〔10〕 縮尺１／３

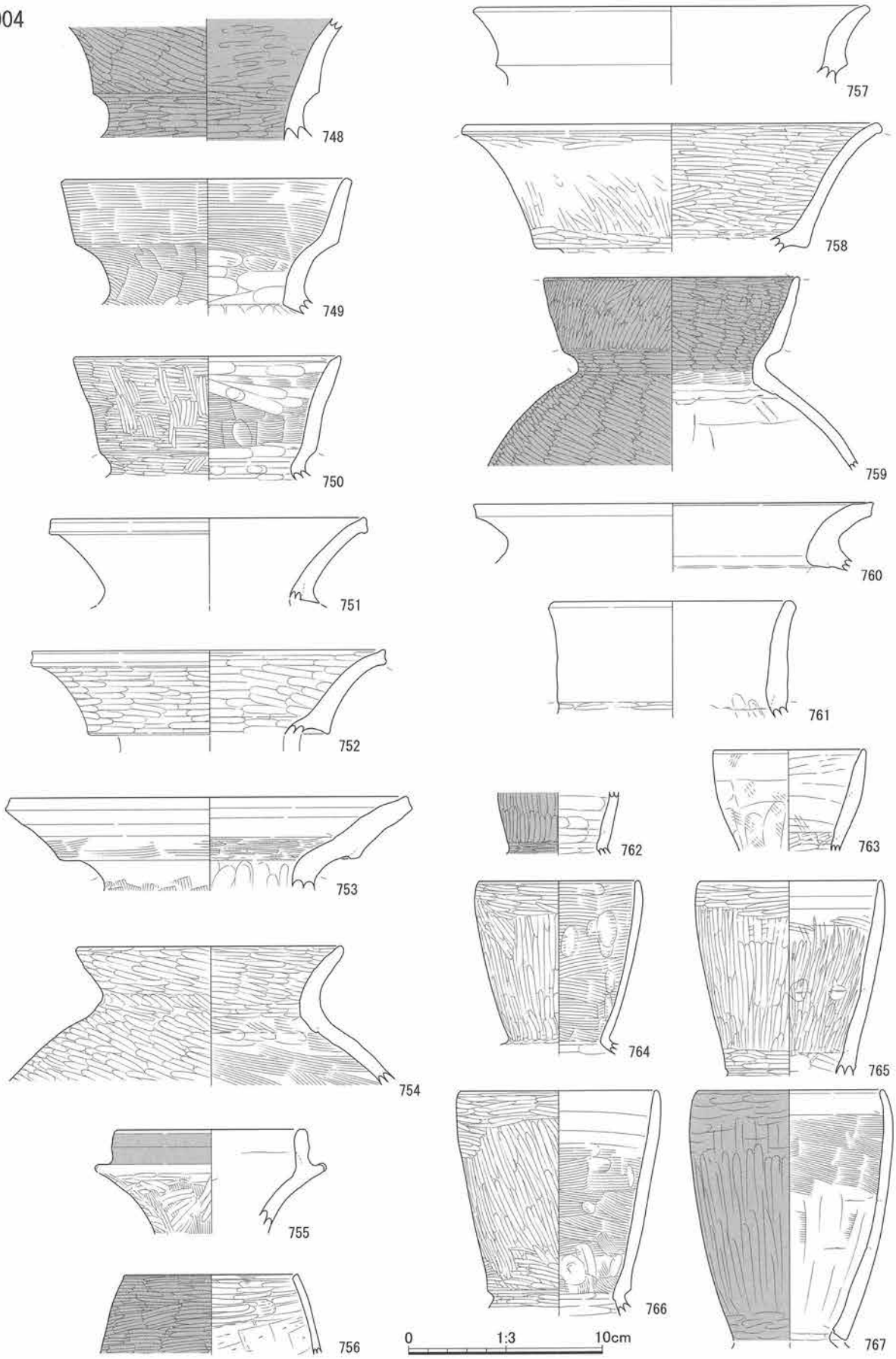


4区 溝 SD004 出土遺物〔11〕 縮尺1／3

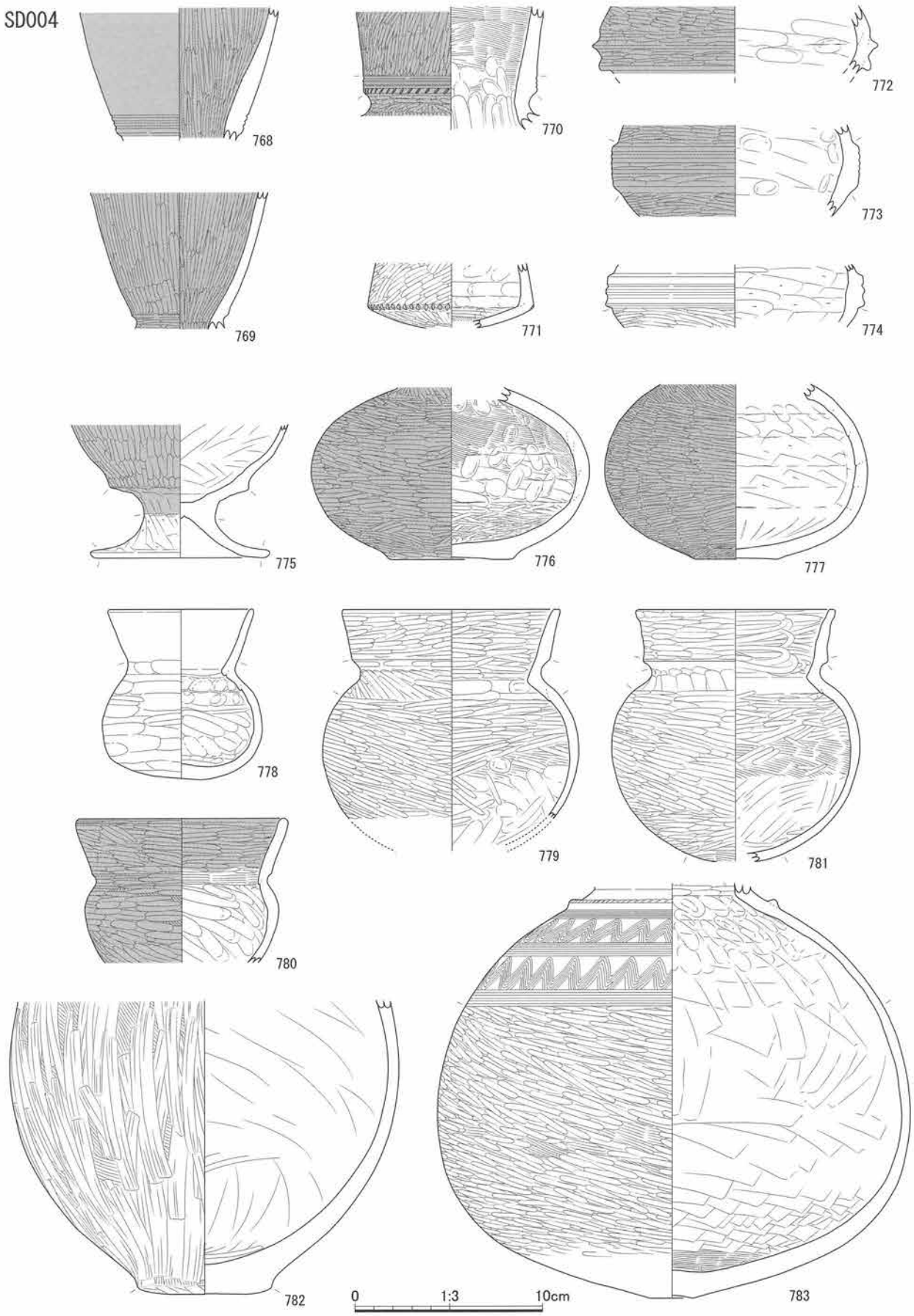


4区 溝 SD004 出土遺物〔12〕 縮尺 1／3

SD004

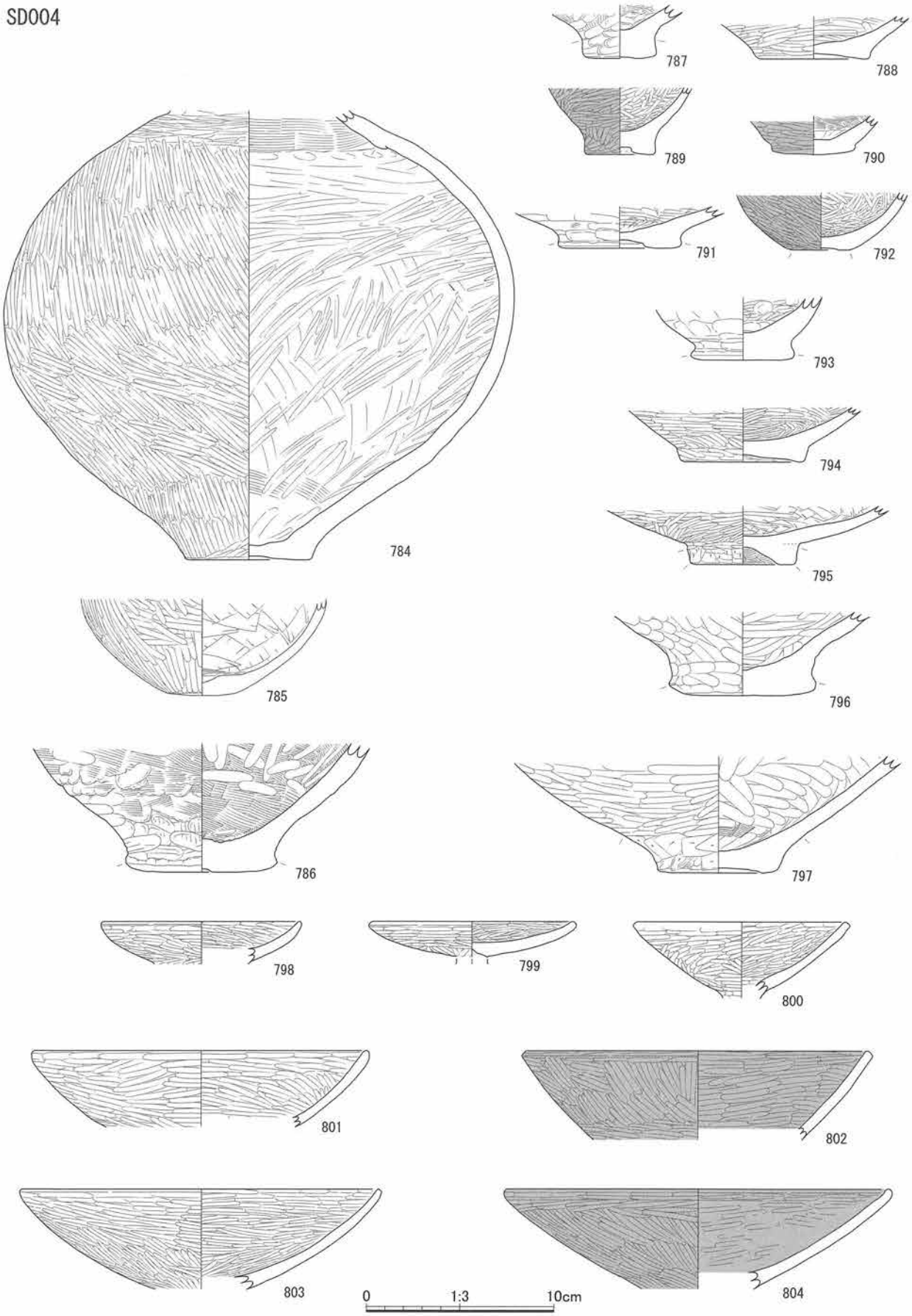


4区 溝 SD004 出土遺物〔13〕 縮尺 1／3



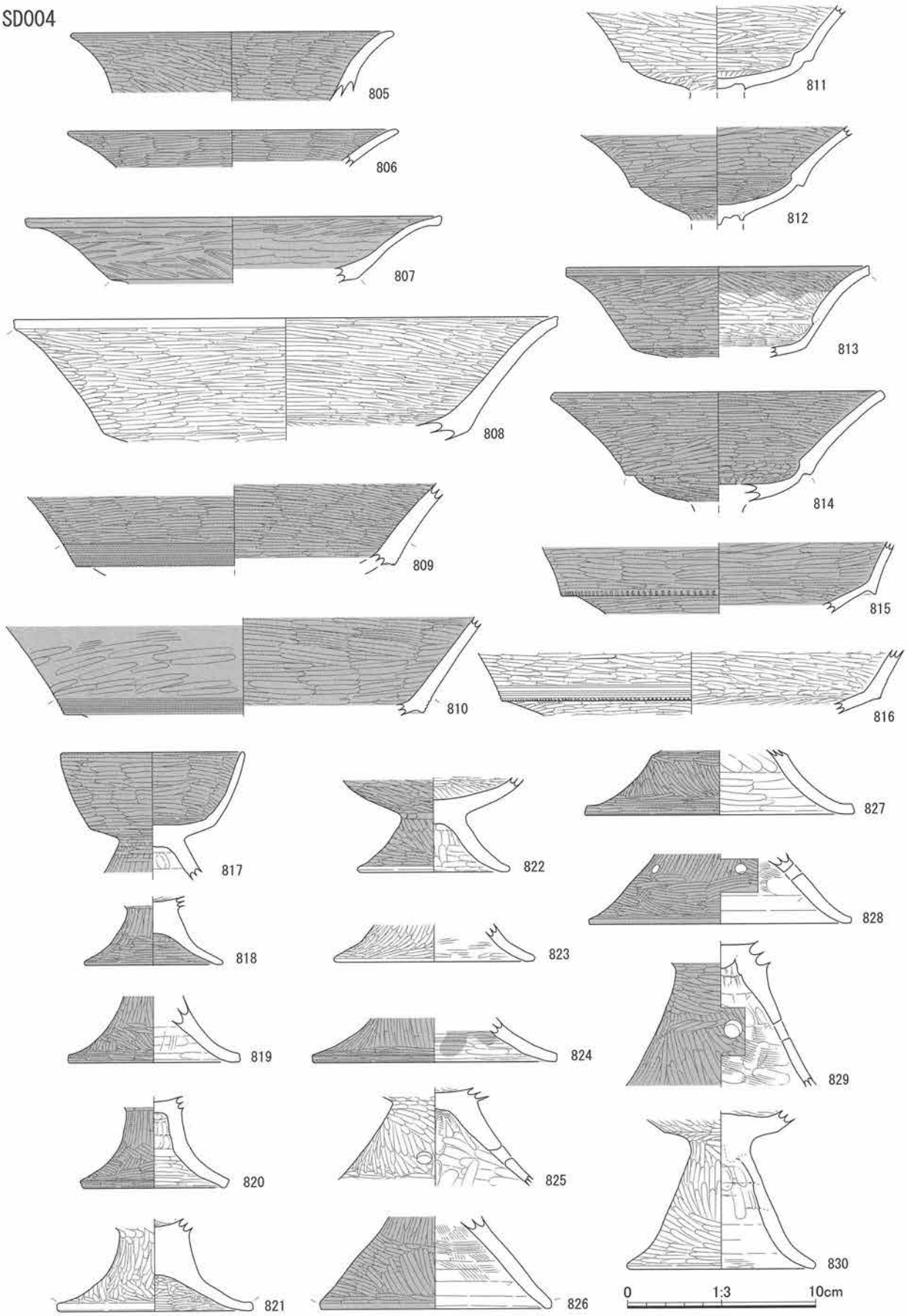
４区 溝 SD004 出土遺物〔14〕 縮尺１／３

SD004



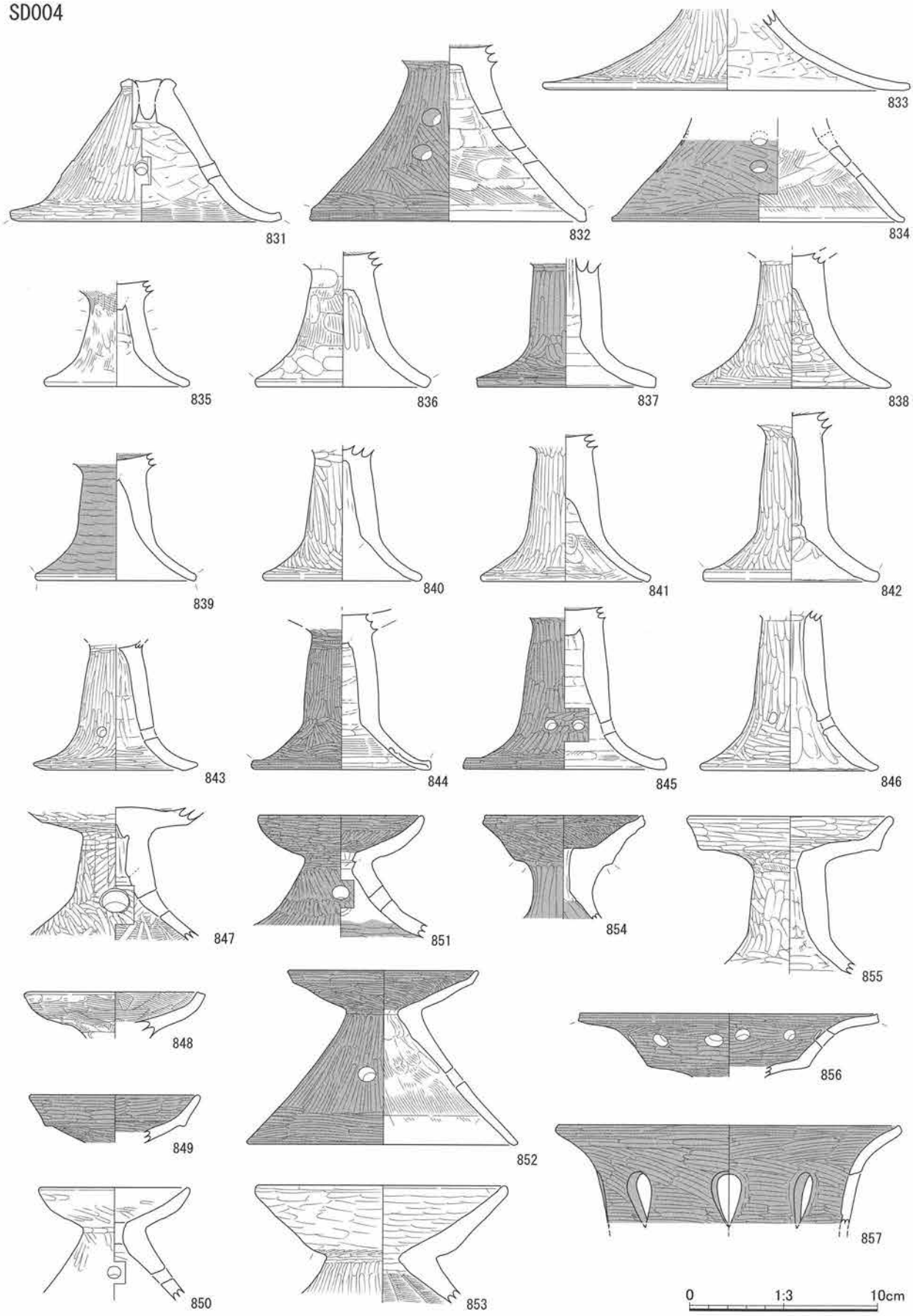
4区 溝 SD004 出土遺物〔15〕 縮尺 1／3

SD004



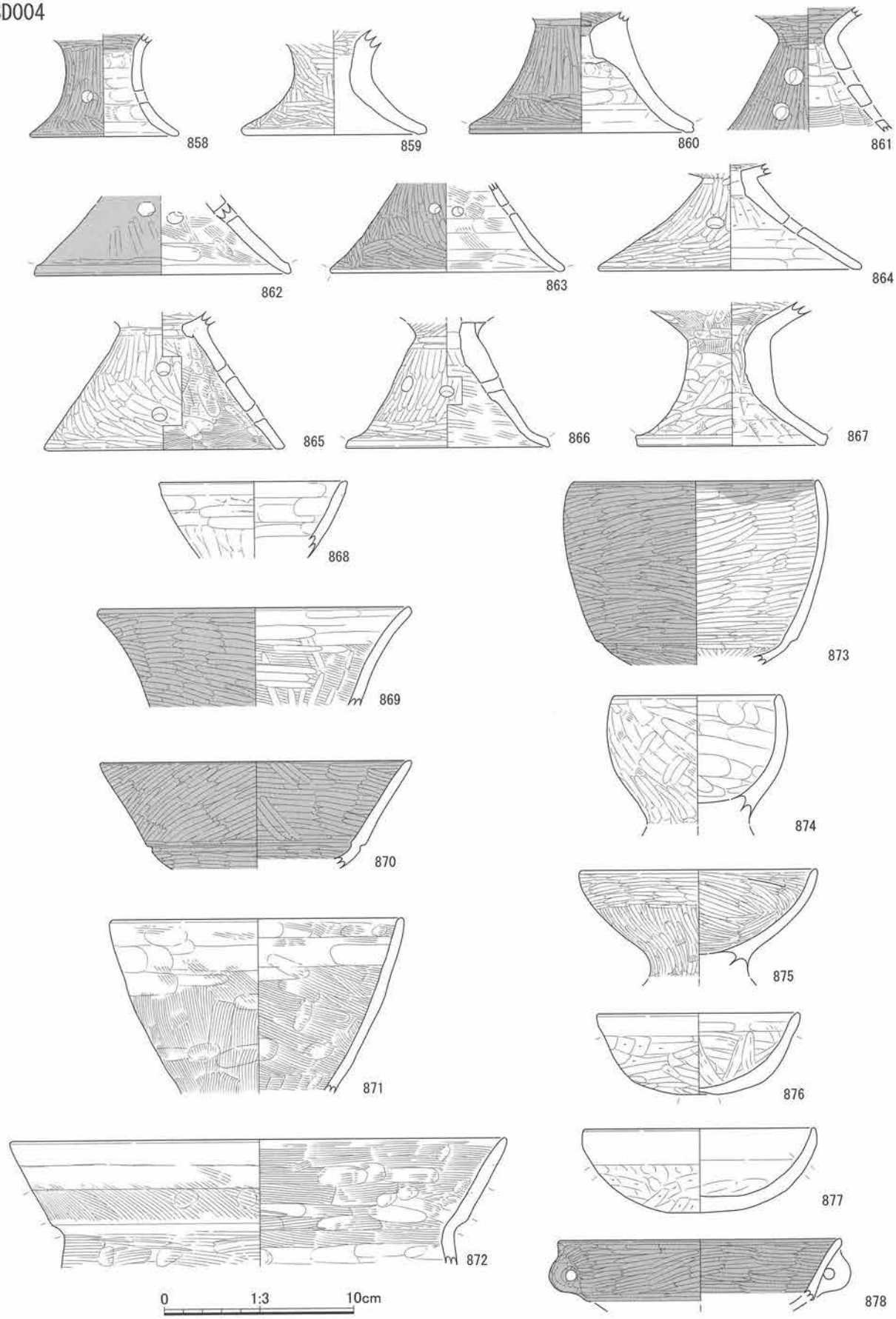
4区 溝 SD004 出土遺物〔16〕 縮尺 1／3

SD004



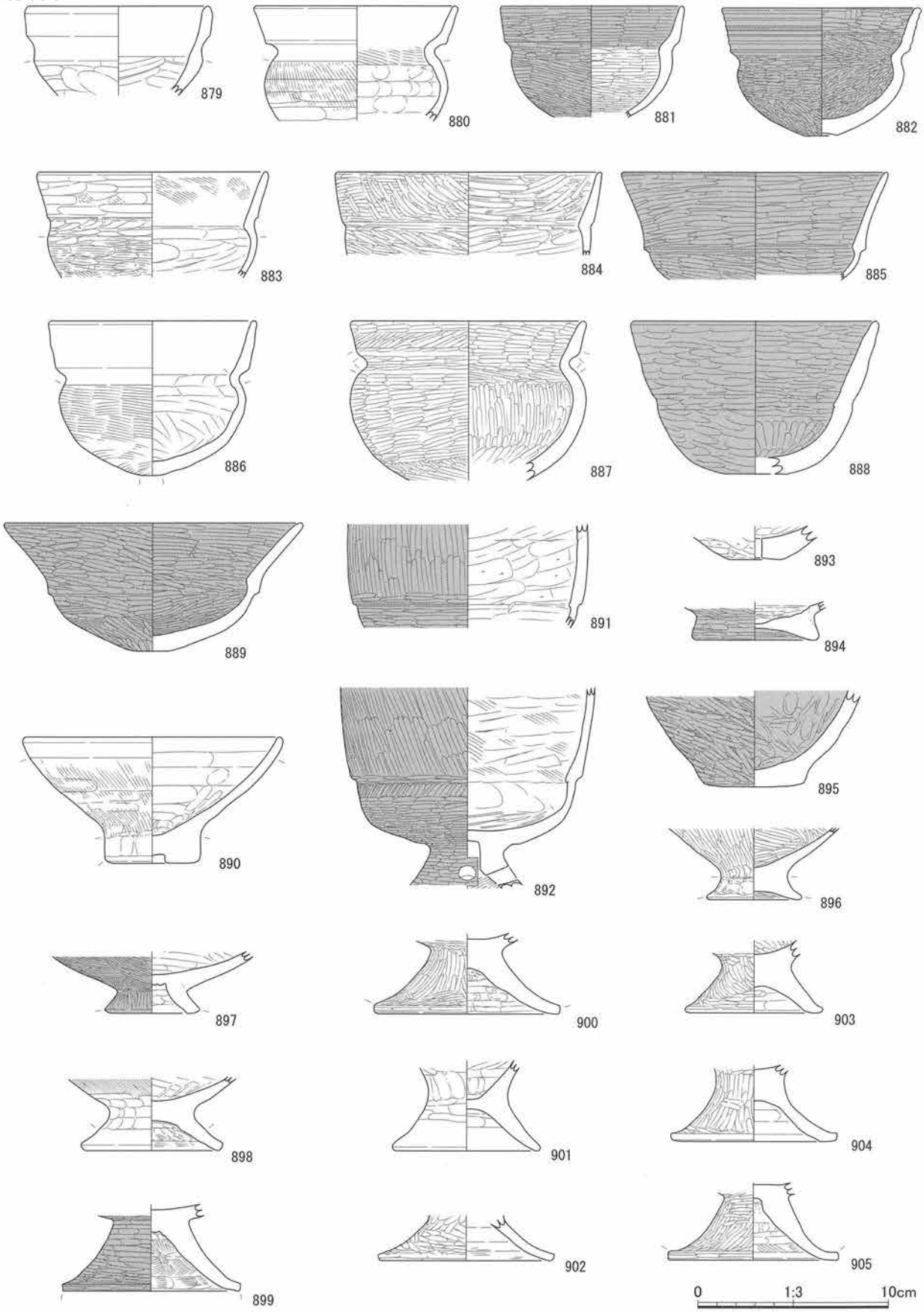
4区 溝 SD004 出土遺物〔17〕 縮尺 1／3

SD004



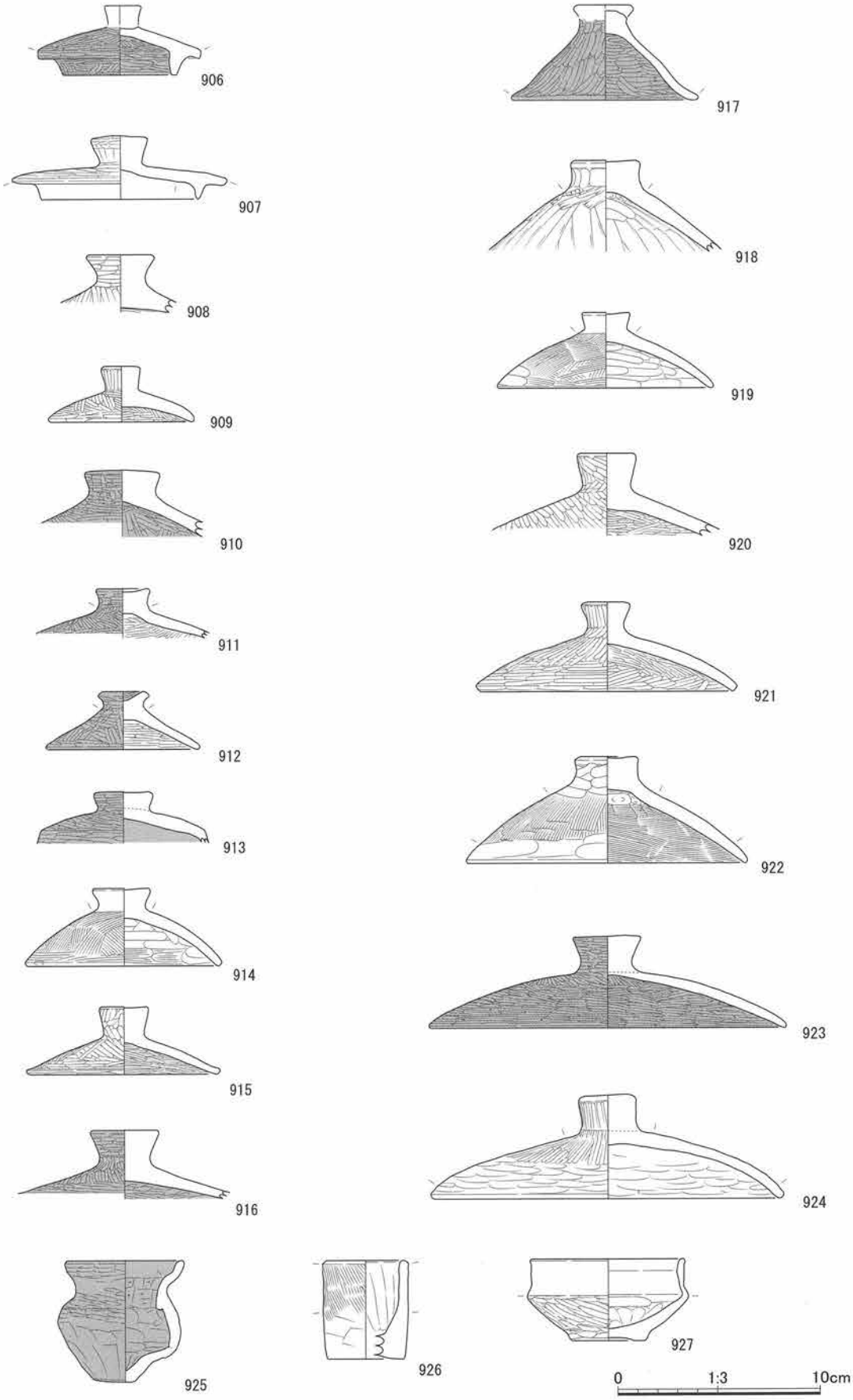
4区 溝 SD004 出土遺物〔18〕 縮尺1／3

SD004

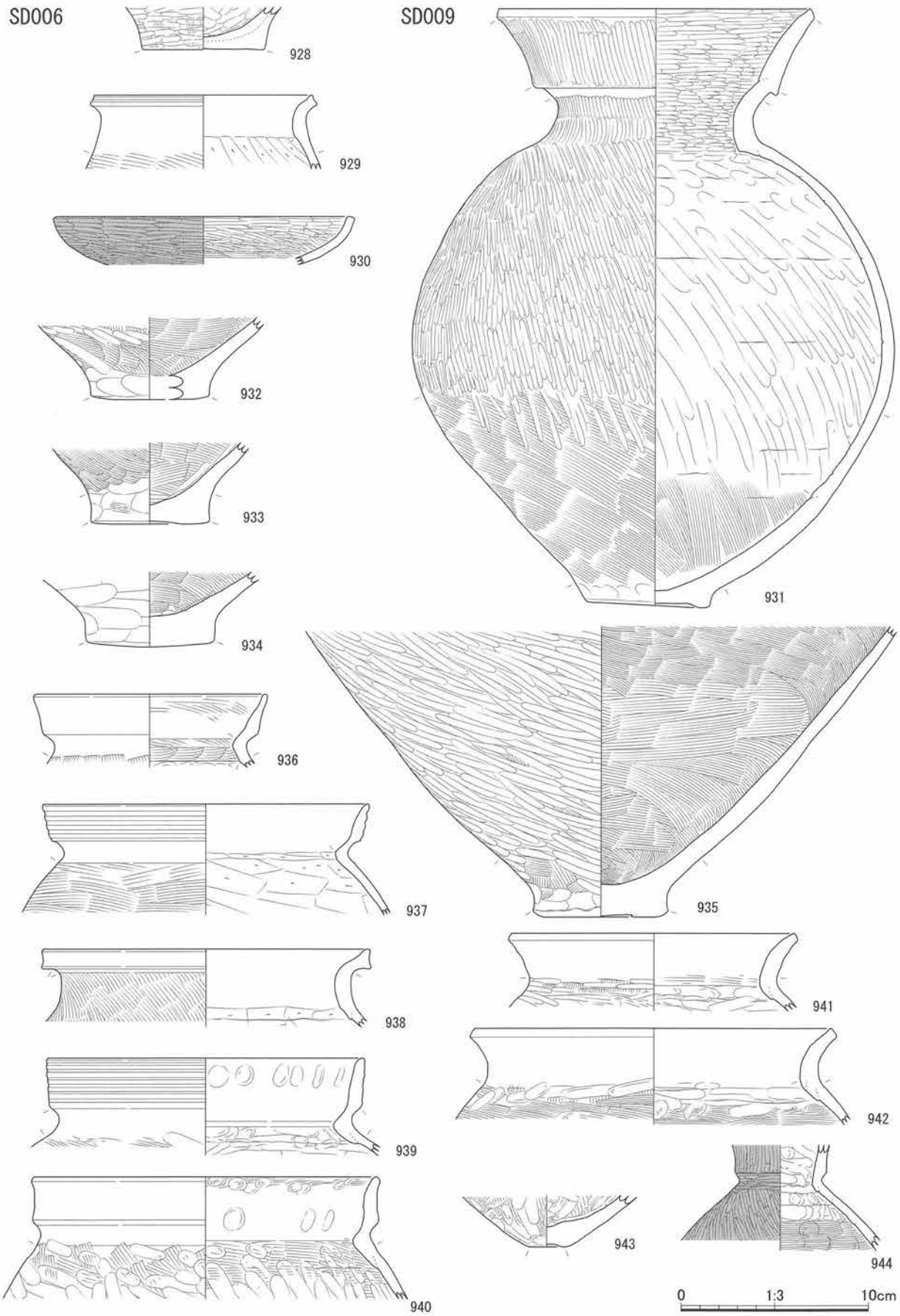


4区 溝 SD004 出土遺物〔19〕 縮尺1／3

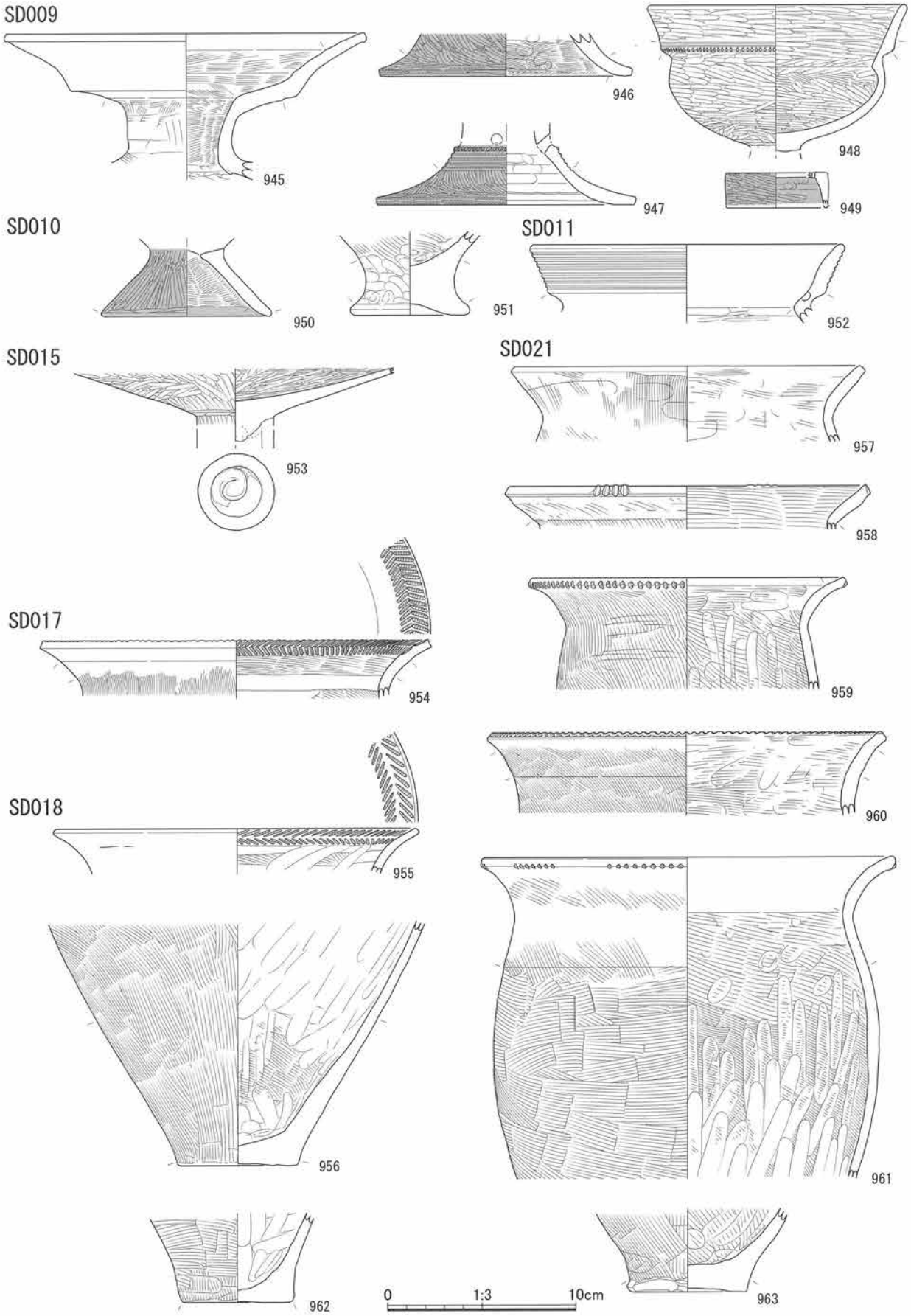
SD004



４区 溝 SD004 出土遺物〔20〕 縮尺１／３

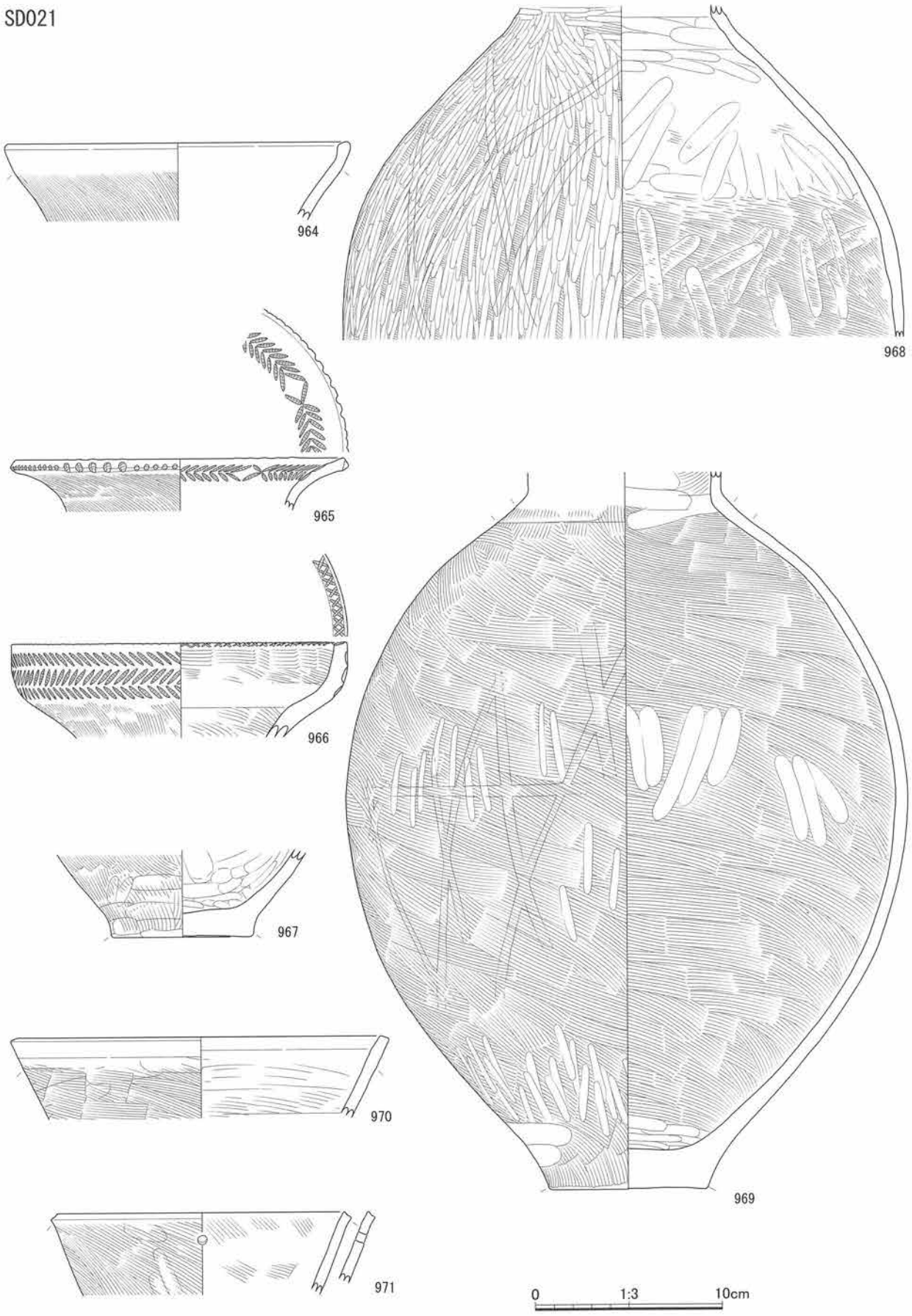


４区 溝 SD006・SD009 出土遺物　縮尺１／３

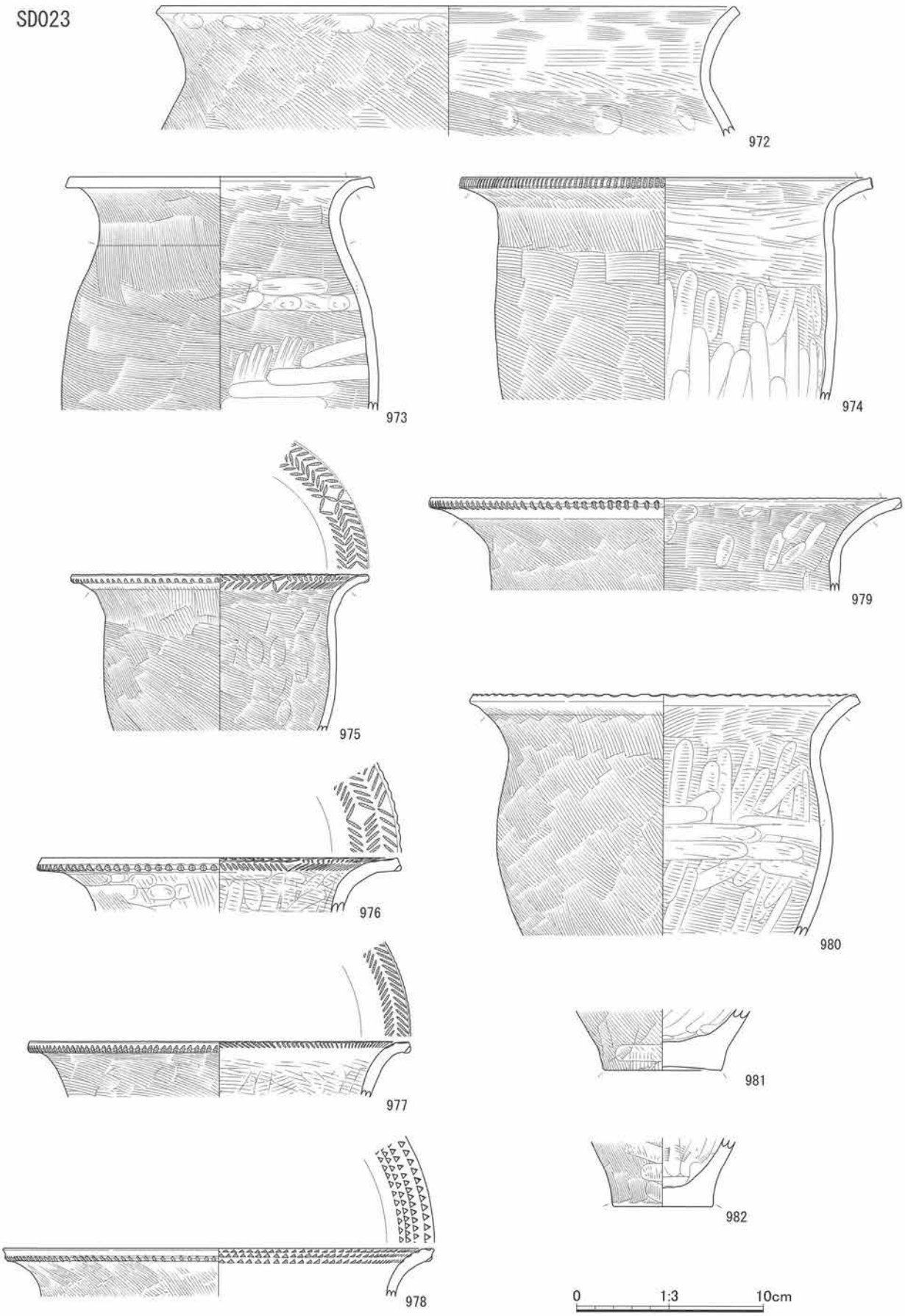


4区 溝 SD009 ～ SD011・SD015・SD017・SD018・SD21 出土遺物　縮尺 1／3

SD021

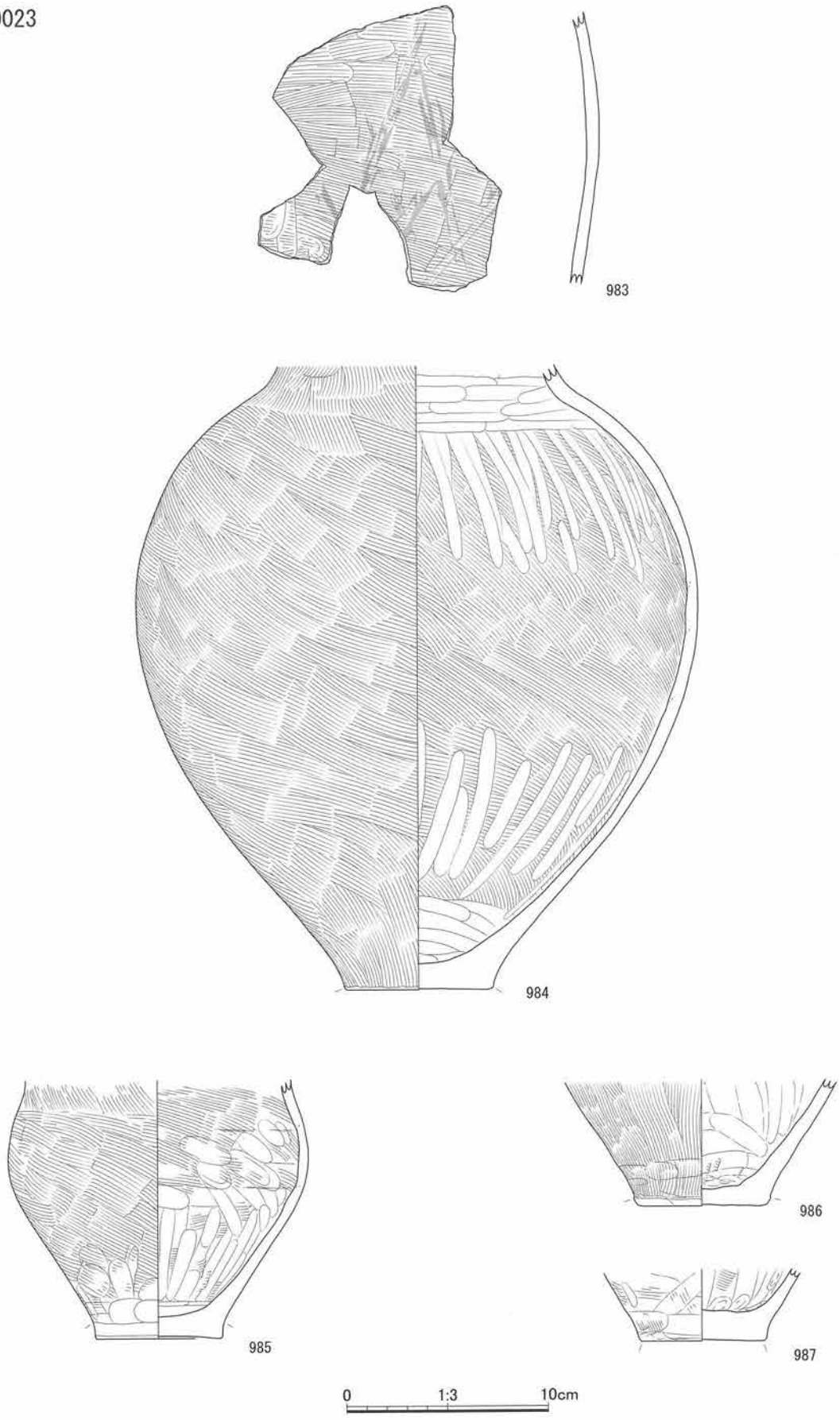


４区 溝 SD021 出土遺物　縮尺１／３

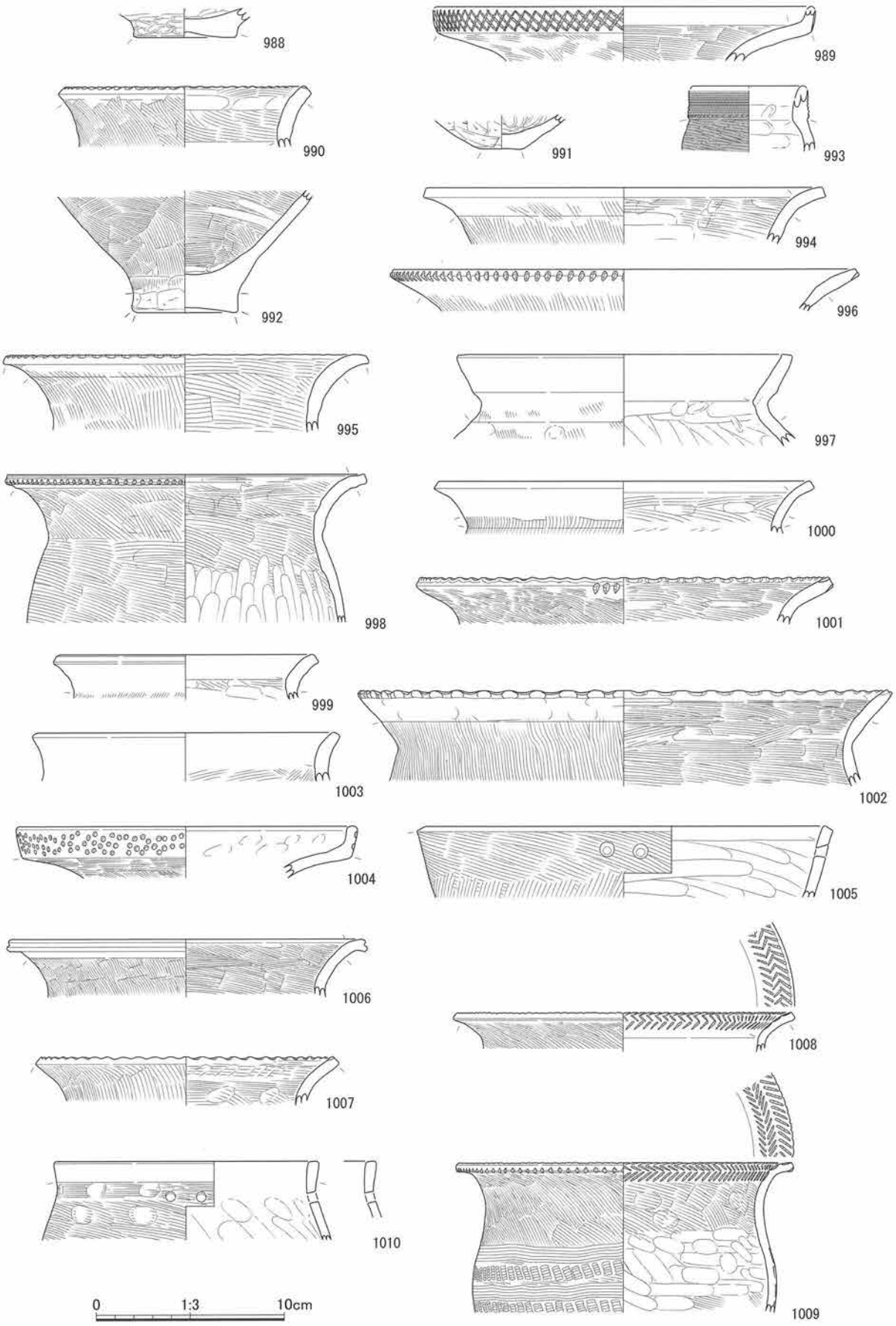


4区 溝 SD023 出土遺物〔1〕 縮尺1／3

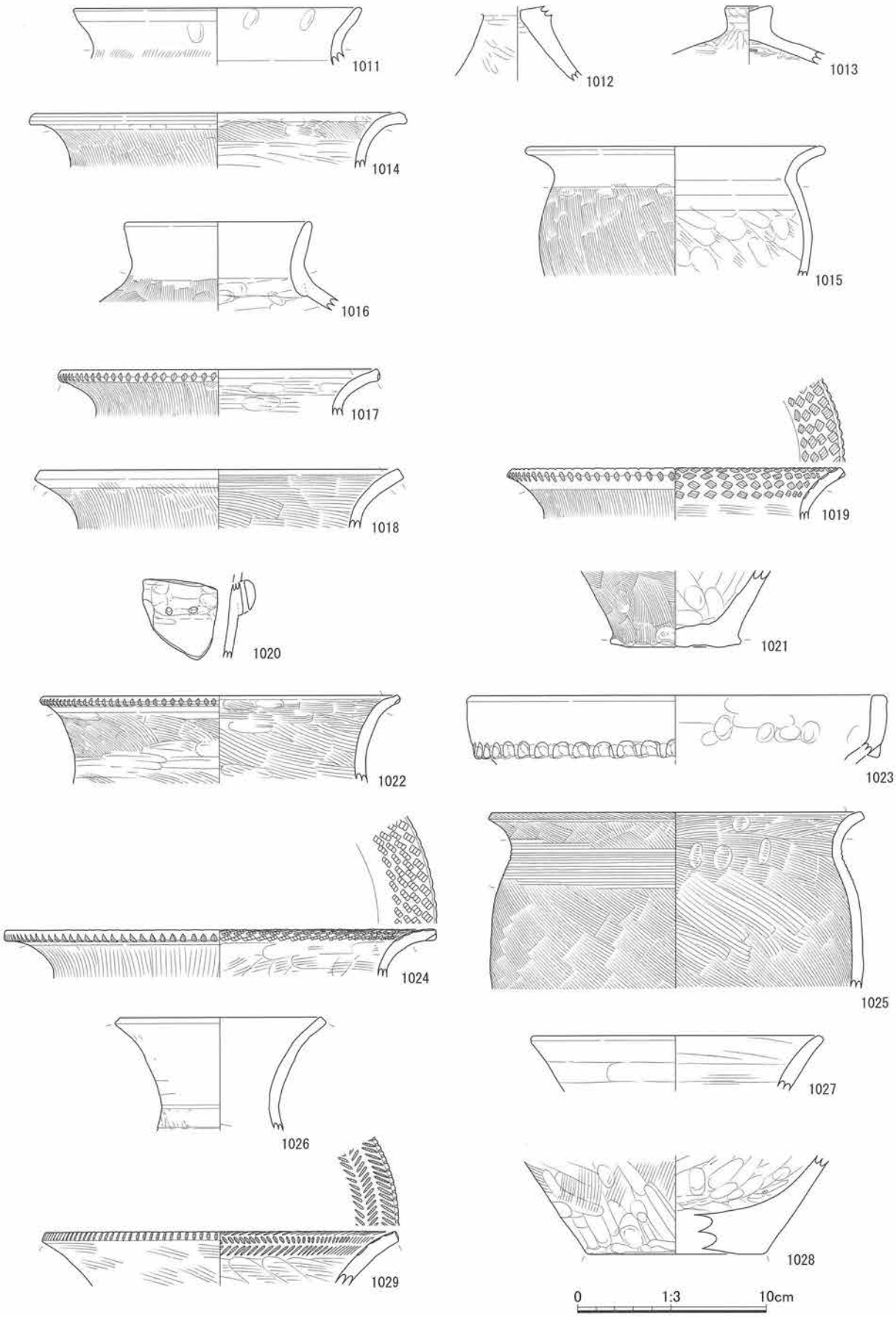
SD023



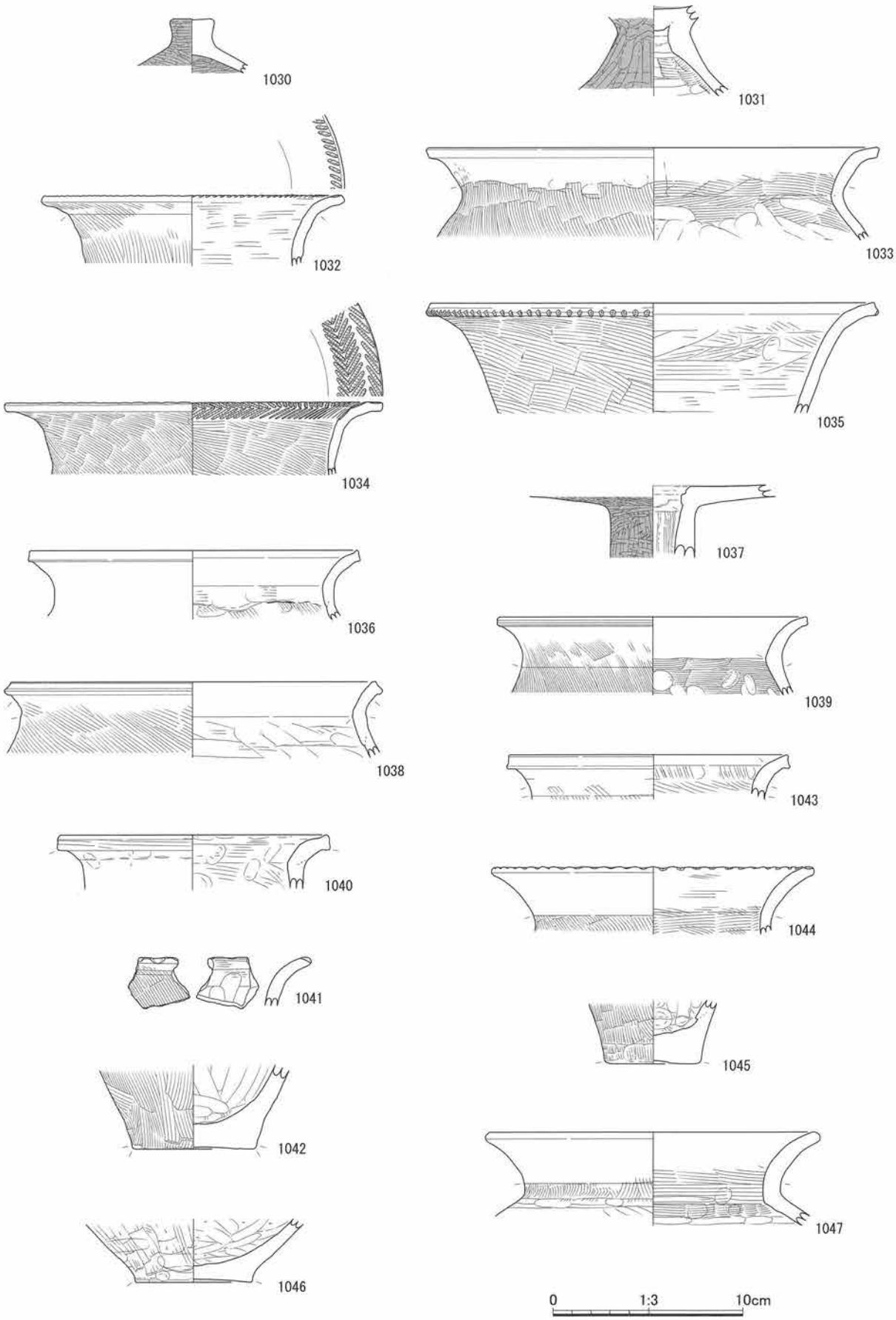
４区 溝 SD023 出土遺物〔2〕 縮尺１／３



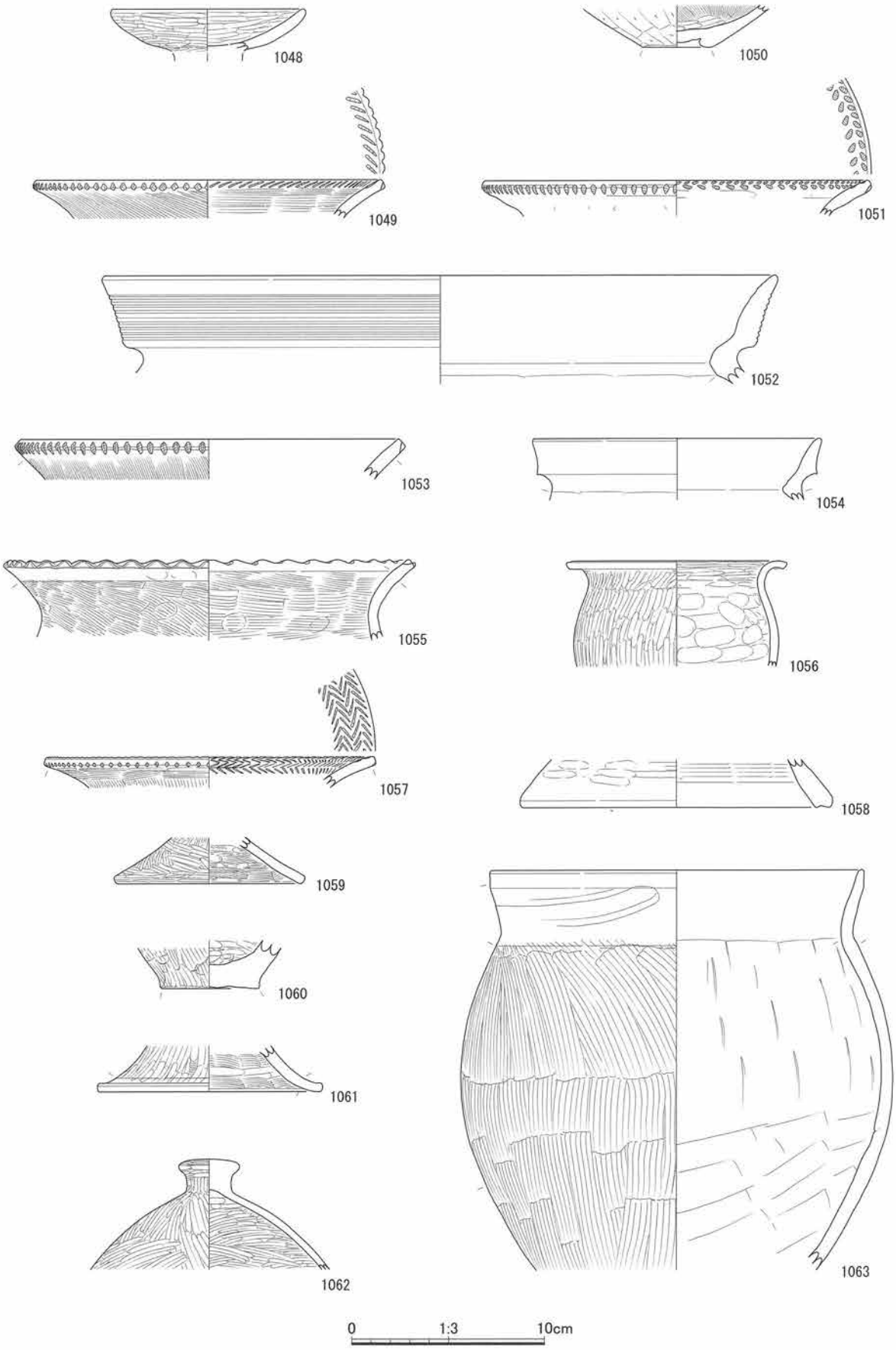
4区 畝状遺構 SU 出土遺物〔1〕 縮尺1／3



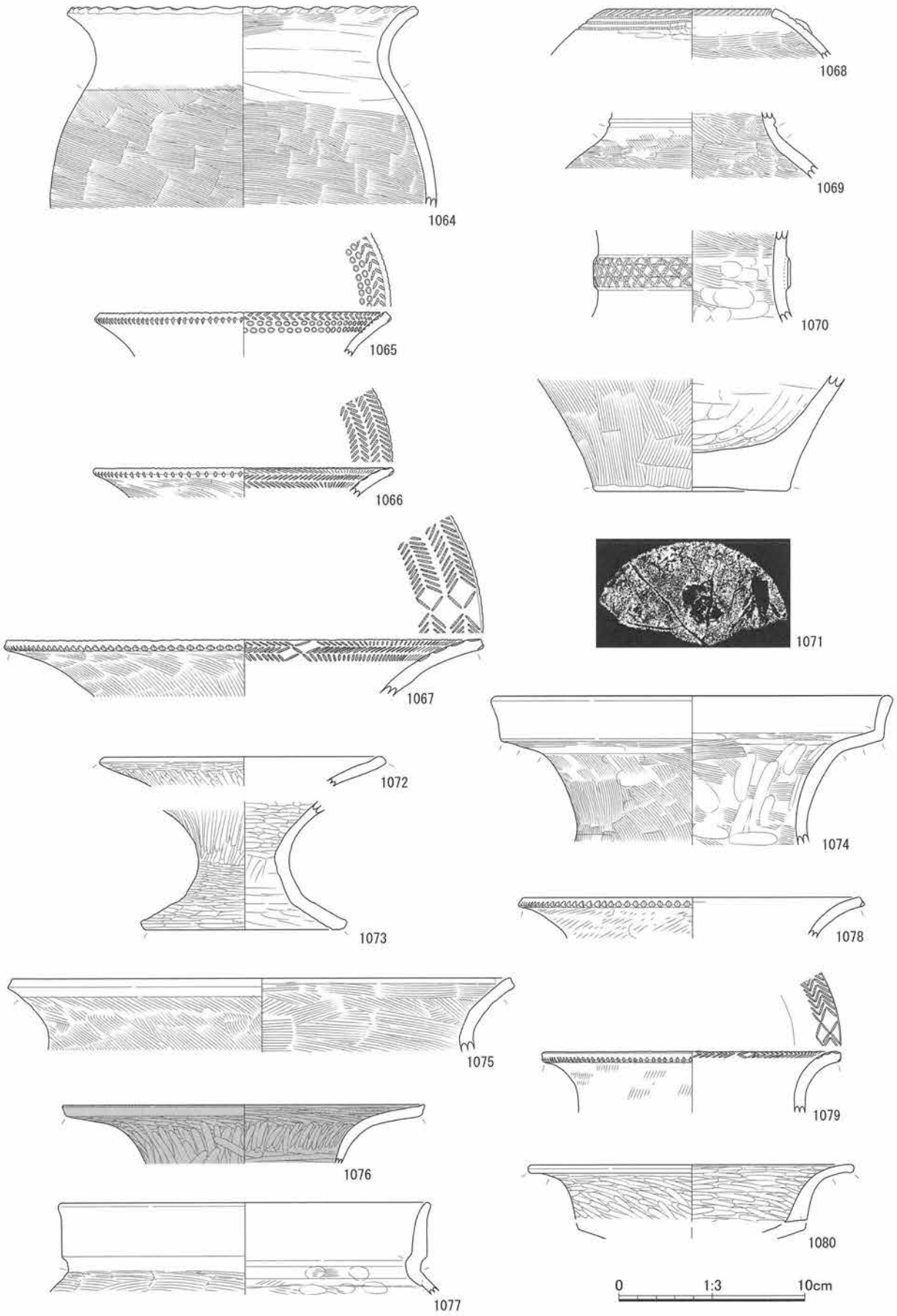
4区 畝状遺構SU出土遺物〔2〕 縮尺1／3



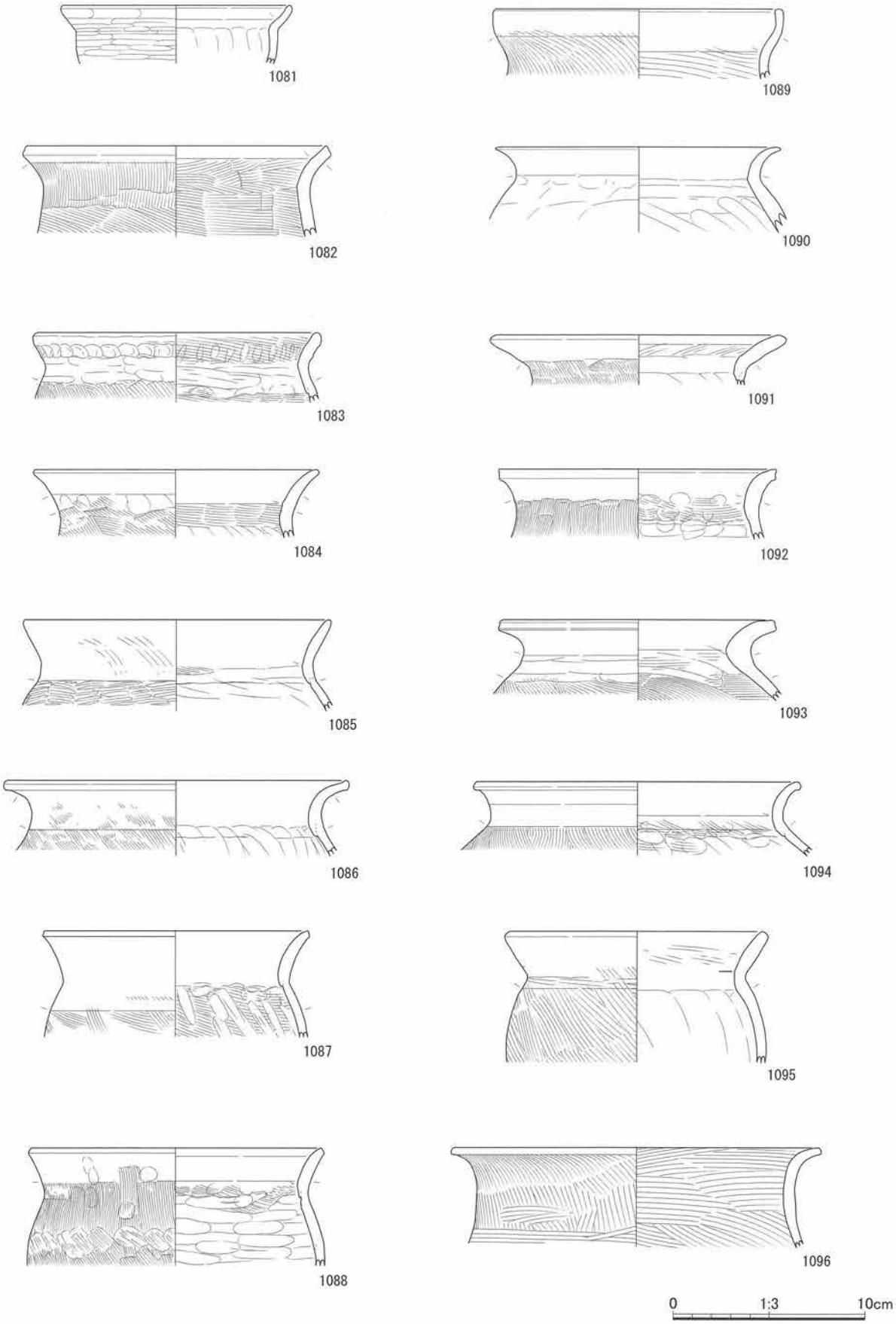
４区 畝状遺構 SU 出土遺物〔3〕 縮尺１／３



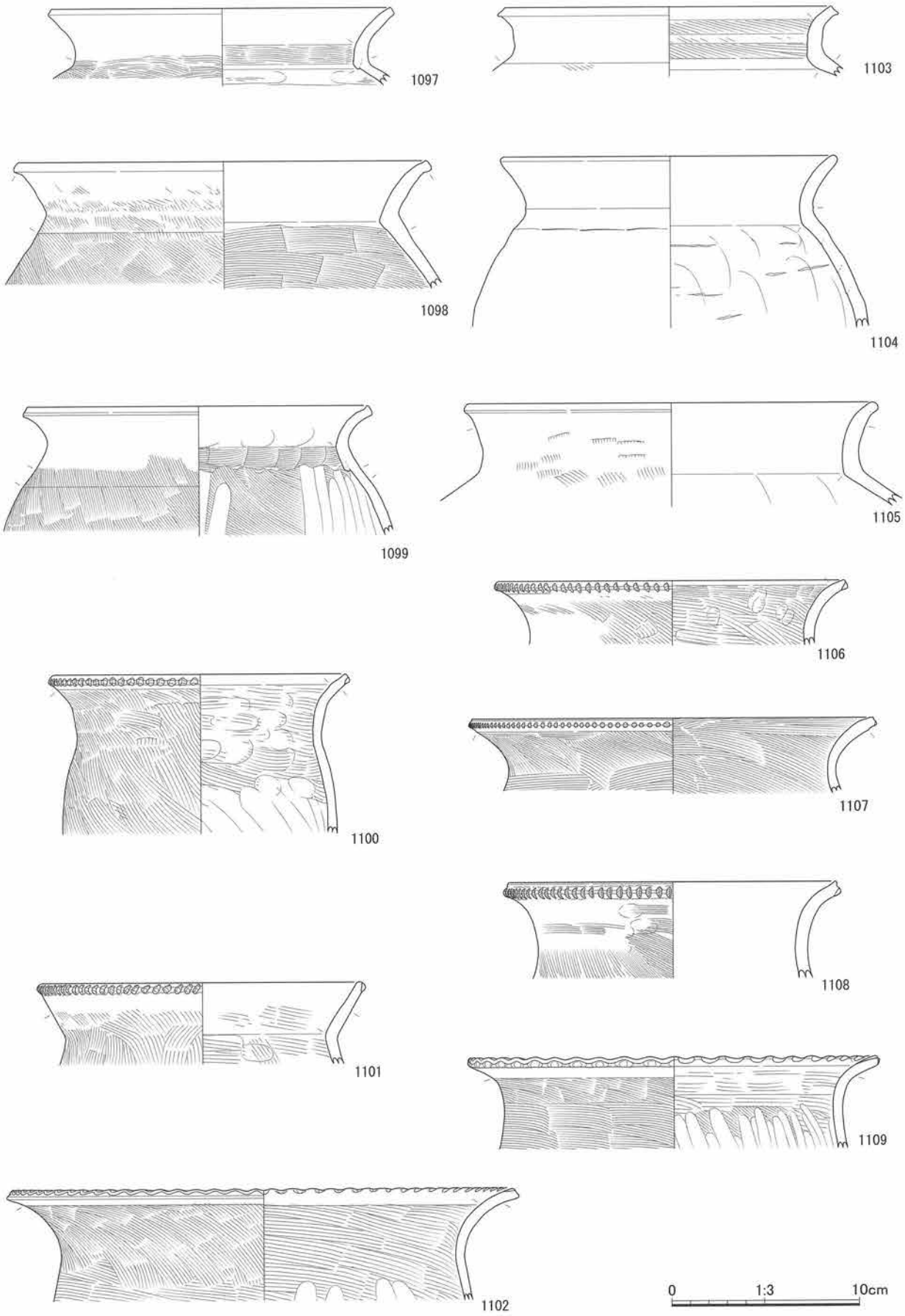
4区 畝状遺構SU出土遺物〔4〕 縮尺1／3



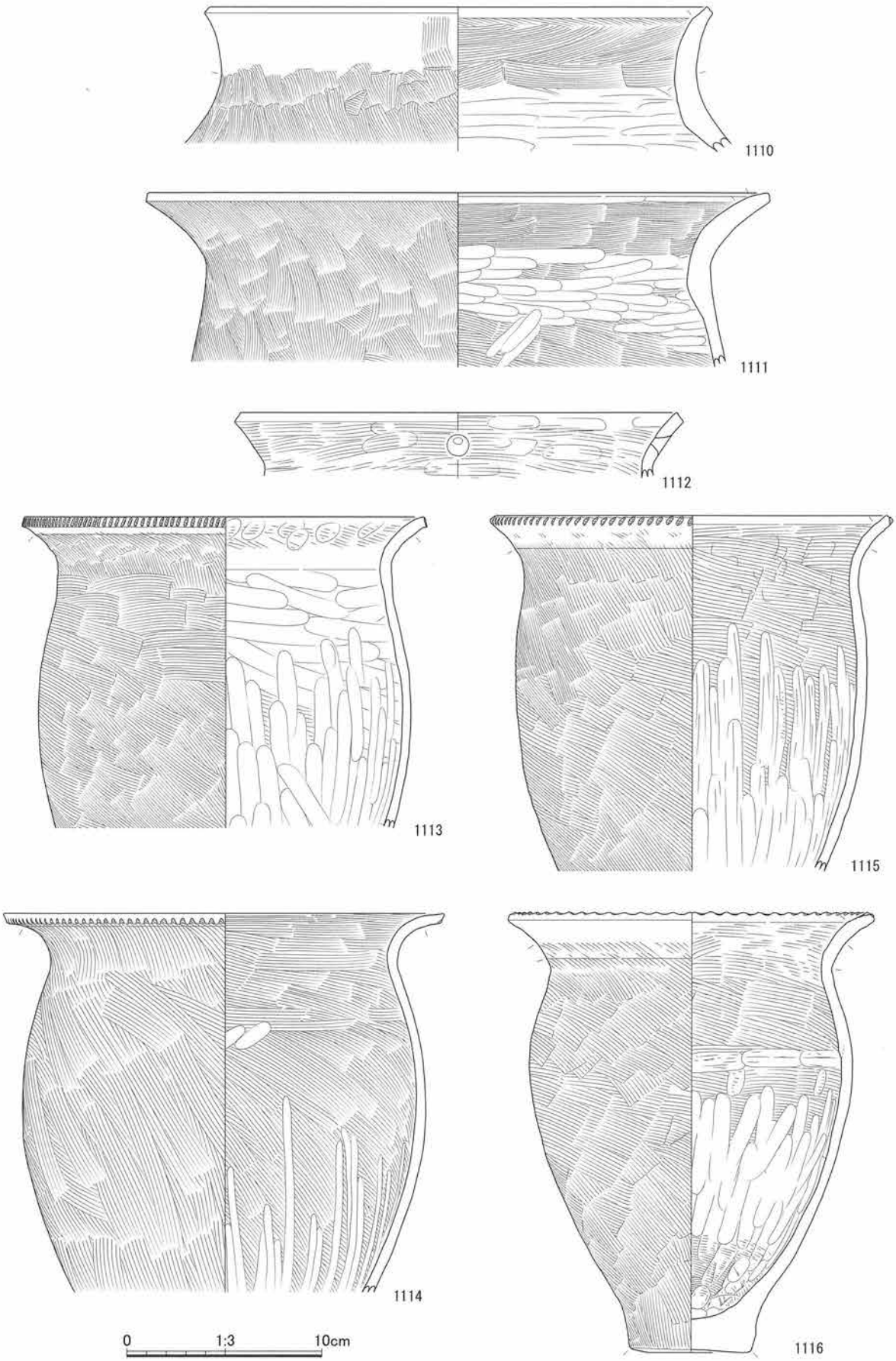
４区 Ｐ出土遺物　縮尺１／３



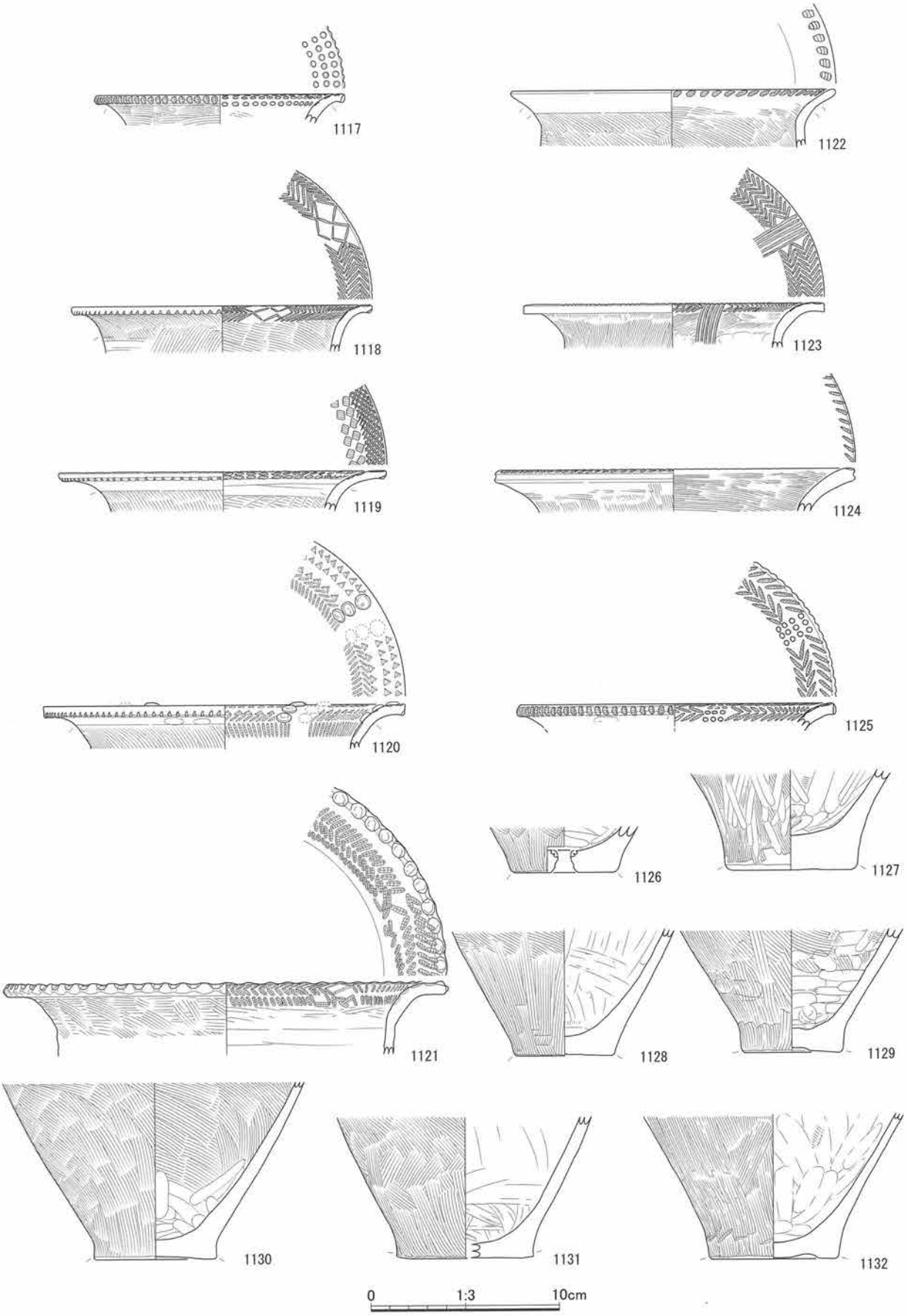
４区 遺構外出土遺物〔1〕 縮尺１／３



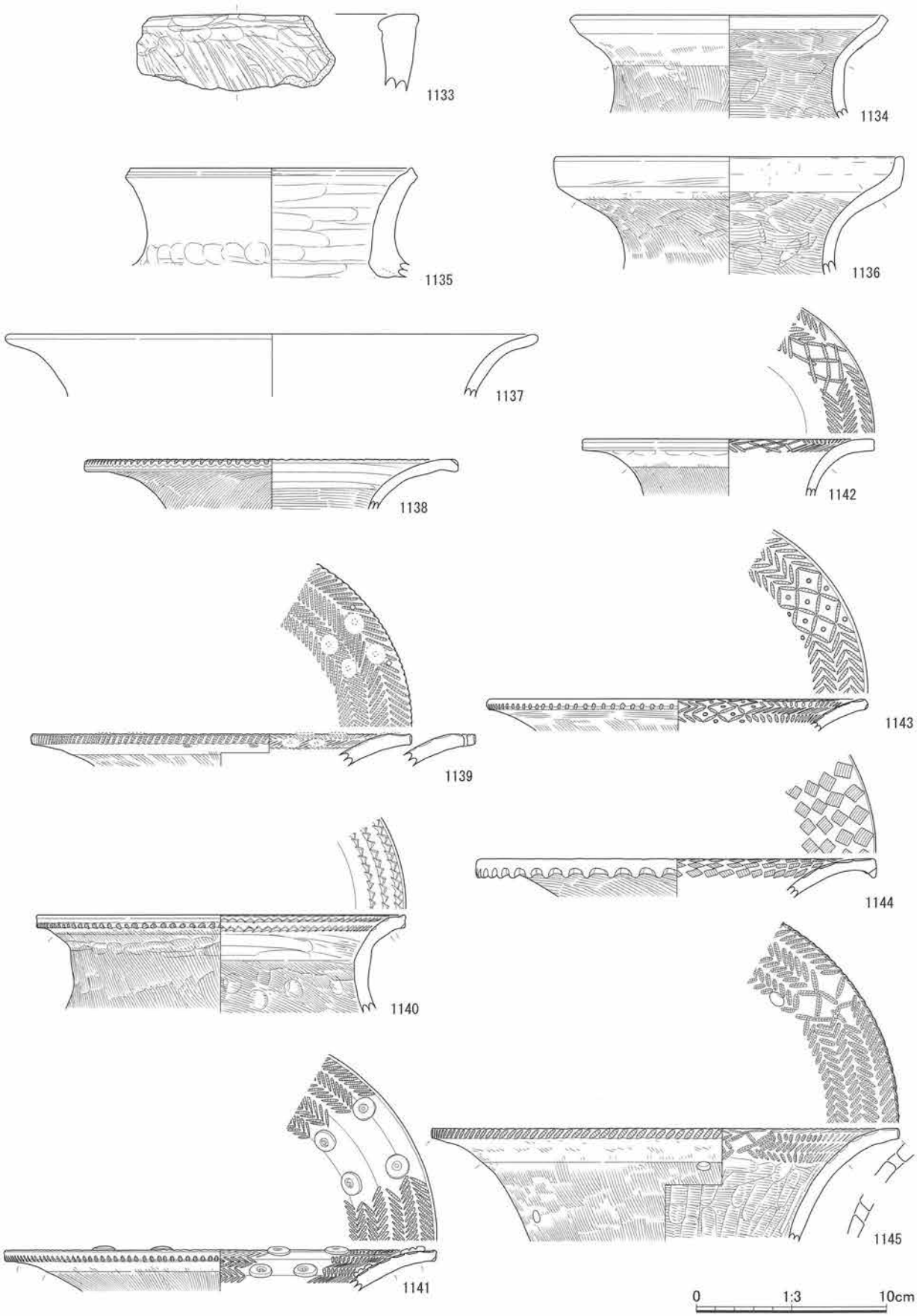
4区 遺構外出土遺物〔2〕 縮尺1／3



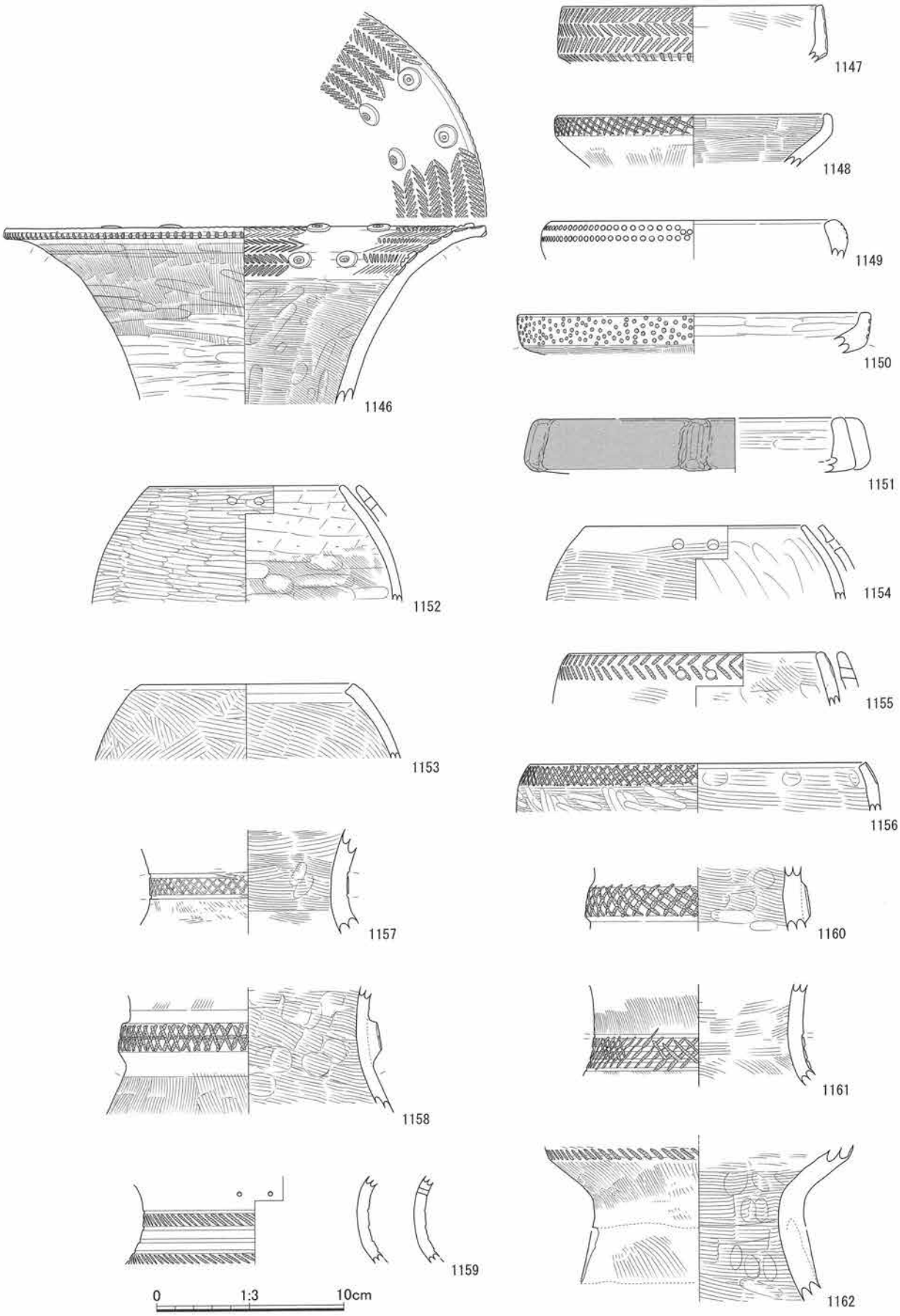
４区 遺構外出土遺物〔3〕 縮尺１／３



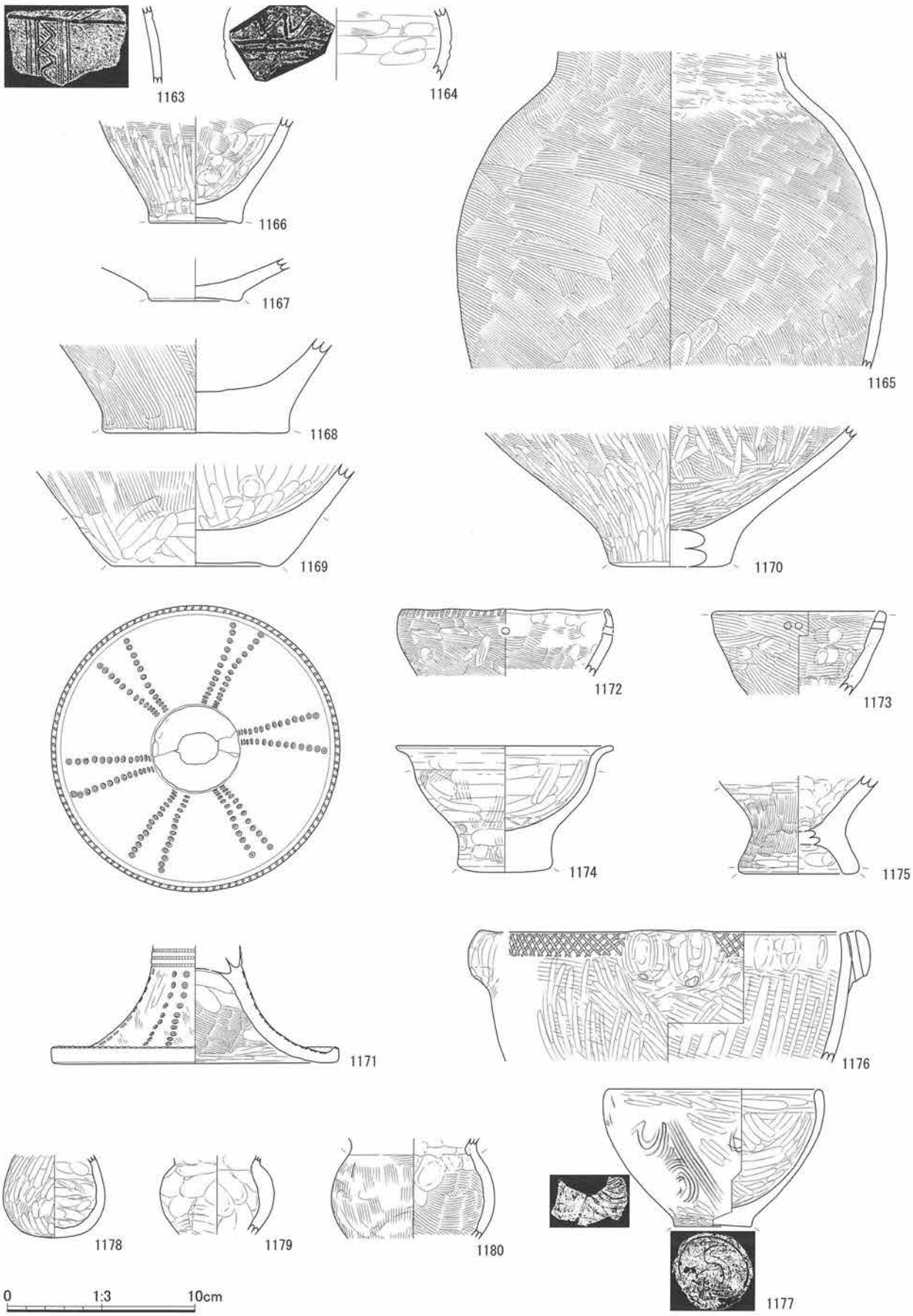
4区 遺構外出土遺物〔4〕 縮尺1／3



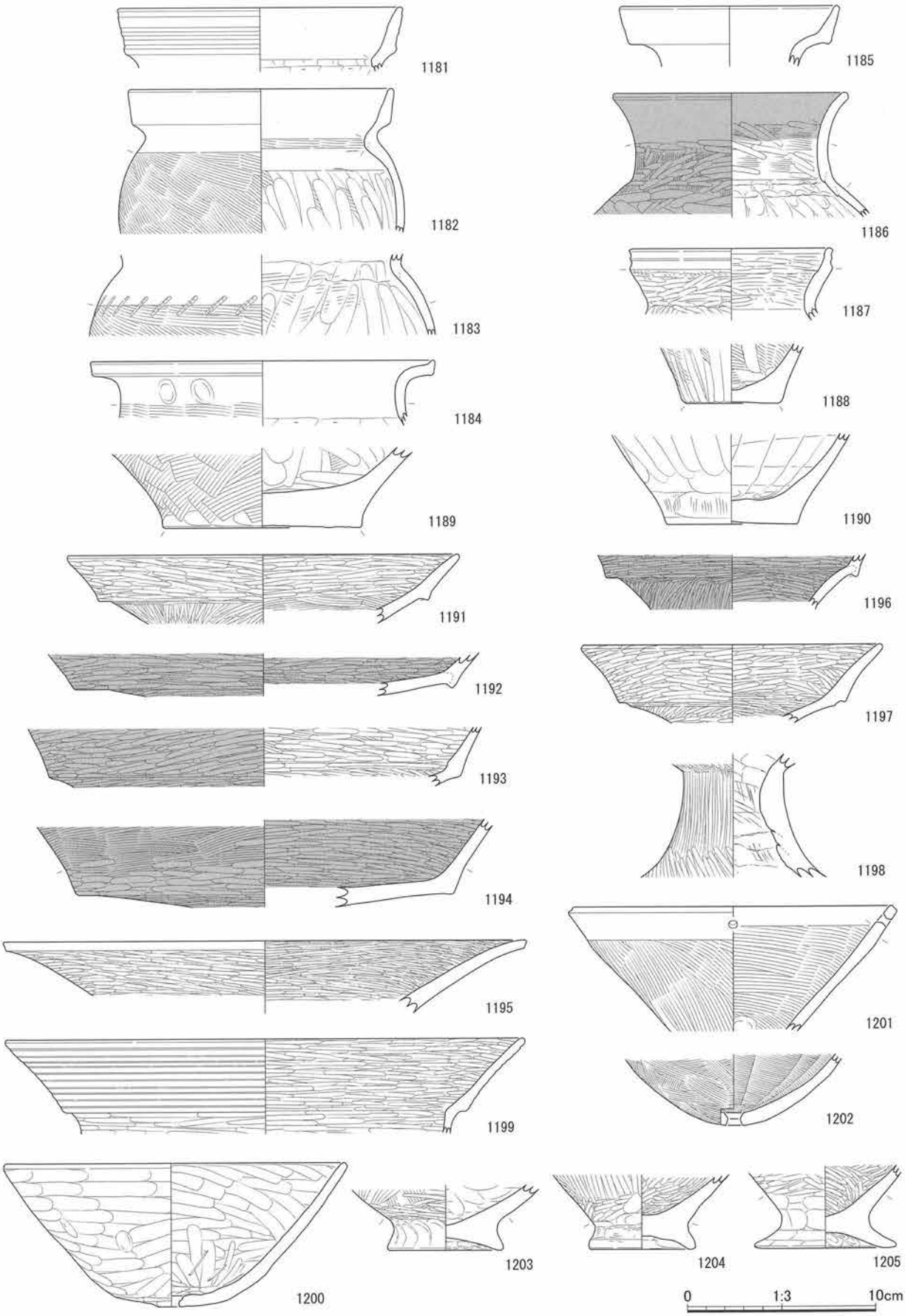
４区 遺構外出土遺物〔5〕 縮尺１／３



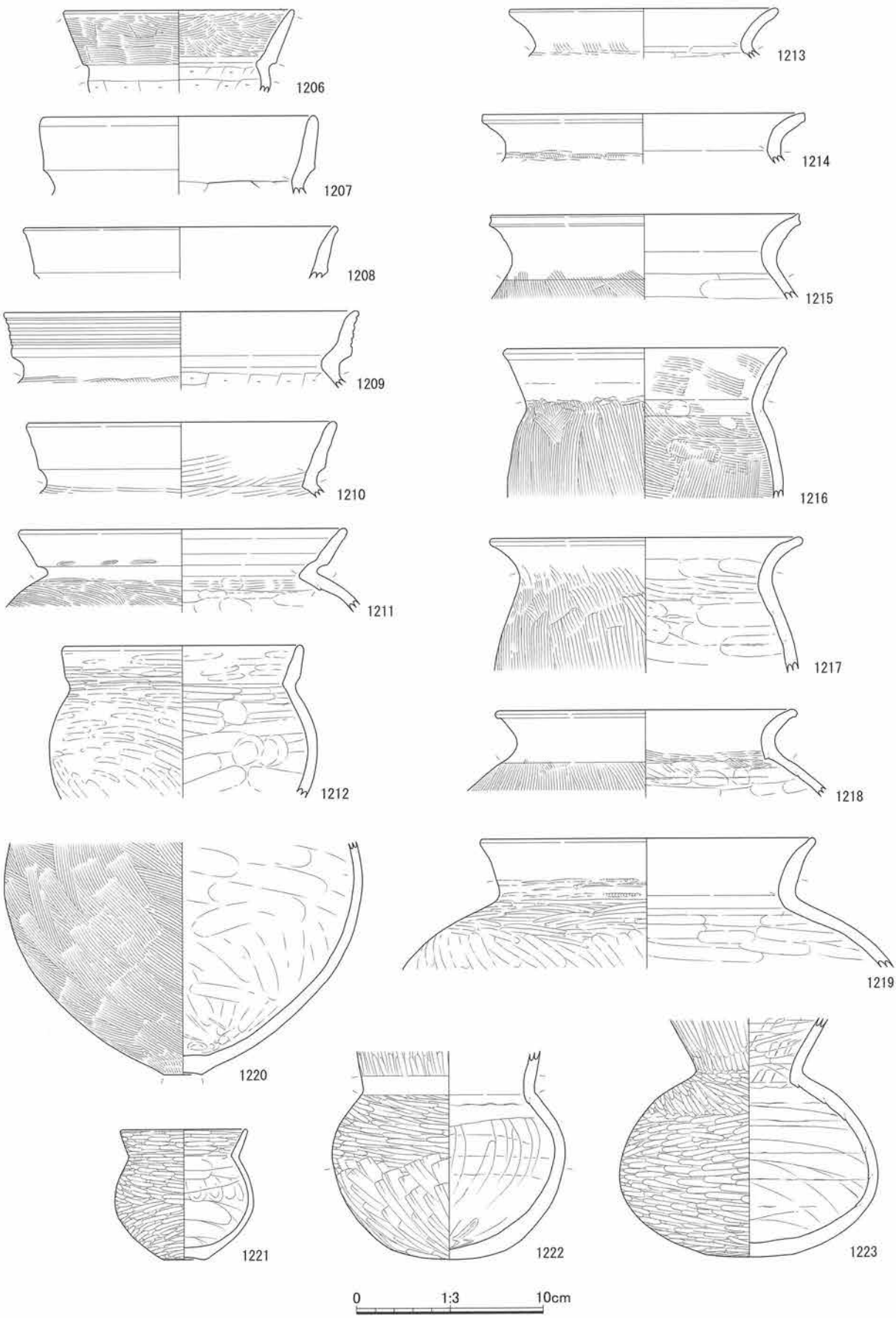
4区 遺構外出土遺物〔6〕 縮尺1／3



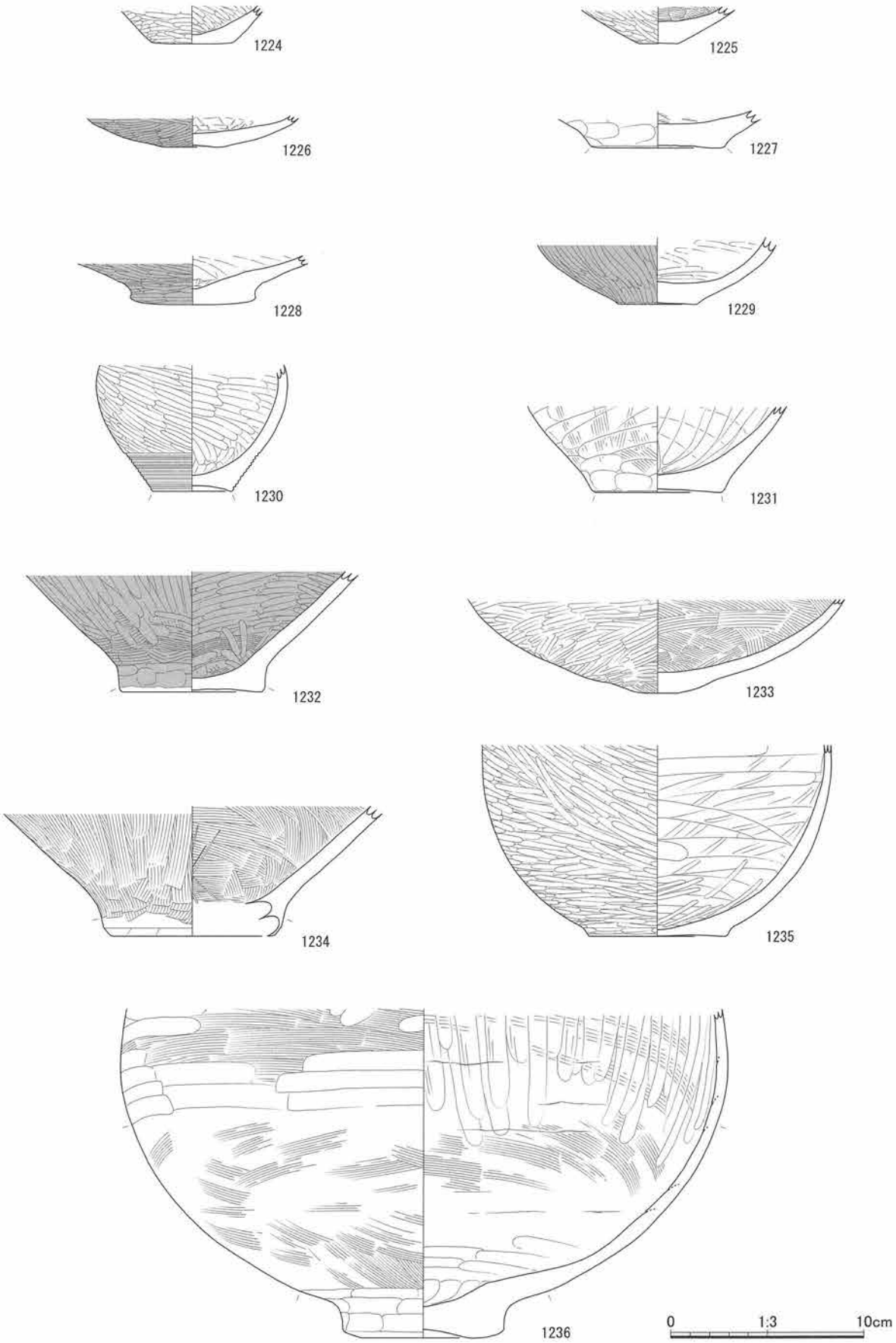
4区 遺構外出土遺物〔7〕 縮尺1／3



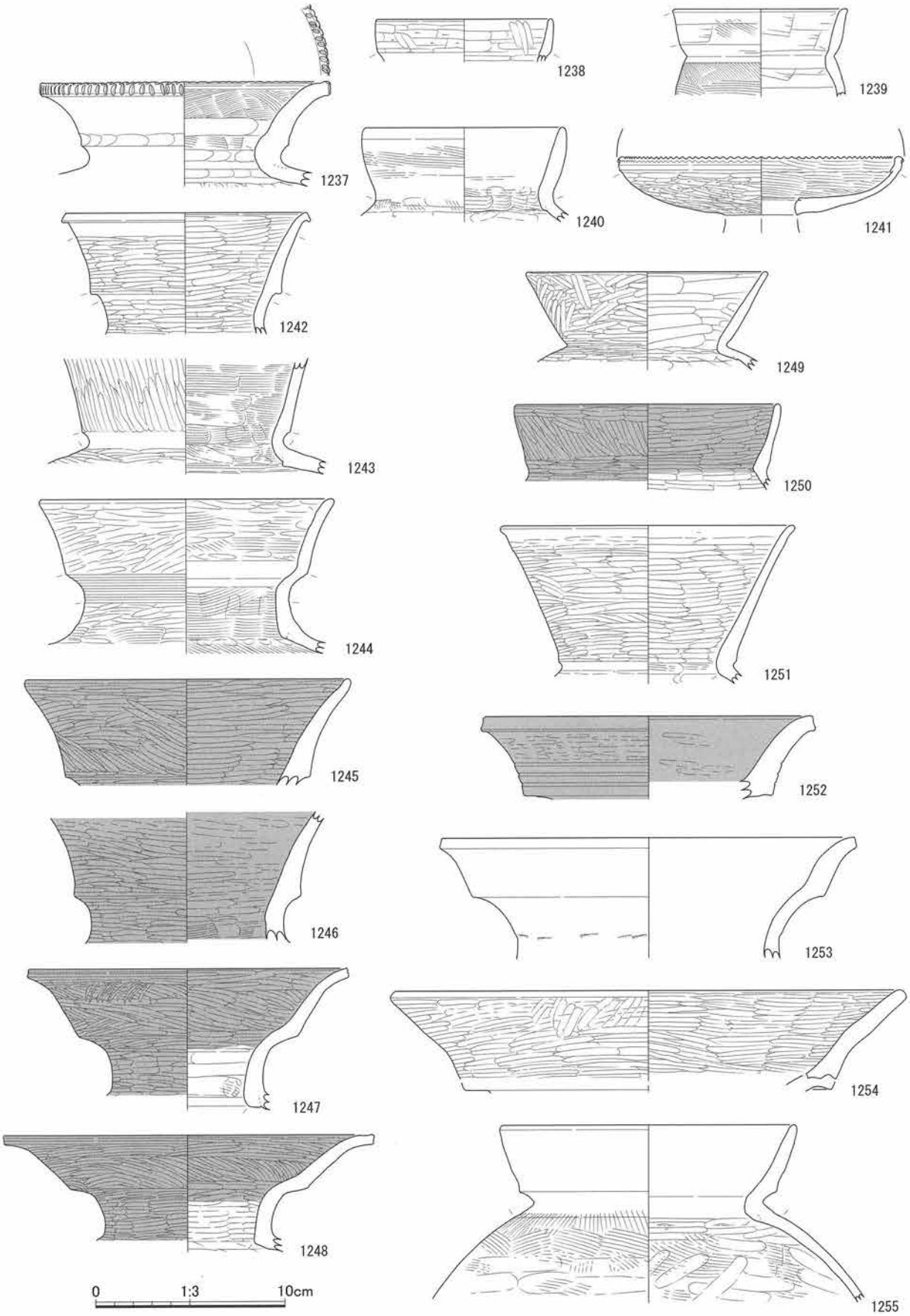
４区 遺構外出土遺物〔8〕 縮尺１／３



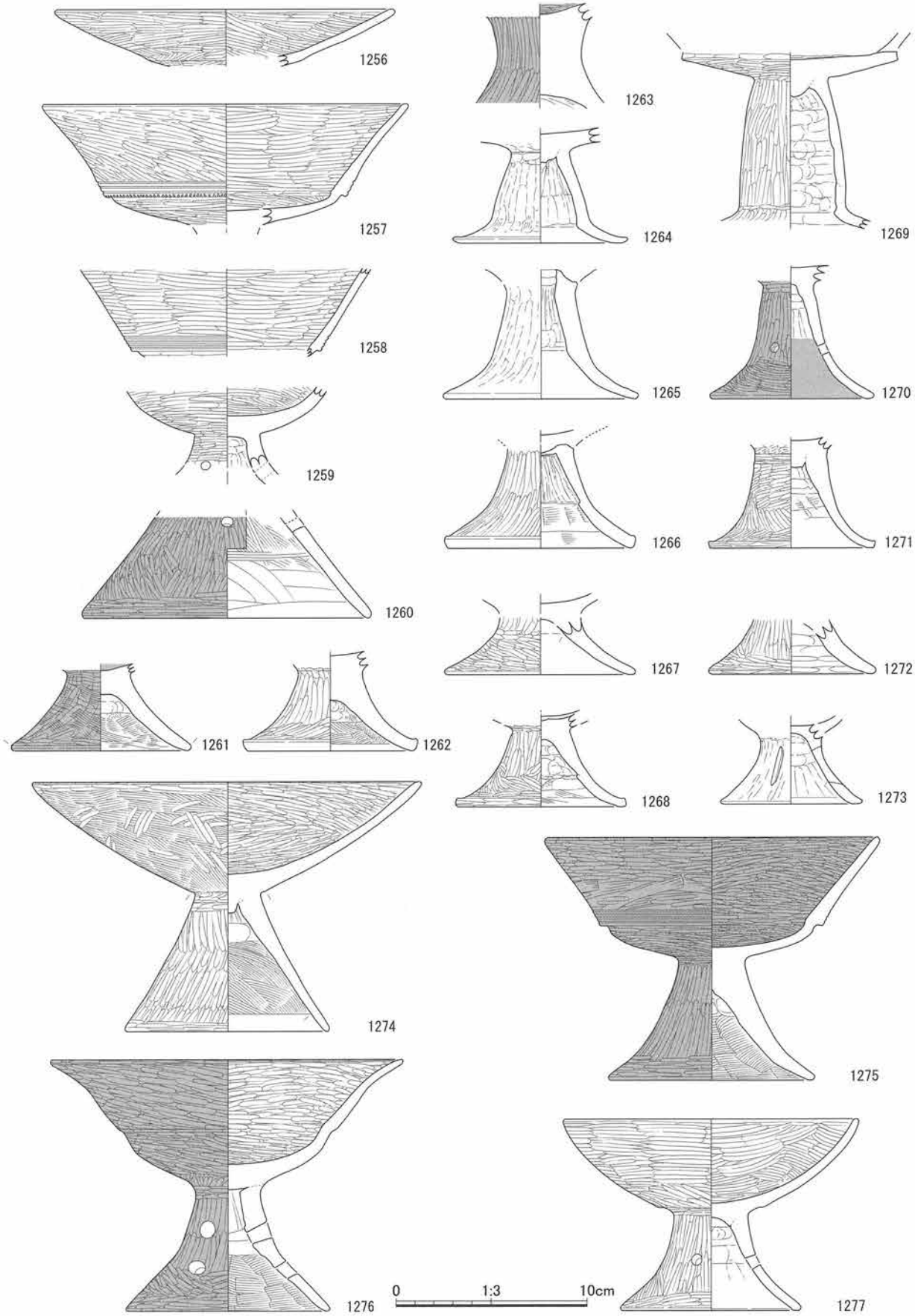
4区 遺構外出土遺物〔9〕 縮尺1／3



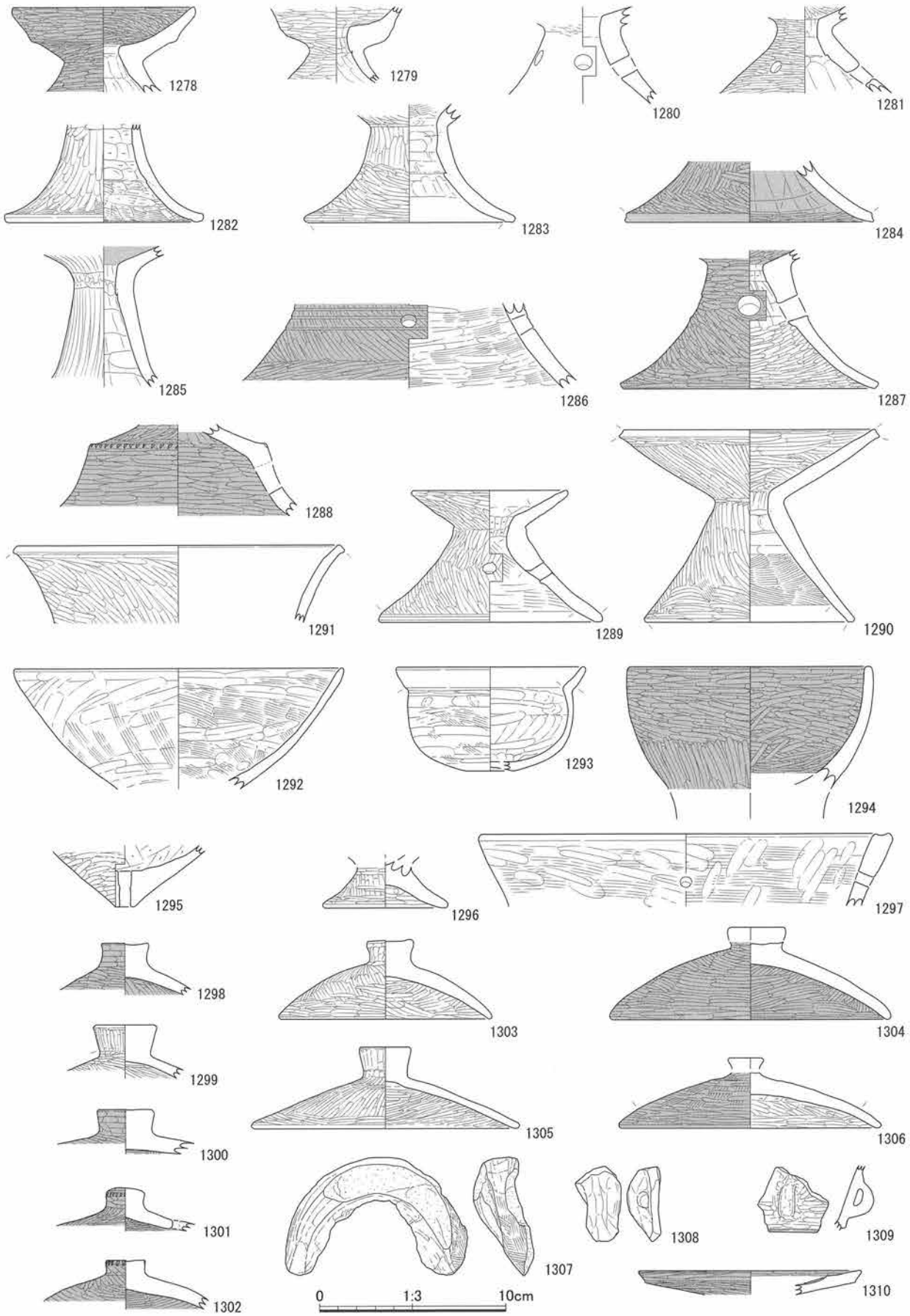
４区 遺構外出土遺物〔10〕 縮尺１／３



４区 遺構外出土遺物〔11〕 縮尺１／３

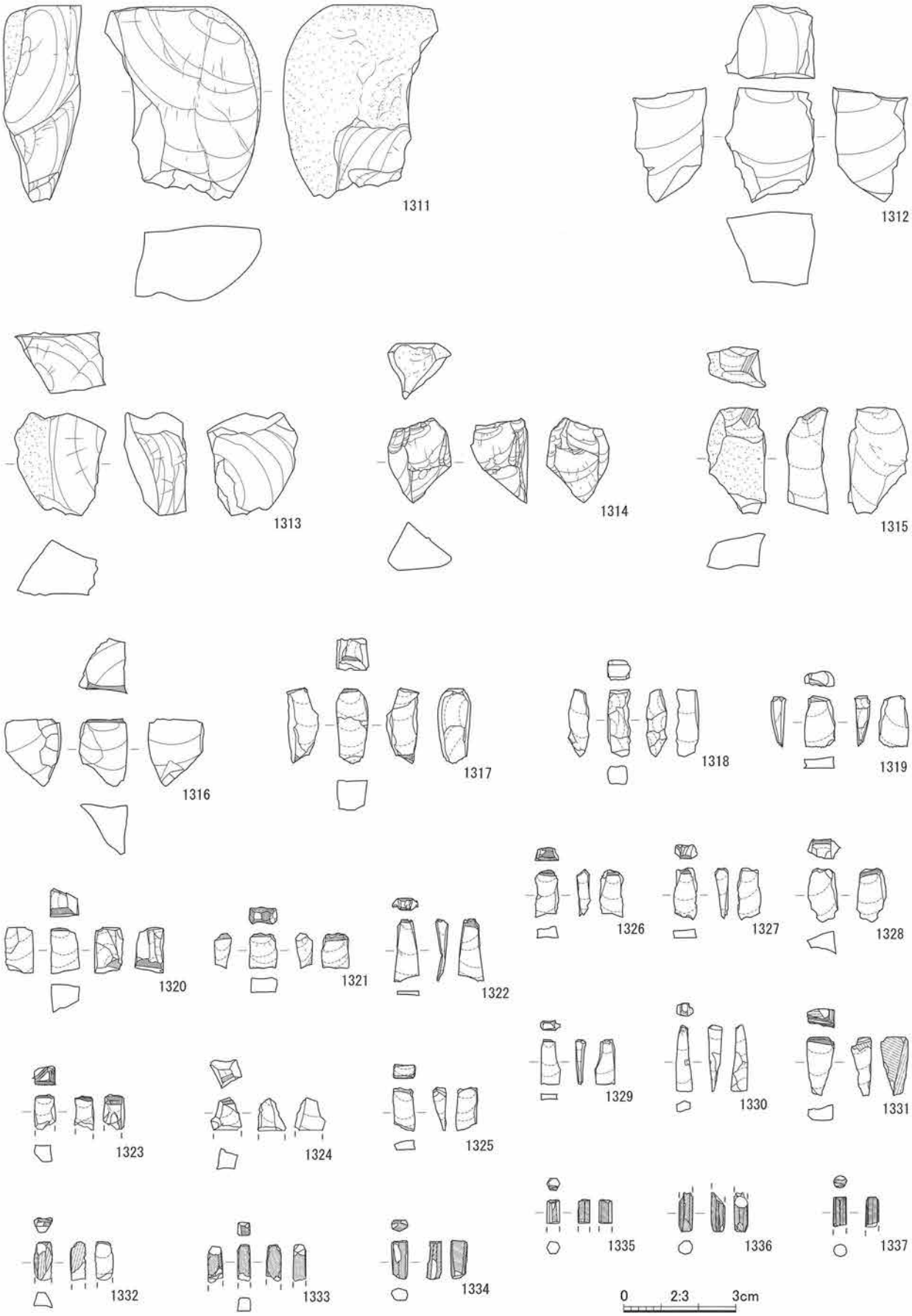


4区 遺構外出土遺物〔12〕 縮尺1／3



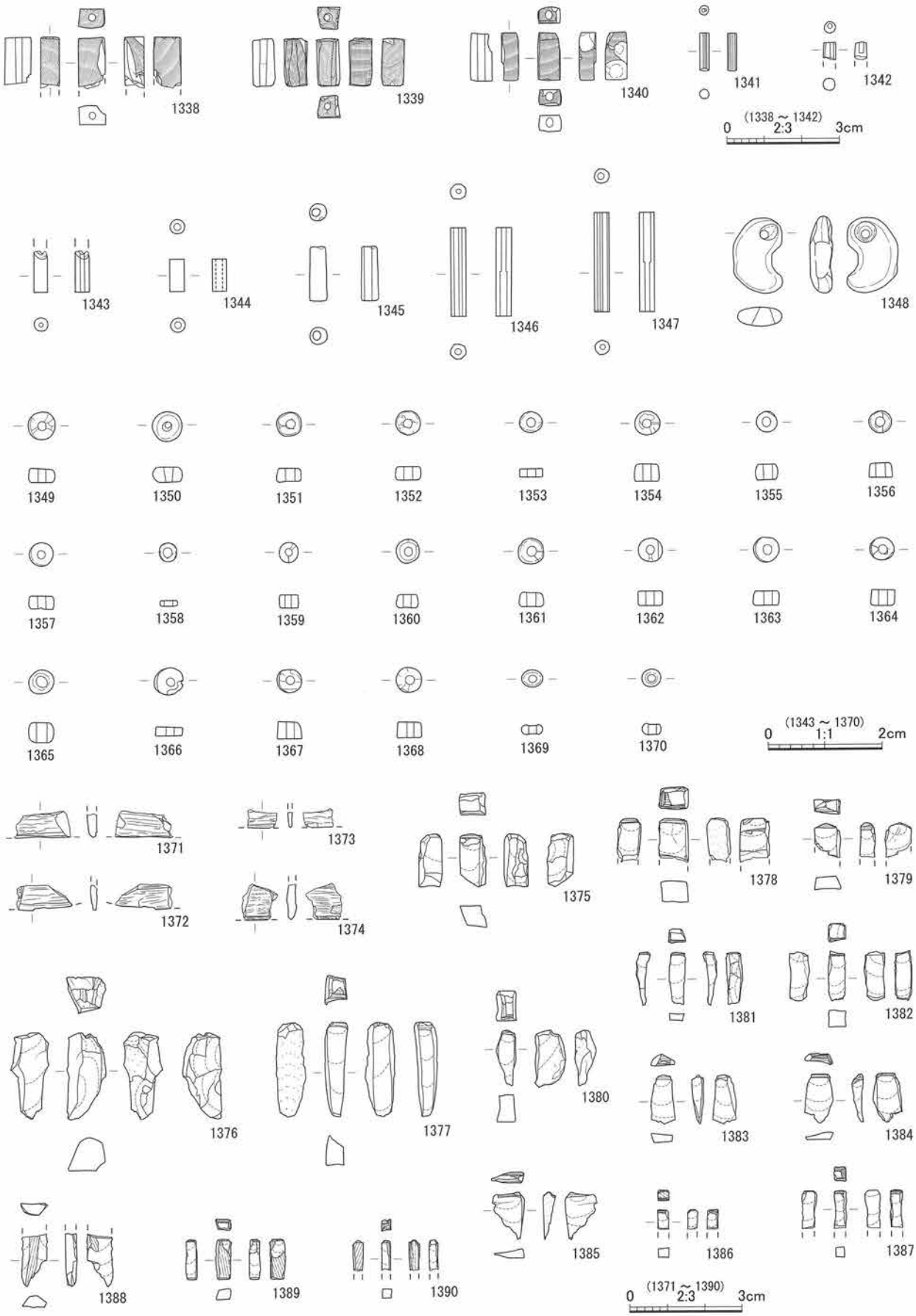
4区 遺構外出土遺物〔13〕 縮尺1／3

図面一七三　遺物実測図（4区）



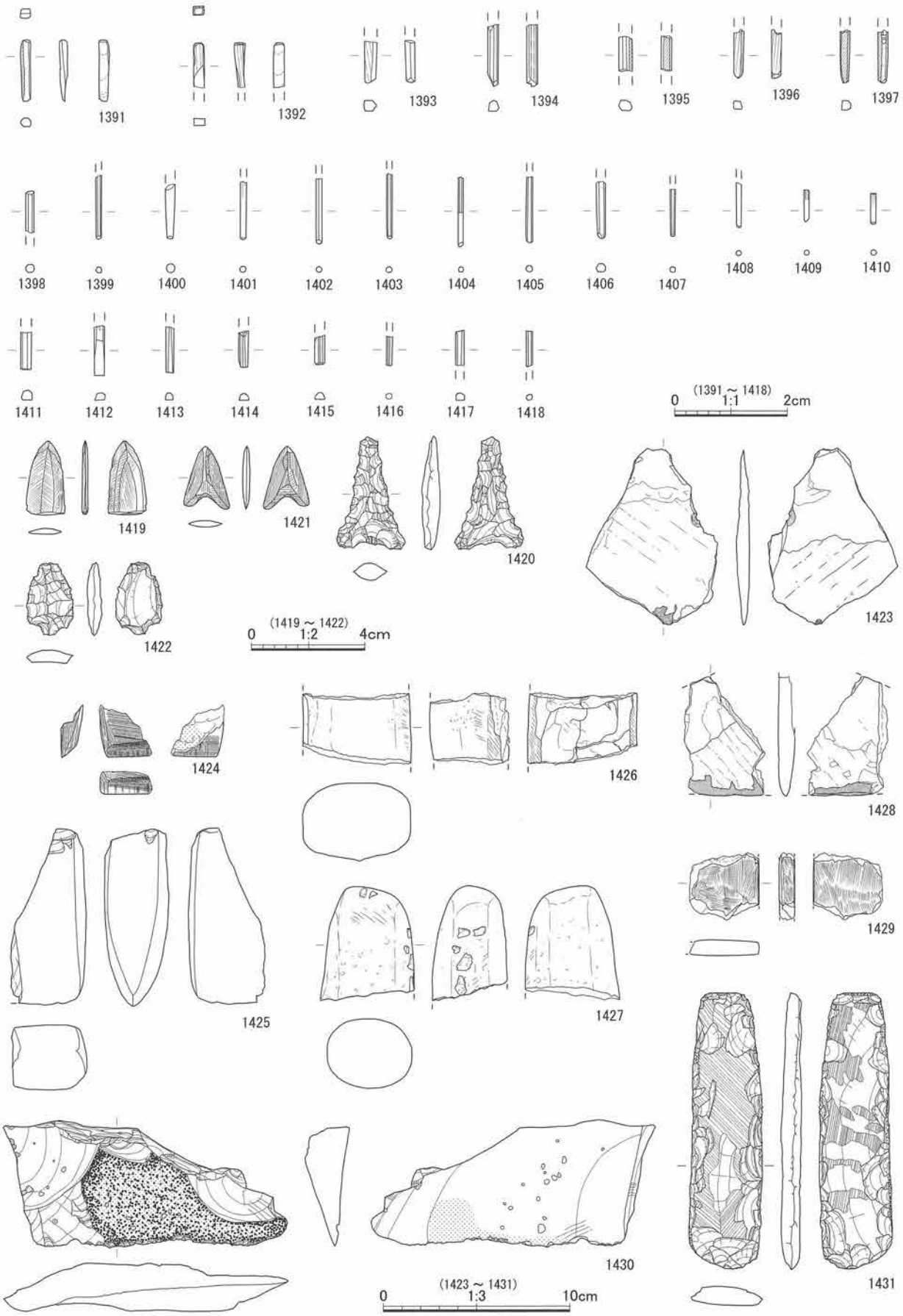
4区 玉作関連出土遺物〔1〕 縮尺2／3

図面一七四　遺物実測図（4区）

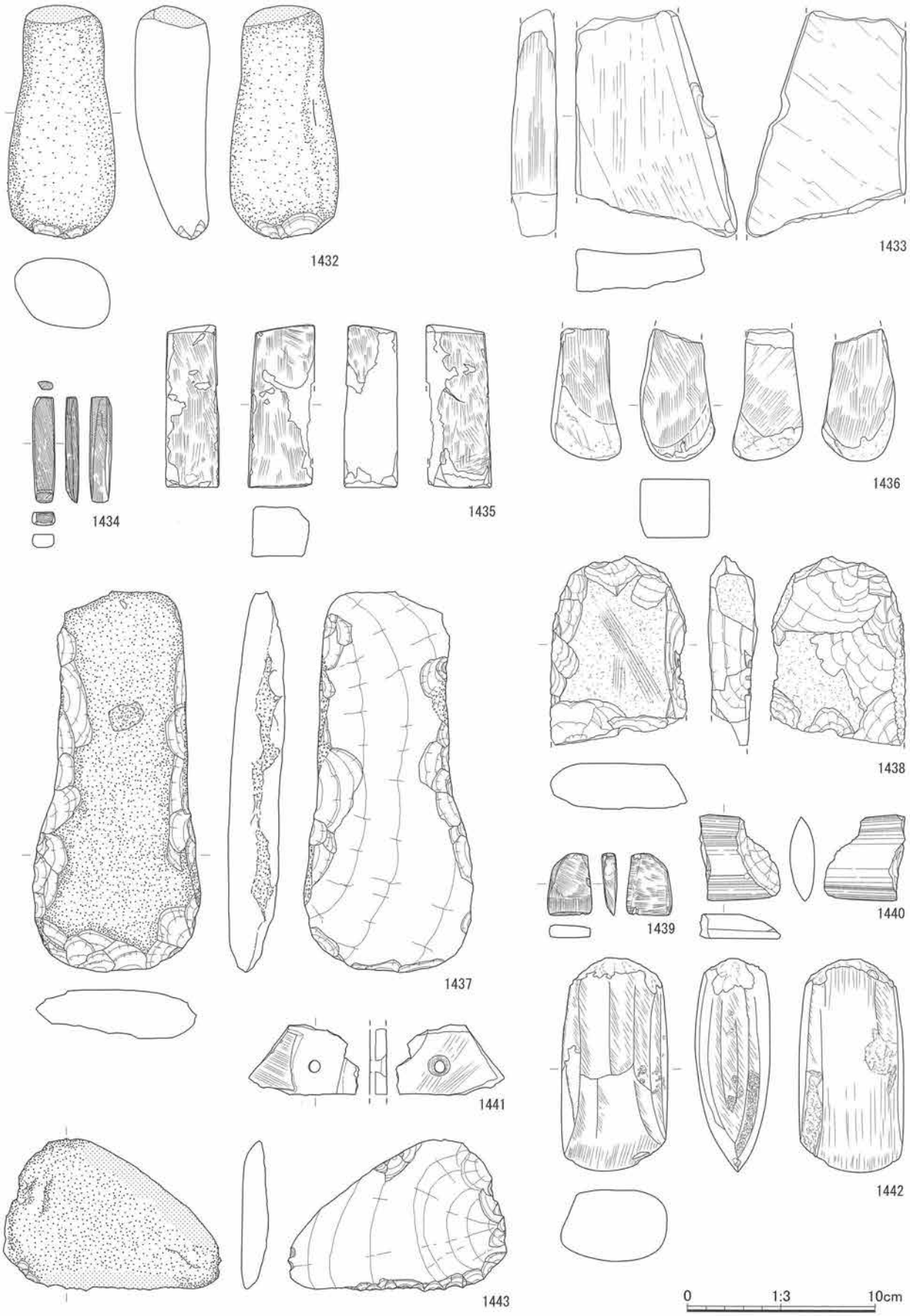


4区 玉作関連出土遺物〔2〕 縮尺2／3、1／1

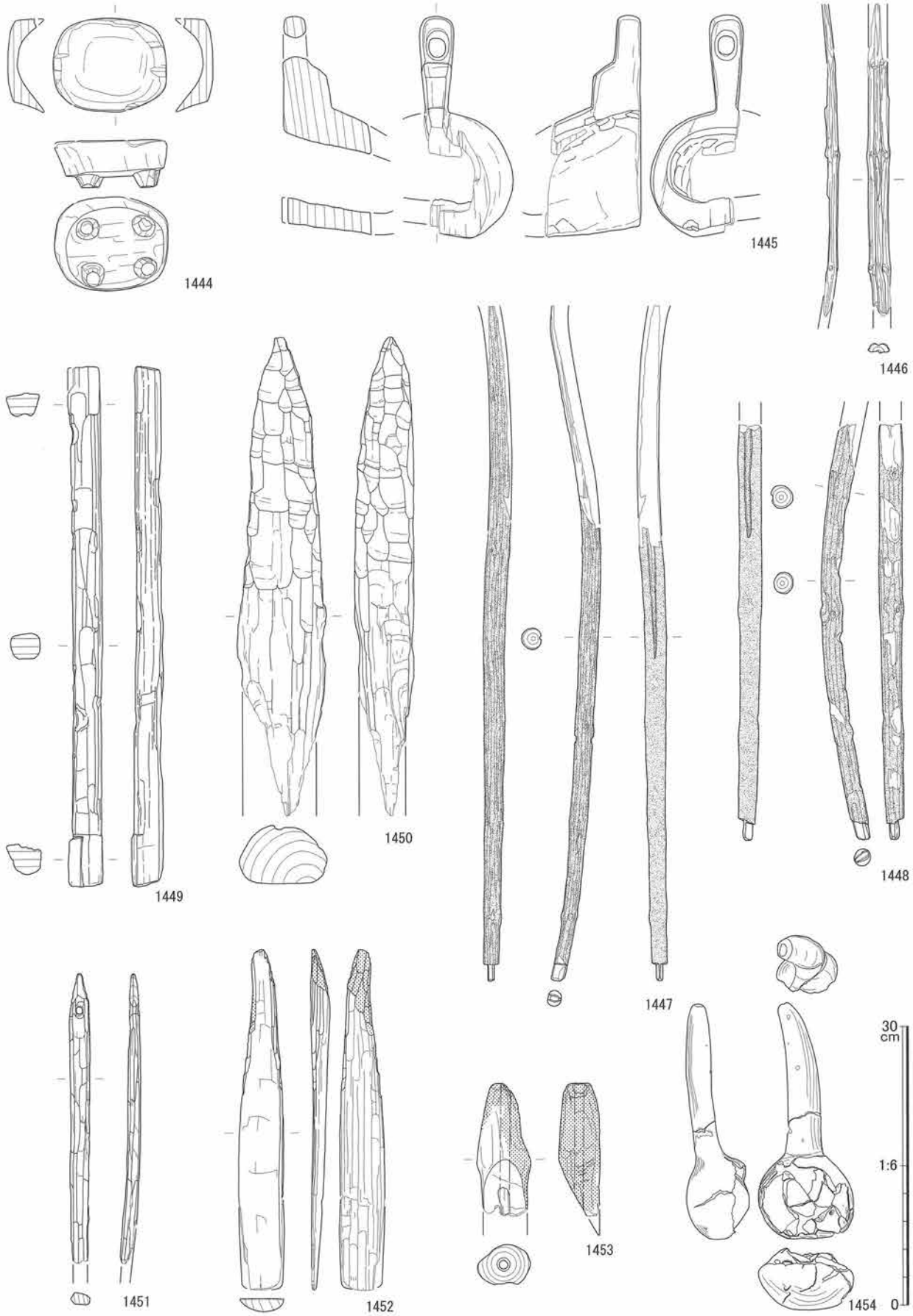
図面一七五　遺物実測図（4区）



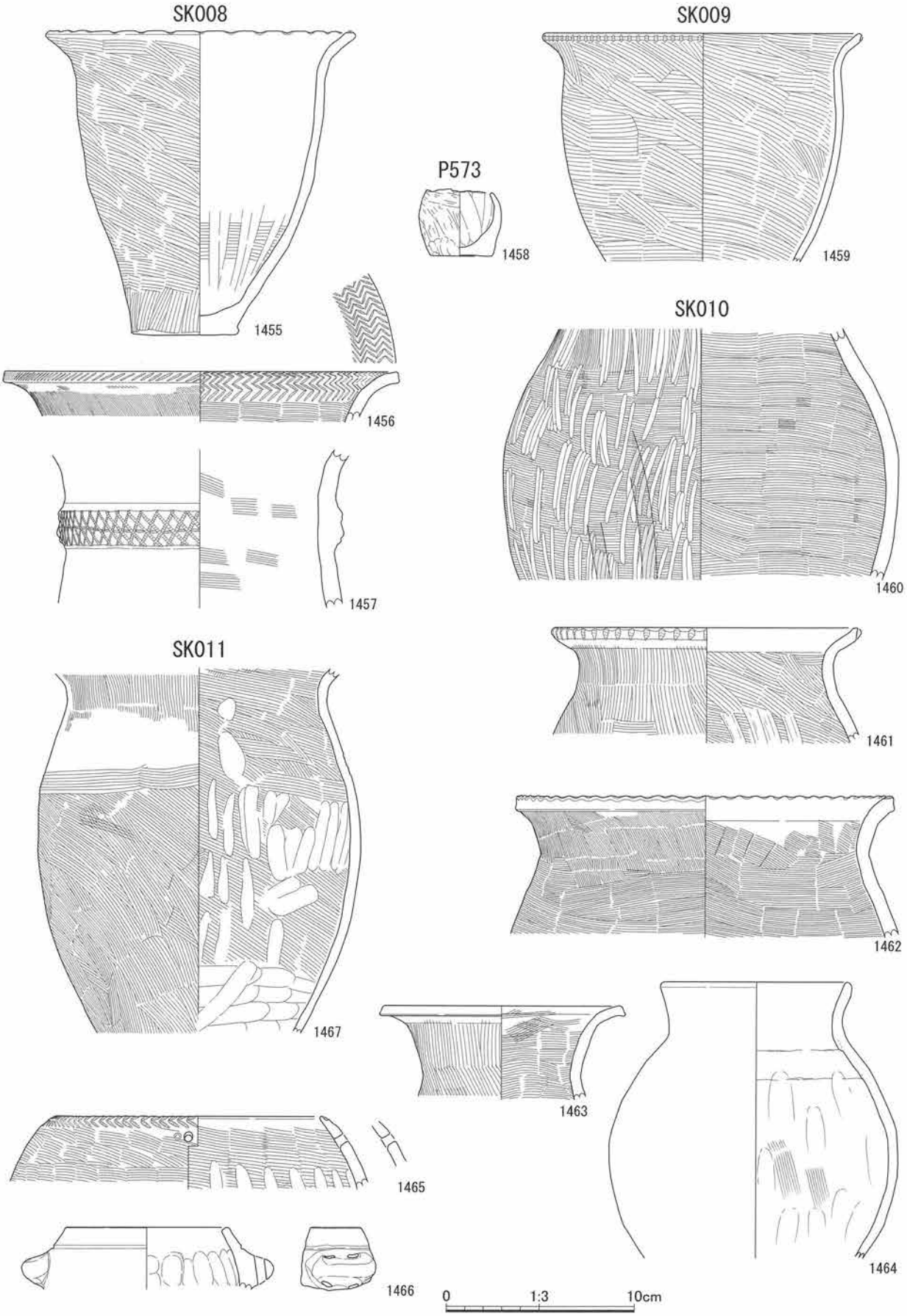
4区 玉作関連出土遺物、遺構内出土石器　縮尺1／1、1／2、1／3



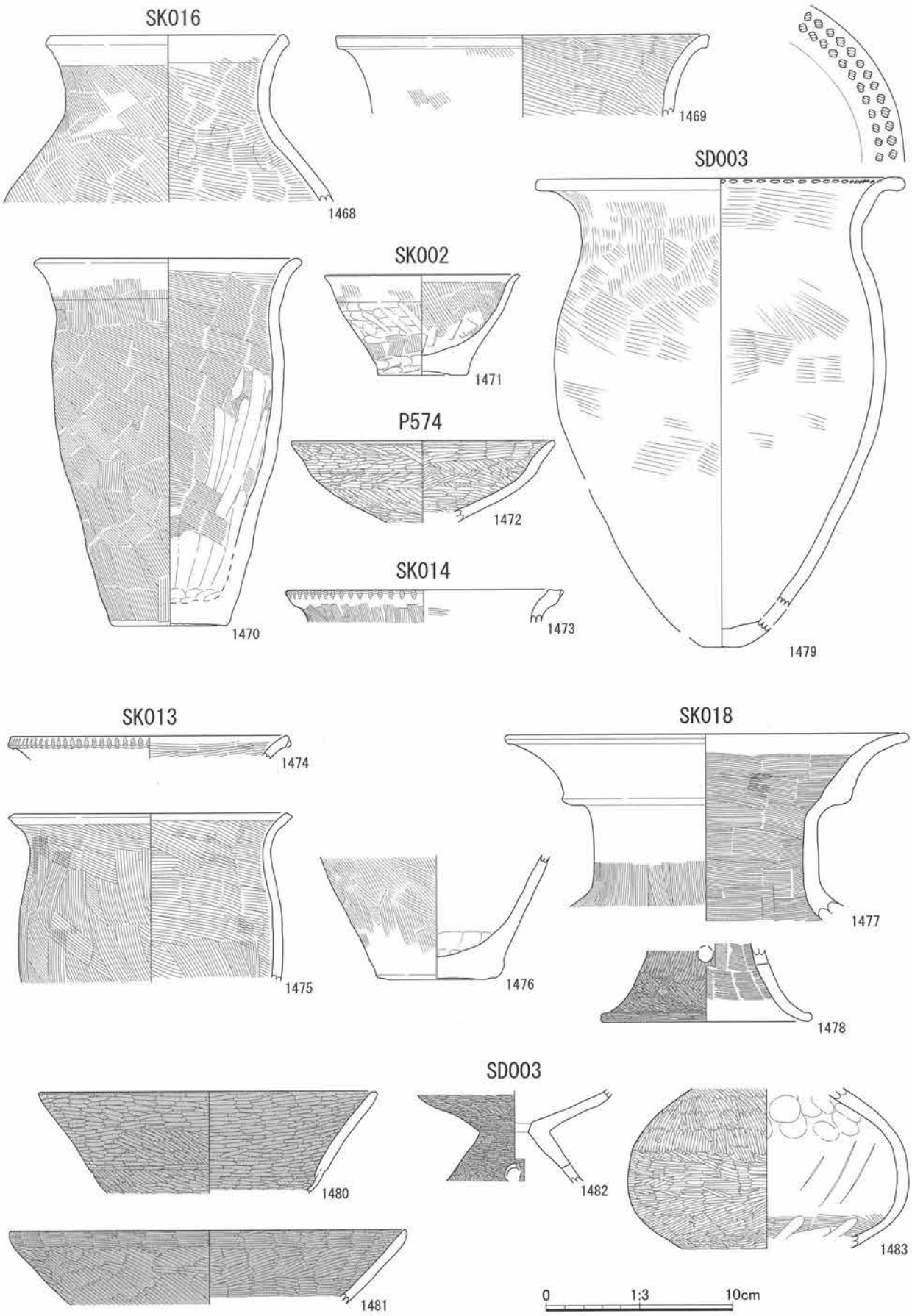
４区 溝 SD004、遺構外出土石器　縮尺１／３



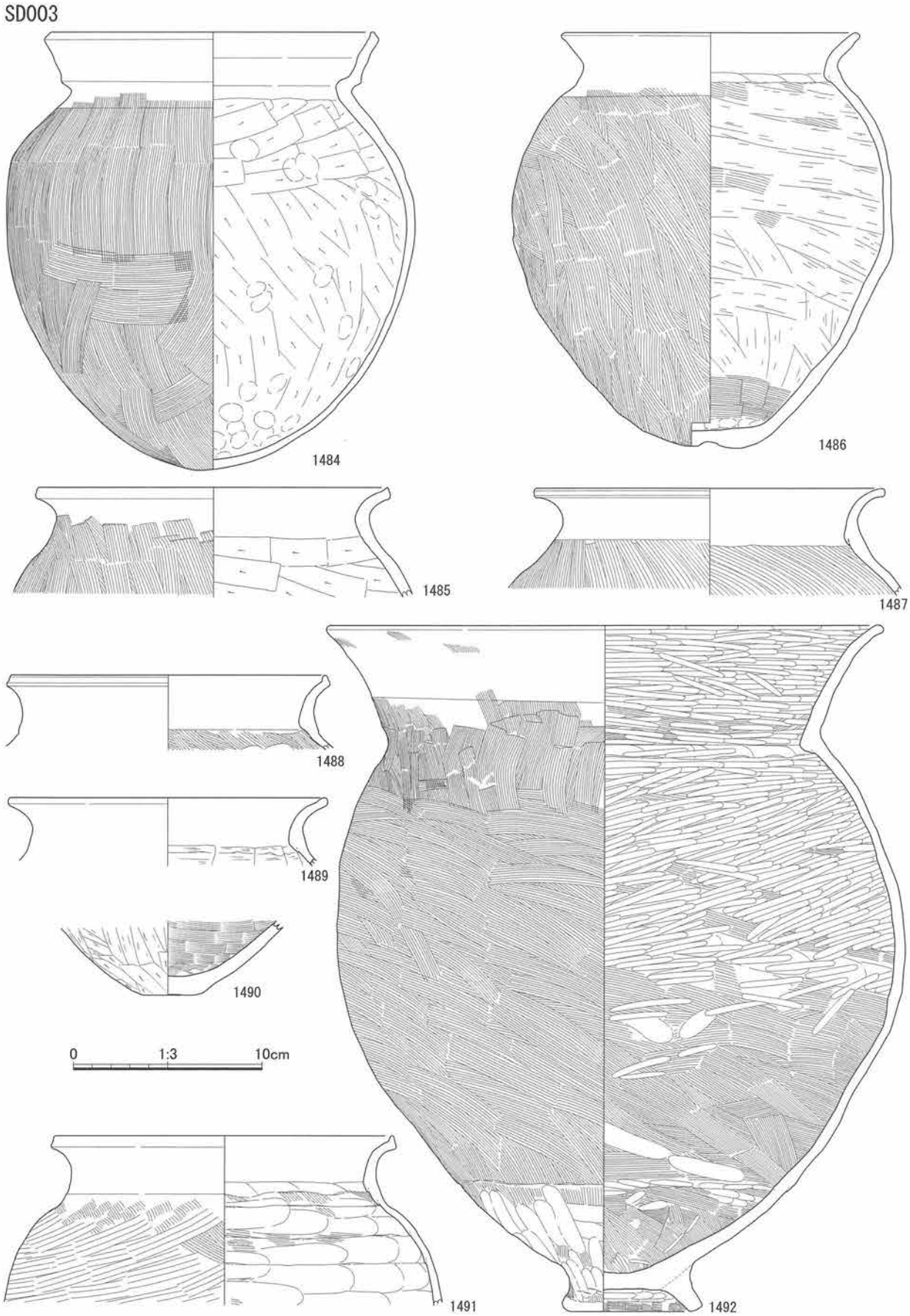
４区 溝 SD004 出土木製品　縮尺１／６



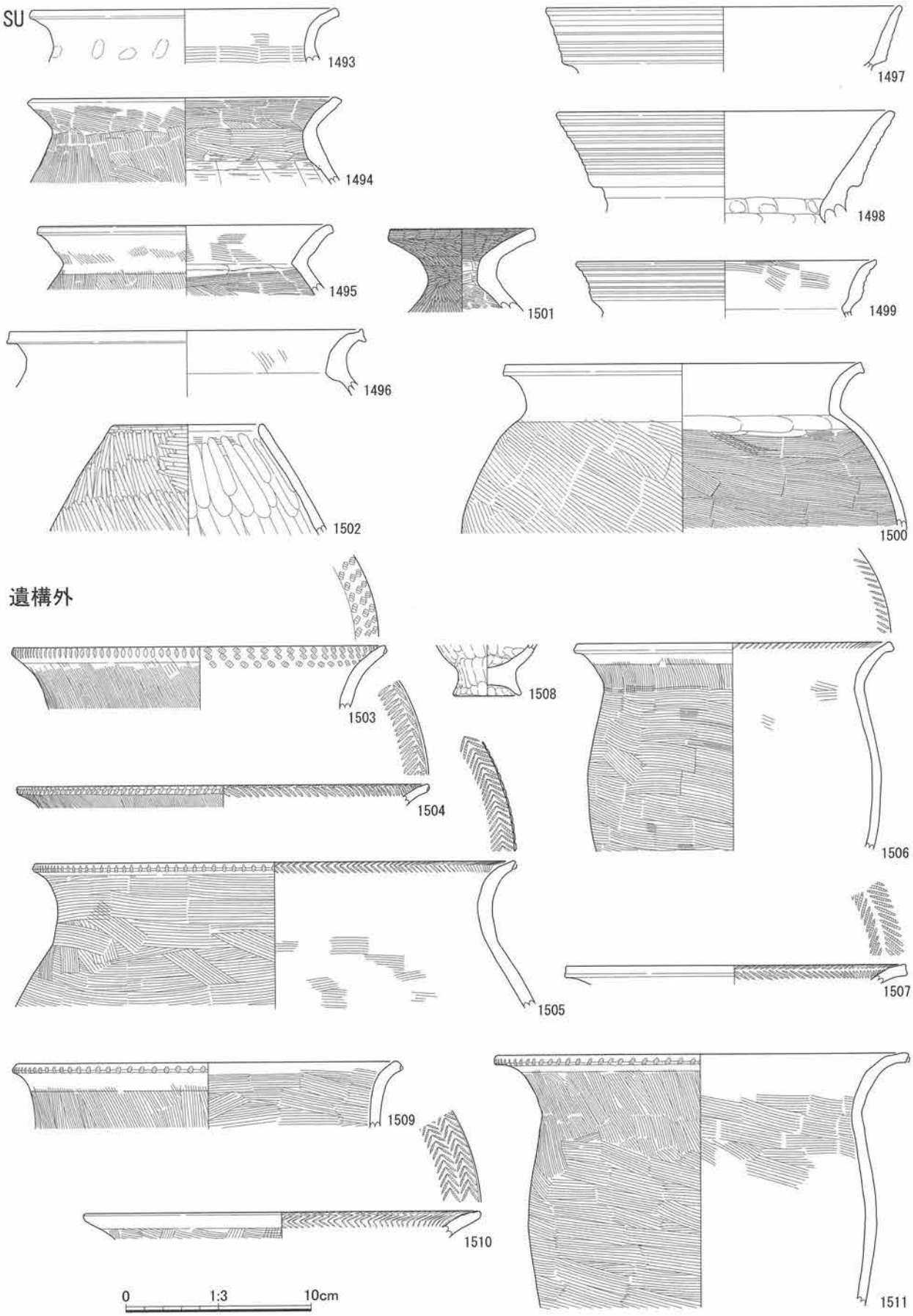
5区 土坑 SK008 ～ SK011、P573 出土遺物　縮尺 1／3



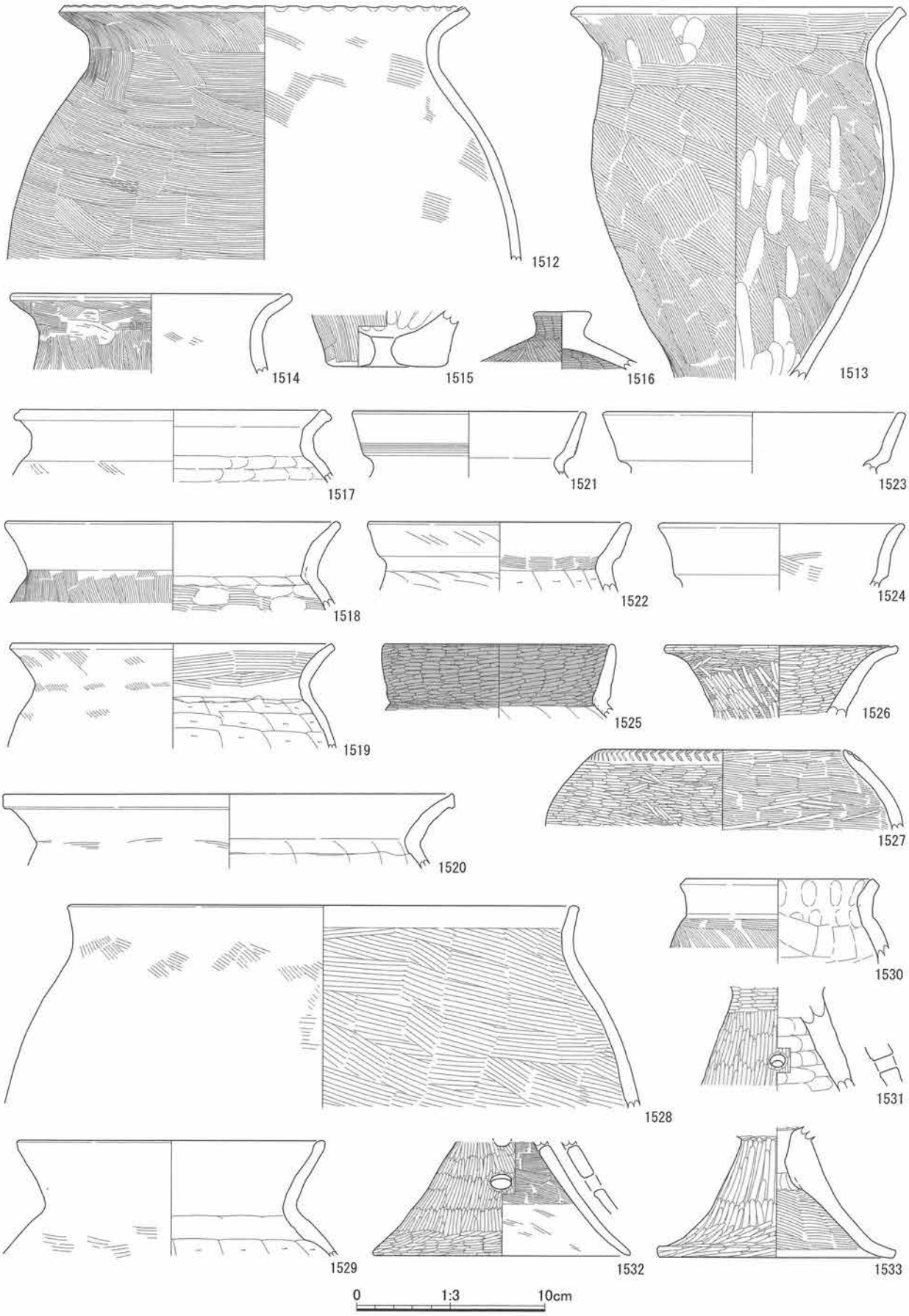
5区 土坑 SK002・SK013・SK016・SK018、P574、溝 SD003 出土遺物　縮尺 1／3



５区 溝 SD003 出土遺物　縮尺１／３

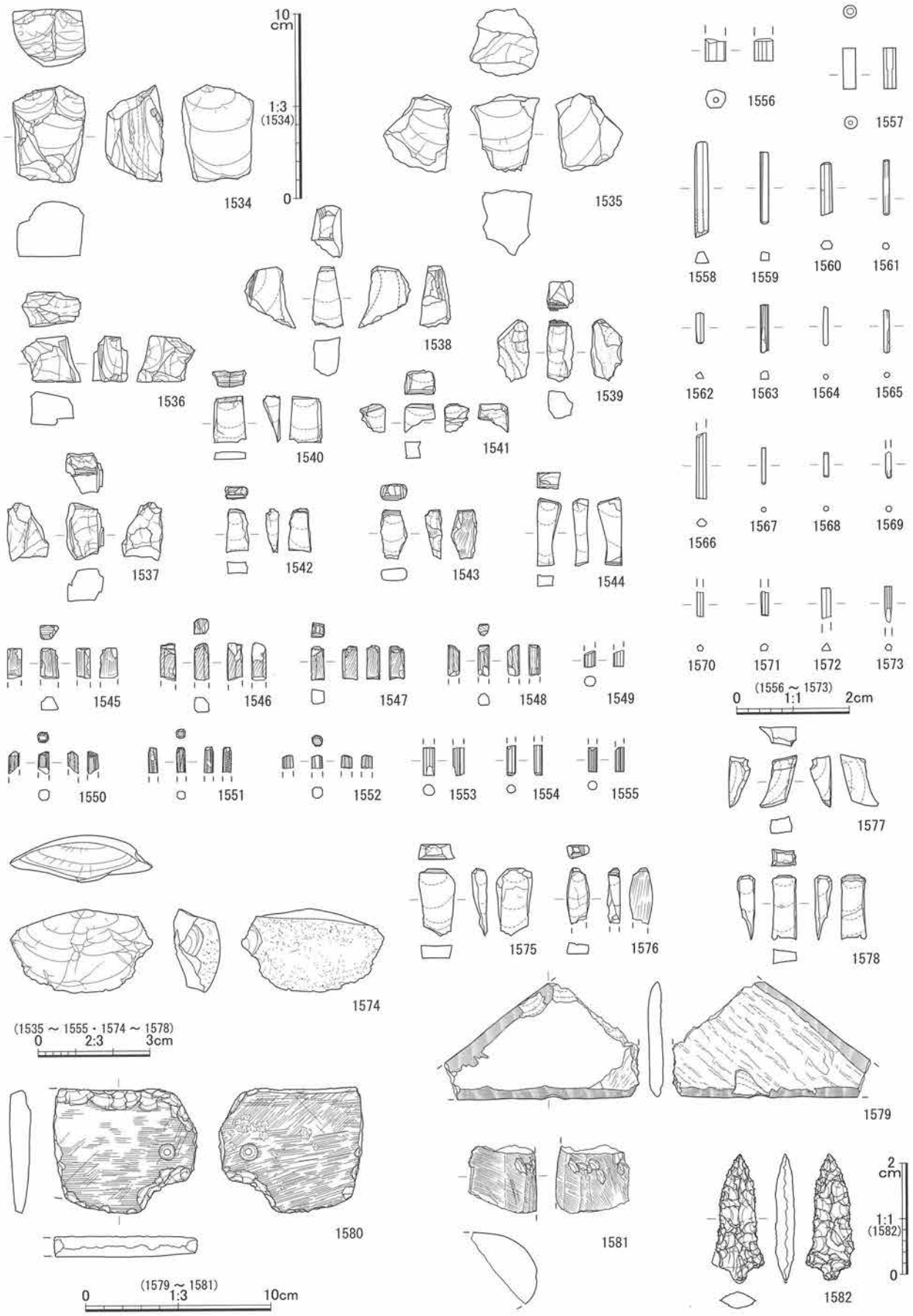


5区 畝状遺構 SU、遺構外出土遺物　縮尺1／3

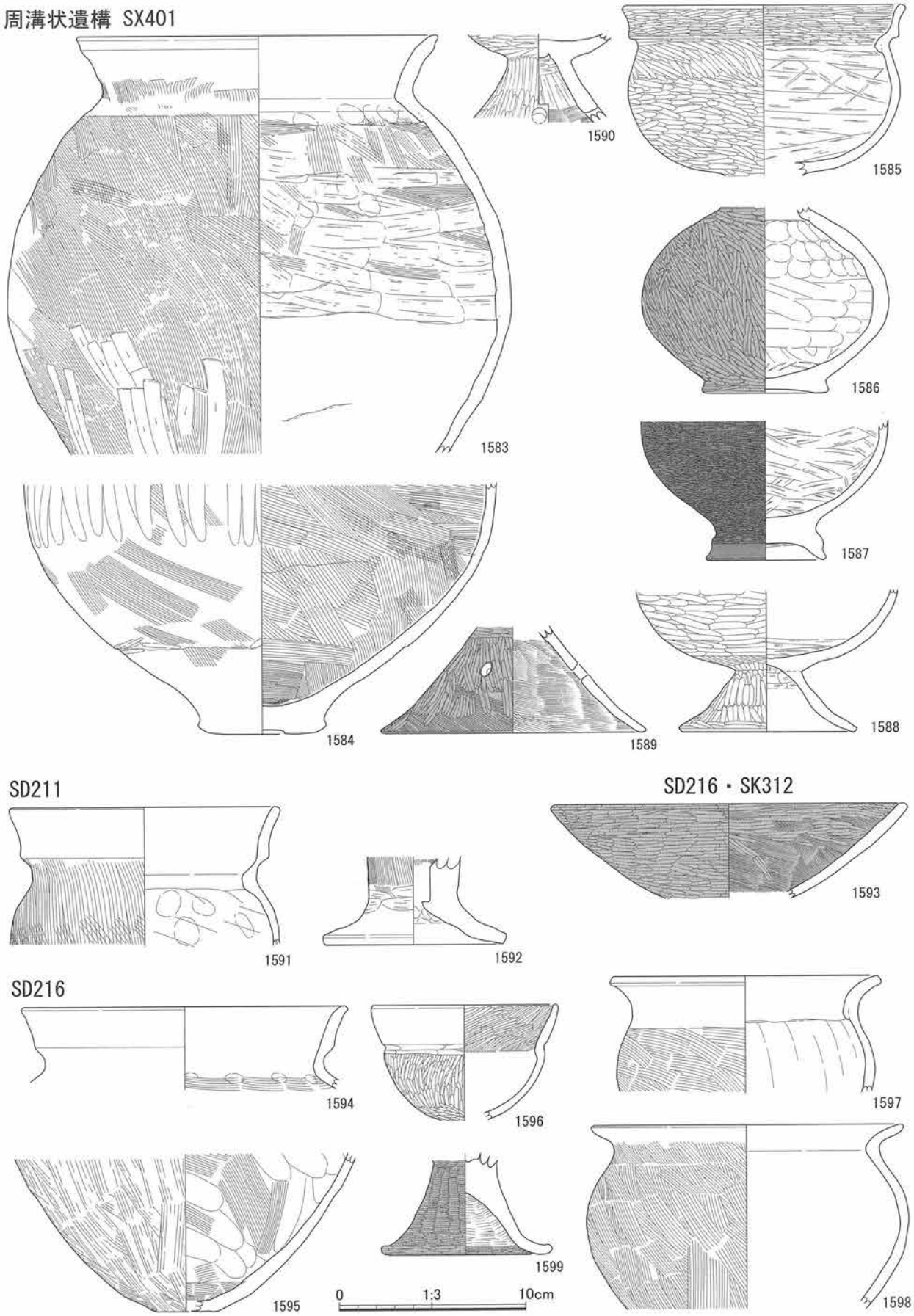


５区 遺構外出土遺物　縮尺１／３

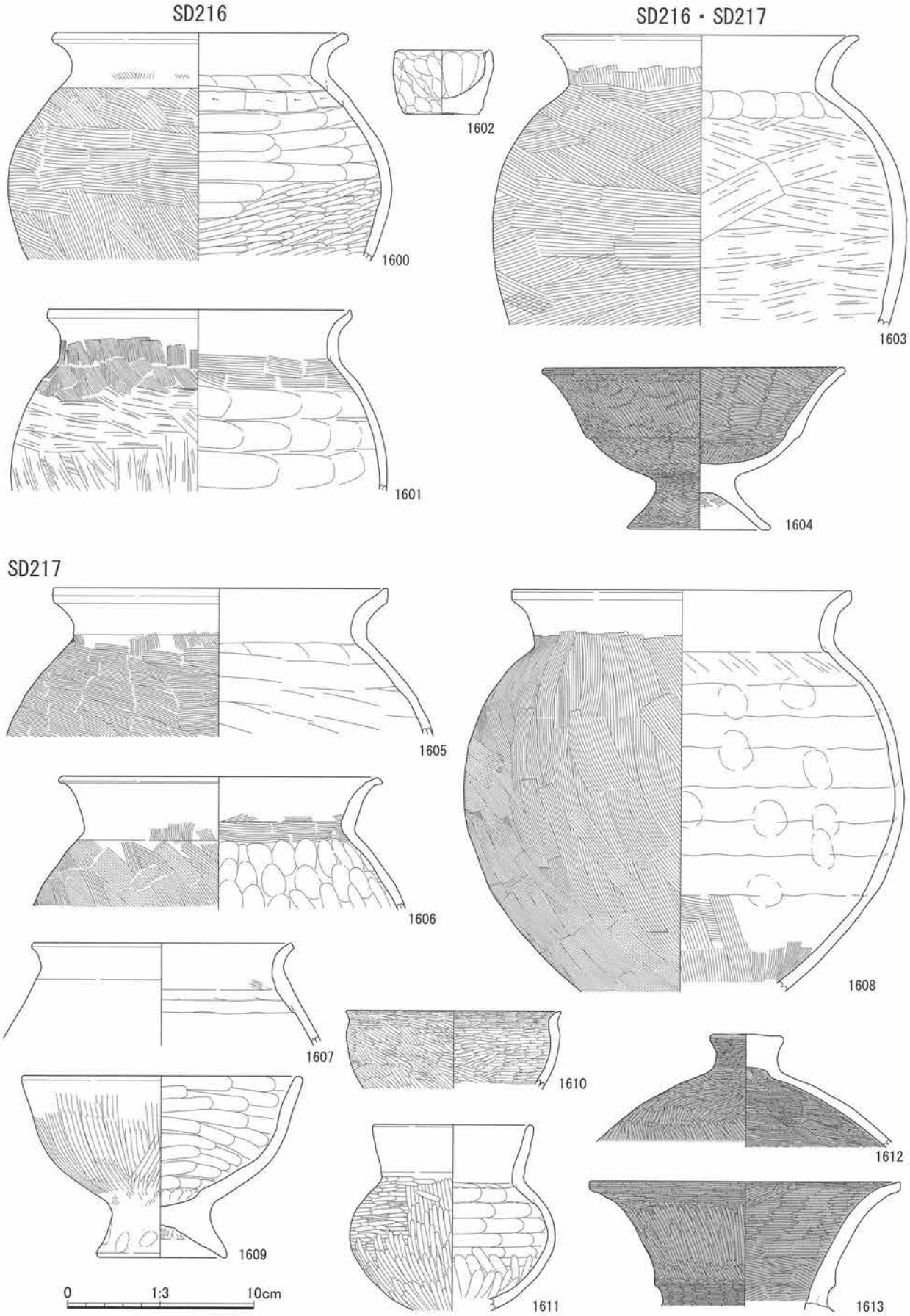
図面一八三　遺物実測図（5区）



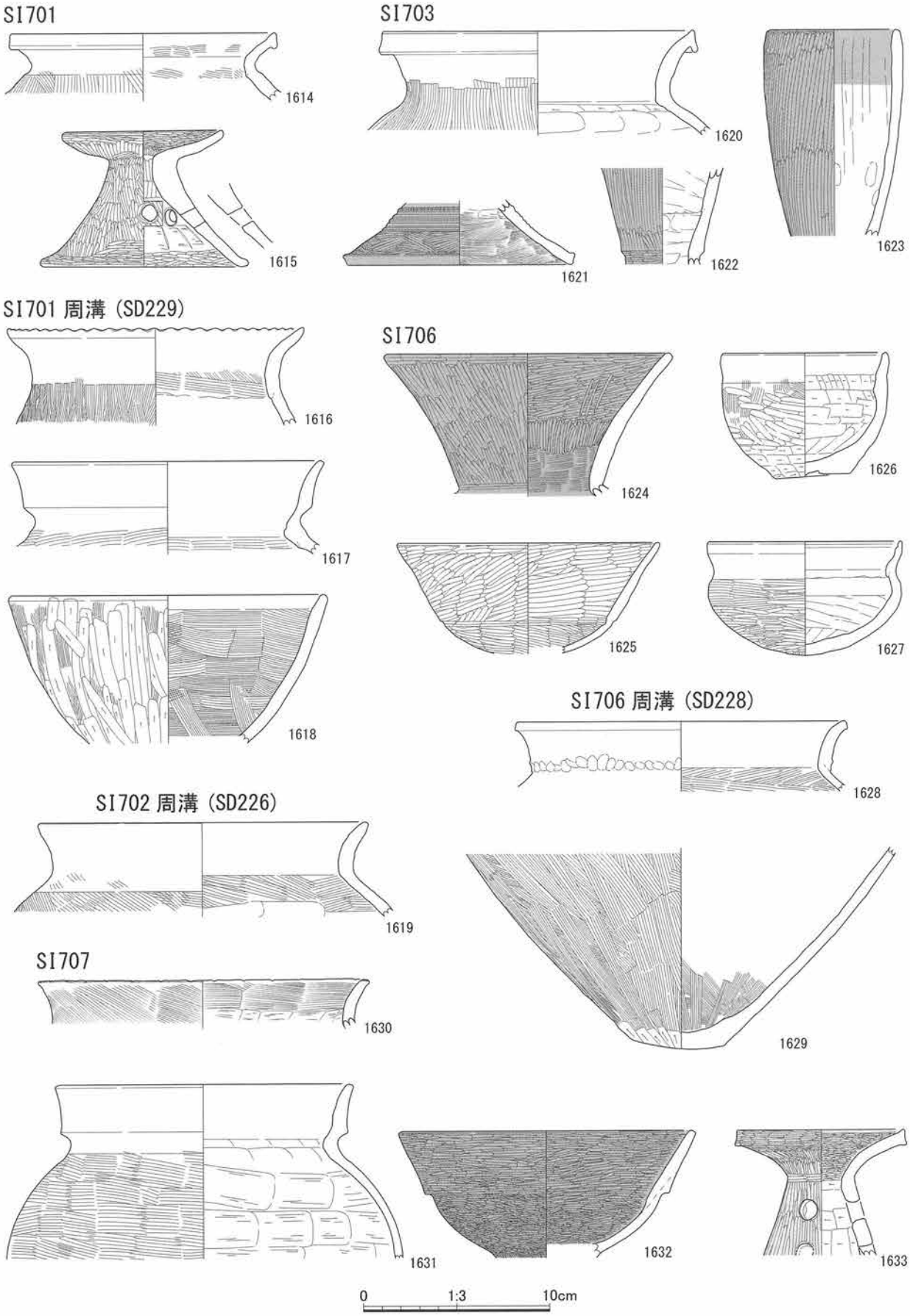
5区 玉作関連出土遺物、石器　縮尺1／3、2／3、1／1、1／2



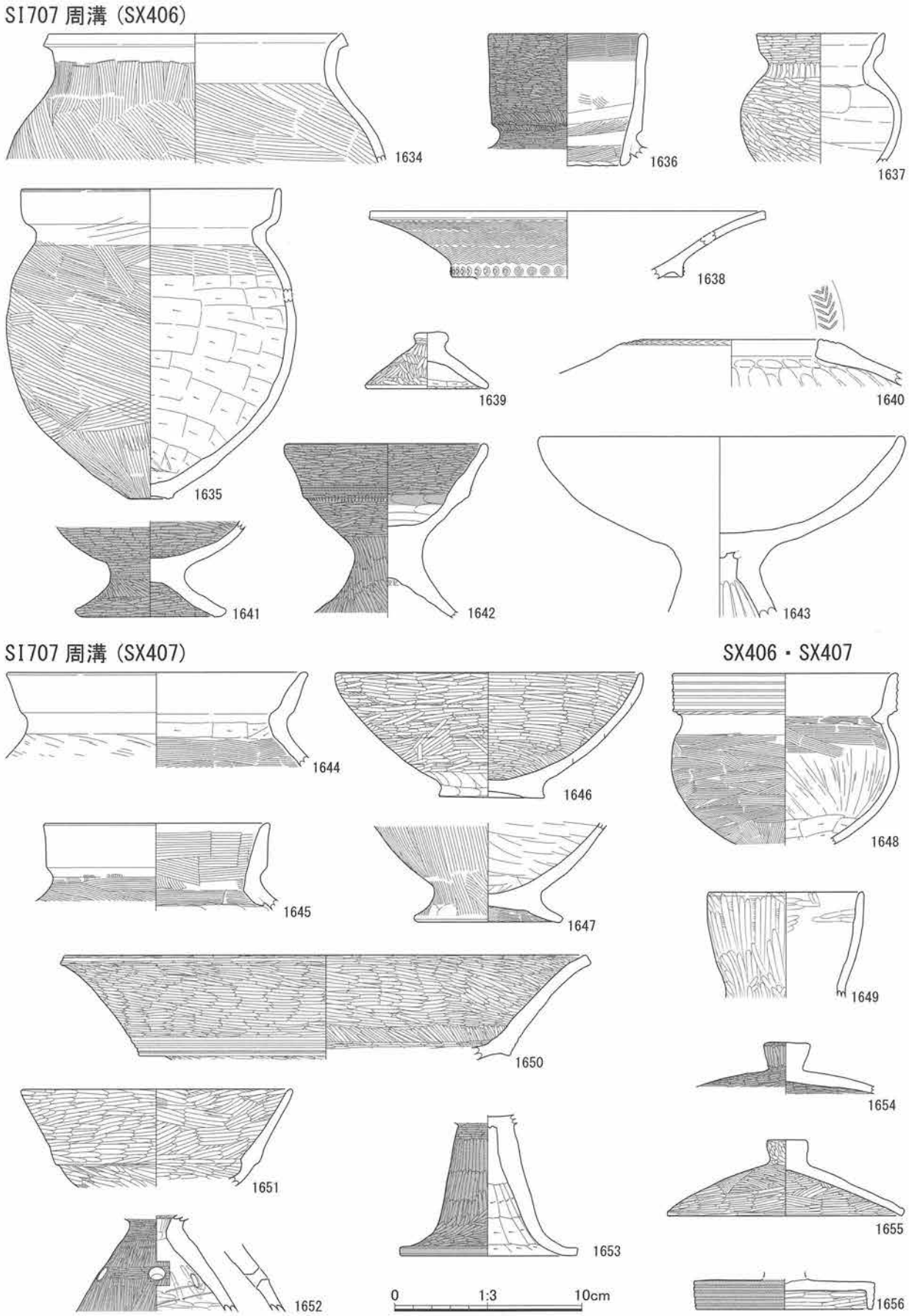
６区 周溝状遺構出土遺物〔1〕 縮尺１／３



６区 周溝状遺構出土遺物〔2〕 縮尺１／３

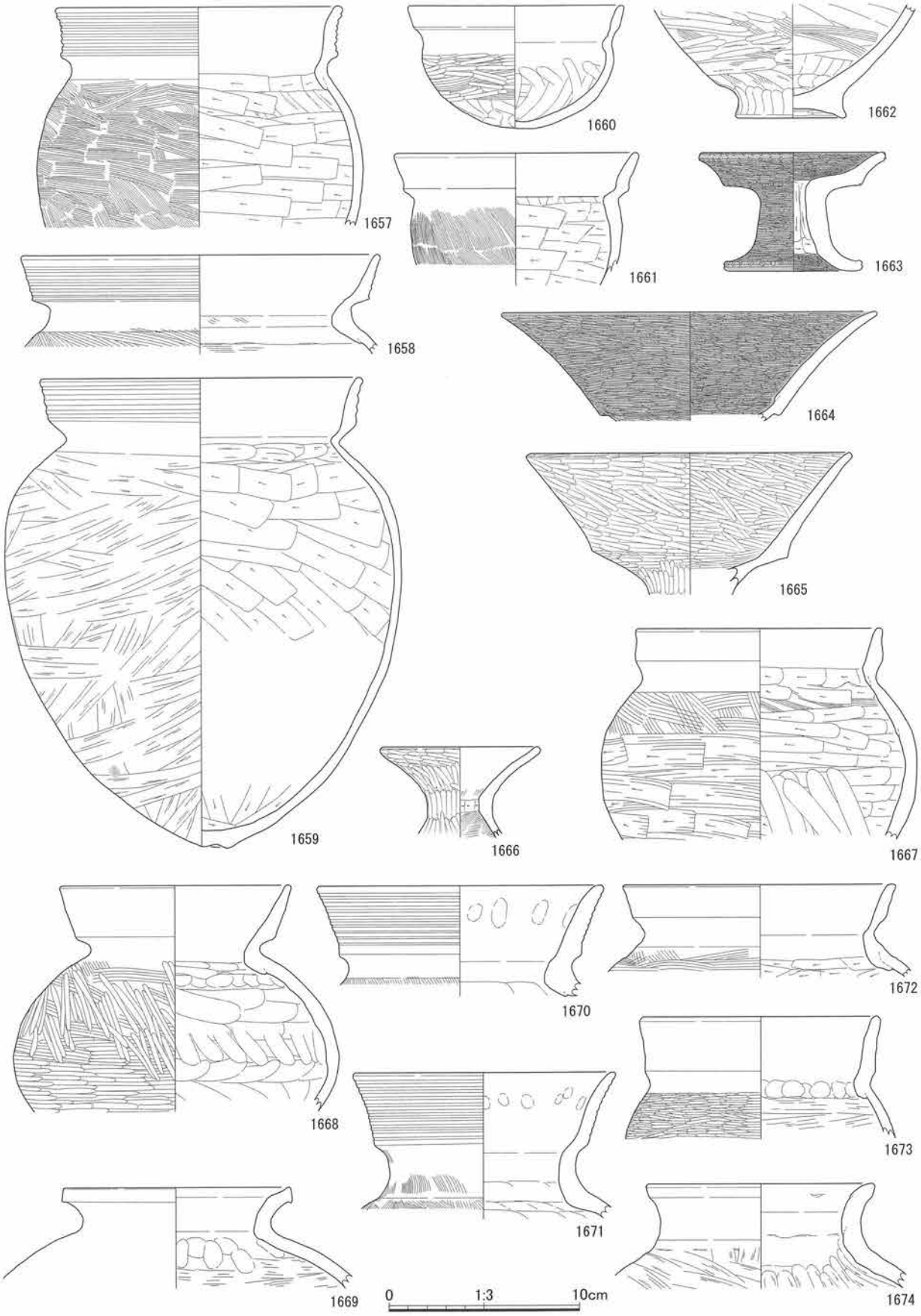


6区 竪穴建物址 SI701 ～ SI703・SI706・SI707 出土遺物　縮尺 1／3

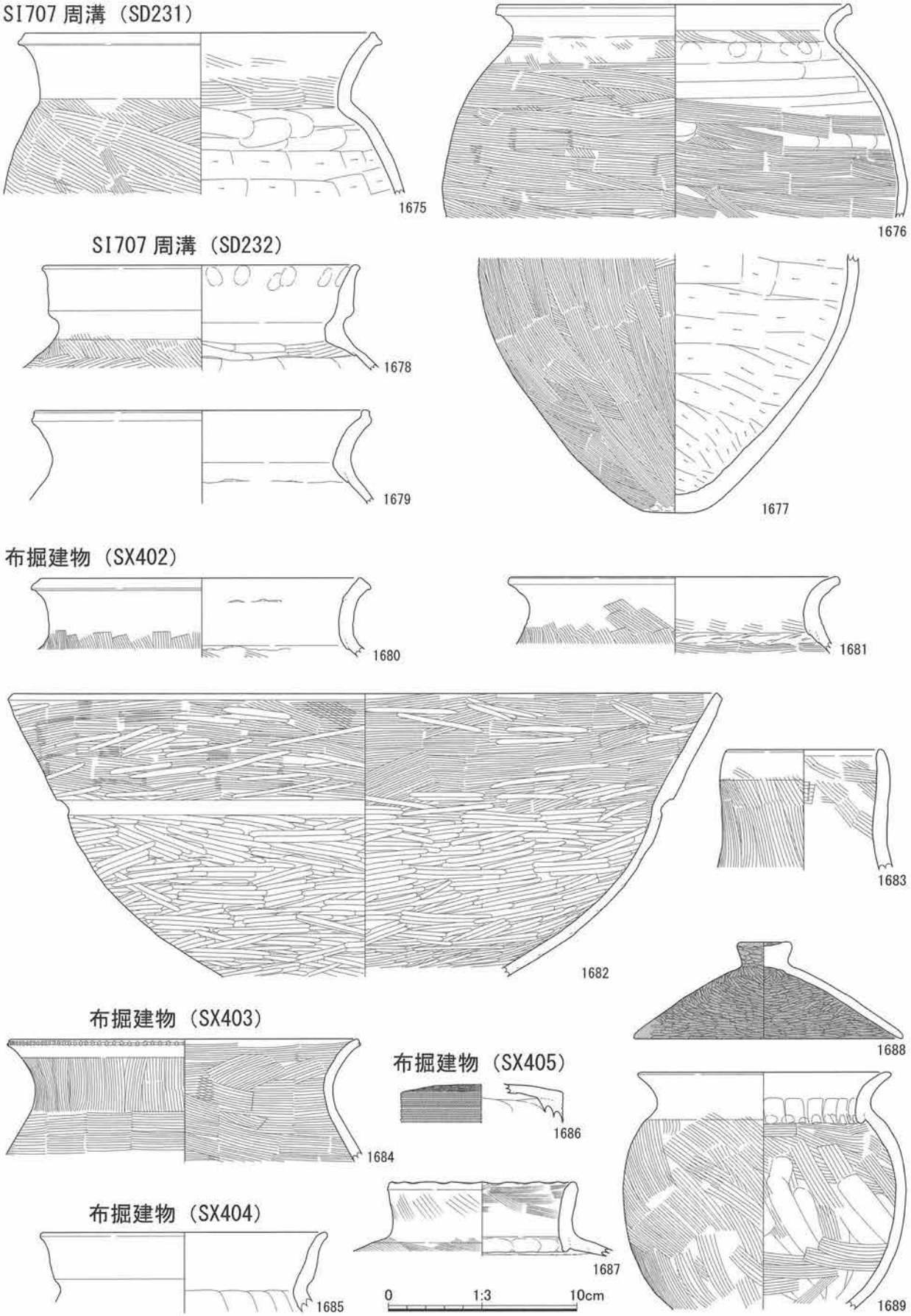


6区 竪穴建物址 SI707 周溝（SX406・SX407）出土遺物　縮尺1／3

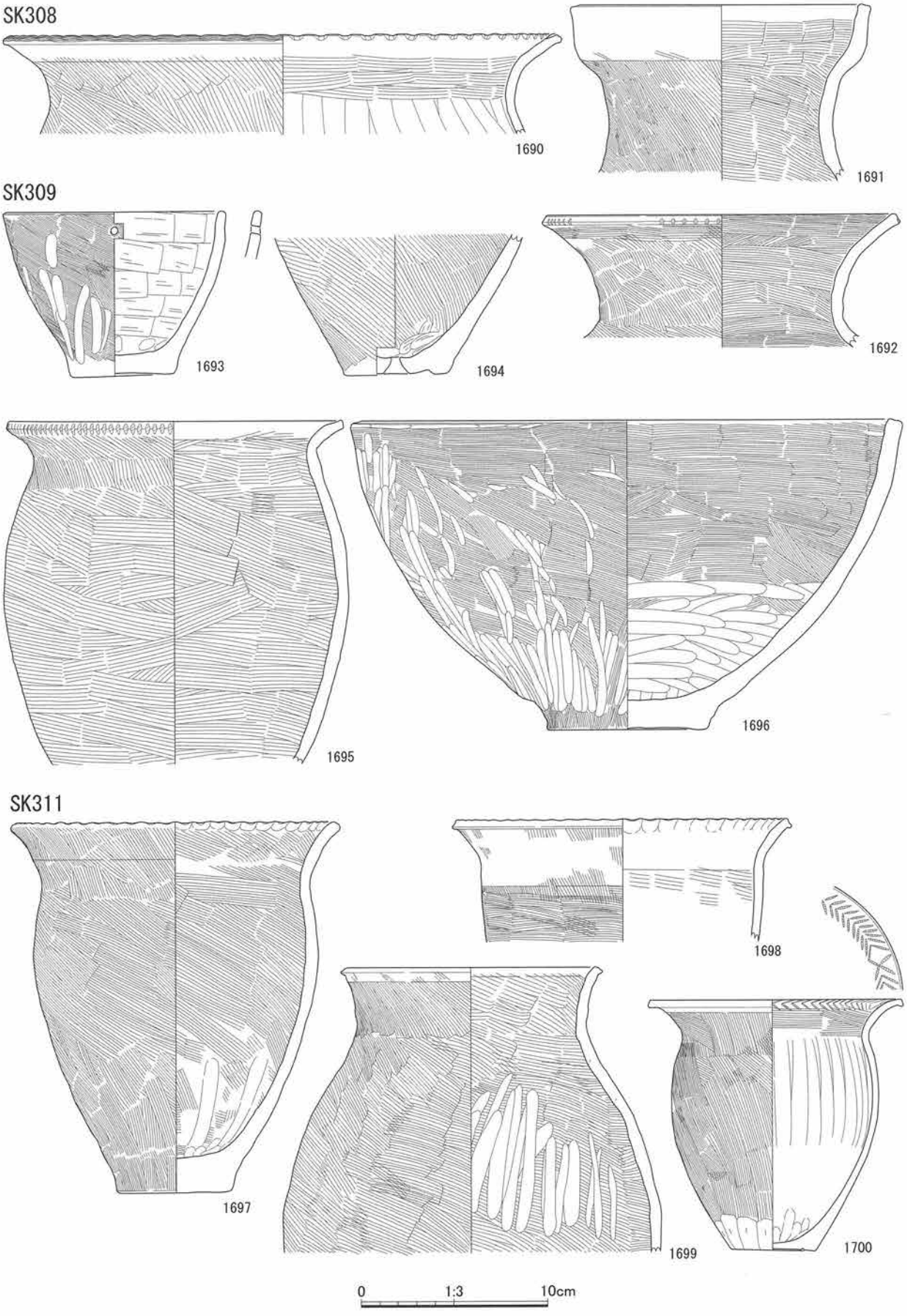
SI707 周溝（SD231）



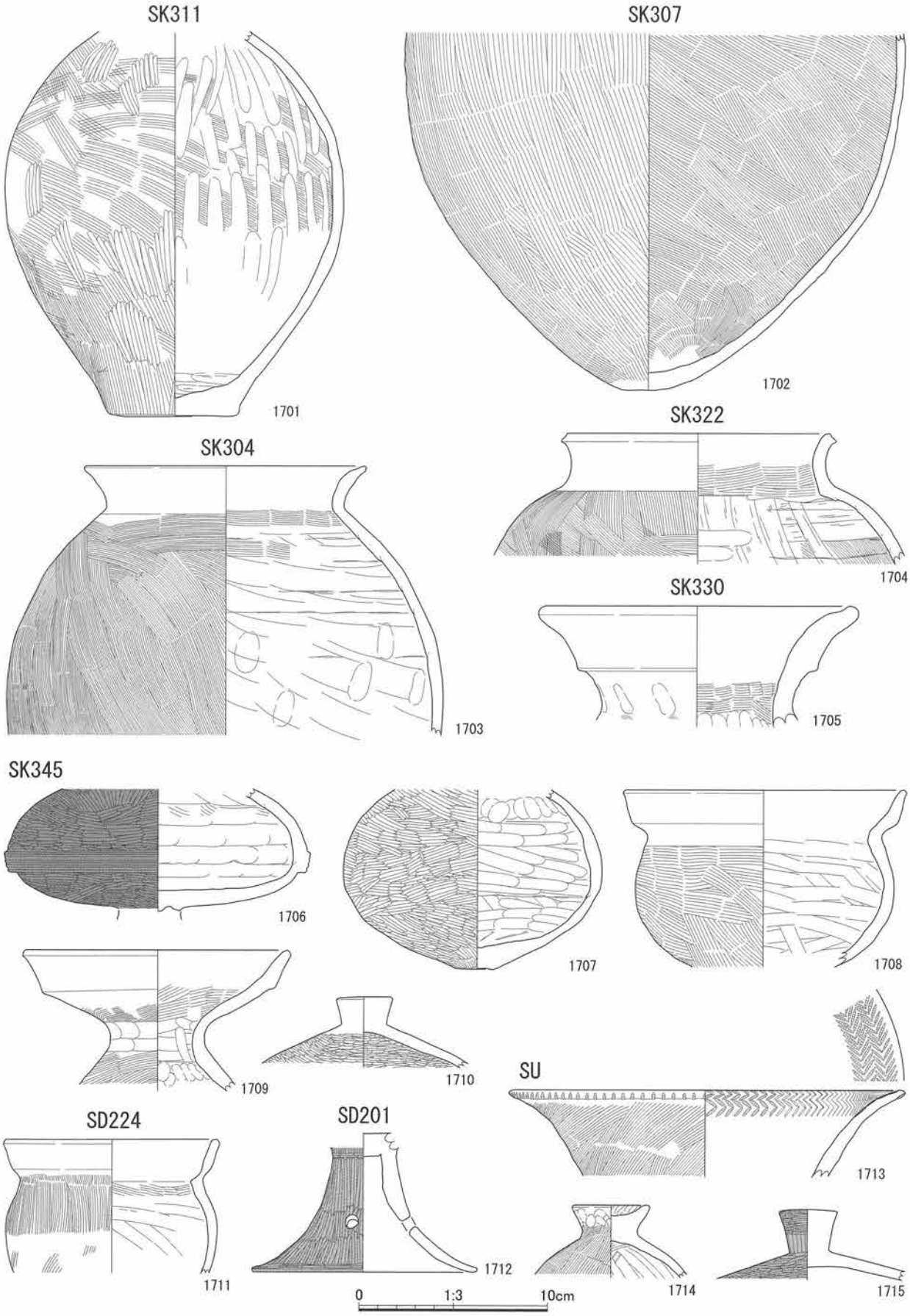
６区 竪穴建物址 SI707 周溝（SD231）出土遺物　縮尺１／３



6区 竪穴建物址 SI707 周溝（SD231・SD232）、掘立柱建物址 SB611 出土遺物　縮尺 1／3



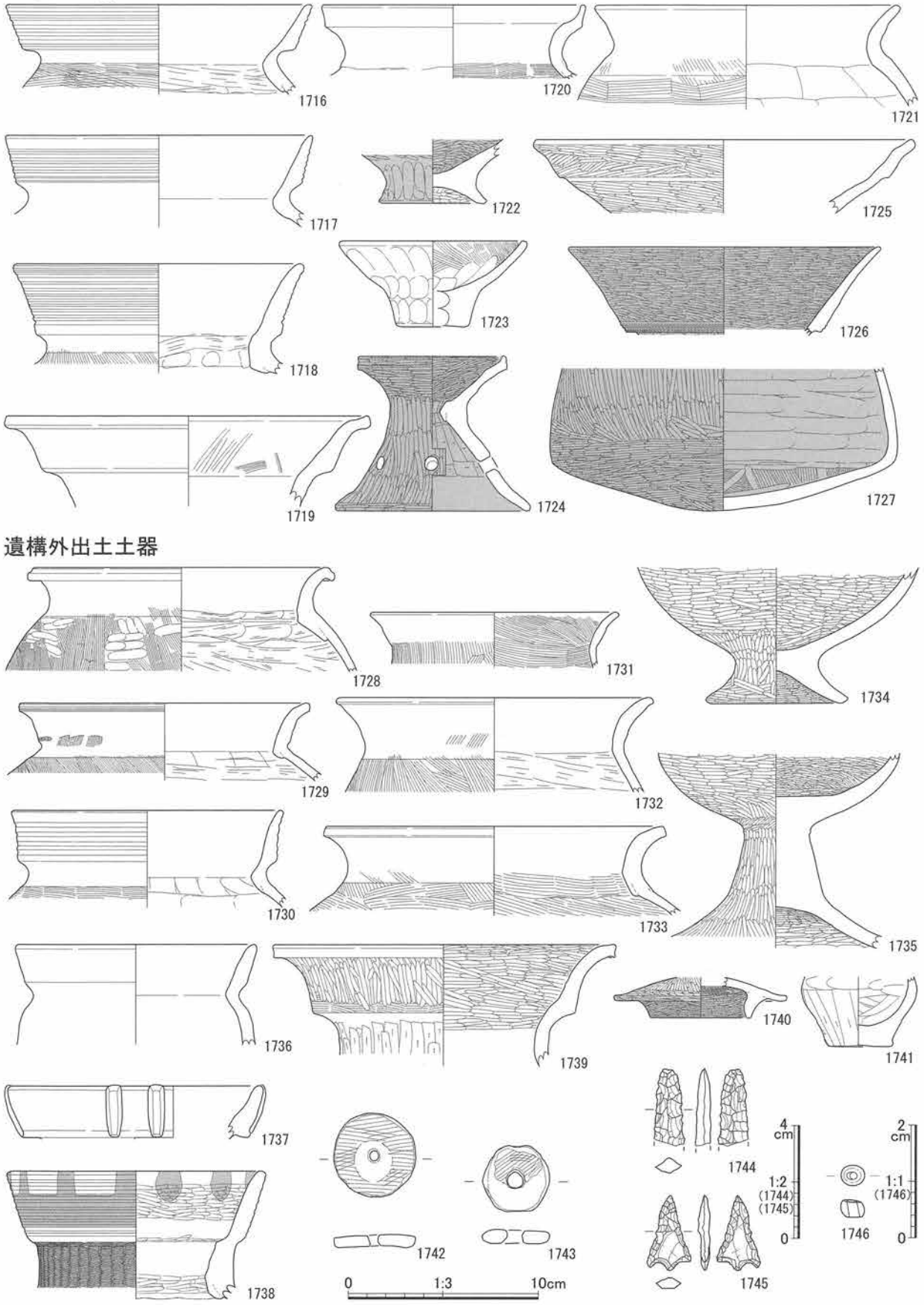
６区 土坑 SK308・SK309・SK311 出土遺物　縮尺１／３



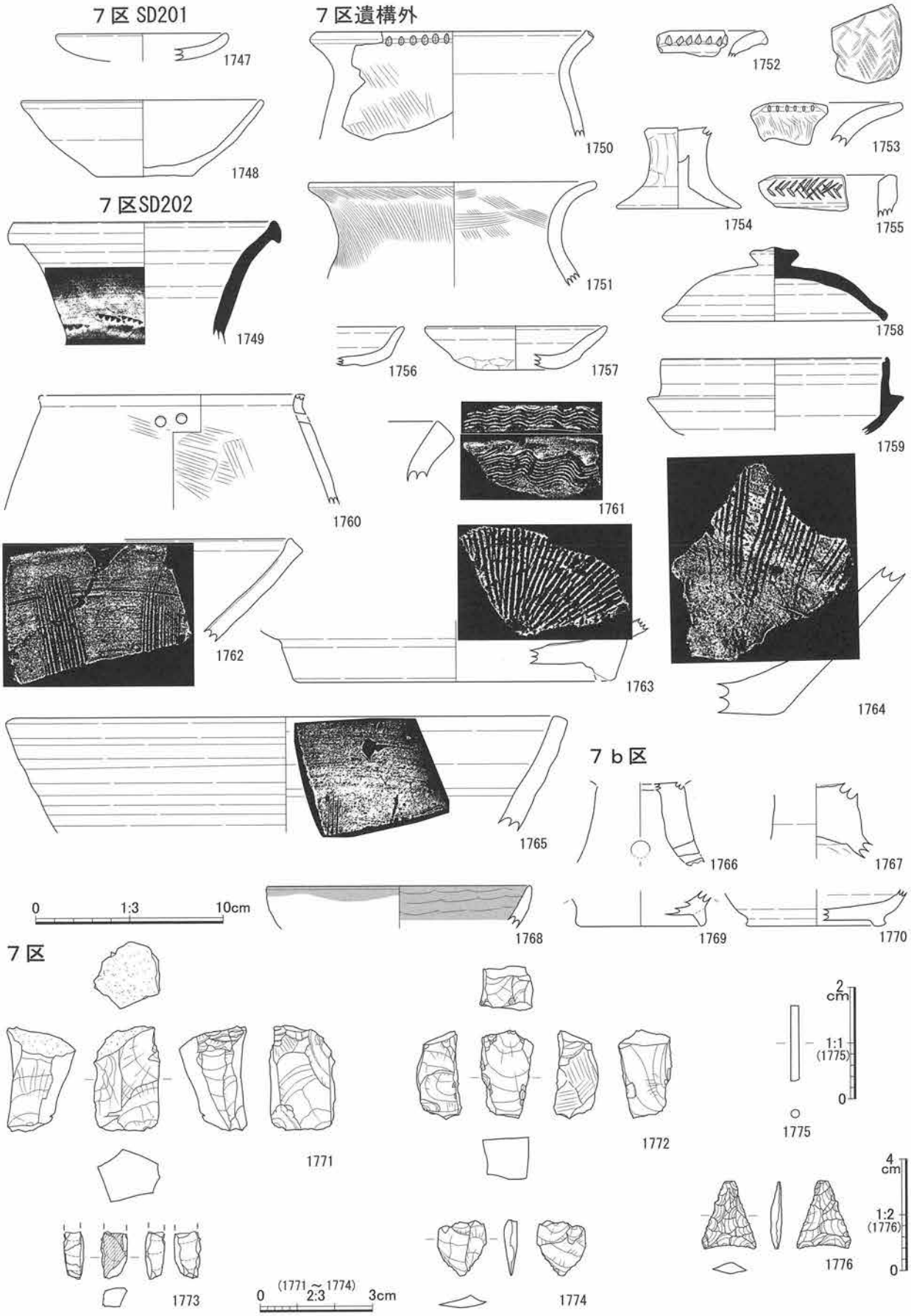
６区 土坑 SK304・SK307・SK311・SK322・SK330・SK345、溝 SD201・SD204、畝状遺構 SU 出土遺物　縮尺１／３

SU 出土土器

遺構外出土土器

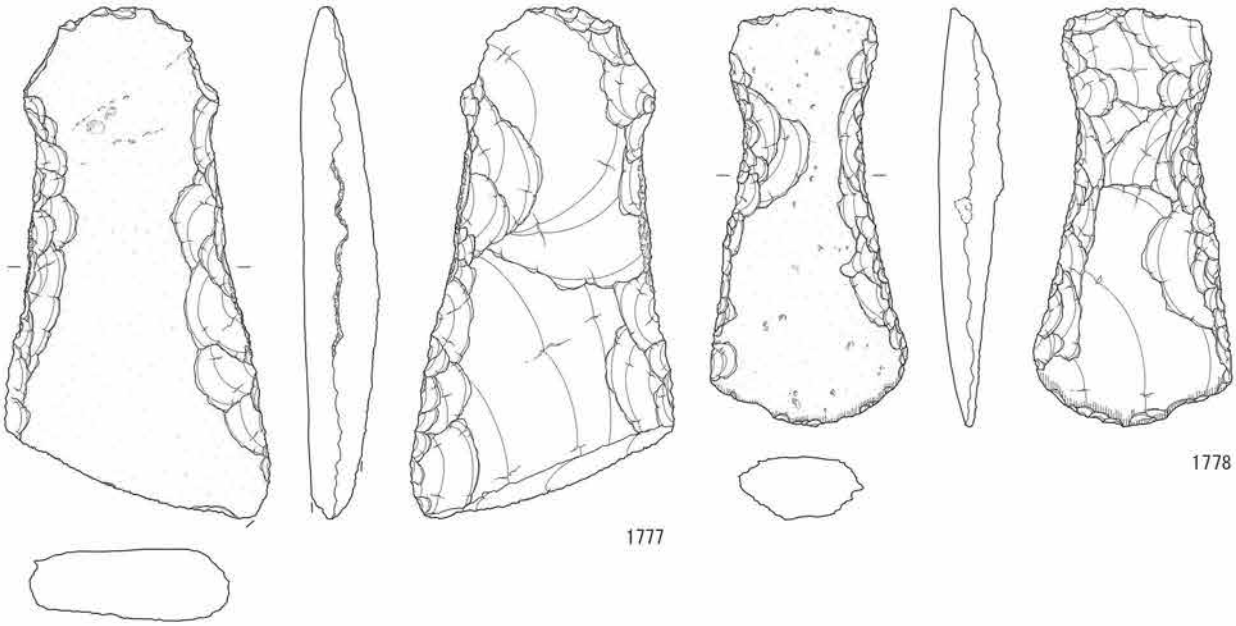


６区 畝状遺構 SU、遺構外出土土器、その他出土遺物　縮尺１／３、１／２、１／１

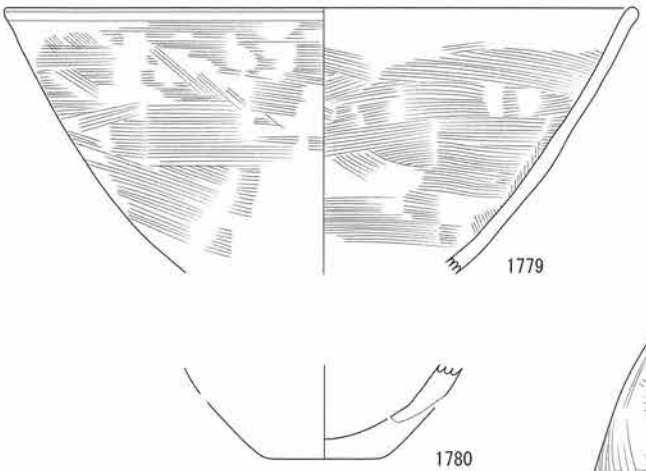


7区・7b区 出土遺物　縮尺1／3、1／2、1／1

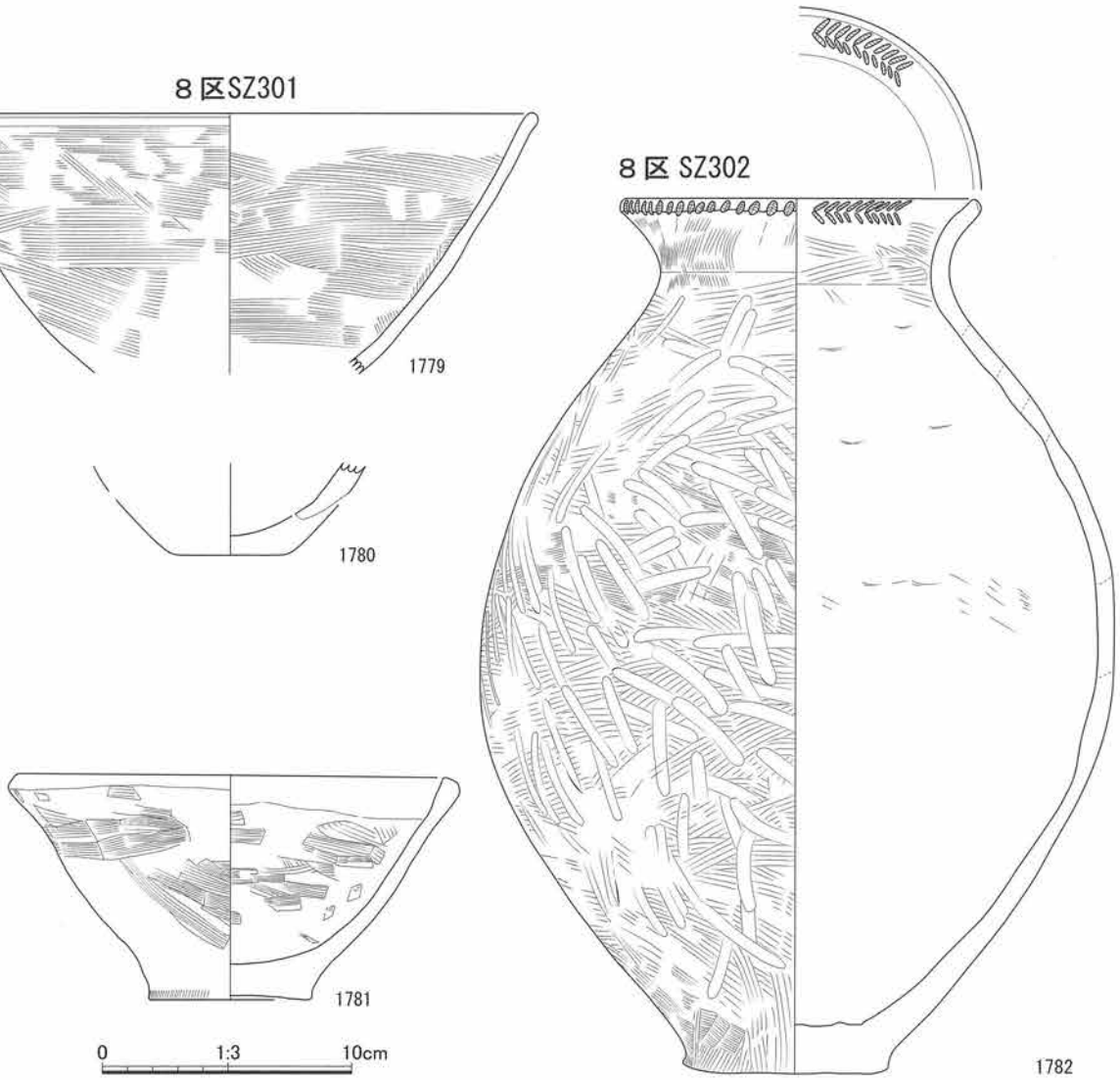
7区



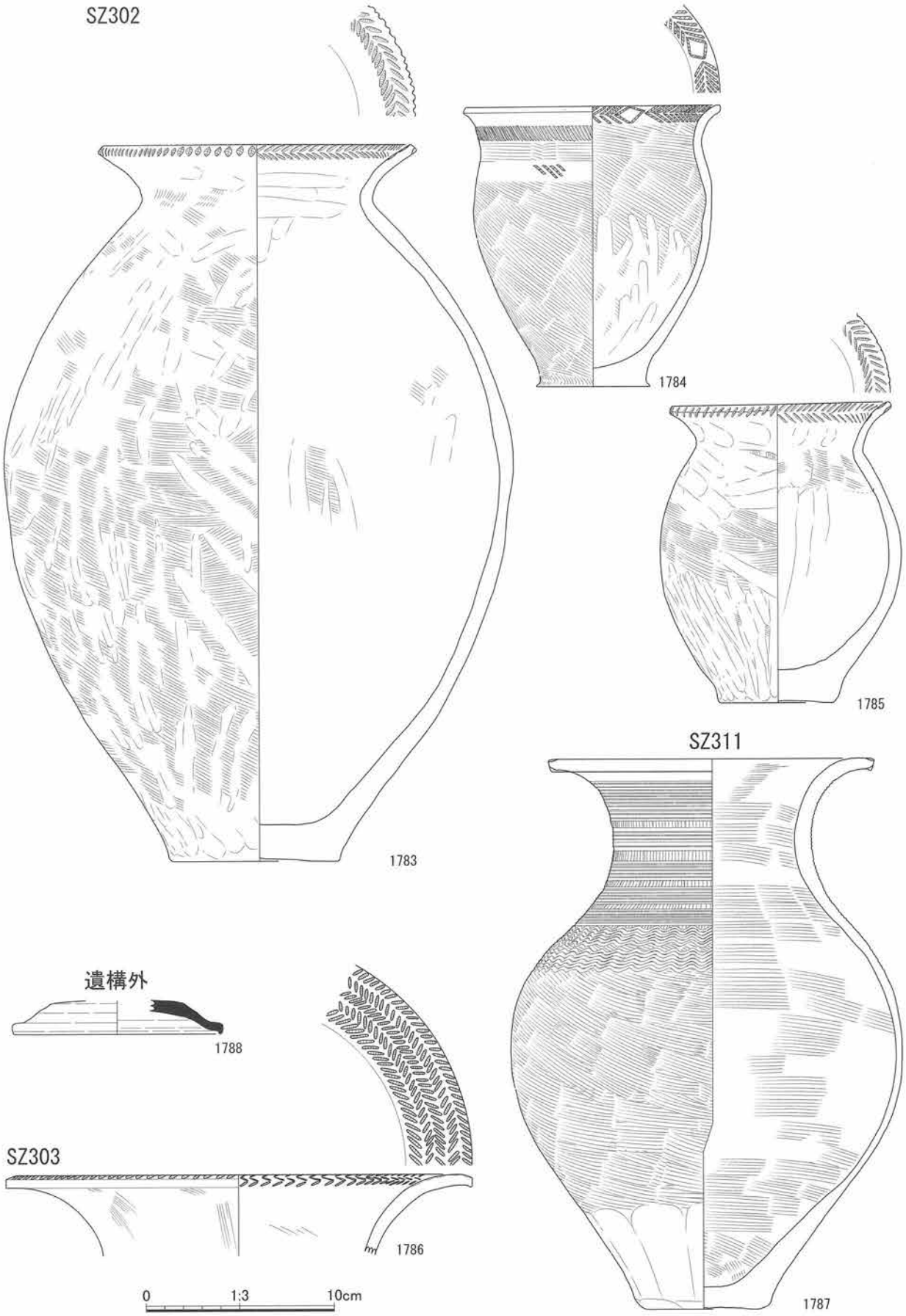
8区SZ301



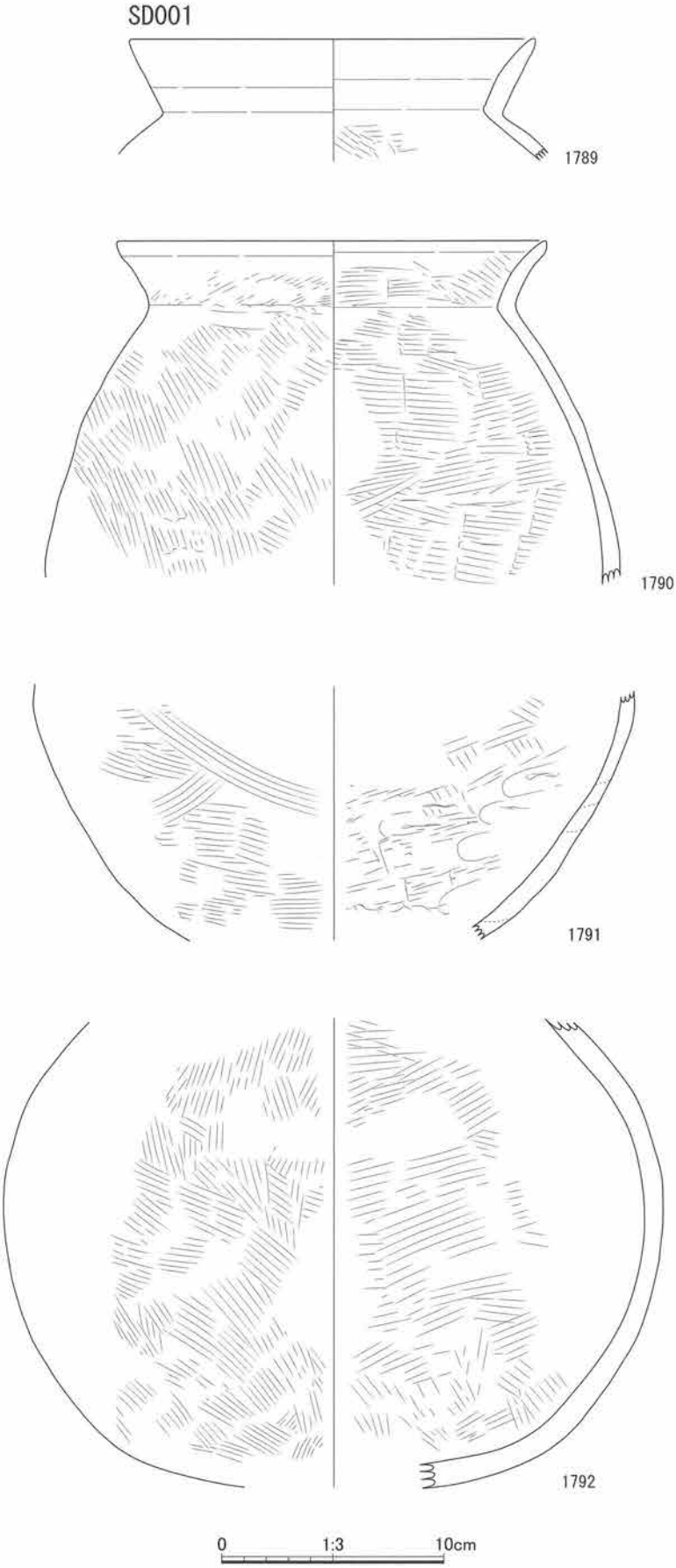
8区 SZ302



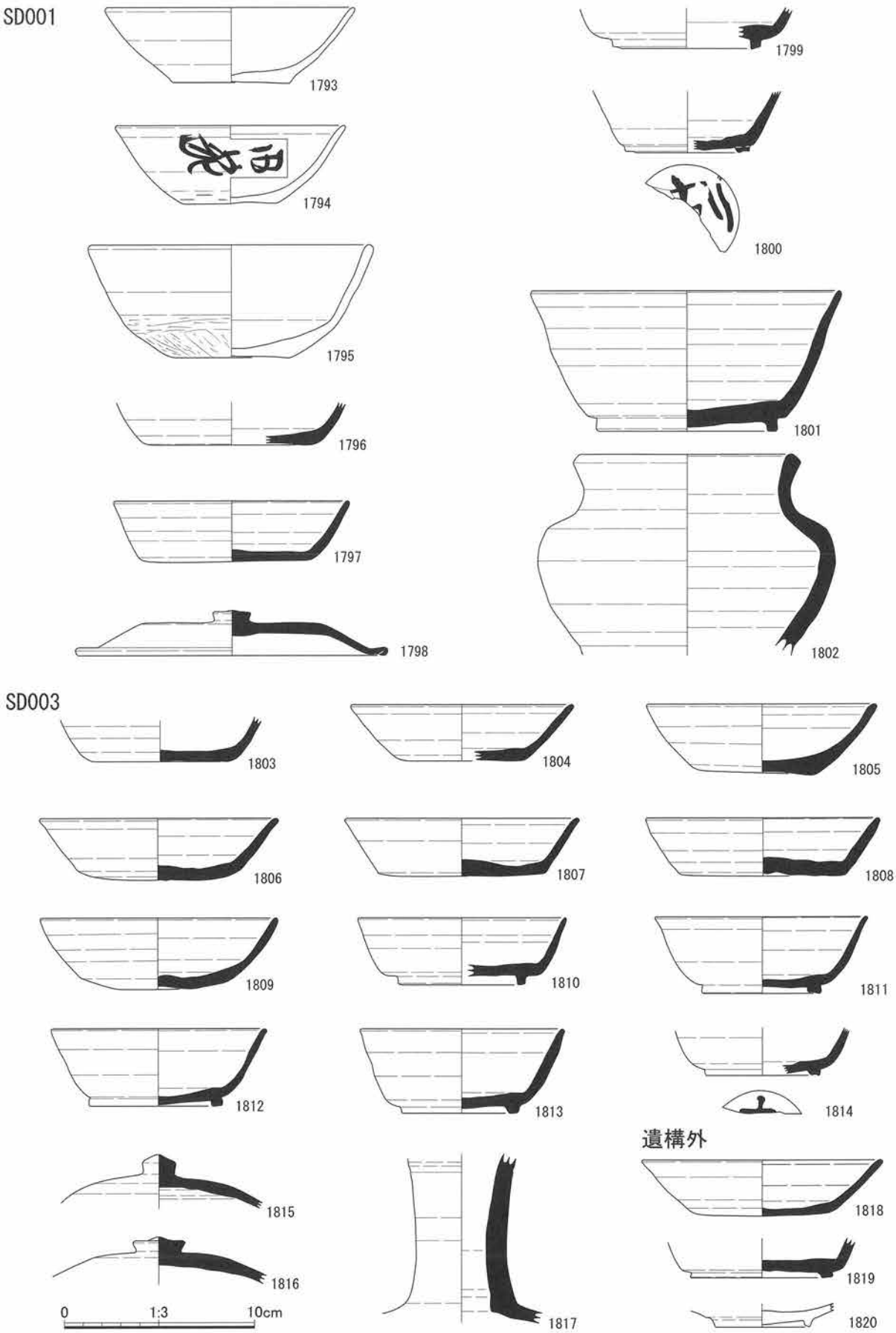
7区 出土石器、8区 方形周溝墓 SZ301・SZ302 出土遺物　縮尺1／3



８区 方形周溝墓 SZ302・SZ303・SZ311、遺構外出土遺物　縮尺１／３

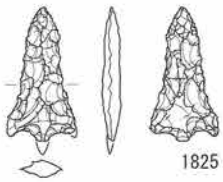


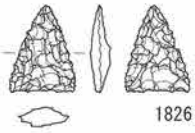
９区 溝 SD001 出土遺物　縮尺１／３



9区 溝 SD001・SD003 出土遺物　縮尺 1／3

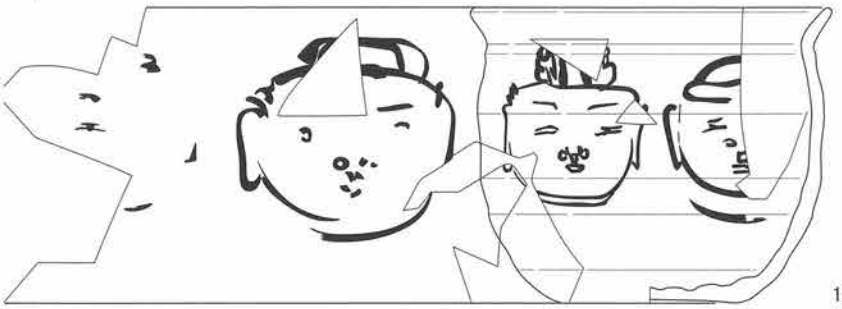
9区 SD001・SD003

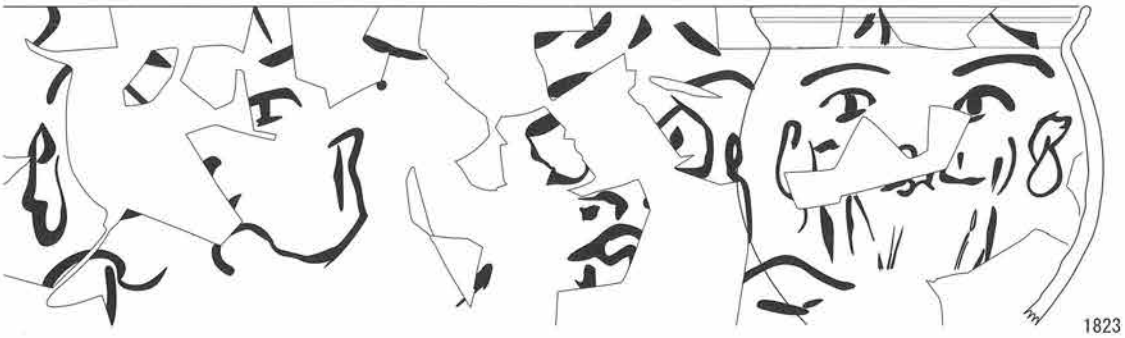




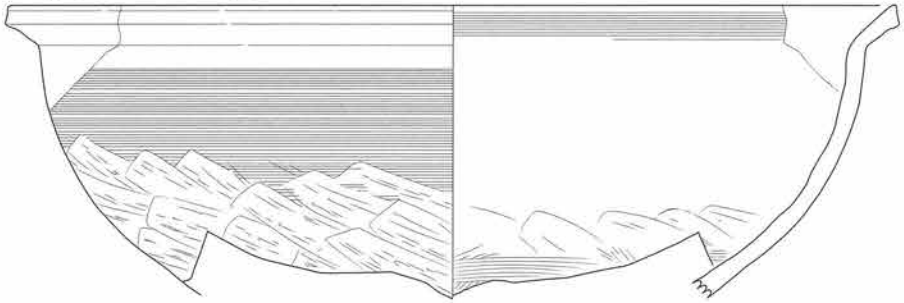
(1825・1826)
0　1:2　4cm

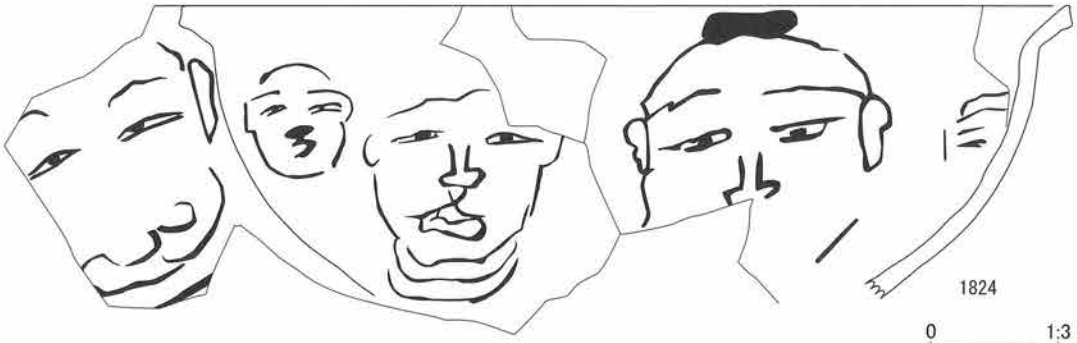
10区 SD011





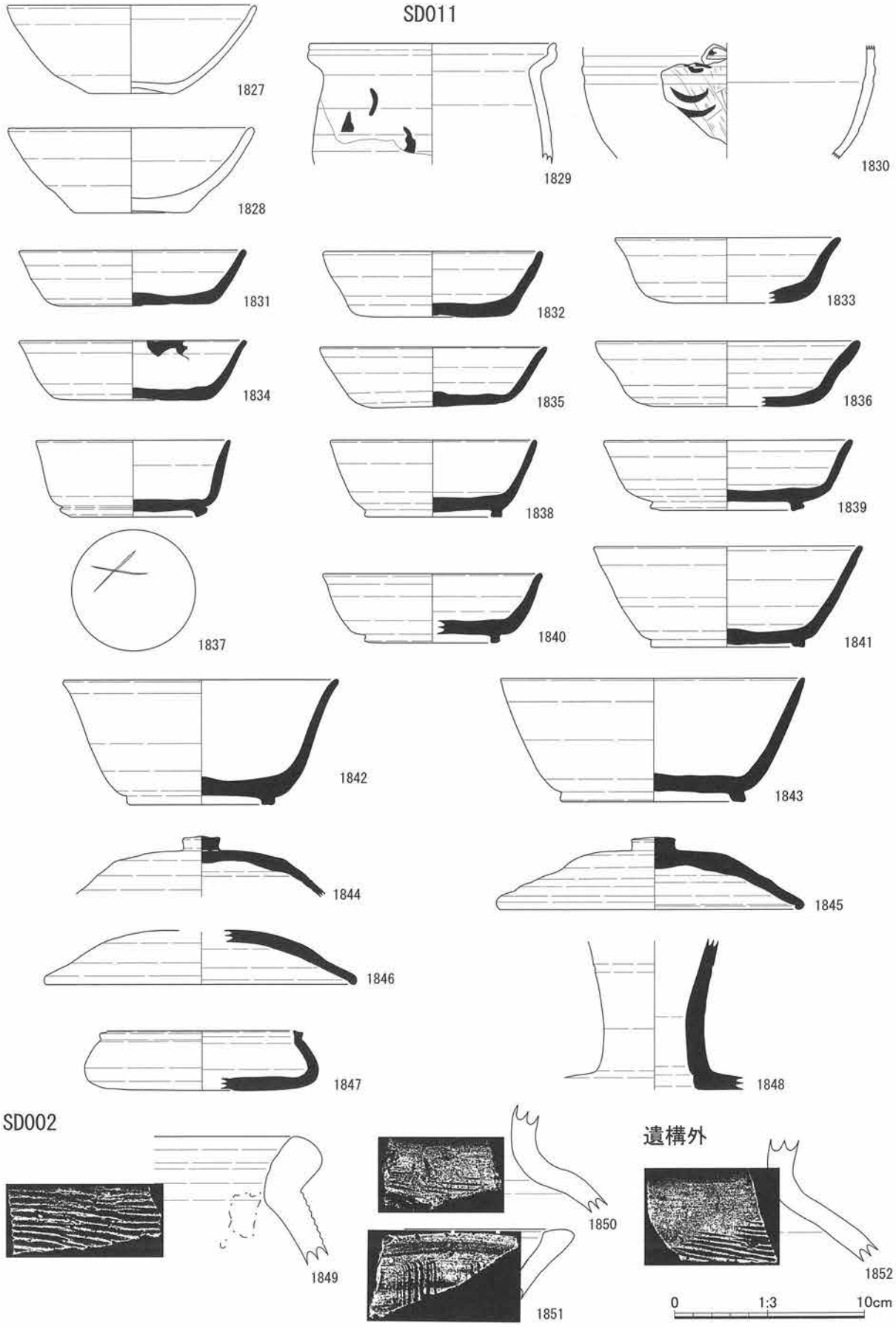
10b区 SD003・11区 SD011



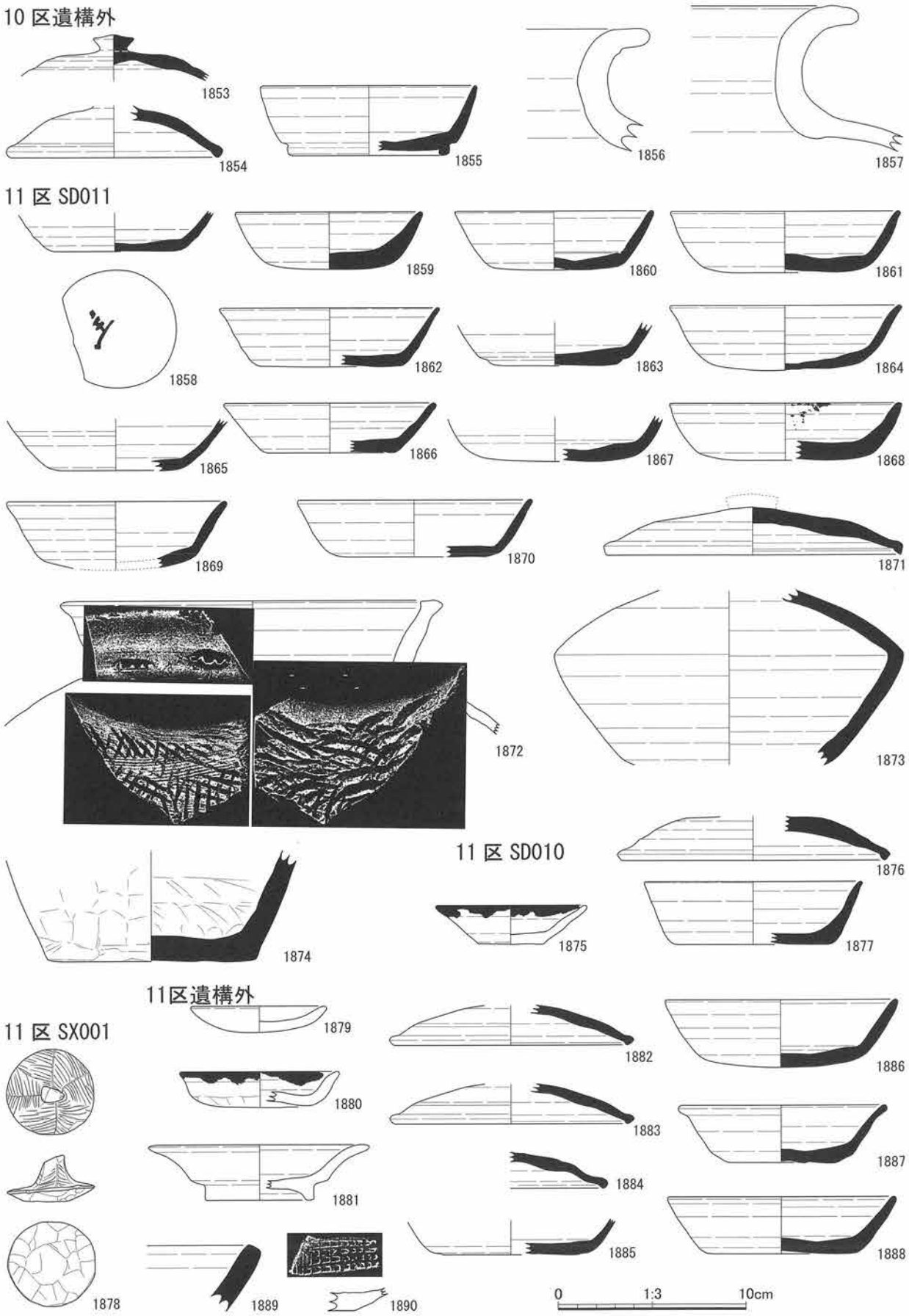


0　1:3　10cm

9区・10区・10b区・11区 出土人面墨書土器、9区 出土石器　縮尺1／3



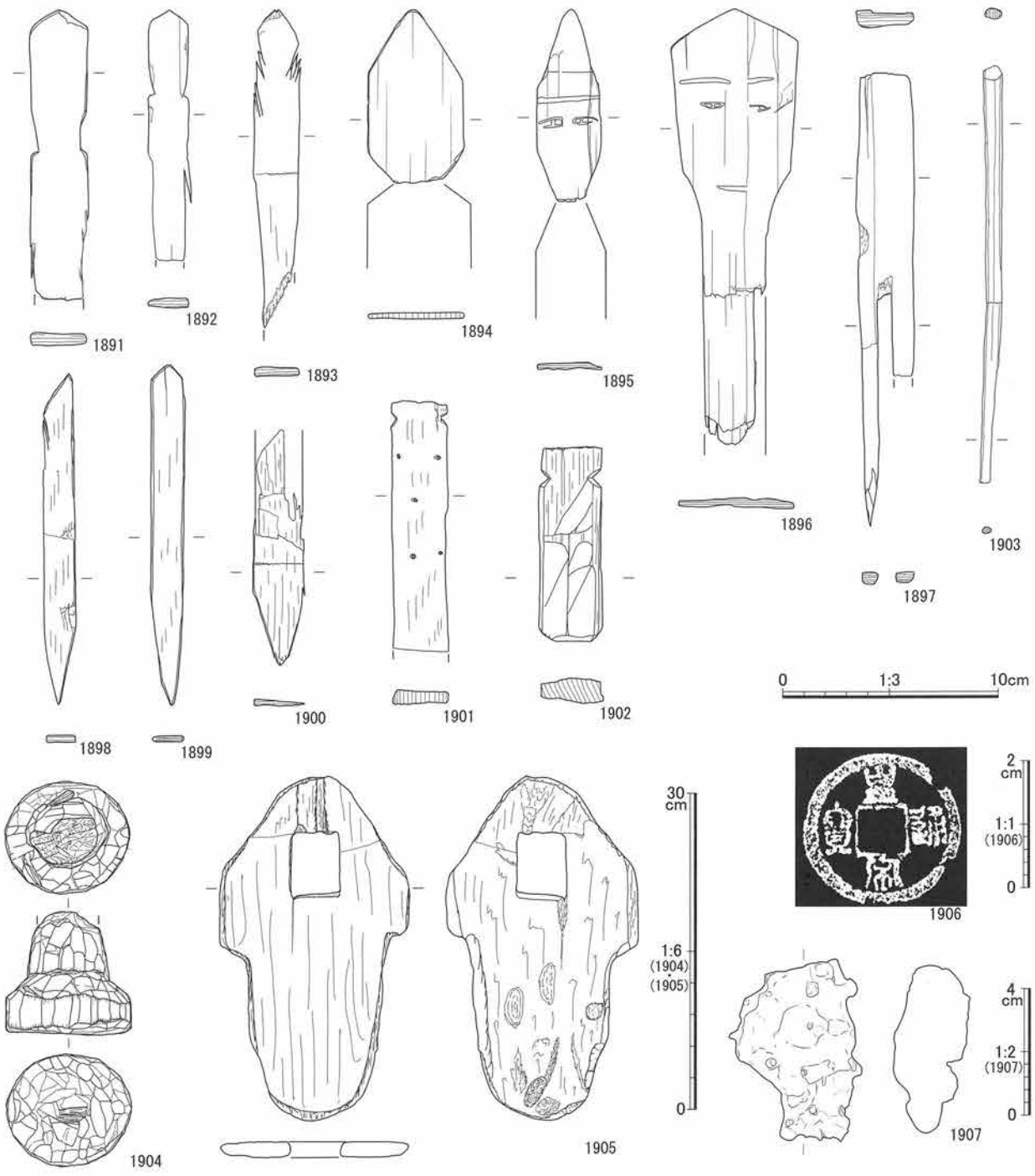
10区 出土遺物　縮尺1／3



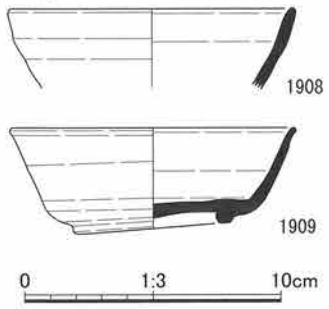
10 区・11 区 出土遺物　縮尺 1／3

図面二〇一　遺物実測図（10区・11区・12区）

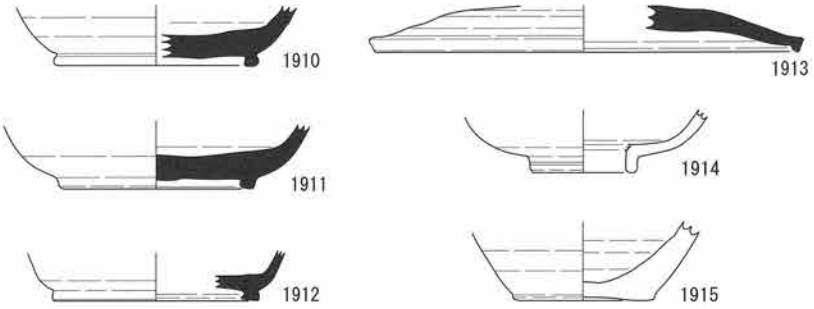
10区・11区



12区 SD039



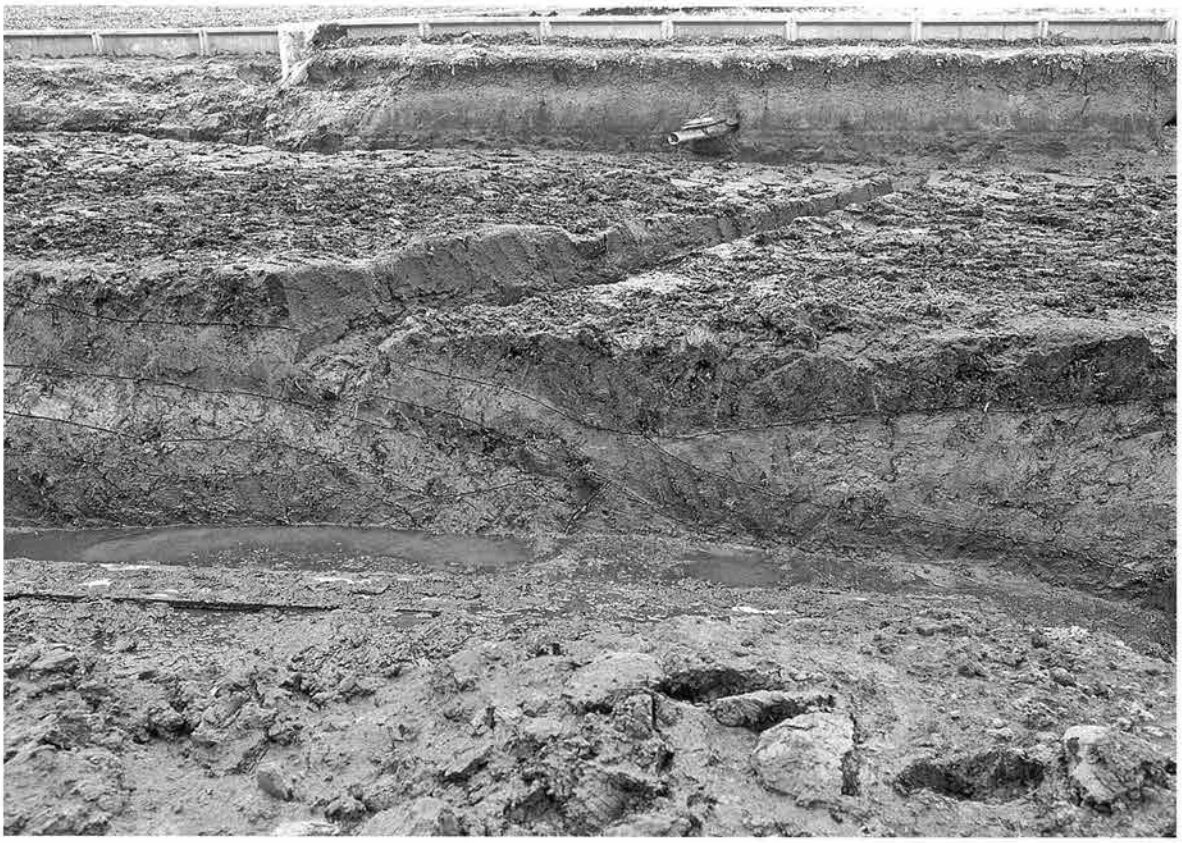
12区遺構外



10区・11区・12区 出土遺物　縮尺1／3、1／6、1／1、1／2

1．調査地区全景（南東）

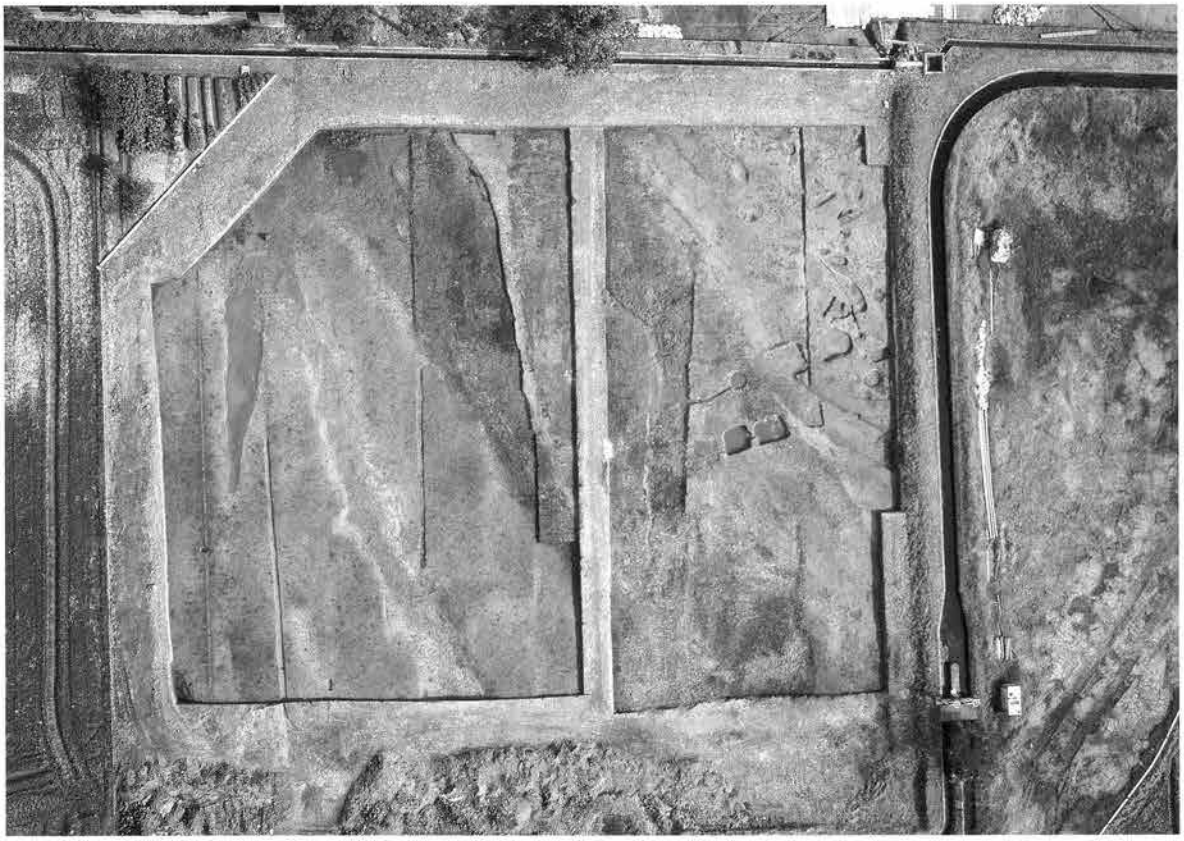
2．調査地区全景（真上）



1．溝 SD001 土層断面 1（北）

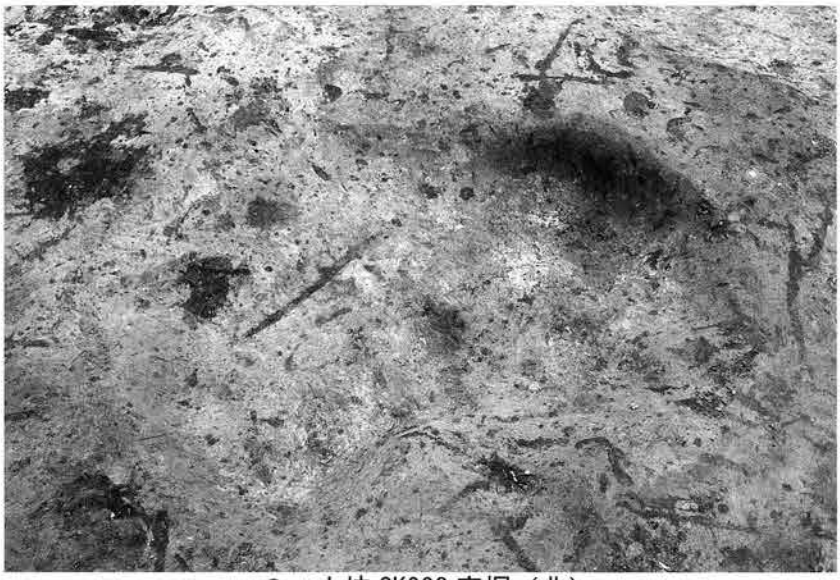
2．溝 SD001 土層断面 2（北）

1．調査地区全景（南）

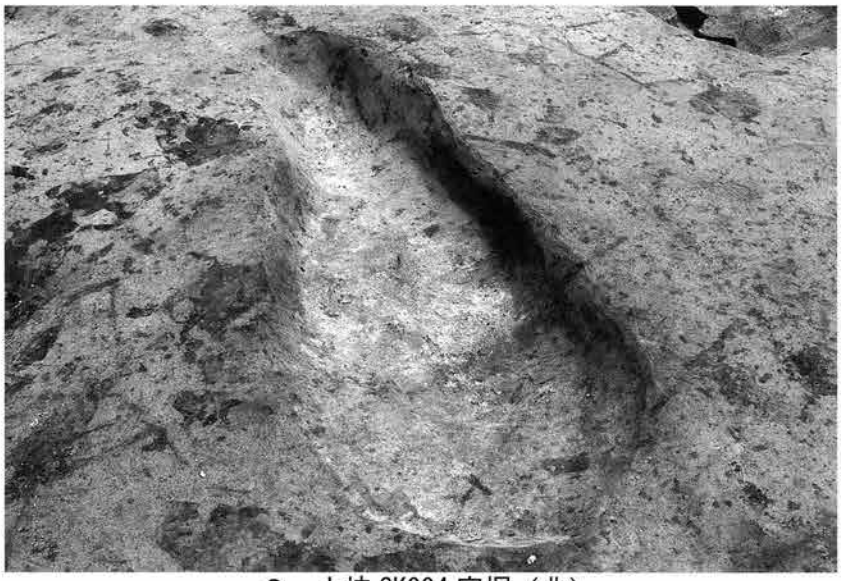


2．調査地区全景（真上）

1．土坑 SK001・SK002 完掘（北西）

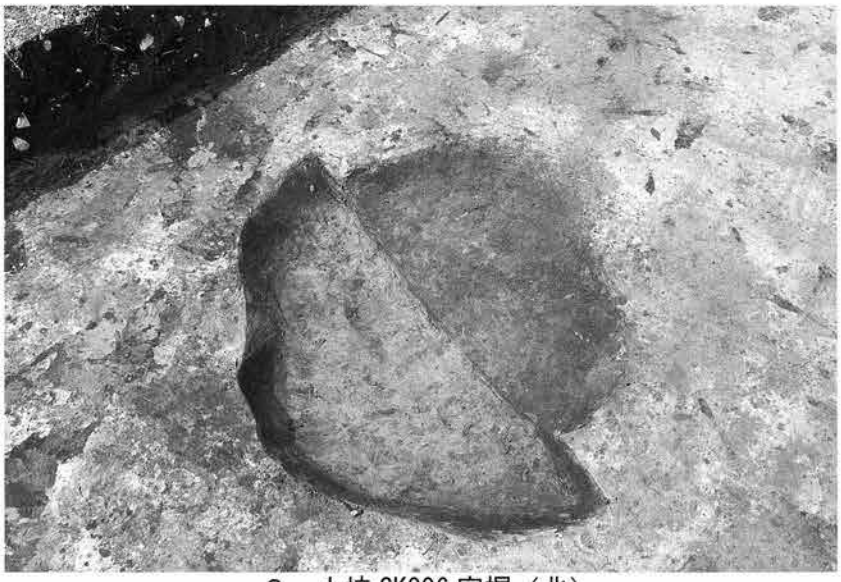


2．土坑 SK003 完掘（北）



3．土坑 SK004 完掘（北）

1．土坑 SK005 完掘（北）



2．土坑 SK006 完掘（北）

3．土坑 SK007 完掘（北）

1．土坑 SK008 完掘（北）

2．土坑 SK011 完掘（北）

3．土坑 SK012 完掘（北）

1．溝 SD003 検出状況（南東）

2．溝 SD003 遺物出土状況（北北西）

1．土坑 SK008 検出時遺物出土状況

2．検出時遺物出土状況 1（南）

3．検出時遺物出土状況 2（北東）

１．調査地区全景（南）

２．調査地区全景（真上）

1．調査地区北側全景（南）

2．土坑 SK001 完掘（西）

１．土坑 SK002 完掘（南）

２．土坑 SK003 完掘（南）

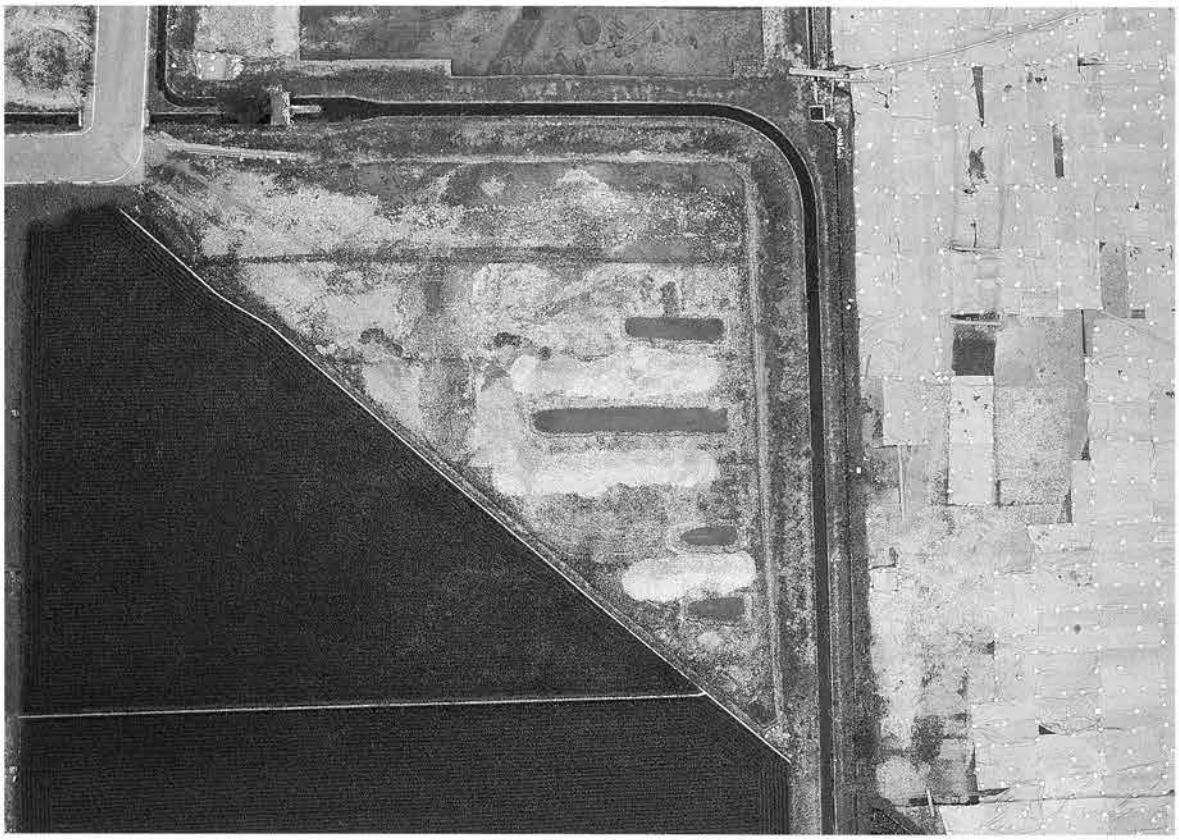
1．溝 SD003 護岸施設（西）

2．溝 SD003、土坑 002 完掘（南）

1．土坑 SD004 完掘（南東）

2．溝 SD001 トレンチ 2 遺物出土状況（北）

3．溝 SD001 トレンチ 3 遺物出土状況（直上）



1．調査地区全景（真上）

2．溝 SD001 完掘（北東）

1．調査地区全景（南）

2．調査地区全景（真上）

１．掘立柱建物址 SB001 完掘（北東）

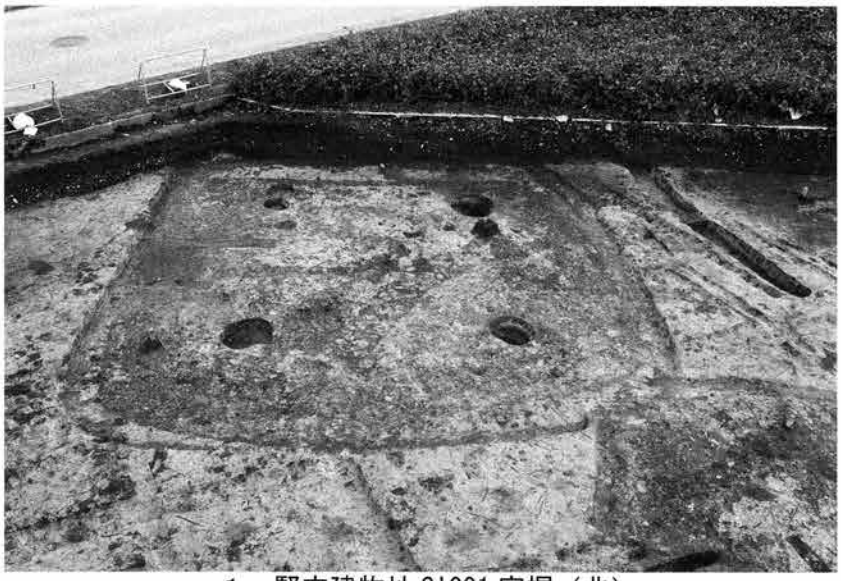
２．掘立柱建物址 SB003 完掘（東北東）

３．掘立柱建物址 SB004 完掘（西）

1．掘立柱建物址 SB004 P1-2 木柱（北）

2．掘立柱建物址 SB004 P2-1 木柱（西）

3．掘立柱建物址 SB004 P3-1 木柱（西）



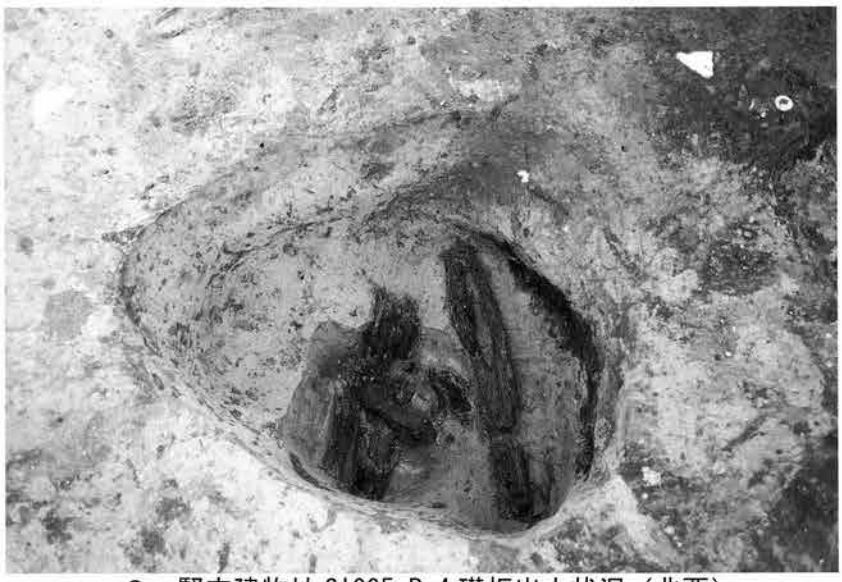
1．竪穴建物址 SI001 完掘（北）

2．竪穴建物址 SI001 内土坑 SK001 完掘（南東）

3．竪穴建物址 SI002 完掘（北）

１．竪穴建物址 SI005 完掘（北）

２．竪穴建物址 SI005 P-2 礎板出土状況（北東）



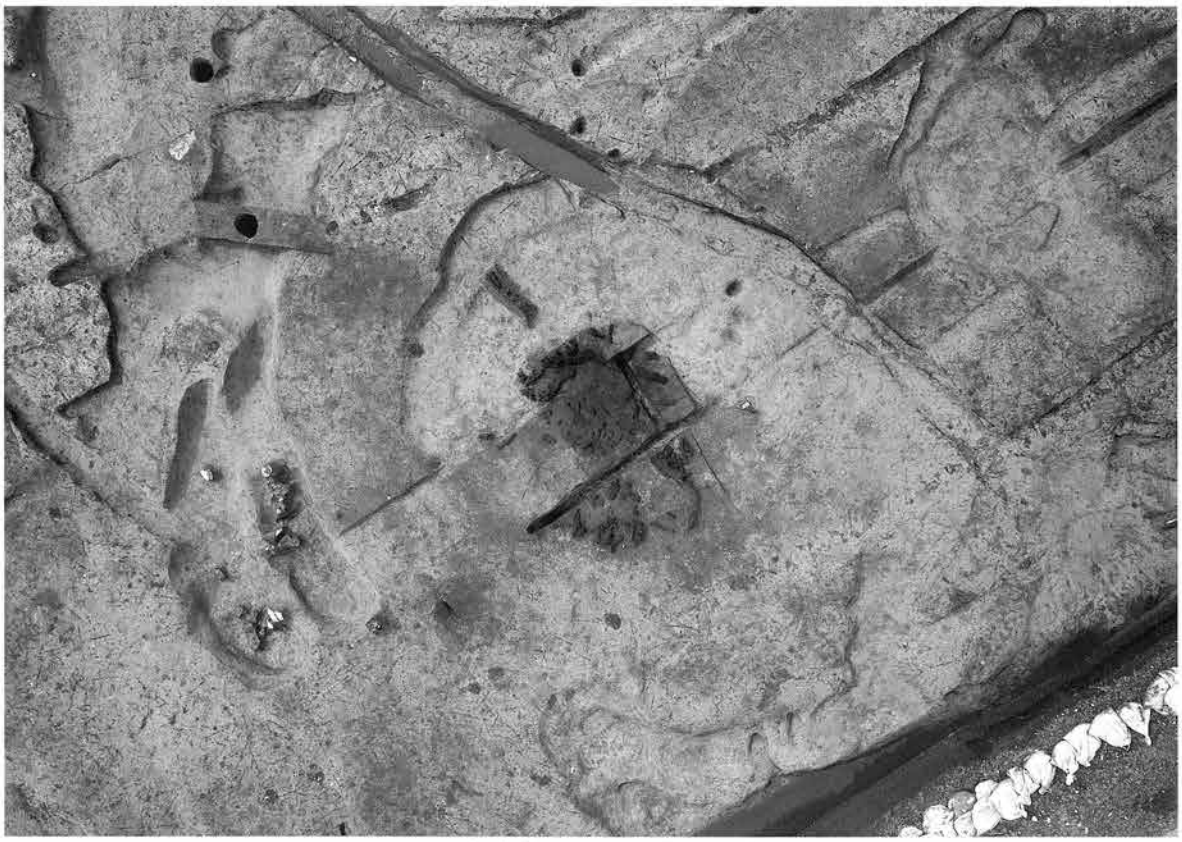
３．竪穴建物址 SI005 P-4 礎板出土状況（北西）

１．竪穴建物址 SI006 全景（真上）

２．竪穴建物址 SI006 P-2 礎板出土状況（北）

３．竪穴建物址 SI006 P-3 礎板出土状況（北東）

１．竪穴建物址 SI001・SI002・SI005・SI006 完掘全景（真上）



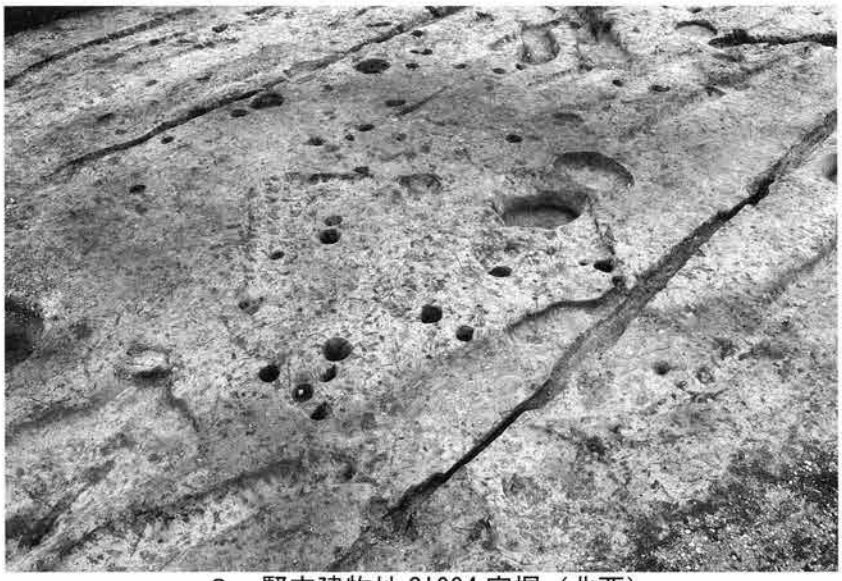
２．竪穴建物址 SI007 全景（真上）

1．竪穴建物址 SI007 炭化物出土状況（南東）

2．竪穴建物址 SI007 完堀（南西）

1．竪穴建物址 SI007 南側溝遺物出土状況（南東）

2．竪穴建物址 SI007 東側溝遺物出土状況（西）



3．竪穴建物址 SI004 完掘（北西）

1．竪穴建物址 SI003 完掘（北）

2．竪穴建物址 SI003 遺物出土状況 1（南）

3．竪穴建物址 SI003 遺物出土状況 2（北東）

1．土坑 SK001 完掘（東）

2．土坑 SK003 遺物出土状況（南）

3．土坑 SK003 完掘（北東）

１．土坑 SK002 完掘（東南東）

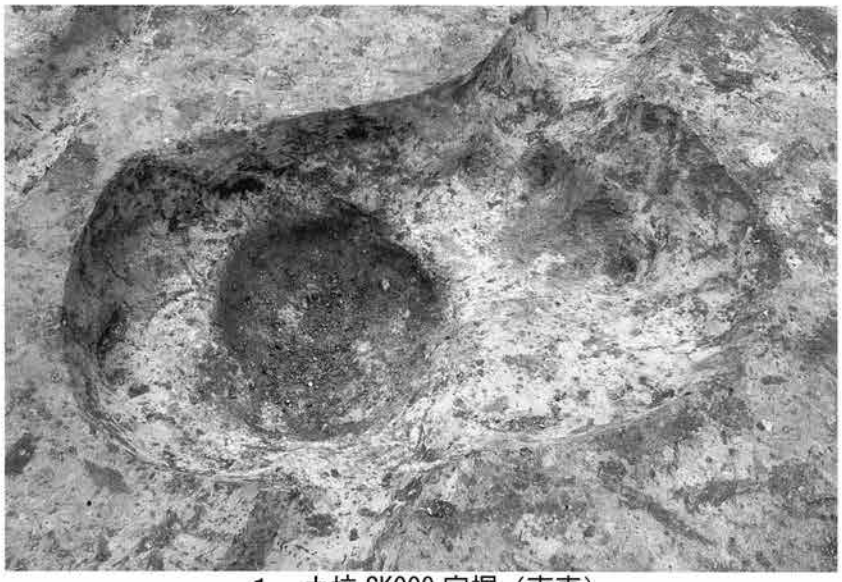
２．土坑 SK004 遺物出土状況（東）

３．土坑 SK004 完掘（南西）

１．土坑 SK005 完掘（南東）

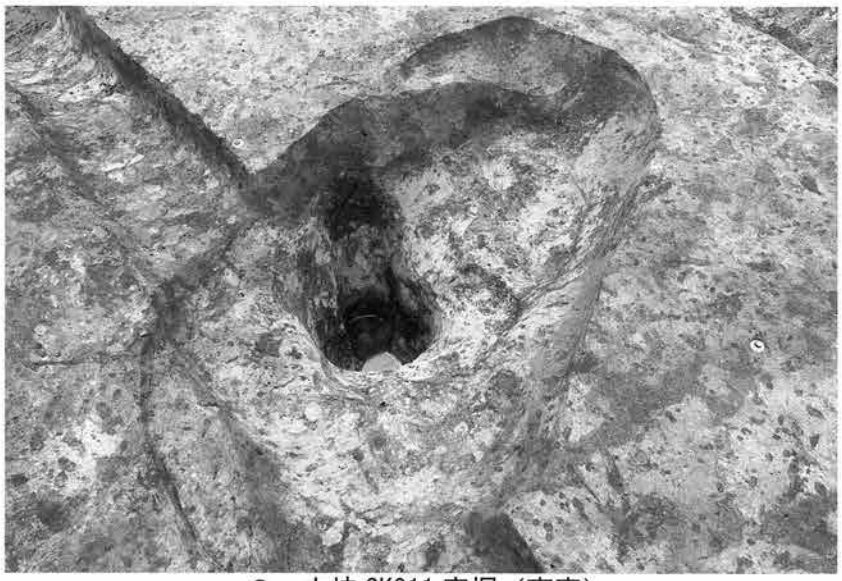
２．土坑 SK006 完掘（東）

３．土坑 SK008 完掘（北西）



１．土坑 SK009 完掘（南東）

２．土坑 SK010 完掘（西南西）



３．土坑 SK011 完掘（南東）

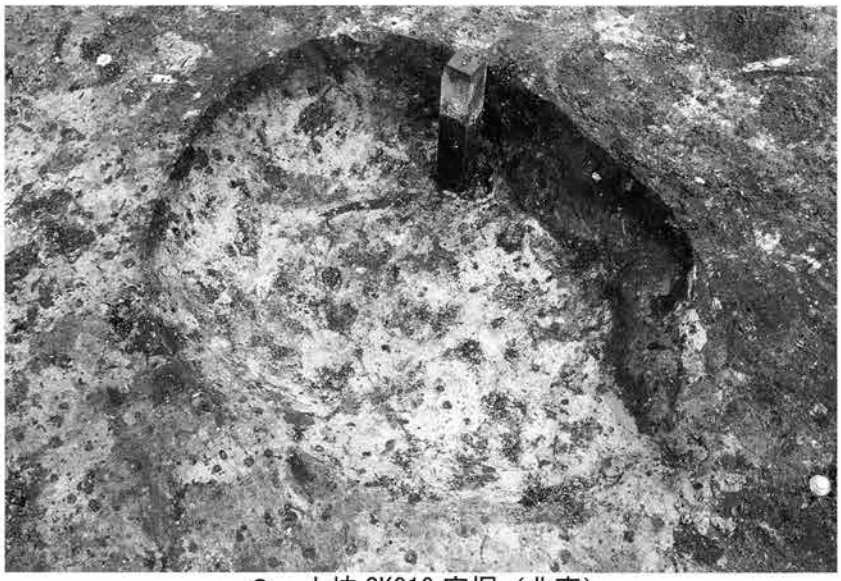
１．土坑 SK012 完掘（南西）

２．土坑 SK014 遺物出土状況（南西）

３．土坑 SK014 完掘（東）

１．土坑 SK013 完掘（北西）

２．土坑 SK017 完掘（北東）



３．土坑 SK019 完掘（北東）

１．土坑 SK021 完掘（南）

２．土坑 SK023 遺物出土状況（北）

３．土坑 SK023 完掘（北西）

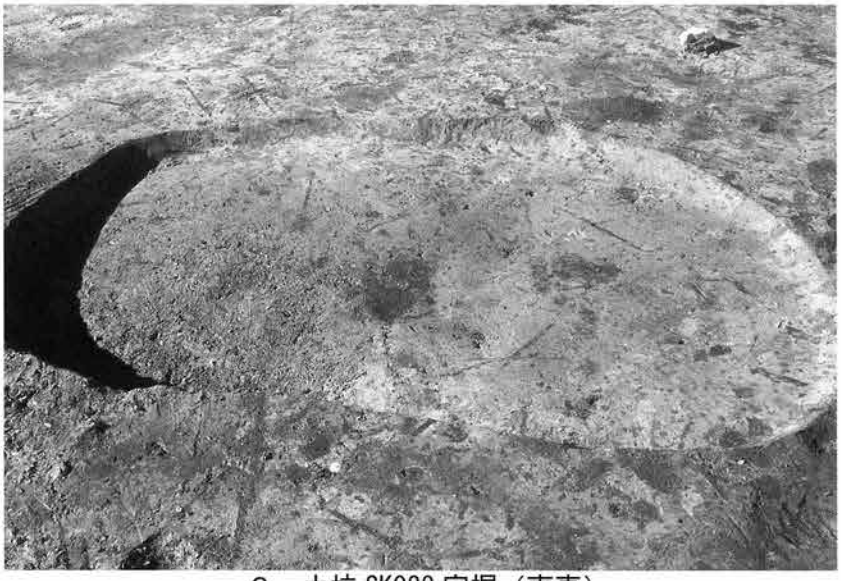
1．土坑 SK022 完掘（北西）

2．土坑 SK024 完掘（西）

3．土坑 SK025 完掘（南東）

１．土坑 SK026 完掘（東）

２．土坑 SK027 完掘（北北東）



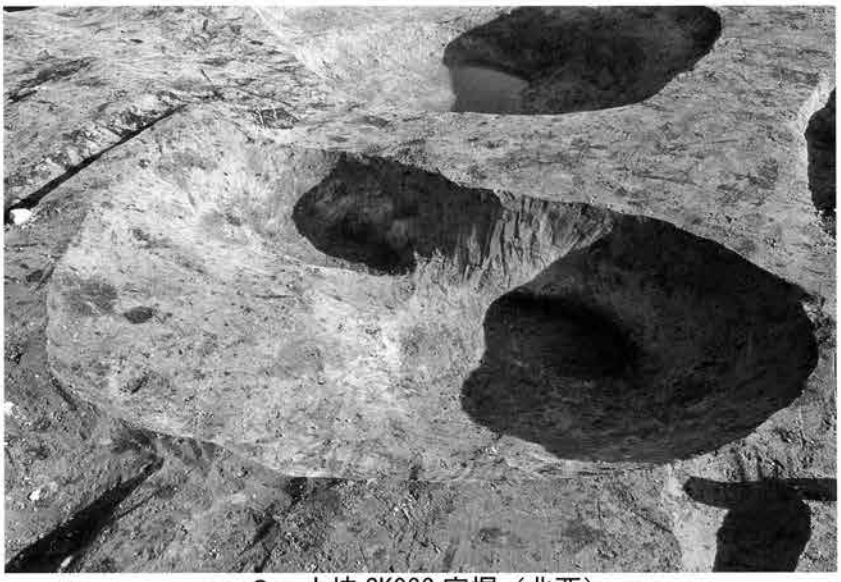
３．土坑 SK028 完掘（南東）

１．土坑 SK029 完掘（南東）

２．土坑 SK030 完掘（西）

３．土坑 SK031 完掘（北西）

１．土坑 SK032 完掘（南東）

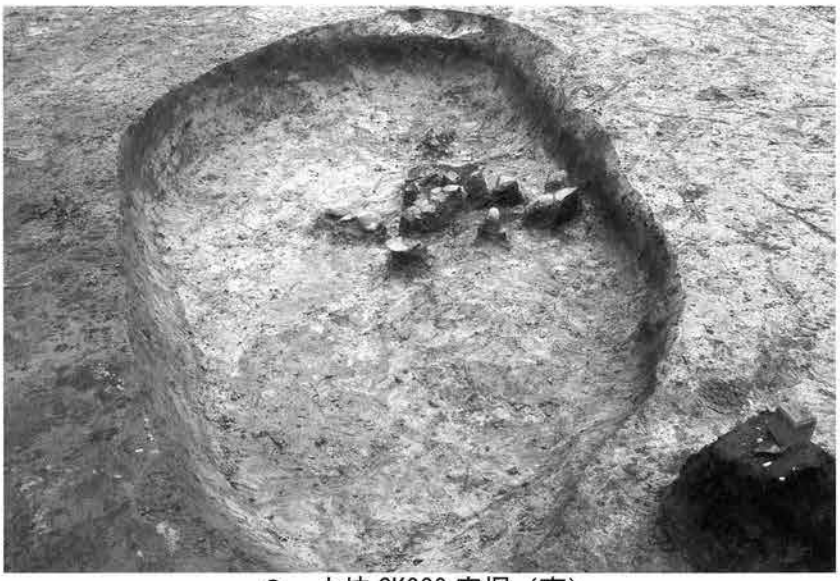


２．土坑 SK033 完掘（北西）

３．土坑 SK034 完掘（南）

１．土坑 SK035・SK036 完掘（北東）

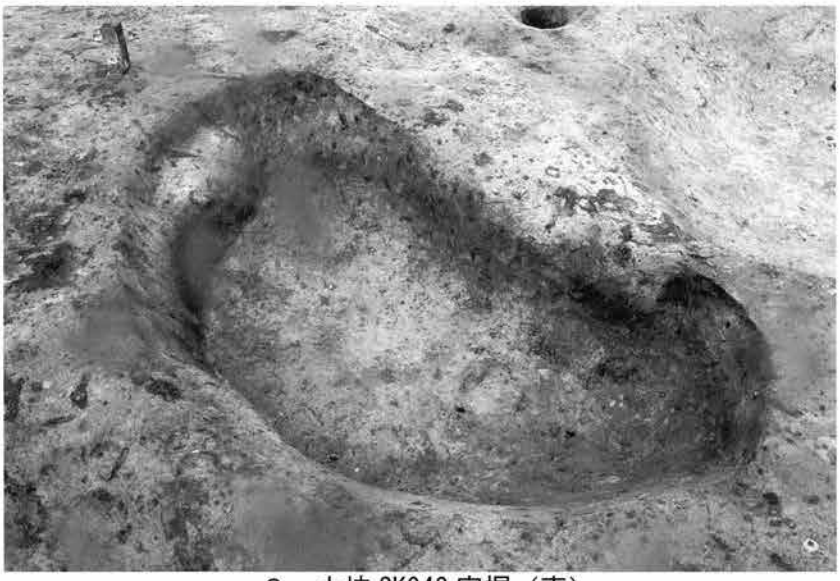
２．土坑 SK036 遺物出土状況（北）



３．土坑 SK039 完掘（南）

１．土坑 SK040 完掘（南）

２．土坑 SK041 完掘（南西）



３．土坑 SK042 完掘（東）

１．土坑 SK043・SK044 完掘（南西）

２．土坑 SK044 完掘（北）

３．土坑 SK045 完掘（西）

１．土坑 SK047・SK048 遺物出土状況（南東）

２．土坑 SK047・SK048 完掘（南東）

３．土坑 SK049 完掘（南）

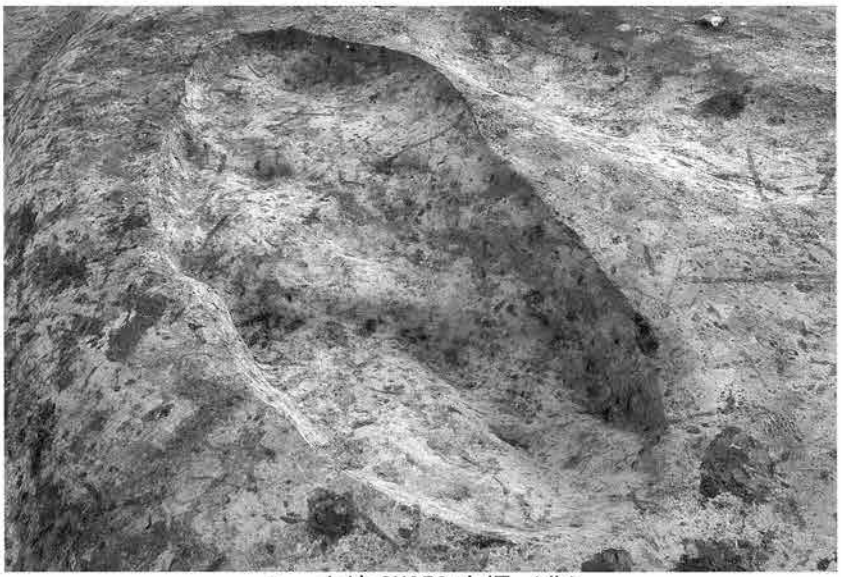
１．土坑 SK050 完掘（南東）

２．土坑 SK051 遺物出土状況（南東）

３．土坑 SK051 完掘（南）

１．土坑 SK050・SK051 完掘（西）

２．土坑 SK052 完掘（北）



３．土坑 SK053 完掘（北）

１．土坑 SK054 完掘（西）

２．土坑 SK057・SK058 完掘（南）

３．土坑 SK059 完掘（東）

１．土坑 SK059 遺物出土状況（南東）

２．土坑 SK065 完掘（北）

３．土坑 SK066 完掘（北）

１．土坑 SK066・SK067、溝 SD018 完掘（東）

２．土坑 SK067 遺物出土状況（北東）

３．土坑 SK067 遺物出土状況（北）

１．土坑 SK068 完掘（北西）

２．土坑 SK069 完掘（北東）

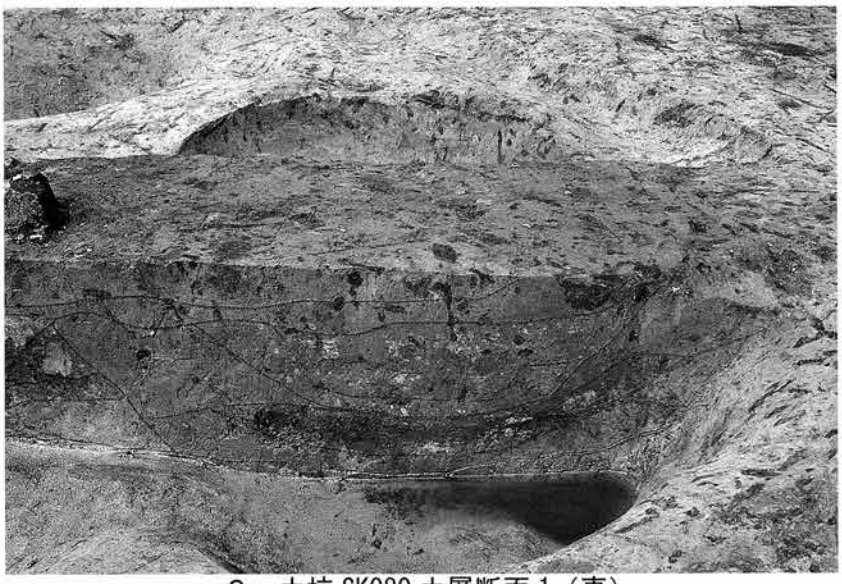
３．土坑 SK075 完掘（南東）

１．土坑 SK076 完掘（北東）

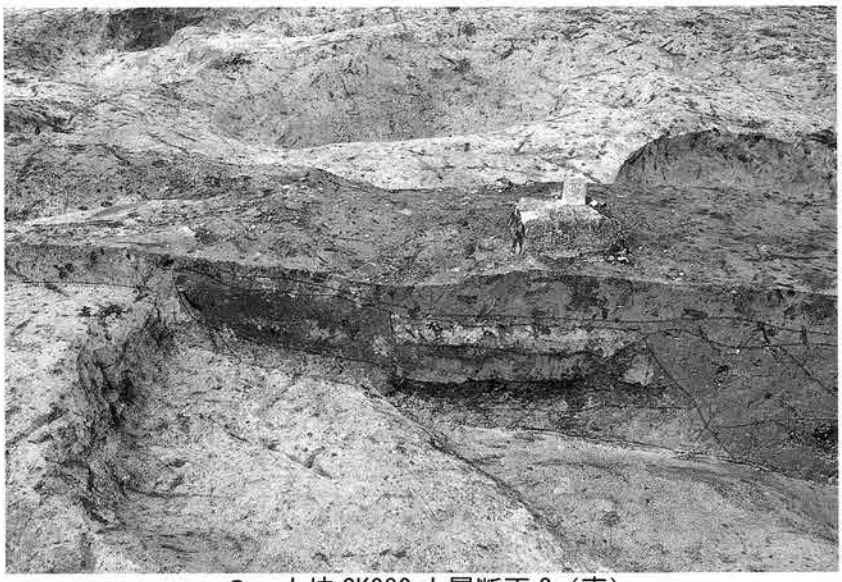
２．土坑 SK077 完掘（北東）

３．土坑 SK078 完掘（南）

１．土坑 SK079 完掘（南東）



２．土坑 SK080 土層断面１（東）

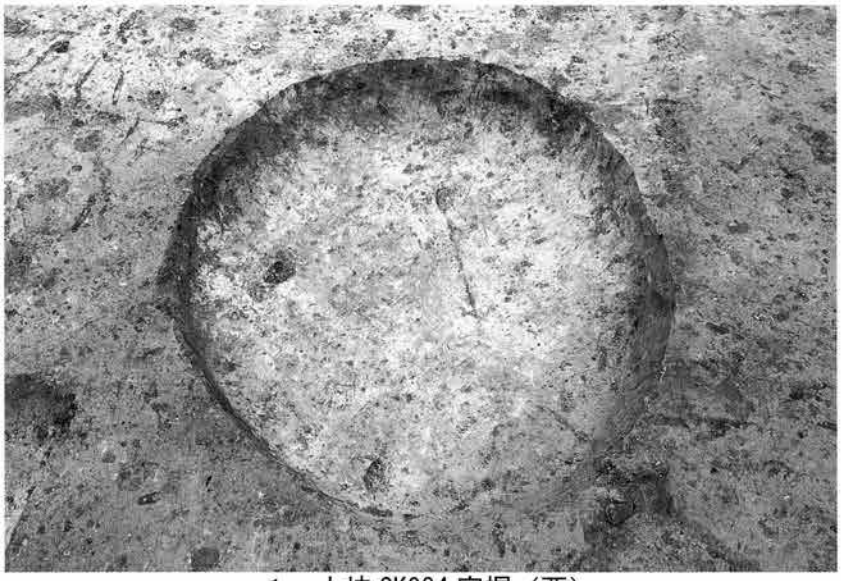


３．土坑 SK080 土層断面２（東）

１．土坑 SK080 完掘（南東）

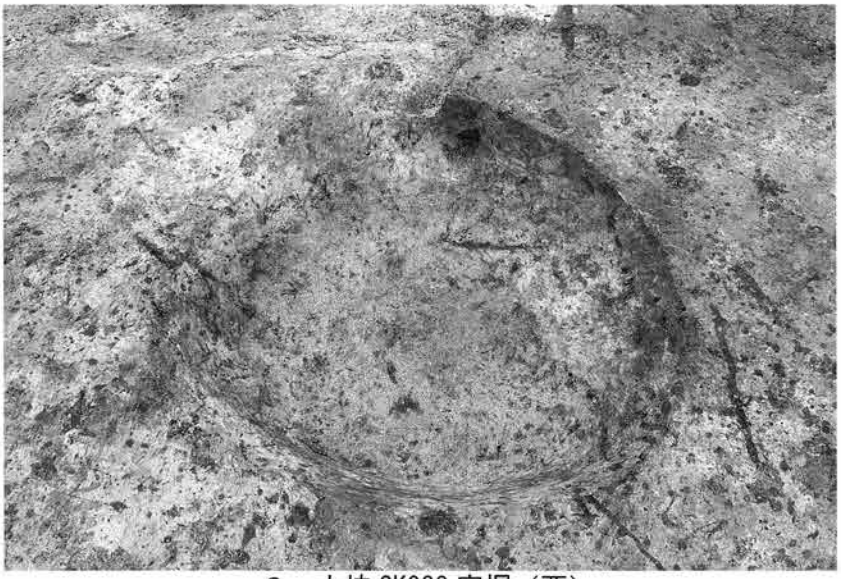
２．土坑 SK081・SK082 完掘（北）

３．土坑 SK083 完掘（北西）



１．土坑 SK084 完掘（西）

２．土坑 SK087 完掘（北東）



３．土坑 SK088 完掘（西）

１．土坑 SK89 完掘（北東）

２．土坑 SK090 完掘（北）

３．土坑 SK091 完掘（北西）

１．土坑 SK092 完掘（北東）

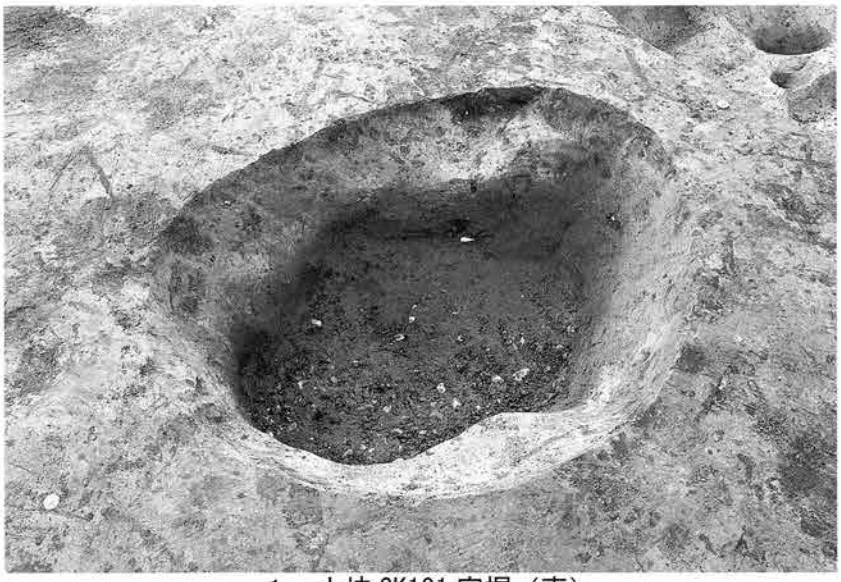
２．土坑 SK095 完掘（西）

３．土坑 SK096・SK097 完掘（東）

1．土坑 SK098 完掘（東）

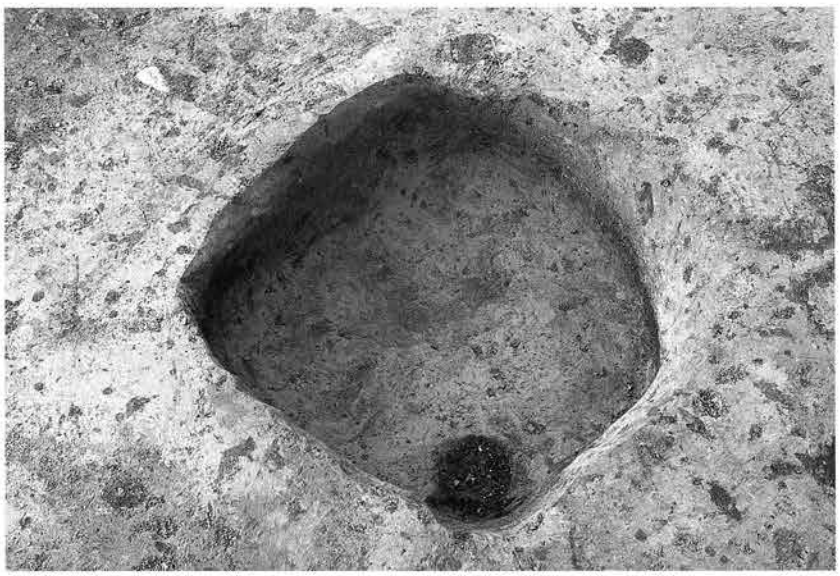
2．土坑 SK099 完掘（北西）

3．土坑 SK100・SK103 完掘（南東）



1．土坑 SK101 完掘（東）

2．土坑 SK102 完掘（北東）

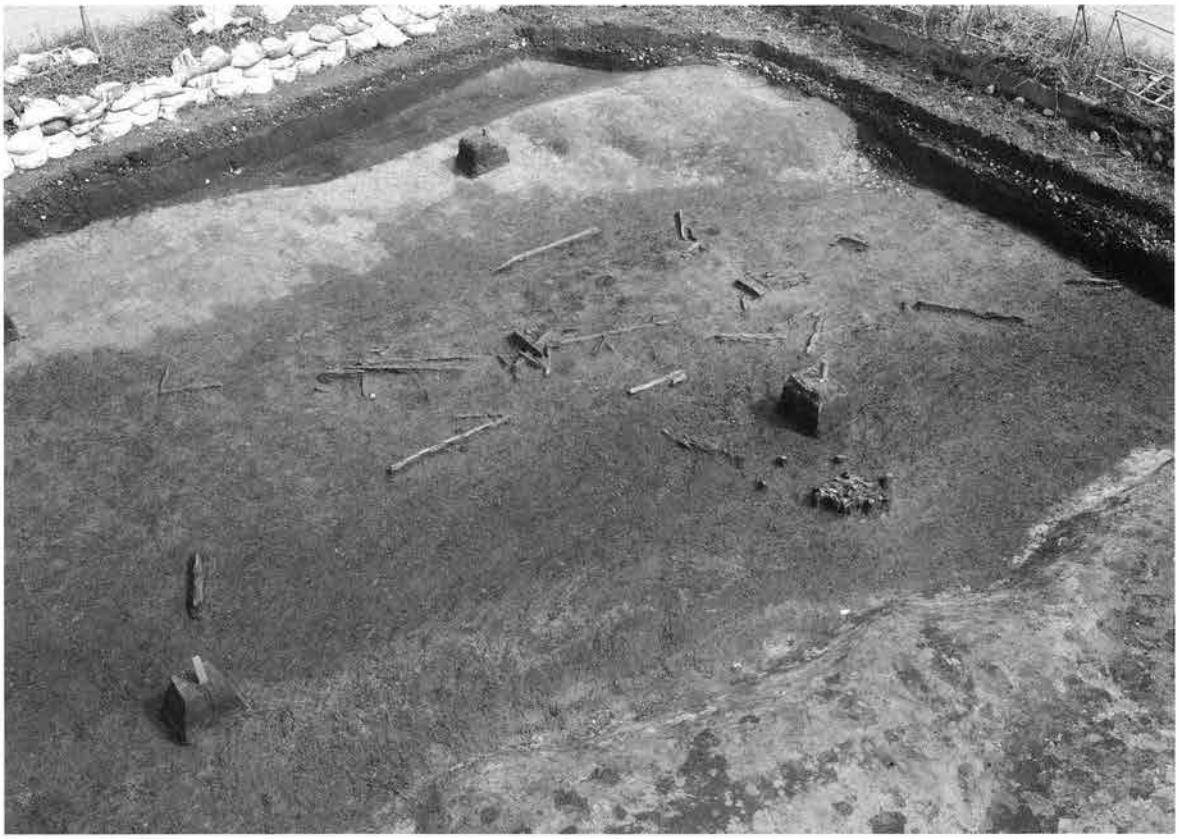


3．土坑 SK104 完掘（南）

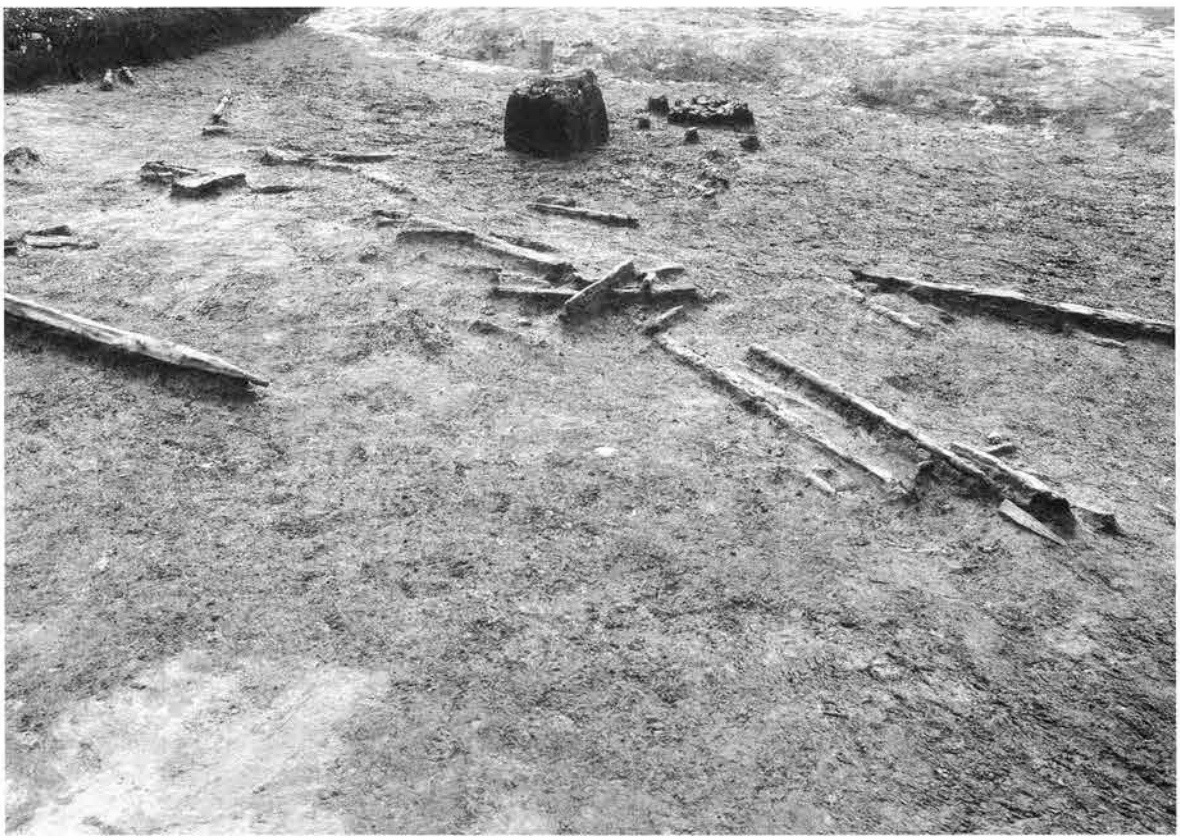
１．溝 SD001 完掘（北東）

２．溝 SD002 完掘（西）

３．溝 SD004 土層断面（南）



1．溝 SD004 遺物出土状況 1（北西）



2．溝 SD004 遺物出土状況 2（北東）

1．溝 SD004 遺物出土状況 3（南西）

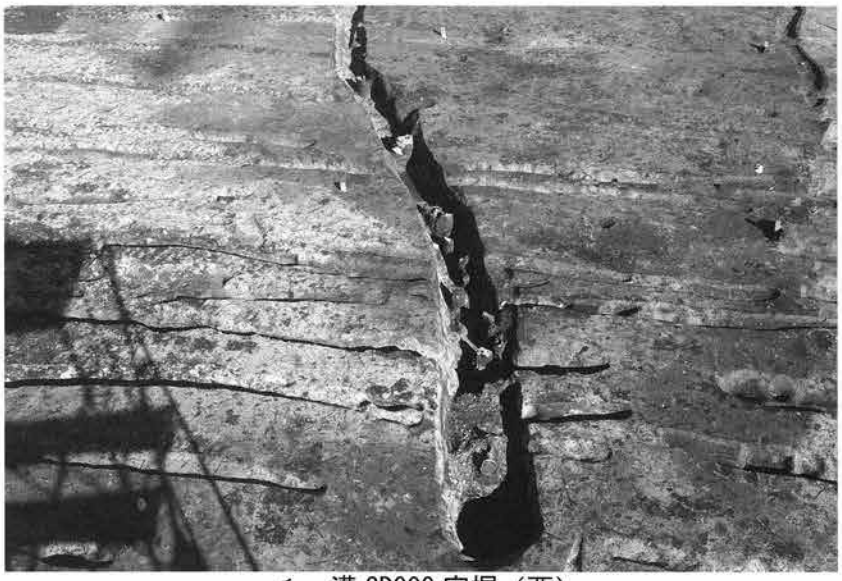
2．溝 SD004 遺物出土状況 4（北北東）

3．溝 SD004 遺物出土状況 5（北西）

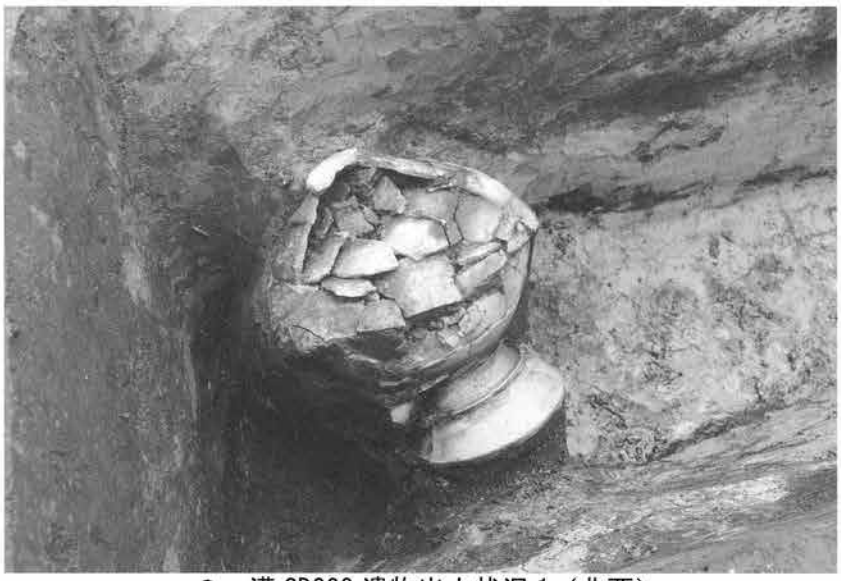
１．溝 SD004 遺物出土状況 6（南）

２．溝 SD004 遺物出土状況 7（西）

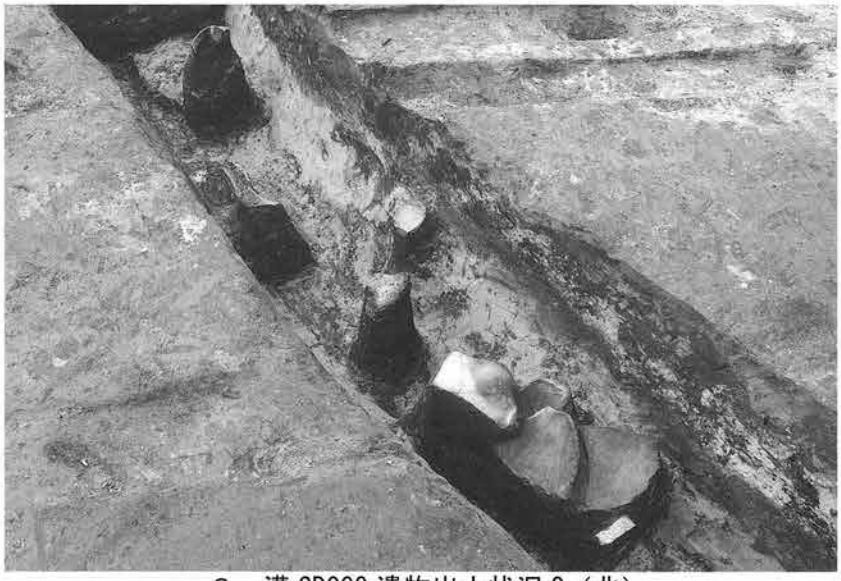
３．溝 SD004 遺物出土状況 8（東）



１．溝 SD009 完掘（西）



２．溝 SD009 遺物出土状況１（北西）



３．溝 SD009 遺物出土状況２（北）

１．溝 SD010 完掘（南西）

２．溝 SD014 完掘（北西）

３．溝 SD014 遺物出土状況（北）

１．溝 SD015 完掘（南西）

２．溝 SD016 完掘（北西）

３．溝 SD019 完掘（北）

１．上層畝状遺構全景（真上）

２．上層畝状遺構全景（南）

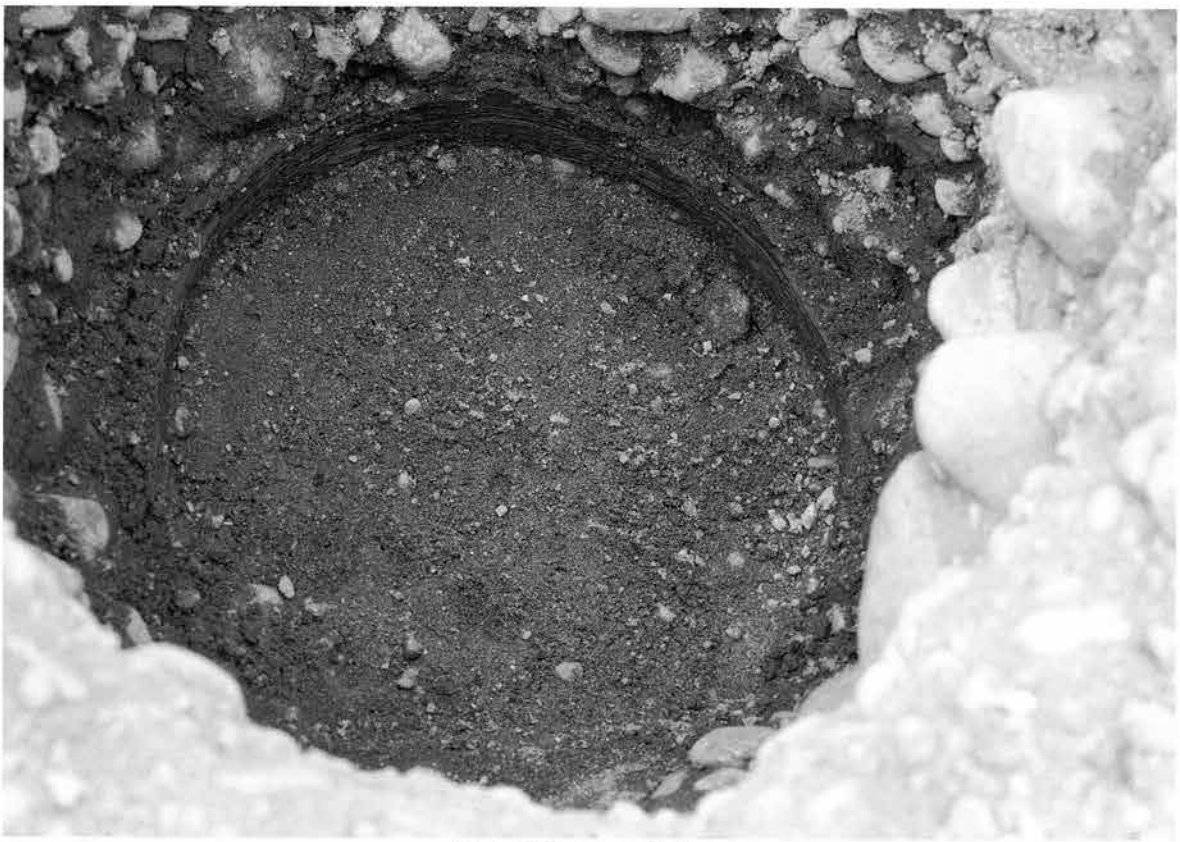
１．上層畝状遺構検出状況（北西）

２．上層畝状遺構完掘全景（北）

1．調査地区全景（南）

2．調査地区全景（真上）

1．掘立柱建物址 SB001 完掘（西）



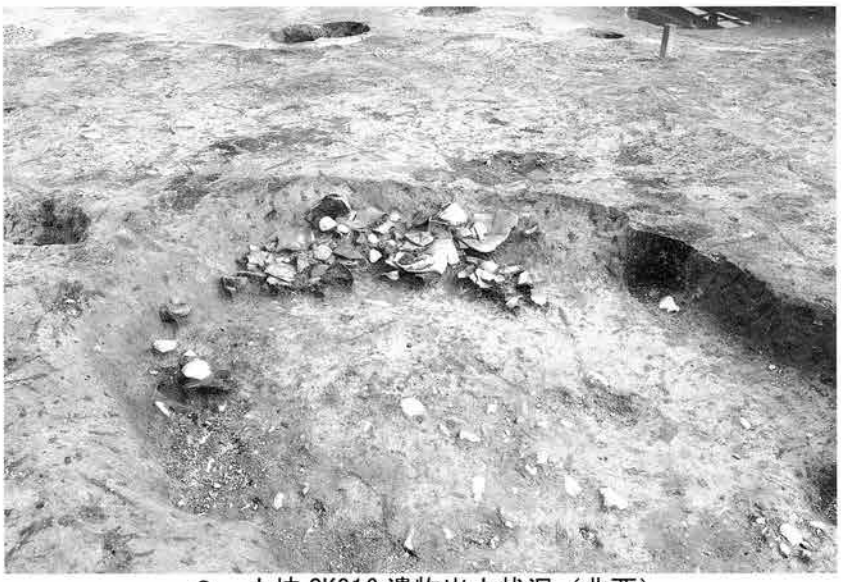
2．井戸 SE001 井戸枠出土状況

1．土坑 SK001 完掘（南）

2．土坑 SK002 完掘（南）

3．土坑 SK013 遺物出土状況（南）

1．土坑 SK016 土層断面（南）



2．土坑 SK016 遺物出土状況（北西）

3．土坑 SK016 完掘（北）

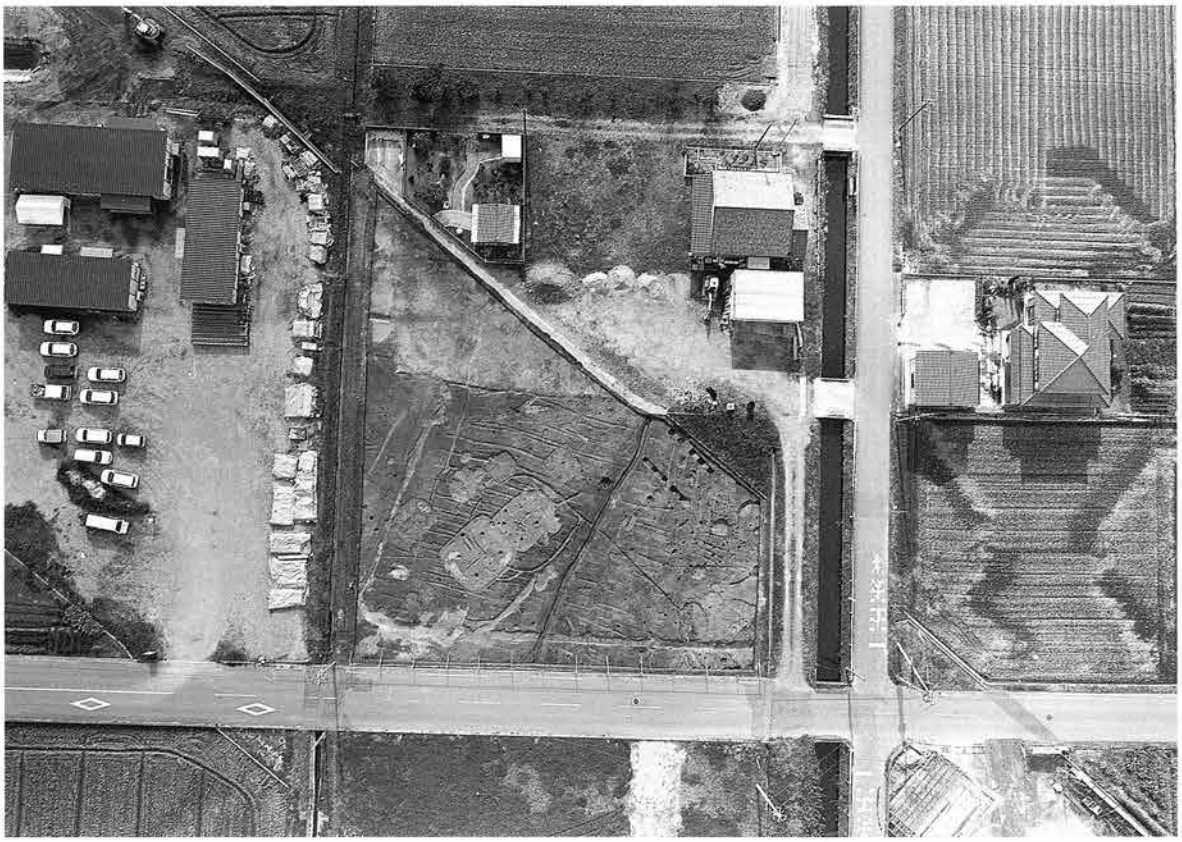
１．溝 SD004・SD003 土層断面（南）

２．溝 SD003 遺物出土状況（南）

３．溝 SD004・SD003 完掘（南）

図版〇六八　遺構写真（6区）

1．調査地区全景（南）

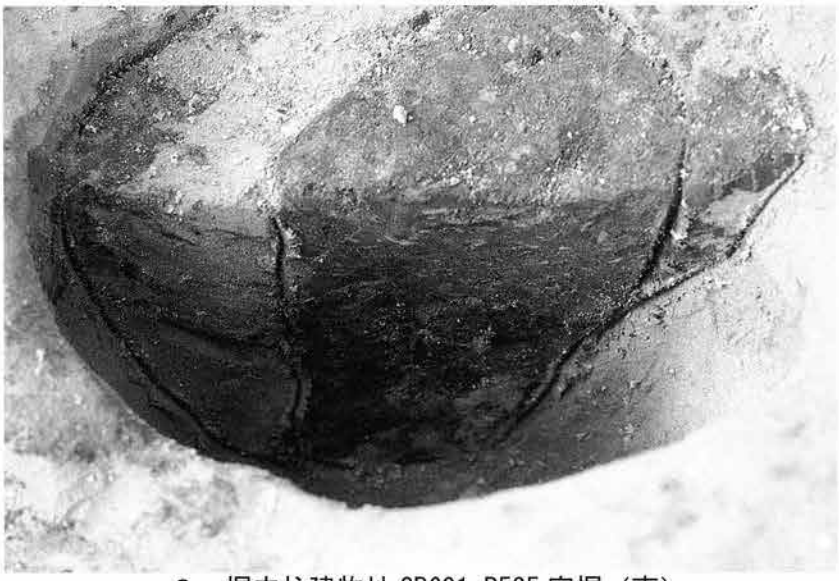


2．調査地区全景（真上）

1．下層遺構完掘状況（北西）

2．下層遺構完掘状況（南西）

１．掘立柱建物址 SB601 完掘（南東）



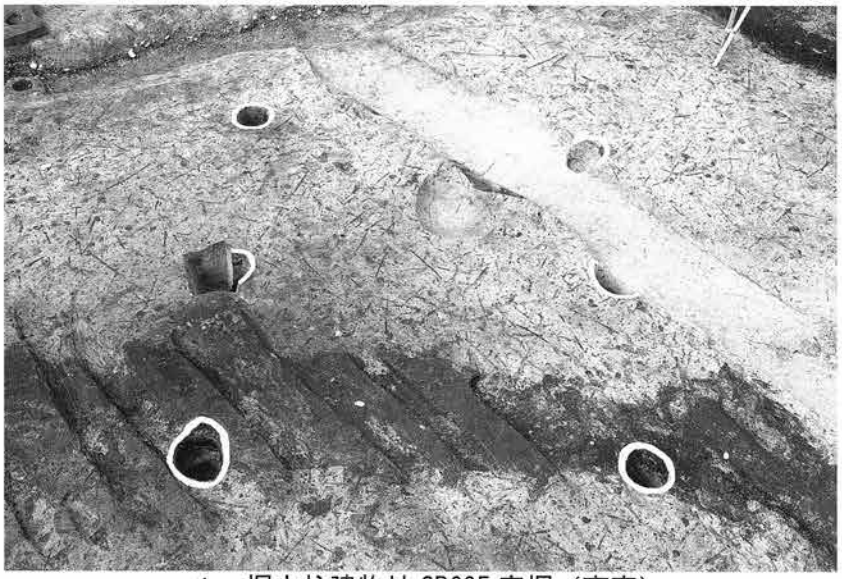
２．掘立柱建物址 SB601-P525 完掘（南）

３．掘立柱建物址 SB603 完掘（南西）

１．掘立柱建物址 SB602 完掘（北東）

２．掘立柱建物址 SB602-P585 柱材出土状況（南西）

３．掘立柱建物址 SB604 完掘（北東）



１．掘立柱建物址 SB605 完掘（南東）

２．掘立柱建物址 SB605-P5084 土層断面（南）

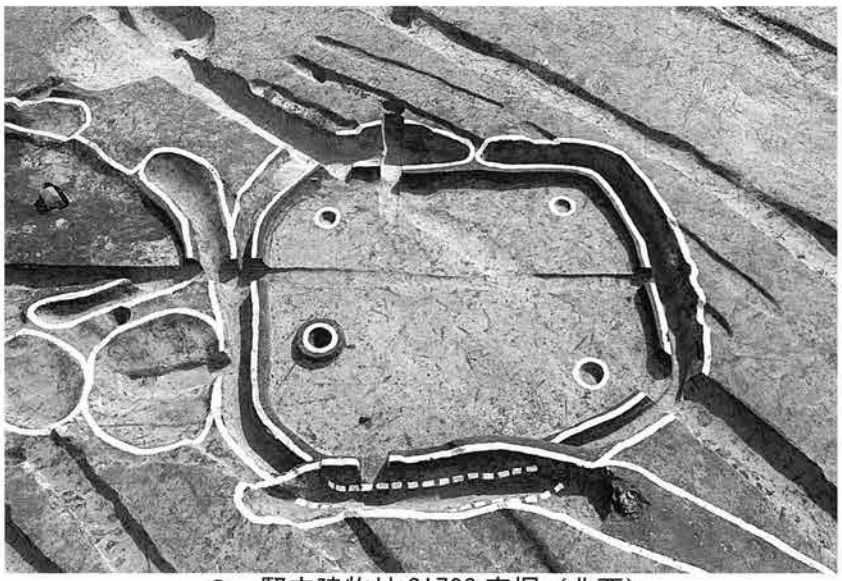
３．掘立柱建物址 SB605-P5140 柱材出土状況（北）

１．掘立柱建物址 SB611 － SX402 ～ SX405 全景（西）

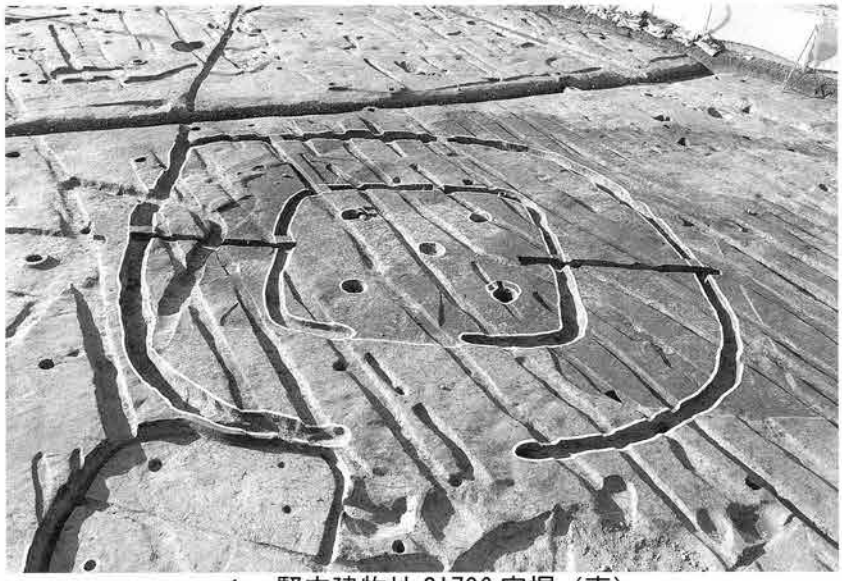
２．掘立柱建物址 SB611 － SX403-P4 根巻石検出状況（南）

１．竪穴建物址 SI701 完掘（南東）

２．竪穴建物址 SI702 完掘（北）



３．竪穴建物址 SI703 完掘（北西）



１．竪穴建物址 SI706 完掘（東）

２．竪穴建物址 SI706 炉址土層断面（東）

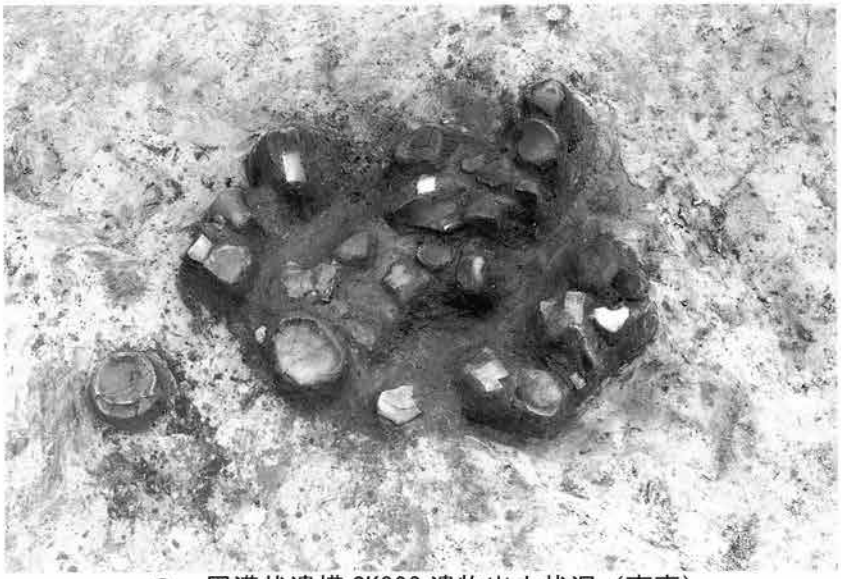
３．竪穴建物址 SI706 周溝（SD228）内遺物出土状況（北東）

１．竪穴建物址 SI707 完掘（西）

２．竪穴建物址 SI707 炉址土層断面（東）

３．竪穴建物址 SI707 周溝（SD231）内遺物出土状況（南西）

１．周溝状遺構完掘（南東）



２．周溝状遺構 SK303 遺物出土状況（南東）

３．周溝状遺構 SD216・SD217 遺物出土状況（南）

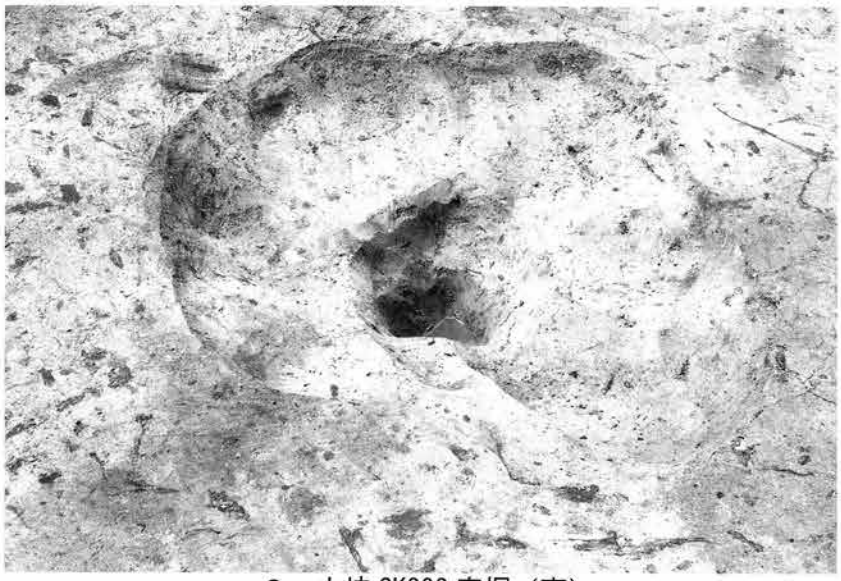
1．上層畝状遺構完掘（東）

2．上層畝状遺構完掘（南西）

1．調査地区全景（東）

2．調査地区全景（真上）

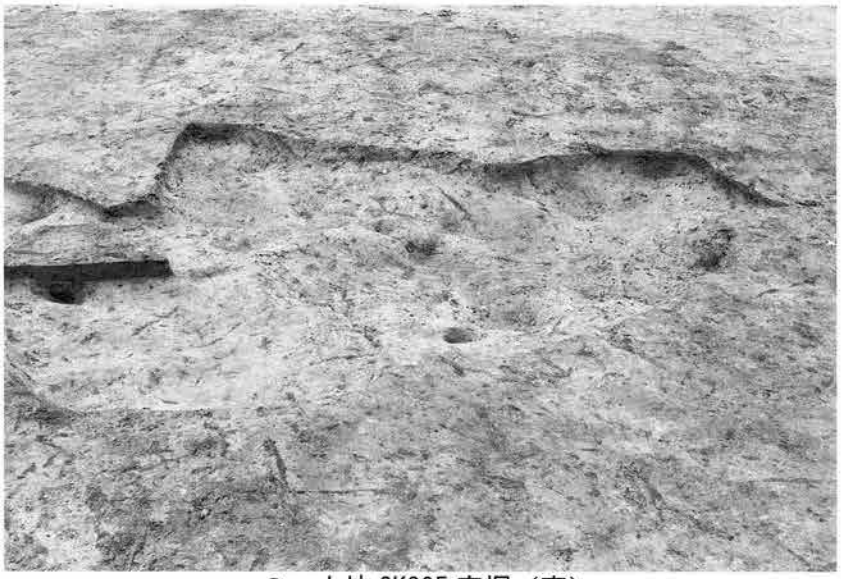
1．土坑 SK301 完掘（南）



2．土坑 SK302 完掘（南）

3．土坑 SK303 完堀（南）

1．土坑 SK304 完掘（東）



2．土坑 SK305 完掘（東）

3．土坑 SK310 樹皮出土状況（南）

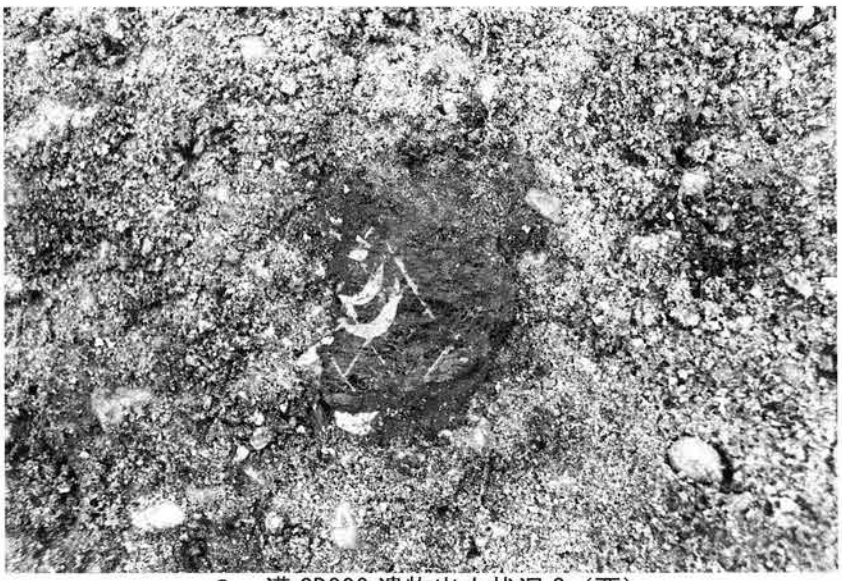
1．溝 SD201 土層断面（南東）

2．溝 SD201 遺物出土状況（南東）

3．溝 SD202 土層断面（南）

1．溝 SD203 土層断面（西）

2．溝 SD203 遺物出土状況 1（東）



3．溝 SD203 遺物出土状況 2（西）

1．溝 SD205 土層断面（東）

2．溝 SD206 土層断面（東）

3．溝 SD207 土層断面（南西）

1．畝状遺構土層断面（南東）

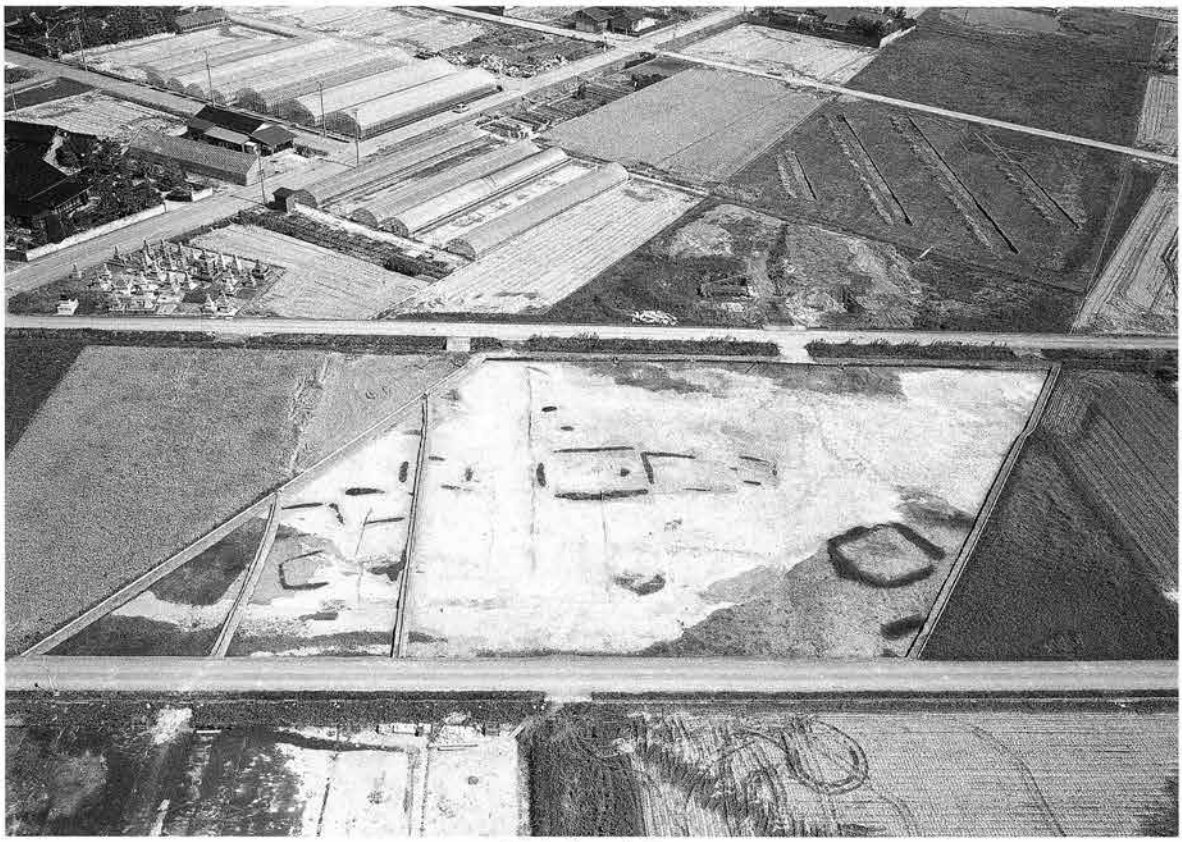
2．畝状遺構完掘（南東）

１．調査地区全景（東）

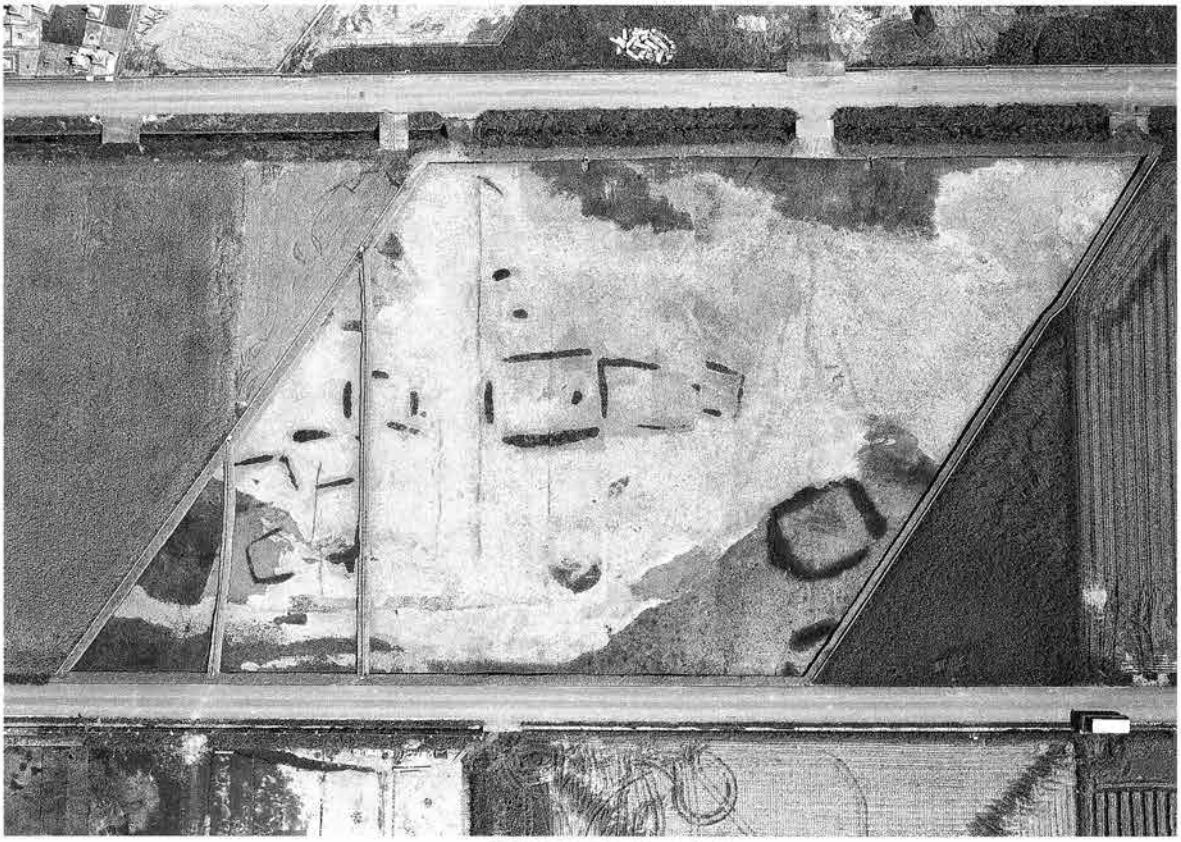
２．調査地区全景（真上）

１．SB601・SB602 完掘（北）

２．遺構検出状況（東）



１．調査地区全景（西）



２．調査地区全景（真上）

１．方形周溝墓 SZ301 遺物出土状況（東）

２．方形周溝墓 SZ301 完掘（北西）

１．方形周溝墓 SZ302 検出（北東）

２．方形周溝墓 SZ302 周溝土層断面（北東）

１．方形周溝墓 SZ302 完掘（北西）

２．方形周溝墓 SZ302 周溝内遺物出土状況１（南）

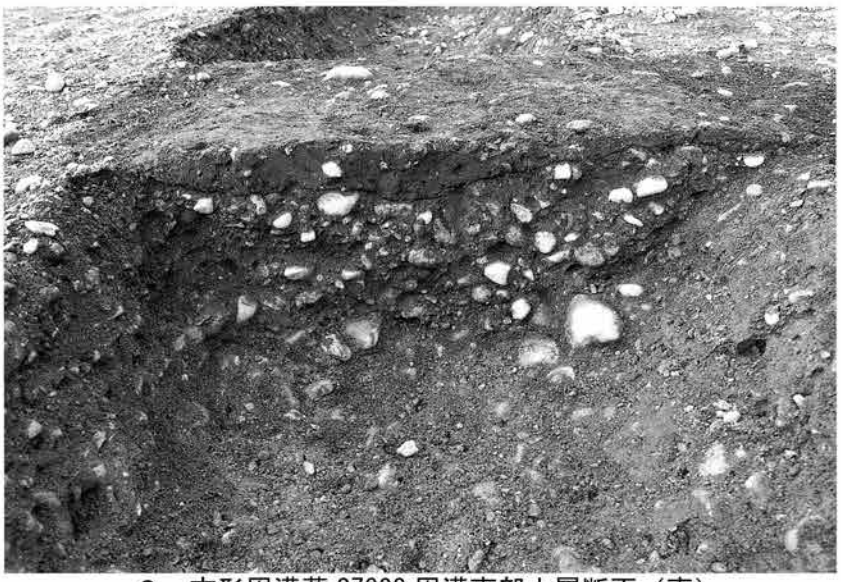
１．方形周溝墓 SZ302 周溝土内遺物出土状況 2（北東）

２．方形周溝墓 SZ302 周溝内遺物出土状況 3（北）

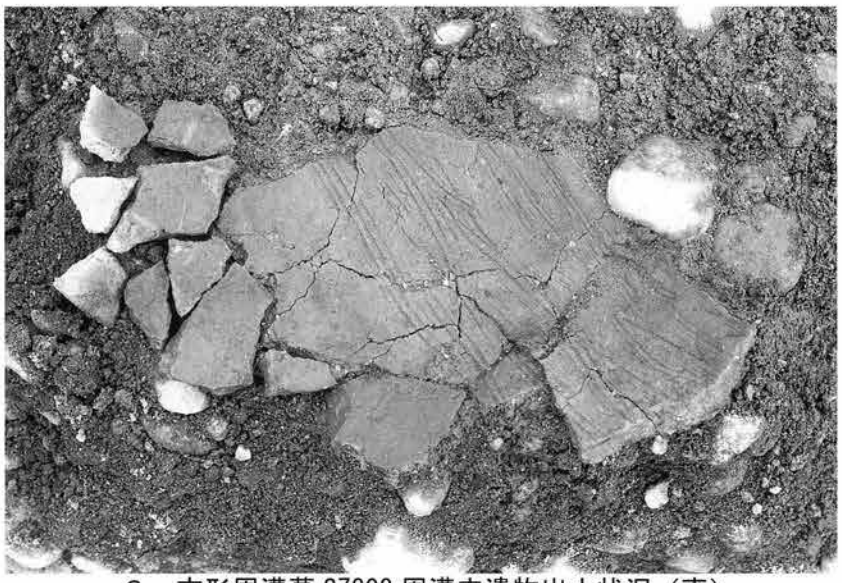
1．方形周溝墓 SZ303 検出（南）

2．方形周溝墓 SZ303 完掘（南）

１．方形周溝墓 SZ303 周溝北部土層断面（東）



２．方形周溝墓 SZ303 周溝南部土層断面（東）

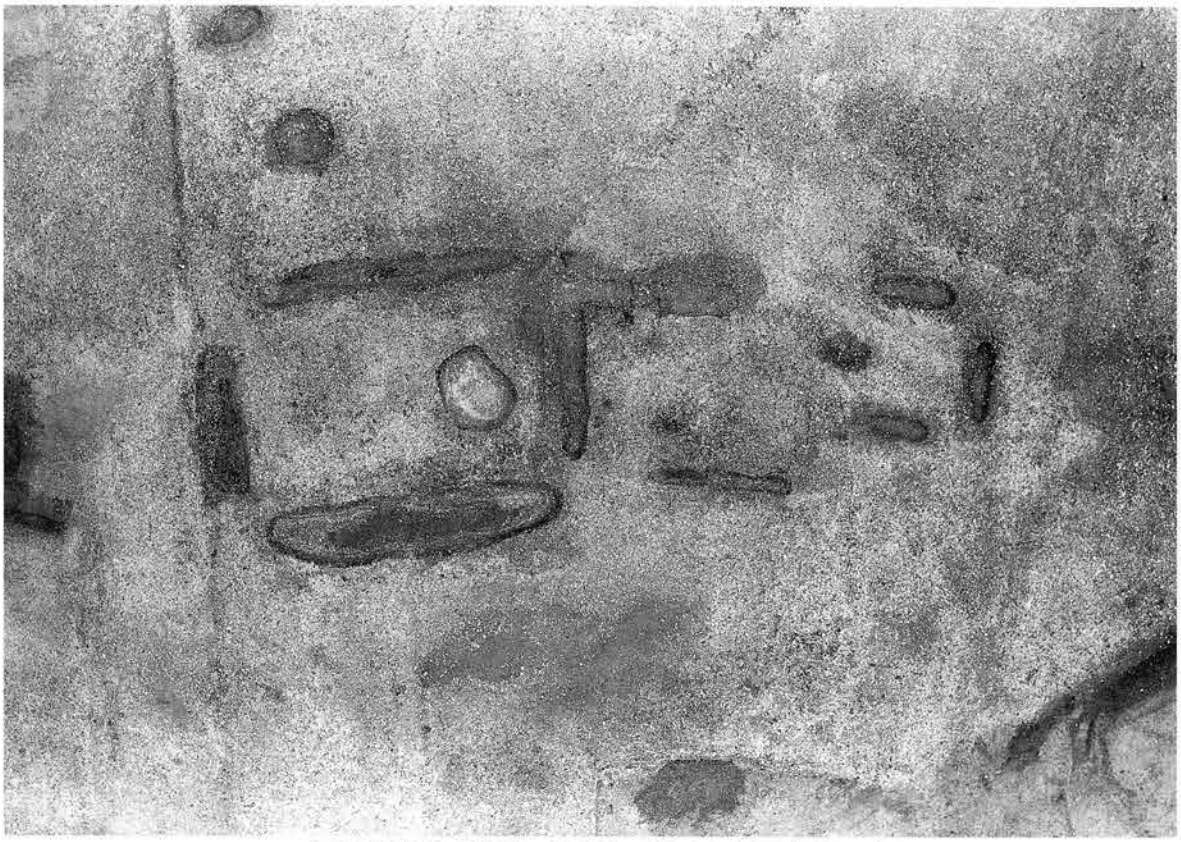


３．方形周溝墓 SZ303 周溝内遺物出土状況（東）

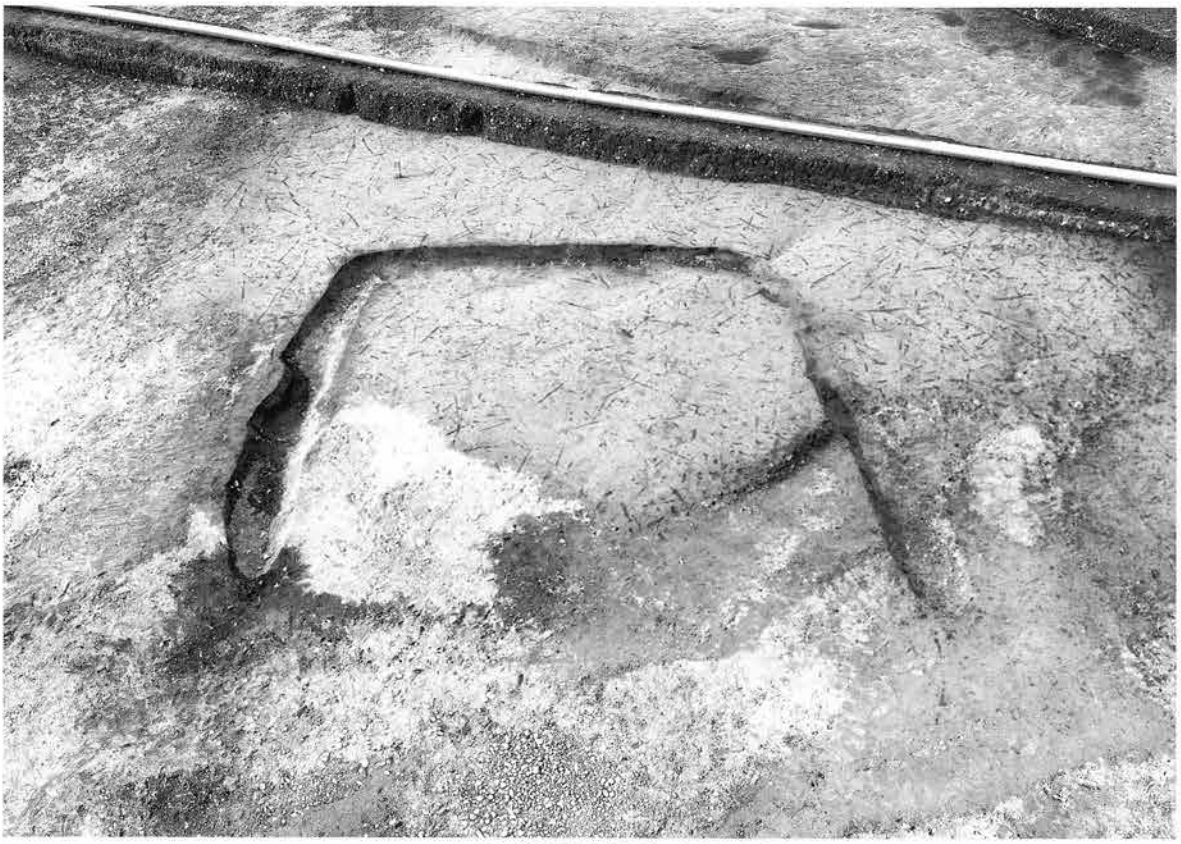
１．方形周溝墓 SZ305・SZ306 検出（東）

２．方形周溝墓 SZ305 周溝土層断面（南）

３．方形周溝墓 SZ306 周溝土層断面（北）



1．方形周溝墓 SZ303・SZ305・SZ306 完掘全景（真上）



2．方形周溝墓 SZ304 完掘（南）

1．方形周溝墓 SZ307 検出（東）

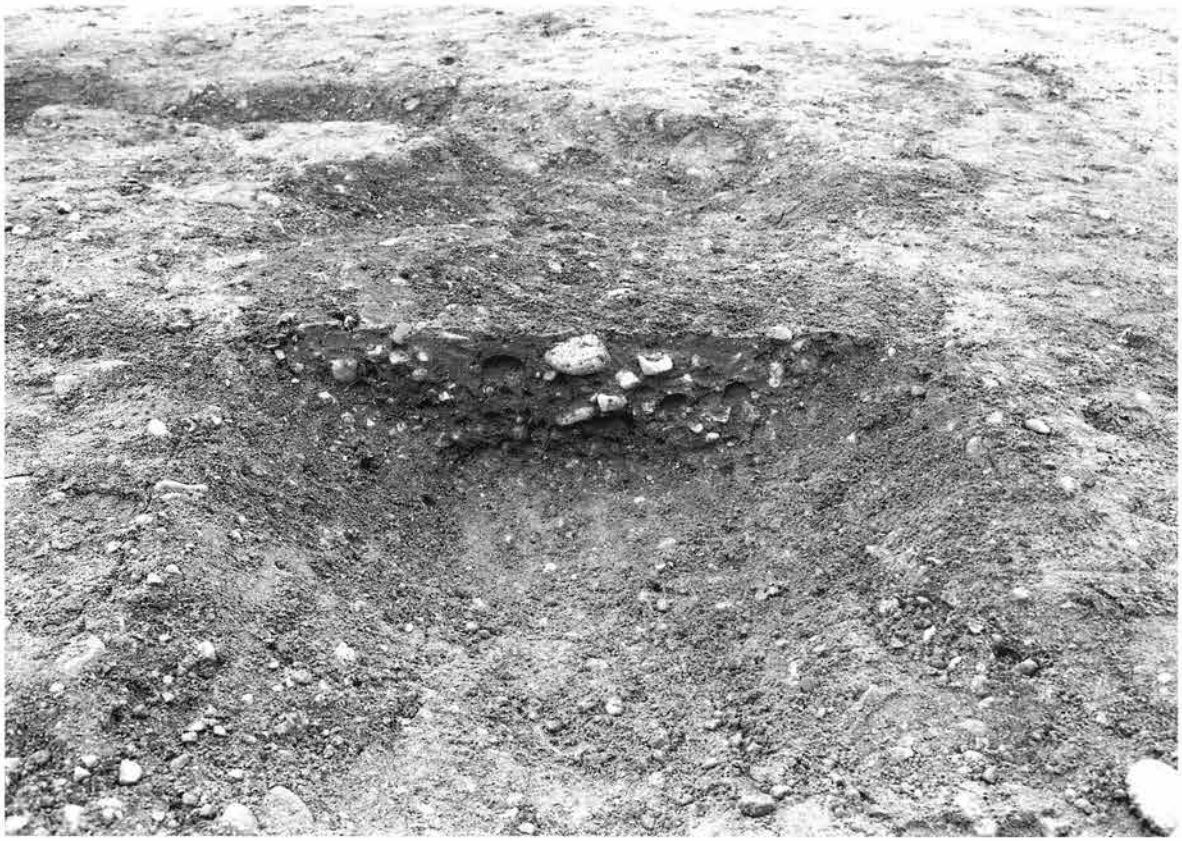
2．方形周溝墓 SZ307 周溝断面（南）

１．方形周溝墓 SZ307 完掘（南）

２．方形周溝墓 SZ307 周溝内遺物出土状況（南東）

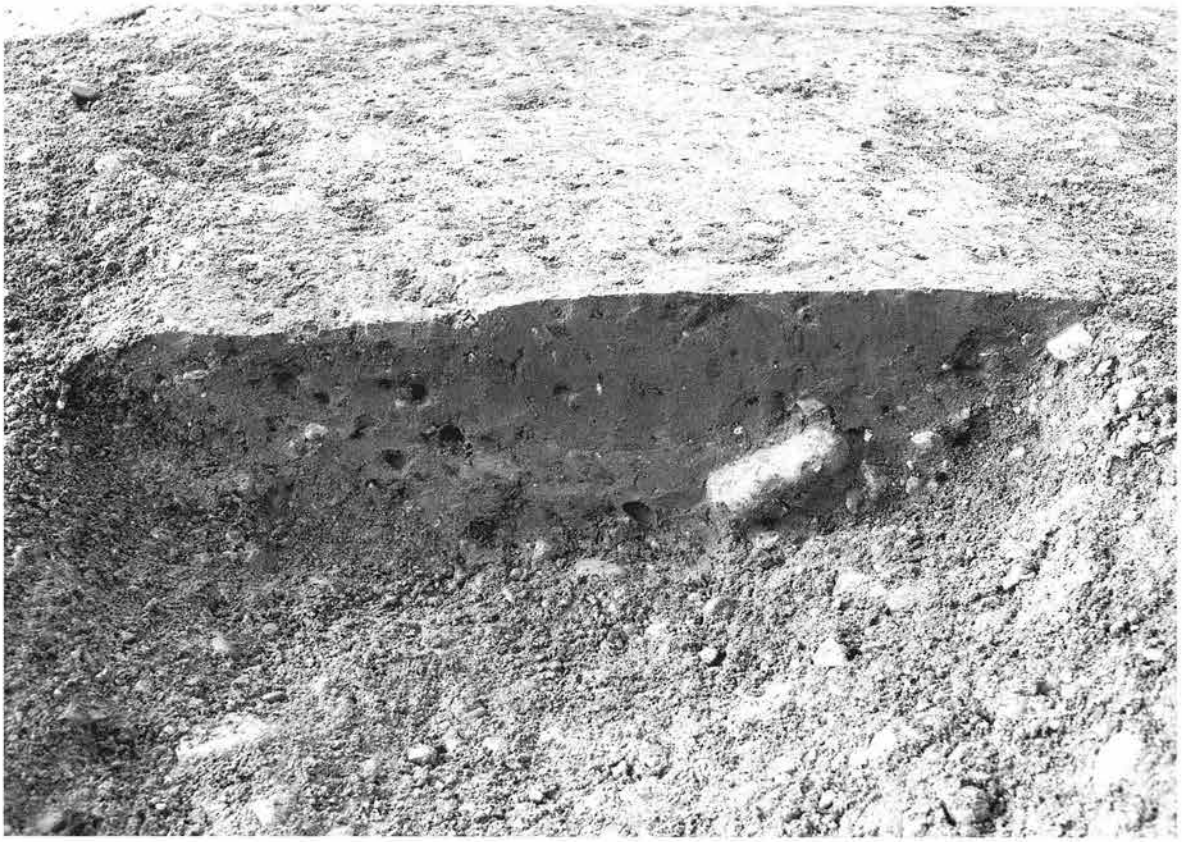
1．方形周溝墓 SZ308 周溝断面（南）

2．方形周溝墓 SZ309 周溝断面（南西）



1．方形周溝墓 SZ310 周溝断面（西）

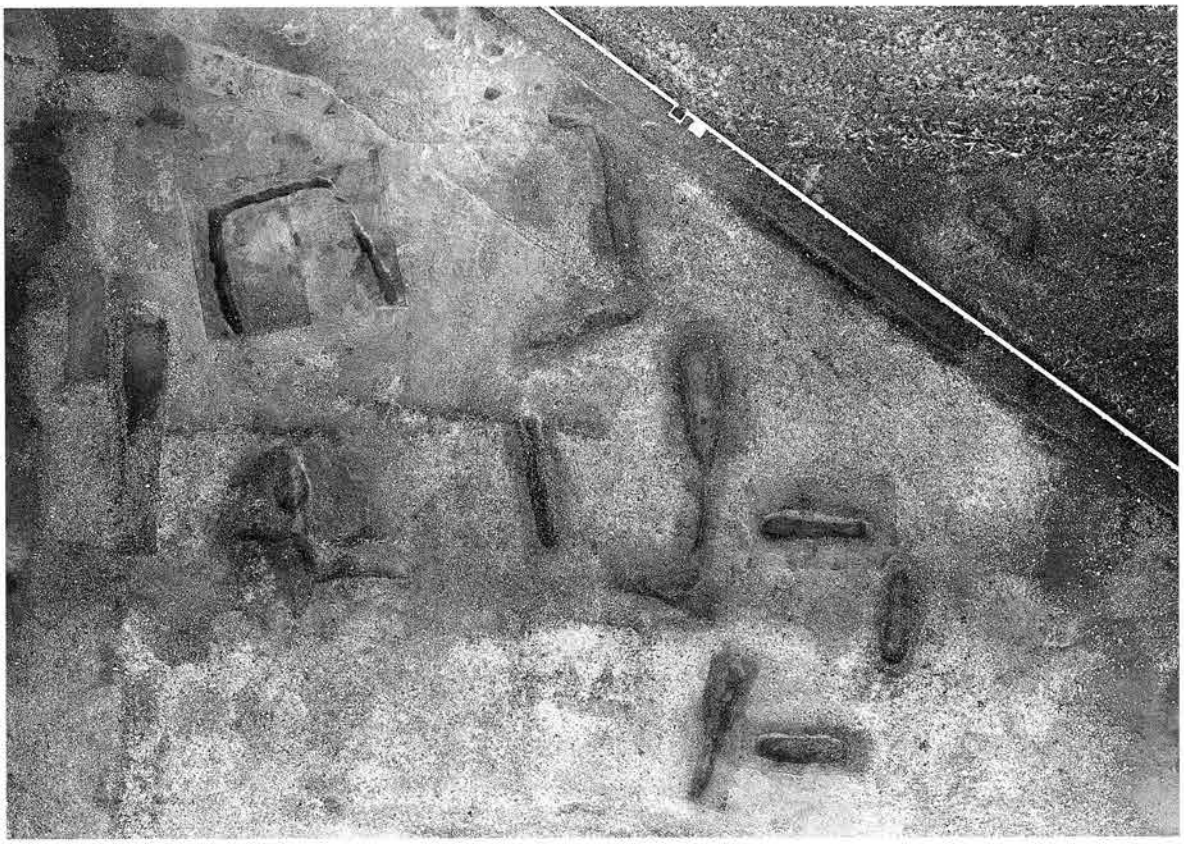
2．方形周溝墓 SZ308 ～ SZ310 完掘（南東）



1．方形周溝墓 SZ311 周溝断面（南）

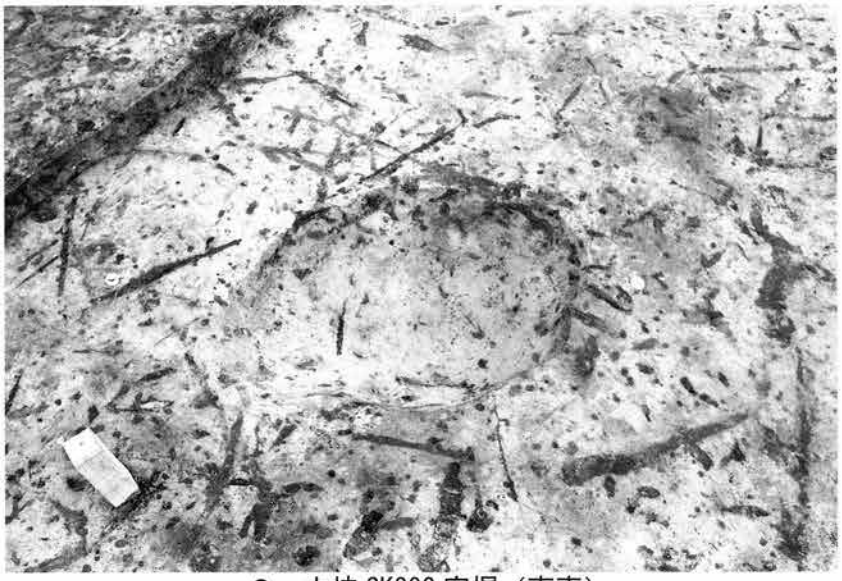
2．方形周溝墓 SZ311 完掘（南）

１．方形周溝墓 SZ311 周溝内遺物出土状況（東）



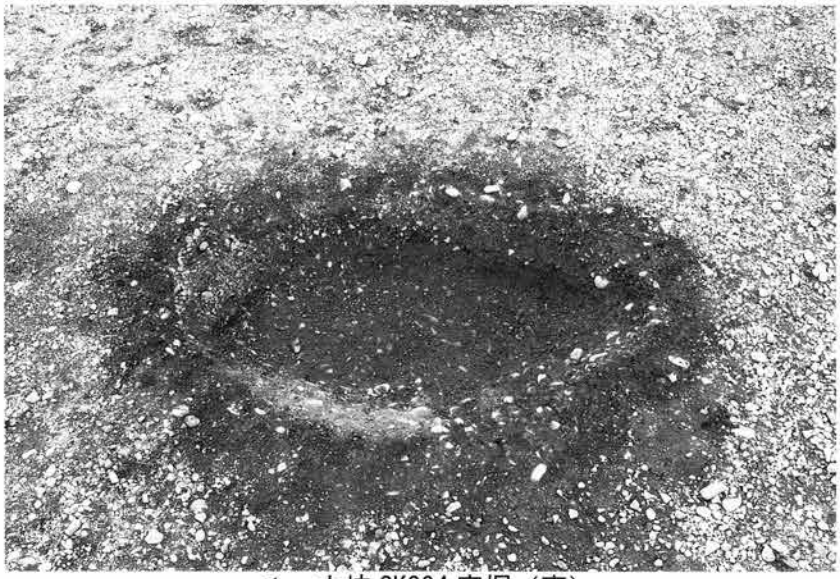
２．方形周溝墓 SZ307 ～ SZ311 完掘全景（真上）

1．土坑 SK201 完掘（北）



2．土坑 SK202 完掘（南東）

3．土坑 SK203 完掘（西）



1．土坑 SK204 完掘（東）

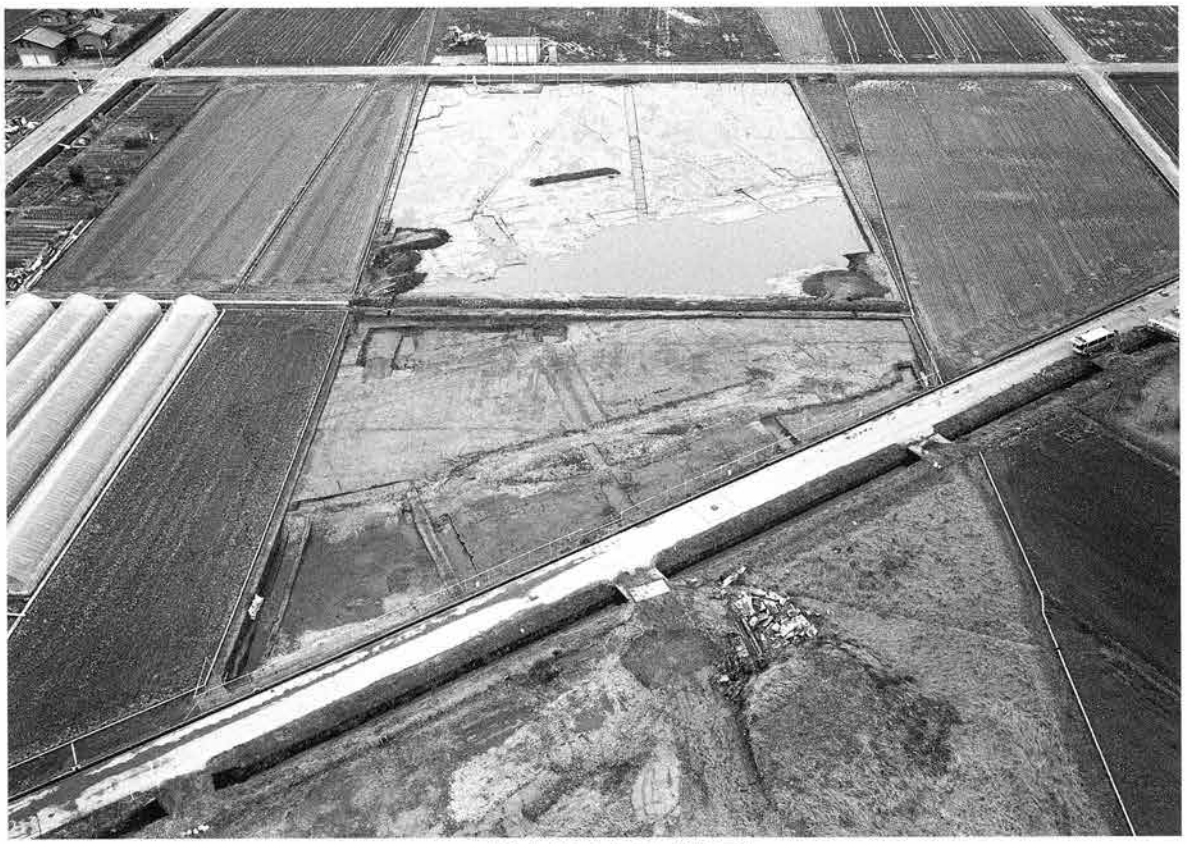
2．土坑 SK205 完掘（北西）

3．土坑 SK206 完掘（北西）

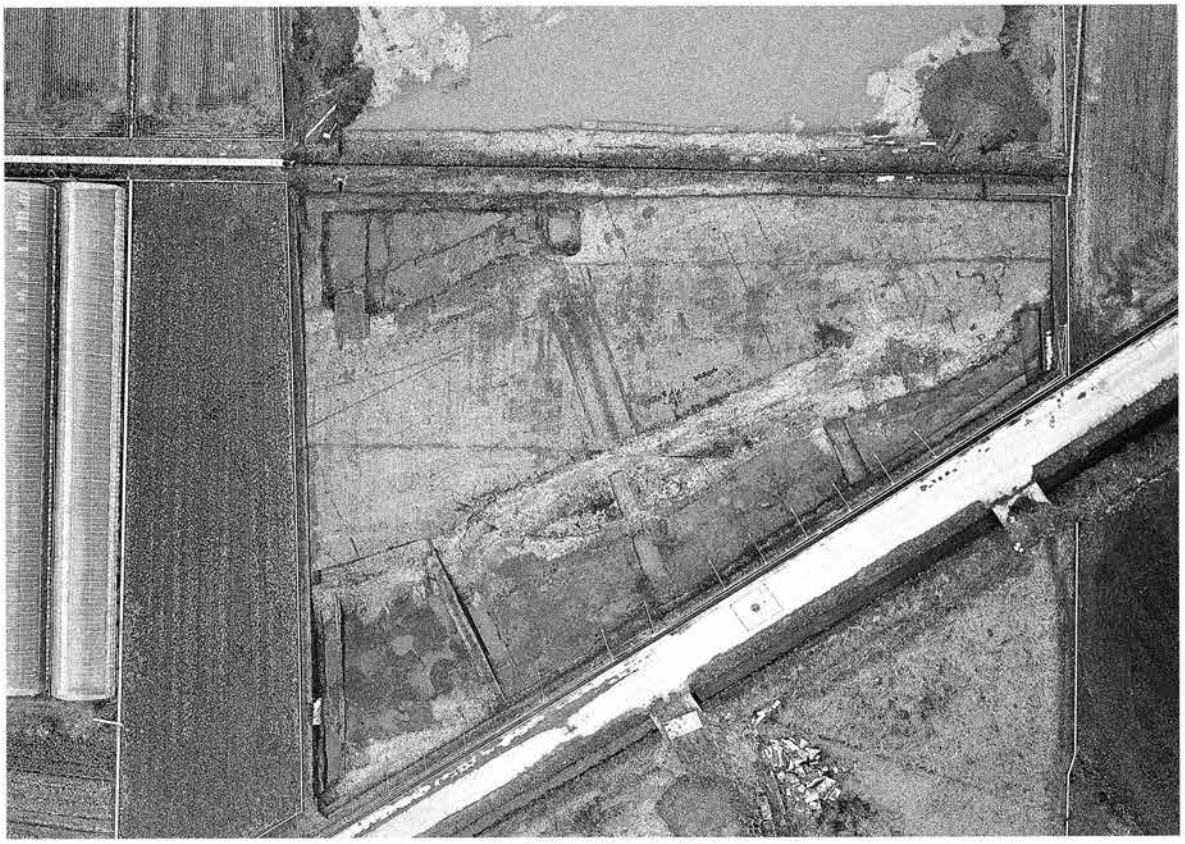
1．土坑 SK207 完掘（南西）

2．溝 SD101 完掘（北）

3．畝状遺構完掘（北）



１．調査地区全景（北西）



２．調査地区全景（真上）

１．溝 SD001・SD003 トレンチ３土層断面図（南）

２．溝 SD001・SD003 護岸施設（北西）

３．溝 SD001・SD003 完掘（南）

1．調査地区全景（東）

2．調査地区全景（真上）

1．溝 SD011 遺物出土状況 1（南東）

2．溝 SD011 遺物出土状況 2（南東）

1．溝 SD011 遺物出土状況 3（西）

2．溝 SD011 遺物出土状況 4（西）

1．溝 SD011 遺物出土状況 5（東）

2．溝 SD011 遺物出土状況 6（南）

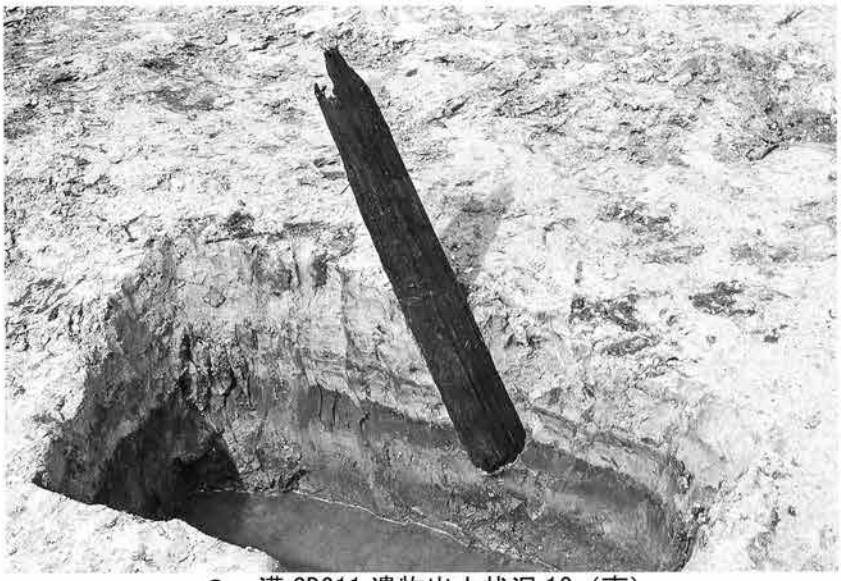
3．溝 SD011 遺物出土状況 7（南）

1．溝 SD011 遺物出土状況 8（東）

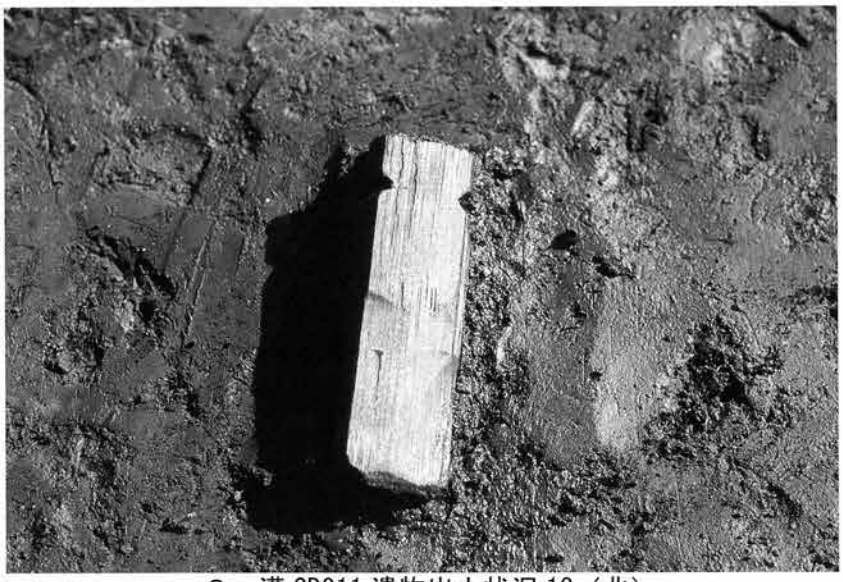
2．溝 SD011 遺物出土状況 9（東）

3．溝 SD011 遺物出土状況 10（西）

1．溝 SD011 遺物出土状況 11（南）



2．溝 SD011 遺物出土状況 12（南）



3．溝 SD011 遺物出土状況 13（北）

1．溝 SD002 全景（北西）

2．溝 SD002 土層断面（南西）

1．柵址 SA001-P011 全景（東）

2．柵址 SA001-P011 土層断面（東）

3．遺物出土状況（南）

1．調査地区全景（南東）

2．調査地区全景（真上）

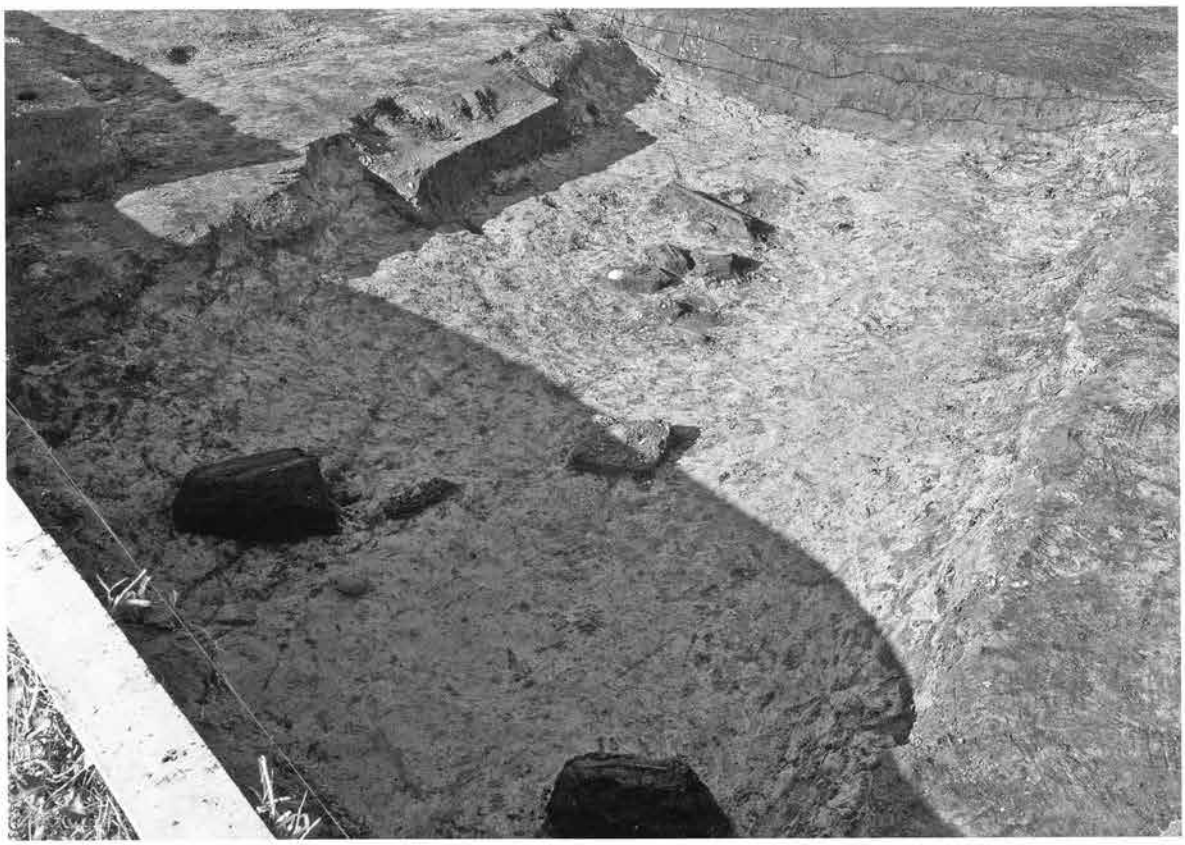
1．溝 SD010・SD011・SD038 全景（南東）

2．溝 SD011 全景（北西）

1．溝 SD011 遺物出土状況遠景（南東）

2．溝 SD011 遺物出土状況近景（南東）

1．溝 SD011 遺物出土状況 1（南西）



2．溝 SD011 遺物出土状況 2（南）

1．溝 SD011 遺物出土状況 3（東）

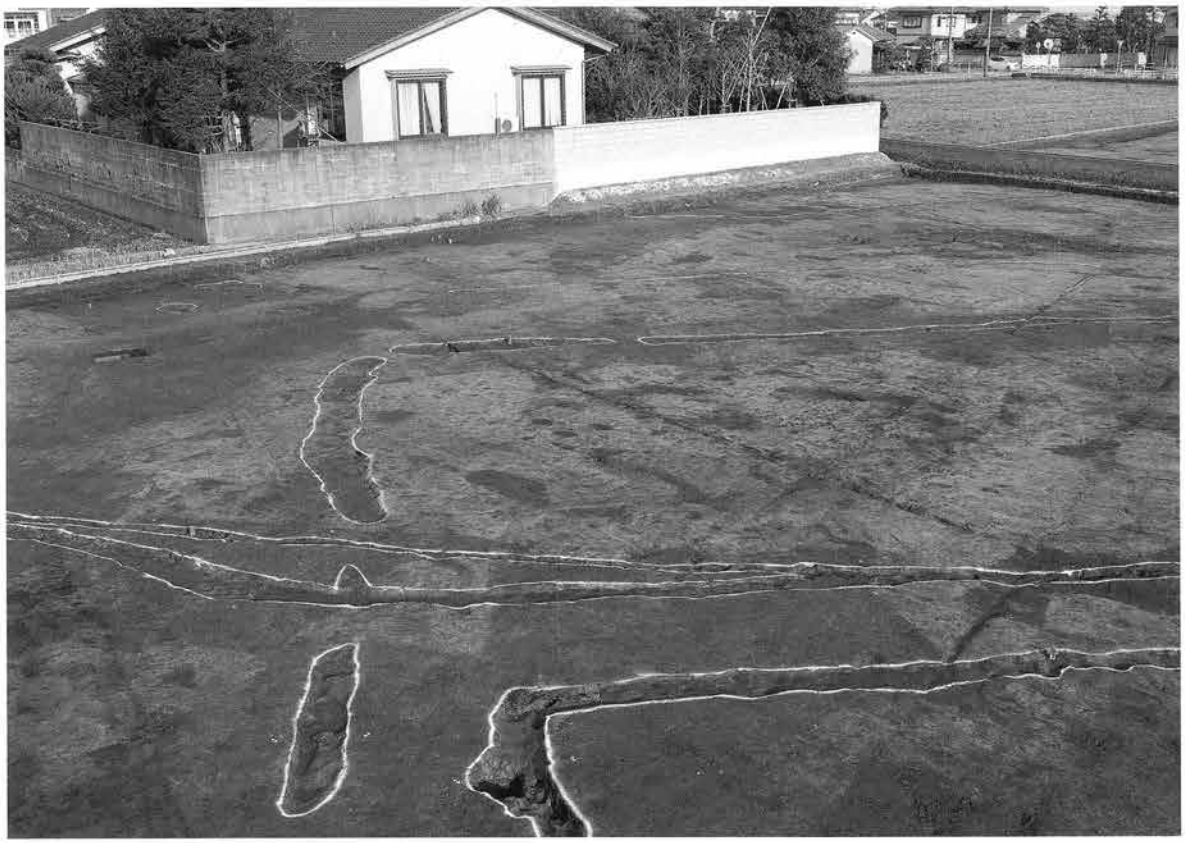
2．溝 SD011 遺物出土状況 4（北）

3．溝 SD011 遺物出土状況 5（西）

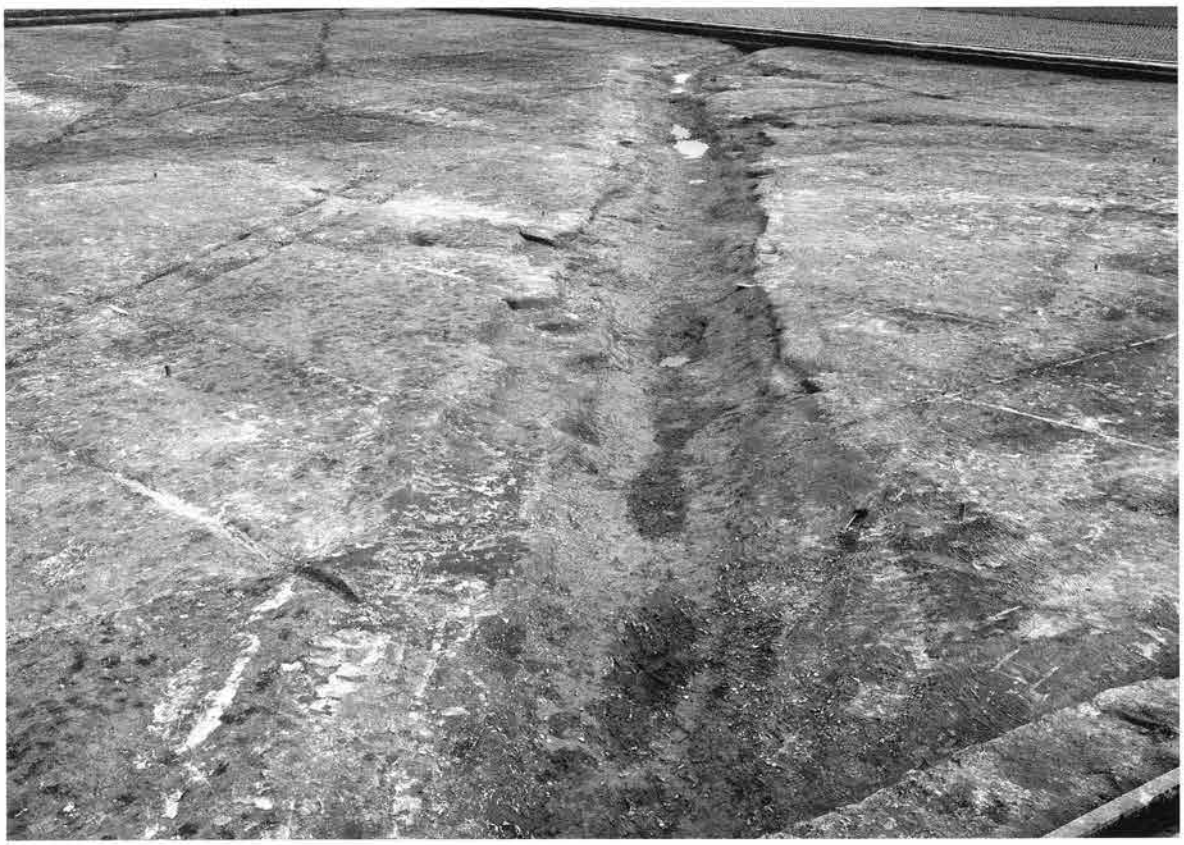
1．溝 SD011 遺物出土状況 6（北）

2．溝 SD011 遺物出土状況 7（西）

3．溝 SD011 遺物出土状況 8（北）



1．区画 001・002 北東部全景（南西）



2．溝 SD010 全景（北西）

1．窪地 SX001 全景（東）

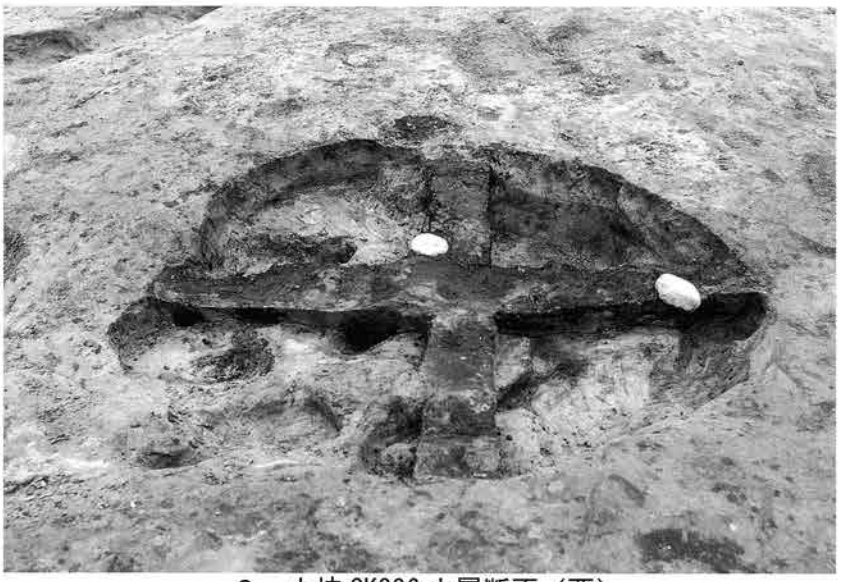
2．窪地 SX001 遺物出土状況（南）

3．窪地 SX001 検出時遺物出土状況（東）

1．調査地区全景（北）

2．調査地区全景（真上）

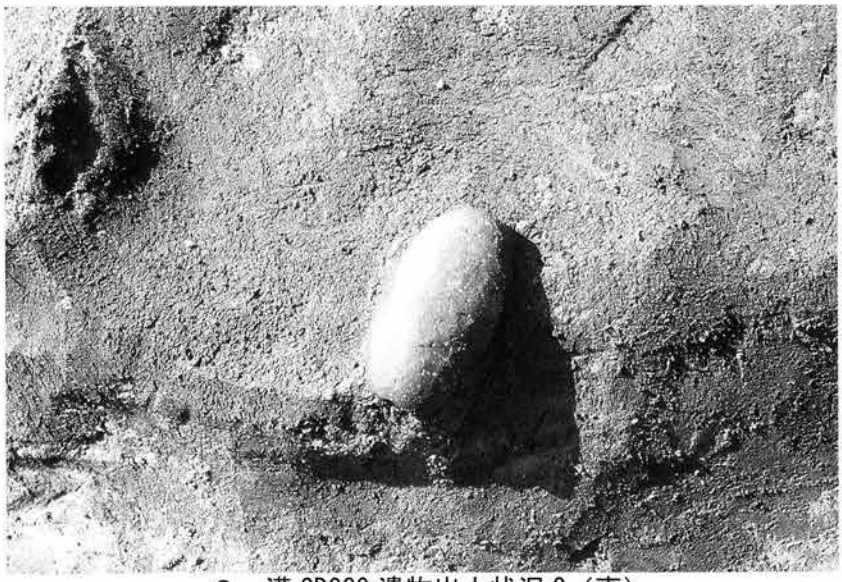
1．土坑 SK005 土層断面（西）



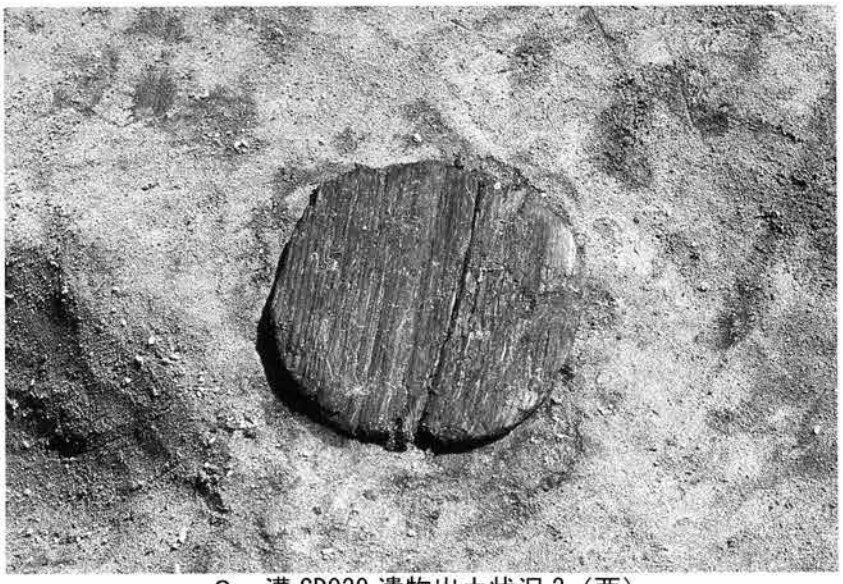
2．土坑 SK006 土層断面（西）

3．P026 土層断面（南）

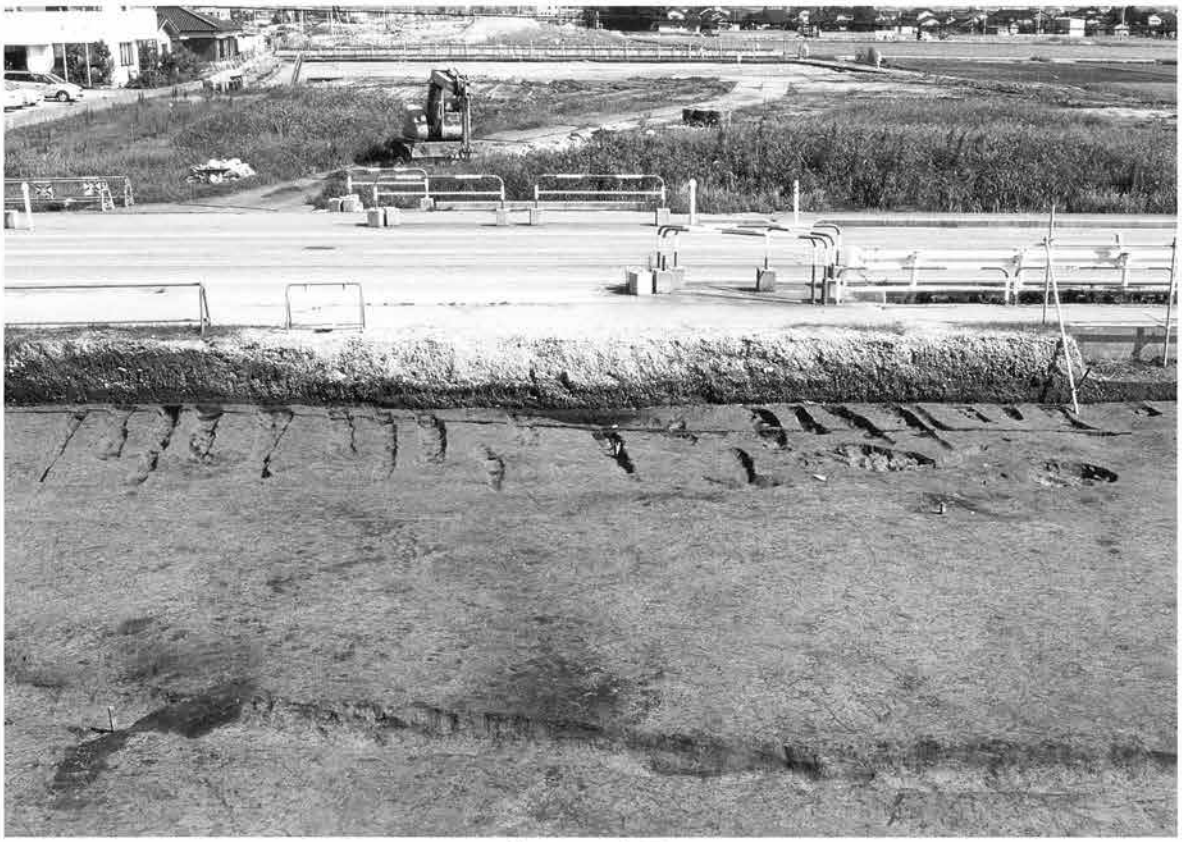
1．溝 SD039 遺物出土状況 1（西）



2．溝 SD039 遺物出土状況 2（東）



3．溝 SD039 遺物出土状況 3（西）



1．溝 SD001 全景（西）

2．溝 SD001 土層断層（南東）